

ねむろし
根室市

べっとうがいちばんさわがわ
別当賀一番沢川遺跡

— 根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成30年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

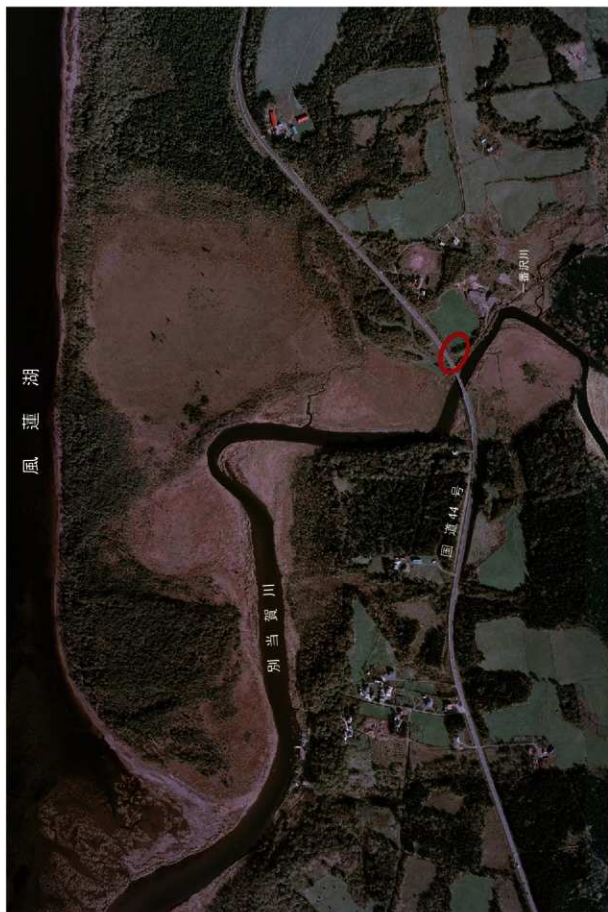
ねむろし
根室市

べっとうがいちばんさわがわ
別当賀一番沢川遺跡

— 根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成30年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1. 遺跡周辺の空中写真 (1978年10月撮影) この写真は国土地理院発行の写真画像を複製し加筆したものである。



1. B地区全景

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局釧路開発建設部が行う根室防雪事業改良等工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成27～30（2015～2018）年度に実施した、根室市別当賀一番沢川遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 別当賀一番沢川遺跡の所在地は、北海道根室市酪陽7-3外、41-3・10である。
3. 本書の執筆は、付篇を除き笠原 興・阿部明義・広田良成・山中文雄が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は広田が行った。
4. 発掘調査時の写真撮影は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は第1調査部第1調査課中山昭夫・菊池慈人の協力を得た。
5. 自然科学的分析の内容と委託先機関は、次の通りである。
放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所
黒曜石製石器の産地推定：株式会社 パレオ・ラボ
炭化材樹種同定：株式会社 パレオ・ラボ
鉄製品の保存処理：公益財団法人 岩手県文化振興事業団
鉄製品の金属考古学的調査：岩手県立博物館 赤沼英男
火山灰同定：アースサイエンス株式会社
6. 調査報告終了後の出土遺物は、根室市教育委員会で保管される。
7. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 根室市教育委員会
根室市歴史と自然の資料館：猪熊樹人、福田光夫、齋藤 信、前田 潮
別海町教育委員会：石渡一人 標津町教育委員会：小野哲也 羅臼町教育委員会：天方博章
釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗、高橋勇人、澤田恭平
標茶町教育委員会：坪岡 始
釧路市 西 幸隆

記号等の説明

1. 遺構の呼称について

- (1) 遺構名は、確認した基本層序名(Ⅱ・Ⅲ)の後に下記の略号を付し、文及び図表中に用いた。
H：堅穴住居跡 MH：(平地)住居跡 P：土坑・土坑墓 SP：柱穴状小土坑
F：焼土 PS：土器片集中 S：礫集中 B：骨片集中
- (2) 付属遺構名は、原則的に下記の略号を用いた。
HF：住居跡内の焼土 HP：住居跡内の土坑、柱穴・杭穴 HFC：住居跡内の剥片集中
HS：住居跡内の礫集中 HC：住居跡内の炭化物集中
PF：土坑内の焼土 PFC：土坑内の剥片集中

2. 遺構図等について

- (1) 遺構図面等の縮尺は原則的に下記の通りで、各図にスケールと方位記号(座標北)を付した。
地形測量図・遺構位置図：任意 住居跡：40分の1、60分の1、80分の1
土坑・焼土・礫集中：40分の1 遺物出土状況図：20分の1
- (2) 遺構平面図の「+」はグリッドラインの交点で、傍のアルファベットとアラビア数字は発掘区(グリッド)名を表す。
- (3) 遺構平面図の「・」付きのアラビア数字はその地点の標高(m)を表す。
- (4) 遺構図では遺物を表すのに下記の記号を用いたところがある。
覆土については、土器：○ 剥片石器：△ 剥片：▽ 礫石器：□ 礫：◇ 破砕礫：☒
床面直上・床面については、土器：● 剥片石器：▲ 剥片：▼ 礫石器：■ 礫：◆
- (5) 本文及び図表中で遺構の規模は下記の要領で示した。一部破壊されているものは現存する計測値に()を付し、計測できないものは「-」で示した。
住居跡・土坑等：確認面の長径×短径/床面・底面の長径×短径/確認面からの最大深(m)
焼土・掘上土：分布範囲の長径×短径/最大厚(m)
土器片集中・礫集中・炭化物集中等：分布範囲の長径×短径(m)

3. 遺物図について

- (1) 縮尺は原則的に下記の通りで、スケールを付した。
復元土器：3分の1 拓本土器：3分の1 剥片石器・石製品：2分の1
礫石器：3分の1、4分の1 鉄製品：2分の1、4分の1
- (2) 石器等、鉄製品の計測値は「最大長×最大幅×最大厚」(cm)で示した。欠損部分がある場合は現存長に()を付して示した。

目 次

口絵	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

I章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	2
4. 調査の経過	
(1) 発掘作業	2
(2) 整理作業	2
5. 調査結果の概要	5

II章 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地	7
2. 周辺の遺跡	10
3. 過去の調査	13

III章 調査の方法

1. 発掘調査の方法	
(1) 発掘区の設定	21
(2) 基本層序	21
(3) 調査の方法	23
2. 整理作業の方法	
(1) 整理作業の方法	27
(2) 遺物の分類	29

IV章 A地区の遺構

1. 概要	31
2. II層の遺構	
(1) 土器片集中	31
(2) 骨片集中	31
3. III層の遺構	

(1) 竪穴住居跡	33
(2) 土坑	40
(3) 焼土	42
(4) 礫集中	44
V章 A地区出土の遺物	
1. 概要	49
2. 土器	
(1) 遺構出土の土器	49
(2) 包含層出土の土器	53
3. 石器等	
(1) 遺構出土の石器等	64
(2) 包含層出土の石器等	68
4. 包含層出土の鉄製品	79
5. 遺構等出土の微細遺物について	79
VI章 B地区の遺構	
1. 概要	87
2. II層の遺構	
(1) 土器片集中	87
3. III層の遺構	
(1) 竪穴住居跡	89
(2) 平地住居跡	185
(3) 土坑	192
(4) 柱穴状小土坑	219
(5) 焼土	223
(6) 礫集中	228
VII章 B地区出土の遺物	
1. 概要	247
2. 土器	
(1) 遺構出土の土器	247
(2) 包含層出土の土器	274
3. 石器等	
(1) 遺構出土の石器等	282
(2) 包含層出土の石器等	308
4. 包含層出土の鉄製品	309
5. 遺構等出土の微細遺物について	322

Ⅷ章 総括

1. 遺構	
(1) 北筒式期の住居跡の特徴	335
(2) 北筒式期の住居跡の変遷	337
(3) 縄文晩期の土坑墓	339
2. 遺物	
(1) 本遺跡出土の北筒式土器について	340
(2) 北筒式土器期の放射性炭素年代測定値について	340
3. 分析について	
(1) 放射性炭素年代測定	344
(2) 黒曜石製石器の産地推定	346
(3) 炭化材の樹種同定	347
(4) 鉄製品の金属考古学的調査	347
(5) 火山灰同定	347

付篇

1. 放射性炭素年代測定	349
2. 黒曜石製石器の産地推定	364
3. 炭化材の樹種同定	371
4. 鉄製品の金属考古学的調査結果	381
5. 火山灰同定	387

カラー写真図版

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図 I - 1	根室防雪事業改良等工事平面図(川口～鶴岡) ……	3	図 VI - 2	II P S - 2 ……	88
図 I - 2	遺構位置図 ……	6	図 VI - 3	III H - 4 (1) ……	90
図 II - 1	別当賀一番沢川遺跡の位置 ……	8	図 VI - 4	III H - 4 (2) ……	91
図 II - 2	遺跡周辺の地形 ……	9	図 VI - 5	III H - 4 (3) ……	92
図 II - 3	周辺の遺跡 ……	11	図 VI - 6	III H - 5 ……	93
図 II - 4	1985年調査周辺地形図・遺構位置図 ……	14	図 VI - 7	III H - 6 (1) ……	95
図 II - 5	全調査遺構位置図 ……	15	図 VI - 8	III H - 6 (2) ……	96
図 II - 6	1985年調査の遺構(1) ……	16	図 VI - 9	III H - 6 (3) ……	97
図 II - 7	1985年調査の遺構(2) ……	17	図 VI - 10	III H - 7 ……	98
図 II - 8	1985年調査出土の遺物(1) ……	18	図 VI - 11	III H - 8 (1) ……	100
図 II - 9	1985年調査出土の遺物(2) ……	19	図 VI - 12	III H - 8 (2) ……	101
図 III - 1	グリッド設定図 ……	22	図 VI - 13	III H - 9 (1) ……	102
図 III - 2	A地区調査区土層図 ……	25	図 VI - 14	III H - 9 (2) ……	103
図 III - 3	B地区調査区土層図 ……	26	図 VI - 15	III H - 10 ……	104
図 IV - 1	A地区遺構位置図 ……	32	図 VI - 16	III H - 11 (1) ……	105
図 IV - 2	II P S - 1、II B - 1 ……	32	図 VI - 17	III H - 11 (2) ……	106
図 IV - 3	III H - 1 ……	34	図 VI - 18	III H - 11 (3) ……	107
図 IV - 4	III H - 2 (1) ……	35	図 VI - 19	III H - 11 (4) ……	108
図 IV - 5	III H - 2 (2) ……	37	図 VI - 20	III H - 11 (5) ……	109
図 IV - 6	III H - 2 (3) ……	38	図 VI - 21	III H - 11 (6) ……	110
図 IV - 7	III H - 3 ……	39	図 VI - 22	III H - 12 (1) ……	112
図 IV - 8	III P - 1 ~ 3 ……	41	図 VI - 23	III H - 12 (2) ……	113
図 IV - 9	III P - 4、III F - 1 - 2 ……	43	図 VI - 24	III H - 13 (1) ……	115
図 IV - 10	III F - 3 - 4、III S - 1 ……	45	図 VI - 25	III H - 13 (2) ……	116
図 V - 1	A地区遺構出土の土器(1) ……	50	図 VI - 26	III H - 13 (3) ……	117
図 V - 2	A地区遺構出土の土器(2) ……	51	図 VI - 27	III H - 14 (1) ……	119
図 V - 3	A地区遺構出土の土器(3) ……	52	図 VI - 28	III H - 14 (2) ……	120
図 V - 4	A地区包含層出土土器点数分布図(1) ……	54	図 VI - 29	III H - 14 (3) ……	121
図 V - 5	A地区包含層出土土器点数分布図(2) ……	55	図 VI - 30	III H - 15 (1) ……	123
図 V - 6	A地区包含層出土の土器(1) ……	57	図 VI - 31	III H - 15 (2) ……	124
図 V - 7	A地区包含層出土の土器(2) ……	58	図 VI - 32	III H - 16 (1) ……	126
図 V - 8	A地区包含層出土の土器(3) ……	59	図 VI - 33	III H - 16 (2) ……	127
図 V - 9	A地区包含層出土の土器(4) ……	60	図 VI - 34	III H - 17 (1) ……	128
図 V - 10	A地区包含層出土の土器(5) ……	61	図 VI - 35	III H - 17 (2) ……	129
図 V - 11	A地区包含層出土の土器(6) ……	62	図 VI - 36	III H - 18 ……	130
図 V - 12	A地区包含層出土の石器(7) ……	63	図 VI - 37	III H - 19 ……	131
図 V - 13	A地区遺構出土の石器(1) ……	65	図 VI - 38	III H - 20 (1) ……	133
図 V - 14	A地区遺構出土の石器(2) ……	66	図 VI - 39	III H - 20 (2) ……	134
図 V - 15	A地区遺構出土の石器(3) ……	67	図 VI - 40	III H - 20 (3) ……	135
図 V - 16	A地区包含層出土土器点数分布図(1) ……	69	図 VI - 41	III H - 21 (1) ……	136
図 V - 17	A地区包含層出土土器点数分布図(2) ……	70	図 VI - 42	III H - 21 (2) ……	137
図 V - 18	A地区包含層出土土器点数分布図(3) ……	71	図 VI - 43	III H - 22 (1) ……	139
図 V - 19	A地区包含層出土の石器(1) ……	73	図 VI - 44	III H - 22 (2) ……	140
図 V - 20	A地区包含層出土の石器(2) ……	74	図 VI - 45	III H - 23 (1) ……	142
図 V - 21	A地区包含層出土の石器(3) ……	75	図 VI - 46	III H - 23 (2) ……	143
図 V - 22	A地区包含層出土の石器(4) ……	76	図 VI - 47	III H - 24 (1) ……	144
図 V - 23	A地区包含層出土の石器(5) ……	77	図 VI - 48	III H - 24 (2) ……	145
図 V - 24	A地区包含層出土の石器(6) ……	78	図 VI - 49	III H - 25 (1) ……	147
図 V - 25	A地区包含層出土の石製品・鉄製品 ……	80	図 VI - 50	III H - 25 (2) ……	148
図 VI - 1	B地区遺構位置図 ……	88	図 VI - 51	III H - 25 (3) ……	149
			図 VI - 52	III H - 26・28(1) ……	150
			図 VI - 53	III H - 26・28(2) ……	151
			図 VI - 54	III H - 26・28(3) ……	152
			図 VI - 55	III H - 26・28(4) ……	153
			図 VI - 56	III H - 27(1) ……	155

図VI-57	ⅢH-27(2).....	156	図VII-9	B地区遺構出土の土器(9).....	261
図VI-58	ⅢH-29.....	158	図VII-10	B地区遺構出土の土器(10).....	262
図VI-59	ⅢH-30(1).....	160	図VII-11	B地区遺構出土の土器(11).....	263
図VI-60	ⅢH-30(2).....	161	図VII-12	B地区遺構出土の土器(12).....	264
図VI-61	ⅢH-31.....	163	図VII-13	B地区遺構出土の土器(13).....	265
図VI-62	ⅢH-32.....	164	図VII-14	B地区遺構出土の土器(14).....	266
図VI-63	ⅢH-33.....	166	図VII-15	B地区遺構出土の土器(15).....	267
図VI-64	ⅢH-34(1).....	167	図VII-16	B地区遺構出土の土器(16).....	268
図VI-65	ⅢH-34(2).....	168	図VII-17	B地区遺構出土の土器(17).....	269
図VI-66	ⅢH-35.....	169	図VII-18	B地区遺構出土の土器(18).....	270
図VI-67	ⅢH-36(1).....	171	図VII-19	B地区遺構出土の土器(19).....	271
図VI-68	ⅢH-36(2).....	172	図VII-20	B地区遺構出土の土器(20).....	272
図VI-69	ⅢH-37.....	173	図VII-21	B地区遺構出土の土器(21).....	273
図VI-70	ⅢH-38.....	175	図VII-22	B地区包含層出土土器点数分布図(1)...	276
図VI-71	ⅢH-39.....	176	図VII-23	B地区包含層出土土器点数分布図(2)...	277
図VI-72	ⅢH-40(1).....	178	図VII-24	B地区包含層出土の土器(1).....	278
図VI-73	ⅢH-40(2).....	179	図VII-25	B地区包含層出土の土器(2).....	279
図VI-74	ⅢH-40(3).....	180	図VII-26	B地区包含層出土の土器(3).....	280
図VI-75	ⅢH-41.....	181	図VII-27	B地区包含層出土の土器(4).....	281
図VI-76	ⅢH-42.....	183	図VII-28	B地区遺構出土の土器(1).....	289
図VI-77	ⅢH-43.....	184	図VII-29	B地区遺構出土の土器(2).....	290
図VI-78	ⅢMH-1(1).....	186	図VII-30	B地区遺構出土の土器(3).....	291
図VI-79	ⅢMH-1(2).....	187	図VII-31	B地区遺構出土の土器(4).....	292
図VI-80	ⅢMH-1(3).....	188	図VII-32	B地区遺構出土の土器(5).....	293
図VI-81	ⅢMH-1(4).....	189	図VII-33	B地区遺構出土の土器(6).....	294
図VI-82	ⅢMH-1(5).....	190	図VII-34	B地区遺構出土の土器(7).....	295
図VI-83	ⅢMH-1(6).....	191	図VII-35	B地区遺構出土の土器(8).....	296
図VI-84	ⅢP-5・7.....	193	図VII-36	B地区遺構出土の土器(9).....	297
図VI-85	ⅢP-6.....	194	図VII-37	B地区遺構出土の土器(10).....	298
図VI-86	ⅢP-8・9.....	196	図VII-38	B地区遺構出土の土器(11).....	299
図VI-87	ⅢP-10~12.....	197	図VII-39	B地区遺構出土の土器(12).....	300
図VI-88	ⅢP-13・14.....	199	図VII-40	B地区遺構出土の土器(13).....	301
図VI-89	ⅢP-15・16.....	201	図VII-41	B地区遺構出土の土器(14).....	302
図VI-90	ⅢP-17・18.....	203	図VII-42	B地区遺構出土の土器(15).....	303
図VI-91	ⅢP-19・20.....	204	図VII-43	B地区遺構出土の土器(16).....	304
図VI-92	ⅢP-21~23.....	206	図VII-44	B地区遺構出土の土器(17).....	305
図VI-93	ⅢP-24・25.....	208	図VII-45	B地区遺構出土の土器(18).....	306
図VI-94	ⅢP-26・27.....	210	図VII-46	B地区遺構出土の土器(19).....	307
図VI-95	ⅢP-28・29.....	211	図VII-47	B地区包含層出土土器点数分布図(1)...	310
図VI-96	ⅢP-30~32.....	213	図VII-48	B地区包含層出土土器点数分布図(2)...	311
図VI-97	ⅢP-33.....	215	図VII-49	B地区包含層出土土器点数分布図(3)...	312
図VI-98	ⅢP-34.....	216	図VII-50	B地区包含層出土土器点数分布図(4)...	313
図VI-99	ⅢP-35・36.....	218	図VII-51	B地区包含層出土の土器(1).....	314
図VI-100	ⅢP-37・38.....	220	図VII-52	B地区包含層出土の土器(2).....	315
図VI-101	ⅢSP-1~3・5・6・8~12.....	221	図VII-53	B地区包含層出土の土器(3).....	316
図VI-102	ⅢSP-13~17.....	222	図VII-54	B地区包含層出土の土器(4).....	317
図VI-103	ⅢSP-18~22.....	224	図VII-55	B地区包含層出土の土器(5).....	318
図VI-104	ⅢSP-23~25、ⅢF-5・6.....	225	図VII-56	B地区包含層出土の土器(6).....	319
図VI-105	ⅢF-7~10、ⅢS-2.....	227	図VII-57	B地区包含層出土の土器(7).....	320
図VII-1	B地区遺構出土の土器(1).....	253	図VII-58	B地区包含層出土の鉄製品.....	321
図VII-2	B地区遺構出土の土器(2).....	254	図VIII-1	住居跡深度区分図.....	336
図VII-3	B地区遺構出土の土器(3).....	255	図VIII-2	住居跡北筒式胡瓶変遷図.....	338
図VII-4	B地区遺構出土の土器(4).....	256	図VIII-3	北筒式土器集成図(1).....	341
図VII-5	B地区遺構出土の土器(5).....	257	図VIII-4	北筒式土器集成図(2).....	342
図VII-6	B地区遺構出土の土器(6).....	258	図VIII-5	A・B地区放射性炭素年代測定遺構位置図...	343
図VII-7	B地区遺構出土の土器(7).....	259	図VIII-6	全放射性炭素年代測定遺構位置図...	345
図VII-8	B地区遺構出土の土器(8).....	260			

表 目 次

表 I - 1	全遺物集計表	5	表 VI - 1	B 地区堅穴住居跡一覽	229
表 II - 1	周辺の遺跡一覽	12	表 VI - 2	B 地区堅穴住居跡付属遺構一覽	231
表 II - 2	1985年調査遺構一覽	20	表 VI - 3	B 地区平地住居跡一覽	236
表 III - 1	基準点成果一覽	21	表 VI - 4	B 地区平地住居跡付属遺構一覽	236
表 III - 2	基本層序	24	表 VI - 5	B 地区土坑一覽	236
表 IV - 1	A 地区堅穴住居跡一覽	46	表 VI - 6	B 地区土坑付属遺構一覽	237
表 IV - 2	A 地区堅穴住居跡付属遺構一覽	46	表 VI - 7	B 地区柱穴状小土坑一覽	237
表 IV - 3	A 地区土坑一覽	46	表 VI - 8	B 地区焼土一覽	237
表 IV - 4	A 地区焼土一覽	46	表 VI - 9	B 地区土器片集中一覽	237
表 IV - 5	A 地区土器片集中一覽	46	表 VI - 10	B 地区礫集中一覽	237
表 IV - 6	A 地区礫集中一覽	46	表 VI - 11	B 地区堅穴住居跡等出土土器等点数表	238
表 IV - 7	A 地区骨片集中一覽	46	表 VI - 12	B 地区堅穴住居跡等出土土器等点数表	241
表 IV - 8	A 地区堅穴住居跡出土土器等点数表	47	表 VI - 13	B 地区土坑出土土器等点数表	244
表 IV - 9	A 地区堅穴住居跡出土土器等点数表	47	表 VI - 14	B 地区土坑出土土器等点数表	245
表 IV - 10	A 地区土坑出土土器等点数表	48	表 VI - 15	B 地区柱穴状小土坑出土土器等点数表	246
表 IV - 11	A 地区土坑出土土器等点数表	48	表 VI - 16	B 地区焼土出土土器等点数表	246
表 IV - 12	A 地区土器片集中・骨片集中・礫集中出土土器等点数表	48	表 VI - 17	B 地区土器集中出土土器等点数表	246
表 IV - 13	A 地区骨片集中・礫集中出土土器等点数表	48	表 VI - 18	B 地区礫集中出土土器等点数表	246
表 IV - 14	A 地区遺構出土土器等点数表(水洗選別)	48	表 VI - 19	B 地区遺構出土土器等点数表(水洗選別)	246
表 IV - 15	A 地区遺構出土土器等点数表(水洗選別)	48	表 VI - 20	B 地区遺構出土土器等点数表(水洗選別)	246
表 V - 1	A 地区包含層出土土器等点数表	81	表 VII - 1	B 地区包含層出土土器等点数表	323
表 V - 2	A 地区包含層出土土器等点数表	81	表 VII - 2	B 地区包含層出土土器等点数表	324
表 V - 3	A 地区遺構出土復元土器一覽	82	表 VII - 3	B 地区復元土器掲載一覽	325
表 V - 4	A 地区包含層出土復元土器一覽	82	表 VII - 4	B 地区遺構出土破片土器掲載一覽	327
表 V - 5	A 地区遺構出土掲載破片土器一覽	82	表 VII - 5	B 地区包含層出土破片土器掲載一覽	328
表 V - 6	A 地区包含層出土掲載破片土器一覽	83	表 VII - 6	B 地区遺構出土掲載土器一覽	329
表 V - 7	A 地区遺構出土掲載土器一覽	85	表 VII - 7	B 地区包含層出土掲載土器一覽	332
表 V - 8	A 地区包含層出土掲載土器一覽	85	表 VII - 8	B 地区掲載鉄製品一覽	333
表 V - 9	A 地区掲載鉄製品一覽	86	表 VII - 9	B 地区水洗選別結果一覽	334
表 V - 10	A 地区水洗選別結果一覽	86	表 VIII - 1	放射性炭素年代測定遺構一覽	346

写真図版目次

口絵 1

1. 遺跡周辺の空中写真 (1978年10月撮影)

口絵 2

1. B地区全景

カラー図版 1

1. A地区調査状況 (平成27年度)
2. 竪穴住居跡床面検出 (ⅢH-1)
3. 土器片集中1検出 (ⅡP S-1)
4. 土坑赤色顔料検出 (ⅢP-4)
5. 基本土層断面 (A地区南東壁)

カラー図版 2

1. B地区調査状況
2. B地区基本土層断面 (V29区)
3. B地区基本土層断面 (北壁)
4. B地区土層断面 (北東壁)

カラー図版 3

1. 重複する竪穴住居跡 (ⅢH-11・14・22)
2. 埋設土器1 (ⅢH-11)
3. 埋設土器2 (ⅢH-11)
4. 床面焼土 (ⅢH-11HF-1・10・11)
5. 焼土断面 (ⅢH-14HF-1・2)

カラー図版 4

1. 大型の竪穴住居跡 (ⅢH-24)
2. 深い掘り込みの竪穴住居跡 (ⅢH-25)

カラー図版 5

1. 浅い掘り込みの竪穴住居跡 (ⅢH-6)
2. 平地住居跡の検出 (ⅢMH-1)

カラー図版 6

1. 土坑入骨・赤色顔料検出 (ⅢP-29)
2. 土坑入骨頭部検出 (ⅢP-29)
3. A地区包含層出土勾玉
4. B地区ⅢP-13出土北筒式土器突起
5. 北筒式土器

モノクロ図版

図版 1

1. 平成27年度A地区調査状況 (南西から)
2. 平成30年度A地区調査状況 (北西から)
3. ⅡP S-1検出 (南から)
4. ⅡB-1検出 (北から)

図版 2

1. ⅢH-1土層断面A (北西から)
2. ⅢH-1土層断面B (南西から)
3. ⅢH-1床面検出 (北西から)

図版 3

1. ⅢH-1HC-1検出 (西から)
2. ⅢH-1HC-1獣骨出土状況 (西から)
3. ⅢH-1HF-1断面 (南から)
4. ⅢH-1HP-3土層断面 (北から)
5. ⅢH-1完掘 (北から)

図版 4

1. ⅢH-2東西・南北土層断面 (南西から)
2. ⅢH-2焼土・炭化材検出 (南西から)
3. ⅢH-2掘土土検出 (南西から)
4. ⅢH-2焼土・炭化材検出 (北東から)
5. ⅢH-2HF-1断面 (北東から)

図版 5

1. ⅢH-2炭化材・骨片出土状況 (西から)
2. ⅢH-2骨片出土状況 (北東から)
3. ⅢH-2石器集中検出 (北から)
4. ⅢH-2HS-1検出 (南から)
5. ⅢH-2完掘 (南西から)

図版 6

1. ⅢH-3土層断面A (南東から)
2. ⅢH-3土層断面B (東から)
3. ⅢH-3炭化材出土状況 (北東から)
4. ⅢH-3床面検出 (南西から)
5. ⅢH-3HF-1断面 (南東から)
6. ⅢH-3HF-2断面 (南から)
7. ⅢP-1土層断面 (南から)
8. ⅢP-1完掘 (南から)

図版 7

1. ⅢP-2炭化材出土状況 (北西から)
2. ⅢP-2完掘 (西から)
3. ⅢP-2土層断面 (南から)
4. ⅢP-3完掘 (北西から)
5. ⅢP-4土層断面 (南から)
6. ⅢP-4坑底直上検出 (南から)
7. ⅢP-4坑底検出 (南から)
8. ⅢP-4完掘 (南西から)

図版 8

1. ⅢF-1断面 (西から)
2. ⅢF-2断面 (西から)
3. ⅢF-3断面 (北から)
4. ⅢF-4断面 (南から)
5. ⅡP S-1検出 (西から)
6. ⅢS-1検出 (南西から)
7. 平成27年度A地区完掘 (南西から)

図版 9

1. B地区遠景 (西から)
2. B地区遠景 (北西から)
3. B地区調査状況 (南東から)
4. B地区調査区北壁土層断面 (南から)

図版 10

1. ⅢH-4土層断面D (北西から)
2. ⅢH-4土層断面B (北東から)
3. ⅢH-4土層断面A (南西から)
4. ⅢH-4土器出土状況 (北西から)
5. ⅢH-4炭化材出土状況 (北東から)
6. ⅢH-4HF-1断面 (南西から)
7. ⅢH-4HF-2断面 (東から)

図版 11

1. ⅢH-4HP-1断面
2. ⅢH-4HP-6断面
3. ⅢH-4HP-18・19断面
4. ⅢH-4HP-20断面
5. ⅢH-4HP-31断面
6. ⅢH-4HP-33断面
7. ⅢH-4完掘 (南東から)

図版 12

1. ⅢH-5検出 (西から)

2. III H-5 床面検出 (南から)
3. III H-5 土層断面B (南西から)
4. III H-5 土層断面A (北西から)
5. III H-5 HF-1 検出 (西から)
6. III H-5 HF-1 断面 (南西から)
7. III H-5 生活面検出 (西から)
8. III H-5 完掘 (西から)

図版13

1. III H-6 構築面検出 (北から)
2. III H-6 土層断面A (北西から)
3. III H-6 炭化材出土状況 (北東から)
4. III H-6 炭化材出土状況 (南東から)

図版14

1. III H-6 HF-2 断面 (東から)
2. III H-6 HF-3 断面 (東から)
3. III H-6 HP-1 断面
4. III H-6 HP-2 断面
5. III H-6 床面遺物出土状況
6. III H-6 完掘 (北から)

図版15

1. III H-7 土層断面 (北西から)
2. III H-7 完掘 (北東から)
3. III H-8 土層断面A (南東から)
4. III H-8 遺物出土状況 (南から)

図版16

1. III H-8 遺物出土状況 (南東から)
2. III H-8 HF-1 断面 (南から)
3. III H-8 HP-1 断面
4. III H-8 HP-2 完掘
5. III H-8 HP-3 断面
6. III H-8 完掘 (南から)

図版17

1. III H-9 炭化材出土状況 (西から)
2. III H-9 HF-1 断面 (西から)
3. III H-9 床面土器出土状況
4. III H-9 土層断面B (北から)
5. III H-9 土層断面A (南西から)
6. III H-9 HP-2 断面
7. III H-9 HP-3 断面
8. III H-9 完掘 (南西から)

図版18

1. III H-10 調査状況 (西から)
2. III H-10 土層断面 (北東から)
3. III H-10 完掘 (北東から)
4. III H-11 検出 (西から)
5. III H-11 砥石出土状況 (南から)
6. III H-11 土層断面 (南から)

図版19

1. III H-11 埋設土器1 出土状況 (南から)
2. III H-11 埋設土器1 断面 (南東から)
3. III H-11 埋設土器2 出土状況 (南東から)
4. III H-11 埋設土器2 断面 (南東から)
5. III H-11 床面相当検出 (南から)

図版20

1. III H-11 HF-1 断面 (北西から)
2. III H-11 HF-12 断面 (南西から)
3. III H-11 HP-1 断面
4. III H-11 HP-5 完掘

5. III H-11 HP-6 断面
6. III H-11 完掘 (南から)

図版21

1. III H-12 土器出土状況 (北西から)
2. III H-12 HF-3 断面 (北東から)
3. III H-12 炭化材出土状況
4. III H-12 南北断面 (東から)
5. III H-12 東西断面 (南西から)
6. III H-12 HP-4 断面
7. III H-12 HP-5 断面
8. III H-12 完掘 (東から)

図版22

1. III H-13 土層断面B (北西から)
2. III H-13 土層断面A (西から)
3. III H-13 覆土土器出土状況 (北東から)
4. III H-13 HF-1 断面 (南東から)
5. III H-13 HP-1 断面
6. III H-13 HP-4 完掘
7. III H-13 HP-5 断面
8. III H-13 床面検出 (北西から)
9. III H-13 完掘 (北から)

図版23

1. III H-14 土層断面A (南東から)
2. III H-14 土層断面B (東から)
3. III H-14 大型礫出土状況 (南から)
4. III H-14 土器出土状況 (南から)
5. III H-14 床面検出 (南から)

図版24

1. III H-14 HF-1 断面 (東から)
2. III H-14 HF-3 断面 (西から)
3. III H-14 HP-1 断面
4. III H-14 HP-4 完掘
5. III H-14 HP-8 断面
6. III H-11・14・22 完掘 (南から)

図版25

1. III H-15 検出 (北東から)
2. III H-15 覆土土器出土状況 (南から)
3. III H-15 土層断面B (北から)
4. III H-15 土層断面A (東から)
5. III H-15 床面土器出土状況 (西から)
6. III H-15 床面検出 (北西から)

図版26

1. III H-15 HF-3 断面 (南東から)
2. III H-15 HF-5 断面 (北西から)
3. III H-15 HP-1 断面
4. III H-15 HP-7・8 断面
5. III H-15 HP-12 完掘
6. III H-15 完掘 (北東から)

図版27

1. III H-16 土層断面C (南から)
2. III H-16 土層断面B (東から)
3. III H-16 遺物出土状況 (北東から)
4. III H-16 HF-1 断面 (北東から)
5. III H-16 HF-3 断面 (南東から)
6. III H-16 HF-4 断面 (南から)
7. III H-16 床面検出 (北東から)

図版28

1. III H-17 断面B 東側 (北から)

2. III H-17断面B西側 (北東から)
3. III H-17断面A南側 (西から)
4. III H-17断面A北側 (西から)
5. III H-17調査状況 (北から)
6. III H-17遺物出土状況 (南東から)
7. III H-17焼土・炭化材検出 (南西から)
8. III H-17床面礫出土状況 (北から)

図版29

1. III H-17H F-1・2断面 (北東から)
2. III H-17H F-3断面 (北から)
3. III H-17H P-1断面
4. III H-17H P-2断面
5. III H-17H P-10断面
6. III H-17完掘 (西から)

図版30

1. III H-18東西土層断面 (南東から)
2. III H-18南北土層断面 (南西から)
3. III H-18H P-1断面
4. III H-18H P-2断面
5. III H-18H P-5断面
6. III H-18完掘 (南東から)

図版31

1. III H-19・20調査状況 (北から)
2. III H-19土層断面 (東から)
3. III H-19炭化材出土状況 (北から)
4. III H-19土器出土状況 (北西から)
5. III H-19完掘 (南から)

図版32

1. III H-20検出 (南東から)
2. III H-20土層断面C (南から)
3. III H-20土層断面A (南西から)
4. III H-20炭化材出土状況 (東から)
5. III H-20炭化材出土状況 (北東から)

図版33

1. III H-20H F-1断面 (西から)
2. III H-20H F-2断面 (北西から)
3. III H-20H P-1断面
4. III H-20H P-4断面
5. III H-20H P-9完掘
6. III H-20床面検出 (北西から)

図版34

1. III H-21土層断面B (北から)
2. III H-21土層断面D (西から)
3. III H-21H F-1・2断面 (南東から)
4. III H-21H P-1断面 (南から)
5. III H-21完掘 (南西から)

図版35

1. III H-22土層断面A (南から)
2. III H-22土層断面B C (南西から)
3. III H-22床面検出 (西から)
4. III H-22H P-1完掘 (北東から)
5. III H-22H F-1断面 (南から)
6. III H-22H F-2断面 (南から)
7. III H-22H P-2断面
8. III H-22・III P-17・18完掘 (西から)

図版36

1. III H-23土層断面A (南から)
2. III H-23土層断面B (西から)

3. III H-23H P-1断面
4. III H-23炭化材出土状況 (西から)

図版37

1. III H-24検出 (西から)
2. III H-24トレンチ遺物出土状況 (南西から)
3. III H-24土層断面A (南から)
4. III H-24土層断面B (西から)
5. III H-24床面検出 (北から)

図版38

1. III H-24H F-1検出 (西から)
2. III H-24H F-3断面 (西から)
3. III H-24H F-9断面 (南から)
4. III H-24H P-1完掘 (南から)
5. III H-24完掘 (北東から)

図版39

1. III H-25土層断面B (北から)
2. III H-25土層断面A (東から)
3. III H-25礫石器出土状況 (北から)
4. III H-25炭化材出土状況 (西から)
5. III H-25炭化草本?出土状況 (東から)
6. III H-25炭化材出土状況 (南東から)

図版40

1. III H-25H F-1断面 (北から)
2. III H-25H F-2断面 (西から)
3. III H-25H P-2遺物出土状況 (北東から)
4. III H-25H P-4断面 (北東から)
5. III H-25完掘 (南東から)

図版41

1. III H-26土層断面B (北から)
2. III H-26土層断面A (東から)
3. III H-26床面土器出土状況 (東から)
4. III H-26礫出土状況 (南西から)
5. III H-26炭化材出土状況 (西から)
6. III H-26礫出土状況 (西から)

図版42

1. III H-26H F-1・2断面 (東から)
2. III H-26骨片集中1検出 (南東から)
3. III H-26H P-1・2断面 (南東から)
4. III H-26H P-6断面 (南から)
5. III H-26・28完掘 (東から)

図版43

1. III H-27検出 (南東から)
2. III H-27土層断面A (南から)
3. III H-27土層断面B (北西から)
4. III H-27床面直上土器出土状況
5. III H-27床面石斧出土状況
6. III H-27H F C-1検出 (南から)
7. III H-27床面検出 (南から)

図版44

1. III H-27H P-1断面
2. III H-27H P-6完掘
3. III H-27H P-8断面
4. III H-27完掘 (南西から)
5. III H-29土層断面・完掘 (北東から)

図版45

1. III H-30土層断面B (南から)
2. III H-30土層断面C (東から)
3. III H-30調査状況 (西から)

4. IIIH-30HFC-1 検出 (北西から)
5. IIIH-30HFC-2 検出 (北西から)
6. IIIH-30HF-1 断面 (南東から)
7. IIIH-30HF-3 断面 (西から)
8. IIIH-30HF-5 検出 (北から)
9. IIIH-30HF-8・9 断面 (南東から)

図版46

1. IIIH-30HP-1 断面 (南西から)
2. IIIH-30HP-7・8 断面 (南西から)
3. IIIH-30HP-2 断面
4. IIIH-30HP-11 断面
5. IIIH-30HP-15 断面
6. IIIH-30 完掘 (東から)

図版47

1. IIIH-31土層断面A (南から)
2. IIIH-31土層断面B (西から)
3. IIIH-31遺物出土状況 (北西から)
4. IIIH-31土器出土状況 (南西から)
5. IIIH-31HF-1 断面 (西から)
6. IIIH-31HP-3 断面
7. IIIH-31HP-8・9 断面
8. IIIH-31床面検出 (南から)

図版48

1. IIIH-32土層断面B (北西から)
2. IIIH-32土層断面A (南西から)
3. IIIH-32HF-1 断面 (東から)
4. IIIH-32床面検出 (北西から)
5. IIIH-33土層断面A (南西から)
6. IIIH-33HP-1 断面 (南から)
7. IIIH-33HF-1 検出 (南から)
8. IIIH-33 完掘 (東から)

図版49

1. IIIH-34土層断面A (北東から)
2. IIIH-34土層断面B (北から)
3. IIIH-34炭化材・焼土検出 (北から)
4. IIIH-34HF-1 断面 (東から)
5. IIIH-35土層断面D (南から)
6. IIIH-35土層断面A B (東から)
7. IIIH-35HP-1 断面 (東から)
8. IIIH-35 完掘 (北から)

図版50

1. IIIH-36土層断面B (東から)
2. IIIH-36土層断面A (南西から)
3. IIIH-36HF-2 断面 (北から)
4. IIIH-36HF-3 断面 (西から)
5. IIIH-36HP-1 断面
6. IIIH-36HP-4 断面
7. IIIH-36床面付近石器出土状況
8. IIIH-36 完掘 (北東から)

図版51

1. IIIH-37土層断面A (北から)
2. IIIH-37土層断面B (南東から)
3. IIIH-37炭化材出土状況 (北西から)
4. IIIH-37炭化材出土状況 (西から)
5. IIIH-37骨片集中1 検出
6. IIIH-37HF-1 断面
7. IIIH-37HP-1 断面
8. IIIH-37 完掘 (北東から)

図版52

1. IIIH-38土層断面A・炭化材出土状況 (南東から)
2. IIIH-38土層断面B・炭化材出土状況 (北東から)
3. IIIH-38HF-1 断面 (南から)
4. IIIH-38 完掘 (南西から)

図版53

1. IIIH-39土層断面B (西から)
2. IIIH-39土層断面A (南から)
3. IIIH-39炭化材出土状況 (南から)
4. IIIH-39HF-1・2 断面 (南東から)
5. IIIH-39 完掘 (南西から)
6. IIIH-40 検出 (北西から)

図版54

1. IIIH-40土層断面C (南から)
2. IIIH-40土層断面B (南から)
3. IIIH-40土層断面A (西から)
4. IIIH-40調査状況 (西から)
5. IIIH-40焼土群検出 (西から)
6. IIIH-40HF-1 検出 (東から)
7. IIIH-40HF-5 断面 (南西から)

図版55

1. IIIH-40HF-8・9 断面 (南西から)
2. IIIH-40HF-9 燃焼面 (南西から)
3. IIIH-40HP-1 断面
4. IIIH-40HP-2 断面
5. IIIH-40HP-3 完掘
6. IIIH-40 完掘 (西から)

図版56

1. IIIH-41土層断面B (南東から)
2. IIIH-41土層断面A (南西から)
3. IIIH-41HF-1 断面 (南西から)
4. IIIH-41HP-1 完掘
5. IIIH-41HP-2 断面
6. IIIH-41HP-3 断面
7. IIIH-41床面検出 (南から)

図版57

1. IIIH-42土層断面A・B (北東から)
2. IIIH-42土層断面A (南西から)
3. IIIH-42覆土土器出土状況 (南西から)
4. IIIH-42・III P-19炭化材出土状況 (南西から)
5. IIIH-42HF-1 検出 (東から)
6. IIIH-42HF-2 断面 (南東から)
7. IIIH-42炭化材出土状況 (南東から)
8. IIIH-42・III P-19 完掘 (南西から)

図版58

1. IIIH-43調査状況 (西から)
2. IIIH-43土層断面 (南東から)
3. IIIH-43遺物出土状況 (北西から)
4. IIIH-43HF-1・骨片集中1 検出 (西から)
5. IIIH-43HF-1 断面 (南東から)
6. IIIH-43 完掘 (東から)

図版59

1. III MH-1 検出 (北西から)
2. III MH-1 調査状況 (北から)
3. III MH-1 土層断面A (南から)
4. III MH-1 土層断面E (西から)

5. III MH-1 遺物出土状況 (北西から)

図版60

1. III MH-1 HF-3 断面 (南西から)
2. III MH-1 HF-5 断面 (南から)
3. III MH-1 HP-5 断面
4. III MH-1 HP-12断面
5. III MH-1 HP-16完掘
6. III MH-1 床面検出 (北西から)

図版61

1. III P-5 土層断面 (北西から)
2. III P-5 完掘 (北から)
3. III P-6 土器出土状況 (北西から)
4. III P-6 土層断面 (北から)
5. III P-6 遺物出土状況 (南から)
6. III P-6 完掘 (北東から)
7. III P-7 土層断面 (南東から)
8. III P-7 完掘 (北から)

図版62

1. III P-8 検出 (西から)
2. III P-8 土層断面 (北西から)
3. III P-8 全景 (西から)
4. III P-9 土層断面 (北西から)
5. III P-9 坑底遺物出土状況 (北から)
6. III P-10土層断面 (南から)
7. III P-10土器出土状況 (南西から)
8. III P-10完掘 (南東から)

図版63

1. III P-11完掘 (東から)
2. III P-12土層断面 (南西から)
3. III P-12全景 (南から)
4. III P-13土層断面 (南から)
5. III P-13遺物出土状況 (北東から)
6. III P-13坑底検出 (南東から)
7. III P-14土層断面 (南から)
8. III P-14完掘 (北から)

図版64

1. III P-15完掘 (南から)
2. III P-16土層断面 (南から)
3. III P-16遺物出土状況 (北西から)
4. III P-16赤色土壌検出 (北西から)
5. III P-17土層断面 (南から)
6. III P-17完掘 (東から)
7. III P-18土層断面 (南から)
8. III P-18・III H-22HP-1 完掘 (南から)

図版65

1. III P-19土層断面 (南東から)
2. III P-19炭化材出土状況 (東から)
3. III P-19完掘 (南東から)
4. III P-20完掘 (北から)
5. III P-21土層断面 (南東から)
6. III P-21坑底検出 (東から)
7. III P-22土層断面 (北から)
8. III P-22完掘 (北から)

図版66

1. III P-23土層断面 (南から)
2. III P-23完掘 (南東から)
3. III P-24土層断面 (東から)
4. III P-24完掘 (南西から)

5. III P-25土層断面 (南東から)
6. III P-25坑底赤色土壌検出 (西から)
7. III P-26土層断面 (南西から)
8. III P-26完掘 (南から)

図版67

1. III P-27土層断面 (南西から)
2. III P-27完掘 (東から)
3. III P-28土層断面 (南から)
4. III P-28完掘 (南東から)
5. III P-29土層断面 (北西から)
6. III P-29赤色顔料・人骨検出 (東から)
7. III P-29人骨上顎骨・黒曜石検出 (北から)
8. III P-29完掘 (西から)

図版68

1. III P-30土層断面 (北西から)
2. III P-30完掘 (北から)
3. III P-31土層断面 (北東から)
4. III P-31完掘 (南東から)
5. III P-32遺物出土状況 (南西から)
6. III P-32完掘 (西から)
7. III P-33土層断面B (東から)
8. III P-33完掘 (北から)

図版69

1. III P-34土層断面A (南西から)
2. III P-34土層断面B (北西から)
3. III P-34完掘 (北東から)
4. III P-35土層断面 (西から)
5. III P-35PF-1 断面 (南東から)
6. III P-35完掘 (東から)
7. III P-36断面 (南から)
8. III P-36完掘 (東から)

図版70

1. III P-37完掘 (西から)
2. III P-38土層断面 (西から)
3. III P-38赤色土壌検出 (北西から)
4. III P-38完掘 (南から)
5. III SP-1 断面 (北から)
6. III SP-2 断面 (北から)
7. III SP-3 断面 (南から)
8. III SP-6 断面 (南から)
9. III SP-9 断面 (西から)
10. III SP-10断面 (北東から)

図版71

1. III SP-11断面 (北西から)
2. III SP-14断面 (南から)
3. III SP-15断面 (南から)
4. III SP-16断面 (南西から)
5. III SP-17断面 (南から)
6. III SP-19断面 (東から)
7. III SP-20断面 (北から)
8. III SP-21断面 (北から)
9. III SP-22断面 (南西から)

図版72

1. III F-5 断面 (東から)
2. III F-6 断面 (南から)
3. III F-7 検出 (北東から)
4. III F-7 断面 (西から)
5. III F-8 断面 (南西から)

6. III F-10断面 (北西から)
7. III S-2検出 (東から)
8. II P S-2検出 (東から)

図版73

1. T28区Ⅰ層土器出土状況 (北から)
2. Q21区Ⅱ層鉄製品出土状況 (南から)
3. S30区Ⅱ層土器出土状況 (南から)
4. S27区Ⅲ層遺物出土状況 (東から)
5. U29区Ⅲ層石槍・ナイフ出土状況 (南から)
6. P25区Ⅲ層磨製石斧出土状況 (北西から)
7. P27区Ⅲ層土器出土状況 (北から)
8. K19区Ⅴ層石鏡出土状況 (北西から)

図版74

1. B地区調査状況 (平成28年9月・北から)
2. B地区調査状況 (平成28年11月・南東から)

図版75 A地区遺構出土の土器(1)

図版76 A地区遺構出土の土器(2)

図版77 A地区包含層出土の土器(1)

図版78 A地区包含層出土の土器等(2)

図版79 A地区包含層出土の土器(3)

図版80 A地区包含層出土の土器(4)

図版81 A地区包含層出土の土器(5)

図版82 A地区包含層出土の土器(6)

図版83 A地区包含層出土の土器(7)

A地区遺構出土の石器(1)

図版84 A地区遺構出土の石器(2)

図版85 A地区包含層出土の石器(1)

図版86 A地区包含層出土の石器(2)

図版87 A地区包含層出土の石器(3)・石製品・
鉄製品・陶磁器

図版88 B地区遺構出土の土器(1)

図版89 B地区遺構出土の土器(2)

図版90 B地区遺構出土の土器(3)

図版91 B地区遺構出土の土器(4)

図版92 B地区遺構出土の土器(5)

図版93 B地区遺構出土の土器(6)

図版94 B地区遺構出土の土器(7)

図版95 B地区遺構出土の土器(8)

図版96 B地区遺構出土の土器(9)

図版97 B地区遺構出土の土器(10)

図版98 B地区遺構出土の土器(11)

図版99 B地区遺構出土の土器(12)

図版100 B地区包含層出土の土器(1)

図版101 B地区包含層出土の土器(2)

図版102 B地区包含層出土の土器(3)

図版103 B地区遺構出土の石器(1)

図版104 B地区遺構出土の石器(2)

図版105 B地区遺構出土の石器(3)

図版106 B地区遺構出土の石器(4)

図版107 B地区遺構出土の石器(5)

図版108 B地区遺構出土の石器(6)

図版109 B地区遺構出土の石器(7)

図版110 B地区遺構出土の石器(8)

図版111 B地区遺構出土の石器(9)

図版112 B地区遺構出土の石器(10)

図版113 B地区遺構出土の石器(11)

図版114 B地区遺構出土の石器(12)

図版115 B地区遺構出土の石器(13)

図版116 B地区遺構出土の石器(14)

図版117 B地区遺構出土の石器(15)

図版118 B地区包含層出土の石器(1)

図版119 B地区包含層出土の石器(2)

図版120 B地区包含層出土の石器(3)

図版121 B地区包含層出土の石器(4)

図版122 B地区包含層出土の石器(5)

図版123 B地区包含層出土の鉄製品

I章 緒言

1. 調査要項

事業名：根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局 釧路開発建設部

遺跡名：別当賀一番沢川遺跡（北海道教育委員会登録番号 N-01-154）

所在地：根室市酪陽7-3外、41-3・10

調査面積：計3,495㎡（平成27年度1,300㎡、平成28年度2,000㎡、平成30年度195㎡）

調査期間：平成27年5月1日～平成28年3月31日（現地調査平成27年6月2日～8月12日）

平成28年4月1日～平成29年3月31日（現地調査平成28年7月21日～11月11日）

平成29年4月3日～平成30年3月30日（整理作業のみ）

平成30年4月2日～平成31年3月29日（現地調査平成30年6月5日～6月28日）

2. 調査体制

平成27年度

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人

第2調査部第2調査課長 笠原 興（発掘担当者）

主査 広田 良成（発掘担当者）

平成28年度

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 三浦 正人

第2調査部第2調査課長 笠原 興（発掘担当者）

主査 阿部 明義（発掘担当者）

主査 広田 良成（発掘担当者）

主査 山中 文雄（発掘担当者）

平成29年度

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 鈴木 信

第2調査部第2調査課長 笠原 興

主査 阿部 明義

主査 広田 良成

平成30年度

第1調査部長 長沼 孝（常務理事兼務） 第2調査部長 鈴木 信

第2調査部第2調査課長 笠原 興

主査 広田 良成（発掘担当者）

主査 影浦 覚（発掘担当者）

3. 調査の経緯

国道44号は北海道釧路市から北海道根室市へ至る延長約124kmの主要幹線道路で、一般国道の中で最も東に位置する。起点は釧路市大町1丁目9番1(幣舞ロータリー)で、釧路郡釧路町・厚岸郡厚岸町・浜中町・根室半島の付け根である根室市厚床^{かむろこ}を通過し、終点は根室市常盤町3丁目28番(弥栄町1丁目交点)である。

根室防雪事業は、国道44号の根室市厚床から根室市温根沼^{かむろこ}を結ぶ路線の地吹雪による視程障害、危険箇所及び交通事故の低減を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした延長12.2kmの防災対策事業である。事業の工事計画の具体化に伴い、平成24年5月24日に埋蔵文化財保護のための事前協議書が北海道開発局釧路開発建設部(以下、釧路開建)から北海道教育委員会(以下、道教委)あてに提出された。工事計画では、根室市川口～酪陽の約1.5kmは別当賀橋の付替えを伴う線形改良を予定していたが、工事範囲内に周知の埋蔵文化財包蔵地である別当賀一番沢川遺跡がかかることが確認された。そのため、平成26年11月26～28日に、根室市教育委員会(以下、市教委)の協力を得て埋蔵文化財包蔵地の試掘調査が別当賀一番沢川遺跡と別当賀川の対岸にある可能性地の2か所について実施された。その結果、別当賀一番沢川遺跡では、18か所設定した試掘坑の内6か所から遺構・遺物を検出した。また、可能性地については24か所設定した試掘坑の内2か所から石器が1点ずつ出土した。試掘調査の結果を基に平成26年12月5日、道教委から釧路開建あてに周知の埋蔵文化財包蔵地である別当賀一番沢川遺跡について発掘が必要であること、可能性地については工事立会とし、一帯を別当賀川口1堅穴群の範囲を南に拡大して包蔵地範囲に含めるとの回答がなされた。その後関係者による協議や試掘調査を経て、最終的に平成27年度から(公財)北海道埋蔵文化財センターが3,495㎡について発掘調査を実施することとなった。

4. 調査の経過

(1) 発掘作業

別当賀一番沢川遺跡の発掘調査は平成27・28・30年度の3か年にわたった。調査に先立って行われた工事区間を担当する根室道路事務所との事前協議で、国道44号の北側1,300㎡(A地区)と南側2,000㎡(B地区)の発掘調査範囲2か所の内、工事計画の都合によりA地区1,300㎡を先に調査することとなった。初年度の平成27年度は5～8月に、A地区について調査員2名、作業員22名の体制で調査を行った。日程は、5月中旬に事前準備として、根室道路事務所や工事業者との打ち合わせ等を行い、5月20・21日にバックホーによる調査範囲の表土除去、5月25日から6月1日までは、器材の搬入・整備等、発掘作業に向けての環境整備を行い、6月2日から発掘調査を開始した。事前の試掘調査では、2か所の試掘坑から土器が少量出土したのみであったが、遺物包含層からは予想より多くの遺物が出土した。遺構は堅穴住居跡、土坑等を検出したが、縄文時代中期後葉～後期前葉北筒式土器の時期の堅穴住居跡3軒は、深い掘り方を埋め戻して床面を構築するものや焼失住居跡でほとんど掘り込みがないものなど、床面の確認や炭化材の検出等に時間を要した。出土土器については縄文時代晩期が多いため当該期の遺構の検出を予想したが、遺構の時期は多くが北筒式土器の時期であり、晩期の遺構は少数で想定とは異なった。摩周テフラの下位については、遺構がなく遺物は少量出土した。また調査期間の後半に、調査範囲南端において調査区外に遺構・遺物が続く状況を確認し調査が必要であること、調査区外の南西部に旧地形が残存しており発掘調査が必要であることが判明し

ため、道教委に報告した。その後関係者による協議の結果、前者については調査区南側を拡張することとし、この範囲については当初の期間内に調査を行った。後者については未買収地であるため、買収後に改めて試掘調査を実施することとなった。平成27年度の発掘作業は拡張範囲を含めて、当初の予定通り8月12日に終了した。

平成28年度は7～11月に、B地区2000㎡について、調査員3名、作業員46名の体制で調査を行った。日程は、7月上旬に事前準備として、根室道路事務所や工事業者等との打ち合わせ等を行い、7月11～14日にバックホーによる調査範囲の表土除去、併行して器材の搬入・整備等、発掘作業に向けての環境整備を行い、7月21日から発掘調査を開始した。事前の試掘調査では、6か所の試掘坑の内5か所から、遺構・遺物が検出されたため、それらが全体的に濃密であることを予想していた。調査は南東側から行ったが、縄文時代の遺物包含層であるⅢ層上面で、遺構の覆土と考えられる土層の大きな広がりを確認した。その数か所についてトレンチ調査等を行ったところ、堅穴住居跡等の遺構であることが判明したため、全体の調査工程として、まず調査区全体をⅢ層上面まで掘り下げ、遺構の分布状況を把握することとした。その結果、調査区全体に遺構の覆土と考えられる土層が分布しており、Ⅲ層上面で浅い窪みとなる場所も複数みられた。遺構調査の方針としては、まず窪み等大型の遺構と考えられるものを優先的に調査し、可能であれば小型の遺構の調査を並行して行うようにした。実際は一つの遺構を調査していく過程で、重複する遺構が確認されるため連続的に調査を行った。堅穴住居跡は昨年度のA地区同様、縄文時代中期～後期北筒式土器の時期で、掘り込みがごく浅いものや深い掘り方を埋めて床面を作るもの等、多様な形態がみられた。また、焼失住居跡が多く、炭化材の検出等に時間を要した。予想以上に遺構が検出されたため、当初の10月28日までの調査期間を11月11日まで延長し、調査を終了した。

平成29年度は発掘作業がなく、整理作業のみであった。しかし、5月18日に道教委が、買収が済んだA地区南西部隣接地について試掘調査を実施し、試掘坑3か所の内1か所から遺物が出土した。試掘調査の結果を基に平成29年7月5日、道教委から釧路開建あてにA地区南西部195㎡について発掘調査が必要であるとの回答がなされた。その後、関係者の協議を経て、平成30年度に（公財）北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

平成30年度は6月に、A地区の南西側195㎡について、調査員2名、作業員9名の体制で調査を行った。日程は5月下旬に道路事務所や工事業者等との打ち合わせ等を行った。根室道路事務所との打ち合わせでは、発掘調査範囲周辺で希少鳥類であるタンチョウヅルの営巣が確認されているため、対策として調査に先立ち目隠しネットの設置が必要となった。5月31日から事務所への器材搬入・整備等の環境整備を行い、6月4日に目隠しネットを設置、6月5日にバックホーによる調査範囲の表土除去を行い、6月6日から発掘調査を開始した。平成30年度の調査区は別当賀川へ向かう緩斜面と段丘崖部分からなり、崖部分は地山まで最大3mを超える深さで、一部工事による攪乱範囲がみられた。崖部分の調査は安全を確保するため、バックホーで攪乱を掘削する際は法面を作り、崩落しないように留意した。また、手作業で地山まで掘り下げた発掘区は速やかに埋め戻しながら作業を進めた。遺構は検出されず、遺物は縄文時代晩期の土器が主体で、緩斜面から崖下にかけて比較的多く出土した。平成30年度の調査は当初の予定通り6月28日に終了し、本遺跡の発掘調査は終了した。

（2）整理作業

現地での整理作業は、発掘作業と並行して行った。作業内容は主に遺物の一次整理作業で、遺物の水洗、分類、台帳登録、注記作業、土壌水洗等について調査員と作業員1～5名で行った。また、遺

物水洗については、雨天等で発掘作業が困難な日には全作業員で行った。また、調査員は作成した遺構の図面や地形図等の点検・修正や、現地で撮影したフィルムの整理等を行った。

センター本部での整理作業は、平成27～30年度に調査員と作業員1～4名、写図工1～2名で行った。遺物については現地で残した一次整理作業の続きを行った後に、土器は接合・復元、拓本の作成、復元土器の実測、破片土器の断面実測作業等を行い、石器は接合と実測作業等を行った。現地で作成した図面類は、各担当調査員が、トレースの下図(素図)を作成し、デジタルトレースを行った。また、外部委託の分析として、平成27・28年度に放射性炭素年代測定、炭化材樹種同定、平成27・29年度に黒曜石製石器の産地推定、平成28年度に火山灰同定、平成29年度に鉄製品の保存処理と金属考古学的調査を行った。平成29・30年度は遺物等の整理作業と並行して報告書刊行に向けての原稿執筆や編集作業を行い、平成30年度末に報告書刊行、根室市教育委員会へ遺物の移管等を行った。

5. 調査結果の概要

3か年度の調査で、A・B地区合わせて、遺構は住居跡44軒、土坑38基、柱穴状小土坑25か所、焼土10か所、土器片集中2か所、礫集中2か所を検出した。遺構の時期は多くが縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒Ⅱ～Ⅴ式土器の時期で、他に縄文時代晩期の土坑等が少数ある。遺構の分布は北側のA地区は希薄だが、B地区は非常に密で、重複するものも多い。住居跡には炭化材や焼土が確認できる焼失住居跡や、床面で埋設土器があるものもあった。

遺物は、A・B地区合わせて、土器等17,095点、石器等27,779点、金属製品30点で、合計44,904点出土した。地区ごとにみると、A地区で土器8,919点、石器等7,218点、鉄製品15点で合計16,152点出土し、B地区では土器等8,176点、石器等20,561点、金属製品15点で合計28,752点出土した。土器はA地区では縄文時代晩期後葉緑ヶ岡式が多く、B地区では縄文時代中期後葉～後期前葉北筒式土器が多い。定形的な石器では石槍・ナイフ、スクレイパー、砥石が多く出土している。また、石製品としてA地区では勾玉等が出土した。鉄製品は表土出土も含めて、鍋、鎌、釘等がある。

表I-1 全遺物集計表

A地区

遺物種別	分類	遺構	任意層	合計	
土器	土器	21	21	21	
	土器-修理	20	207	262	
	V形	490	7,586	8,076	
	V形	592	18	610	
	V形	17	17	17	
	不明		1	1	
	合計	1,020	7,860	8,880	
	石器	2	50	51	
	石器・ナイフ	20	46	66	
	燧石製石器	4	20	27	
石器	石器	1	0	1	
	ツルミ打石ナイフ	20	10	30	
	スクレイパー	1	127	128	
	石槍	5	51	56	
	一辺加工・使用痕のある礫	20	126	146	
	砥石	1	47	48	
	合計	1,562	5,979	4,511	
	焼土	4	20	24	
	土器片	3	20	27	
	不明	2	4	6	
石製品	石製品	10	10	10	
	砥石	4	20	24	
	石	1	1	2	
	一辺加工・使用痕のある礫	2	10	12	
	礫	306	1,424	1,970	
	石製品	1	3	4	
	合計	1,004	5,114	7,118	
	金属製品	鉄製品	15	15	15
	合計	3,087	13,000	16,112	

B地区

遺物種別	分類	遺構	任意層	合計
土器	土器	9	13	22
	土器	62	20	152
	土器-修理	16	166	182
	V形	1,222	1,807	4,029
	V形	306	150	1,326
	V形	417	1,457	1,874
	V形	284	264	548
	不明		1	1
	不明	11	27	40
	不明	9	17	23
石器	石器	3,909	4,218	8,726
	石器	99	155	215
	石器・ナイフ	133	113	248
	燧石製石器	43	48	127
	石器	20	20	30
	ツルミ打石ナイフ	20	20	46
	スクレイパー	20	127	207
	石槍	20	20	39
	一辺加工・使用痕のある礫	204	204	408
	砥石	9	20	28
石製品	石製品	4,204	5,418	10,061
	燧石製石器	43	20	71
	石	23	21	54
	不明	1	1	2
	石器	20	20	48
	砥石	110	123	243
	石	3	1	13
	一辺加工・使用痕のある礫	20	49	67
	礫	3,259	5,267	8,565
	石製品	1	1	2
金属製品	鉄製品	0,447	11,114	20,561
	鉄製品	13	13	15
	不明	1	1	1
	合計	15,407	16,241	28,752

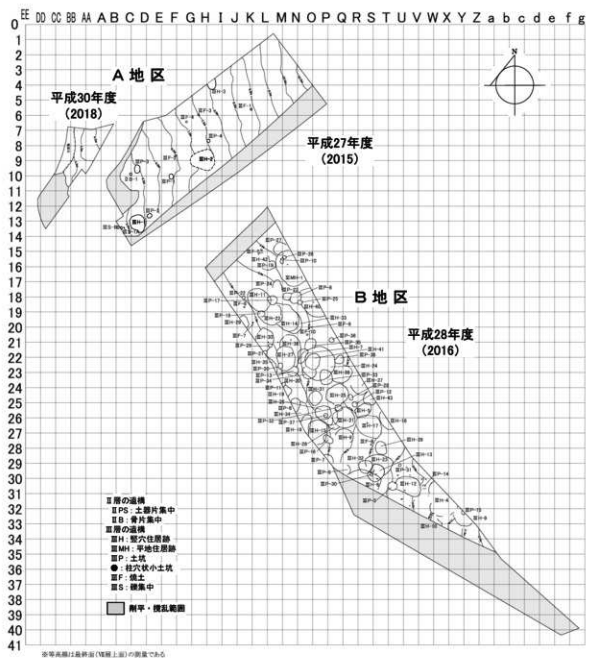


図 I - 2 遺構位置図

II章 遺跡の位置と環境

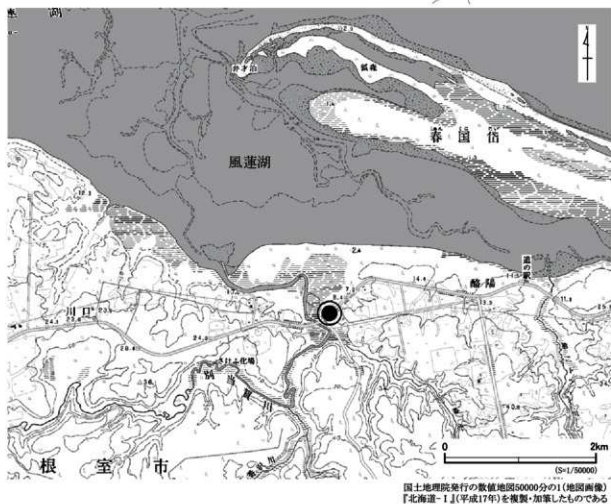
1. 位置と立地 (図II-1・2)

別当賀一番沢川遺跡は、北海道根室市酪陽6-4・5、7-3外、40-1、41-1、41-1地先、41-3・4・10に所在する。遺跡がある根室市は、北海道東部の根室半島及び歯舞群島に位置する北海道最東端の市で、根室振興局の所在地である。北海道東部の中核的な市である釧路市の市街地から根室市街までの距離は約120kmを測り、根室市の西側は別海町及び浜中町に接している。平成29(2017)年度の根室市統計書によると、面積は506.25km²で、これは歯舞群島の面積(99.94km²)を含み、風蓮湖(59.01km²)は水面が境界未定のため含めていない。平成29年12月31日における人口は26,399人で、根室振興局の市町村では最も多いが、近年は周辺の多くの市町村と同様に人口の減少が続いている。市の基幹産業は水産業で、夏の花咲ガニ、秋のサンマ等の水産物が全国的にも有名である。また、国後島等の北方領土に近接し、天気の良いよく晴れた日には間近に国後島を望むことができる。

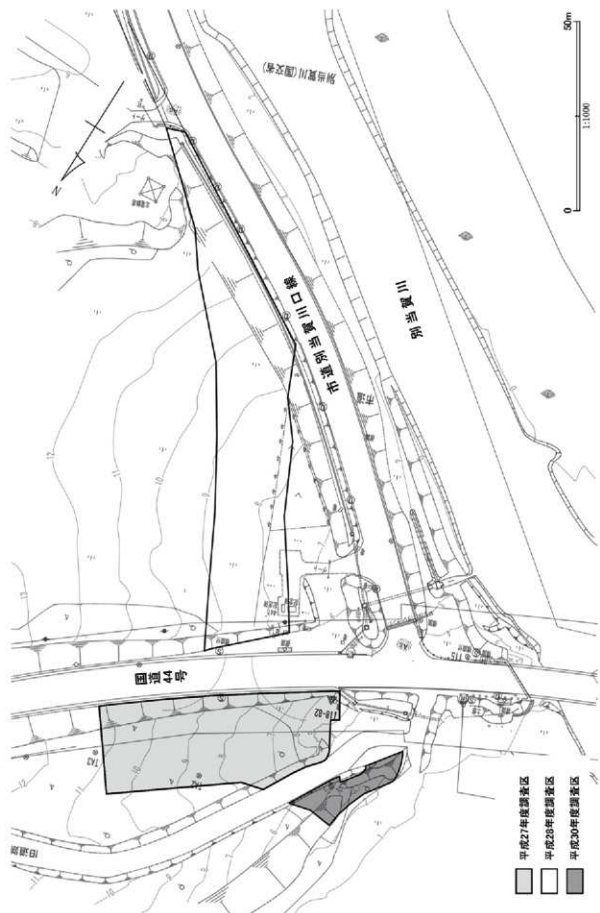
本遺跡の位置する根室半島は、その付け根にあたる温根沼から先端の納沙布岬までの長さが東西に約30km、幅約5~10kmの規模で、北側をオホーツク海、南側を太平洋に面し、東方には歯舞群島が連なっており、根室半島の先端の納沙布岬は北海道の東端となっている。根室半島の地形は、全般的に海成段丘が発達しており、なだらかな高まりが東北東-西南西にのびる。大きくみると高低位の2段の段丘面に区分されるが、これらの段丘面は細かくみると海拔60~80m、40~50m、30~40m、17~25m、10~15mに分かれ、段丘の境は極めてなだらかな斜面で転換している。60~80mの面は最も標高が高く、根室半島のつけ根から厚床にかけて分布し、この面は温根沼以东の根室半島ではみられない。40~50mの面は根室市街から花咲~落石へと細長く南西から西方に続き、温根沼の東部で膨らみ、太平洋側に広く分布している。30~40mの面は、40~50mの面と同様の分布を示すが半島東方へせばまり、半島南西方向に広く分布している。17~25m及び10~15mの面は、風蓮湖方面で発達し、更に半島北岸一帯から納沙布岬に至り、太平洋側では桂木へと分布が認められるが、それ以西の海岸沿いにはみられない(松井・吉元 1987)。

別当賀川は、風蓮湖に注ぐ河川で流路延長40.6kmを測り、源流は根室市の西側に隣接する浜中町の姉別にあり、根室市内では風蓮川に次ぐ長さである。別当賀一番沢川は別当賀川の支流で、JR根室本線(花咲線)別当賀駅の北側に源流があり別当賀橋の手前で別当賀川に合流する。「別当賀」という地名の由来は、アイヌ語「ベ・ウッカ 川の・浅瀬の上を水がうねり流れる処」、「ベトウッカ 浅瀬」の意味である。

別当賀一番沢川遺跡は別当賀川右岸の河口近くに位置し、一番沢川には面していない(口絵1、図II-1)。遺跡名に一番沢川と付けられた経緯は不明であるが、別当賀川沿いには遺跡が多く分布するため、それらと区別するために遺跡付近にある一番沢川の名前を付した可能性がある。地形は標高5~10m、別当賀川の河岸段丘上の緩やかな斜面で、北側は段丘崖まで遺跡の範囲が広がるのが今回の調査で確認された。南側は昭和60(1985)年に根室市教育委員会により川沿いの段丘縁辺部分の調査が行われ、遺構・遺物が分布する事が確認されている。



図Ⅱ-1 別当賀一番沢川遺跡の位置



図II-2 遺跡周辺の地形

2. 周辺の遺跡 (図Ⅱ-3、表Ⅱ-1)

根室市内では現在のところ308か所の遺跡が確認されており、北海道内でも遺跡数が非常に多い地域のひとつである。遺跡の分布傾向はオホーツク海に面する根室半島北側の台地に多くみられ、太平洋に面する南側には少ない。また、東西方向においては根室半島の西部側が多く、特に風蓮湖に注ぐ別当賀川沿いは密である。遺跡の種類では集落跡が全遺跡数の3分の2以上と多い。これは、開発行為等による削平などがあまりみられず、自然地形が良好に残る場所が多いこと、冷涼な気候により埋まりきらない堅穴が、地表からくぼみとして確認しやすいことが大きな理由として挙げられる。

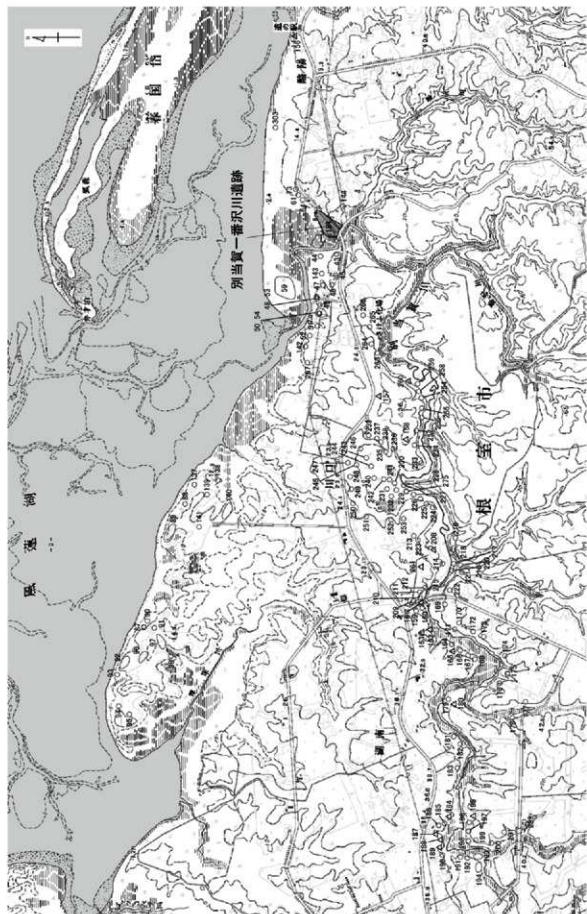
遺跡の時期は縄文時代からアイヌ文化期までの各時期がみられるが、今のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。国指定史跡としては、権文文化期と考えられる大小約350個の堅穴が密集して分布している西月ヶ岡遺跡と、アイヌ文化期のチャシ跡24か所からなる根室半島チャシ跡群がある。また、北海道指定の有形文化財については、平成5年に指定された「初田牛20遺跡出土の土偶及び墓坑出土遺物」がある。これらは縄文時代後期の墓坑から出土した石器、石製品、漆製品や、道東での出土例が極めて少ない完形に近い土偶が指定対象である。

上述のように、別当賀一番沢川遺跡の位置する別当賀川沿いには遺跡が多く分布し、根室市内で確認されている遺跡の内、約半数は別当賀川沿い及び河口周辺に分布している。別当賀一番沢川遺跡の周辺の別当賀川下流から風蓮湖に注ぐ河口付近は特に遺跡の分布が高密度な場所である。

周辺の遺跡は発掘調査がほとんど行われておらず、多くが時期不明だが、堅穴住居跡と考えられるくぼみ(以下、堅穴)が確認される場合が多いため、多くは集落跡と推定される。以下に別当賀一番沢川遺跡の周辺の遺跡について概要を述べる。周辺の遺跡については分布図(図Ⅱ-3)と、一覧表(表Ⅱ-1)を掲載した。これらは、北海道教育委員会のホームページ内サイト「北の遺跡案内(<http://www.dokyoipref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>)」及び根室市教育委員会作成の「根室市埋蔵文化財マップ」等を基に作成した。なお、遺跡名等の後の括弧内の数字は北海道教育委員会の遺跡登録番号である(図・表ともに同じ)。

周辺の遺跡の分布は、当遺跡を含む別当賀川河口の遺跡群、別当賀川下流の遺跡群、別当賀川河口の北西側等にある風蓮湖岸の遺跡群の3か所に大きく分けられる。別当賀川河口の遺跡群(43・54・59・61・64・73・142~144・154・267)は、別当賀川の河岸段丘上に立地し、川もしくは川につながる湿地に面する場所にあるものが多い。各遺跡の堅穴は数個から100を超えるものまであり、中でも別当賀川口右岸堅穴群は170以上の堅穴からなる大規模なものである。また、この遺跡群には、別当賀川口1号チャシ跡、同2号チャシ跡が含まれる。共に面崖式で前者は平成20(2008)年北海道開拓記念館に、後者は平成18(2006)年に根室市歴史と自然の資料館等により、測量調査が行われている。別当賀川下流の遺跡群(156~201・208~215・217~247・249~261・263~266・275・293・303)は100か所以上の遺跡があり、上流側(西側)では右岸、左岸共に遺跡の分布がみられるが、下流側(東側)では河口付近まで右岸側に分布を確認できず、流域により分布の多少がある。また、支流である一番沢川や二番沢川にはほとんど遺跡の分布がみられない。この遺跡群には上述の初田牛20遺跡(208)が位置する。風蓮湖岸の遺跡群(87~98・137~141)は主に風蓮湖に面する台地上に立地し、分布密度は他の遺跡群に比べややまばらである。確認されている堅穴の数が少ない遺跡が多く、最大はカイカラコタン10堅穴群(97)で、約50個の堅穴が確認されている。

時代別にみると、縄文時代の遺跡として、本報告書の別当賀一番沢川遺跡(154)、湖南18遺跡(188)、上述の土偶等が出土した初田牛20遺跡(208)、同24堅穴群(212)、川口22遺跡(260)、初田牛53遺



国土院建設院発行の地形図(50000分の1)(国土地理院)
 『北海道-1』(平成17年)を複製・加工したものである

図1-3 周辺の遺跡

表Ⅱ-1 周辺の遺跡一覧

No.	調査区	発掘	時期	調査内容	調査方法	調査結果	備考	調査年度	発掘者
1
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

跡(261)がある。統縄文時代の遺跡として、当遺跡(154)、別当賀高橋牧場前3堅穴群(73)がある。擦文文化期の遺跡としては別当賀川口10堅穴群(52)、別当賀高橋牧場前3堅穴群(73)、カイカラコタン3堅穴群(90)、酷陽風遡海岸1堅穴群(303)がある。アイヌ文化期の遺跡は全てチャシ跡で、上述の別当賀川口1号チャシ跡(53)、同2号チャシ跡(54)やカイカラコタンチャシ跡(87)、別当賀川大曲チャシ跡(275)がある。

3. 過去の調査(図Ⅱ-4-9)

当遺跡は、昭和60(1985)年7~9月に、市道別当賀川口線の道路改良工事に伴い根室市教育委員会により発掘調査が行われ、報告書が刊行されている(根室市教育委員会 1986『根室市別当賀一番沢川遺跡発掘調査報告書』)。図Ⅱ-5は今回の調査区と、1985年の調査区を合成したものである。1985年調査区は今回調査のB地区の南西側に位置し、調査区の南東側の一部はB地区に重なる。図面の合成には、1985年調査時のグリッドの基点である工事範囲幅杭2点(R136、R138)を基準とした。R136は「0-A」、R138は「45-A」にあたり、この2点を結んだ線が1985年調査グリッドの基線となっている(図Ⅱ-4参照)。

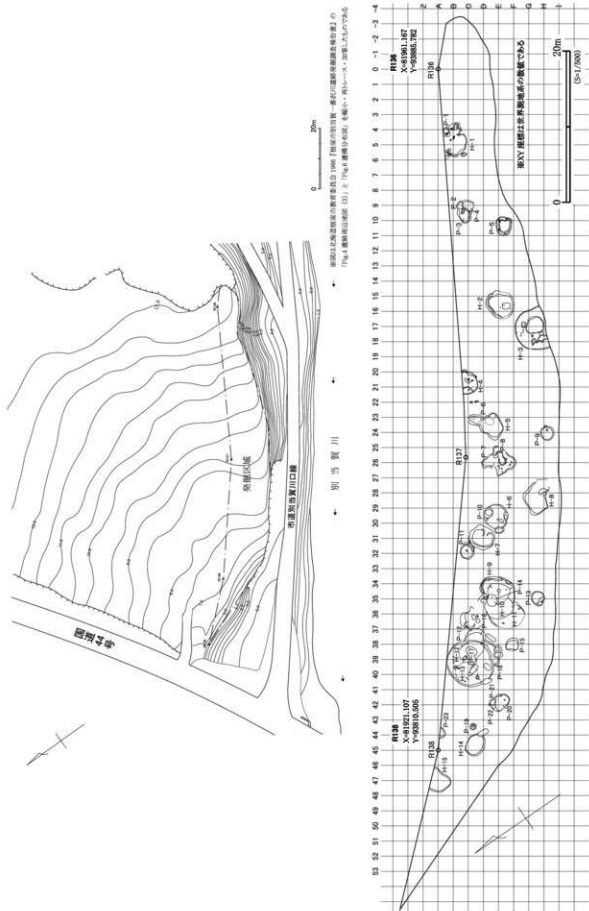
1985年調査では、最初に土層の堆積状況、土量の把握等を目的として、5か所のトレンチ調査を行った。その結果、摩周バミス(今回調査のⅣ層)の上位の黒褐色土層(今回調査のⅡ・Ⅲ層)出土の遺物が少ないことや、主に摩周バミス上面で遺構と想定される黒色土の落ち込みを検出したこと、当初の予想外に土量が多いこと等が判明した。そのため、包含層は、表土から摩周バミス直上10cmまでをスコップを使い、その後移植ごて、鋤簾等により摩周バミスまで掘り下げ、遺構を確認している。

確認した遺構は、堅穴住居跡15軒(H-1~15)、土坑23基(P-1~23)で、時期は出土遺物から縄文時代中期後葉~後期前葉の北筒式期で、今回の調査とほぼ同様である。主な遺構・遺物について、1985年調査の報告書の実測図を再掲載した(図Ⅱ-6・7)。今回の調査と比較すると、遺構の分布密度はやや低い(図Ⅱ-5)。1985年調査では、摩周バミス上位の黒褐色土層(Ⅱ・Ⅲ層)をスコップで掘り下げているため、Ⅲ層中に構築された浅い遺構を検出できなかったことが考えられる。遺構の規模・形状は今回の調査で検出したものと類似している。ただし、1985年調査の重複する堅穴住居跡(H-9~11、H-12・13等)は、今回の調査で検出した堅穴住居跡の掘り方を埋めて生活面を作る例(ⅢH-1・3・5・11・25等)と形状等が類似しているため、複数の遺構の重複としているものは、一つの堅穴住居跡の可能性もある。

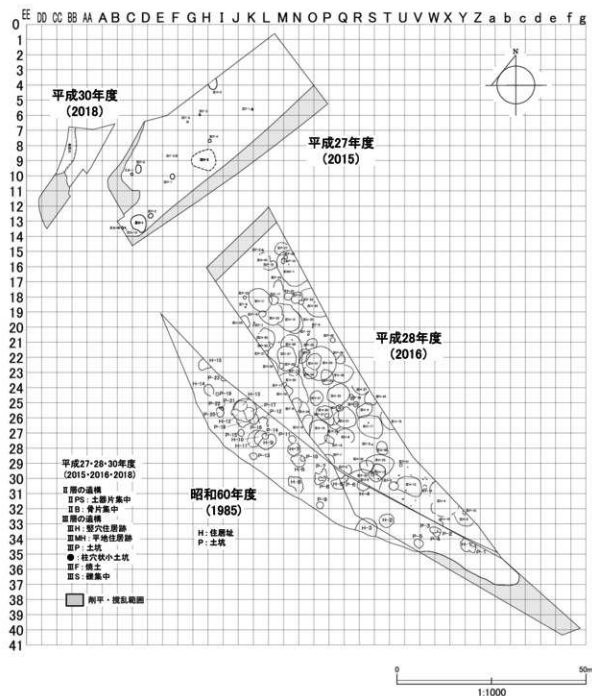
また上述のように、1985年調査と今回調査のB地区南西側が接した部分で、1985年調査の堅穴住居跡H-4が、今回調査のⅢH-6と同一の遺構であることを確認し、合成した図面を掲載している(図Ⅵ-7・8)。他の遺構についてはその延長部分を確認できなかった。

遺物は、縄文時代早期~アイヌ文化期のものが出土した。土器は、点数等が記載されていないが、報告書の記述及び掲載資料を見る限り北筒式土器が主体で、その中では北筒V式が多い。他に縄文時代早期、後期、統縄文、擦文土器が出土している。石器は、剥片石器では、石鏃20点、尖頭器(石槍・ナイフ)52点、同破片63点、スクレイパー4点、縦長及び横長石匙(つまみ付きナイフ)14点、ドリル(石錐)10点等が出土している。礫石器では磨製石斧、石鋸、砥石、敲打痕のある円礫(たたき石)等が出土している。金属製品では、内耳鉄鍋と銅銭が出土している。また、特徴的な遺物として、H-9の床面にはりつくように検出された炭化物の中に、編み物状炭化物が検出されている。

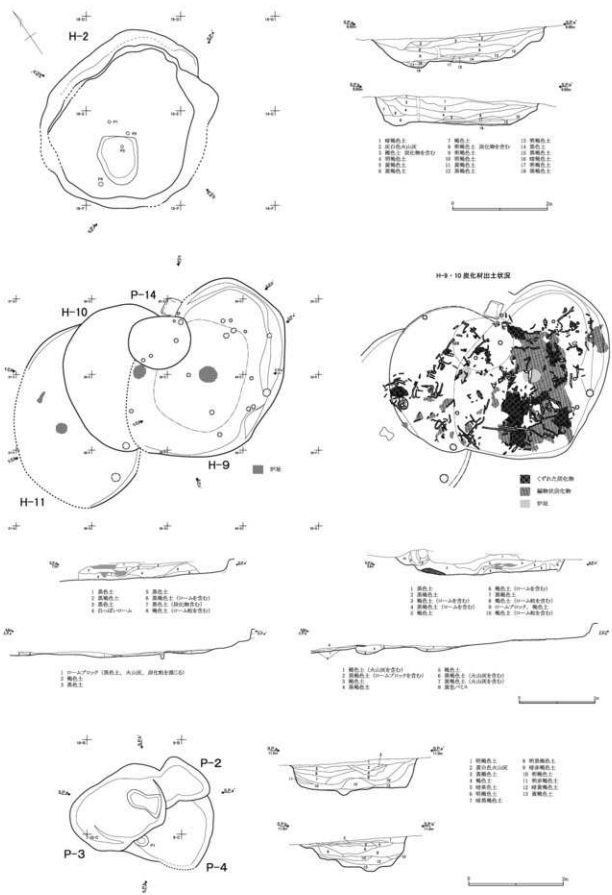
(広田)



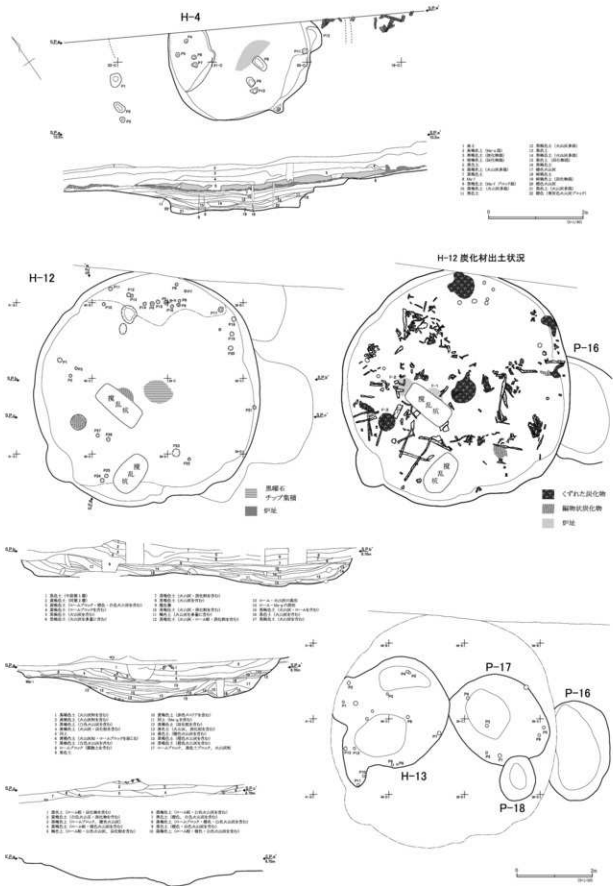
図Ⅱ-4 1985年調査周辺地形図・遺構位置図



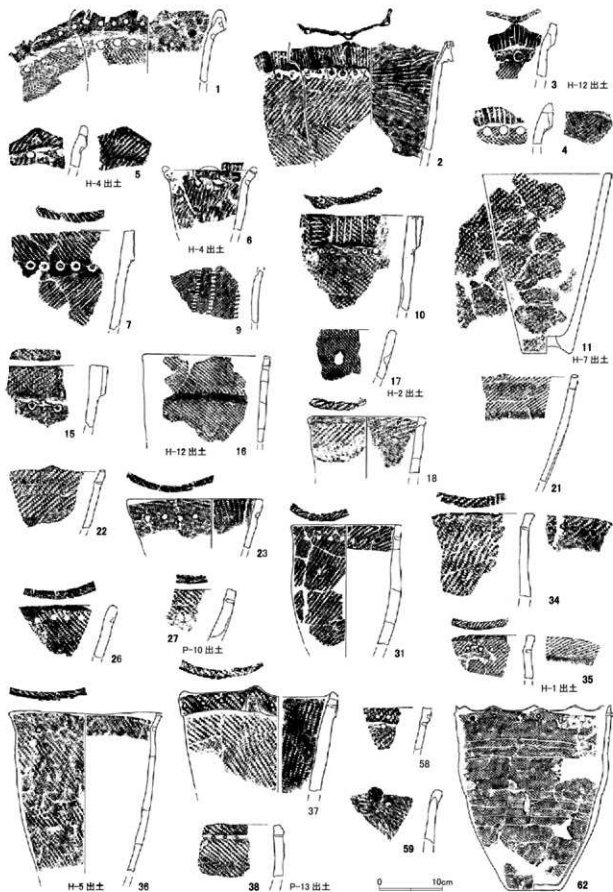
図II-5 全調査遺構位置図



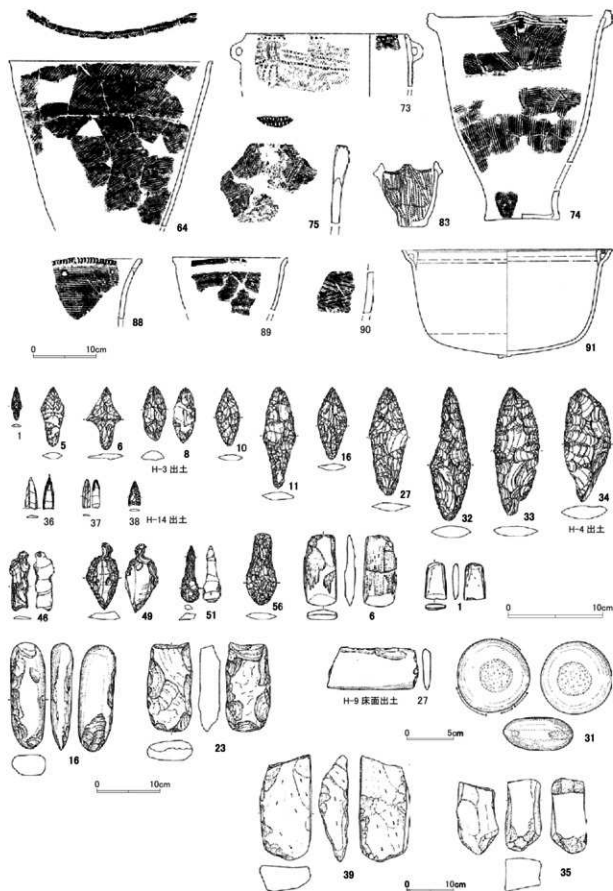
図Ⅱ-6 1985年調査の遺構(1)



図Ⅱ-7 1985年調査の遺構(2)



図Ⅱ-8 1985年調査出土の遺物(1)



図II-9 1985年調査出土の遺物(2)

表Ⅱ-2 1985年調査遺構一覧

遺構名	遺構種別	図	グリッド	平面形態	規模(m)				付属遺構 (クワ内は検出番号 平図記載の遺構名)	主な出土遺物	備考	
					縦断面		横断面					最大径
					長径	短径	長径	短径				
H-1	竪穴住居跡	-	3・4・5・A・B	不整形四角形	-	-	-	-	埴土1ヶ所、 ビット7基(P1～5・10)	北階式土器	P-1と重複	
H-2	竪穴住居跡	H-6	14・15・16・D・E・F	不整形四角形	3.82	3.30	3.38	2.84	0.64	ビット1基(P1～4)	土器、磨曜石製片	
H-3	竪穴住居跡	-	15・16・17・18・F・G・H	楕円形?	(3.79)	(4.16)	(3.96)	(4.00)	(0.56)	埴土1ヶ所、ビット2基 (P1～4)、段縁土	土器、石製、 磨曜石製片	不整形落ち込みあり
H-4	竪穴住居跡	H-7	19・20・21・B・C	不整形四角形	(3.20)	(2.21)	(2.86)	(3.10)	(0.76)	ビット12基(P1～12)、 段縁土	北階式土器、 土器	焼土住居跡、今中環 敷跡と同一
H-5	竪穴住居跡	-	22・23・24・C・D・E	不整形	3.42	2.99	3.02	2.65	0.58	-	北階式土器	P-6と重複
H-6	竪穴住居跡	-	28・29・30・D・E	不整形四角形	3.88	3.28	3.49	2.90	0.38	埴土1ヶ所、ビット3基	北階式土器、 土器	P-10と重複
H-7	竪穴住居跡	-	30・31・C・D	不整形四角形	3.42	3.01	2.72	2.20	0.86	-	北階式土器、 小竈まとと5	焼土住居跡?、散見 骨や土器片出す
H-8	竪穴住居跡	-	27・28・29・F・G・H	不整形	5.14	3.54	4.82	3.17	0.49	ビット9ヶ所	土器	溝跡に盛り出しあり
H-9	竪穴住居跡	H-6	33・34・35・C・D・E・F	不整形四角形	(3.13)	(3.90)	(4.70)	(3.33)	(0.78)	伊達2ヶ所、ビット19基	編み物収束化印物、 北階式土器、石製、 石製、石製、 磨曜石製片多数	C14年代測定、焼土 住居跡、H-9・11、 P-14と重複
H-10	竪穴住居跡	H-6	35・36・D・E・F	不整形四角形	-	-	(3.90)	(2.65)	(0.78)	伊達1ヶ所、ビット2基	北階式土器	C14年代測定、焼土 住居跡、H-9・11、 P-14と重複しH-11と 異なる
H-11	竪穴住居跡	H-6	35・36・37・D・E・F	不整形四角形	(4.85)	(3.35)	(4.73)	(3.27)	(0.28)	埴土1ヶ所、ビット1基	北階式土器	H-9・10、P-14と重 複し、H-10より古い
H-12	竪穴住居跡	H-7	37・38・39・D・E・F・G	四角形	6.06	5.98	6.02	5.68	0.92	伊達2ヶ所、伊達1ヶ所、 ビット2基(P1～27)	北階式土器、石製、 石製、石製、 磨曜石、赤色磁石	C14年代測定、焼土 住居跡、H-13、P-16 ～18と重複
H-13	竪穴住居跡	H-7	39・40・B・C	不整形四角形	3.68	2.96	1.36	1.26	-	ビット13基(P1～13)	北階式土器、 磨曜石製片	C14年代測定、H-12 より高出
H-14	竪穴住居跡	-	43・44・45・B・C・D	楕円形	(3.00)	2.40	(2.78)	2.08	0.28	ビット1基	石製、 磨曜石製片	
H-15	竪穴住居跡	-	46・47・Z・A	不整形四角形	(3.00)	(2.78)	(2.78)	(2.60)	(0.20)	-	土器、 磨曜石製片多数	
P-1	土坑	-	3・4・A	不整形四角形	(1.20)	(0.94)	0.98	0.67	-	ビット3基(P2～4)	北階式土器	H-1と重複
P-2	土坑	H-6	8・9・B	不整形	(1.00)	(1.10)	(0.92)	(0.78)	(0.60)	-	-	P-3・4と重複
P-3	土坑	H-6	9・10・B・C	楕円形	(2.22)	(1.90)	(2.00)	(1.32)	(0.60)	落ち込みありあり	なし	P-2・4と重複
P-4	土坑	H-6	8・9・B・C	不整形四角形	(2.16)	(1.22)	(1.52)	(1.00)	(0.30)	ビット1基(P1)	なし	P-2・3と重複
P-5	土坑	-	9・10・D・E	楕円形	2.42	2.08	1.62	1.40	0.70	ビット12基(P1～12)、 段縁土	北階、磨曜石河、 磨曜石製片少量	
P-6	土坑	-	22・23・B・C	不整形四角形	1.82	1.12	1.60	0.96	0.68	-	なし	H-5と重複
P-7	土坑	-	24・25・36・C・D・E・F	不整形	4.74	3.92	4.40	3.76	0.28	-	なし	P-8と重複
P-8	土坑	-	23・26・D・E	不整形四角形	1.94	1.36	1.58	0.72	0.42	-	なし	P-7と重複
P-9	土坑	-	23・24・G・H	四角形	2.61	1.78	1.60	1.32	0.72	ビット2基(P1～2)	磨曜石製片少量	
P-10	土坑	-	28・29・D	不整形四角形	1.72	1.20	1.32	0.91	0.44	-	なし	土器に盛り出し跡あり、 H-6と重複
P-11	土坑	-	31・32・B・C	不整形四角形	2.46	1.92	1.66	1.04	0.79	ビット1基(P1)	なし	
P-12	土坑	-	35・36・B・C	不整形四角形	2.39	1.60	1.99	1.16	0.38	-	なし	4ヶ所の落ち込み、 表の規模は最も大型 のもののみ詳細
P-13	土坑	-	34・35・C	不整形四角形	2.04	1.69	1.88	1.60	0.50	ビット2基(P1～2)	北階式土器	肌説のみ検出、H-9 ～11と重複しH-9・ 10より新しい
P-14	土坑	H-6	34・35・D	不整形四角形	-	-	1.43	1.40	(0.20)	-	なし	
P-15	土坑	-	37・38・D・E	不整形四角形	1.70	1.68	1.56	1.28	0.32	-	磨曜石製片少量	
P-16	土坑	H-7	37・B・C・D	不整形四角形	2.64	(4.60)	2.26	(3.16)	-	-	なし	
P-17	土坑	H-7	38・C・D	不整形四角形	2.70	2.20	1.30	1.04	-	ビット6基(P1～6)	磨曜石製片、磁石	H-12より高出、全体 図と平面図で位置・ 形状が異なる。跡は 平面図を基にした
P-18	土坑	H-7	37・38・39・D・E	不整形四角形	1.20	0.96	0.66	0.44	-	-	磨曜石製片	H-12より高出、全体 図と平面図で位置・ 形状が異なる。跡は 平面図を基にした
P-19	土坑	-	43・C	四角形	0.86	0.80	0.64	0.60	0.36	段縁土	土器、磨曜石製片	
P-20	土坑	-	41・42・D・E	不整形四角形	2.78	1.98	2.18	1.76	0.76	ビット1基(P1)	土器、磨曜石製片 多数、磁石	P-21・22と重複し、 最も新しい
P-21	土坑	-	41・42・D	楕円形	-	-	(0.81)	(0.50)	0.68	-	なし	P-20・22と重複し、 P-20より古い
P-22	土坑	-	41・42・D	楕円形	-	-	(0.52)	(0.38)	0.72	-	なし	P-20・21と重複し、 P-20より古い
P-23	土坑	-	43・44・A	不整形四角形	1.36	0.94	1.08	0.68	0.64	-	土器片、 磨曜石製片	

Ⅲ章 調査の方法

1. 発掘調査の方法

(1) 発掘区の設定 (図Ⅲ-1 表Ⅲ-1)

発掘区の設定は、基線を平面直角座標第XⅢ系(世界測地系)に一致させた4mグリッドを設定した。設定に使用した基図は鋼路開発建設部作成の「平成25年度一般国道44号根室市根室防雪詳細設計業務平面図(縮尺1:1000)」である。遺跡はXⅢ系の座標原点より南東側の区画(第2象限)に位置するので、Xの座標値にはマイナスが付く。方位記号の天は方眼北(座標北)を表す。また、世界測地系座標値は平成15年十勝沖地震後の改定に対応している。

南北方向の基線は座標系のX軸と平行する線のうち、Y軸の93,780を通る線をアルファベット大文字の「Aライン」と呼称した。Aラインの東側と西側には、同ラインと平行する線を4mおきに引き、ライン名は東側に昇順し、大文字の「Zライン」の次は小文字の「aライン」とし、東側に昇順した。西側のライン名はアルファベットを二つ重ねて呼称し、西に向かって「AA、BB、CC…」とした。Aラインより東側にはB～gラインが、西側にはAA～EEラインがある。東西方向の基線は座標系のY軸と平行する線のうち、X軸の-81,820を通る線で、算用数字の「0ライン」と呼称した。0ラインの南側には、同ラインと平行する線を4mおきに引き、ライン名は、南側に昇順する。0ラインより南側には1～41ラインがある。

グリッド名はその北西隅で直交する2本のライン名を用い、アルファベットと数字を組み合わせて表す。例えばN21区とは、Nラインと21ラインの交点より南東側の区画を示す。

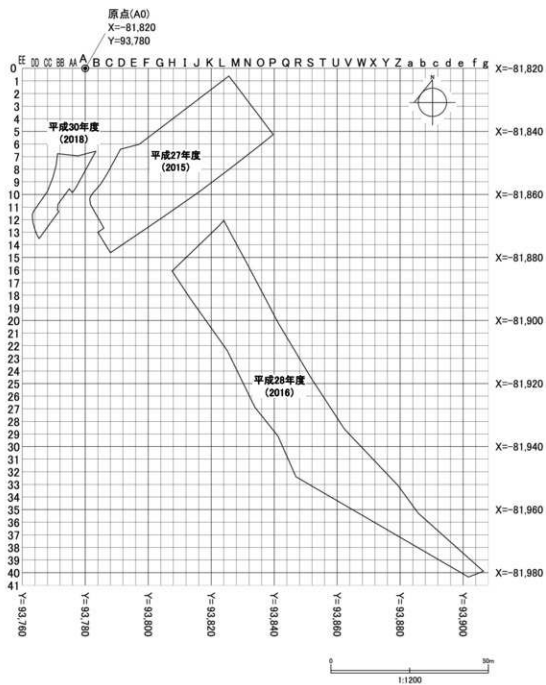
現地での方眼杭打設等は年度ごとに測量業者に委託し、調査区傍に設置されている鋼路開発建設部設置の1級基準点「I18-82」、3級基準点「I18-87」を与点とした仮設4級基準点を設置し、調査区範囲杭、方眼杭等を打設した。仮設4級基準点の設置と方眼杭打設にはトータルステーションを使用した。水準測量は上記の1級基準点「I18-82」の標高をオートレベルで往復観測し、仮設4級基準点等に取り付けた。

表Ⅲ-1 基準点成果一覧

年度	基準点名	級	座標系	X(m)	Y(m)	H(m)	種類	備考
2015・2016・2018	I18-82	1	XⅢ	-81875.496	93778.667	5.894	金属標	仮設のため 調査終了後に撤去
	I18-87	3	XⅢ	-81948.491	93581.345	3.617	金属標	
2015	T1	4	XⅢ	-81826.288	93840.745	12.043	木杭	
2016	T1	4	XⅢ	-81908.931	93860.893	10.297	木杭	
2016	T2	4	XⅢ	-81944.725	93889.356	12.619	木杭	
2018	T401	4	XⅢ	-81847.187	93780.899	5.844	木杭	

(2) 基本層序 (図Ⅲ-2 表Ⅲ-2)

基本層序は、周辺の遺跡で過去に当センターが発掘調査を行った徳香整穴群などの基本層序を基に、必要に応じて一部改変した。各層の観察は「土壌調査ハンドブック」(ベドロジスト懇談会 1984)・「標準土色帖」(小山・竹原 1967)を参考に必要な項目を設けた。内容は以下の記述と表Ⅲ-2にまとめた。



図Ⅲ-1 グリッド設定図

【Ⅰ層：地表土】

現地表の黒色土で、笹根を多く含む。調査時には主に重機で掘削した。

【Ⅱ層：黒褐色土層】

黒褐色のシルト質壤土～埴壤土で、部分的に灰白色の火山灰を少量含む。周辺の遺跡では同様の火山灰が、1739年の樽前a降下火山灰（T a - a）ないし1694年の駒ヶ岳c 2火山灰（K o - c 2）に比定されており、本遺跡のものもT a - aないしK o - c 2の可能性が高い。

【Ⅲ層：黒色土層】

黒～黒褐色のシルト質壤土～埴壤土である。遺物包含層で、今回の調査では、縄文時代前期～晩期および統縄文時代の遺物などを確認した。また、Ⅲ層上面で確認した遺構の覆土もしくは掘上土と考えられる土層は便宜的に「ⅢM層」と呼称した。

【Ⅳ層：摩周テフラ層（Ma - f ~ j）】

約7,500～8,000年前（縄文時代早期の時期）に降下した摩周カルデラの噴出物から構成される層である。大きく4層（Ma - f ~ j）に分けられる（表Ⅲ-2参照）。これらに含まれる軽石（バミス）について、本文中では「摩周バミス」、遺構図の土層注記では「Maバミス」と表記している。

【Ⅴ層：黒色土層】

黒～黒褐色の壤土～埴壤土である。縄文時代早期の遺物が少量出土した。遺構は確認していない。

【Ⅵ層：漸移層】

上位の黒色土層と下位のⅦ層の間にあり、色調等の漸移的な変化がみられる。場所によってはほとんどみられない地点もあった。

【Ⅶ層：黄褐色ローム層】

黄褐色を呈するロームで、粘着性が強い埴壤土である。本遺跡の「地山」と判断する。

土層断面は、A地区（平成27年度調査）南東側と、B地区北西側部分を図示した。A地区とB地区の基本土層は概ね共通しており、大きな違いはみられない。

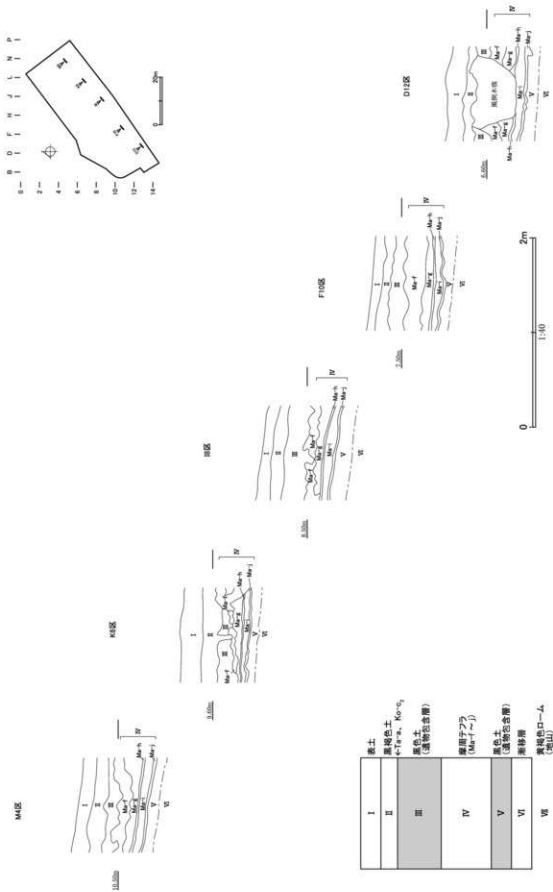
（3）調査の方法

発掘調査の方法はA地区・B地区では共通する。最初に重機により表土（Ⅰ層）を掘削し、掘削した表土は調査区付近の工事用地内（A地区）、借地（B地区）に一時的に仮置きした。仮置きした表土は整形してブルーシートで覆い、土砂の飛散、流失を防止した。表土除去後に方眼杭を打設し、その後に、人力でスコップ・鋤等により調査区の整形及び全体清掃を行った。

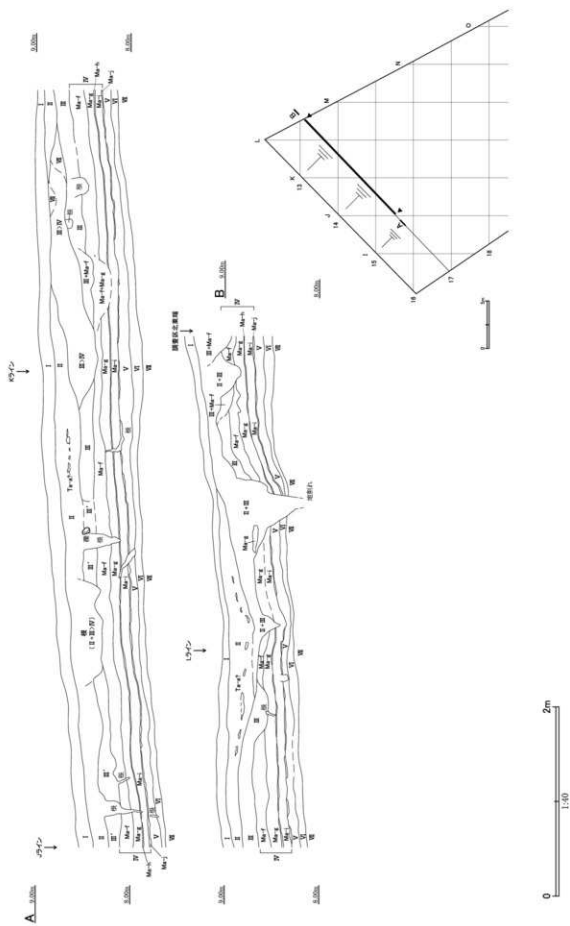
包含層調査は、4×4mの発掘区単位で行い、遺物の出土状況や土層の変化に注意しながら、移植ごて、ねじり鎌、スコップ等で掘り下げた。出土した遺物は、出土状況を確認した後、発掘区・出土層位・遺物の種類（土器・石器・礫・その他）ごとにまとめ、出土位置と日付を記入したポリ袋に入れて取り上げた。掘り下げはⅡ・Ⅲ層では移植ごて等を使い、Ⅳ層上面で遺構確認を行った。A地区は、遺構がなければスコップでⅣ層を掘り下げた。その後、Ⅴ層の掘り下げを行い、最終的に地山であるⅦ層上面まで複数回掘り下げた。B地区はⅢ層上面で、遺構の覆土や掘り上げ土と予想される、摩周バミスが混ざる暗褐色～黒褐色土の分布がみられたため、これらの人為的な土層を「ⅢM層」と呼称し、発掘区単位で遺物の取り上げ等を行った。多くは遺構の覆土であり、遺構として確認できた場合は、その後は各遺構出土の遺物として取り上げた。また、B地区ではⅦ層に達する遺構が多く、期間等の都合もあったため、遺構のない発掘区について、適宜Ⅶ層まで掘り下げたが、遺物はごく少

表Ⅲ-2 基本層序

層名	名称	層厚(cm)	層界	野外土性	色調 マンセル表色系	粘着性	堅密度	備考
I層	現地表土	平均：10～20	判然	壤土	黒～黒褐色 10YR1.7/1他	中～強	軟～堅	草木の根多量含む
II層	黒褐色土層	平均：10～30	明瞭～判然	シルト質壤土 ～腐壤土	黒褐色 10YR3/2～2/2	中	軟～堅	II層中 灰白色火山灰層 「Tr-a」1739年、「Tr-e2」1694年
III層	黒～黒褐色土層	平均：10～20	判然	シルト質壤土 ～腐壤土	黒色 10YR2/1他	中	堅	摩周パミス(径2～4mm)を2～5%含む III層中 黄褐色火山灰「Tr-c」(約2900年前)
IV層	摩周テフラ層	平均：40	画然	全体的に暗褐色(10YR3/3)～褐色(7.5YR4/6)の色調 詳細は火山噴出物層参照				摩周カルデラ起源の降下テフラ層、 約7500～8000年前前[Ma-f～j]
V層	黒～黒褐色土層	平均：5～10	明瞭	壤土 ～腐壤土	黒～黒褐色 10YR2/1～2/2	中	軟～堅	
VI層	漸移層	平均：10	明瞭	シルト質壤土 ～腐壤土	暗褐色 10YR3/4	中	軟～堅	
VII層	黄褐色ローム層	—	—	結壤土	にふい黄褐～褐色 (10YR4/3～4/6)	中	軟～堅	
摩周子フラ(IV層)	層名	層厚(cm)	層界	野外土性	色調 マンセル表色系	粘着性	堅密度	備考
	Ma-f	平均：20	画然	壤土	褐色 10YR4/4～4/6	弱～中	軟～堅	火山灰～礫(径～2mm)
	Ma-g	平均：10	画然	砂土	黄褐～明黄褐色 10YR5.6～6/8	なし	軟～堅	火山礫(径1～3mm)
	Ma-h	平均：1～2	画然	砂土	暗褐～明灰黄色 10YR3/3～2.5Y4/2	なし	堅	火山灰～礫(径1～2mm)
	Ma-i	平均：10	画然	砂土	明褐～明黄褐色 7.5YR5.8～10YR6/8	なし	軟～堅	火山灰～礫(径1～5mm)
	Ma-j	平均：1	画然	壤土～砂壤土	黄褐～褐色 10YR4/4他	弱	軟～堅	砂質
		平均：1	画然	シルト質壤土	暗灰黄～灰色 2.5Y4/2～5Y4/1	弱～なし	堅	砂質・含水



図III-2 A地区調査区土層図



図III-3 B地区調査区土層図

量で、遺構は確認できなかったため、V層の調査は全体の約1/4を掘り下げて終了とした。最終的にはIV層上面ないしⅦ層上面まで掘り下げ後精査し、遺構が確認されない場合その発掘区の調査を終了とした。

遺構調査は、確認したものについて適宜行った。竪穴住居跡はトレンチ等で確認後、原則的に十字状のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。床面を検出後、土層断面の写真撮影、図化を行い、ベルトを掘り下げた。覆土中から形状を保った炭化材が出土した場合、竹筥等で覆土を除去し、出土状況の写真撮影、図化を行った。床面検出後、焼土・柱穴等の付属施設を調査し、下位に掘り方等がある場合は、最終的に掘り方で掘り下げ、必要な記録作成を行い調査終了とした。土坑は確認後、大型の場合は竪穴住居跡同様、必要に応じてベルトを設定し、坑底まで掘り下げた。小型の場合は全体の概ね半分を掘り下げた。その後土層断面の写真撮影・図化を行い、ベルトもしくは残った覆土を掘り下げて、坑底を確認し、平面図等の必要な記録を作成した。焼土は小トレンチを入れて土層断面が入った全体を撮影し、土層図・平面図を作成した。土器片のまとまりや礫集中等は竹筥や箸・串等を用いて個々の遺物の輪郭をはっきりさせ、出土状況の写真を撮影した。一部写真測量を行ったものもある。図化は遺物の範囲を記録した場合と、個々の遺物の出土状況を図化した場合がある。

遺物は、層ごとにまとめて取り上げたが、竪穴住居跡の礫集中や床面出土のものなどは、必要に応じて出土位置や出土状況を記録した。竪穴住居跡の炉跡焼土等については微細遺物の回収を目的として、必要に応じて土壌をビニール袋(36×50cm)に取り上げ、水洗選別を行うこととした。

遺構等の記録は主に手実測で行い、遺構の平面図・断面図、調査区の土層図等を基本的に20分の1で作成した。断面図の基線はオートレベルを用いて切りの良い標高に水系を張った。調査終了面(Ⅶ層)の地形はオートレベルを用いて2mごとに観測した。

現地調査で使用したカメラは、6×7cm判のフィルムカメラ(マミヤ RZ67PRO II<フィルムは富士フィルムのNEOPAN ACROS100・FUJICHROME PROVIA100Fを使用>)、デジタル一眼レフカメラ(ニコンD5500)、コンパクトデジタルカメラ(リコーWG-5GPS)である。撮影は遺構の土層・完掘状況、遺物出土状況、調査状況、調査区全景等について行い、記録保存のため同一カットを同じ条件(シャッタースピード・露出)で2コマ撮影し、1セットとした。ブレ・ボケ等を防止するため、撮影の際は原則的に三脚・レリーズを用いた。撮影の際には、撮影日・被写体名・被写体のあるグリッドと層位・撮影方向・カットNo・撮影者を野帳に記入し、これをもとに後日写真台帳を作成した。

2. 整理作業の方法

(1) 整理作業の方法

図書類の整理作業は、まず、現地調査時に作成した遺構平面図、断面図等の「原図」は担当した調査員が点検、修正を行い浄書した「素図」を作成した。その後、修正した原図や素図をスキャナーで取り込みデジタルデータ化し、それを下図として、パソコン(OS: windows10)の描画ソフト(Adobe Illustrator CC)によりデジタルトレースを行った。また、土器・礫の出土状況図等で写真測量を行った遺構については、パソコン上で図化を行った。縮尺は、遺構図は原則40分の1とし、グリッド設定図等は任意の縮尺で作成した。遺跡周辺を含む縮尺の大きい地形図は主に国土地理院発行の数値地図5万分の1を使用し、加筆等を行い作成した。また、遺跡周辺の地形図等については、鋼路開発建設部から提供を受けた用地実測図(縮尺1,000分の1)等を使用し、加筆等を行い作成した。個々の地形図や遺構図の作成後に、上記のパソコン及びソフトで、報告書の版下を作成した。また、現地調

査時に撮影した遺構の写真については画像編集ソフト (Adobe Photoshop CC) とページレイアウトソフト (Adobe InDesign CC) を使用して版下を作成した。遺構平面図等の原因・素因、撮影した写真のフィルム及びデジタルデータは整理・収納し、報告書刊行後、最終的に当センターで保管している。

遺物の整理作業は、一次及び二次の二段階に大きく分かれる。一次整理作業は現地調査に併行して、主に現地の現場事務所で行った。作業内容は現地調査で取り上げた遺物の水洗、分類、カード・台帳作成、注記等である。現地作業終了後、遺物をプラスチック製の箱に収納し、江別のセンターへ搬送し、二次整理作業は江別市にあるセンターの整理作業場で行った。作業内容は、接合、復元、実測、写真撮影等である。

一次整理作業は、最初に出土遺物について、歯ブラシ等で水洗して土汚れを落とす水洗作業を行い、次に調査員が分類作業を行った。分類項目は土器であれば、時期 (「群」)・部位 (「口縁部」等)・残存状態 (「良好」・「小破片」等)、石器等であれば、器種 (「石鏃」等)、残存状態 (「完形」等)、石材 (「黒曜石」等) という項目ごとに分類した。出土地点や分類等は遺物カードに記入し、カードを基に遺物台帳に登録した。遺物台帳は最終的に、パソコンの表計算ソフト (Microsoft Excel 2010) で作成し、遺物の集計作業等を行った。その後、土器は、裏面に「遺跡名と地区名 (略号: ベAないしベB)」・出土地点 (遺構名・発掘区)・「取り上げ番号」・「層位」について白色のポスターカラーで注記を行い、注記部分には保護用のニスを塗った。注記内容の例は遺構 (ⅢH-1) の覆土出土の場合「ベA ⅢH-1・1 フク」となる (「フク」は覆土の略)。包含層出土の例ではB地区のN20区のⅢ層から出土した場合「ベB N20 Ⅲ」となる。ただし、注記は約2cm以下の小型の土器片や、器面が摩耗や剥離しているもの (残存状態「小破片」・「磨耗」・「剥離」) については原則的に行っていない。石器等についても必要に応じて、同様の注記を行った。礫集中や包含層出土の礫については、遺物カード作成後に廃棄したものもある。また、土坑や焼土等で剥片・砕片、骨片、炭化物等の微細遺物の採取を目的として土壌ごと取り上げてポリ袋に入れたものについては、1mmメッシュのフルイによる水洗選別法で微細遺物を回収し、他の遺物同様、分類、カード記入、台帳登録作業を行った。

二次整理作業では、土器については最初に接合作業を行った。まず遺構出土の土器片を優先し、次に包含層出土のものを発掘区単位で広げた。接合作業の結果、全体の形状を把握できる個体の中から、部位や接合状況を勘案して、53個体 (A地区12個体、B地区41個体) について復元し、実測した。その他の接合した土器片は原則的に全て接着剤で固定し、補強が必要なものは樹脂を充填した。次に復元土器以外のものから、部位や文様等が特徴的な土器を報告書掲載用に抽出しA地区出土の土器154点 (内遺構出土25点)、B地区出土の土器123点 (内遺構出土69点) について、拓影図の作成及び断面図の実測を行った。石器は、点数の多いⅢ層出土について接合作業を行った。次に器種ごとに報告書掲載用の石器を抽出し、A地区出土の石器85点 (内遺構出土41点)、B地区出土の石器319点 (内遺構出土220点) について実測を行った。土器、石器共にⅡ・Ⅲ層出土が多く、接合、実測した遺物の多くは縄文時代中期～晩期の土器・石器である。また、A・B地区出土の鉄製品10点は最初に実測・トレース、写真撮影を行い、その後8点について保存処理を行った。

遺物の実測及びトレースは手作業で行ったが、B地区の石器等はデジタルトレースを行った。実測、トレース終了後、センター内の写場で報告書掲載用の写真撮影を行い、写真については画像編集ソフト (Adobe Photoshop CC) を使用して版下を作成した。

それらと併行して、報告書掲載用の遺物台帳を基に出土遺物の点数表、発掘区ごとの遺物点数分布図、掲載遺物一覧等の表等を作成した。整理作業終了後は遺物の収納作業を行った。大きく掲載遺物と非掲載遺物に分け、復元土器は段ボール、それ以外の遺物はプラスチック製の箱に収納し、収納

台帳を作成した。最終的にこれらの遺物は根室市教育委員会が保管する。

(2) 遺物の分類

・土器等

I群 縄文時代早期に属する土器群

a類：貝殻腹縁文・条痕文・沈線文のある土器群。テンネル式・浦幌式などに相当するもの。

b類：撚糸文・絡糸体圧痕文・短縄文などが施される土器群。

東銅路式系土器群（東銅路Ⅱ式・東銅路Ⅲ式・コッタロ式・中茶路式・東銅路Ⅳ式）

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

a類：縄文尖底土器・押型文尖底土器など。網文式・朱円式・温根沼式などに相当するもの。

b類：刺突文土器・押型文平底土器など。網走式・シュブノツナイ式などに相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

a類：刺突文土器・押し文土器・押型文平底土器など。常呂川河口押し文Ⅰ群、智東式等に相当するもの。

b類：モコト式・北筒Ⅱ式の古段階に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

a類：北筒Ⅱ式の新段階、北筒Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式などに相当するもの。

b類：手稲式・鯉調式・エリモB式などに相当するもの。

c類：堂林式・御殿山式・栗沢式などに相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群

a類：大洞B・BC式に併行するもの。

b類：大洞C1・C2式、幣舞式などに相当するもの。

c類：大洞A・A'式、緑ヶ岡式などに相当するもの。

Ⅵ群 統縄文時代に属するもの

Ⅶ群 擦文文化期に属するもの

また、土製品として焼成粘土塊がある

※今回出土した北筒式土器は、北筒Ⅱ～Ⅴ式があるため、型式を細分できないものは「Ⅲ～Ⅳ群」と分類している。

残存状態分類基準（土器）

「良 好」：破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの

「剥 離」：破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落しているもの

「磨 耗」：破片が磨耗しているもの

「小破片」：大きさが長径2cm程度以下の小さな破片

・石器等

剥片石器では石鏃、石槍・ナイフ、両面調整石器、石錐、スクレイパー、二次加工・使用痕のある剥片（U・Rフレイク）、石核、剥片（砕片を含む）、原石がある。礫石器では磨製石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿、石錘、加工・使用痕ある礫がある。その他として礫がある。石製品では勾玉等がある。

・金属製品

鉄製品として鉄鋼、マレク、釘、板状鉄製品、棒状鉄製品、銅製品として、指貫、円盤状銅製品がある。

残存状態分類基準（石器等・金属製品）

「完形」：ほとんど欠損が無く、ほぼ全体が残っているもの

「準完形」：全体の3/4程度が残っているもの

「半形」：全体の1/2程度が残っているもの

「片」：全体の約1/2以上を欠損するもの

(広田)

IV章 A地区の遺構

1. 概要

A地区は別当賀川右岸の緩斜面、標高5～10mに立地し、遺構は斜面中位から低位にかけて分布している。A地区は平成27年度調査区(1,300㎡)と平成30年度調査区(195㎡)2か所に分かれ、後者では遺構を検出していない。遺構を検出した層位はⅡ・Ⅲ層で、Ⅱ層では土器片集中等の遺物集中が、Ⅲ層からは竪穴住居跡等が検出された。分布は調査区中央付近から南西側にかけてまばらにみられる。A地区で検出した遺構は、Ⅱ層では土器片集中1か所(ⅡPS-1)、骨片集中1か所(ⅡB-1)、Ⅲ層では竪穴住居跡3軒(ⅢH-1～3)、土坑4基(ⅢP-1～4)、焼土4か所(ⅢF-1～4)、礫集中1か所(ⅢS-1)である。時期は、Ⅱ層の遺構は縄文時代晩期～続縄文時代、Ⅲ層の遺構は縄文時代中期～後期ないしは縄文時代晩期と考えられる。

竪穴住居跡は全て縄文時代中期～後期の北筒式土器の時期と推定されるが、その内1軒(ⅢH-2)は焼失住居跡で、ほとんど掘り込みがない平地住居に類するものである。土坑の内1基(ⅢP-4)は副葬品を伴う縄文時代晩期の土坑墓である。

2. Ⅱ層の遺構 (図IV-2 表IV-5・7 カラー図版1、図版1・8)

(1) 土器片集中

ⅡPS-1 (図IV-2 カラー図版1、図版1・8)

位置 E10区 平面形態 不整楕円形

規模 0.86×0.60m

確認・調査 調査区南側E10区のⅣ層(摩周テフラ)上面で、Ⅱ層黒褐色土の広がりを確認し、その上位で土器片のまとまりを確認した。黒色土は南東から北西方向にかけてやや広範囲に広がっていた。土器に一部かかるように南北方向に向かって土層観察用のトレンチを設定し半截を行った。覆土は自然堆積で、Ⅱ層黒褐色土とⅢ層が主体であり、風倒木痕であると判断した。

遺物出土状況 土器は、Ⅱ層の落込みで口縁部から胴部にかけて一部確認できる状況であった。トレンチ調査の結果、検出面で見えていた口縁部から胴部に続くように、下位に向かって胴部片や底部も残存しており、約70cm掘り下げた最下位から残る口縁部も出土した。土器片は542点を数えた。その他、V群の土器片が4点出土した。

時期 出土した土器よりVI群の時期である。

(笠原)

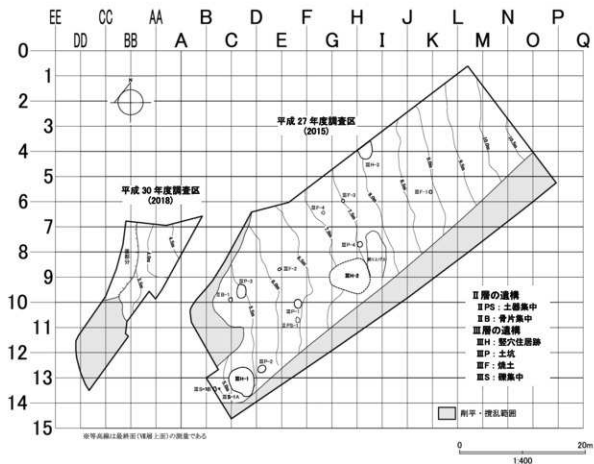
(2) 骨片集中

ⅡB-1 (図IV-2 図版1)

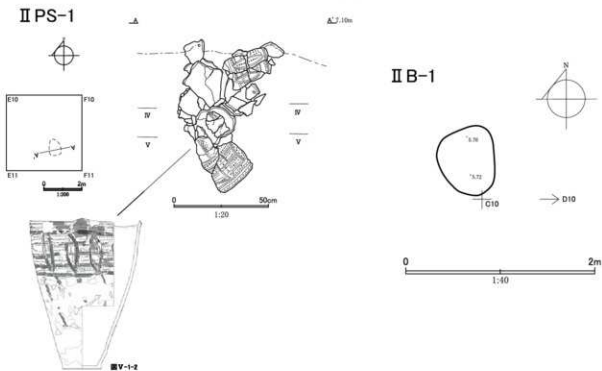
位置 B・C9区 平面形態 不整楕円形

規模 0.73×0.62m

確認・調査 B9区のⅡ層調査中に細かい骨片を検出した。周辺を精査したところ骨片の広がりを確認したため、遺構と判断した。細かい骨片が多いため土壌ごと取り上げ、水洗選別で微細な骨片を回収した。北東側約0.8mにⅢP-3が位置する。



図Ⅳ-1 A地区遺構位置図



図Ⅳ-2 II PS-1、II B-1

遺物出土状況 遺物は獣骨片のほかに土器・石器等が166点（うち水洗選別97点）出土し、内訳はV群土器104点（うち水洗選別50点）、二次加工・使用痕のある剥片1点、剥片58点（うち水洗選別47点）、礫3点である。

時期 出土土器より縄文時代晩期後葉と考えられる。

（広田）

3. III層の遺構（図IV-3~10 表IV-1~15 カラー図版1、図版1~8）

（1）竪穴住居跡

ⅢH-1（図IV-3 カラー図版1 図版2・3）

位置 B・C12・13区 **平面形態** 不整楕円形

規模 4.82×4.00/4.41×2.63/0.63m

確認・調査 C13区の調査中、IV層上面で黒色土の広がりを確認した。周辺の精査を行ったところ、楕円形の黒色土のまとまりを検出したため、調査区壁沿いと黒色土の長軸方向の2か所にトレンチを設定し掘り下げた。その結果、床面と壁の立ち上がりを確認したため、竪穴住居跡と判断した。平面は不整楕円形で、南側がやや張り出す形状である。また、覆土中からは炭化物集束（HC-1）を確認した。炉跡と考えられる焼土（HF-1）が掘り方底面（構築面）より高い位置から検出しているため、一度掘った構築面を埋めて床面としてしていると判断した。また、HF-1付近で検出した炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、¹⁴C年代で3910±30であった（付篇1節参照）。

覆土 11層に分けた。土層は黒褐色で摩周バミスが混ざっている。4・6~11は掘り方を人為的に埋めた土と考えられる。その上位は自然堆積で覆土の上にはII層が厚く堆積している。

床面・壁 床面は掘り方を埋めて構築されている。掘り方の底面はやや凹凸がみられるが、床面は一部覆土との区別が不明瞭だがほぼ平坦と考えられる。壁は全体的に緩やかだが、東側は非常に緩やかな立ち上がりである。

付属遺構 焼土2か所（HF-1・2）、土坑1基（HP-1）柱穴・杭穴2基（HP-2・3）、炭化物集束1か所（HC-1）を検出した。HF-1は位置、形状等から炉跡焼土と考えられる。HF-2は覆土中の被熱の弱い焼土である。HP-1は床面南西側に位置する長径約1m、深さ0.16mのピットで性格は不明である。HP-2・3は東壁に構築されており、形状・規模が類似するもので柱穴と考えられる。深さは約40cmで、断面形状は下端に向かって細くなる。HC-1は覆土中で確認した炭化物集束中で、約0.6×0.6mの範囲から5cm前後の炭化物や少量の獣骨片が出土している。

遺物出土状況 遺物は687点出土した。床面からⅢ~Ⅳ群土器2点、剥片2点、礫1点が出土し、覆土からⅢ~Ⅳ群土器2点、V群土器315点、石鏃1点、両面調整石器1点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕のある剥片3点、剥片176点、石核1点、たたき石2点、すり石1点、砥石3点、加工・使用痕のある礫1点、礫101点が出土し、床下（構築面）覆土から剥片1点、礫7点が出土した。またHP-1の覆土から礫1点、住居跡の覆土で検出したHC-1から、炭化材、少量の骨片のほかⅢ~Ⅳ群土器1点、V群土器32点、スクレイパー2点、剥片25点、礫4点が出土した。

時期 床面出土遺物から、縄文時代中期後葉~後期前葉と考えられる。

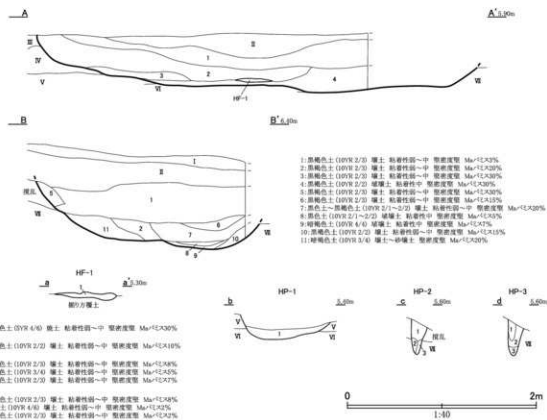
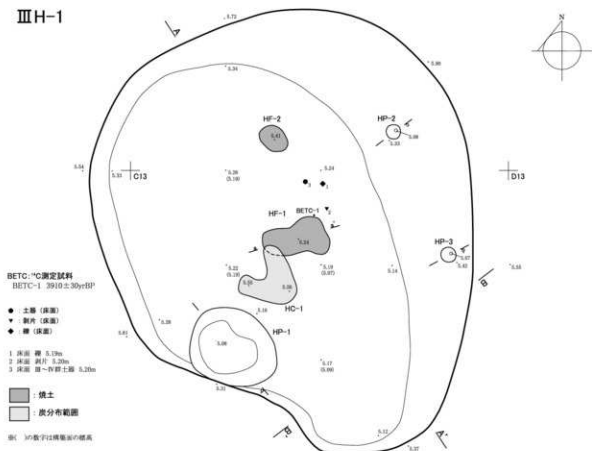
（広田）

ⅢH-2（図IV-4~6 図版4・5）

位置 F~H8・9区 **平面形態** 不整楕円形？

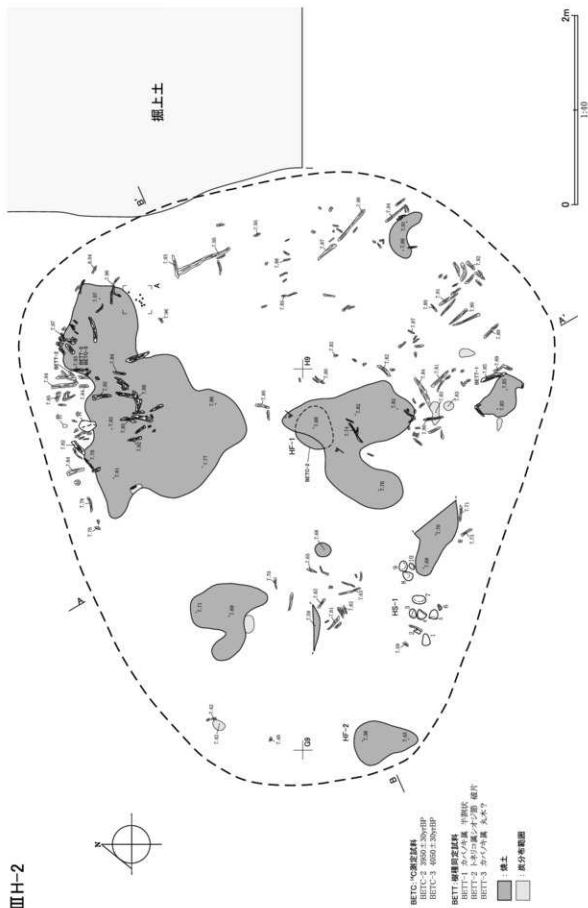
規模 6.46×5.64/-×-/ -m

III H-1



図IV-3 III H-1

ⅢH-2



図IV-4 ⅢH-2(1)

確認・調査 G 8 区Ⅲ層調査中に、焼土と細かい炭を検出したため、周辺の精査を行ったところ、広範囲で焼土及び炭化材のまとまりを検出した。分布範囲の中心を通るように十字状にトレンチを設定しⅣ層上面まで掘り下げたが、床面や壁の立ち上がりは不明瞭であった。焼土や炭化材の分布範囲が楕円形に近く、まとまっていたため焼土住居跡と判断した。掘り込みがわずかで平地住居跡に類するものである。平面形は不整楕円形と推測される。住居跡の東側では黒褐色～褐色土が分布し、これは本遺構の掘上土と判断した。HF-1と覆土中の出土の炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、¹⁴C年代で前者が $3,950 \pm 30$ 、後者が $4,050 \pm 30$ であった（付篇1節参照）。また、覆土から出土した炭化材3点について、カバノキ属とトネリコ属シオジ節と同定された（付篇3節参照）。

覆土・掘上土 覆土は7層に分けた。Ⅲ層中に薄く堆積し、摩周バミスと炭化物を含む土層が多い。1は東側付近に堆積しているが、Ⅲ層との区別が不明瞭である。2・5は焼土層である。掘上土は住居跡東側に位置する。南側を一部削平したが、規模は長軸約3.7m、短軸約1.6mで、深さは約0.4mである。黒色土とⅣ層が混ざった土層で、炭化物等はみられない。

床面・壁 床面は、東側はⅢ層下位～Ⅳ層上面、中央付近から西側はⅢ層中に構築されている。全体的に不明瞭で、焼土や炭化物混じりの覆土との比較や遺物出土状況等から判断した。覆土を掘り下げた状況では全体的に東から西へ緩く傾斜している。壁はほとんど検出できなかったが、東側の一部ではごく浅い立ち上がりを確認できた。

付属遺構 焼土2か所（HF-1・2）、礫集中1か所（HS-1）を検出し、柱穴等は確認していない。焼土2か所は床面で確認し、HF-1は位置、形状から炉跡焼土と考えられる。形状は不整の楕円形で、深さが14cmと厚く、細かい炭化物や骨片もみられた。HF-2は住居跡西端に位置し、HF-1同様に、炭化物・骨片がみられるが、位置からは炉跡焼土と判断するのが困難である。HS-1は住居跡南西側の覆土中で確認した礫集中で、長径10～20cm程度の円～重円礫14点で構成される。礫は砂岩が多く、被熱等により割れているものがみられる。

遺物出土状況 遺物は1,604点（うち水洗選別140点）出土した。北東側の覆土中から、石槍・ナイフ等の石器がまとまって出土した（図IV-5）。床面から剥片27点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器17点、Ⅴ群土器17点、石槍・ナイフ18点、石錐1点、スクレイパー5点、二次加工・使用痕のある剥片9点、剥片1,379点（うち水洗選別140点）、石核4点、磨製石斧2点、加工・使用痕のある礫1点、礫79点が出土し、掘上土からⅢ～Ⅳ群土器1点、石槍・ナイフ1点、剥片10点、礫1点が出土した。またHF-1から二次加工・使用痕のある剥片1点、剥片14点が出土している。

時期 出土遺物や遺構の形状等から、縄文時代中期後葉北筒Ⅱ式の時期と考えられる。（広田）

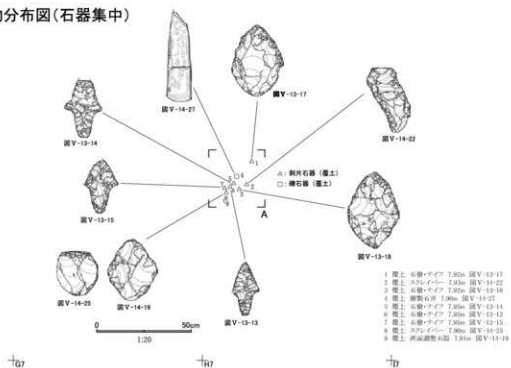
ⅢH-3（図IV-7 図版6）

位置 H 3・4区 **平面形態** 不整楕円形？

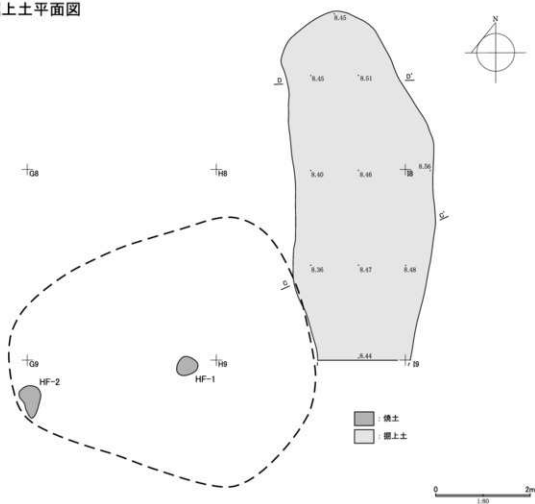
規模 2.71×2.49/2.17×1.70/0.78m

確認・調査 G・H 4 区のⅡ層を掘り下げたところ、Ⅲ層上面で大型のくぼみを確認した。遺構の可能性を考え、調査区壁際とくぼみの長軸方向にトレンチを設定し、掘り下げた結果、壁の立ち上がりや覆土中で焼土を確認したため堅穴住居跡と判断した。北側は調査区外に広がり、全体の約1/2の調査である。平面は不整楕円形と考えられ、やや歪んでいる。覆土中位で焼土（HF-2）と共に炭化物集中（HC-1）を確認したため、平面図作成等を行った後に掘り下げた。焼土と炭化物集中を検出した面は生活面と考えられ、構築面を埋めて床面を作っている可能性がある。HF-2出土の炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、¹⁴C年代で $3,950 \pm 30$ であった（付篇1節参照）。

ⅢH-2 遺物分布図(石器集中)

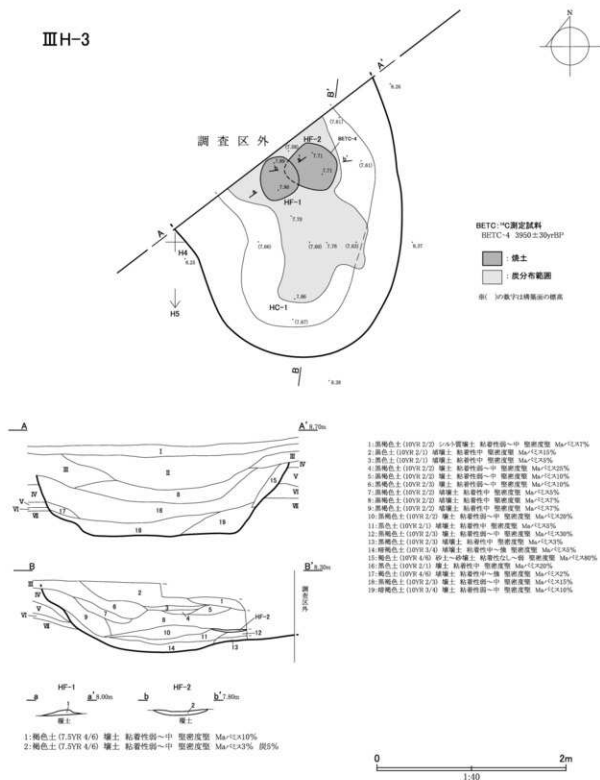


ⅢH-2 掘上土平面図



図Ⅳ-5 ⅢH-2(2)

III H-3



図IV-7 III H-3

覆土 19層に分けた。黒色～黒褐色で、黒色土、Ⅳ層、Ⅶ層が混ざる土層である。HF-2以下の土層(10～19)は掘り方を埋めた土の可能性がある。上位の土層(1～9)は自然堆積で上にはⅡ層が厚く堆積している。

床面・壁 最終的な掘り方底面は緩やかに湾曲する形状である。壁は全体的に緩やかに湾曲しながら立ち上がるが、部分的に凹凸がみられる。

付属遺構 焼土2か所(HF-1・2)、炭化物集中(HC-1)を検出した。焼土2か所は覆土中で検出した。HF-2は本遺構の炉跡焼土と考えられ、炭化物集中とはほぼ同一の面で検出している。炭化物集中は平面が不整形で、調査範囲内で確認した規模は長軸1.85m、短軸1.32mである。範囲内では約4cm以下の炭化物が多くみられた。掘り方を埋めて構築した床面に相当すると考えられる。

遺物出土状況 遺物は47点出土した。覆土からV群土器1点、石槍・ナイフ1点、スクレイパー2点、剥片18点、磨製石斧1点、礫23点が出土し、HF-1から剥片1点が出土した。

時期 周辺包含層出土遺物の時期等より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

(2) 土坑

ⅢP-1 (図Ⅳ-8 図版6)

位置 E9・10区 **平面形態** 楕円形

規模 1.45×1.30/1.19×1.05/0.36m

確認・調査 調査区南西側E9・10区のⅢ層上面で、南北を長軸とした楕円形の黒色土の落込みを確認した。南側を半載した結果、Ⅳ層(摩周テフラ)を掘り込んだ土坑であることを確認した。

覆土 覆土は埋戻しと考えられる。上位の覆土2層中には灰白色のテフラが混じる。

底面・壁 底面はⅣ層中で、底面には凹凸がある。壁は東側がやや急角度で立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺から出土した遺物等より、縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

ⅢP-2 (図Ⅳ-8 図版7)

位置 D12区 **平面形態** 楕円形

規模 1.38×1.14/1.18×0.92/0.27m

確認・調査 D12区でⅣ層上面を精査中に、黒褐色土の楕円形のまとまりを確認した。長軸方向にトレンチを設定し掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。中央付近の覆土下位では細かい炭化物の分布がみられた。南西側約1mにⅢH-1が位置する。

覆土 5層に分けた。自然堆積で黒色土とⅣ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面から壁にかけて連続的に緩やかに湾曲する。

遺物出土状況 遺物は覆土から礫1点が出土した。

時期 周辺包含層出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉もしくは晩期後葉と考えられる。

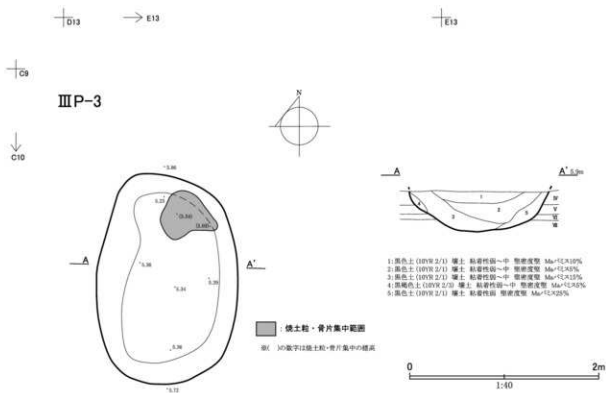
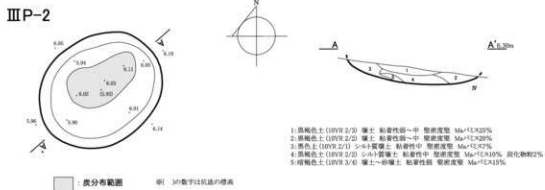
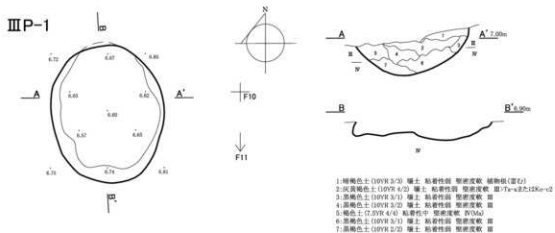
(広田)

ⅢP-3 (図Ⅳ-8 図版7)

位置 C9区 **平面形態** 不整楕円形

規模 2.24×1.50/1.80×1.06/0.44m

確認・調査 C9区でⅣ層上面を精査中に、黒褐色土の楕円形のまとまりを確認した。短軸方向にト



図IV-8 III P-1～3

レンチを設定し掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。北側の覆土中で焼土粒と細かい骨片の分布を確認した。南西側約1mにⅡB-1が位置する。

覆土 5層に分けた。自然堆積で黒色土が主体でⅣ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面から壁にかけて連続的に緩やかに湾曲する。

遺物出土状況 遺物は覆土から42点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器1点、Ⅴ群土器10点、剥片9点、たたく石1点、すり石1点、砥石1点、礫19点が出土した。

時期 覆土出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉もしくは晩期後葉と考えられる。(広田)

ⅢP-4 (図Ⅳ-9 カラー図版1、図版7)

位置 H7区 **平面形態** 円形

規模 0.88×0.86/0.87×0.84/0.64m

確認・調査 調査区のほぼ中央、H7区のⅢ層中で円形の黒色土の広がりを確認した。南側を半載した結果、ほぼ垂直に落ち込む壁面と、坑底付近では暗赤色を呈した赤色顔料の混じる黒色土を確認した。坑底面で検出した炭化物の放射性炭素年代測定を行い、¹⁴C年代で2510±30という測定値を得た(付篇1参照)。

覆土 覆土は、Ⅲ層黒色土とⅣ層摩周テフラがブロック状に混じる人為的な埋戻しによる堆積である。覆土9・10層は特に軟質で、暗赤色の赤色顔料が混じる。坑底の西側では、被葬者の一部と考えられる灰白色を呈した樹状の骨片を確認した。骨片は環状に残存する事から頭部であると推定される。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は113点出土した。覆土1層上位から石斧が1点、同下位からⅤ群c類の舟形土器が1個体出土した。また、覆土10層の坑底からは石鏃が1点、スクレイパー8点、二次加工・使用痕のある剥片12点、剥片が27点出土した。この他にも、覆土中から剥片等が出土している。坑底で採取した骨片、歯冠等は乾燥状態で約0.25gである。

時期 出土した遺物等から縄文時代晩期後葉緑ヶ岡式期と考えられる。(笠原)

(3) 焼土

ⅢF-1 (図Ⅳ-9 図版8)

位置 J5区 **平面形態** 楕円形

規模 0.60×0.43/0.10m

確認・調査 標高約9.4mのⅢ層中で、赤色の焼土を検出した。長軸方向で半載を行い、土層を確認した。北側がやや厚い堆積で、下位には摩周テフラが混じる。

遺物出土状況 土器や石器等は出土していない。

時期 周辺から出土した遺物等より縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

ⅢF-2 (図Ⅳ-9 図版8)

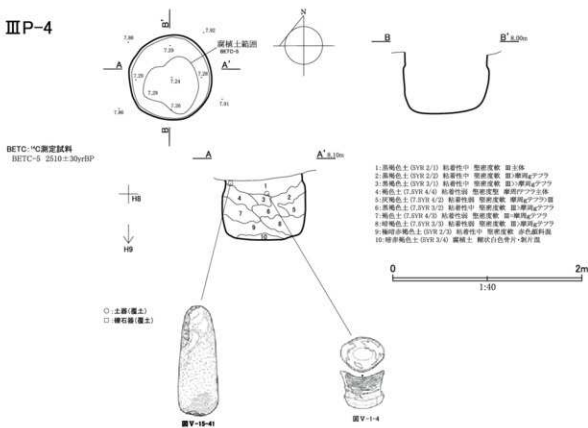
位置 D8区 **平面形態** 楕円形

規模 0.57×0.43/0.08m

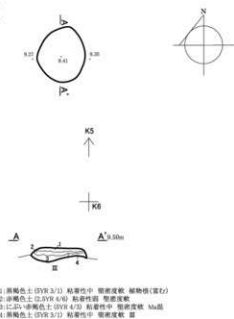
確認・調査 標高約6.6mのⅢ層中で、赤色の焼土を検出した。長軸方向で半載を行い、土層を確認した。断面の形態は薄い凸レンズ状である。

遺物出土状況 土器や石器等は出土していない。

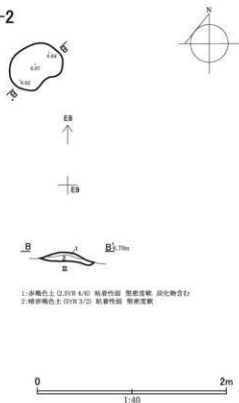
ⅢP-4



ⅢF-1



ⅢF-2



ⅢP-4、ⅢF-1・2

時期 周辺から出土した遺物等より縄文時代晩期後葉が考えられる。(笠原)

Ⅲ F-3 (図Ⅳ-10 図版8)

位置 G5・6区 平面形態 楕円形

規模 0.60×0.50/0.20m

確認・調査 標高約8mのⅢ層下位で、赤色の焼土を検出した。長軸方向で半截を行い、土層を確認した。断面の形態は厚いレンズ状を呈する。

遺物出土状況 焼土上層から黒曜石の剥片が89点出土した。

時期 周辺から出土した遺物等より縄文時代晩期後葉が考えられる。(笠原)

Ⅲ F-4 (図Ⅳ-10 図版8)

位置 G5区 平面形態 不整形円形

規模 0.50×0.50/0.10m

確認・調査 標高約8.1mのⅢ層下位で、赤色の焼土を検出した。東西方向で半截を行い、土層を確認した。断面の形態は薄いレンズ状を呈する。

遺物出土状況 焼土上層から黒曜石製剥片が171点出土した。

時期 周辺から出土した遺物等より縄文時代晩期後葉が考えられる。(笠原)

(4) 礫集中

Ⅲ S-1 (図Ⅳ-10 図版8)

位置 B13区 平面形態 [A] 不整形 [B] 不整形楕円形

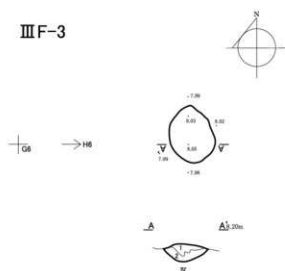
規模 [A] 0.31×0.30m [B] 0.74×0.54m

確認・調査 B13区のⅢ層調査中に礫の集中を検出したため、遺構と判断した。集中は2か所(A・B)あり、小型(A)は約0.3m×0.3m、大型(B)は約0.7m×0.5mの範囲で分布していた。

遺物出土状況 ⅢS-1Aの遺物は誤って廃棄してしまったため、点数等は不明である。ⅢS-1Bの遺物は砂岩の礫92点のほか、V群土器1点が出土した。礫は全て破片である。

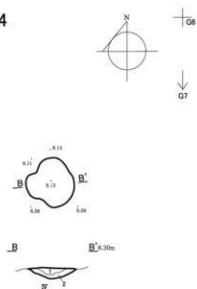
時期 周辺出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉もしくは晩期後葉と考えられる。(広田)

III F-3



1:赤褐色土 (SVR 3/4) 粘着性弱 堅硬度軟 黒曜石製削片盛
土:赤褐色土 (SVR 2/2) 粘着性弱 堅硬度軟 砂・黄土

III F-4



1:赤褐色土 (SVR 4/4) 粘着性なし 堅硬度堅 黒曜石製削片盛
2:褐色土 (T.2) 粘着性なし 堅硬度弱 IV(Ma)・黄土



G13

III S-1



図N-10 III F-3・4、III S-1

表M-1 A地区堅穴住居跡一覧

遺構名	国	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				行風遺構				主な出土遺物		備考	
					確認面		床面		最大深	種類	記号	番号	床面	行風		覆土
					長径	短径	長径	短径								
遺目-1	IV-3	カウ-1 2・3	B・C 12・ 13C	不整楕円形	4.82	4.00	4.41	0.63	雑土 土灰・柱穴 炭化物集中	11F 11P 11C	1-2 1-3	割片	割片	割片	遺目Ⅳ, V群土器, 石鏡, スクレイバー, たたき石, 磨石, 砥石	構造物を埋めて床面を作る
遺目-2	IV-4+6	4・5	F・G 8・ 9K	不整楕円形?	6.36	5.64	-	-	雑土 炭化物集中	11F 11S	1-2	割片	割片	割片	遺目Ⅳ, V群土器, 石鏡・ナイフ, 石鏡, スクレイバー, 磨製石斧	掘り込みがほとんど確認できない(柱穴は確認)
遺目-3	IV-7	6	H・I 4K	不整楕円形?	2.71	2.49	2.17	1.70	雑土 炭化物集中	11F 11C	1-2	割片	割片	割片	V群土器, 石鏡・ナイフ, スクレイバー, 磨製石斧	掘削区も広がっている

表M-2 A地区堅穴住居跡付属遺構一覧

遺構名	行風遺構名	種類	国	図版	形態・色調など	グリッド	規模 (m)				主な出土遺物	備考		
							確認面		床面				最大深	
							長径	短径	長径	短径				
遺目-1	11F-1	伊勢雑土	IV-3	3・3	不整楕円形	赤褐色	C12K	0.70	0.42	-	-	0.10	-	-
	11F-2	瀬土中雑土	IV-3	-	楕円形	明褐色	C12K	0.23	0.25	-	-	-	-	掘り込みの土層面なし
	11F-1	ヒコウ	IV-3	-	楕円形	-	C12K	0.96	0.82	0.47	0.42	0.10	-	礎
	11F-2	柱穴	IV-3	-	円形	-	C12K	0.16	0.16	0.03	0.03	0.30	-	-
	11F-3	柱穴	IV-3	3-4	円形	-	C12K	0.18	0.16	0.03	0.03	0.30	-	-
遺目-1	H C-1	炭化物集中	IV-3	3・1・2	不整形	-	C12K	0.62	0.59	-	-	-	-	遺目Ⅳ, V群土器, スクレイバー, 割片
遺目-2	11F-1	伊勢雑土	IV-4+6	4・5	不整楕円形	明褐色	G8・9K	0.47	0.40	-	-	0.14	-	E・F・アイク, 割片
	11F-2	雑土	IV-4+6	-	不整楕円形	明褐色	F・G8K	0.68	0.46	-	-	0.10	-	礎
	11S-1	礎集中	IV-4	3・4	不整楕円形	-	G5K	0.93	0.50	-	-	-	-	-
遺目-2	層上土	層上土	IV-5+6	-	不整楕円形?	-	H-1 7-8K	(3.69)	1.64	-	-	0.30	-	遺目Ⅳ群土器, 石鏡・ナイフ, 割片
	11F-1	雑土	IV-7	6・5	不整楕円形	褐色	H2K	0.40	0.42	-	-	0.06	-	割片
	11F-2	雑土	IV-7	6・6	不整楕円形	褐色	H2K	0.53	0.49	-	-	0.06	-	割片
遺目-3	H C-1	炭化物集中	IV-7	-	不整形	-	H2K	(4.83)	1.32	-	-	-	-	生活面の可能性あり

表M-3 A地区土坑一覧

遺構名	国	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				主な出土遺物			備考	
					確認面		床面		最大深	土器	石器等		その他
					長径	短径	長径	短径					
遺目-1	IV-8	6・7・8	E9・10K	楕円形	1.43	1.30	1.19	1.05	0.36	-	-	-	-
遺目-2	IV-8	7・1-3	B12K	楕円形	1.38	1.14	1.18	0.92	0.27	-	礎	-	層上中に炭化物のまとまり (D, 25×0.46m)あり
遺目-3	IV-8	7・4	C9K	不整楕円形	2.24	1.50	1.80	1.06	0.44	遺目Ⅳ群, V群	たたき石, すり石, 砥石	骨片	層上中に雑土層・骨片集中 (D, 25×0.46m)あり
遺目-4	IV-9	カウ-1+4 2・5-8	約穴	円形	0.88	0.86	0.87	0.84	0.64	遺目Ⅳ群, V群	石鏡, スクレイバー, 磨製石斧	骨片	坑底から骨片等出土, 土坑蓋と考えられる

表M-4 A地区焼土一覧

遺構名	国	図版	グリッド	確認層位	平面形態	焼土色調		規模 (m)			主な出土遺物	備考
						色名	マンセル表色系	長径	短径	最大深		
						長径	短径					
遺目-1	IV-9	8-1	J5K	遺層	楕円形	赤褐色	2.3YR 4/6	0.60	0.43	0.16	-	-
遺目-2	IV-9	8-2	D6K	遺層	楕円形	赤褐色	2.5YR 4/6	0.57	0.43	0.08	-	-
遺目-3	IV-10	8-3	G5・6K	遺層	楕円形	緑赤褐色	5YR 3/6	0.60	0.50	0.20	割片	-
遺目-4	IV-10	8-4	G3K	遺層	楕円形	赤褐色	5YR 4/6	0.50	0.50	0.10	割片	-

表M-5 A地区土器片集中一覧

遺構名	国	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)		主な出土遺物	備考
					長径	短径		
遺目-1	IV-2	カウ-1+3 1-3, 4+5	E10区	遺層	0.86	0.64	VI群土器	遺層中の風刺木版から出土

表M-6 A地区礫集中一覧

遺構名/柱番号	国	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規模 (m)		主な出土遺物	備考	
						長径	短径			
遺目-1	A	IV-10	9-6	B12K	遺層	不整形	0.31	0.30	礎	掘って遺物を発見したため点数不明
遺目-1	B	IV-10	9-6	B13K	遺層	不整楕円形	0.74	0.54	V群土器, 礎	遺目Ⅲに隣接する

表M-7 A地区骨片集中一覧

遺構名	国	図版	グリッド	確認層位	平面形態	規模 (m)		主な出土遺物	備考
						長径	短径		
遺目-1	IV-2	1-4	B・C9K	遺層	不整楕円形	0.73	0.62	骨片, V群土器, E・F・アイク	遺目Ⅲに隣接する

表M-8 A地区竪穴住居跡出土土器点数表

遺構名	遺物種別/部位	残存状況	図中-1				図中-2			図中-3		合計	
			床面	覆土	行風遺構	小計	床面	覆土	小計	床面	小計		
Ⅲ～Ⅳ期	口縁部	片打					6		6			6	
		割縁										0	
		小破片										0	
	胴部	片打	2	1	1	4	4	1	5			9	
		割縁					5		5			5	
		小破片	1		1	2			2			3	
	底部	片打	2	2	1	5	9	1	10			15	
		割縁					2		2			2	
		小破片										0	
	Ⅲ～Ⅳ期合計			2	2	1	5	17	1	18	0	0	23
	Ⅴ期	口縁部	片打		9	4	13	1		1			14
			割縁										0
小破片							3		3			3	
胴部		片打	12	4	16	1	1	1	1			17	
		割縁	228	21	249	9	9	1	1	1	1	259	
		小破片	12	3	15							15	
底部		片打	3		2				2			5	
		割縁	53	3	56	5	5		5			61	
		小破片	295	27	322	14	14	1	1	1	1	337	
Ⅴ期合計			0	315	32	347	17	0	17	1	1	365	
総計			2	317	33	352	34	1	35	1	1	388	

表M-9 A地区竪穴住居跡出土土器等点数表

遺構名	遺物種別/部位	残存状況	図中-1				図中-2			図中-3		合計			
			床面	覆土(注)	行風遺構	小計	床面	覆土	行風遺構	小計	床面		覆土(注)	行風遺構	小計
割片・石割片	石罫	京形		1		1							1		
		唐京形											0		
		片											0		
	小計	京形	1		1								1		
		唐京形					5		5				5		
		片					4		4				4		
	石輪・ナイフ	京形					5	1	6	1	1	1	7		
		唐京形					1		1				1		
		片					15	1	19	1	1	1	20		
	石罫	京形											0		
		唐京形					1		1				1		
		片											0		
	片面調整石	京形	1		1								2		
		唐京形											0		
		片					2		2				2		
	小計	京形	1		1		3		3				6		
		唐京形	2		2		5		5	1	1	1	8		
		片					1		1				1		
	スタレイバー	京形		1	1								2		
		唐京形											0		
		片					1		1				1		
	小計	京形	3	2	5		5		5	2	2	2	12		
		唐京形	3		3					1	1	1	4		
		片	1		1		4		4				4		
二重加工・表面加工割片	京形											0			
	唐京形											0			
	片	2	176	23	203	27	1239	10	14	1290	18	1	1512		
石製品	京形											0			
	唐京形											0			
	片											0			
割片石罫等合計			2	196	27	215	27	1279	11	15	1332	21	1	22	1567
礫石群	磨製石片	京形											1		
		唐京形					1		1	1	1	1	1		
		片					1		1				1		
	小計	京形											0		
		唐京形	1		1		2		2	1	1	1	3		
		片											0		
	たたき石	京形											1		
		唐京形					1		1				0		
		片					1		1				0		
	小計	京形					2		2				1		
		唐京形	1		1		1		1				1		
		片					3		3				0		
砥石	京形					2		2				2			
	唐京形					2		2				2			
	片											0			
礫石群等合計			0	5	0	5	0	2	0	0	2	1	0	1	8
礎	加工・軟弱のある礎												2		
	京形	1	12	13		3		2	5	3	3	3	21		
	片		296	5	101	26	1	12	89	20	20	211			
小計	京形	1	108	5	114	29	1	14	95	23	23	233			
	唐京形											0			
	片	1	109	5	115	0	80	2	14	96	23	0	23		
礎合計			2	300	32	335	27	1361	12	20	1429	45	1	46	1810

表M-10 A地区土坑出土土器点数表

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		合計
種	部位	残存状態	破損	小計	破損	小計	合計	
Ⅱ～Ⅳ群	瓶部	良好	1	1				1
		割離						0
		摩耗						0
		小破片				1	1	1
		小計	1	1	1	1	1	2
Ⅱ～Ⅳ群合計								
Ⅴ群	口縁部	良好	1	1				1
		割離						0
		摩耗						0
		小破片	1	1				1
		小計	2	2				2
	瓶部	良好	9	9				9
		割離			1	1	1	1
		摩耗						0
		小破片	25	25				25
		小計	9	9	26	26	26	35
	瓶部	良好			21	21	21	21
		割離						0
		摩耗						0
		小破片			21	21	21	21
		小計			21	21	21	21
Ⅴ群合計		10	10	52	52	52	63	
総計		11	11	56	56	56	69	

表M-11 A地区土坑出土石器点数表

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		合計	
種	部位	残存状態	破損	小計	破損	小計	合計		
割片石群	石錘	残存状態						1	
		摩耗						0	
		小破片						0	
		小計						1	
		小計						1	
	スクレイパー	完形			3	3	3	3	
		摩耗			3	3	3	3	
		片			1	1	1	1	
		小計			7	7	7	7	
		小計			12	12	12	14	
	水石	完形			5	5	5	5	
		片			27	27	27	29	
	割片石群合計		0	0	9	9	48	64	
	礫石群	磨製石片	完形						1
			摩耗						0
片								0	
小計								1	
小計					1	1	1	1	
たたき石		完形						0	
		摩耗						0	
		片						0	
		小計						0	
		小計			1	1	1	1	
すり石		完形						1	
		摩耗						0	
		片						0	
		小計			1	1	1	1	
		小計			1	1	1	1	
砥石	完形						0		
	摩耗						0		
	片						1		
	小計						1		
	小計			1	1	1	1		
礫石群合計		0	0	3	3	0	1		
礫	完形						0		
	片	1	1	19	19	19	20		
	小計	1	1	19	19	19	20		
礫合計		1	1	19	19	0	0		
総計		1	1	31	31	48	67		

表M-12 A地区土器片集中・骨片集中・礫集中出土土器点数表

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		合計
種	部位	残存状態	破損	小計	破損	小計	合計	
Ⅴ群	口縁部	良好	1	1				1
		割離						0
		摩耗						0
		小破片	1	1				1
		小計	2	2				2
	瓶部	良好	3	3	21	21	21	31
		割離			3	3	3	3
		摩耗						0
		小破片	20	20	20	20	20	20
		小計	3	3	54	54	54	57
Ⅴ群合計		4	4	54	54	0	0	
Ⅵ群	口縁部	良好	9	9				9
		割離						0
		摩耗						0
		小破片	9	9				9
		小計	1	111	112			1
	瓶部	良好	90	90				90
		割離						0
		摩耗						0
		小破片	320	320				320
		小計	1	521	522	1	1	1
瓶部	良好	11	11				11	
	割離						0	
	摩耗						0	
	小破片	11	11				11	
	小計	1	541	542	0	0	1	
Ⅵ群合計		1	541	542	0	0	1	
総計		1	545	546	0	0	600	

表M-13 A地区骨片集中・礫集中出土石器点数表

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		合計
種	部位	残存状態	破損	小計	小計	
割片石群	骨片	一次加工	1	1		1
		使用痕ある割片				
割片石群合計		1	1	0	0	
礫	砥石	完形	3	3	92	95
		片	3	3	92	95
		小計	3	3	92	95
礫合計		3	3	92	95	
総計		1	1	92	107	

表M-14 A地区遺構出土土器点数表(水洗選別)

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		合計	
種	部位	残存状態	破損	小計	小計		
Ⅴ群	瓶部	良好	2	2			2
		割離					0
		摩耗					0
		小破片	47	47			47
		小計	49	49			49
合計		50	50	0	0		

表M-15 A地区遺構出土石器点数表(水洗選別)

遺構名		Ⅱ		Ⅲ		合計
種	部位	破損	小計	破損	小計	
割片石群	割片	140	140	47	47	187
		合計	140	140	47	47

V章 A地区出土の遺物

1. 概要

A地区の出土点数は、水選洗別を除いて土器が8,919点、石器等が7,218点、鉄製品が15点で、合計点数は16,152点である。その内、遺構出土は土器1,058点、石器等2,004点で、合計点数3,062点、包含層出土は土器7,861点、石器等5,214点、鉄製品15点で、合計点数は13,090点である。層別では、Ⅱ層で土器5,378点、石器等2,710点、Ⅲ層では土器1,710点、石器等1,953点と多く、Ⅴ層は土器28点、石器等124点と少ない。

土器は縄文時代早期・中期後葉～後期前葉、晩期、統縄文時代、権文文化期のものが出土しており、その中で縄文時代晩期の土器が8,046点（90.2%）と最も多く、次いでⅥ群564点、Ⅲ～Ⅳ群262点、Ⅲ群31点、Ⅶ群17点、Ⅰ群1点である。Ⅲ、Ⅲ～Ⅳ群はどちらも北筒式土器で、型式を細別できないものはⅢ～Ⅳ群とした。包含層の土器は、摩周テフラより上位のⅠ～Ⅲ層等からは主に縄文時代中期～権文文化期の土器が出土し、Ⅱ層出土が5,378点（68.4%）と多く、Ⅲ層1,710点（21.8%）である。摩周テフラより下位のⅤ層からはⅠ群土器1点と、混入と考えられるⅢ～Ⅳ群やⅤ群土器が少量出土している。土器の分布は調査区中央付近から西側に多い傾向がみられ、特にC-C～Gラインの間の点数が多い。

石器等は石鍬、石槍・ナイフ、スクレイパー等の剥片石器や磨製石斧、たたき石、砥石等の礫石器や礫が出土している。今回の調査で出土した定形的な石器の出土点数は、スクレイパーが142点と最も多く、次いで石槍・ナイフ66点、石鍬が61点、砥石43点となっている。石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、チャート、頁岩等が少量みられる。ⅢP-4出土の黒曜石製石器6点について産地推定分析を行い、上土幌4点、所山1点、白滝1点と判定された（付篇2節参照）。礫石器では砂岩が最も多く、他に泥岩等が少量ある。石器の分布は、土器同様調査区中央付近からやや西側にかけて多い傾向がある。鉄製品は、15点出土しているが、Ⅰ層出土がほとんどで、時期は不明なものが多い。また、Ⅰ層から、昭和16～20年頃の政府により生産が統制された「統制陶器」1個体が出土しており、写真のみ掲載した（図版87-63）。戦時中遺跡周辺に居住していた人のものと考えられる。

2. 土器

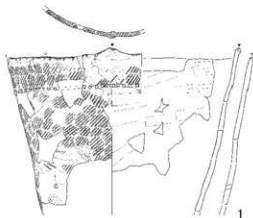
(1) 遺構出土の土器（図V-1～3）

遺構から出土した土器の点数は1,058点である。遺構の出土層別は、覆土が多く、床面や杭底からの出土はごく少量である。分類別ではⅤ群（晩期）が多く、Ⅲ～Ⅳ群（中期から後期）が少量ある。また、ⅡPS-1からはⅦ群（統縄文土器）が1個体分出土している。

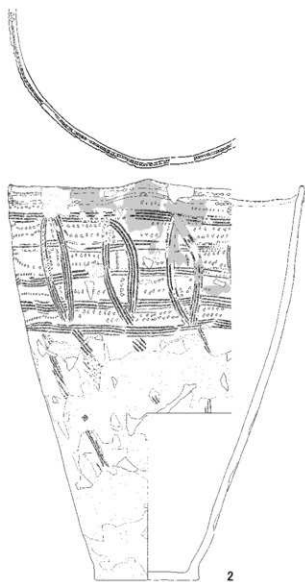
ⅡB-1（図V-1・2）

ⅠはⅡB-1とB・C9区のⅡ・Ⅲ層出土のものが接合した復元土器である。Ⅴ群c類土器の深鉢で、底部を欠失する。胴部から口縁部にかけて直線的に広がり、口縁部には低い山形の突起がみられ、口縁部上端には縄端圧痕が施される。口縁部下位には刺突文が施された段がある。5はⅤ群c類の舟形土器の口縁部で横位の綾絡文が施される。外面にわずかに赤彩の痕跡がみられる。

ⅡB-1



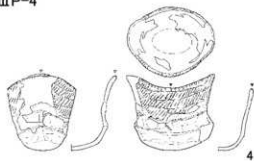
ⅡPS-1



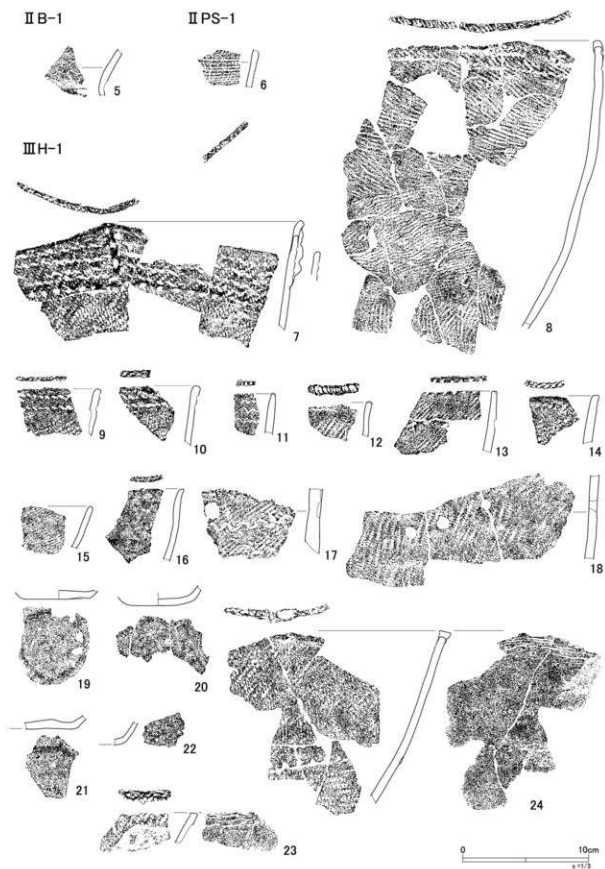
ⅢH-2



ⅢP-4



図V-1 A地区遺構出土の土器(1)



図V-2 A地区遺構出土の土器(2)

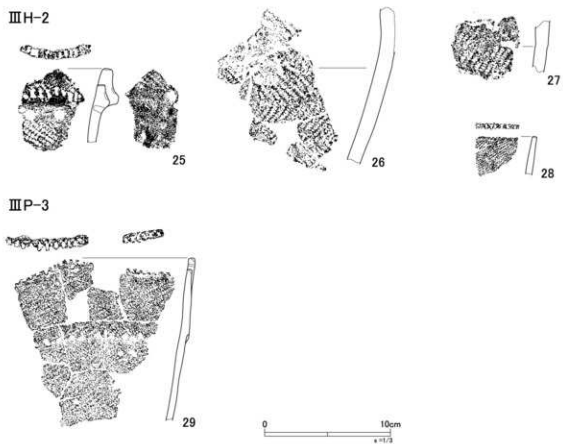


図 V-3 A地区遺構出土の土器(3)

ⅡP-1 (図V-1・2)

2は風倒木のⅡ層等から出土したほぼ完形のⅥ群土器である。口径35cm、高さ約48cmの大型で胴下半部は器面の剥離が多い。緩い波状口縁で口縁沿いに横位の隆起帯がみられ、口縁部から胴部にかけて横位、縦位の帯縄文が施される。帯縄文間の縄文が施されない部分には刺突文が連続的に施される。6はⅤ群c類の舟形土器の口縁部で横位の縄線文が狭い間隔で密に施される。

ⅢH-1 (図V-2)

7~24は覆土出土の破片土器で、包含層出土と接合するものもある。17以外は全てⅤ群c類土器である。7~16は深鉢の口縁部である。7~10は横位の縄線文が施されるもので口唇部にも縄文が施される。7は緩い波状口縁で波頂部には押圧の施された棒状突起が付けられる。口縁部下位には段があり、縄端疋文が施される。8~10は横位の縄線文が2条施される。8は低い山形突起がみられ、胴部中位には無節の縄文が施される。11は口唇部に縄端疋文、口縁部には波状の沈線文が施される。12~15は口縁部に縄文のみ施されるものである。16は無文である。17はⅢ群b類~Ⅳ群a類の胴部で円形刺突文、刻み、綾絡文等が施される。18はⅤ群c類の胴部で、補修孔が4か所みられる。19~22は深鉢の底部である。底面は19・21がほぼ平坦で、20・22はやや丸みを帯びる。23・24は浅鉢の口縁部である。内面には口縁部に沿って波状の沈線が描かれる。

ⅢH-2 (図V-1・3)

3・25~27は覆土出土のⅢ群b類~Ⅳ群a類土器である。3は復元土器で、底部を欠失する。口径約14cmと小型で、幅の狭い肥厚帯が巡り、肥厚帯直下には円形刺突文が施される。外面は全体的に器面の細かい剥離がみられる。25~27は破片土器で、25は口縁部で、山形突起があり肥厚帯には押し引文が施される。26・27は胴部で26は羽状に縄文が施される。28はⅤ群c類土器の口縁部で、舟形土器と考えられる。口唇部に刻みが加えられ、外面には一部赤彩がみられる。

ⅢP-3 (図V-3)

29は覆土出土とC9区Ⅲ層出土が接合した。Ⅴ群c類土器の深鉢で口縁部下位には段がある。また、波状口縁の波頂部には小型の孔がみられる。

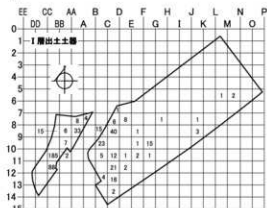
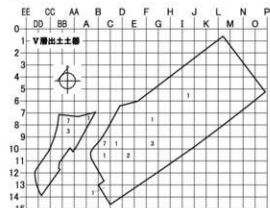
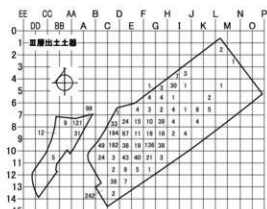
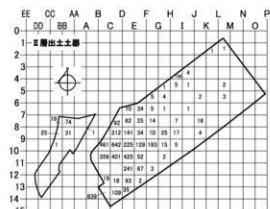
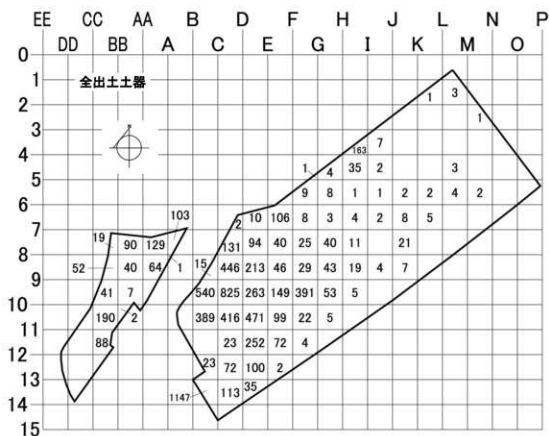
ⅢP-4 (図V-1)

4は覆土上位から出土した小型の舟形土器である。部分的に欠失するが、全体の形状を復元できた。器形は正面から見ると丸底で、底部から胴部にかけて屈曲し口縁部にかけて広がっていく。口唇部には縄疋文がみられ、口縁部はL R斜縄文が施され、刻み、横位の沈線文が加えられる。胴部と底部の境には段がある。外面には一部に赤彩がみられる。

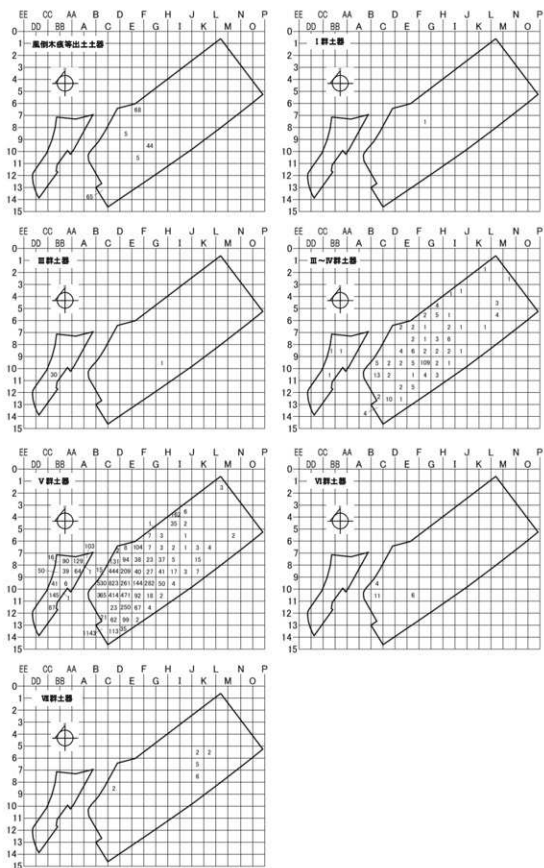
(2) 包含層出土の土器 (図V-4~12)

包含層出土の土器の時期は、縄文時代早期(I群)、中期(Ⅲ群)、中期~後期(Ⅲ~Ⅳ群)、晩期(Ⅴ群)、統縄文時代(Ⅵ群)、捲文文化期(Ⅶ群)がある。土器の総点数は7,861点で、時期別の内訳はⅤ群が7,556点と最も多く、他はⅢ~Ⅳ群237点、Ⅲ群31点、Ⅵ群18点、Ⅶ群17点、I群1点、不明1点である。層別別ではⅡ層が5,378点と全体の68%を占め、次いでⅢ層1,710点で、Ⅴ層出土は28点であるが、その内I群土器1点以外は混入と考えられる。土器全体の分布は調査区中央付近から西側が多く、東側に向かって漸減していく。地形は北東側から南西側に向かって別当賀川に至る緩やかな斜面になっており、川に近づくにつれ土器の出土点数が増えている。この傾向は晩期(Ⅴ群)でみられ、中期~後期はB~Iラインの間の遺構が分布する範囲に全体的に薄く分布する。

1~9は復元土器で、10~138は破片土器である。10はI群土器で、今回のA地区の調査で唯一の



图V-4 A地区包含层出土土器点数分布图(1)



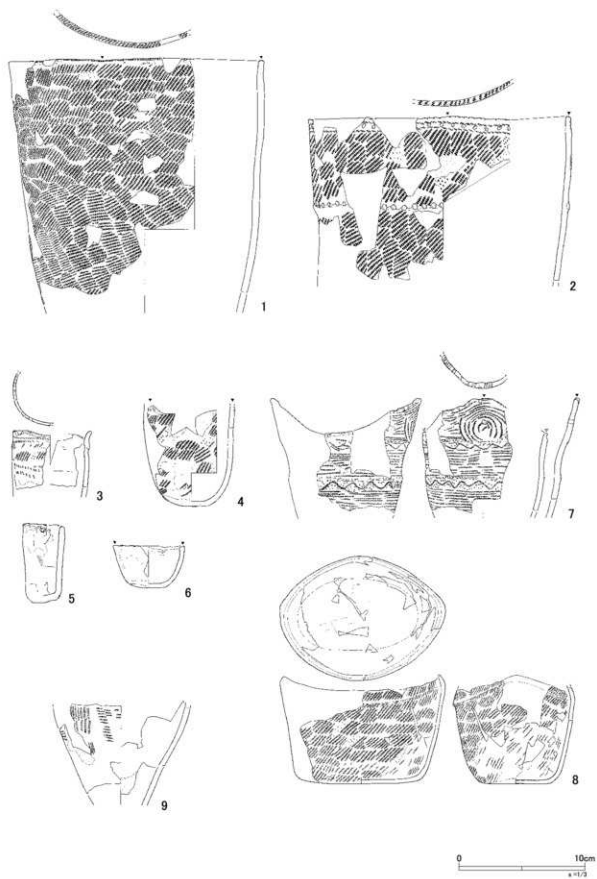
図V-5 A地区包含層出土土器点数分布図(2)

ものでV層出土である。深鉢の胴部で、内面の一部と外面に縄文が施される。内面には穿孔がみられるが、貫通していない。東銅路Ⅱ式と考えられる。

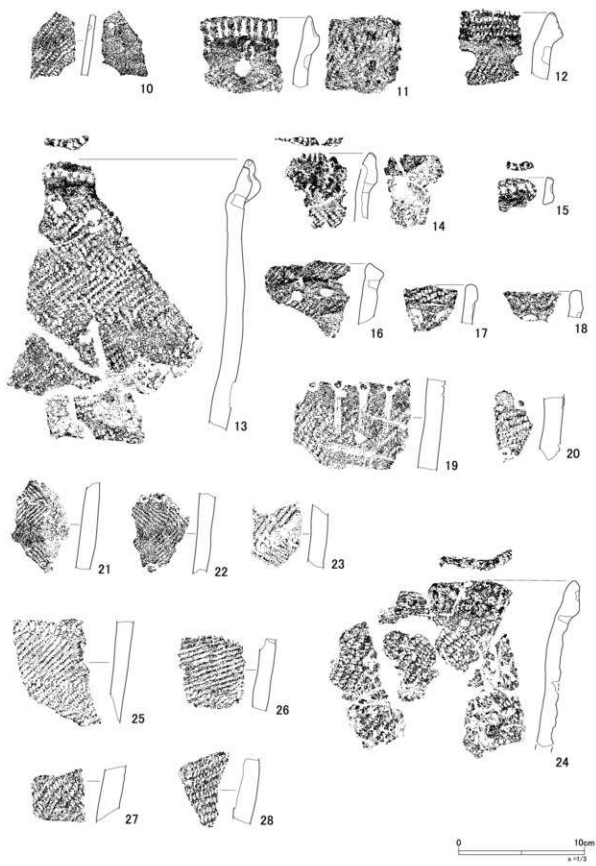
11～28はⅢ群b類～Ⅳ群a類土器で北筒Ⅱ～Ⅲ式である。11～18・24は口縁部で全て肥厚帯が巡り、15以外は肥厚帯直下に円形刺突文が施される。11～16・24は肥厚帯の断面形が三角形状である。11・13・15は肥厚帯に押し文が施され、12・14・15・24は胎土に繊維が含まれる。12は肥厚帯に刺突文が施される。13は山形突起が付けられ、突起下の肥厚帯部分は分厚くなる。16は肥厚帯に縄文が施され、円形刺突文はやや深い。17・18は肥厚帯の断面形が四角形状で、肥厚帯には縄文が施される。19・20は口縁部付近の破片で、地文の縄文がない無文帯に円形刺突文が施される。19は円形刺突文から下位に溝状の沈線が伸びる。20は円形刺突文が上下2段に施される。21～23・25～28は胴部である。21～23は地文の縄文が羽状に施されるもので21・22は綾絡文がみられる。23は結束羽状縄文が施される。25～28は斜行縄文が施されるものである。

1～8、29～136はⅤ群c類土器で緑ヶ岡式である。1～8は復元土器である。1～5は深鉢で、1・2は底部を欠失し、器形は胴部から口縁部にほぼ垂直に立ち上がる。1の文様は地文の縄文のみ施される。2は口縁部と胴部の間に段がみられ、段には浅い刺突文が施される。また口縁上端には、横位の縄線文が2条施され、その間には刺突文が施される。3～5は小型のものである。3は底部を欠失し、口縁～胴部にかけて横位の縄線文と縄文が施される。4は口縁部を欠くもので、上端に小さな刺突文が施される。5はほぼ完形の手づくね土器で、細長い器形で底部はやや丸く不安定である。6は浅鉢で無文である。7・8は舟形土器である。7は全体の1/3程度の残存状況で、底部は欠失する。細い縄線文により、円形、波状、直線等の文様が作られている。また、屈曲部には小型の刺突文が施される。8は口縁部を欠くもので屈曲部に段がある。文様は地文の縄文のみである。

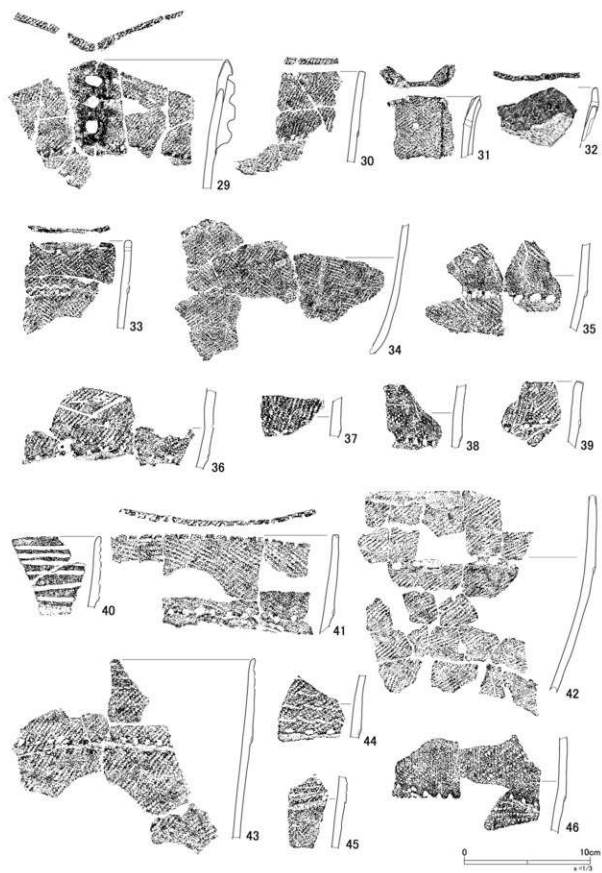
29～136は破片土器である。29～105は深鉢で、29～31は口縁部に棒状突起が付けられるものである。29・30は同一個体で、緩い波状口縁の頂部に押圧が加えられた棒状突起が施される。口縁部と胴部の間には段があり、段には縄線圧痕文が施される。31は細い棒状突起で、付近には孔がみられる。32は波状口縁で波長部の下位に焼成前の孔がみられる。33～51は口縁部と胴部の間に段があるものである。段には縄線圧痕文、刺突文等が施される。33～39は沈線文が施される。33・34は同一個体で、段のやや上に小型の山形沈線文が描かれる。35は曲線状の沈線文が縦位に施される。36～39は直線状の文様が施される。37～39は沈線文が細いものである。40は太い沈線文が横位に密に施される。41・42は同一個体で、口唇部に刻みが施され、段には縄線圧痕文が施される。43・45は横位の縄線文が施される。45はごく浅い沈線文もみられる。44は横位の綾絡文が、46は縦位の条痕文が施される。47～49は段に刺突文が施されるもので、47・48は段に細長い刺突文が、49は浅い刺突文が加えられる。50・51は小型の円形刺突文が施される。52～60は縄線文が施されるものである。横位の縄線文が口縁部上位に複数施される。55は縄線文の間に爪形状の刻みが連続的に施される。59は波状口縁である。60は縄線文の他に綾絡文が施される。61～69は沈線文が施されるものである。斜位、横位、縦位の沈線文の組み合わせにより様々な文様が描かれる。65は横位の沈線文の下位に小型の刺突文が施される。66は沈線文の上位に直線と波状の縄線文が施され、沈線文の内側には刺突文が加えられる。67は半截竹管状の工具で沈線文が施される。70～75は綾絡文が施されるものである。70は綾絡文の上位に縄線文が施される。76～80は刺突文が施されるもので、76～79は刺突文が複数段みられる。76・77は細長い刺突文が、80は円形の刺突文が施される。81・82は条痕文が施される。83～95は地文の縄文のみ施されるものである。83～93は口縁部、94・95は胴部である。地文の縄文はLR斜行縄文が多く、93のみRL斜行縄文である。96は無文である。97～105は深鉢の底部である。97～103



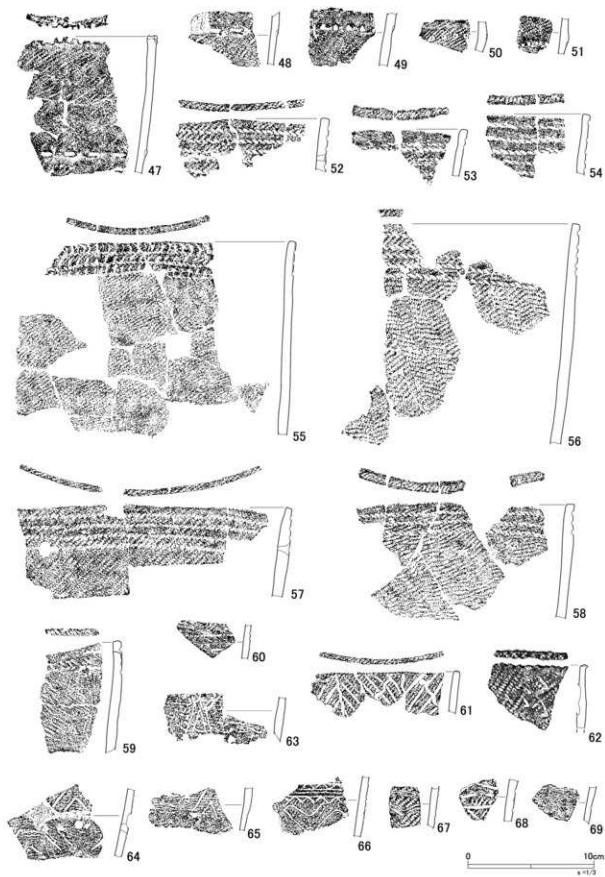
図V-6 A地区包含層出土の土器(1)



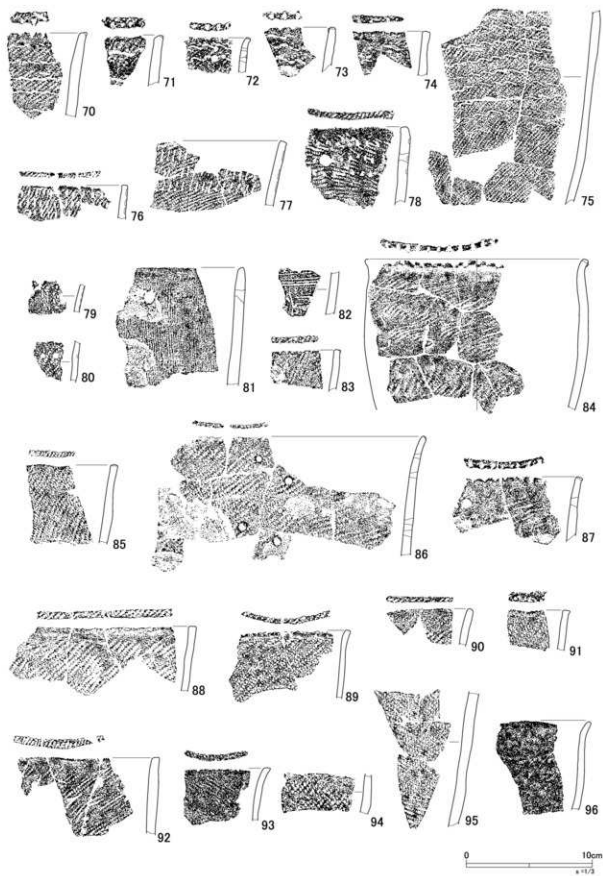
図V-7 A地区包含層出土の土器(2)



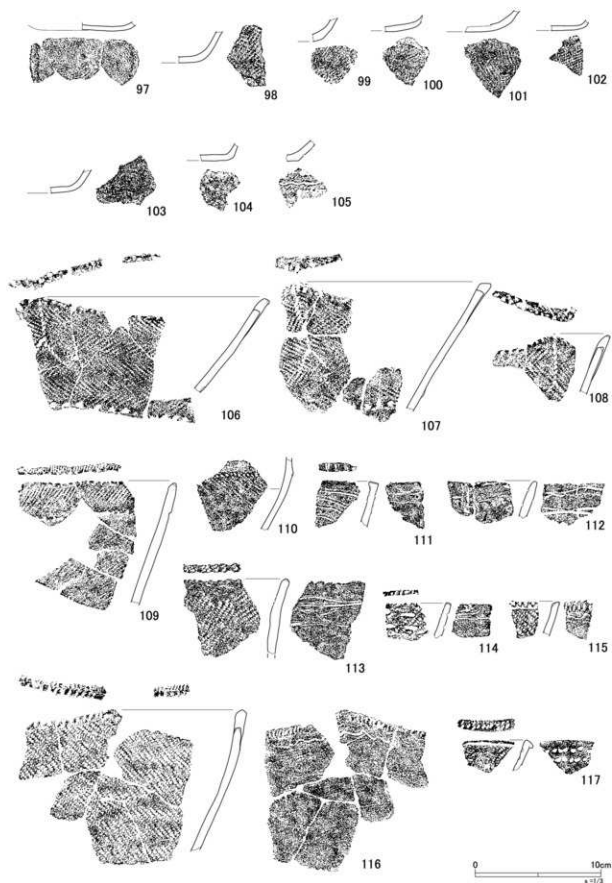
図V-8 A地区包含層出土の土器(3)



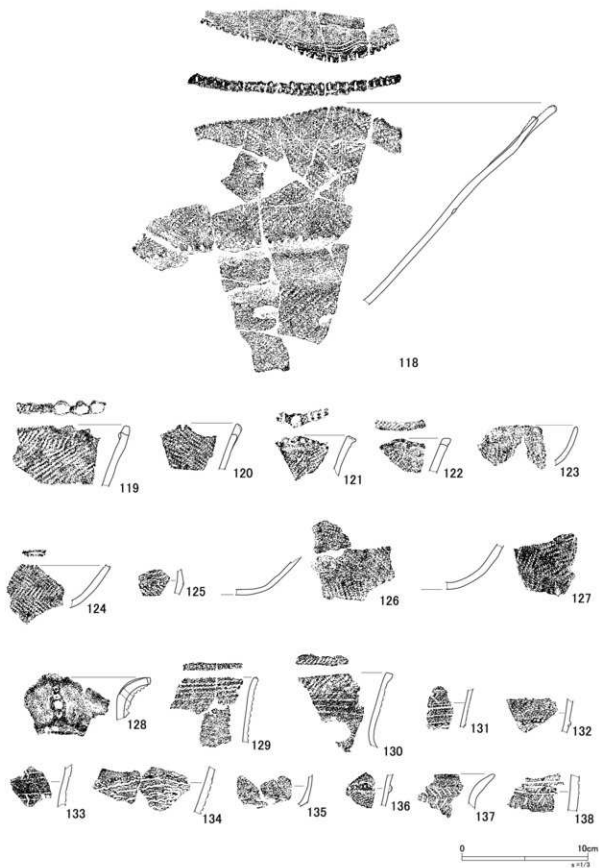
図V-9 A地区包含層出土の土器(4)



図V-10 A地区包含層出土の土器(5)



図V-11 A地区包含層出土の土器(6)



図V-12 A地区包含層出土の土器(7)

は底面に縄文が施されるもので、103～105は無文である。105の底面は無文で、底面付近の外面に縄文、沈線文が施される。106～127は浅鉢で、106～124は口縁部である。106～110は口縁部と胴部の間に段がみられる。106～108は同一個体で波状口縁の波頂部下位に縄線文が施される。109は段に縄端疋文、110は刺突文がみられる。111～116は内外面に沈線文が施されるものである。111・112・114は内外面に、113・115・116は内面のみ沈線文が施される。117は内面に刺突文が施される。118は外面に条痕文、内面に沈線が施される。119～122は波状口縁で、波頂部に刻みや押圧が加えられる。123は縄文のみのもので、124は口唇部に縄線文が施される。125は胴部で、縄線文、刺突文が施される。126・127は底部で、底面に126は縄文、127は絡条体疋文が施される。128～136は舟形土器である。128～130は口縁部で、128は山形突起の波頂部下に円形刺突文と孔が施される。129・130は横位の縄線文が密に施される。131～136は胴部で、131・132・135は段があり、刺突文や縄端疋文が施される。131は横位の縄線文、132は綾絡文、133は縄線文と沈線文、134は沈線文と刺突文、136は隆帯が施される。

9はⅥ群土器で、下田ノ沢式土器である。胴部で、縄文と縦位の縄線文が施される。

137・138はⅦ群土器（椀土器）である。今回の調査では少量の出土である。137・138は深鉢で、137は口縁部、138は胴部である。137は口縁部が大きく外反する器形で、沈線文が矢羽状に施される。138は横位と斜位の沈線文が施される。

3. 石器等

(1) 遺構出土の石器等 (図Ⅴ-13～15)

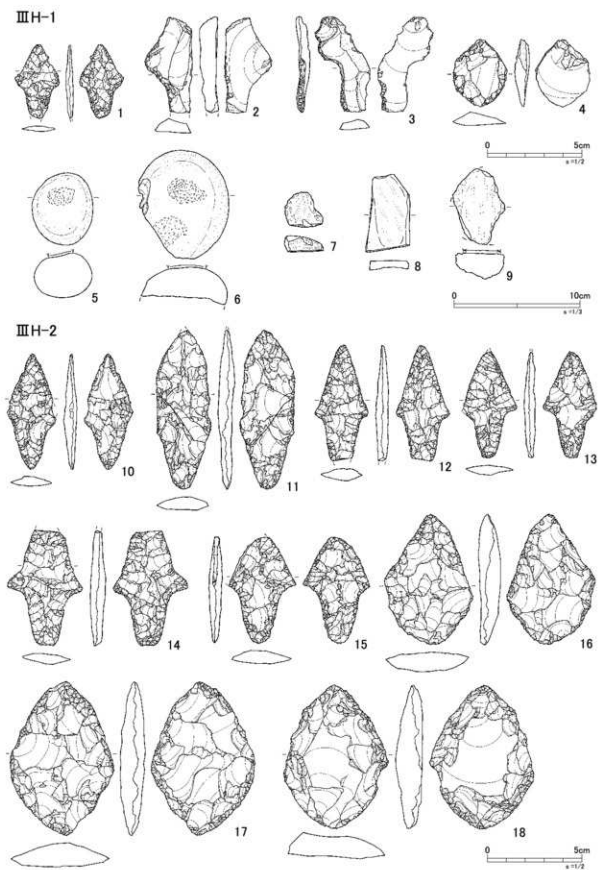
遺構から出土した石器等の点数は、水洗選別を除いて剥片石器1643点、礫石器15点、礫346点で合計2004点である。遺構別の出土点数はⅢH-2が1429点と最も多く、次いでⅢH-1が335点で、他の遺構は100点以下と少ない。

ⅢH-1 (図Ⅴ-13)

1～9は全て覆土出土である。1～4は剥片石器で、1は黒曜石製の石鎌である。左右がやや非対称で、大型の茎部を有する。裏面に、素材とした剥片の面（以下、素材面）を一部残す。2～4はスクレイパーで、全て黒曜石製である。2は左側縁に外側に張り出す刃部が細かい二次加工により作出される。3は左側縁に内湾する刃部が作出される。右側縁上部と下部にも鋸歯状の刃部がみられる。4は主に周縁部に二次加工が施される。縦長剥片を素材として、上面右側に礫面を残す。5～9は礫石器で、5・6はたたき石である。5は裏面を素材とし、表面やや上側に浅くくぼんだ痕打痕がみられる。石材は粗粒玄武岩である。6は裏側を大きく欠失する。表面の上下に平坦な痕打痕があり、左側面には剝離痕がある。7～9は砥石で、石材は7・9が軽石、8が砂岩である。7は小型で表面、裏面、下面を使用面としている。8は裏面を欠失し、表面が平坦な使用面である。9は左右側面を欠失する。表裏面に使用面がみられ、表面は平坦、裏面はやや湾曲する形状である。

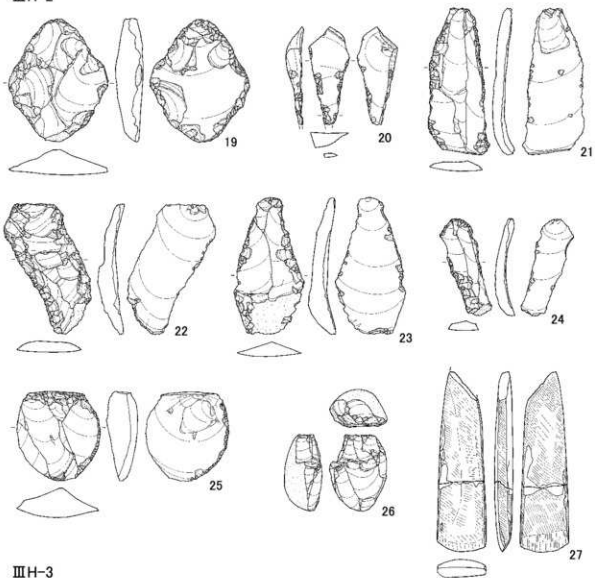
ⅢH-2 (図Ⅴ-13・14)

10～27は全て覆土出土である。10～26は剥片石器で、石材は全て黒曜石である。10・11・15の黒曜石は球果が少量みられる。10～18は石槍・ナイフで、10～15は有茎である。10・11は茎部と尖頭部の境が不明瞭のものである。10は表面には細かい、裏面にはやや大きい平坦な剝離が施される。11は2点が接合したもので、平面形は先端がやや膨らむ形状である。12は基部をわずかに欠失する。13・15は茎部の基部が丸く湾曲する。14・15は先端を欠失する。14は尖頭部と茎部の境が張り出す形状である。

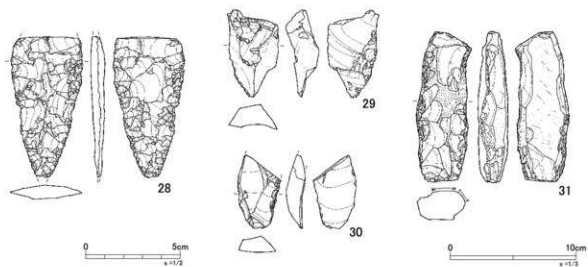


図V-13 A地区遺構出土の石器(1)

ⅢH-2

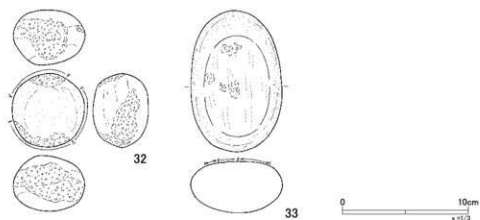


ⅢH-3

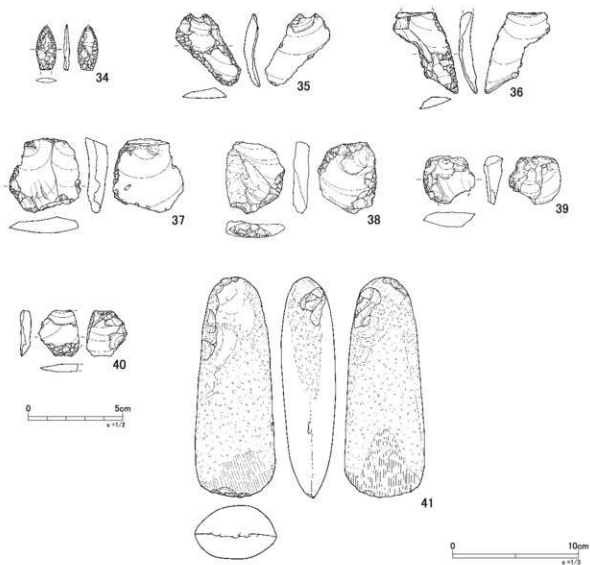


図V-14 A地区遺構出土の石器(2)

ⅢP-3



ⅢP-4



図V-15 A地区遺構出土の石器(3)

16～18は木葉形のもので、いずれも素材面を残す。また、周縁部に細かい剥離が施される。16は横長剥片を素材とし、表面中央に素材面が残る。17は縦長剥片を素材とし、裏面はやや大きな平坦剥離が施される。18は表裏面共に周縁部に二次加工が施されるもので、大きく素材面を残す。19は両面調整石器である。形状、二次加工共に木葉形の石槍・ナイフと類似し、未成品と考えられる。20は石錐で先端部を欠失する。素材の形状を生かし、尖頭部のみ細かい二次加工が施される。21～25はスクレイパーである。21～24は両側縁に刃部が作出される。21は石刃様の縦長剥片を素材とし、下面には礫面がみられる。両側縁には細かい二次加工が施される。22～24は縦長剥片を素材とし、表面下部に礫面が残る。22は両側縁にやや大きい剥離により刃部が作出される。23は両側縁の上部を中心に二次加工が施される。24は細長い形状で、右側縁上部は細かい剥離でノッチ状に作出される。25は分厚く丸みを帯びた剥片を素材とし、表面と裏面の右側縁に連続した細かい剥離がみられる。26は石核で、円礫を素材とする。単設打面で作業面とし、連続的に縦長剥片を剥離している。27は磨製石斧で、基部側を欠失する。石材は緑色泥岩で、2点が接合している。全体的に丁寧な研磨が施される。

■H-3 (図V-14)

28～31は全て覆土出土である。28～30は剥片石器で石材は全て黒曜石である。28は石槍・ナイフで先端側約1/2を欠失する。両面に細かい平坦剥離が施され、薄身に作られている。29・30はスクレイパーである。29は表面に礫面を残し、裏面右側縁に二次加工が施される。30は上部を欠失するもので、両側縁に細かい二次加工により刃部が作出される。31は磨製石斧である。側縁から剥離が施され、短冊状に整形された後、表面中央付近に細かい研磨が施される。刃部の加工はみられないため未成品と考えられる。

■P-3 (図V-15)

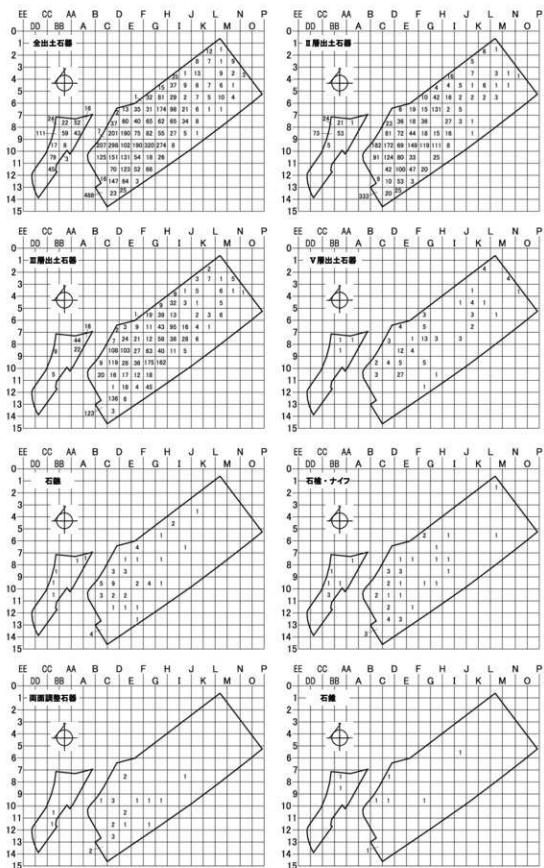
32・33は覆土出土である。32はたたき石で、主に上下面と側面に細かい潰打痕がある。石材はチャートである。33はすり石で、表面に弱い使用面がある。また、部分的に潰打痕もみられるため、たたき石としても使用されていたと考えられる。

■P-4 (図V-15)

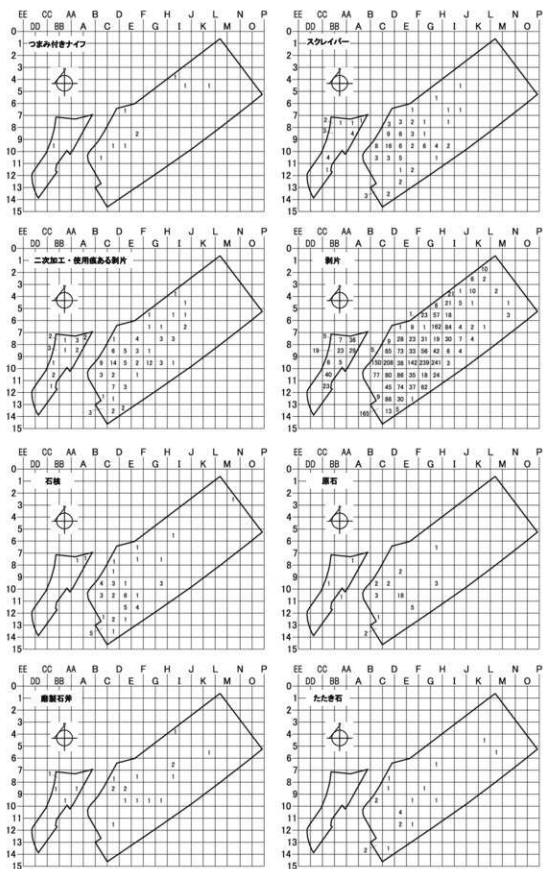
34～40は坑底出土で、41は覆土出土である。34～40は剥片石器で、石材は黒曜石である。34・38・39は黒曜石の産地推定分析を行い、34は所山、38・39は上土幌という結果が出た。また、坑底出土の非掲載のスクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片2点についても分析を行い、前者は白滝、後者は上土幌という結果が出ている(付篇2節参照)。34は石錐で基部をわずかに欠失する。形状は柳葉形に近いがやや幅がある。縦長剥片を素材とし、裏面に素材面がみられる。35～40はスクレイパーである。35は両側縁と下縁に連続的な二次加工により刃部が作出される。36・37は両側縁に刃部が作出されるものである。36は上部を欠失し、刃部の形状は右側縁が直線的、左側縁は内湾する。37は表面と裏面の左側縁に二次加工が施される。38は右側縁から下縁にかけて刃部が作出される。裏面の右側縁にも二次加工が施される。39は左側縁に刃部が作出され、上面には礫面を残す。40は表面下縁に平坦な刃部が作出され、裏面右側縁にもやや大きな二次加工が施される。41は磨製石斧である。全体的に分厚く、基部側に大きな剥離痕を残すが、それ以外は細かい敲打により整形されている。刃部付近は細かい研磨により滑らかに仕上げられている。

(2) 包含層出土の石器等 (図V-16～25)

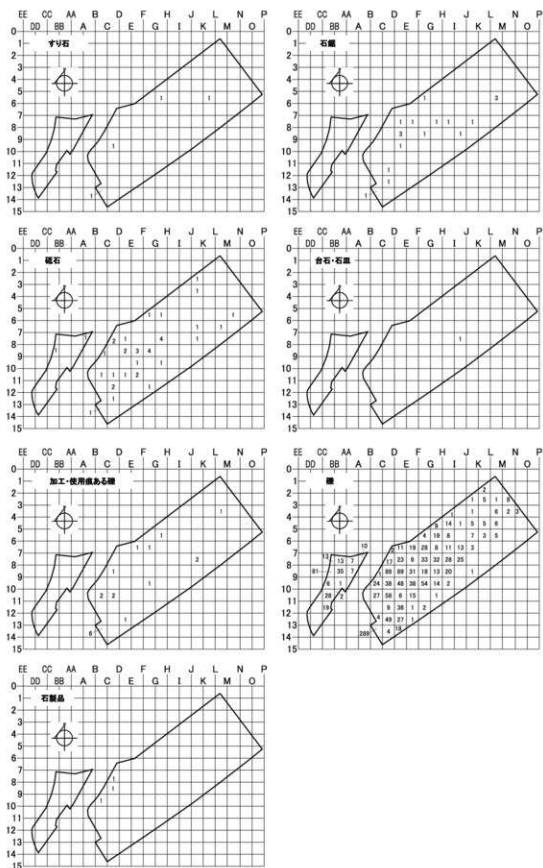
包含層から石器等は5,214点出土した。器種ごとの点数では剥片が2,979点(57%)、礫が1,624点(31%)、と多く、他は少量である。剥片石器は剥片を除くと487点で、定形的な石器では石錐59点、石槍・ナ



図V-16 A地区包含層出土石器点数分布図(1)



図V-17 A地区包含層出土石器点数分布図(2)

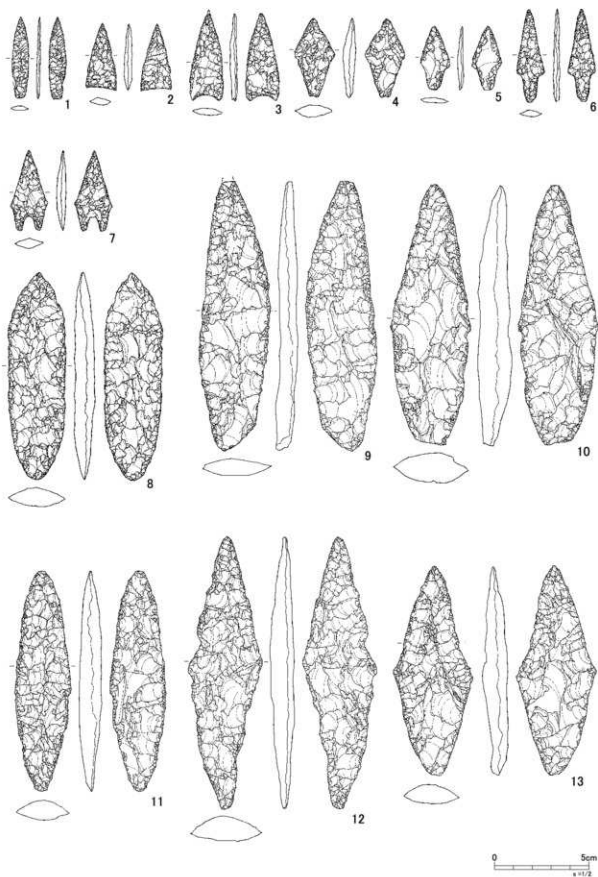


図V-18 A地区包含層出土石器点数分布図(3)

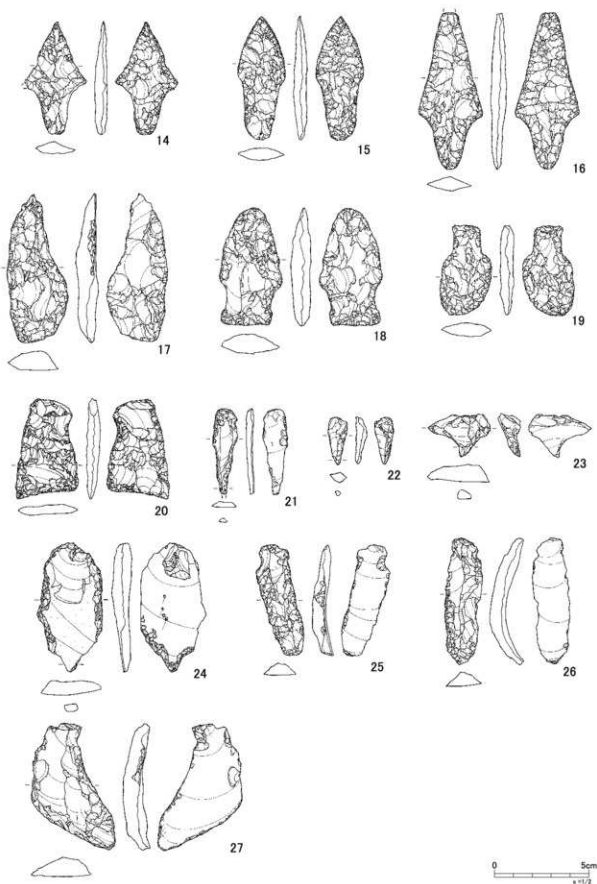
イフ46点、両面調整石器23点、石錐8点、つまみ付きナイフ10点、スクレイパー122点がある。礫石器は121点で、磨製石斧20点、たたき石20点、すり石4点、石鋸18点、砥石39点、台石・石皿1点で、他に加工・使用痕ある礫19点がある。石器等の分布は、調査区のC-C-1ライン間が最も多く西側にかけて少なくなり、概ね遺構の分布傾向と一致している。特に器種ごとによる大きな偏りはみられない。

1~36は剥片石器である。1~7は石錐で、石材は全て黒曜石である。1~3は無茎のものである。1は柳葉形の石錐で、V層出土である。両面に細かい平坦な剥離が施され、薄身に作り上げられている。2・3は側縁がやや張り出し、基部が浅く内湾する形状である。2はやや左右非対称で、基部は微細な剥離が施される。3は表面左下に礫面を残す。4~7は有茎のものである。4は菱形に近い形状で尖頭部と茎部の境が不明瞭である。5は縦長剥片を素材とし、表裏面に素材面を残す。6は狭長な形状である。7は基部が二つに分かれるもので、柄を差し込むための形状と考えられる。8~20は石槍・ナイフで、石材は19がチャートで、他は全て黒曜石である。8~13は大型のものである。8は尖頭部が緩やかに湾曲する形状である。9は先端部をわずかに欠失し下面に礫面を残す。10は厚みがあり、基部は平らである。11は側縁が緩やかに湾曲する形状である。12は側縁が不整で、左側縁にはノッチ状になる部分がみられる。13は先端側の幅が、基部側よりせまくなっており、刃部再生によるものと考えられる。14・16は逆刺が明瞭なもので、側縁が浅く内湾する。15は側縁がやや張り出す形状である。17は左右非対称で、刃部への二次的な加工により右側縁が湾曲する。18~20は先端が丸みを帯びており、ナイフと考えられるものである。18は基部がやや張り出す形状である。19・20は左右非対称で、いわゆる靴形石器に近い形状である。20は下端の刃部が直線的に作出され、表面に素材面を残している。21~24は石錐で、石材は22がチャートで他は黒曜石である。21・22は棒状のものである。21は石刃様の縦長剥片を素材とし、両側縁に急角度の二次加工が施され、尖頭部を作出する。22は主に表裏面の右側縁に二次加工が施される。23・24はつまみ部がみられるものである。23は厚みのある横長剥片を素材とし、連続的な二次加工により鋭い尖頭部が作出される。24は、表面は側縁、裏面は下縁に二次加工が施される。25~27はつまみ付きナイフで、石材は全て黒曜石である。いずれもほぼ片面加工で、裏面の二次加工はわずかである。25は表面にほぼ全面二次加工が施され、裏面上部の細かい二次加工によりつまみ部を作出している。26は側面観が湾曲するもので、二次加工はつまみ部と表面左側縁を中心に施される。27は分厚い縦長剥片を素材とし、左側縁下部と右側縁に急角度の二次加工が施される。28~36はスクレイパーで、石材は28・30が頁岩、31・34が玄武岩、36がチャート、29・32・33・35が黒曜石である。28・29は側縁から下縁にかけて二次加工が施されるものである。29は2点接合するもので、左側縁は急角度の剥離が施される。30は表面左側縁と裏面下縁に刃部が作出され、左側縁上部にはノッチ状の挟り部がみられる。31・32・34は大型の剥片を素材とするものである。31は横長剥片を素材とし、裏面右側縁に細かい急角度の剥離により刃部が作出される。32は表面の左側縁と下縁に刃部が作出される。34は方形に近い形状で、上面に大きく礫面を残し、表面の右側縁から下縁にかけて直線的な刃部が作出される。33は石刃素材のスクレイパーで、下縁に急角度の剥離により分厚い刃部が作出される。Ⅲ層出土だが、石刃石器群に伴うものの可能性がある。35は平面が円形状で、右側面には礫面を大きく残す。左側縁から下縁にかけて細かい連続的な二次加工が施される。36は下縁に急角度の剥離が施され、分厚い刃部が作出される。

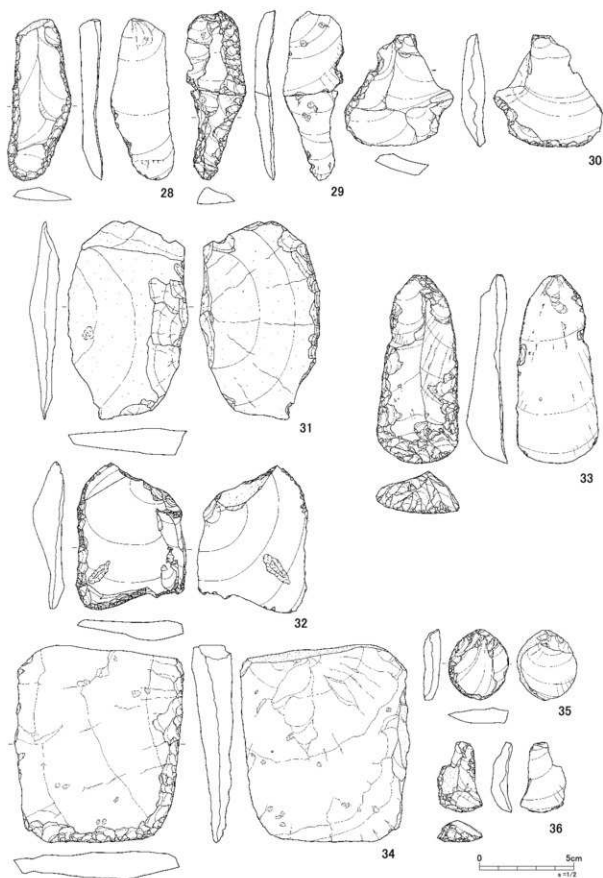
37~56は礫石器である。37~44は磨製石斧である。37は2点接合したもので、大型で厚みがある。全体を細かい敲打で整形し、軽く研磨している。刃部は右肩上がりで丁寧な研磨が施されている。38は素材の礫の形状を生かし、敲打は主に両側面と刃部付近に行われる。裏面には大きな剥離痕がみられ、刃部は丁寧な研磨が施され滑らかに仕上げられる。39は砂岩製で全面に丁寧な研磨が施される。



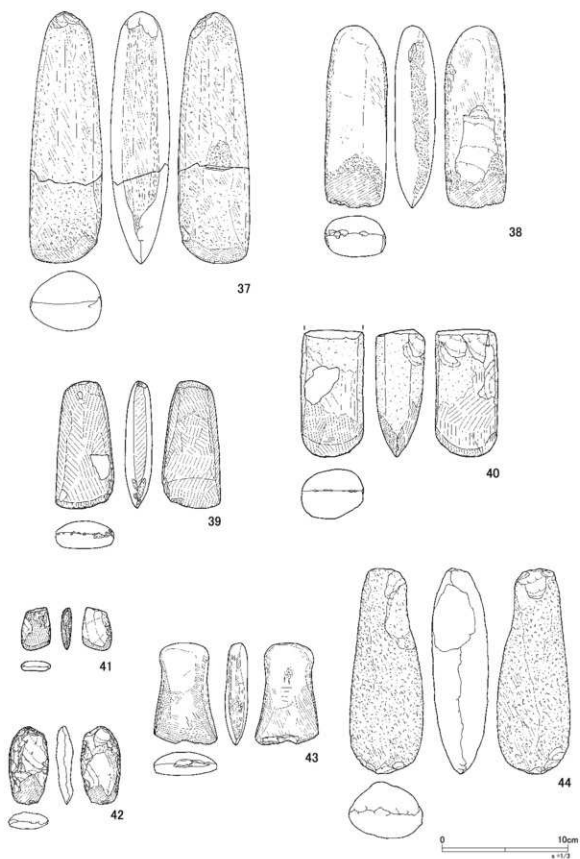
図V-19 A地区包含層出土の石器(1)



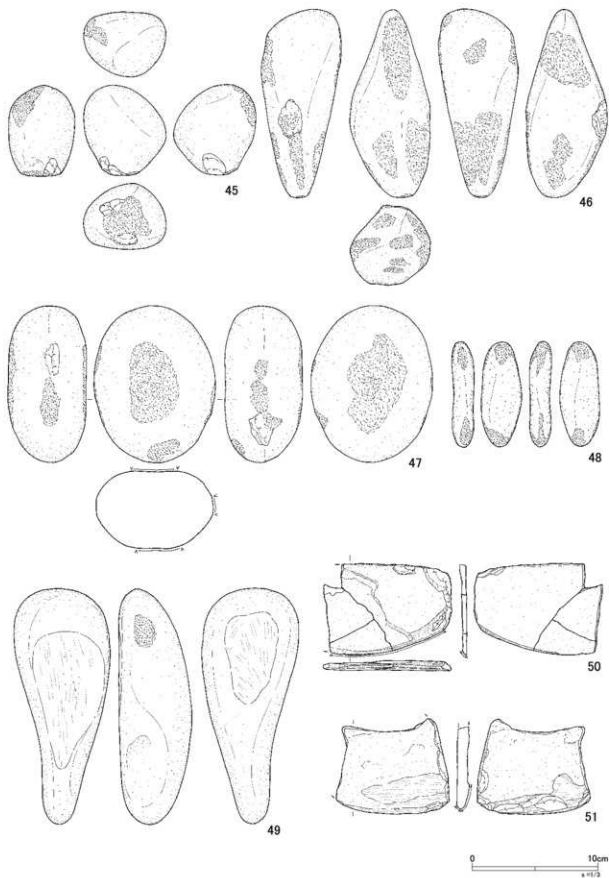
図V-20 A地区包含層出土の石器(2)



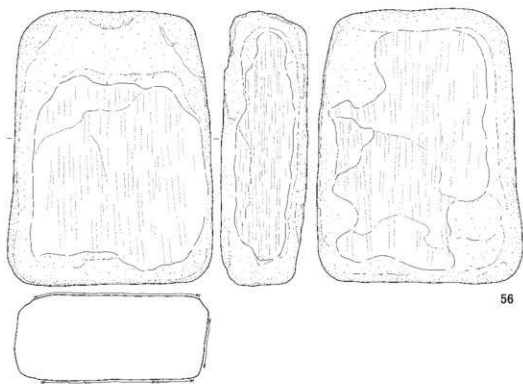
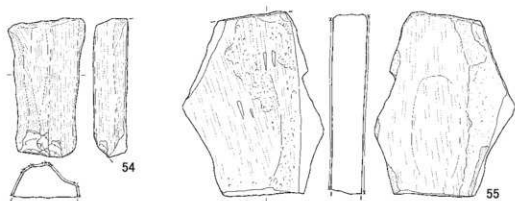
図V-21 A地区包含層出土の石器(3)



図V-22 A地区包含層出土の石器(4)



図V-23 A地区包含層出土の石器(5)



図V-24 A地区包含層出土の石器(6)

刃部は右肩上がりである。40は厚みがあるもので、基部を欠失する。部分的に剥離痕を残し、敲打による整形後、刃部に丁寧な研磨が施される。41・42は小型で、石材は41が緑色泥岩、42は頁岩である。41は裏面に大きく剥離痕を残し、表面と裏面刃部付近に研磨が施される。42は周縁部からの剥離により整形し、研磨は刃部を中心に行われる。43は幅に比べ長さが短く、平面は基部がややふくらむ形状である。刃部は左肩上がりで、使用による小さな剥離痕がみられる。44は未成品で、右側面上部がくぼむ形状である。ほぼ全面に敲打痕がみられ、研磨はされていない。45～48はたたき石である。45は下面と左側面上部に潰打痕がみられるものである。下面の潰打痕は平坦面をなし、周りに剥離痕もある。46は多数の潰打痕が広がり、礫の平坦面や上下端、稜線付近を使用している。47は表裏の平坦面に、潰打痕が広くみられるもので、潰打痕はややくぼむ。側面にも部分的に潰打痕がみられる。48は小型で、細長い垂円礫を素材とする。上下面を中心に浅い潰打痕がある。49はすり石で、石材は砂岩である。礫の平坦面に使用面があり、右側面上部には浅い潰打痕もみられる。50～52は石錐で、全て欠失部があり完形はない。扁平な砂岩を素材とし、下縁を中心に使用面がみられる。50は左側約1/2を欠失する。表面右側縁と上縁には整形時の剥離痕がみられる。51は使用面が表裏面の下部にもある。また、裏面の下縁と表裏面の右側縁に剥離痕がある。52は5点接合したもので、表面の下部全体に使用面がある。53～55は砥石である。53は全面が使用面として利用されている。表裏面には溝状の使用面がみられる。54は裏側約1/2を欠失する。ややくぼんだ使用面が複数あり、よく使いこまれている。表面下部には複数の剥離痕がみられる。55は分厚い砥石で、表裏両面に滑らかな使用面がある。56は台石・石皿で、石材は砂岩である。垂角礫を素材とし、表裏面、右側面に滑らかな使用面がある。

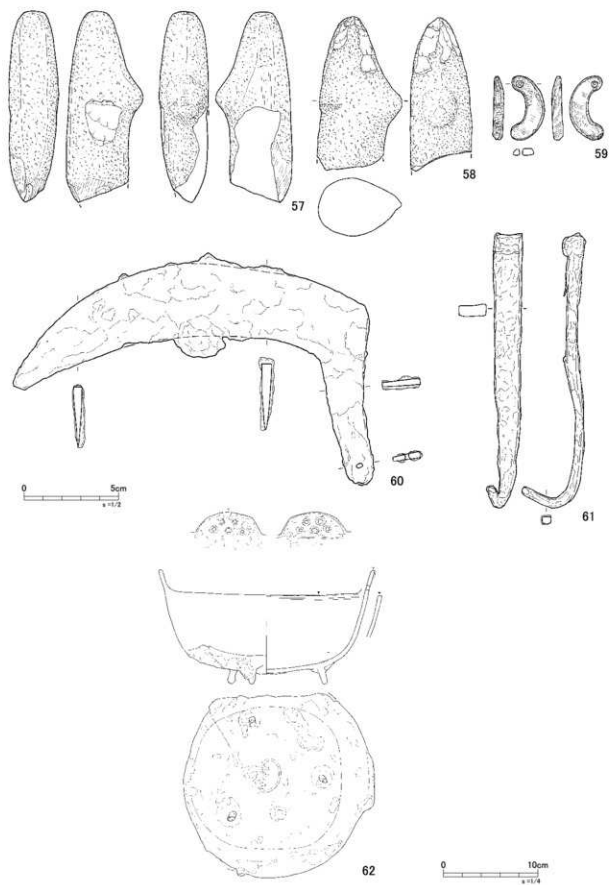
57～59は石製品である。57・58は側面に突起が作出されるもので、全体は剥離により粗く形を作った後、敲打で整形している。57の下部は研磨が施されており、これらは突起が付けられた磨製石斧の可能性もある。59はⅡ層出土の勾玉で、石材は泥岩である。全体的にやや粗い研磨が施され、研磨による稜が残っている。孔は両面からの穿孔により作り出されている。また、裏面下部に少し剥離痕を残しており、未成品と考えられる。

3. 包含層出土の鉄製品 (図V-25)

60は鎌、61は釘、62は鉄鍋である。61はⅡ層出土である。長さ14.5cmと大型で先端が湾曲している。60・62はⅠ層出土のため、近現代の可能性もある。

4. 遺構等出土の微細遺物について

堅穴住居跡、骨片集中等の遺構の調査において、細かい炭化物や微細な剥片・砕片、骨片等が検出された場合、これらの微細遺物は土壌ごとビニール袋(36×50cm)に入れ、1mmメッシュのフルイを使用して水洗選別を行い回収した。土壌ごと取り上げたのは、Ⅱ層の遺構では、骨片集中1か所(ⅡB-1)、Ⅲ層では、堅穴住居跡(ⅢH-1・2)、土坑1基(ⅢP-4)、焼土3か所(ⅢF-1・3・4)である。全体でビニール袋22袋分の水洗選別を行い、その結果、V群土器50点、剥片・砕片が450点、他に炭化物、骨片を検出した。骨片は微細のため、同定を行っていない。ⅢP-4の土壌検出の炭化物は、放射性炭素年代測定の前処理として分析を行った(試料名BETC-5)。分析結果の詳細については付篇1節に掲載している。(広田)



図V-25 A地区包含層出土の石製品・鉄製品

表V-1 A地区包含層出土土器点数表

遺物種別/層位	I	II	III	V	II-V	風 倒木	風 倒木	合計		
									群	部位
I群	陶器	良好			1			1		
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計				1			1	
I群合計										
II群	口縁器	良好	3					3		
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計	3						3	
III群	陶器	良好	25	1				26		
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片	1						1	
		小計	26	1					27	
IV群	陶器	良好	1					1		
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計	1	0	0	0	0	0	1	
III~IV群合計										
V群	口縁器	良好	30	1	0	0	0	31		
		割破	2	8	5				15	
		摩耗							0	
		小破片							0	
		小計	32	8	5				45	
VI群	陶器	良好	30	42	47	2	13	124		
		割破	2	14	21		8	45		
		摩耗					3	3	6	
		小破片	3	4	13	1	13	34		
		小計	35	63	84	3	34	179		
VII群	陶器	良好	2	3	1		1	7		
		割破					2	2		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計	2	3	1		2	6		
III~IV群合計										
VIII群	口縁器	良好	12	225	78	2	6	323		
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計	12	225	78	2	6	3	350	
IX群	陶器	良好	261	3752	1130	19	25	72	5407	
		割破	26	100	54		2		240	
		摩耗	2	11	4				17	
		小破片	56	1088	306	3	6	7	1475	
		小計	445	5049	1494	22	35	81	7145	
X群	陶器	良好	1	20	22		1	1	46	
		割破						0		
		摩耗						0		
		小破片						0		
		小計	1	20	22		1	1	46	
III~IX群合計										
XI群	陶器	良好	438	5277	1695	24	40	88	64	7596
		割破							0	
		摩耗							2	
		小破片							4	
		小計	438	5277	1695	24	40	88	64	7596
III~XI群合計										
XII群	口縁器	良好	0	14	4	0	0	0	18	
		割破							2	
		摩耗							0	
		小破片							4	
		小計	0	14	4	0	0	0	0	18
III~XII群合計										
XIII群	陶器	良好								
		割破							0	
		摩耗							0	
		小破片							0	
		小計							0	
III~XIII群合計										
不明	陶器	良好	1	8	8	0	0	0	17	
		割破							0	
		摩耗							0	
		小破片							0	
		小計	1	8	8	0	0	0	0	17
III~不明群合計										
合計										

表V-2 A地区包含層出土石器点数表

遺物種別/層位	I	II	III	V	II-V	風 倒木	風 倒木	V風 倒木	合計	
										群
I群	石器	完形	6	16	12	1	1		26	
		準完形		5	6			2	1	15
		手取		6	1					7
		片								1
		小計	6	28	19	1	1	1	1	59
II群	石器・ ナイフ	完形	1	11	8	1	1	1	22	
		準完形		2						2
		手取		4	8	5				17
		片		1	1	3				5
		小計	6	22	16		1	1		46
III群	両面鋭物 石器	完形	1	3					4	
		準完形		1						1
		手取		2	4					6
		片		3	5	3				11
		小計	6	11	6					23
IV群	石器	完形	2	3					5	
		準完形		1						1
		手取		1						1
		片		1						1
		小計	2	5	1					8
V群	つまみ付き ナイフ	完形	3	2		1			6	
		準完形		2						2
		手取		2						2
		片								0
		小計	3	4			1			10
VI群	ステレィ バー	完形	7	33	20		1		61	
		準完形	1	10	7	1	1		20	
		手取		5	11	6			24	
		片		3	9	5			17	
		小計	16	63	40	1	2		122	
VII群	二次加工・使用後 の欠片	完形	16	59	47	1	1	2	126	
		準完形		2	35	11			2	51
		手取		202	1593	1102	42	5	32	3
		片		2	37	2		1	2	42
		小計	16	602	1792	1150	45	8	35	3
III~VII群合計										
VIII群	磨製石器	完形		11	3				14	
		準完形		1	1				2	
		手取		1	2				3	
		片		1	1				1	
		小計		1	14	5				20
IX群	たたく石	完形		6	8				14	
		準完形							0	
		手取			2				2	
		片			2	2			4	
		小計			10	10				20
X群	中石	完形		2	1				3	
		準完形							0	
		手取			1				1	
		片							0	
		小計			2	2				4
XI群	石器	完形		2	2				4	
		準完形							1	
		手取			1				1	
		片			2				2	
		小計			1	5	8	1		15
XII群	砥石	完形		1	5	11			16	
		準完形		1	2				3	
		手取		1	1	2			4	
		片		5	18	9			32	
		小計		7	19	15				39
XIII群	打石・砥石	完形		3					3	
		準完形							0	
		手取							0	
		片			1				1	
		小計								4
III~XIII群合計										
IV群	總 石	完形	19	75	63	40	3		200	
		準完形	68	713	592	38	2	10	1	1424
		片	87	788	655	76	2	13	1	1621
III~IV群合計										
不明	總 計	完形		2	1				3	
		小破片								3
III~不明群合計										
合計										

表V-3 A地区遺構出土復元土器一覽

国	発掘番号	国版	出土地点	層位	縄文点数	合計点数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
V-1	1	75	中9区	層II	13	48	口縁・胴部	口唇部；突起(凹口)、丸縁、縁部三角、外面；1段縄文、淡有り(刺突文) 内面；ナゲ	深鉢	V群c類	緑→同式	27.8	—	18.0	縁部丸縁部あり
				層III	16										
				層IV	15										
V-1	2	75	中9区	層II	14	117	口縁・胴部	口唇部；新突文、外面；波状口縁、縁部、縦位帯縄文、刺突文	深鉢	V群	黄緑式式	35.0	12.5	47.9	口縁部に黒色付着物有り、外面下部剥離多、器底三角部
				層III	1										
				層IV	1										
V-1	3	75	中9区	層II	1	6	口縁・胴部	肥厚縁、外面；円形刺突文、1段縄文、内面；ナゲ	深鉢	群群b類→群群a類	北朝日式トコロ型	14.1	—	18.0	縁部より赤褐色化、外面剥離、縁部有り
				層III	1										
				層IV	2										
V-1	4	75	中9区	層II	29	29	口縁・胴部	口唇部；溝底縁、外面；刻み、横位波縄、1段縄文、淡有り	舟形土器	V群c類	緑→同式	16.5	7.9	9.1	外面一部赤褐色有、器底三角
				層III	1										
				層IV	2										

表V-4 A地区包含層出土復元土器一覽

国	発掘番号	国版	出土地点	層位	縄文点数	合計点数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
V-6	1	77	中9区	層II	86	89	口縁・胴部	口唇部；1段縄文、外面；1段縄文	深鉢	V群c類	緑→同式	26.5	—	25.0	縁部丸口縁有り
				層III	3										
				層IV	16										
V-6	2	77	中9区	層II	25	29	口縁・胴部	口唇部；溝底縁、外面；横位帯縄文、新突文、1段縄文、淡有り(刺突文)	深鉢	V群c類	緑→同式	31.3	—	19.6	
				層III	2										
				層IV	2										
V-6	3	77	中9区	層II	5	5	口縁・胴部	口唇部；刻み、外面；溝底縁、1段縄文	深鉢	V群c類	緑→同式	9.4	—	4.9	
				層III	2										
				層IV	7										
V-6	4	77	中9区	層II	2	9	口縁・胴部	外面；1段縄文、新突文	深鉢	V群c類	緑→同式	—	4.0	12.0	今中丸底の底部
				層III	7										
				層IV	7										
V-6	5	77	中9区	層II	16	16	口縁・胴部	内外面；ナゲ	小型土器	V群c類	緑→同式	4.9	2.9	8.4	縁部丸口縁有り、器底0.5cm
				層III	3										
				層IV	3										
V-6	6	77	中9区	層II	3	4	口縁・胴部	内外面；ナゲ	浅鉢	V群c類	緑→同式	8.4	4.0	5.1	
				層III	1										
				層IV	1										
V-6	7	78	中9区	層II	1	10	口縁・胴部	口唇部；溝底縁、外面；刻み、横位波、淡有り(刺突文)、1段縄文	舟形土器	V群c類	緑→同式	14.9	—	13.4	草孔1か所、外面縁部付着黒色付着物有り
				層III	1										
				層IV	1										
V-6	8	78	中9区	層II	52	54	口縁・胴部	外面；1段縄文、淡有り	舟形土器	V群c類	緑→同式	—	14.7	12.8	外面一部赤褐色有
				層III	1										
				層IV	1										
V-6	9	78	中9区	層II	8	15	胴部	外面；1段縄文、縦位帯縄文	深鉢	V群	下皿/式式	—	—	10.5	
				層III	8										
				層IV	3										

表V-5 A地区遺構出土掲載破片土器一覽

国	発掘番号	国版	出土地点	層位	縄文点数	合計点数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
V-2	5	76	中9区	層II	1	7	胴部	1段縄文、縦位帯縄文	舟形土器	V群b類	緑→同式	—	—	赤褐色の焼跡有り	
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	6	76	中9区	層II	1	1	胴部	縦位帯縄文	舟形土器	V群b類	緑→同式	—	—	赤褐色の焼跡有り	
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	7	76	中9区	層II	3	6	口縁部	口唇部；縄文、外面；棒状突起(凹口)、横位帯縄文、淡有り(縦位帯縄文)、1段縄文、内面；赤褐色	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	縦い波状口縁	
				層III	2										
				層IV	1										
V-2	8	76	中9区	層II	7	20	口縁・胴部	口唇部；1段縄文、外面；山形突起、横位帯縄文、1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	縦い波状口縁、内面一部黒色付着物有り	
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	9	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；縄文、外面；横位帯縄文、1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	器面中々摩耗	
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	11	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；縄文、外面；横位帯縄文、1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	12	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；溝底縁、外面；横位帯縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	13	76	中9区	層II	2	3	口縁部	口唇部；溝底縁、外面；1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	14	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；縄文、外面；1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	15	76	中9区	層II	1	1	口縁部	外面；1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	16	76	中9区	層II	2	3	口縁部	外面；無文、内面；赤褐色	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	17	76	中9区	層II	1	1	胴部	外面；円形刺突、刻み、1段縄文、縁部文	深鉢	群群a類→群群b類	北朝日式	—	—	胎土縁部含む	
				層III	2										
				層IV	3										
V-2	18	76	中9区	層II	2	3	胴部	外面；1段縄文	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	縁部丸口縁有り、内面黒色付着物有り	
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	19	76	中9区	層II	1	1	底面	内外面；ナゲ	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	3										
				層IV	3										
V-2	20	76	中9区	層II	3	3	底面	内外面；ナゲ	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	21	76	中9区	層II	1	1	底面	内外面；ナゲ	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	22	76	中9区	層II	1	1	底面	内外面；ナゲ	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	外面剥離有り	
				層III	1										
				層IV	2										
V-2	23	76	中9区	層II	2	2	口縁部	口唇部；外面；1段縄文	浅鉢	V群b類	緑→同式	—	—		
				層III	1										
				層IV	1										
V-2	24	76	中9区	層II	1	7	口縁・胴部	口唇部；小突起(凹口)、1段縄文、外面；1段縄文、横位帯縄文、淡有り(刺突文)、赤褐色	浅鉢	V群b類	緑→同式	—	—	内外面黒色付着物有り	
				層III	1										
				層IV	2										
V-3	25	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；山形突起(凹口)、1段縄文、肥厚縁(円形突起)、円形刺突文、1段縄文	深鉢	群群a類→群群b類	北朝日式トコロ型	—	—	胎土縁部含む	
				層III	1										
				層IV	1										
V-3	26	76	中9区	層II	1	6	胴部	丸、1段縄文	深鉢	群群a類→群群b類	北朝日式	—	—	胎土縁部含む、外面剥離有り	
				層III	1										
				層IV	1										
V-3	27	76	中9区	層II	1	1	胴部	1段縄文	深鉢	群群a類→群群b類	北朝日式	—	—	胎土縁部含む	
				層III	1										
				層IV	1										
V-3	28	76	中9区	層II	1	1	口縁部	口唇部；刻み、外面；1段縄文	舟形土器	V群b類	緑→同式	—	—	外面一部赤褐色有	
				層III	1										
				層IV	1										
V-3	29	76	中9区	層II	6	11	口縁部	口唇部；溝底縁、外面；1段縄文、淡有り(凹口)	深鉢	V群b類	緑→同式	—	—	波状口縁、草孔1か所有り	
				層III	1										
				層IV	1										

表V-6 A地区包含層出土掲載破片土器一覽(1)

層	掲載番号	図号	出土地点	形状	破片の位置	合計枚数	器種	文様・調整年	器種	分類	型式名	備考
V-7	10	79	PTX	V	1	1	陶器	内面：1段縄文	陶器	V形+缶	縄文式	
V-7	11	79	8005	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	胎土に縄文含む
V-7	12	79	8006	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	13	79	8007	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	14	79	PTX	V	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	胎土に縄文含む
V-7	15	79	PTX	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	胎土に縄文含む
V-7	16	79	8008	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	17	79	8009	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	18	79	8010	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	19	79	8011	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	20	79	8012	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	21	79	8013	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	22	79	8014	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	23	79	8015	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	
V-7	24	79	PTX	B	1	1	土師器	外面：肥前唐(厚文)、丹波刺文、1段縄文	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式+1006缶	胎土に縄文含む
V-7	25	79	8065	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-7	26	79	8066	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-7	27	79	8067	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-7	28	79	8068	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-7	29	79	8069	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-7	30	79	8070	B	1	1	土師器	外面：1段縄文(結束)	陶器	罐形+缶-背形+缶	縄文式	
V-8	20	79	CH08	B	10	10	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文(厚文)、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	磨削口縁、30×100-1個体
V-8	30	79	CH09	B	5	5	土師器	口唇部：1段縄文 外面：1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	20×100-1個体
V-8	31	79	8001	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	磨削口縁
V-8	32	79	8002	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	磨削口縁、磨孔有り
V-8	33	79	8003	B	2	2	土師器	外面：1段縄文、段有(丹波刺文、縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	14×100-1個体
V-8	34	79	CT1	B	2	2	土師器	外面：1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	53×100-1個体
V-8	35	79	CT2	B	2	2	土師器	外面：1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	53×100-1個体
V-8	36	80	8020	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	37	80	8021	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	38	80	8022	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	39	80	8023	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	40	80	8024	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	41	80	8025	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	42	80	8026	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	43	80	8027	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	44	80	8028	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	45	80	8029	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	46	80	8030	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-8	47	80	8031	B	1	1	陶器	外面：1段縄文、1段縄文、段有(縄文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	47	80	8032	B	9	9	土師器	口唇部：1段縄文、磨文、外面：1段縄文、段有(新文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	48	80	8033	B	1	1	土師器	外面：1段縄文、段有(新文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	49	80	8034	B	1	1	土師器	外面：1段縄文、段有(新文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	50	80	8035	B	1	1	土師器	外面：1段縄文、段有(新文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	51	80	8036	B	1	1	土師器	外面：1段縄文、段有(新文)	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	52	80	8037	B	4	4	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	53	80	8038	B	2	2	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	54	80	8039	B	2	2	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	55	80	8040	B	13	13	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	内面磨削目撃物有り
V-9	56	80	8041	B	2	2	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	57	81	8120	B	4	4	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	磨削目撃物有り
V-9	58	81	8121	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	59	81	8122	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	60	81	8123	B	2	2	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	61	81	8124	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	62	81	8125	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文 外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	63	81	8126	B	2	2	土師器	外面：磨削文、磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	64	81	8127	B	2	2	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	65	81	8128	B	1	1	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	66	81	8129	B	1	1	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	67	81	8130	B	1	1	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	68	81	8131	B	1	1	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-9	69	81	8132	B	1	1	土師器	外面：磨削文、磨削文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-10	71	81	8133	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文、磨削文、外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-10	72	81	8134	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文、磨削文、外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-10	73	81	8135	B	1	1	土師器	口唇部：1段縄文、磨削文、外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	
V-10	74	81	8136	B	2	2	土師器	口唇部：1段縄文、磨削文、外面：磨削文、1段縄文	陶器	V形+缶	緑+灰式	

表V-6 A地区包含層出土掲載破片土器一覽(2)

層	掲載番号	出土地点	器種	破片数	合計片数	器出	文様・調整年	器種	分類	型式名	備考	
V-10	75	81	CHOK	II	2	10	無文	西浜	V形+無	緑+灰式		
			CHOK	III	3							
			CHOK	IV	3							
V-10	76	81	CHOK	II	2	3	口縁部・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	77	81	CHOK	II	2	4	無文	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	78	81	CHOK	II	2	1	口縁部・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	細粒土に含有	
V-10	79	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	80	81	CHOK	II	2	1	無文	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	81	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	82	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式	内面黒色に含有物あり。細粒土に含有	
V-10	83	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	84	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	85	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	86	81	CHOK	II	2	10	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	87	81	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	88	81	CHOK	II	2	4	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	89	81	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	90	81	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	91	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	92	81	CHOK	II	2	3	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	93	81	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	94	81	CHOK	II	2	1	無文	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	95	81	CHOK	II	2	3	無文	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-10	96	81	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	87	82	CHOK	II	2	3	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	88	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	90	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	100	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	101	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	102	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	103	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	104	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	105	82	CHOK	II	2	1	底面	底面・1段縁文	西浜	V形+無	緑+灰式	
V-11	106	82	CHOK	II	2	6	口縁部・折片	西浜	V形+無	緑+灰式	107・108と同一体。表面口縁	
V-11	107	82	CHOK	II	2	4	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式	108・109と同一体	
V-11	108	82	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式	108・109と同一体	
V-11	109	82	CHOK	II	2	6	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	110	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	111	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	112	82	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	113	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	114	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	115	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	116	82	CHOK	II	2	15	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	117	82	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-11	118	82	CHOK	II	2	22	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	119	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	120	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	121	83	CHOK	II	2	3	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	122	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	123	83	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	124	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	125	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	126	83	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	127	83	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	128	83	CHOK	II	2	3	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	129	83	CHOK	II	2	3	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	130	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	131	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	132	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	133	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	134	83	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	135	83	CHOK	II	2	2	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	136	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	137	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		
V-12	138	83	CHOK	II	2	1	口縁部	西浜	V形+無	緑+灰式		

表V-7 A地区遺構出土掲載石器一覧

図	掲載番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	残存状態	備考
							長さ	幅	厚さ				
V-13	1	83	遺11-1	層土	—	石鏃	(3.9)	2.3	0.4	(2.2)	黒曜石	完好	
V-13	2	83	遺11-1	層土	—	スチレイバー	(5.1)	2.5	4.1	(9.3)	黒曜石	準完好	
V-13	3	83	遺11-1	層土	—	スチレイバー	5.0	2.9	0.8	5.2	黒曜石	完好	
V-13	4	83	遺11-1	層土	—	スチレイバー	3.5	2.9	0.8	6.2	黒曜石	完好	
V-13	5	83	遺11-1	層土	—	たたく石	5.7	4.8	3.6	123.0	粗粒玄武岩	完好	
V-13	6	83	遺11-1	層土	—	たたく石	(8.0)	(7.2)	(3.0)	(192.0)	灰岩	片	
V-13	7	83	遺11-1	層土	—	砥石	2.8	2.9	1.3	1.5	輝石	片	破断
V-13	8	83	遺11-1	層土	—	砥石	(6.1)	(3.0)	(0.8)	(19.7)	砂岩	片	
V-13	9	83	遺11-1	層土	—	砥石	(6.0)	(4.2)	(2.0)	11.6	輝石	片	
V-13	10	83	遺11-2	層土	—	石鏃・ナイフ	6.1	2.6	0.7	6.7	黒曜石	完好	
V-13	11	83	遺11-2	層土	—	石鏃・ナイフ	8.4	2.9	0.9	16.4	黒曜石	完好	2点結合
V-13	12	83	遺11-2	層土	—	石鏃・ナイフ	(6.1)	2.6	0.7	(7.0)	黒曜石	完好	
V-13	13	83	遺11-2	層土	6	石鏃・ナイフ	5.6	2.8	0.6	5.5	黒曜石	完好	
V-13	14	83	遺11-2	層土	5	石鏃・ナイフ	(6.1)	4.0	0.8	(12.4)	黒曜石	準完好	
V-13	15	83	遺11-2	層土	7	石鏃・ナイフ	(5.6)	(3.0)	0.8	(9.8)	黒曜石	準完好	
V-13	16	83	遺11-2	層土	—	石鏃・ナイフ	6.9	4.7	1.2	32.1	黒曜石	完好	
V-13	17	83	遺11-2	層土	1	石鏃・ナイフ	8.1	5.5	1.3	30.0	黒曜石	完好	
V-13	18	83	遺11-2	層土	3	石鏃・ナイフ	7.6	5.5	1.4	51.1	黒曜石	完好	
V-14	19	83	遺11-2	層土	9	両面磨製石器	(6.0)	5.3	1.5	38.1	黒曜石	完好	
V-14	20	83	遺11-2	層土	—	石鏃	(5.2)	2.2	0.9	(5.7)	黒曜石	準完好	
V-14	21	83	遺11-2	層土	—	スチレイバー	7.8	3.3	1.2	13.0	黒曜石	完好	石方盤
V-14	22	84	遺11-2	層土	2	スチレイバー	6.9	4.6	1.4	21.3	黒曜石	完好	
V-14	23	84	遺11-2	層土	—	スチレイバー	7.2	3.7	1.5	20.3	黒曜石	完好	
V-14	24	84	遺11-2	層土	—	スチレイバー	5.1	2.8	1.1	3.6	黒曜石	完好	石方盤
V-14	25	84	遺11-2	層土	8	スチレイバー	4.7	4.4	1.7	38.4	黒曜石	完好	
V-14	26	84	遺11-2	層土	—	石鏃	4.0	3.0	2.0	25.2	黒曜石	—	
V-14	27	84	遺11-2	層土	4	磨製石斧	14.2	3.8	1.4	129.0	緑色頁岩	完好	
V-14	28	84	遺11-3	層土	—	石鏃・ナイフ	(7.4)	3.8	0.8	(18.1)	黒曜石	半好	
V-14	29	84	遺11-3	層土	—	スチレイバー	4.6	2.7	1.8	13.0	黒曜石	完好	
V-14	30	84	遺11-3	層土	—	スチレイバー	(3.9)	2.3	1.0	(6.4)	黒曜石	半好	
V-14	31	84	遺11-3	層土	—	磨製石斧	11.9	4.3	2.4	141.0	頁岩	完好	
V-15	32	84	遺11-3	層土	—	たたく石	5.8	5.6	4.3	191.0	チャート	完好	
V-15	33	84	遺11-3	層土	—	すり石	11.1	7.2	4.0	660.0	安山岩	完好	
V-15	34	84	遺11-4	坑底	—	石鏃	2.4	1.0	0.2	6.6	黒曜石	完好	黒曜石分粒度70-1
V-15	35	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	3.8	3.4	0.8	5.0	黒曜石	準完好	
V-15	36	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	(4.2)	3.4	1.0	(5.1)	黒曜石	準完好	
V-15	37	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	3.9	3.8	1.2	13.7	黒曜石	完好	
V-15	38	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	3.7	3.1	0.8	9.8	黒曜石	完好	黒曜石分粒度70-3
V-15	39	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	2.5	2.7	1.0	3.2	黒曜石	準完好	黒曜石分粒度70-4
V-15	40	84	遺11-4	坑底	—	スチレイバー	2.4	(2.2)	0.6	(2.4)	黒曜石	半好	
V-15	41	84	遺11-4	坑底	—	磨製石斧	17.4	6.4	4.2	623.0	不明	完好	

表V-8 A地区包含層出土掲載石器一覧(1)

図	掲載番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	残存状態	備考
							長さ	幅	厚さ				
V-19	1	85	J 3区	V層	—	石鏃	4.3	1.0	0.2	0.7	黒曜石	完好	
V-19	2	85	B 9区	Ⅱ層	—	石鏃	3.3	1.7	0.5	1.7	黒曜石	完好	
V-19	3	85	D 7区	Ⅱ層	—	石鏃	(4.0)	1.8	0.4	2.9	黒曜石	完好	
V-19	4	85	B 10区	I層	—	石鏃	4.2	2.2	0.7	4.1	黒曜石	完好	
V-19	5	85	E 9区	Ⅱ層	—	石鏃	3.4	1.6	0.4	1.1	黒曜石	完好	
V-19	6	85	G 5区	Ⅱ層	—	石鏃	4.9	1.5	0.4	1.5	黒曜石	完好	
V-19	7	85	G 9区	Ⅱ層	—	石鏃	4.2	2.1	0.6	2.8	黒曜石	完好	
V-19	8	85	D 12区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	10.9	3.2	1.2	38.7	黒曜石	完好	
V-19	9	85	B 13区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	(14.2)	3.8	1.0	96.0	黒曜石	完好	
V-19	10	85	L 5区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	13.7	4.2	1.8	81.1	黒曜石	完好	
V-19	11	85	C 10区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	11.6	3.0	1.2	33.2	黒曜石	完好	
V-19	12	85	C 8区	I層	—	石鏃・ナイフ	14.3	3.9	1.3	44.0	黒曜石	完好	
V-19	13	85	C 9区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	11.0	4.3	1.5	38.0	黒曜石	完好	
V-20	14	85	D 12区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	3.9	3.4	0.7	7.7	黒曜石	完好	
V-20	15	85	D 8区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	6.5	2.6	0.7	8.9	黒曜石	完好	
V-20	16	85	G 6区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	(8.2)	3.4	0.9	15.4	黒曜石	準完好	
V-20	17	85	C 8区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	7.9	3.3	1.2	22.8	黒曜石	完好	
V-20	18	85	B 13区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	8.2	3.4	1.1	19.6	黒曜石	完好	
V-20	19	85	B 13区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	4.8	2.8	0.8	9.9	黒曜石	完好	
V-20	20	85	C 9区	Ⅱ層	—	石鏃・ナイフ	5.1	3.3	0.7	10.5	黒曜石	完好	2018年度調査
V-20	21	85	I 5区	Ⅱ層	—	石鏃	(4.0)	1.4	0.5	2.0	黒曜石	準完好	
V-20	22	85	C 9区	Ⅱ層	—	石鏃	2.5	1.0	0.7	1.2	チャート	完好	
V-20	23	85	C 7区	I層	—	石鏃	2.3	3.4	1.2	4.8	黒曜石	完好	
V-20	24	85	C 8区	I層	—	石鏃	6.8	3.5	1.0	20.0	黒曜石	完好	2018年度調査

表V-8 A地区包含層出土掲載石器一覧(2)

図 番号	図説	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	石材 岩名	残存 状態	備考	
						長さ	幅	厚さ					
V-20	25	85	C 9区	群層	—	つまみ付きナイフ	5.9	2.6	1.2	8.0	磨礫石	完形	
V-20	26	85	D 8区	群層	—	つまみ付きナイフ	6.2	2.0	1.8	9.4	磨礫石	完形	
V-20	27	86	H 3区	群層	—	つまみ付きナイフ	6.7	4.5	1.4	23.9	磨礫石	完形	
V-21	28	86	G 9区	群層	—	スクレイパー	8.5	3.4	1.3	27.0	頁岩	完形	
V-21	29	86	D 9区	群層	—	スクレイパー	8.9	3.3	1.1	18.2	磨礫石	完形	2点接合
V-21	30	86	C 9区	群層	—	スクレイパー	5.9	5.8	1.3	32.0	頁岩	完形	
V-21	31	86	A 7区	群層	—	スクレイパー	10.2	6.3	1.4	88.2	玄武岩	完形	2018年度調査
V-21	32	86	A A 8区	群層	—	スクレイパー	7.7	5.7	1.6	38.7	磨礫石	完形	2018年度調査
V-21	33	86	G 9区	群層	—	スクレイパー	10.9	4.4	2.2	65.6	磨礫石	完形	
V-21	34	86	H 7区	群層	—	スクレイパー	8.5	9.0	2.1	191	玄武岩	完形	
V-21	35	86	F 9区	群層	—	スクレイパー	3.8	3.2	1.0	9.6	磨礫石	完形	
V-21	36	86	F 9区	群層	—	スクレイパー	3.7	2.5	1.2	6.6	チャート	完形	
V-22	37	86	H 6区	群層	—	磨製石斧	20.8	5.7	4.7	713	砂岩	完形	2点接合
V-22	38	86	D 8区	群層	—	磨製石斧	14.4	5.0	3.3	309	不明	完形	
V-22	39	86	C C 7区	群層	—	磨製石斧	10.0	4.6	2.1	136	砂岩	完形	2018年度調査
V-22	40	86	B B 9区	1層	—	磨製石斧	10.0	5.0	3.9	207	不明	完形	2018年度調査
V-22	41	86	A A 8区	群層	—	磨製石斧	3.2	2.3	0.8	8.8	緑色頁岩	完形	2018年度調査
V-22	42	86	F 9区	群層	—	磨製石斧	6.1	3.1	1.3	29	頁岩	完形	
V-22	43	86	D 8区	群層	—	磨製石斧	8.0	5.0	1.8	104	安山岩	完形	
V-22	44	86	D 9区	群層	—	磨製石斧	20.2	5.8	4.5	534	不明	完形	
V-23	45	86	C 8区	群層	—	たたく石	7.1	6.5	3.2	333	頁岩	完形	
V-23	46	86	D 10区	群層	—	たたく石	14.8	6.4	6.3	749	砂岩	完形	
V-23	47	86	D 10区	群層	—	たたく石	12.4	9.5	6.2	1065	安山岩	完形	
V-23	48	86	F 8区	群層	—	たたく石	8.3	3.2	1.8	62.6	頁岩	完形	
V-23	49	87	K 5区	群層	—	すり石	18.6	7.6	5.9	814	砂岩	完形	
Y-23	50	87	C 11区 L 5区 L 5区	1層 群層 群層	—	石鏝	(7.2)	(10.1)	(8.4)	52.5	砂岩	手形	1点接合
V-23	51	87	D 9区	群層	—	石鏝	(7.0)	(8.9)	(1.6)	81.0	砂岩	片	
V-24	52	87	D 7区 D 8区 E 7区	群層 群層 群層	—	石鏝	(8.4)	(13.4)	(1.6)	132	砂岩	準定形	5点接合
V-24	53	87	A 7区	群層	—	砥石	6.5	3.4	2.7	82.6	砂岩	完形	2018年度調査
V-24	54	87	J 2区	群層	—	砥石	11.0	(6.1)	(2.7)	188	砂岩	手形	
V-24	55	87	E 10区	群層	—	砥石	(14.4)	(11.1)	(2.8)	422	砂岩	手形	
V-24	56	87	I 7区	群層	—	台石・石鏝	25.6	16.2	6.8	8050	砂岩	完形	編21/4
V-25	57	87	C 8区	群層	—	石製品	(15.0)	6.0	4.6	437	不明	準定形	
V-25	58	87	C 7区	群層	—	石製品	(12.0)	6.6	(4.4)	142	不明	手形	
V-25	59	87	B 9区	群層	—	石製品	3.3	1.4	6.3	3.3	頁岩	完形	

表V-9 A地区掲載鉄製品一覧

図 番号	図説	出土地点	層位	器種	計測値(cm)			重量 (g)	残存 状態	備考		
					長さ	幅	厚さ					
V-25	60	87	CC10区	1層	—	鎌	18.5	8.5	0.5	141.0	完形	2018年度調査
V-25	61	87	C 13区	群層	—	引	14.5	1.3	1.2	54.9	治形	2016年度調査
V-25	62	78	CC9区	1層	—	鋸	22.8	(8.4)	12.1	738	手形	2018年度調査

表V-10 A地区水洗選別結果一覧

整理 番号	採取地点	層位	採取	土壌			剥片・砂片		炭化物		備考	
				分指 点数	重量(g)	比重	剥片 点数	重量(g)	重量(g)	重量(g)		
6	群B-1	群層	10	V群	50	29.93	—	磨礫石 頁岩	43 4	3.64 0.52	1.86 22.06	
1	群B-1C-1	覆土	1	—	—	—	—	—	—	—	0.09 0.22	
5	群B-2	覆土	1	—	—	—	—	磨礫石 チャート	111 2	6.13 0.15	—	覆土中の剥片の小さなまとまり
7	群B-3	覆土	2	—	—	—	—	磨礫石 チャート	29 1	2.04 0.03	—	—
8	群P-1	基底	1	—	—	—	—	—	—	—	0.35	群TC-5
2	群P-1	覆土	2	—	—	—	—	—	—	—	1.46	0.01
3	群P-3	覆土	3	—	—	—	—	磨礫石	89	5.72	0.30	—
4	群P-4	覆土	2	—	—	—	—	磨礫石	171	12.92	0.01	—
合	計		22	—	50	29.93	—	150	31.15	3.47	22.29	

VI章 B地区の遺構

1. 概要

B地区は別当賀川右岸の緩斜面上、標高約8～12mに立地している。本来はA地区と地形上連なっているが、間の国道44号で分断されているため、国道より南西側をB地区と呼称した。南西側は、昭和60(1985)年に市道改良工事に伴い、今回の調査区南西側部分で根室市教育委員会による発掘調査が行われ、縄文時代中～後期の竪穴住居跡、土坑等の遺構や遺物が確認されている。調査区の地形は、調査区北西側が最も低く、東～南東側へと緩やかに高くなり、南東端が最も高く標高は約12mである。

遺構は、Ⅱ層で土器片集中1か所、Ⅲ層で住居跡41軒、土坑34基、柱穴状小土坑23か所、焼土6か所、礫集中1か所を確認した。Ⅴ層では検出していない。Ⅲ層の遺構は調査区ほぼ全域に分布し、近接、重複するものが多く、非常に複雑な様相を示している。また、調査区外にも多く広がり、周辺も多くの遺構の分布が予想される。Ⅲ層の遺構の多くが縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒Ⅱ～Ⅴ式土器の時期であり、他に縄文時代晩期の土坑が少数みられる。

竪穴住居跡は規模や形状等が多様であり、規模は、平面形の長軸が8m以上の大型のものや、4m前後の小型のもの等がみられる。深さは1mを超えるものや、掘り込みが20cm前後の浅いものなど、規模や形状は多様である。また、掘り込みがほとんどなく、北筒式土器の時期にみられるいわゆる平地住居跡と推測されるものもある。住居跡の中には焼失住居跡と考えられる焼土や炭化材を伴うものや、最初の掘り方の底面(以下、「構築面」)を埋めて床面を作るものもみられる。また、掘り込みがごく浅く、平地住居跡に類似する1軒については、他のⅢ層の住居跡(ⅢH)と区別するため名称を「ⅢMH」とした。

土坑は長径1m以下の小型から約4mの大型まであり、大型の土坑の中には、規模・形状等の特徴が竪穴住居跡と類似し、区別が困難なものがある。また、長径1m程度のものには、縄文時代晩期の土坑墓等と推測されるものが少数ある。

2. Ⅱ層の遺構 (図VI-2 表VI-9 図版72)

(1) 土器片集中

ⅡPS-2 (図VI-2 図版72)

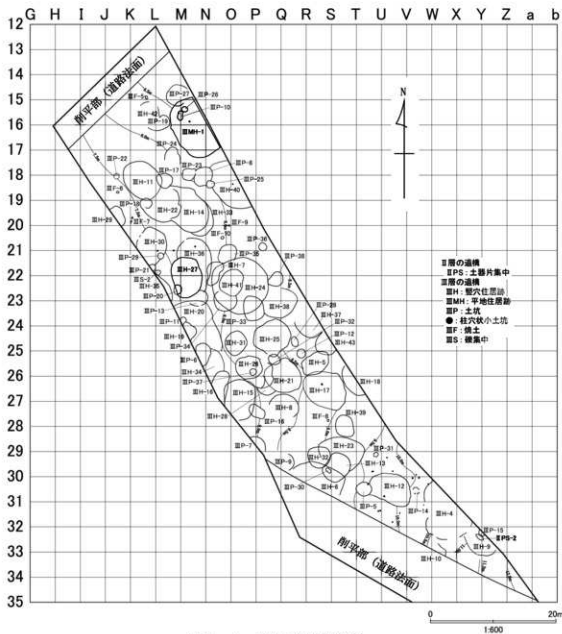
位置 X32区 平面形態 長楕円形

規模 1.45×0.68m

確認・調査 X32区の調査中、Ⅱ層が皿状にくぼんだ地形内から土器片がまとまって出土したので、土器片集中ⅡPS-2として出土状況を記録した。その後の調査によって、ⅡPS-2は北筒式期の竪穴住居跡ⅢH-9のくぼみを覆うⅡ層中に残されたものであることがわかった。

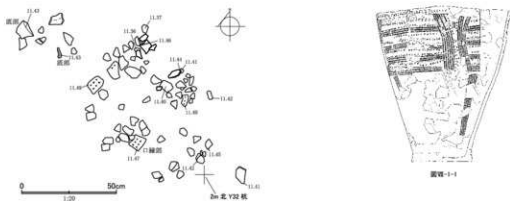
遺物出土状況 土器片は132点を数え、残存状態は良い。すべてⅥ群で、同一個体とみられる口縁～底部破片が出土した。

時期 土器片がⅥ群の後北C₂-D式であることから、続縄文時代後葉である。(山中)



図V-1 B地区遺構位置図

IPS-2



図V-2 IPS-2

3. Ⅲ層の遺構 (図VI-3~107 表VI-1~8、10~20 図版10~72)

(1) 竪穴住居跡

ⅢH-4 (図VI-3~5 図版10・11)

位置 V~X 30~32区 平面形態 楕円形?

規模 (9.34)×(7.58)／(8.42)×(6.00)／0.79m

確認・調査 表土除去後、W31区を中心にⅡ層上面が皿状にくぼんでいる地点を確認した。調査区境界(土層断面A-A')とくぼみの長軸(土層断面B-B')にトレンチを入れたところ、床面とみられる平坦な面を検出したので、規模から住居跡と判断した。竪穴の南側では、覆土下位から床面直上にかけて炭化材が比較的多く出土しており、焼失住居跡と考えられる。なお、竪穴の約半分は調査区外にある。覆土出土の炭化材の放射性炭素年代測定を行い、¹⁴C年代で3520±20という測定値を得た(付篇1節参照)。また、覆土出土の炭化材2点について樹種同定を行い、モミ属とモクレン属と同定された(付篇3節参照)。

覆土 土層断面B-B'より東側は、摩周(Ma)バミスが多量に混じる暗褐色土(覆土2層)が断続的に見られた。暗褐色土を挟んだ上下(覆土1・3層)は、どちらも摩周バミスが混じる黒褐色土である。一方、土層断面B-B'より西側では覆土2層に相当する層が見られなかった。

床面・壁 床面は竪穴の南東部が北西に向かって緩く下がるが、それ以外は概ね平坦で、ほとんどがⅣ層中につくられる。壁は風倒木痕等でわからなくなっている部分も多いが、地形が低い北西側では皿状に、地形が高い南東側ではやや明瞭に立ち上がるようである。

付属遺構 焼土3か所(HF-1~3)、柱穴・杭穴27基(HP-1・2・6~8・12~33)を検出した。焼土は3か所とも床面で検出した。HF-1は掘りくぼめられた地床炉で、住居跡の西側に偏る。HF-2・3は住居跡の中央付近に位置する。柱穴・杭穴は深さが10cm程度のものから50cm弱のものまである。

遺物出土状況 遺物は244点(うち水洗選別18点)出土した。床面・床面直上からⅢ~Ⅳ群土器2点、石鏃2点、つまみ付きナイフ1点、剥片4点、礫4点が出土し、覆土からⅢ~Ⅳ群土器15点、Ⅳ群土器26点、Ⅴ群土器2点、石鏃4点、つまみ付きナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片87点、石核1点、磨製石斧1点、砥石3点、加工・使用痕ある礫1点、礫55点、石製品1点が出土し、掘土からⅢ~Ⅳ群土器3点、剥片6点が出土した。またHF-1から剥片11点(うち水洗選別9点)、HF-2から二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片8点(いずれも水洗選別)、HP-1の覆土から剥片2点、HP-12の覆土から礫1点が出土した。覆土中から散発的に出土したものが大部分である。

時期 出土遺物より縄文時代後期前葉である。(山中)

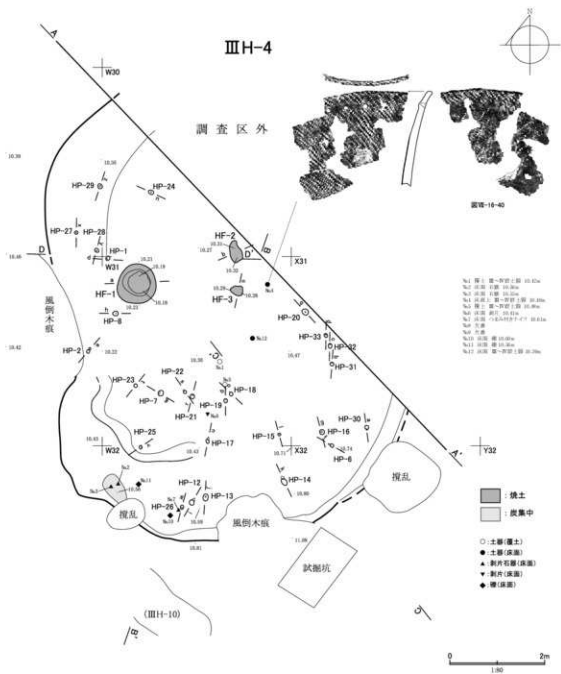
ⅢH-5 (図VI-6 図版12)

位置 Q・R 25区 平面形態 不整楕円形

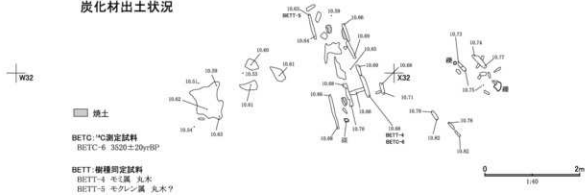
規模 4.90×3.15／3.91×2.58／0.86m

確認・調査 R25区のⅣ層上面で精査中に楕円形の黒色土のまとまりを確認した。楕円形の中心を通るように十字状のトレンチを設定し掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため竪穴住居跡と判断した。平面は不整楕円形状で底面の南西側は一段低くなる段構造がみられる。また、覆土中位で刃跡と考えられる焼土(HF-1)を検出したため、構築面を埋めて床面を作っていると考えられる。

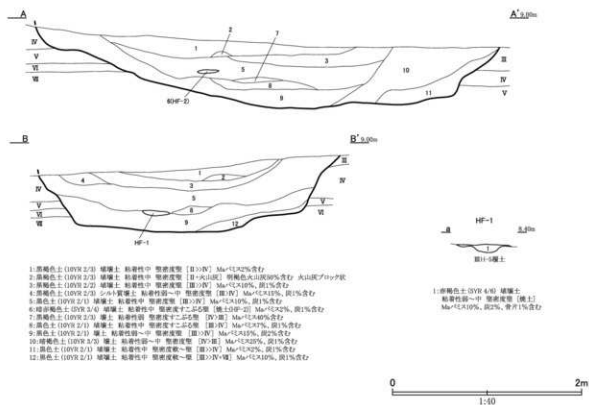
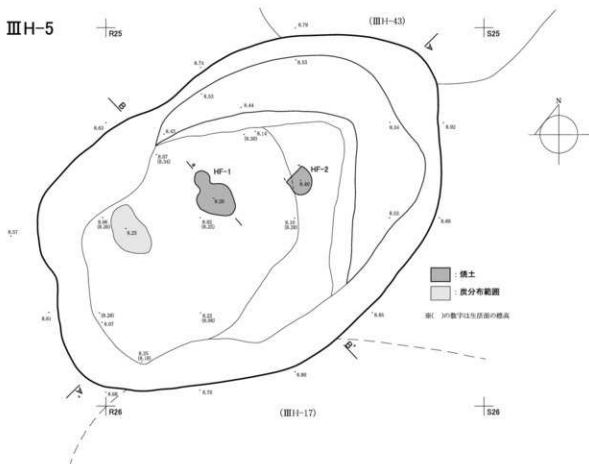
覆土 12層に分けた。下位の層(8~12)は人為的に埋戻した土層と考えられるが、南西側の土層



炭化材出土状況



図Ⅴ-3 ⅢH-4(1)



図VI-6 III H-5

(10・11)は埋戻しかどうか不明である。上位の層(1~5・7)は自然堆積、もしくは周囲の遺構の掘上土の可能性がある。覆土は全体的に暗褐色~黒色を呈し、摩周バミスと少量の炭化物が混ざる。

床面・壁 構築面は段があり、全体的に凹凸がある。HF-1を確認した面が床面と考えられる。壁の立ち上がりは北西側が急角度で、それ以外は比較的緩やかである。

付属遺構 覆土中で焼土2か所(HF-1・2)を検出した。HF-1は炉跡焼土と考えられる。平面は不整の楕円形で、厚さは約10cmで細かい炭化物や骨片がみられる。

遺物出土状況 遺物は覆土から363点出土した。Ⅲ群土器2点、Ⅲ~Ⅳ群土器79点、Ⅳ群土器41点、Ⅴ群土器1点、石鏃4点、石槍・ナイフ2点、両面調整石器2点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片163点、磨製石斧1点、石鋸1点、砥石6点、礫58点が出土した。

時期 覆土出土遺物より縄文時代中期後葉~後期前葉と考えられる。

(広田)

ⅢH-6 (図VI-7~9 カラー図版5 図版13・14)

位置 Q-S 29・30区 **平面形態** 不整楕円形

規模 (8.46)×(3.44)／(7.97)×(3.09)／(0.88)m

確認・調査 R30区のⅢ層調査中に焼土及び炭化材片を検出したため、周辺を精査し範囲を確認し、調査区壁際にトレンチを設定し掘り下げた。その結果、焼土及び炭化材のまとまりを検出したため、焼失住居跡と判断した。焼失に伴う焼土は中央付近で広範囲に分布している。炭化材は北東側を除き密に分布し、長さ20cm以上の大型のものも多数みられた。炭化材等の調査後、覆土を掘り下げ構築面を検出したが、中央付近から北西側にかけて一段低くなる段構造がみられた。本遺構は北側で、ⅢH-13・32、ⅢP-30と重複しているため、北側の範囲が不明瞭で、炭化材も確認できなかった。遺構の新旧関係はⅢH-6が最も古く、ⅢH-13、ⅢH-32の順で新しい。ⅢP-30との新旧は不明である。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,900±30であった(付篇1節参照)。覆土出土の炭化材20点について樹種同定を行い、キハダ、ヤナギ属、トネリコ属シオジ節、コナラ属コナラ節他と同定された(付篇3節参照)。

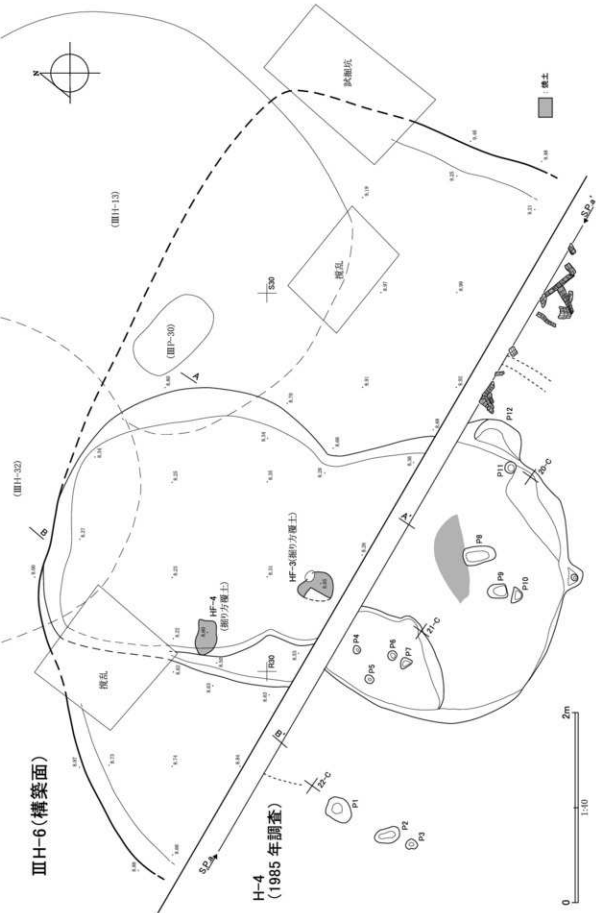
なお、本遺構の南西側は、昭和60(1985)年調査で住居跡「H-4」として確認されており、今回と合わせて全体の調査ができたことになる。1985年調査ではⅣ層上面で本遺構を検出しており、覆土中の焼土と炭化材の大部分を削平している。床面下の構築面は、今回の調査とほぼつながり、双円形状の平面となる。また、構築面の範囲内外で土坑や柱穴が確認されている。

覆土 覆土の土層断面は中央側(A-A')と北西側(B-B')の2か所で観察した。上位は黒色~暗褐色を呈し、黒色土が主体で摩周バミス、焼土、炭化物等が混ざる土層で、下位はⅣ層主体の暗褐色~褐色土と、黒色土主体の黒~黒褐色土の薄い土層が互層状に堆積している。

焼失に伴う焼土、炭を含む層は覆土上位のみのため(中央側:1~5層、北西側:1~3層)、これらの層の直下が床面と推定される(中央側:6層上面、北西側:4層上面)。床面より下の層は構築面を埋め戻した土層と考えられる。また、掘り方覆土中ではほぼ同じ高さで焼土を2か所(HF-3・4)検出しているため、この面(中央側:7層直下、北西側:6層直下)も生活面の可能性がある。

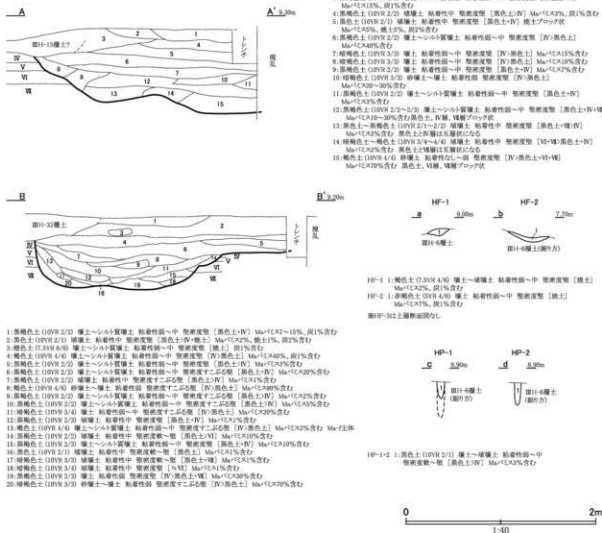
床面・壁 HF-1・2を確認した焼土・炭化物層直下が床面である。床面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。構築面は、住居跡北西側に大型の掘り込みがみられ、床面から30~50cm程度深くになっている。北東側の床面及び壁は他遺構の重複のため不明瞭である。

付属遺構 焼土2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴2基(HP-1・2)を検出した。HF-1・2は床面で確認した。HF-2は炉跡焼土と考えられ、HF-1もその可能性がある。HP-1・2は



ⅤH-8 ⅢH-6 (2)

III H-6



図VI-9 III H-6(3)

床面で確認した小型のもので、形状・規模が類似する。

遺物出土状況 遺物は375点出土した。床面からⅢ～Ⅳ群土器110点、剥片1点、礫3点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器26点、Ⅳ群土器4点、Ⅴ群土器3点、分類不明土器3点、石鏃3点、石槍・ナイフ3点、両面調整石器3点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片125点、磨製石斧2点、石鋸1点、砥石1点、礫79点が出土し、掘り方の覆土から剥片1点が出土した。またHP-1の覆土から礫1点が出土した。

時期 床面出土遺物から縄文時代中期後葉北筒Ⅱ式土器の時期と考えられる。(広田)

ⅢH-7 (図VI-10 図版15)

位置 N 21・22区 平面形態 不整楕円形

規模 4.01×2.46/3.66×2.26/0.70m

確認・調査 ⅢH-24調査時に、重複する遺構として検出した。試掘調査時の試掘坑で遺構として確認されていた。ⅢH-24・30と重複し、ⅢH-30より古く、ⅢH-24との新旧は不明である。平面形状は不整楕円形で、住居跡として規模も小型だが、覆土中から炉跡焼土を検出したため、住居跡と判断した。構築面を埋め戻して床面を作っているのか、堅穴のくぼみを利用したかは不明である。

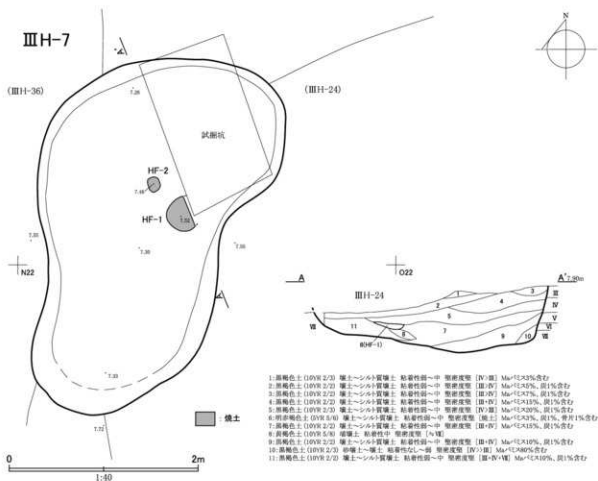
覆土 11層に分けた。黒色土とⅣ層が混じる土層である。

床面・壁 HF-1を確認した面(7層上面)が床面と考えられる。黒色土にⅣ、Ⅴ層が混ざる黒褐色の土層で、細かい炭化物を微量含むものが多い。6層はHF-1の焼土層で炭化物と骨片を微量含む。

付属遺構 覆土中で焼土2か所(HF-1・2)を検出した。HF-1は細かい炭化物と骨片が混ざる焼土で炉跡焼土と考えられる。HF-2はごく薄い焼土で土層断面図は作成していない。

遺物出土状況 遺物は覆土から41点出土した。Ⅱ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器17点、Ⅳ群土器2点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片10点、加工・使用痕ある礫1点、礫6点が出土した。

時期 遺構の重複関係、覆土出土の遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉である。(広田)



図VI-10 ⅢH-7

ⅢH-8 (図VI-11・12 図版15・16)

位置 P・Q26・27区 平面形態 楕円形?

規模 4.78×(3.19)/4.10×(2.46)/0.10m

確認・調査 Q27区周辺のⅡ層を掘り下げ、Ⅲ層上面を検出したところ、Q26・27区周辺が楕円形に浅くくぼみ形状となった。そのためくぼみの中心を通るように十字にトレンチを設定した。その結果、床面と壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡と判断した。南側約1/4を自然の攪乱で壊されている。他遺構との重複はない。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,520±20であった(付篇1節参照)。

覆土 7層に分けた。上位の層(1・2)は黒色土とⅡ層が混ざった土層で、3層はT a-cである。下位の層(4~7)は主に黒色土とⅣ層が混ざる土層である。

床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は急角度で直線的に立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所(HF-1)、床面で柱穴・杭穴3基(HP-1~3)を検出した。HF-1は北西側の覆土中で確認した。平面は楕円形状で、長径約20cmと小型だが、厚さは約10cmと厚みがある。HP-1~3は小型で、形状や規模が類似する。長径は約6cmで深さは7~10cmである。HP-1・2は近接し、HP-3は約1.3m離れている。小型だが位置や形状から柱穴と考えられる。

遺物出土状況 遺物は488点出土した。床面・床面直上からⅢ~Ⅳ群土器5点、Ⅳ群土器1点、剥片1点が出土し、覆土からⅡ群土器2点、Ⅲ~Ⅳ群土器120点、Ⅳ群土器84点、Ⅴ群土器48点、石礫3点、石槍・ナイフ8点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片9点、剥片94点、磨製石斧4点、たたき石3点、石鋸1点、砥石3点、原石1点、礫99点が出土した。覆土下位からⅢ~Ⅳ群土器の大型破片が出土し、復元した土器が3個体ある。

時期 覆土出土遺物等より縄文時代後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-9 (図VI-13・14 図版17)

位置 X・Y32・33区 平面形態 楕円形?

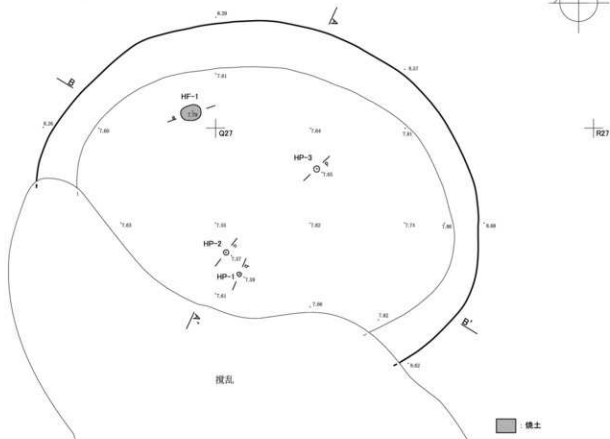
規模 (5.03)×(3.56)/(4.93)×(3.44)/0.32m

確認・調査 X32区からY32区にかけて、Ⅱ層が皿状にくぼんでいるのを確認した。くぼみ内で検出した続縄文時代後葉の土器片集中(ⅡPS-2)を取り上げてから、調査区境界に沿ってトレンチを入れたところ、床面とみられる比較的平坦な面を検出したので、規模から住居跡と判断した。覆土下位から床面直上にかけて炭化材が比較的多く出土していることから、焼失住居跡と考えられる。緩斜面に構築されていることもあって、斜面下側(北西側)の範囲がわからなかった。また、斜面上側(南西側)についても風倒木痕等の攪乱が多く、おおよその範囲しか把握できなかった。したがって、竪穴の範囲の大部分は炭化材の出土位置からの推定で、ⅢH-4との重複関係はわからなかった。なお、竪穴の約半分は調査区外にある。この他、トレンチ調査中にⅢP-15を確認した。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,460±20であった(付篇1節参照)。覆土出土の炭化材4点について樹種同定を行い、コナラ属コナラ節、カバノキ属、ニレ属と同定された(付篇3節参照)。

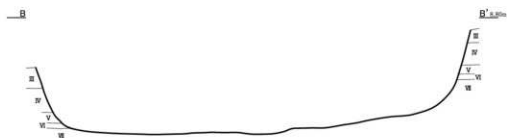
覆土 1層は摩周バミスが多量に混じる黒褐色土で、2層はⅢP-15を覆う黒色土である。東壁付近の床面上では、焼土と黒褐色土が混在した部分が認められる。住居跡焼失時に形成されたものであろう。

床面・壁 床面は南東から北西に向かって緩く傾斜し、Ⅳ層のMa-i中につくられる部分もあるが、大半はⅤ層を床面とする。壁は風倒木痕等の攪乱でわからなくなっている部分が多いが、出土した炭化材の傾き具合からみて、地形が高い南側ではやや明瞭に、地形が低い北西側(ⅢH-4側)では皿状もしくは平坦であった可能性がある。

III H-8



1. 赤褐色土 (0.0V 2/0) シルト質礫土 粘着性弱～中 堅硬度強 (黒土・Ⅲ)
2. 赤褐色土 (0.0V 2/0) 礫層土 粘着性中 堅硬度強 (黒土・Ⅲ) 炭1%含む
3. 明黄褐色土 (0.0V 6/0) シルト質礫土 粘着性弱～中 堅硬度強 (黒土・Ⅳ) Ma/Fe2O3% 炭1%含む
4. 赤褐色土 (0.0V 2/0) 礫層土 粘着性弱～中 堅硬度強 (黒土・Ⅳ) Ma/Fe2O3% 炭1%含む
5. 赤褐色土 (0.0V 2/0) 礫層土 粘着性中 堅硬度強 (黒土・Ⅳ) Ma/Fe2O3% 炭2%含む
6. 赤褐色土 (0.0V 2/0) 礫層土～シルト質礫土 粘着性弱～中 堅硬度中～弱 (Ⅳ) 赤土上層) Ma/Fe2O3% 炭1%含む
7. 赤褐色土 (0.0V 3/0) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度強 (Ⅳ) 赤土上層) Ma/Fe2O3% 炭1%含む



HP-1
1. 赤褐色土 (0.0V 4/0) 礫層土 粘着性中 堅硬度強 (黒土) 炭1%, 骨片1%含む

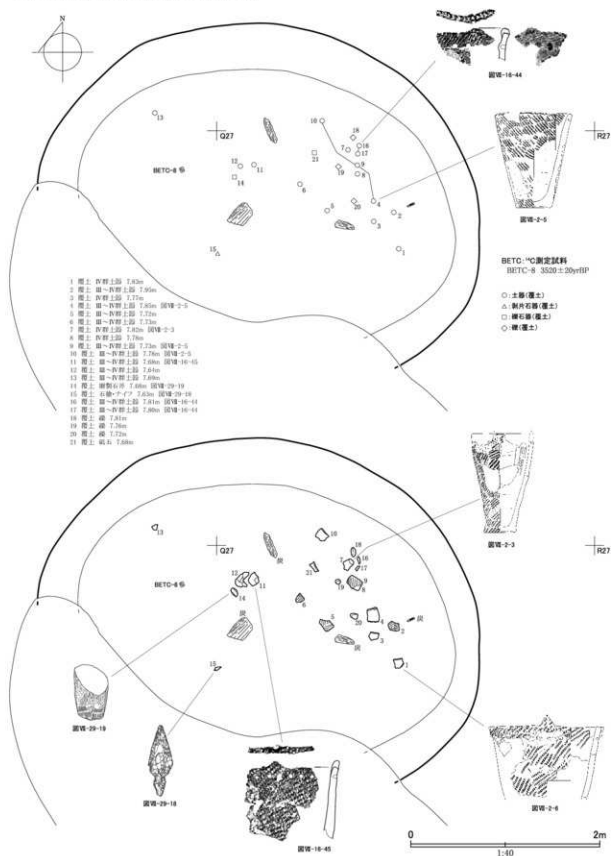


- HP-2
HP-3
HP-4
HP-4
HP-4
HP-4



図VI-11 III H-8 (1)

ⅢH-8 遺物出土状況図(覆土)



図Ⅵ-12 ⅢH-8(2)

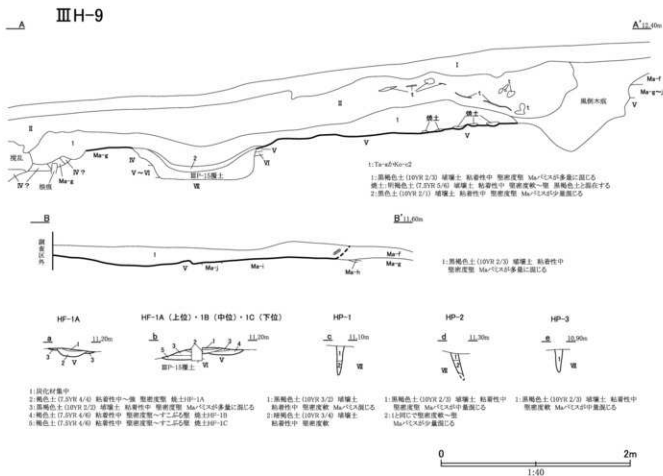


図Ⅳ-13 ⅢH-9(1)

付属遺構 焼土1か所(HF-1A~1C)、柱穴・杭穴3か所(HP-1~3)を検出した。焼土は床面で検出し、住居跡の中央部に位置するようである。3枚の焼土が重複しており、上位のものをHF-1A、中位のものをHF-1B、下位のものをHF-1Cとした。いずれも同程度の大きさである。1Aの上面には炭化材の集中が認められ、1Aと1B・1Cの間には黒褐色の薄層が堆積する。柱穴・杭穴のうち、HP-1・2は床面、HP-3はⅢP-15の坑底面で検出した。先端はいずれも尖っており、HP-1・3は垂直、HP-2は南側に傾く。

遺物出土状況 遺物は43点出土した。覆土中から散発的に出土したものが多い。床面・床面直上からⅢ~Ⅳ群土器3点、石鏝1点が出土し、覆土からⅣ群土器4点、石鏝2点、剥片28点、砥石1点、礫4点が出土した。

時期 周囲の遺構や床面の土器等から縄文時代中期後葉~後期前葉である。(山中)



図VI-14 III H-9 (2)

III H-10 (図VI-15 図版18)

位置 W32・33区 平面形態 不明

規模 (2.02) × (1.04) / (1.97) × (0.96) / 0.29 m

確認・調査 III H-4の南側でII層上面がくぼんでいるのを確認した。III H-4のB-B'トレンチを延長し、その周辺の土層断面等を観察したところ、平坦な床面と立ち上がりを検出したので、推定される規模から竪穴住居跡と判断した。北西側は風倒木痕で壊されており、南側は調査区域外にのびるため、検出できたのは北東側の一部分だけである。

覆土 1層のみで、摩周パミスが多量に混じる黒褐色土である。

床面・壁 床面は平坦で、IV層中に造られる。壁の立ち上がりは外側に傾く。

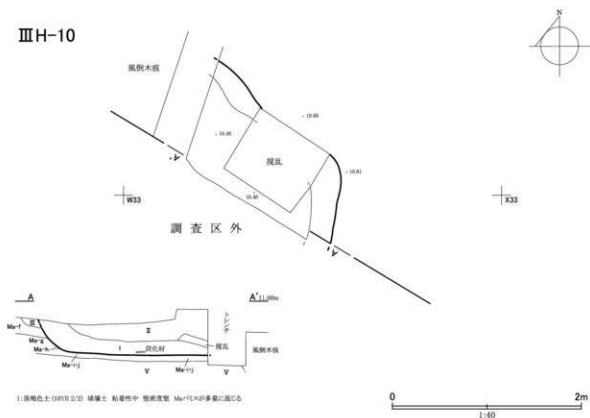
付属遺構 検出されなかった。

遺物出土状況 覆土から礫が4点出土した。

時期 確認状況がIII H-4・9と同じであることなどから、縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。

(山中)

ⅢH-10



図VI-15 ⅢH-10

ⅢH-11 (図VI-16~21 カラー図版3 図版18~20・24)

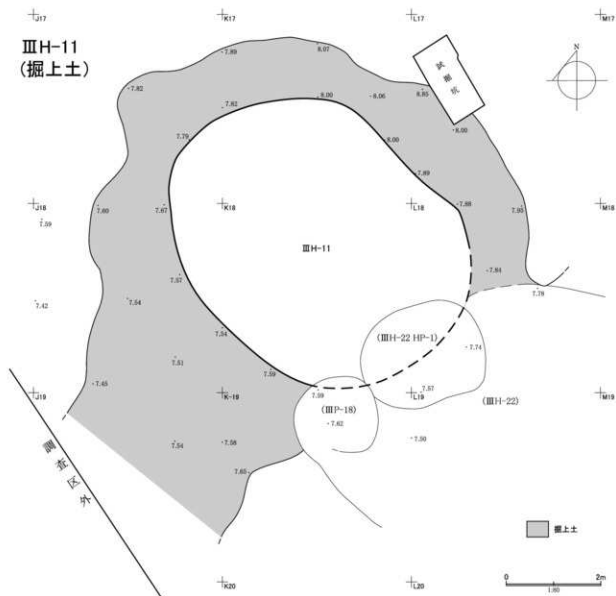
位置 J~L 17~19区 平面形態 楕円形

規模 (6.62)×5.29/(5.60)×4.58/0.74m

確認・調査 Ⅲ層上面までの掘り下げ中、Ⅱ層の広がりを検出した。トレンチ調査を行ったところ、底面と焼土、壁の立ち上がりを確認した。焼土は同一面ではなく、それぞれ覆土の異なる面から検出された。十字の土層観察用のバルトを残して周囲の覆土を掘り下げたところ、緩やかに傾斜する平坦面を複数回検出した。下層のうち、しまりの強い面（8層上面）で複数の焼土を検出しており、後にこの面が床面であると判断した。さらに掘り下げ、底面と柱穴・杭穴群を検出し、凹凸による高低差があるものの一軒の竪穴住居跡と判断した。

当遺構の南東側にⅢH-22、ⅢP-17・18が重複し、ⅢH-22・ⅢP-17→当遺構→ⅢP-18の順に新しい（ⅢH-22・ⅢP-17の新旧は判然としない）。HF-1炭化物層出土の炭化物の¹⁴C年代は3,720±30であった（付篇1節参照）。

覆土・掘上土 覆土は断面で14層に分けた。住居跡中央部はⅡ層が浅く落ち込んでいる。覆土の上位（1層）はⅢ層主体の自然堆積土で、中位（2~6層）は摩周バミスをやや多く含む黒褐色~暗褐色土で、流入土と考えられる。これらのうち壁寄りに堆積する3層はⅦ層ロームを主体とする。下位（7~10層）、特に8・9層は摩周バミスを多量に含む暗褐色土で、しまりが強い。7・8層上面の一部には、炭化木片の薄層が分布する。最下層の10層はロームを主体とする。壁際の11~14層は、摩周バミスを少量含むⅢ層主体の土壌（12・14層）にローム主体（11層）や摩周バミス主体（13層）の土壌を挟み、



図VI-16 III H-11(1)

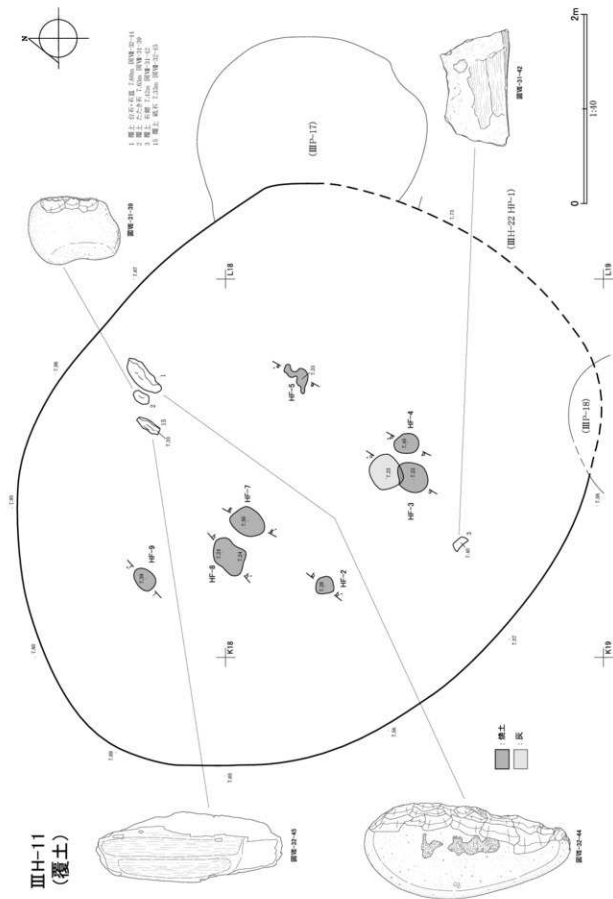
壁面崩落土や流入土と考えられる。

また竪穴の周囲に、幅1~1.5mの範囲で掘上土が広がっている。摩周バミスヤロームが濃淡をもつ黒褐色~暗褐色の土壤で、南西側はさらに広範囲に薄く広がる。南東側はIII H-22の覆土上面に流入している。

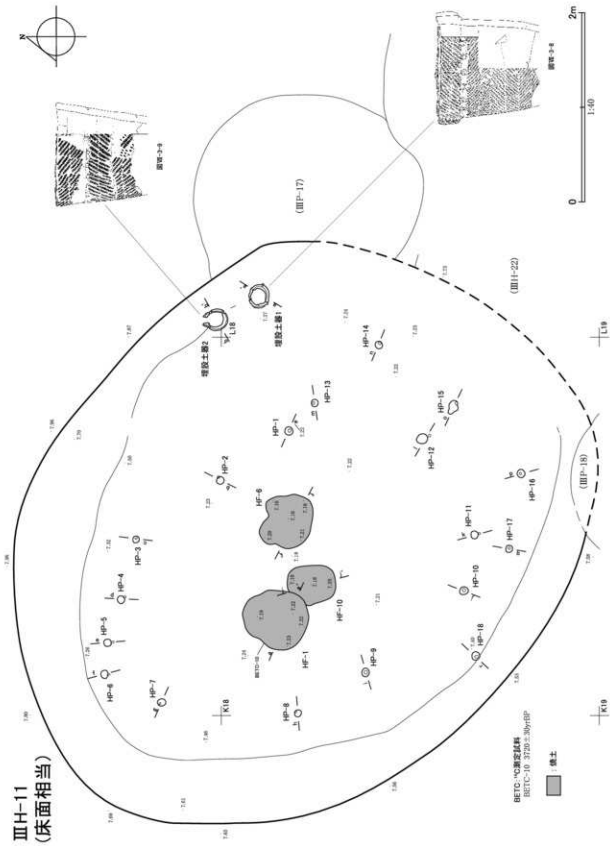
床面・壁 竪穴底面はⅦ層を深く掘り込んでおり、段を有して皿状に浅くくぼみ、凹凸がみられる。床面はこの窪みを埋め戻して構築していると考えられ、覆土下位の平坦面(7・8層上面等)と推測される。壁はやや急に立ち上がるが、中位~上位は緩やかで、崩落が進んでいると考えられる。

付属遺構 覆土中で焼土7か所(HF-2~5・7~9)、床面相当で炉跡焼土3か所(HF-1・6・

ⅢH-11
(覆土)

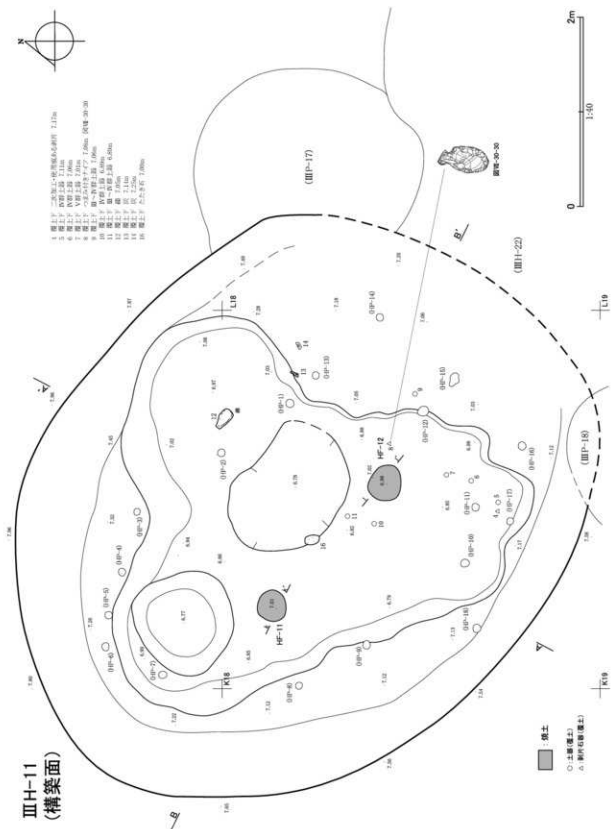


图Ⅲ-17 ⅢH-11(2)



ⅢH-11(3)

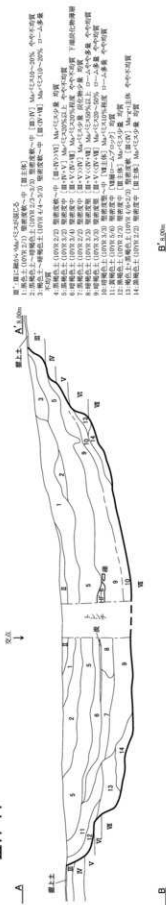
ⅢH-11 (構築面)



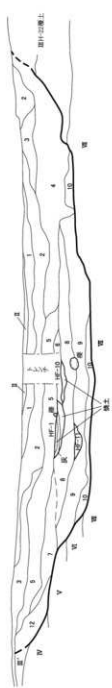
- 1 掘上ノ 二水堀・中堀の中心線付 1.15m
- 2 掘上ノ 内堀上縁 2.10m
- 3 掘上ノ 外堀上縁 2.10m
- 4 掘上ノ 内堀下縁 1.80m
- 5 掘上ノ 外堀下縁 1.80m
- 6 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m (内堀 2.00-2.00)
- 7 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m (内堀 2.00-2.00)
- 8 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m (外堀 2.00-2.00)
- 9 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m (外堀 2.00-2.00)
- 10 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m
- 11 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m
- 12 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m
- 13 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m
- 14 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m
- 15 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m
- 16 掘上ノ 二水堀上縁付 1.80m
- 17 掘上ノ 二水堀下縁付 1.80m

図Ⅵ-19 ⅢH-11(4)

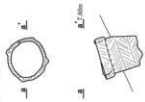
III H-11



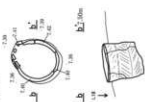
—B—



埋設土器1



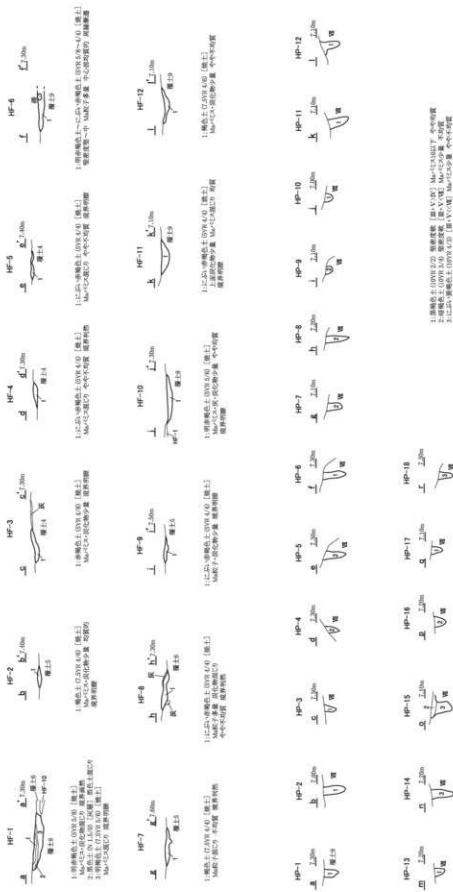
埋設土器2



0 1:50 50cm

図VI-20 III H-11(5)

III H-11



0 2m
1:40

圖 VI-21 III H-11(6)

10)、床下の覆土で焼土2か所(HF-11・12)を検出した。床面および床下で柱穴・杭穴18基(HP-1~18)を検出した。また埋設土器2か所を検出した。

覆土の焼土は、住居跡中央よりも周辺部の複数の面から検出された。径30cm前後の小型でぶい赤褐色を呈するものが多い。床面相当で検出した焼土は、径60cm前後のほぼ楕円形で、明赤褐色を呈し強く被熱している。焼土と周辺に細かい炭化木片がみられる。

柱穴・杭穴群のうち、1基(HP-1)は床面相当、残りは堅穴底面まで掘り下げてから検出した。HP-1~13は壁寄りにあり、楕円形に一巡して配置されている。径8cm前後、深さは検出面から最深26cmで先端が尖るものが多い。HP-14~18は住居跡東~南部のさらに壁際にあり、弧状に配置されている。径8cm前後、深さは前者より浅く、先端が丸みを帯びるものが多い。

埋設土器2個体は、住居跡東部の壁際付近に位置し、約30cmの間隔をあけて出土した。うち埋設土器1は、北筒Ⅲ式の深鉢土器一個体で底部を欠く。ⅢP-17の覆土を掘り込み埋設されているため、口縁部~胴上部が床面より上位にある。土器内の覆土は、堅穴覆土4層に近似する。埋設土器2は、ⅢH-11の調査後、L18方眼杭部分下に残存していた土層を掘削したところで検出した。北筒Ⅲ式またはⅣ式の深鉢土器一個体で底部を欠く。床下のⅦ層を掘り込み埋設されるものの、口縁部の一部が床面より上位にある。土器内の覆土の大部分は、堅穴覆土9層に近似する。

遺物出土状況 遺物は土器・石器等540点(うち水洗選別14点)出土した。覆土からⅡ群土器5点、Ⅲ群土器9点、Ⅲ~Ⅳ群土器37点、Ⅳ群土器17点、Ⅴ群土器2点、石鏃2点、石槍・ナイフ9点、石錐1点、両面調整石器6点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕ある剥片14点、剥片159点、石核4点、原石1点、磨製石斧4点、たたき石10点、石鋸2点、砥石9点、台石・石皿1点、加工・使用痕ある礫6点、礫157点が出土し、床下覆土からⅢ~Ⅳ群土器11点(水洗選別による)が出土した。またHF-1から分類不明土器3点(水洗選別による)のほか、埋設土器2個体66破片が出土した。北東部の覆土上位で、大型の砥石1点と大型の礫2点がまとまって出土した(図VI-17)。

時期 埋設土器等の出土遺物や切り合い関係から、縄文時代後期前葉北筒Ⅲ式期とみられる。

(阿部)

ⅢH-12 (図VI-22・23 図版21)

位置 T29・30、U29~31、V30・31区 平面形態 不整楕円形

規模 7.08×(5.09)/6.70×4.30/0.48m

確認・調査 U30区周辺でⅡ層上面が皿状にくぼんでいるのを確認した。Ⅱ層を掘り下げた後、くぼみにトレンチを入れたところ、床面とみられる比較的平坦な面を確認し、その面で焼土を検出したので、堅穴住居跡と判断した。西側の範囲がわかりづらく、ⅢP-5と重複するが前後関係は不明である。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,460±20である(付篇1節参照)。

覆土 1・3~5層は摩周バミスが多量に混じる黒褐色土で、2層はMa-a-fを主体とする。6層は摩周バミスの少ない黒色土で、自然層のⅢ層の可能性も残る。

床面・壁 床面はⅣ層中につくられ、緩い段差がある。最も高い東側と最も低い西側の高低差は約20cmを測る。壁の立ち上がりは南側が皿状であるが、北・東側は明瞭に立ち上がる。

付属遺構 覆土上位で焼土2か所(HF-1・2)を検出し、床面で炉跡焼土2か所(HF-3・4)、柱穴・杭穴4基(HP-1・3~5)を検出した。HF-1・2の上面には微細な骨片がみられ、周囲では礫片が目についた。HF-3・4は床面の地床炉で、堅穴の中央よりやや南東側に位置する。柱

穴・杭穴のうち、HP-1は覆土中、HP-3・4は床面で検出した。先端はいずれも尖っており、HP-1は北側に傾き、3・4は垂直さみである。なお、HP-5は堅穴内で検出したため付属遺構の名称を付けたが、周囲で検出された柱穴列(ⅢSP-1・2・16・17等)の一部と考えられる。

遺物出土状況 遺物は372点(うち水洗選別1点)出土した。床面・床面直上からⅣ群土器170点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、スクレイパー1点、剥片4点、砥石1点、礫2点が出土し、覆土からⅠ群土器2点、Ⅲ～Ⅳ群土器10点、Ⅳ群土器32点、Ⅴ群土器23点、Ⅵ群土器2点、分類不明土器3点、石鏃3点、石槍・ナイフ1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片51点(うち水洗選別1点)、磨製石斧1点、砥石1点、礫52点が出土した。またHF-1から礫1点、HF-2から礫2点、HF-4からⅢ～Ⅳ群土器5点が出土した。HF-3のすぐ東側(Na1)と南東部の壁際(Na2)では、大形の土器片が2個体まとまって出土した(図Ⅷ-4-10・11)。

時期 床面の土器から縄文時代後期前葉北筒Ⅳ～Ⅴ式期である。(山中)

ⅢH-13(図Ⅷ-24～26 図版22)

位置 R・S 29・30区 **平面形態** 不整楕円形

規模 4.11×3.82/3.86×3.42/0.88m

確認・調査 ⅢH-6の北東側調査時に別の遺構の覆土を確認したため、周辺を精査しトレンチ調査を行った。その結果、床面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。平面は楕円形と推定されるが、他遺構との重複により北西～南側にかけての形状が不明瞭である。当初は土坑と考えていたが、底面付近で焼土(HF-1)を確認したこと、北東側でⅦ層の土がごく薄く分布し、貼床状の構造がみられたことから堅穴住居跡と判断した。床面調査後、貼床状の土層を掘り下げたところ、円形の浅い掘り込みを確認した。この掘り込みは最初の構築面で、これを埋めて床面を作っていると考えられる。本遺構はⅢH-6・23・32、ⅢP-30と重複し、新旧は土層断面の観察等から、ⅢH-6が最も古くⅢH-23、ⅢH-13、ⅢH-32の順で新しくなる。ⅢP-30との新旧は不明である。

覆土 15層に分けた。覆土は大きく上位(1～8)と下位(9～15)に分けられる。貼床状の土層はⅦ層の土が主体で、7・8層の直下にごく薄くある。それより下位は構築面を埋め戻した土層と考えられる。土層は黒色、黒褐色が多く、黒色土とⅣ層が混ざり、全体的に炭化物を微量に含んでいる。

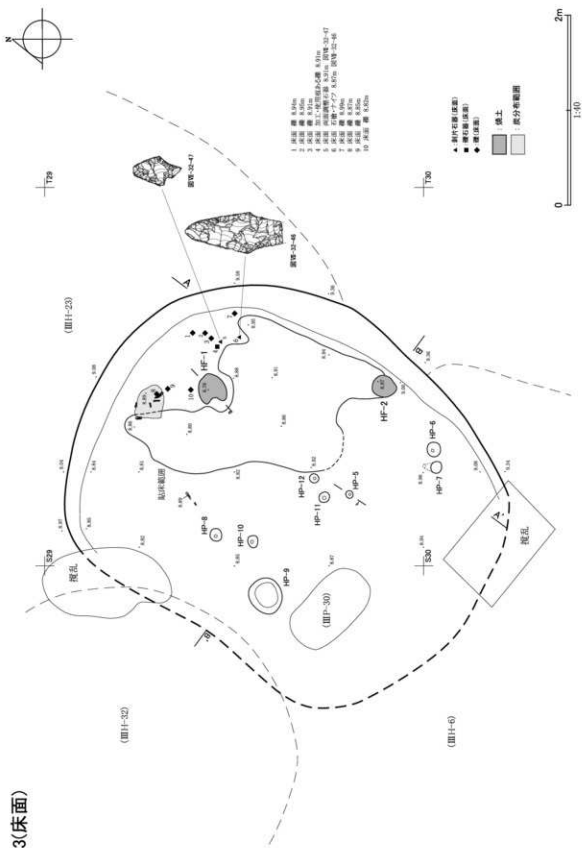
床面・壁 床面は構築面を埋めて作り、部分的に貼床状の構造がみられる。壁は北西～南西側は不明瞭だが、床面から連続的に湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土2か所(HF-1・2)、土坑1基(HP-9)、柱穴・杭穴11基(HP-1～8、10～12)を検出した。HF-1・2は床面で検出し、HP-1は北東側に位置し、炭化物、骨片を伴うため炉跡焼土と考えられる。HF-2は焼土粒の集中でごく薄い。柱穴・杭穴は検出層位が床面(HP-5～8、10～12)と構築面(HP-1～4)に分かれる。位置は2～3個が近接するものが多く、規模はHP-1～4がやや大きい。また、本遺構は多くの遺構と重複しているため、他遺構に付属する柱穴・杭穴が混ざっている可能性もある。

遺物出土状況 遺物は251点出土した。床面から石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、剥片1点、加工・使用痕ある礫2点、礫15点が出土し、覆土からⅠ群土器2点、Ⅲ～Ⅳ群土器13点、Ⅳ群土器8点、Ⅴ群土器10点、石鏃1点、両面調整石器1点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕ある剥片5点、剥片117点、磨製石斧1点、たたき石1点、砥石2点、加工・使用痕ある礫1点、礫62点が出土した。またHF-1から剥片3点、礫1点が出土した。床面出土は焼土周辺が多い。

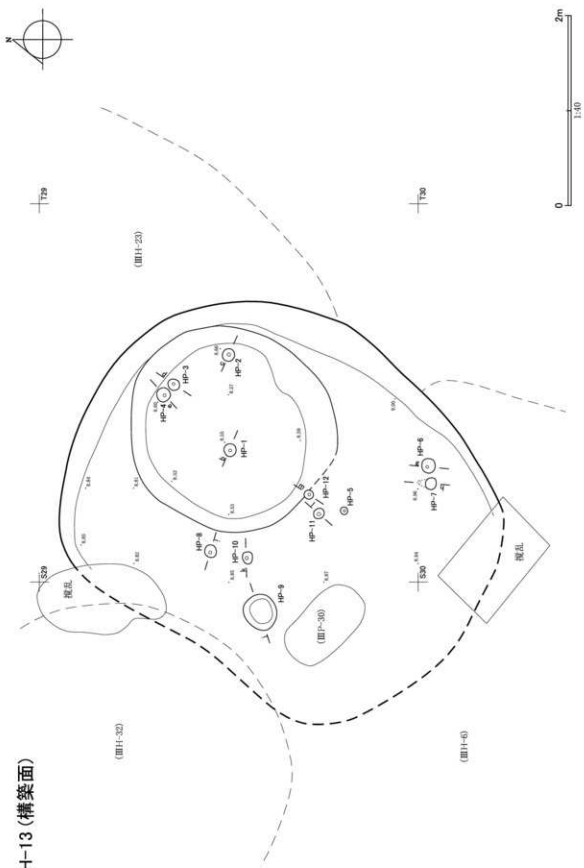
時期 覆土出土遺物や遺構の重複関係より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-13(床面)



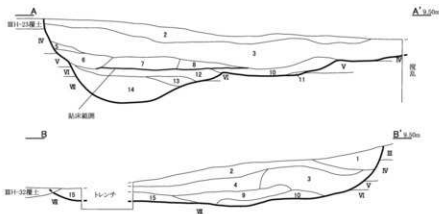
図VI-24 ⅢH-13(1)

III-H-13 (構築面)



図VI-25 III-H-13(2)

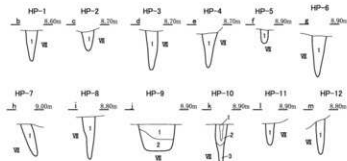
ⅢH-13



1. 黒褐色土 (DPVR 3/3) シルト質礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (Ⅷ層) Ma²Ca15%含む
2. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (黒色土-B・D) Ma²Ca3%, 炭1%含む
3. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (黒色土-F) Ma²Ca13%, 炭1%含む
4. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca30%, 炭1%含む
5. 黒色土 (DPVR 2/1) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (黒色土-J) Ma²Ca3%, 炭1%含む
6. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca10%, 炭1%含む
7. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca3%, 炭1%含む
8. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (黒色土-K) Ma²Ca2%, 炭1%含む
9. 黒褐色土 (DPVR 2/2～2/3) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca30%, 炭1%含む
10. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (黒色土-N) Ma²Ca3%, 炭1%含む
11. 黒褐色土 (DPVR 4/0) 礫層土 粘着性中～強 堅硬度弱 (Ⅷ層) Ma²Ca1%含む
12. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中～強 堅硬度すこぶる弱 (黒色土-N) Ma²Ca10%, 炭1%含む
13. 黒色土 (DPVR 2/1) 礫層土 粘着性中 堅硬度すこぶる弱 (黒色土-P) Ma²Ca3～9%, 炭1%含む
14. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度すこぶる弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca60～80%, 炭1%含む
15. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中～強 堅硬度弱 (黒色土-R) Ma²Ca2%含む



HP-1 1: 黒色土 (DPVR 4/0) シルト質礫土 粘着性弱～中 堅硬度軟～弱 (Ⅷ層) Ma²Ca3%, 炭1%, 炭1%含む



- HP-1 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度軟～弱 (黒色土-R・N) Ma²Ca7%含む
- HP-2 1: 黒褐色土 (DPVR 3/3) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～弱 (Ⅷ・黒色土)
- HP-3 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca60%含む
- HP-4 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～弱 (黒色土-N) Ma²Ca3%含む
- HP-5 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～弱 (黒色土-N) Ma²Ca3%含む
- HP-6 1: 黒色土 (DPVR 2/1) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度弱 (黒色土-P・Ⅷ) Mg s 1～400%
- HP-7 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (黒色土・Ⅷ)
- HP-8 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～弱 (Ⅷ・黒色土) Ma²Ca多量に炭1%含む
- HP-9 1: 黒褐色土 (DPVR 3/3) 礫層土 粘着性中 堅硬度弱 (Ⅷ・Ⅷ) 炭1%中～多量に炭1%含む
- HP-10 1: 黒色土 (DPVR 4/0) 礫土 粘着性中 堅硬度弱 (Ⅷ・Ⅷ) 炭1%中～多量に炭1%含む
- HP-11 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫土 粘着性弱～中 堅硬度軟～弱 (黒色土・Ⅷ) Ⅱ-A&B s 1～200(10%)
- HP-12 1: 黒褐色土 (DPVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～弱 (黒色土・Ⅷ) Ⅱ-A&B s 1～400(10%)



Ⅸ-26 ⅢH-13(3)

ⅢH-14 (図VI-27~29 カラー図版3 図版23・24)

位置 L~N 18~20区 平面形態 楕円形

規模 (8.60)×6.04/(6.85)×4.62/0.65m

確認・調査 Ⅲ層上面までの掘り下げ中、Ⅱ層の広がりを検出した。「キ」の字に土層観察用のベルトを設定してトレンチ調査を行ったところ、底面と焼土、壁の立ち上がりを確認した。焼土は底面より上位にあり、同一面にロームや摩周バミスを多く含む薄層(覆土5層)があることから、この面を床面と想定して周囲の覆土を掘り下げ、平坦面と複数の焼土を検出した。諸記録を作成した後さらに掘り下げ、底面と柱穴・杭穴群を検出し、凹凸による高低差があるものの一連の遺構と判断し、堅穴住居跡とした。

当遺構の北西側にⅢH-22、南東側にⅢH-33がそれぞれ大きく重複し、ⅢH-33→当遺構→ⅢH-22の順に新しい。焼土上位出土の炭化物の¹⁴C年代は3630±20であった(付篇1節参照)。

覆土・掘上土 土層断面で12層に分けた。住居跡中央部~南部は、Ⅱ層が大きく落ち込み厚く堆積している。覆土の上位(2層)は摩周バミスを多く含む暗褐色~黒褐色土で、ローム主体の薄層(3層)をはさみ、中位~下位(4層)はさらに摩周バミスやロームを多く含む。住居跡南東部や中央部の一部に炭化物を多く含む薄層をはさんでいる。5層はロームを主体に摩周バミスを多く含む、床面直上に相当する。6~12層は住居跡中央部~南部の窪みから壁際に分布し、不均質なブロック状の土壤を主体とし、やや均質な黒褐色土をはさむ。床面を構築する際の埋め戻し土と考えられる。

なお土層断面A-A'の北東側半分は、調査中の大雨により崩壊し記録ができなかった。また当遺構の周囲に摩周バミスやロームが濃液をもって広がっており、これらが掘上土と考えられる。周辺遺構との切り合いが多く、掘上土の境界は不明瞭である。

床面・壁 底面は住居跡中央部~南部にかけて複数の段があり大きくくぼみ、全体的に凹凸が大きい。前述のとおりこれらを埋め戻して形成したと考えられる床面は、おおむね平坦である。床面に焼土が形成されている。壁は南部~東部ではゆるやかに、それ以外ではやや急に立ち上がる。壁の中位~上位はゆるやかに外傾する。

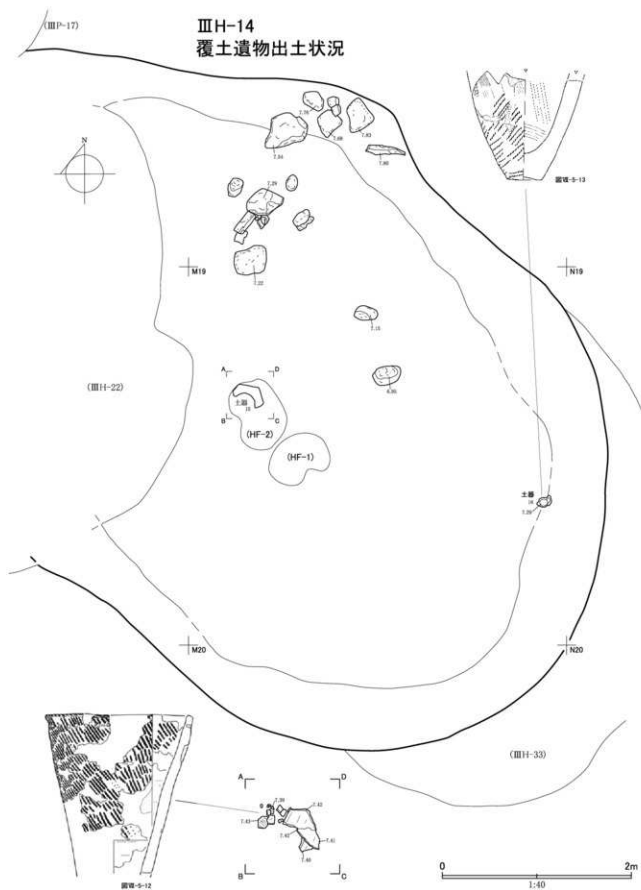
付属遺構 床面相当で炉跡焼土3か所(HF-1~3)、柱穴・杭穴9基(HP-1~9)を検出した。HF-1・2は住居跡中央部より若干南西よりに位置し、隣接する。径約70cmの不整楕円形、被熱層は最厚9cmで明赤褐色を呈し強く被熱している。HF-3はその北東側に位置し、窪みに向かってやや傾斜している。径約70cmの楕円形で、被熱層は最厚10cmあり赤褐色を呈しやや硬化している。柱穴HP-1~9は壁から0.5~1.0m内側に位置し、0.8~1.6mほどの間隔で一巡するように検出された。径7cm前後で先端が尖るが、深さには差がある。

遺物出土状況 遺物は517点出土した。床面直上から礫3点が出土し、覆土からⅡ群土器5点、Ⅲ~Ⅳ群土器40点、Ⅳ群土器184点、Ⅴ群土器3点、Ⅵ群土器1点、石鏃1点、石槍・ナイフ9点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片133点、磨製石斧2点、たき石1点、石鋸3点、砥石1点、礫127点が出土した。

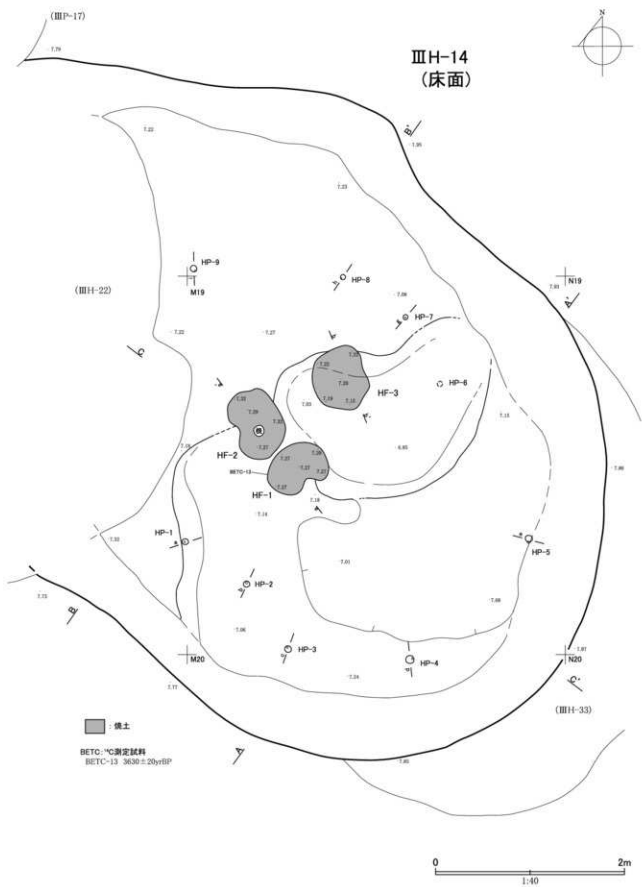
礫のうち31点は、住居跡北部壁際の覆土上位から中央寄りの床面にかけて出土した、砂岩や粗粒玄武岩の大型礫とその破片である。大きさ20~50cm、重さ最大約50kgを量る。住居廃絶のしばらく後に、堅穴のくぼみに投棄されたものと考えられる。また、覆土中位および下位にⅣ群土器のまともなものがみられた。

時期 出土遺物より、縄文時代後期前葉と考える。

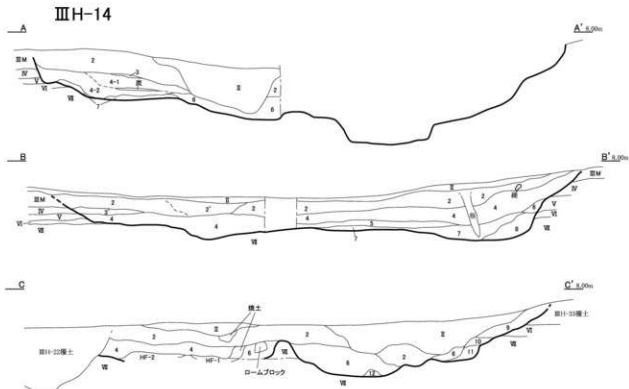
(阿部)



図VI-27 III-H-14(1)



図Ⅵ-28 ⅢH-14(2)



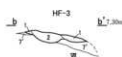
1. 黒褐色土 (09R 3/2) 堅硬度中 [Ⅱ主相] Ma⁺Fe⁺10%程度 中々均質
2. 黒褐色土 (09R 3/2) 堅硬度中 [Ⅱ-V+IV] Ma⁺Fe⁺20%以上 中々均質
3. 黒褐色土 (09R 3/2) 2.2均質
4. 褐色土 (09VR 4/0) 堅硬度軟 [Ⅱ+Ⅲ] Ma⁺Fe⁺少量 均質
5. 黒色土 (09VR 4/0) 3.2均質
6. 暗褐色土 (09R 3/4) 堅硬度中 [Ⅱ-V+IV] Ma⁺Fe⁺20%以上 中々均質 (Ma⁺Fe⁺の割合を以て区別した)
7. 黄褐色土 (09R 5/4) 堅硬度軟～中 [Ⅱ主相] Ma⁺Fe⁺少量含む 均質
8. 黒褐色土 (09R 2/2) 堅硬度軟～中 [Ⅱ-V+IV] Ma⁺Fe⁺10%程度含む 中々均質

9. 黒褐色土 (09VR 2/2) 堅硬度中 [Ⅱ-V+IV] Ma⁺Fe⁺少量含む 中々均質
10. 黒褐色土 (09VR 3/0) 堅硬度軟 [Ⅱ+Ⅲ] Ma⁺Fe⁺主相 不均質
11. 黒褐色土 (09VR 2/2) 堅硬度中 [Ⅱ-V+IV] Ma⁺Fe⁺10%以下 均質
12. 褐色土 (09VR 4/0) 堅硬度軟～中 [Ⅱ+Ⅲ] 粘土相を含む 不均質
13. 黒褐色土 (09VR 2/3) 堅硬度軟～中 [Ⅱ主相] Ma⁺Fe⁺少量 均質
14. 褐色土 (09R 4/0) 堅硬度軟～中 [Ⅱ主相] 黒色土に比べ 中々均質

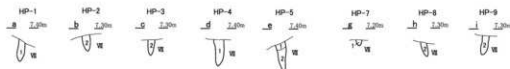


- HP-2
1. 暗赤褐色土 (09R 4/0) 堅硬度軟～中
 2. [Ⅱ土] Ma⁺Fe⁺量C9 均質 同線参照
 3. ⅡH-1402

- HP-1
1. 褐色土 (7.0VR 4/4) 堅硬度軟
 2. [Ⅱ土] 均質
 3. 暗赤褐色土 (09R 4/0) 堅硬度軟～中
 4. [Ⅱ土] Ma⁺Fe⁺量C9 均質 同線参照



- HP-3
1. 褐色土 (7.0VR 4/4) 堅硬度軟～中
 2. [Ⅱ土] 均質
 3. 暗赤褐色土 (09R 4/0) 堅硬度軟～中
 4. [Ⅱ土] 均質
 5. 暗赤褐色土 (09R 4/0) 堅硬度軟～中
 6. [Ⅱ土] 均質
 7. ⅡH-1407C-25
 8. 黄褐色土 (09R 2/3) 堅硬度中
 9. Ma⁺Fe⁺10%程度 中々均質



1. 暗褐色土 (09R 3/2) 堅硬度軟～中 [Ⅱ主相] Ma⁺Fe⁺少量 中々均質
2. ⅡH-1401 黄褐色土 (09VR 4/0) 堅硬度軟～中 [Ⅱ+Ⅲ] H-A層に比べ 不均質



図VI-29 III H-14(3)

ⅢH-15 (図VI-30・31 図版25・26)

位置 N・O 26・27区 平面形態 楕円形

規模 (6.23) × (4.61) / (6.01) × (4.38) / 0.40 m

確認・調査 Ⅲ層調査中に楕円形の暗褐色土のまとまりを確認した。楕円形の中心を通るように十字のトレンチを設定し掘り下げところ、床面、焼土を確認したため堅穴住居跡と判断した。平面形は楕円形で、南西側の一部が調査区外に広がっている。掘り込みは浅く、床面はⅣ層中に構築されている。ⅢH-16・26、ⅢP-16と一部重複しており、ⅢH-16より新しい。他の遺構との新旧関係は不明である。HF-4 焼土層出土の炭化材の¹⁴C年代は3640 ± 20であった(付篇1節参照)。

覆土 12層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざる土層で、色調は黒褐色～暗褐色で、炭化物を微量を含む土層が多い。

床面・壁 床面は概ね平坦である。壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土5か所(HF-1~5)、柱穴・杭穴(HP-1~15・17)16基、土坑1基(HP-16)、剥片集中1か所(HFC-1)を検出した。HF-1・2は覆土中で確認した。どちらも小型で、HF-2は2か所からなる。HF-3~5は床面で確認し、位置等から炉跡焼土と考えられる。3か所の焼土は堅穴の長軸付近で直線状に並ぶ。HF-5は小型で、骨片を微量を含む。HP-1~15・17は形状・規模等から柱穴と考えられる。堅穴全体にみられるが、HP-1~4、HP-7~9等のように近接するものがある。径は10cm前後、深さは10~30cm程度で、断面形状は下端に向かってやや尖るものと底面が丸みを帯びるものがある。

遺物出土状況 遺物は390(うち水洗選別10点)点出土した。床面・床面直上からⅢ~Ⅳ群土器89点、Ⅳ群土器15点、Ⅴ群土器2点、石鏃1点、剥片3点、砥石1点、礫20点が出土した。床面からはⅣ群土器の大型破片が出土している。覆土からⅡ群土器1点、Ⅲ~Ⅳ群土器55点、Ⅳ群土器15点、分類不明土器4点、石鏃1点、石槍・ナイフ5点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、剥片63点、石核2点、砥石1点、加工・使用痕ある礫2点、礫79点が出土した。またHP-12の覆土から礫1点、HP-16の覆土から両面調整石器1点、剥片2点、砥石1点、礫1点が出土した。また床面で検出したHFC-1の遺物は剥片10点(水洗選別)である。

時期 出土遺物や遺構の重複関係等から縄文時代後期前葉である。(広田)

ⅢH-16 (図VI-32・33 図版27)

位置 N 25~27区 平面形態 不整楕円形?

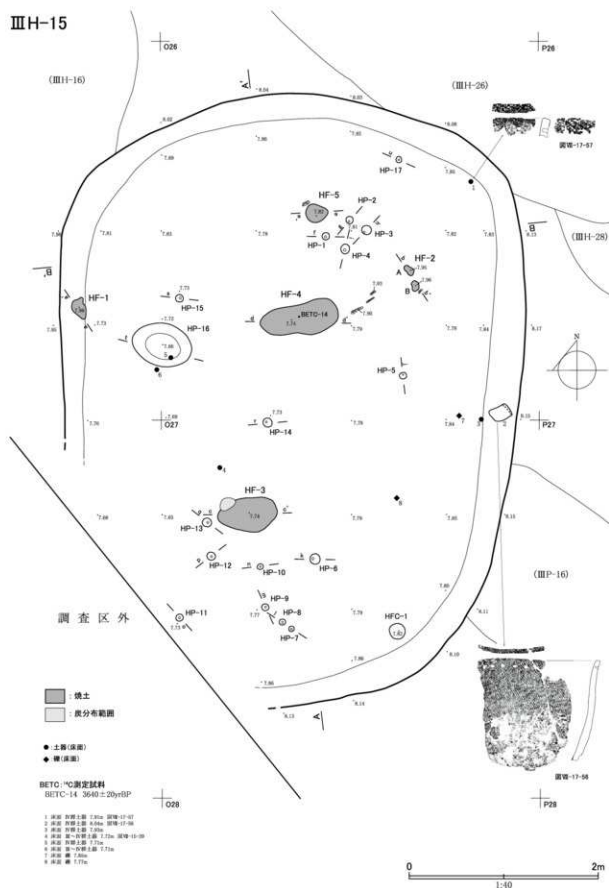
規模 (5.52) × (2.97) / (4.74) × (1.93) / (0.58) m

確認・調査 ⅢH-15調査中に、北西側に別遺構の覆土を確認したため、調査区際にトレンチ調査を行ったところ、底面と壁の立ち上がりを確認したため遺構と判断した。南西側は調査区外に広がるため、部分的な調査である。平面は細長い長楕円形と考えられる。また、覆土中の大型の焼土(HF-1)の面での生活面がある可能性がある。また、南西壁側に一段低くなる段構造がみられる。ⅢH-16・34と一部重複するが、新旧関係はⅢH-15より古くⅢH-34より新しい。

覆土 10層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざり、暗褐色～黒褐色で、炭化物を微量含む土層が多い。また、上位の層(1)は灰白色の火山灰をブロック状に一部含む。

床面・壁 床面はほぼ平坦である。炉跡と考えられる焼土(HF-4)と遺物が段の掘り込み面で確認されているため、段を埋めて床面を構築している可能性がある。壁は、他の遺構と重複していることもあり不明瞭だが、確認できる場所ではごく緩やかに立ち上がる。

ⅢH-15



図VI-30 ⅢH-15(1)

付属遺構 焼土4か所(HF-1~4)、柱穴・杭穴2か所(HP-1・2)を検出した。HF-1は覆土中生活面の炉跡焼土、HF-4は床面炉跡焼土の可能性ある。HF-2は土層断面でのみ確認した覆土中焼土である。HP-1・2は小型で、北壁際の周辺に位置する。

遺物出土状況 遺物は153点(うち水洗選別1点)出土した。床面から剥片4点が出土し、覆土からⅢ~Ⅳ群土器44点、Ⅳ群土器6点、Ⅴ群土器1点、Ⅵ群土器1点、石鏃1点、つまみ付きナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片4点、剥片50点、礫39点が出土した。またHF-1から剥片1点(水洗選別)、HF-3から剥片1点が出土した。南西側中央付近の覆土から出土した土器片はHF-4付近から出土しているため、本遺構に伴う可能性がある。

時期 出土遺物や遺構の重複関係等より縄文時代後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-17(図VI-34・35 図版28・29)

位置 Q~S 25~27区 **平面形態** 不整形円形?

規模 (5.40)×(4.10)/(4.82)×(3.68)/0.73m

確認・調査 R 26区とその周辺で、Ⅱ層上面が皿状にくぼんでいるのを確認した。土層断面等を観察するため、グリッドのSラインにトレンチを入れたところ、床面とみられる平坦な面や、立ち上がりを検出したことから堅穴住居跡と判断した。東側の立ち上がりは明瞭であるが、西側の立ち上がりは土層断面C-C'でしか見つけられず、炭化材と焼土、屋根土とみられる暗褐色土の範囲から住居跡の範囲を推定した。

覆土・掘上土 1層は摩周バミスが混じる黒褐色土である。2層は摩周バミスが混じる暗褐色土で、住居跡の西側に分布する。焼土や炭化材と絡むことから、住居焼失時に崩落した屋根土の可能性ある。

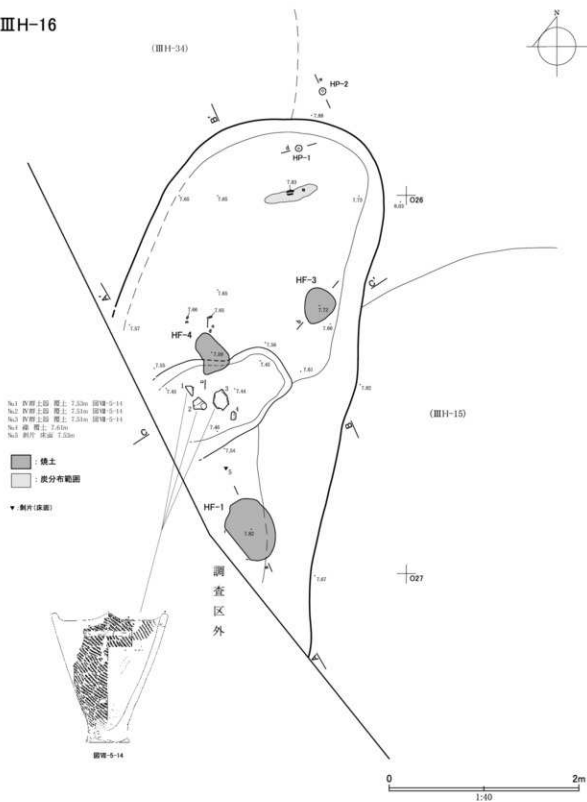
床面・壁 床面は概ね平坦でⅣ層中につくられるが、地形が低い西側ではⅢ層中につくられる。壁の立ち上がりは地形が高い東側で明瞭であるが、西側では土層断面C-C'で皿状の緩やかな立ち上がりを見つけたのみで、C'~Aの間、C~A'の間ではわからなかった。覆土とⅢ層の区別が難しかったことが原因の1つであるが、もともと明瞭な立ち上がりがなかった可能性もある。

付属遺構 覆土中で焼土4か所(HF-1~4)を検出し、床面で土坑1基(HP-5)、柱穴・杭穴9基(HP-1~4・6~10)を検出した。HF-1~4は近接し、ほぼ同じ高さで検出した。いずれもⅣ層ではなく覆土の下位が被熱しており、この面が生活面であったと考えられる。ただし、覆土の下位と判断した層が、床面のⅢ層であった可能性も残る。HP-5はHF-1形成前のものである。

遺物出土状況 遺物は418点(うち水洗選別3点)出土した。床面直上から石槍・ナイフ2点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片1点、砥石14点、加工・使用痕ある礫1点、礫86点が出土し、覆土からⅡ群土器3点、Ⅲ~Ⅳ群土器69点、Ⅳ群土器5点、Ⅴ群土器8点、分類不明土器1点、石鏃2点、石槍・ナイフ3点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー5点、二次加工・使用痕ある剥片10点、剥片121点(うち水洗選別2点)、磨製石斧1点、たたき石1点、砥石4点、加工・使用痕ある礫1点、礫72点が出土した。うちⅢM層出土はⅣ群土器1点、剥片1点、砥石1点、礫1点である。またHF-1から剥片1点(水洗選別)、HF-3から礫2点が出土した。HF-3の西~南西側にかけて礫がまとまって出土している。

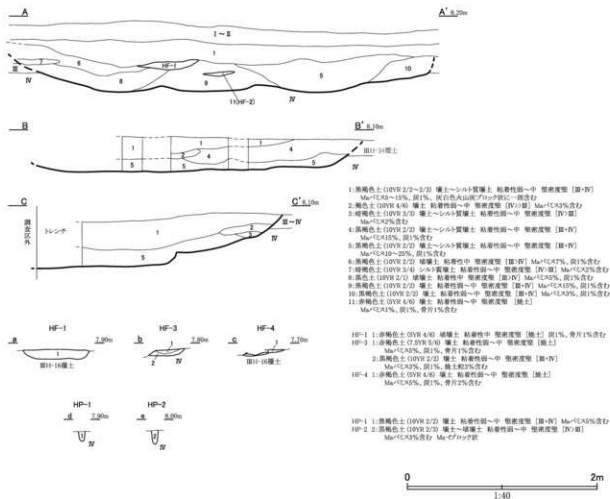
時期 周囲の遺物出土状況等より縄文時代中期後葉~後期前葉と推測される。(山中)

ⅢH-16



図VI-32 ⅢH-16(1)

ⅢH-16



図VI-33 ⅢH-16(2)

ⅢH-18 (図VI-36 図版30)

位置 S 25・26、T 26区 平面形態 不明

規模 (5.5) × (2.03) / 4.36 × (1.49) / 0.56 m

確認・調査 S 26区周辺のⅢ層で、Ⅱ層上面が皿状にくぼんでいるのを確認した。土層断面等を観察するため、調査区の境界等にトレンチを入れたところ、床面とみられる平坦な面や、立ち上がりを検出したことから堅穴住居跡と判断した。堅穴の半分以上は調査区外にある。

覆土 1層は黒褐色、2層は黒色を呈し、1層には摩周バミスが多量に含まれる。

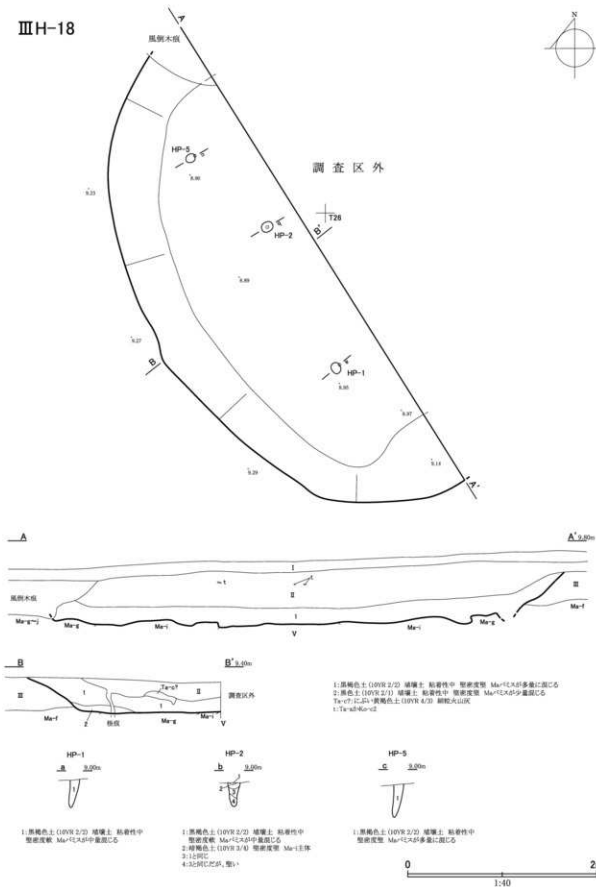
床面・壁 床面は概ね平坦で、大部分はⅣ層中につくられる。壁の立ち上がりは外側に開く。

付属遺構 柱穴・杭穴3基 (HP-1・2・5) を検出した。

遺物出土状況 遺物は覆土から26点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器7点、Ⅴ群土器1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片4点、石鏝2点、砥石3点、礫7点が出土した。

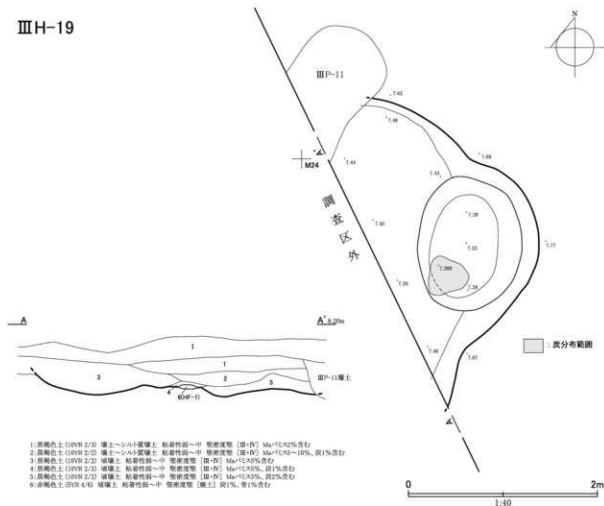
時期 周囲の遺物出土状況等より縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。(山中)

ⅢH-18



ⅢH-18 ⅢH-36 ⅢH-18

ⅢH-19



図VI-37 ⅢH-19

ⅢH-19 (図VI-37 図版31)

位置 M23・24区 平面形態 不整楕円形?

規模 (3.28) × (1.71) / (2.92) × (1.54) / (0.40) m

確認・調査 ⅢH-20調査中に、調査区壁際に別遺構と考えられる黒褐色土のまとまりを確認した。調査区壁に沿ってトレンチ調査を行ったところ、底面を確認したため遺構と判断した。西側が調査区外に広がるため、部分的な調査となった。平面は不整楕円形の可能性があり、東側はやや張り出して床より一段低くなっている。また、トレンチ調査時に炉跡焼土(HF-1)を掘り下げてしまい、断面のみ確認した。ⅢH-20、ⅢP-11と重複するが、土層断面等からⅢP-11より古くⅢH-20より新しい。
覆土 6層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざった土層で、概ね類似する。微量の炭化物が混ざる土層もみられる(2・4・5)。6層はHF-1の焼土層である。

床面・壁 床面はやや凹凸がみられる。壁の立ち上がりは全体的に急角度である。

付属遺構 焼土1か所(HF-1)を検出した。HF-1は断面のみ確認したもので、床面に位置する炉跡焼土と考えられる。

遺物出土状況 遺物は覆土から147点出土した。Ⅲ~Ⅳ群土器30点、Ⅴ群土器1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器3点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片4点、剥片91点、原石1点、礫14点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(広田)

ⅢH-20 (図VI-38~40 図版32・33)

位置 L 23、M・N 23~25区 平面形態 不整楕円形?

規模 (8.01) × (4.08) / - × - / (0.20) m

確認・調査 M 23区のⅢ層上面で、炭化物を含んだ暗褐色~黒褐色土の広範囲なまとまりを確認した。西側調査区壁際やまとまりの長軸方向等でトレンチ調査を行い、炭化材の分布と床面を確認したことから大型の住居跡と判断した。西側は調査区外に広がるため、調査を行ったのは全体の2/3程度と考えられる。本遺構は掘り込みが浅く壁が不明瞭である。また、炭化材が焼土(HF-1~3)と住居跡の壁の間を周るように確認されており、焼失住居跡と考えられる。細かい炭化材が多いが、長さ約20cm程度のものみられた。重複する遺構はⅢH-19・34、ⅢP-6・11・13で、新旧関係は、ⅢH-19、ⅢP-6・11より古く、ⅢH-34、ⅢP-13との関係は不明である。HF-1焼土層出土の炭化材の¹⁴C年代は3,840 ± 20である(付篇1節参照)。また、覆土出土の炭化材6点について樹種同定を行い、コナラ属コナラ節、ヤナギ属、トネリコ属シオジ節と同定された(付篇3節参照)。

覆土 15層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざる土層で、炭化物を微量に含むものが多い。色調は暗褐色~黒褐色が主体である。

床面・壁 床面はⅣ層中に構築されている。ほぼ平坦だが、西側に向かって緩く傾斜する。掘り込みが浅く、壁は不明瞭だが、ごく緩やかに立ち上がる。

付属遺構 焼土3か所(HF-1~3)、柱穴・杭穴10基(HP-1~10)、剥片集中1か所(HFC-1)を検出した。HF-1~3は床面で確認し、概ね長軸上に並ぶ位置にあり、炉跡焼土と考えられる。HP-1~10は小型で、径4~10cm、深さ8~24cmを測る。HP-1は炉跡焼土の延長上に位置する。HP-2~10は、住居跡東側で長軸上に位置するものが多いことからこれらは全て柱穴と考えられる。HFC-1は床面で検出した小型の剥片集中である。

遺物出土状況 遺物は554点出土した。床面から石鏃1点、両面調整石器1点、剥片13点、礫1点が出土し、覆土からⅡ群土器14点、Ⅲ~Ⅳ群土器5点、Ⅳ群土器2点、Ⅴ群土器6点、石鏃4点、石槍・ナイフ6点、石錐1点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片6点、剥片398点、石核1点、磨製石斧2点、たたき石1点、砥石6点、加工・使用痕ある礫2点、礫53点が出土した。またHFC-1の遺物は、炭化材のほかに石槍・ナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片24点、石核1点がある。

時期 出土遺物や遺構の重複関係等より、縄文時代中期後葉~後期前葉である。

(広田)

ⅢH-21 (図VI-41・42 図版34)

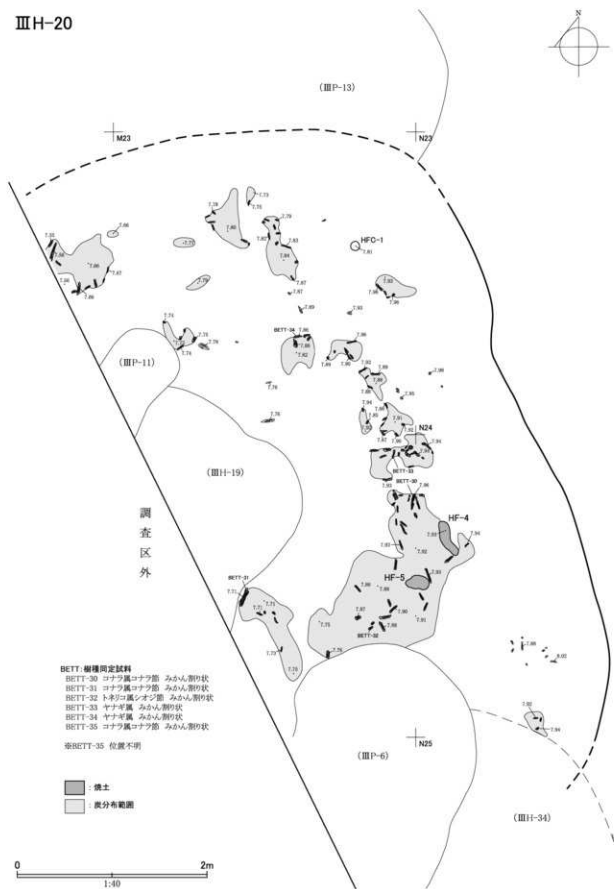
位置 P・Q 25・26区 平面形態 不整楕円形

規模 (5.63) × (5.28) / (4.88) × (4.28) / 0.56 m

確認・調査 Q 26区周辺でⅡ層上面が皿状にくぼんでいるのを確認した。くぼみの中央に位置する試掘坑では焼土が検出されていたので、堅穴住居跡が存在すると予想し、B-B' D-D' にトレンチを入れたところ、床面とみられる平坦面と立ち上がりを確認できたので、堅穴住居跡と判断した。

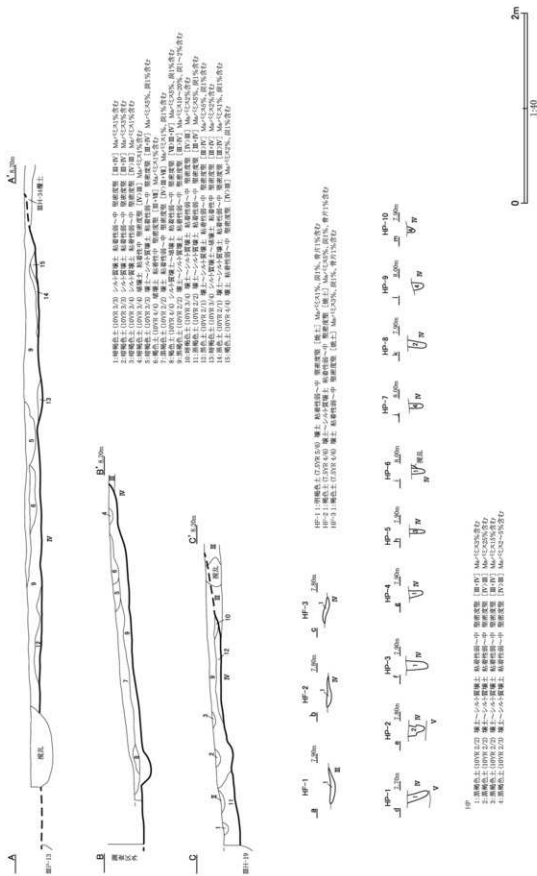
覆土 覆土は摩周バミスが多量に混じる黒褐色土(覆土1層)が主体であるが、北西側では黒色土(覆土2層)及び摩周バミスがわずかに混じる黒褐色土(覆土3層)が認められる。覆土3層の上面にHF-1が形成されていることから、覆土2・3層は堅穴掘削後に埋め戻された可能性がある。

ⅢH-20



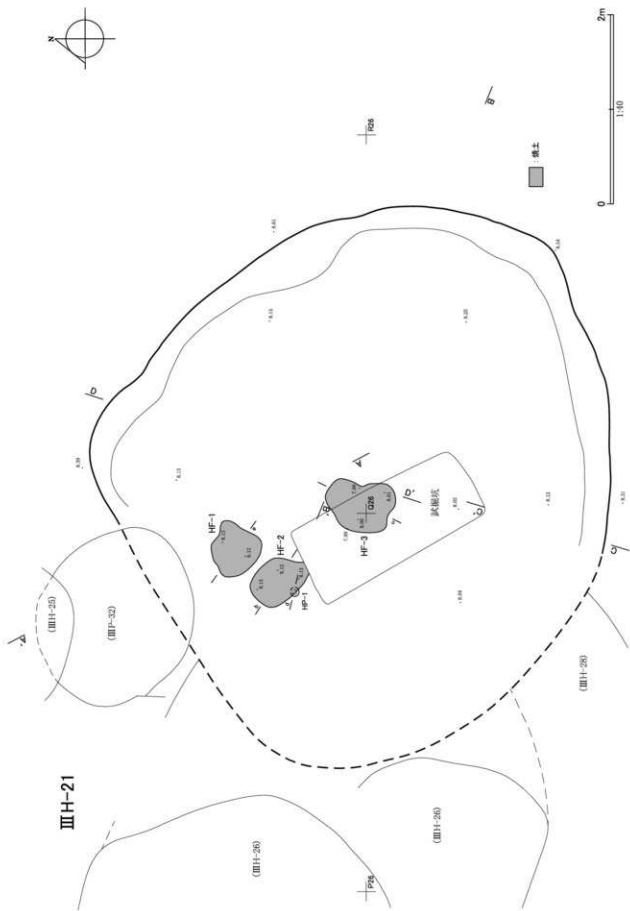
図Ⅵ-39 ⅢH-20(2)

III H-20



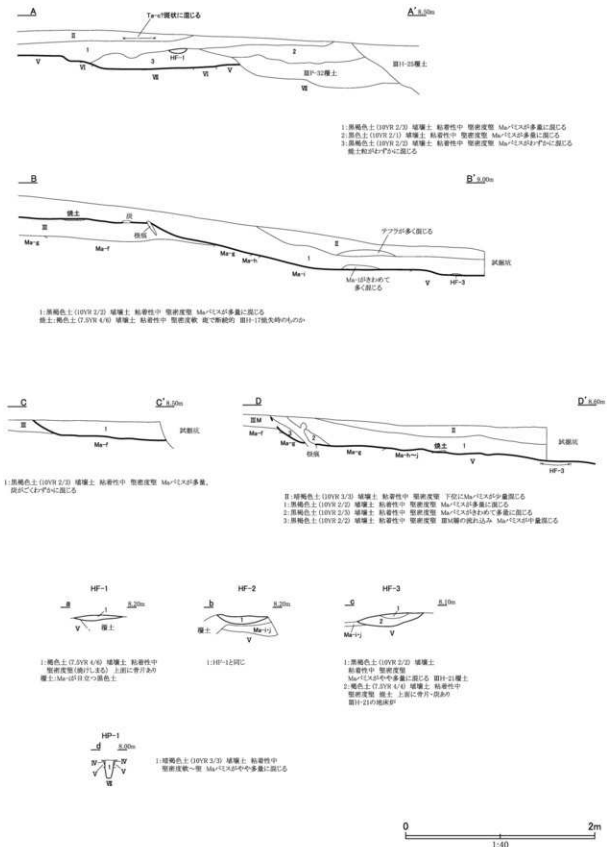
1 埋藏土 (1009.3.0) シルト質黄土、粘板状面→中、粘板状面 [埋藏土] Ma-12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000

図VI-40 III H-20(3)



圖VI-41 IIIH-21(1)

ⅢH-21



図VI-42 ⅢH-21(2)

床面・壁 床面は概ね平坦である。東側は壁の立ち上がりを確認できたが、西側ははっきりせず、わからなかった。

付属遺構 覆土中で焼土2か所（HF-1・2）を検出し、床面で炉跡焼土1か所（HF-3）、柱穴・杭穴1基（HP-1）を検出した。HF-1・2は同じ高さで近接して検出した。後述するHF-3より約10cm高く、覆土が被熱している。HF-3は推定される竪穴の中央に位置し、掘削面に形成された地床炉である。HP-1はHF-2とその下の覆土を掘り下げ後に検出した。

遺物出土状況 遺物は124点出土した。覆土からⅢ～Ⅳ群土器14点、Ⅳ群土器4点、Ⅴ群土器1点、石鏃2点、石槍・ナイフ2点、両面調整石器2点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片5点、剥片31点、石鏝4点、礫56点が出土した。またHF-1から剥片1点が出土した。

時期 周囲の遺構や遺物からみて、縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。（山中）

ⅢH-22（図Ⅵ-43・44 カラー図版3 図版24・35・64）

位置 K・L18・19区 **平面形態** 不整楕円形

規模 (5.72)×5.75/5.48×4.80/1.04m

確認・調査 ⅢH-11およびⅢH-14を調査中、その間も黒褐色土が大きくくぼむことを確認した。それぞれの住居跡のトレンチ調査を延長し、それに直交するトレンチを複数追加し、周囲の覆土を掘り下げた。その結果、底面と焼土、柱穴、壁の立ち上がりを検出した。底面は高低差があるものの一連の遺構と判断し、竪穴住居跡とした。

当遺構の北西側にⅢH-11、南東側にⅢH-14、北側にⅢP-17、西側にⅢP-18がそれぞれ重複し、ⅢH-14→当遺構・ⅢP-17→ⅢH-11→ⅢP-18の順に新しくなる。当遺構とⅢP-17の新旧関係は判然としない。

覆土・掘上土 覆土は土層断面で20層以上に分けた。上位（1・2層）はⅡ層・Ⅲ層を主体とした自然堆積土とみられる。中位～下位（3～8・15層）は、摩周バミスの含有の濃淡をもつ黒褐色～暗褐色土の各層にロームを主体とした褐色土の薄層（5・6）が挟まれている。下位の9層は、摩周バミスを不均質に含む薄層で、床面直上に相当する。その下の10～13・18層は摩周バミスを多く含む色調が不均質で、床下の埋め戻し土と考えられる。16・17・19・20は土坑HP-1の覆土で、摩周バミスやロームを多く含むやや不均質な土壌を主体とし、これらも埋め戻し土と考えられる。

なお当遺構の南側に、ロームや摩周バミスを主体とした掘上土と考えられる土壌が長軸約2mで分布し、当遺構と関連があるとみられる。

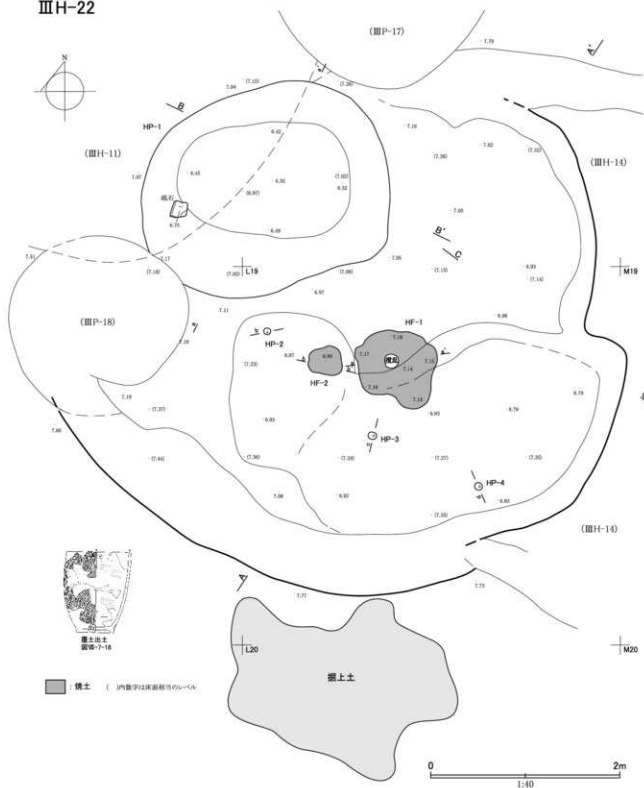
床面・壁 底面は南部の広範囲で段を有し、北部も大型土坑があり大きくくぼみ、全体的に凹凸が大きい。前述の通りこれらを埋め戻して形成したと考えられる床面は、おおむね平坦とみられる。床面に焼土が形成されている。壁はやや急に立ち上がり、ゆるやかに外傾する。

付属遺構 床面相当から焼土2か所（HF-1・2）、柱穴・杭穴3基（HP-2～4）、床下の面から土坑1基（HP-1）を検出した。

HF-1は住居跡中央部にあり、径約90cmの楕円形に近い形状で、被熱層は7cmほどである。明赤褐色を呈し、強く被熱している。HF-2はHF-1に隣接する小規模な焼土である。柱穴は、住居跡南西部の中央寄りやや間隔をおいて検出された。径7cm前後、深さ20cm前後で先端は尖る。土坑HP-1は、長軸2.68mの楕円形で深さ70cm以上の大型土坑である。坑底は碗状である。大型土坑ⅢP-17・18の間に位置する。

遺物出土状況 遺物は153点出土した。覆土からⅡ群土器2点、Ⅲ～Ⅳ群土器17点、Ⅳ群土器2点、

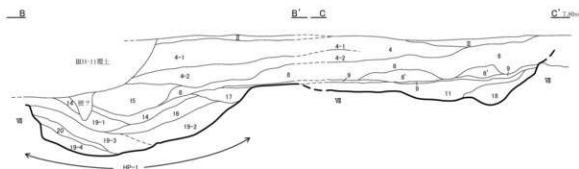
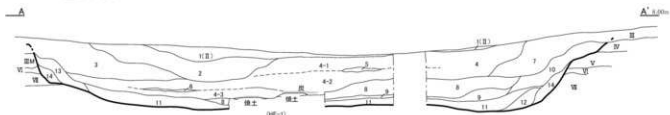
ⅢH-22



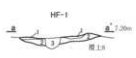
図VI-43 ⅢH-22(1)

V群土器35点、石鏃1点、石槍・ナイフ4点、両面調整石器1点、スクレイパー2点、剥片40点、たたき石1点、礫47点が出土した。V群土器は覆土上位を主体に出土している。礫は被熱しているものが多い。また、HP-1の覆土から砥石1点が出土した。砥石は砂岩の大型板状礫を素材とする。
時期 出土遺物や遺構の切り合い関係より、縄文時代後期前葉とみられる。(阿部)

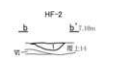
III H-22



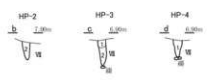
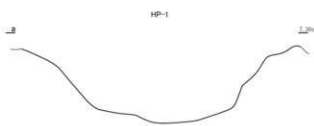
1. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III] $M_a < C < S$ 少量含む
2. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III] $M_a < C < S$ 均質的
3. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 均質的
4. 暗褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 規定 今中均質 $M_a < C < S$ の混入量で1~3に該当した
5. 2:1 黄褐色土 (HVR 4.0) 整地後軟~中 [IV] $M_a < C < S$ 均質的
6. 褐色土 (HVR 4.0) 整地後軟 [IV] 均質
7. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III主] $M_a < C < S < 20\%$ 以下 今中均質
8. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III-V主] $M_a < C < S < 20\%$ 以下 今中均質
9. 暗褐色土 (HVR 2.0) 4.2 均質的
10. 褐色土~黒褐色土 (HVR 4.0~2.0) 整地後中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 不均質
11. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟~中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 以上 不均質
12. 黒褐色土~褐色土 (HVR 2.0~4.0) 整地後軟 [IV主] 褐色土混じり 不均質
13. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟~中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 規定 不均質
14. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [IV主] 均質的
15. 褐色土~暗褐色土 (HVR 4.0~2.0) 整地後中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 以上 不均質
16. 暗褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟~中 [III-V] $M_a < C < S < 20\%$ 規定 今中均質
17. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟 [IV] 砂質~均質 褐色土不可混入に注意
18. 黄褐色土~黒褐色土 (HVR 2.0~2.0) 整地後軟~中 [III-V] $M_a < C < S$ 均質的
19. 2:1 黄褐色土~黒褐色土 (HVR 2.0~2.0) 整地後中 [III-V] $M_a < C < S$ 均質 褐色土混じり 不均質 $(M_a < C < S$ の混入量で1~3に該当した)
20. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [IV主] $M_a < C < S$ 少量 均質的



1. 暗褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟
2. [IV] 砂質土 (均質) 灰~灰中や多量含む 不均質
3. 明赤褐色土 (HVR 2.0) 整地後中 [III主] 赤~黄褐色 硬土 今中均質 灰少量含む
4. 暗褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟 $M_a < C < S$ 少量含む 今中均質



1. 2:1 黄褐色土 (HVR 4.0) 整地後軟 [III] 赤褐色土の上の均質 均質 硬質明瞭



1. 黒褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟~中 [III] $M_a < C < S$ 均質的
2. 暗褐色土 (HVR 2.0) 整地後軟 [III主] $M_a < C < S$ 均質的



図VI-44 III H-22(2)

ⅢH-23 (図VI-45・46 図版36)

位置 R~T 28・29区 平面形態 不整楕円形?

規模 (7.33)×(4.74) / - × - / (0.62)m

確認・調査 S 28区周辺のⅢ層調査中に黒褐色土のまとまりを確認した。まとまりの長軸及び短軸方向にトレンチを設定し、掘り下げたところ細かい炭化材を含む土層と床面を検出したため、焼失住居跡と判断した。他遺構との重複、風倒木痕による破壊等のため、範囲が不明瞭だが平面形は概ね不整楕円形と推定される。また掘り込みが浅くⅢ層の黒色土を壁とするため、壁の検出が困難で全体的に推定範囲が多い。炭化材は全体的に分布するが、北側は少量である。ⅢH-13・32と重複し、検出状況等から、これらの遺構より古いと考えられる。

覆土 4層に分けた。4層は焼土(HF-2)である。1~3層は黒色土とⅣ層が混ざる土層で、炭化物を微量含む。

床面・壁 床面は緩い凹凸があり、全体的に西側に向かって傾斜する。壁は不明瞭で、ごく緩やかに立ち上がると推定される。

付属遺構 焼土2か所(HF-1・2)、柱穴・杭穴1基(HP-1)を検出した。HF-1・2は炭化材に伴う焼土で、焼失時に形成されたものと考えられる。HP-1は床面西側に位置する小型のもので、径7cm、深さは20cmを測る。

遺物出土状況 遺物は294点出土した。床面からスクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、礫1点が出土し、覆土からI群土器2点、Ⅲ~Ⅳ群土器165点、Ⅳ群土器1点、V群土器22点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片71点、磨製石斧1点、礫26点が出土した。覆土出土のⅢ~Ⅳ群土器は小破片が多い。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉北筒V式期と考えられる。(広田)

ⅢH-24 (図VI-47・48 カラー図版4 図版37・38)

位置 N~P 21~23区 平面形態 楕円形

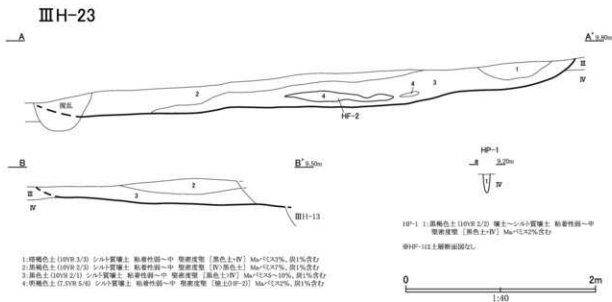
規模 9.24×8.68/8.50×8.04/0.80m

確認・調査 O 22区周辺でⅢ層調査中、大きな暗褐色土の広がりを確認した。遺構の可能性を想定し、広がりの中心を通るように複数のトレンチを設定し、掘り下げたところ1個体分の土器や床面を確認したため、竪穴住居跡と判断した。この時点ではまだ、壁の立ち上がりを確認できなかったため、トレンチを延長した。大型の住居跡であるため併行して覆土の掘り下げも行った。その結果、長径9メートル以上の大型の住居跡で、他の複数の遺構と重複していることが判明した。今回調査した竪穴住居跡の中では最も規模が大きい。床面で多くの焼土を確認したが、柱穴は2基のみである。壁はⅢ~Ⅳ層に作られているため、覆土との区別が困難であった。ⅢH-7・41、ⅢP-33~35・38と重複するが、新旧関係は、当遺構がⅢP-35・38より古く、その他の遺構より新しい。HF-1焼土層出土の炭化材の¹⁴C年代は3390±20であった(付篇1節参照)。

覆土 17層に分けた。覆土上位と壁際の堆積はⅣ層主体の暗褐色土(1・3~6)で、下位は黄褐色、黒褐色土(7~9等)が堆積している。西側は黒褐色、暗褐色の細かい土層(10~15)が堆積している。

床面・壁 床面はほぼ平坦で、Ⅳ~Ⅴ層にかけて構築されている。壁は全体的に緩やかな角度で立ち上がる。

付属遺構 焼土10か所(HF-1~10)、柱穴・杭穴2基(HP-1・2)、剥片集中2か所(HFC-1・2)を検出した。HF-1~10は全て床面で確認した。分布は北西側が多い。炉跡焼土と考え



図VI-46 ⅢH-23(2)

られ、炭化物や微細な骨片を含むものが多い。柱穴・杭穴は規模の大きさに比べて少数である。H P-1・2は床面東側と西側で確認した。規模は径約10cmと小型で、深さは26cmと54cmで掘り込みは深い。

遺物出土状況 遺物は793点（うち水洗選別140点）出土した。床面からⅢ～Ⅳ群土器64点、Ⅳ群土器63点、石礮1点、剥片8点、たたき石1点、石鋸4点、砥石2点、加工・使用痕ある礫1点、礫18点が出土し、覆土からⅠ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器81点、Ⅳ群土器49点、Ⅴ群土器1点、Ⅵ群土器41点、石礮9点、石槍・ナイフ3点、両面調整石器2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕ある剥片6点、剥片130点、磨製石斧3点、石鋸1点、砥石7点、加工・使用痕ある礫2点、礫128点が出土した。H F-7から石核1点、H F-8から剥片4点が出土した。また覆土で検出したH F C-1の遺物は、炭化材のほかに剥片114点（すべて水洗選別）、床面で検出したH F C-2の遺物は、炭化材のほかに二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片43点（うち水洗選別26点）がある。床面出土のⅢ～Ⅳ群、Ⅳ群土器は北西側壁付近で確認したものである。

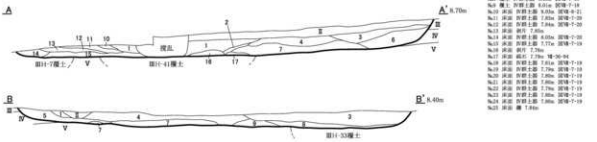
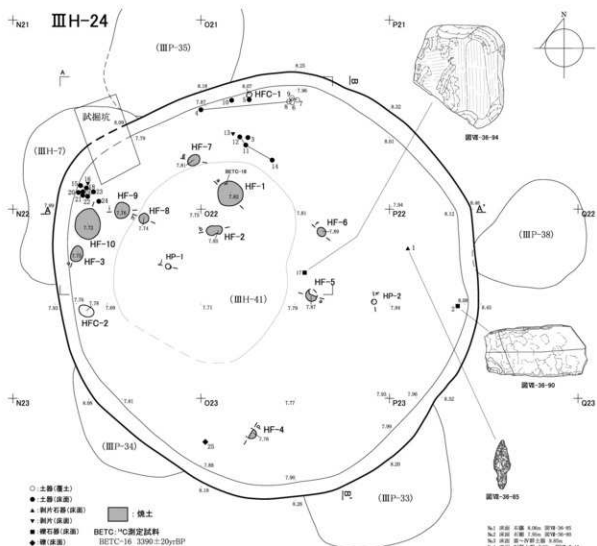
時期 床面出土の土器から縄文時代後期前葉北筒V式期である。（広田）

ⅢH-25 (図VI-49～51 カラー図版4 図版39・40)

位置 O 24、P 23～25、Q 23・24区 **平面形態** 不整形円形

規模 5.67×5.52/5.17×4.46/1.15m

確認・調査 P 24区を中心にⅡ層上面が皿状にくぼんでいるのを確認した。グリッドの25ラインに沿ってトレンチを入れたところ、床面とみられる平坦な面と壁の立ち上がりを検出したので、規模から住居跡と判断した。覆土上位では、焼土1か所、Ⅵ群土器の破片の集中を2か所検出した。覆土下位から床面直上にかけては、炭化材が焼土と絡んで多く出土していることから、焼失住居跡と考えられる。覆土出土の炭化材¹⁴C年代は3,440±20という測定値であった（付篇1節参照）。また、覆土等出土の炭化材28点について樹種同定を行い、コナラ属コナラ節、カバノキ属、キハダ等と同定された（付篇3節参照）。



- 1. 緑褐色土 (0PV8 2/3) シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [黒土・黒色土] Ma¹⁴C3%含む
- 2. 赤褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [黒色土・IV] Ma¹⁴C2%含む
- 3. 緑褐色土 (0PV8 3/4) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C3%含む
- 4. 緑褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C2%含む
- 5. 赤褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C10%含む
- 6. 緑褐色土 (0PV8 2/4) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C19%含む
- 7. 黄褐色土 (0PV8 5/10) 礫土 粘着性中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C4%含む
- 8. 黄褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [黒色土・IV] Ma¹⁴C2%、炭1%含む
- 9. 褐色土 (0PV8 4/5) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [黒色土・IV・V] Ma¹⁴C2%含む
- 10. 暗褐色土 (0PV8 3/4) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱～強 [黒色土・IV・V] Ma¹⁴C3%、炭1%含む
- 11. 暗褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱～強 [黒色土・IV] Ma¹⁴C5%、炭1%含む
- 12. 暗褐色土 (0PV8 3/4) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱～強 [黒色土・IV] Ma¹⁴C3%含む
- 13. 暗褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱～強 [黒色土・IV] Ma¹⁴C19%含む
- 14. 暗褐色土 (0PV8 2/3) 礫土 粘着性中 腐敗度弱 [黒色土・IV・V] Ma¹⁴C3%含む
- 15. 黄褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱～強 [黒色土・IV] Ma¹⁴C19%含む
- 16. 褐色土 (0PV8 4/5) シルト質礫土～礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [IV>黒色土] Ma¹⁴C2%、炭1%含む
- 17. 暗褐色土 (0PV8 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 腐敗度弱 [黒色土・IV] Ma¹⁴C2%含む

図Ⅴ-47 III H-24(1)



図ⅢH-24(2)

覆土 1層は摩周バミスが混じる黒褐色土で、その下位から床面直上にかけて炭化材、焼土、Ⅶ層土の塊が混在する（1'層）。2層は北側壁面からの崩落土である。3層はHP-2の底面より下で見られたⅦ層土の塊が目立つ黒褐色土である。

床面・壁 床面は概ね平坦であるが、南西側の床面に段状の部分がある。北側には幅広の弧状の掘り込みがあり、床面からの深さは約40cmを測る。壁の立ち上がりは北側から東側にかけて明瞭であるが、西側から南側にかけては緩やかである。

付属遺構 覆土中で焼土1か所（HF-1）を検出し、床面で炉跡焼土1か所（HF-2）、土坑2基（HP-1・2）、柱穴・杭穴8基（HP-4・7・8-11・13・14）を検出した。HF-1は埋設途中の堅穴のくほみに形成されたもので、樽前cテフラの直下に位置する。HF-2は地床炉で、厚さは2cm程度と薄い。HP-1は堅穴の西側に位置し、楕円形で浅い。覆土の平面観察では、北側深部の掘り込みより古い。HP-2は北側深部の埋め立て後に掘り込まれており、坑内からは炭化材と被熱した礫片が多く出土した。

遺物出土状況 遺物は327点出土した。床面からⅢ～Ⅳ群土器2点、剥片3点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器28点、Ⅳ群土器9点、Ⅴ群土器9点、Ⅵ群土器51点、分類不明土器1点、焼成粘土塊5点、石鏃2点、石槍・ナイフ4点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片58点、原石1点、磨製石斧1点、たたき石3点、砥石3点、台石・石皿1点、礫118点が出土した。またHP-2の覆土からⅢ～Ⅳ群土器1点、Ⅳ群土器1点、礫18点が出土した。

時期 周囲の遺構や遺物からみて、縄文時代中期後葉～後期前葉であろう。土層断面の観察結果から、重複するⅢP-32より新しい。（山中）

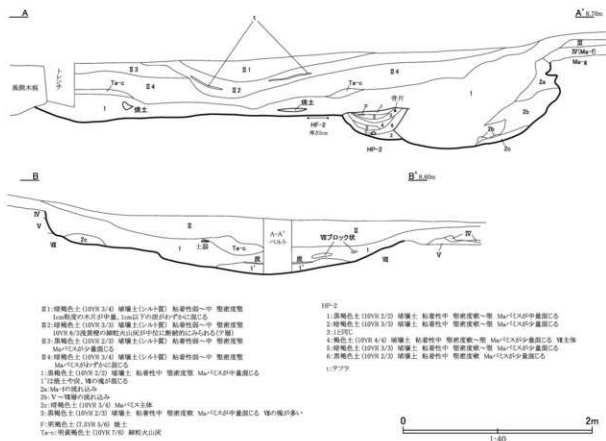
ⅢH-26（図Ⅵ-52～55 図版41・42）

位置 O・P25・26区 **平面形態** A：楕円形 B：楕円形 C：不整楕円形？

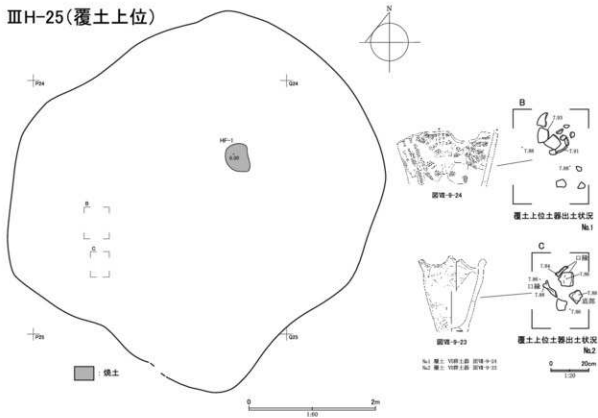
規模 B：4.35×3.80/3.60×3.08/0.41m C：(4.30)×(4.27)/(3.47)×(3.36)/0.42m

確認・調査 ⅢH-21のトレンチ（A-A'）を南側に延長したところ、床面とみられる平坦な面と壁の立ち上がりを検出したので、規模から住居跡と判断した。覆土2層の中心位では礫が多く出土し、4か所で密集部が認められた（HS-1～4）。また、焼土3か所（HF-3・4・6）、骨片集中1か所（骨片集中1）を検出した。覆土2層の下位から3・6層上面では、焼土6か所（HF-1・2・5・7～9）、骨片集中4か所（骨片集中2～5）を検出した。この層位では、棚状になった炭と焼土が絡んだ状態が多く見られたことから、覆土中に構築された住居跡が焼失したものとして推測される（ⅢH-26A）。これらを記録しながら掘り下げを行い、構築時の床面や壁を検出した。調査当初は1軒の堅穴の存在を予想していたが、A-A'トレンチに直交するB-B'トレンチを入れたところ、上述した覆土2層下位から3・6層上面の生活面より古い堅穴があることがわかった（ⅢH-26B）。また、ⅢH-26Aの生活面である覆土3層上面及び覆土4層を掘り下げると、Ⅳ～Ⅶ層を壁・床面とする堅穴が現れ、これをⅢH-26Cとした。しかし、これらの生活面や堅穴の範囲の画定が難しく、ⅢH-26A～Cに分けて遺物を取り上げることができなかった。HF-1焼土層出土の炭化材¹⁴C年代は3810±20であった（付篇1節参照）。

覆土 1層は摩周バミスが多量に混じる黒褐色土、2層は摩周バミスがやや多量に混じる黒色土で、多量の礫片や焼土、骨片集中が見られる。3層は摩周バミスが極めて多量に混じる暗褐色土である。2層下位から3層上面（6層上面）にかけては、上述したように、棚状の炭や焼土、骨片集中が多く

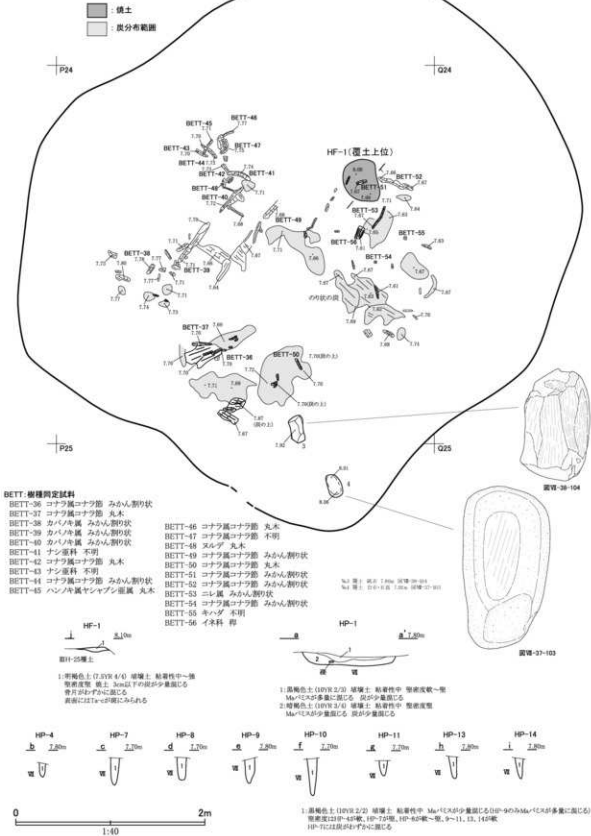


ⅢH-25(覆土上位)

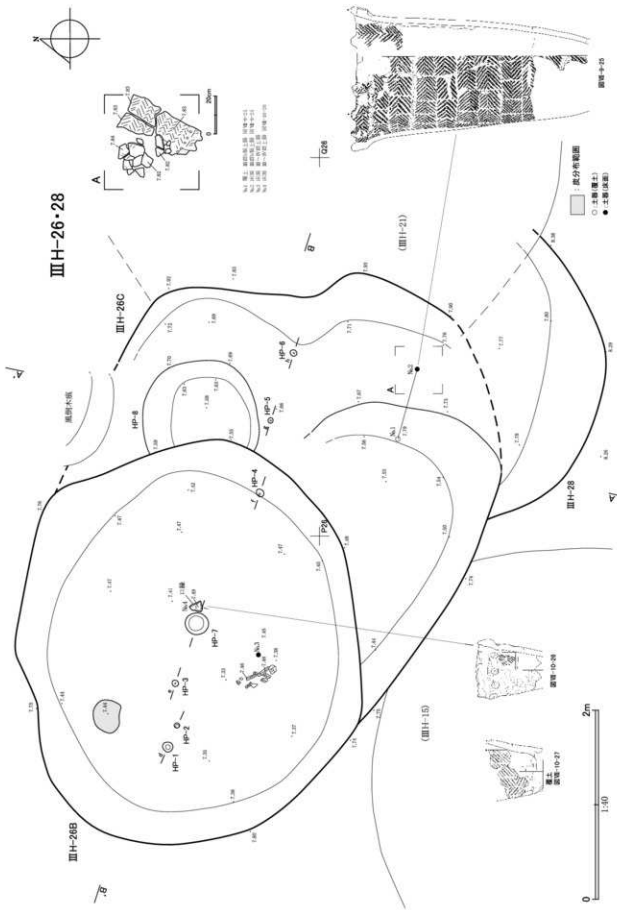


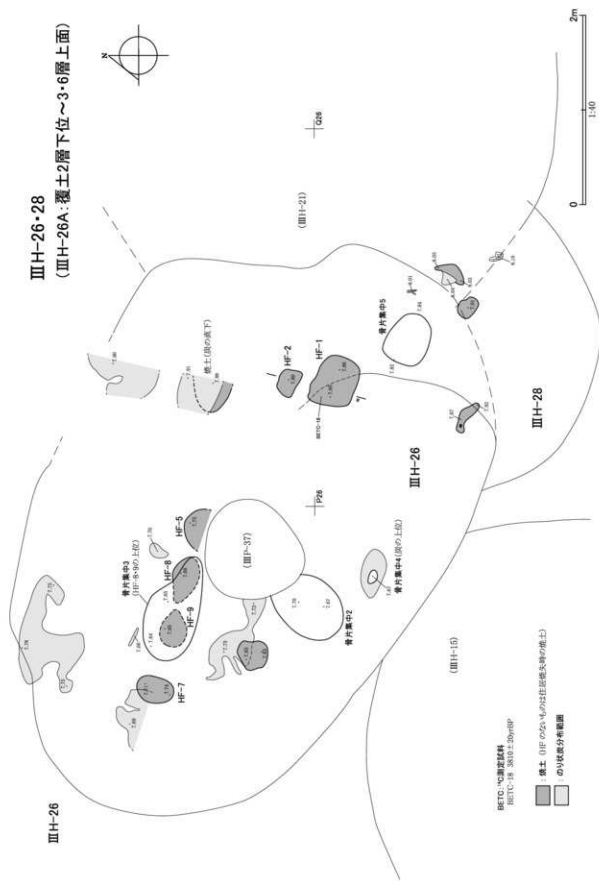
図VI-50 ⅢH-25(2)

ⅢH-25



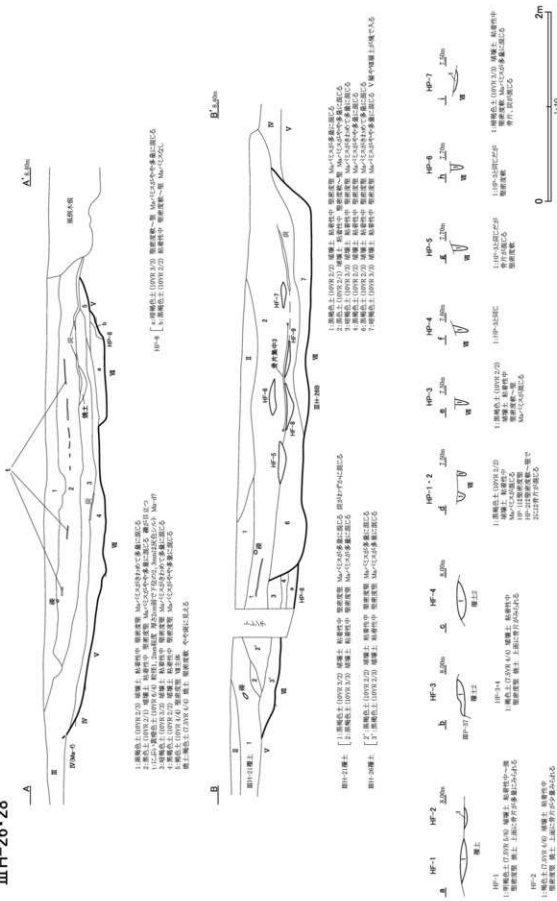
図Ⅴ-51 ⅢH-25(3)





図Ⅵ-54 ⅢH-26・28(3)

III H-26-28



図VI-55 III H-26・28(4)

検出され、この面をⅢH-26Aとした。4層は摩周バミスがやや多量に混じる黒褐色土で、3層とともに、ⅢH-26A・Bより古いⅢH-26Cの覆土である。6層・7層はⅢH-26Bの覆土で、6層上面は3層上面と同様、ⅢH-26Aの生活面である。なお、土層断面A-A'とB-B'の覆土2層中には、砂質テフラが断続的に認められた。分析の結果摩周dテフラの可能性はある(付篇5節参照)。

床面・壁 ⅢH-26Aの床面(覆土3・6層)は概ね平坦で、皿状に立ち上がる。ⅢH-26Bの床面も概ね平坦で、壁は明瞭に立ち上がる。ⅢH-26Cの床面は南側に弧状の段があり、立ち上がりは皿状である。

付属遺構 覆土中で焼土9か所(HF-1~9)、礫集中4か所(HS-1~4)を検出し、床面で土坑2基(HP-7・8)、柱穴・杭穴6基(HP-1~6)を検出した。HP-7はⅢH-26Bの床面中央に位置する浅い小土坑である。HP-8はⅢH-26Cに関連する浅い掘り込みである。

遺物出土状況 遺物は1,542点(うち水洗選別116点)出土した。床面からⅢ~Ⅳ群土器74点、剥片1点が出土し、覆土からⅡ群土器1点、Ⅲ~Ⅳ群土器162点(うち水洗選別14点)、Ⅳ群土器3点、Ⅴ群土器6点、Ⅵ群土器1点、石鏃5点、石槍・ナイフ16点、両面調整石器6点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー9点、二次加工・使用痕ある剥片19点、剥片242点(うち水洗選別86点)、石核3点、原石1点、磨製石斧4点、たたき石1点、石鋸1点、砥石9点、二次加工・使用痕ある礫4点、礫652点が出土した。またHF-1から分類不明土器1点、剥片1点(いずれも水洗選別)、HF-8から剥片14点(水洗選別)が出土したほか、HS-1には礫139点、HS-2には礫91点、HS-3にはⅢ~Ⅳ群土器8点、砥石1点、礫67点がある。

時期 床面の遺物から縄文時代中期後半北筒Ⅱ式トコロ6類期である。構築順序は古い方から、C、B、Aである。(山中)

ⅢH-27(図Ⅵ-56・57 図版43・44)

位置 L・M21・22区 **平面形態** 楕円形

規模 6.45×4.68/5.70×3.80/0.84m

確認・調査 Ⅲ層上面まで掘り下げ中、Ⅱ層上面が大きく落ち込む楕円形の範囲を検出した。南北および東西のトレンチ調査の後掘り下げ、底面と柱穴・杭穴、壁の立ち上がりを確認し、竪穴住居跡とした。北~東側でⅢH-36を大きく切っており、当遺構が新しい。一方南側ではⅢP-13・20と重複し、当遺構がⅢP-20より古い。

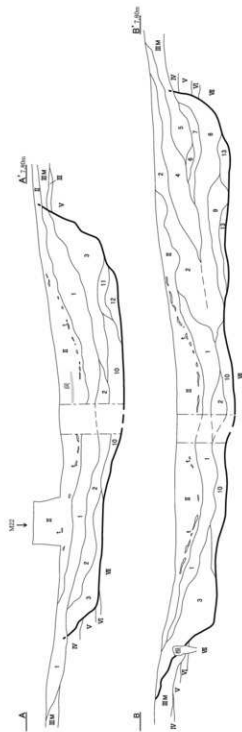
覆土・掘上土 竪穴の窪みにⅡ層が厚く堆積し、その下位にはTa-aとみられる灰白色の火山灰が斑状に薄く堆積する。竪穴中央部に薄い板状の炭化材のまとまりがあり、Ta-a降下後に何らかの人為の跡が残されている。

覆土は土層断面で13層に分けた。上位(1・2層)は摩周バミスの少ない黒褐色土、中位(3層、住居跡北部~西部は下位まで)は摩周バミスをやや多く含む暗褐色土で、自然堆積土および流入土と考えられる。住居跡南部に分布する4~7層は摩周バミスやブロック状のロームを多く含み、周辺遺構等から排出された土壌と考えられる。下位(8~13)は、ロームブロックや摩周バミスを不均質に含み、色調もさまざまである。

住居跡の外側北東方向のⅢ層上面に摩周バミスのまとまりがあり、当遺構と関連する可能性がある。

床面・壁 床面はⅢ層中まで深く掘り込まれ、中央~東部に暗褐色の楕円形の硬化面があり、貼床とみられる。また貼床より下位において、住居跡中央部および南東部に段があり、くぼんでいる。壁はやや急に立ち上がり、ゆるやかに外傾する。

III H-27



III H-27 頁岩土 (1000 4.2) 地層構造~中

1. 頁岩土 (1000 4.2) 地層構造~中
2. 頁岩土 (1000 3.2) 地層構造~中
3. 頁岩土 (1000 2.2) 地層構造~中
4. 頁岩土 (1000 1.2) 地層構造~中
5. 頁岩土 (1000 0.2) 地層構造~中
6. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
7. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
8. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
9. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
10. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
11. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
12. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中
13. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中



1. 頁岩土 (1000 2.2) 地層構造 [III H] 全平均層
2. 頁岩土 (1000 1.2) 地層構造 [III H] 全平均層
3. 頁岩土 (1000 0.2) 地層構造~中 [III H] 全平均層
4. 頁岩土 (1000 0.0) 地層構造~中 [III H] 全平均層

IV 砂礫土



III H-27 (2)

付属遺構 柱穴・杭穴10基（HP-1～10）を検出した。先端が尖り、比較的浅いものが多い。HP-1～7・10は壁から少し中央部寄りに楕円形に位置する。HP-8・9は南部の壁際に位置し、補助的な柱穴・杭穴と考えられる。なお炉は検出されなかったが、住居跡中央のやや浅いくぼみから剥片・破片がまとまって出土した（HFC-1）。

遺物出土状況 遺物は908点（うち水洗選別207点）出土した。床面およびその付近からⅢ～Ⅳ群土器5点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片219点（うち水洗選別207点）、磨製石斧1点、砥石1点、礫4点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器50点、Ⅳ群土器4点、Ⅴ群土器58点、Ⅵ群土器8点、石鏃9点、石槍・ナイフ7点、スクレイパー15点、二次加工・使用痕ある剥片23点、剥片441点（HFC-1が大部分）、石核2点、磨製石斧4点、砥石2点、加工・使用痕ある礫1点、礫48点が出土した。床面直上出土のⅣ群a類土器の5点は壁際からまとまって出土したもので、同一個体である（図Ⅶ-10-29）。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉北筒Ⅳ式期とみられる。（阿部）

ⅢH-28（図Ⅵ-52～55 図版42）

位置 P26区 **平面形態** 不明

規模 (3.00) × (1.60) / (2.42) × (0.98) / 0.52m

確認・調査 ⅢH-26の南東側で、長軸方向がⅢH-26とは異なる立ち上がりの一部を検出した。推定される規模から、ⅢH-26とは別の堅穴住居跡があると判断した。

覆土 ⅢH-26の覆土と区別できなかった。

床面・壁 残存する床面は概ね平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

付属遺構 検出できなかった。

遺物出土状況 遺物は覆土から82点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器43点、Ⅳ群土器3点、石鏃2点、石槍・ナイフ2点、剥片16点、礫16点が出土した。

時期 周囲の遺物出土状況等より縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。ⅢH-21・26と切り合うが、先後関係はわからなかった。（山中）

ⅢH-29（図Ⅵ-58 図版44）

位置 J19・20区 **平面形態** 楕円形？

規模 (2.46) × (3.27) / (1.12) × (2.56) / (0.28)m

確認・調査 調査区境において土層確認のためのトレンチ調査で、Ⅳ層に落ち込む黒褐色土を検出した。その範囲を掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認した。炉や柱穴は確認できなかったが、規模や構造を考慮して堅穴住居跡と判断した。全体の2/3程度は調査区外に広がると思われる。

覆土・掘上土 覆土は1層で、摩周バミスを均質にやや多く含む黒褐色土で、北側はバミスをさらに多く含む（1'層）。住居跡の周囲には、覆土よりやや明るい色調の掘上土（ⅢM）の薄層が広がるが、周辺遺構の掘上土との境界が不明瞭である。

床面・壁 床面はⅣ層Ma-hもしくはMa-i上面で形成しており、おおむね平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

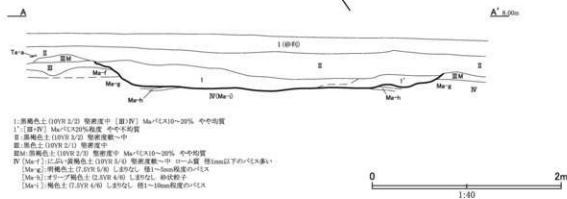
付属遺構 調査範囲内では未検出である。

遺物出土状況 遺物は覆土から6点出土した。石鏃2点、剥片4点である。石鏃は東壁際から出土した。

時期 周囲の出土遺物等より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（阿部）



△: 案内石(環土)
 N1 環土: 1.00 1.40 2.00 3.00



図VI-58 III H-29

ⅢH-30 (図VI-59・60 図版45・46)

位置 K・L20・21区 平面形態 不整楕円形

規模 (5.18)×4.84/(4.78)×4.34/0.45m

確認・調査 ⅢH-14・22の西側周辺を精査中、摩周バミスを多く含む黒褐色土の広がりを検出した。土坑を想定してトレンチ調査(C-C'の一部)を行ったところ、やや複雑な断面がみられた。さらに大型の遺構の可能性があることから、トレンチを延長、直交するトレンチも追加した。これらの作業を繰り返しながら掘り下げ、ようやく底面と壁の立ち上がりを検出し、堅穴住居跡とした。南西部は一部調査区外に広がる。また南部では土坑ⅢP-21・29と重複しており、当遺構が古い。

覆土・掘上土 覆土は摩周バミスを多く含む黒色～黒褐色土(2・3層)を主体とする。下位(5層)は摩周バミスがやや少ない。中央北部の浅いくぼみに摩周バミス・火山灰を主体とする黄褐色土が堆積していた。

掘上土は住居跡北西方向に顕著で、住居跡覆土3層と同様の土壌が長軸約2mで広がり、最大厚は8cmで周縁は漸減する。また北東方向および東方にも摩周バミスを多く含む褐色土が広がるが、これらは周辺遺構からの掘上土とみられる。

床面・壁 床面はⅣ層Ma-f-gで止まっており、比較的浅い。全体的には平坦だが、北部および南西部に段をもって浅くくぼむ範囲がある。壁は北～東部がやや急に立ち上がり、他は緩やかである。

付属遺構 掘上土で剥片集中2か所(HFC-1・2)、覆土中で焼土11か所(HF-1~11)を検出し、床面で土坑1基(HP-1)、柱穴・杭穴19基(HP-2~20)を検出した。

焼土は赤褐色を呈し、不整形なものが多い。HF-1は土坑HP-1に流入するように傾斜している。HF-2・3・10・11は住居跡壁際付近で検出された。最も強く被熱しているHF-9は、住居跡中央西寄りの覆土下位に形成され、60cm前後の大きさで最厚12cmを測る。

土坑HP-1は住居跡北西壁寄りにある。長軸13mの楕円形で、深さは住居床面から約40cm、坑底はⅦ層上面に達し、平坦だが北側がやや高い。覆土は摩周バミスが不均質に混じり、埋め戻し土と考えられる。東壁側に周辺遺構からの掘上土と考えられる黄褐色土が流入している。

柱穴・杭穴は配置がやや不規則であるが、壁寄りの位置から多く検出されている。HP-2・6・9・15・19は径10cm以上、深さ20cm以上で先端がⅦ層に達し、比較的大型のものである。

遺物出土状況 遺物は925点(うち水洗選別397点)出土した。覆土からⅢ～Ⅳ群土器8点、Ⅳ群土器1点、石鏃3点、石槍・ナイフ2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片5点、剥片175点、磨製石斧1点、砥石3点、加工・使用痕ある礫2点、礫18点が出土し、掘上土から石槍・ナイフ1点、つまみ付きナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片11点、礫2点が出土した。掘上土で検出したHFC-1には剥片529点(うち水洗選別383点)、HFC-2には石鏃13点、二次加工・使用痕ある剥片10点、剥片103点がある。またHF-3から剥片8点、HF-5から分類不明土器1点、剥片13点(いずれも水洗選別)、HF-6から礫1点、HF-10から二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片3点、HF-11から剥片6点が出土したほか、HP-6の覆土から剥片1点、HP-12の覆土から剥片1点が出土した。覆土中の礫には、砂岩の大型板状礫も含まれていた。

時期 出土した土器から、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。

(阿部)

ⅢH-31 (図VI-61 図版47)

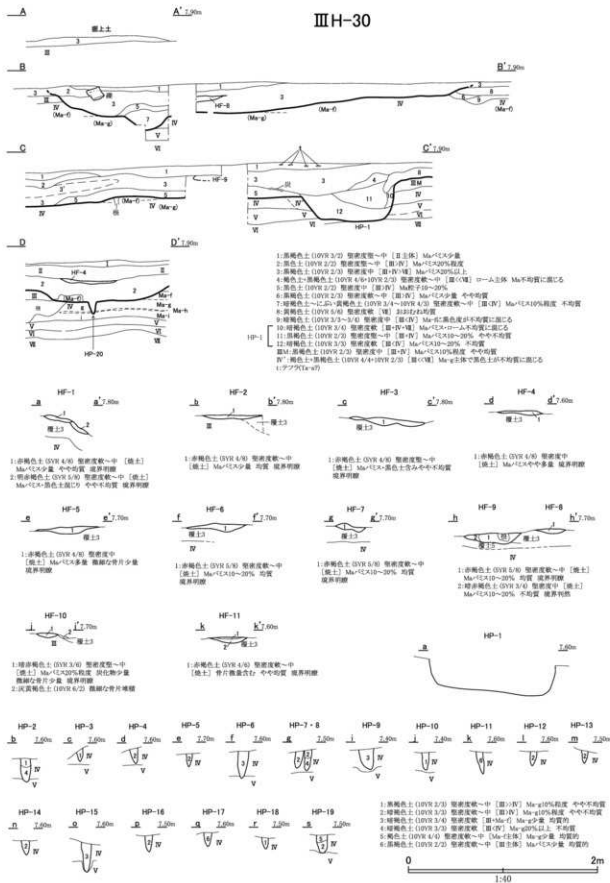
位置 N・O24・25区 平面形態 不整楕円形

ⅢH-30



图VI-59 ⅢH-30(1)

III H-30



図VI-60 III H-30(2)

規模 3.96×3.50/3.40×2.94/0.75m

確認・調査 O24区でⅡ層を掘り下げⅢ層上面を検出した時点で、円形の浅いくほみを確認した。円の中心付近を通るように十字のトレンチを設定し掘り下げたところ、床面と壁の立ち上りを確認したため竪穴住居跡と判断した。確認面の長径は約4mで、深さは0.75mと深い掘り込みである。構築面は中央付近が一段低くなる構造で、炉跡と考えられる焼土(HF-1)が構築面より高い周辺とはほぼ同じ高さで確認されたため、中央付近の構築面を埋めて床を作っていると考えられる。

覆土 Ⅱ層に分けた。中央付近には黒褐色土が厚く堆積し、壁際には土層が細かく堆積している。土層は黒褐色ないし暗褐色で、Ⅳ層とⅥ層が混ざり炭化物を微量に含むものが多い。3層中では炉跡焼土と考えられるHF-1が検出されており、この面が床面である可能性が高いが、土層断面では明瞭な床面としては確認できなかった。また、HF-1は誤って掘り下げてしまい、土層注記を作成していない。HF-1焼土層出土の炭化材の¹⁴C年代は3470±20であった(付篇1節参照)。

床面・壁 床面は上述の様に中央付近の掘り込みを埋め戻して構築していると推定される。また、東側壁付近は一段高くなっている。壁は南北では急角度で直線的に、東西はやや湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土1か所(HF-1)、土坑2基(HP-10・12)柱穴・杭穴10基(HP-1~9・11)を検出した。HF-1は位置、形状から炉跡焼土と考えられる。HP-10は、北側壁ほぼ中央に位置し、覆土下位からⅢ~Ⅳ群土器1個体が出土している。HP-12は床面中央よりやや西側に位置する細長く浅い形状の土坑で、坑底付近から赤色土壌が検出された。

遺物出土状況 遺物は559点出土した。床面からⅢ~Ⅳ群土器1点、両面調整石器1点、加工・使用痕ある礫1点、構築面から礫2点が出土した。覆土からⅢ~Ⅳ群土器14点、Ⅳ群土器1点、Ⅴ群土器12点、Ⅵ群土器11点、石鏃3点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器2点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片4点、剥片230点、石核1点、原石1点、石鋸1点、砥石2点、加工・使用痕ある礫3点、礫57点が出土した。また、HP-10の覆土からⅢ~Ⅳ群土器208点(1個体)、礫2点、HP-12覆土から剥片2点が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉北筒V式期と考えられる。

(広田)

ⅢH-32 (図VI-62 図版48)

位置 R28・29区 **平面形態** 円形

規模 3.67×3.42/-×-/0.19m

確認・調査 ⅢH-6の調査中に、重複する遺構の覆土を確認したため、周辺の精査を行い円形の黒褐色土のまとまりを検出した。その中心付近を通るようにトレンチ調査を行った結果、床面と焼土を確認したため、竪穴住居跡と判断した。掘り込みが浅く、周辺の遺構と重複しているため、遺構の範囲が不明瞭である。ⅢH-6・13・23と重複し、検出状況や土層断面の観察等から、これらの遺構より新しいと判断した。少量の炭化材が広い範囲で検出されているため焼失住居跡の可能性はある。

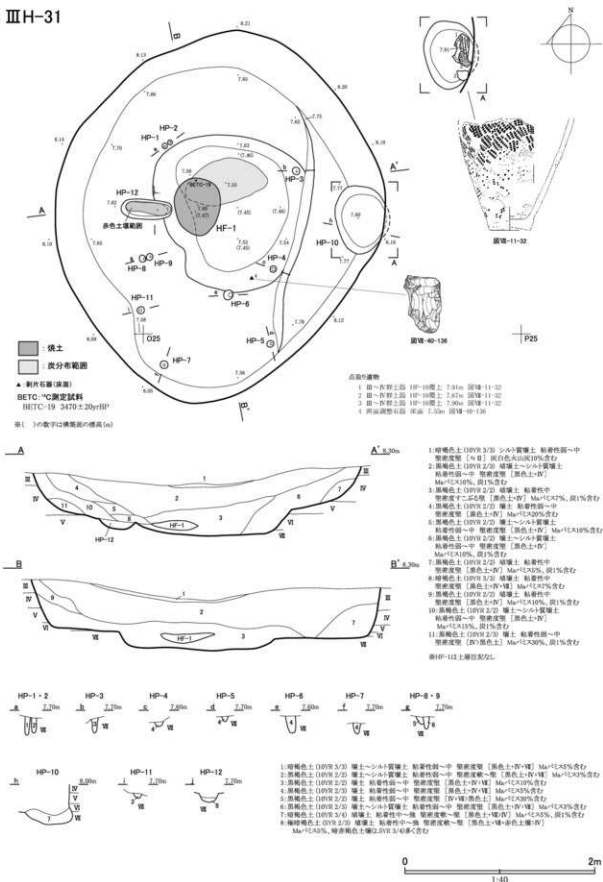
覆土 2層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざる土層で、上位(1)は黒褐色で炭化物を微量に含み、下位(2)はⅢ層主体の黒色土である。

床面・壁 床面はやや凹凸がある。壁は掘り込みが浅く不明瞭だが、確認できた部分では緩やかに立ちあがる。

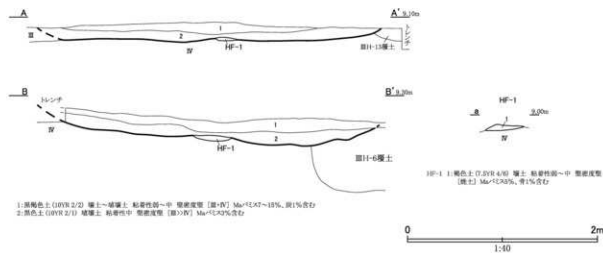
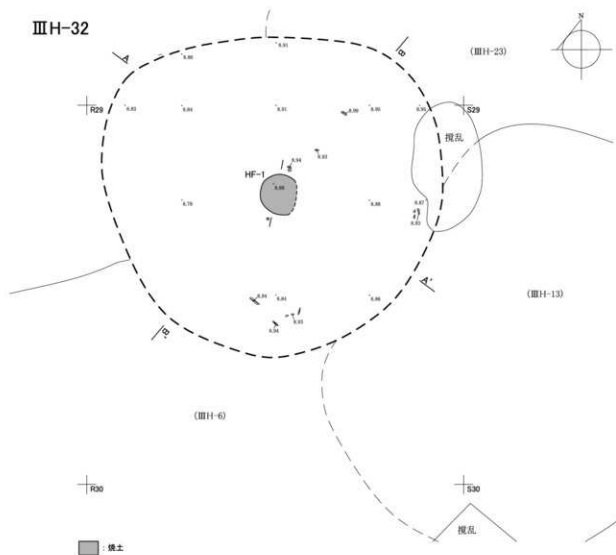
付属遺構 焼土1か所(HF-1)を検出した。床面ほぼ中央に位置する炉跡焼土で、炭化物、骨片を微量含む。

遺物出土状況 遺物は51点(うち1点水洗選別)出土した。床面から剥片3点、礫2点が出土し、

III-H-31



図VI-61 III-H-31



図VI-62 III H-32

覆土からⅡ群土器1点、Ⅳ群土器1点、石鏃2点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、剥片8点、石鏃1点、砥石2点、礫22点が出土した。またHF-1から剥片1点（水洗選別）、礫4点が出土した。

時期 遺構の重複関係等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（広田）

ⅢH-33（図VI-63 図版48）

位置 M・N19・20区 **平面形態** 楕円形？

規模 (4.40)×(4.80)／(4.30)×(4.60)／0.42m

確認・調査 ⅢH-14の調査中、南東側壁面の上位に黒褐色土の浅い落ち込みを確認した。トレンチを延長したのち掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、ⅢH-14とは別の堅穴住居跡と判断した。ⅢH-14と重複し、当遺構が古い。

覆土 覆土は3層に分けた。上位～中位（1層）はⅡ層およびⅢ層の自然堆積土、下位（2層）は摩周バミスをやや多く含む黒褐色土で流入土と考えられる。壁際（3層）は摩周バミスをさらに多く含む不均質な土壌で、流入土および壁面崩落土と考えられる。

床面・壁 床面はⅥ層上面まで掘り下げており、おおむね平坦であるが南側ほかに段をもつ。壁は急に立ち上がり、緩やかに外傾する。

付属遺構 焼土1か所（HF-1）、土坑1基（HP-1）を検出した。土坑は住居跡の東壁寄りから検出された。長軸約1mの楕円形、深さ約30cmで坑底は丸みを帯びる。覆土は摩周バミスを少量含む暗褐色土が主体で、埋め戻し土と考えられる。土坑の上面に焼土HF-1が形成されている。焼土は径約40cm、被熱層は最大厚6cmで赤褐色を呈する。上面に炭化木片の薄層があり、周辺にも炭化材片が散在する。

遺物出土状況 遺物は21点（うち水洗選別1点）出土した。覆土からⅡ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器4点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、剥片2点、礫9点が出土した。またHF-1からⅢ～Ⅳ群土器1点（水洗選別）、HP-1の覆土からⅢ～Ⅳ群土器1点が出た。

時期 出土した土器より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（阿部）

ⅢH-34（図VI-64・65 図版49）

位置 M25、N24・25区 **平面形態** 楕円形？

規模 (5.04)×(3.43)／×××／0.26m

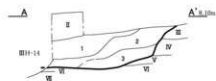
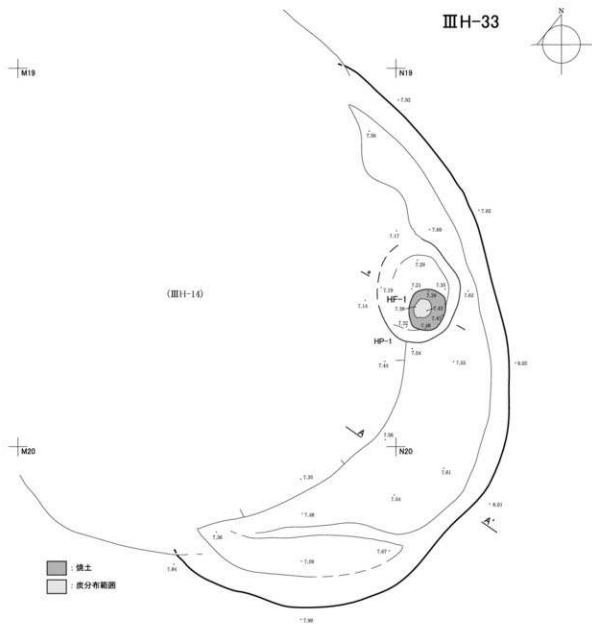
確認・調査 N25区でⅢ層調査中に黒褐色土のまとまりを確認した。調査区西壁沿いと東西方向にトレンチ調査を行った結果、炭化材や床面を検出し、堅穴住居跡と判断した。西側は調査区外に広がり、さらに他の遺構との重複や攪乱のため調査できた範囲は少ない。炭化材は調査範囲西側で多く検出され、焼土を伴うものもみられるため焼失住居跡の可能性が高い。ⅢH-16・20、ⅢP-6と部分的に重複し、新旧関係はⅢH-16、ⅢP-6より古い。ⅢH-20との関係は不明である。

覆土 14層に分けた。土層はⅢ層、Ⅳ層が混ざる土層で多くのものに炭化物が微量に混ざる。上位の土層（1～3）はⅡ層が混ざる土層で、灰白色火山灰を微量含むもの（2）もある。

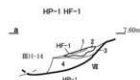
床面・壁 床面はやや凹凸がみられる。壁は掘り込みが浅いため不明瞭で、立ち上がりはごく緩やかである。

付属遺構 焼土1か所（HF-1）を検出した。HF-1は調査区西壁際に位置し、調査区外に広がる。覆土下位の焼土で厚さは約2cmと薄い。

遺物出土状況 遺物は40点出土した。床面から石槍・ナイフ1点、剥片2点、礫2点が出土し、覆



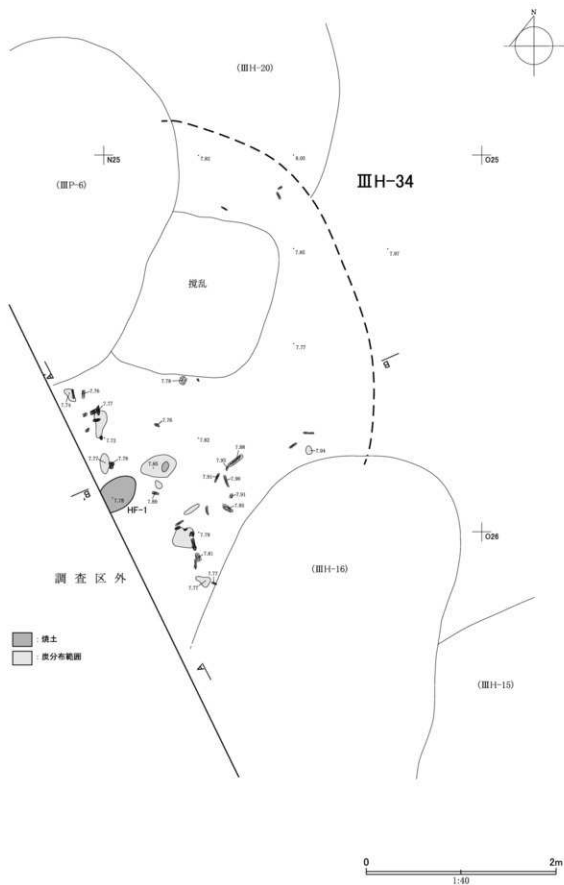
1. 黑褐色土 (IVR 3/2) 垂直度數 [IV+III] 均質的
2. 黑褐色土 (IVR 2/2) 垂直度數~中 [III] IV₁ Ma¹Ca10~20% 均質的
3. 黑褐色土~暗褐色土 (IVR 2/3~2/2) 垂直度數~中 [III+IV] Ma¹Ca10~20% 不均質



1. 灰化熟礫
2. 黑褐色土 (IVR 4/0) 垂直度數~中 [黄土] Ma¹Ca10~20% 中~均質
香芹少量存在, 磁率明顯
3. 黑褐色土 (IVR 2/2) 垂直度數 消化礫渣 IV₁ Ma¹Ca少量
4. 暗褐色土 (IVR 3/0) 垂直度數~中 [III+V+IV] Ma¹Ca少量 中~均質

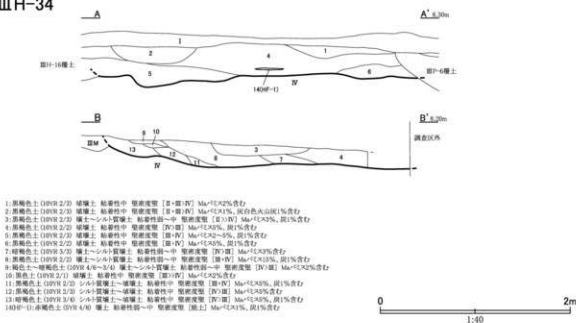


圖VI-63 III H-33



図VI-64 III H-34(1)

ⅢH-34



図Ⅵ-65 ⅢH-34(2)

土からⅡ群土器2点、Ⅲ～Ⅳ群土器12点、Ⅳ群土器4点、剥片8点、原石1点、礫6点が出土した。またH F - 1 から剥片2点が出土した。

時期 遺構の重複関係等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-35 (図Ⅵ-66 図版49)

位置 K・L 21・22区 平面形態 楕円形?

規模 (5.44) × (0.72) / (4.60) × (0.46) / (0.46) m

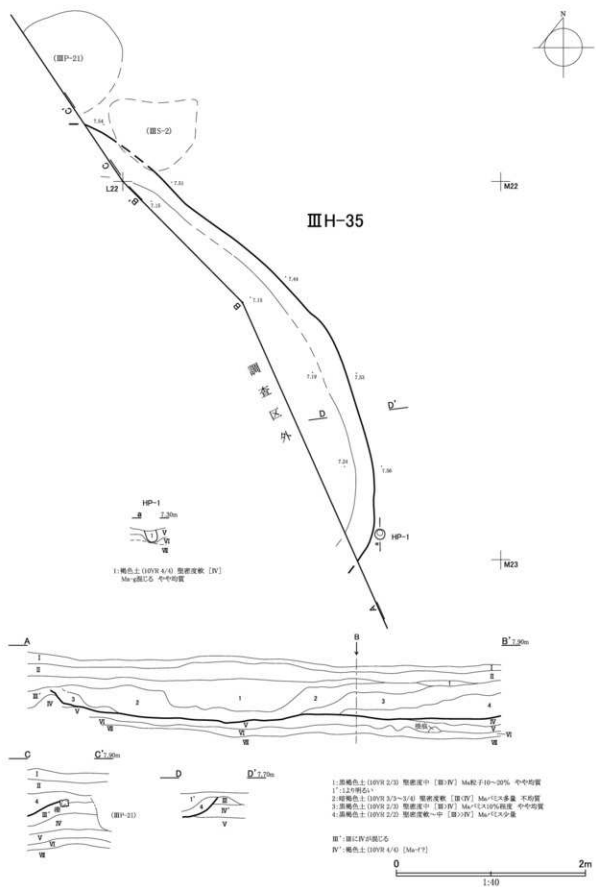
確認・調査 ⅢH-27の西側を掘り下げ中、調査区境付近に黒褐色土のまとまりを検出した。調査区境に沿ってトレンチ調査を行ったところ、黒褐色土の落ち込みがさらに北側に広がり、わずかな平坦面と壁の立ち上がりを検出した。規模や形状を考慮し、大部分が調査区外にある竪穴住居跡と判断した。住居跡北部の壁際覆土に礫集中ⅢS-2がわずかに落ち込んでいる。

覆土 調査区境の断面で分層した。1層はⅢ層を主体とする自然堆積土。2層は摩周バミスを多量含む暗褐色土で、周辺遺構の掘上土が投棄されたことが考えられる。下位の3・4層は摩周バミスを少量含む黒褐色土で、流入土と考えられる。

床面・壁 床面はⅤ層まで掘りこまれ、おおむね平坦とみられ、南側がやや高い。壁はやや緩やかに立ち上がる。

付属遺構 調査範囲の住居跡内では確認できなかったが、関連があるものとして、南東部の壁際外側で柱穴・杭穴1基(H P - 1)を検出した。検出面からの深さは13cmほどで、先端は丸い。

遺物出土状況 覆土からⅤ群土器1点、剥片5点が出土した。



図VI-66 III H-35

時期 検出面や周辺の出土遺物等より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。(阿部)

ⅢH-36 (図VI-67・68 図版50)

位置 K～M20～22区 平面形態 楕円形?

規模 (8.70)×5.46/(8.52)×4.90/0.40m

確認・調査 ⅢH-27の調査中、北～東壁の上位に黒褐色土の浅い落ち込みを確認した。周辺を精査したところ、摩周バミスを多く含む土壌のまとまりを検出した。トレンチ調査ののち掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡とした。ⅢH-27が当遺構を大きく切っており、当遺構が古い。また住居跡東側でⅢH-7・ⅢP-13と隣接、一部重複するが、新旧関係は不明である。

覆土・掘上土 覆土は7層に分けた。1層は中央部の大部分に広がり、Ⅱ層およびⅢ層を主体とする自然堆積土および流入土である。2・3層は摩周バミスをやや多く含む土壌で、壁寄りに分布し流入土とみられる。4層はⅦ層ロームを主体とする褐色土で、住居跡北壁側から内部へ傾斜して分布する。周辺遺構からの掘上土と考えられる。5～7層は摩周バミスをやや多く含む土壌で、壁際に分布する。一方、住居跡の北西方向に摩周バミスやロームを多く含む掘上土が分布し、当遺構に関係する可能性がある。

床面・壁 床面はⅣ層中(一部Ⅴ層上面)で比較的浅く、おおむね平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土2か所(HF-1・2)を検出し、床面で炉跡焼土1か所(HF-3)、柱穴・杭穴4基(HP-1～4)を検出した。HF-1は覆土下位に形成され、色調がやや暗色である。HF-2は覆土上面の壁際に形成され、被熱層は薄い。炉跡HF-3は長軸70cmの不整楕円形で、被熱層はⅣ層で赤褐色を呈し、最大厚8cmである。柱穴はHP-1・3・4が壁際付近、HP-2が中央寄りにある。HP-1・4が深さ20cm以上であるものの、全体的に小規模である。

遺物出土状況 遺物は124点(うち水洗選別1点)出土した。床面直上から石槍・ナイフ1点が出土し、覆土からⅠ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器61点、Ⅳ群土器5点(大型破片1点含む)、Ⅴ群土器4点、石鏃2点、石槍・ナイフ3点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ2点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片29点、砥石1点、加工・使用痕ある礫1点、礫9点が出土した。またHF-3から剥片1点(水洗選別)が出土した。

時期 出土した土器より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。(阿部)

ⅢH-37 (図VI-69 図版51)

位置 Q・R23・24区 平面形態 楕円形?

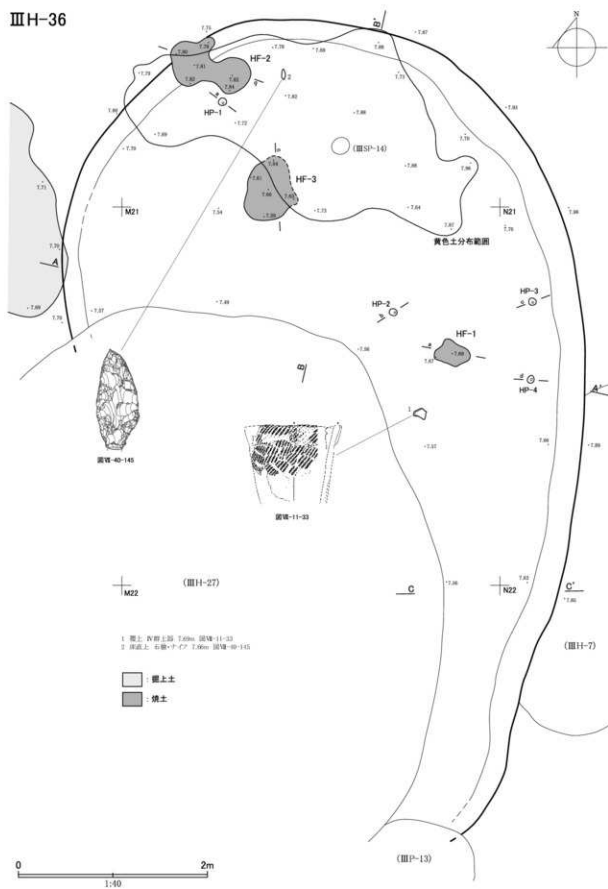
規模 (3.98)×(3.62)/(3.75)×(3.42)/(0.29)m

確認・調査 R24区周辺のⅣ層上面で、黒褐色土のまとまりを確認した。調査区壁際及びそれに直交するようにトレンチ調査を行ったところ、炭化材及び床面を検出したため堅穴住居跡と判断した。北西側は自然の攪乱で壊され、北東側は調査区外に広がるため、調査範囲は全体の約1/2と考えられる。掘り込みは浅く、西側の壁は不明瞭である。炭化材は全体に分布し、焼土もみられるため焼失住居跡と推定される。南東側でⅢH-43が近接する。

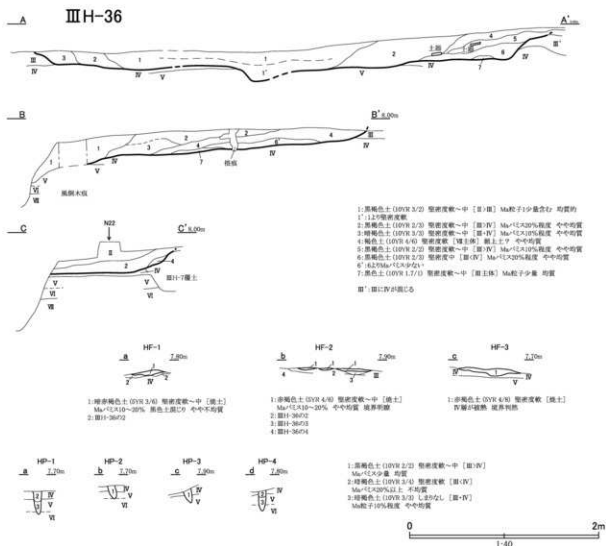
覆土 8層に分けた。土層はⅢ層とⅣ層が混ざり、炭化物を微量に含む。色調は暗褐色～黒褐色を呈する。

床面・壁 床面はⅣ層中に構築され、全体的に小さな凹凸がみられる。掘り込みが浅く壁は不明瞭だ

ⅢH-36



図VI-67 ⅢH-36(1)



図VI-68 ⅢH-36(2)

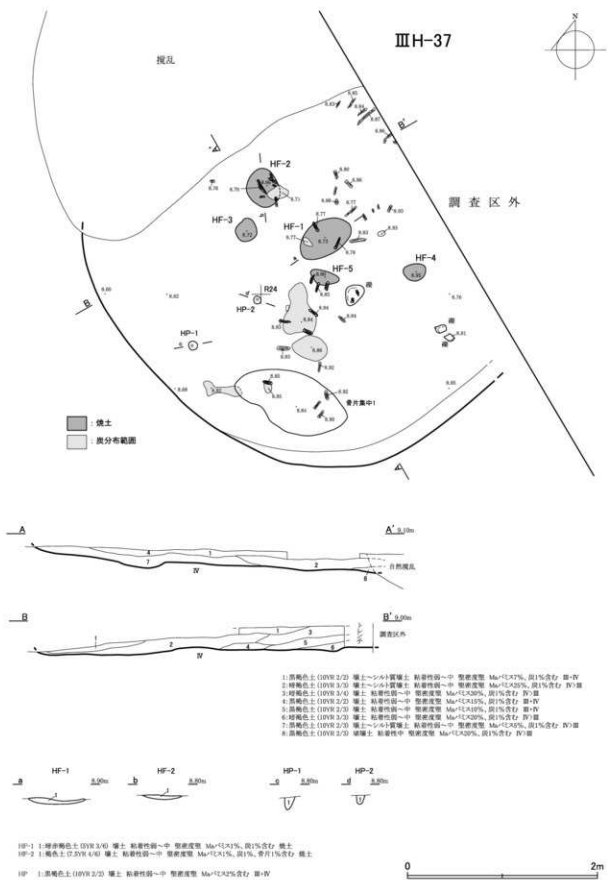
が、南壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土5か所 (HF-1～5)、柱穴・杭穴2基 (HP-1・2)、骨片集中1を検出した。HF-1・2は位置、形状等から炉跡焼土と考えられる。HF-3～5は焼失に伴う焼土と推定される。HP-1・2は位置、形状等から柱穴と考えられ、径は約10cm、深さが約10cm前後と小型である。骨片集中1は覆土中で検出し、範囲は長径約12mと広い。骨片は微細な焼骨で形状を確認できるものはみられない。

遺物出土状況 遺物は115点出土した。床面から両面調整石器1点、礫1点が出土し、覆土からⅡ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器17点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器4点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片4点、剥片61点、たたき石1点、砥石3点、台石・石皿1点、礫17点が出土した。またHF-1から二次加工・使用痕ある剥片1点が出土した。

時期 覆土出土の遺物等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。

(広田)



図Ⅵ-69 ⅢH-37

ⅢH-38 (図VI-70 図版52)

位置 P・Q22・23区 平面形態 楕円形?

規模 (5.23) × (4.78) / (4.84) × (4.56) / (0.24) m

確認・調査 Q23区周辺のⅢ層調査中に、炭化物を多く含んだ黒褐色土の楕円形のまとまりを確認した。その中央付近を通るように十字のトレンチを設定し掘り下げたところ、炭化材と床面を確認し、堅穴住居跡と判断した。掘り込みは浅く、西側壁付近は他の遺構と重複している。覆土中から広い範囲で炭化材と焼土が検出されているため、焼失住居跡と推定される。西側でⅢH-24、ⅢP-33と重複しているが、新旧関係は不明である。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,730 ± 20であった(付篇1節参照)。また、覆土出土の炭化材6点について樹種同定を行い、カバノキ属、コナラ属コナラ節、ニシキギ属、ナシ亜科と同定された(付篇3節参照)。

覆土 3層に分けた。Ⅲ層とⅣ層からなる黒褐色の土層(1・2)が厚く堆積する。これらの層には炭化物も微量に含まれる。

床面・壁 床面は概ね平坦で、壁は北西側ではほとんど確認できないが、東側では緩やかに立ち上がる。

付属遺構 焼土6か所(HF-1~6)、骨片集中1か所を検出した。HF-1は位置及び形状から炬跡焼土と考えられる。HF-2~6は焼失に伴う焼土と推定される。骨片集中1は微細な焼骨からなり、覆土下位で検出された。

遺物出土状況 遺物は覆土から116点出土した。Ⅱ群土器8点、Ⅲ~Ⅳ群土器36点、Ⅳ群土器1点、焼成粘土塊2点、石槍・ナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片4点、剥片28点、磨製石斧1点、たたき石2点、砥石3点、加工・使用痕ある礫1点、礫29点が出土した。

時期 出土遺物等より縄文時代中期後葉~後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-39 (図VI-71 図版53)

位置 S27・28区 平面形態 不整楕円形?

規模 (3.42) × (2.94) / (3.33) × (2.60) / 0.44 m

確認・調査 S27区のⅢ層調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。28ライン沿いにトレンチ調査を行ったところ、床面と壁の立ち上がりを確認したため堅穴住居跡と判断した。本遺構はS28区にも広がっていたが、すでに床面であるⅣ層上面まで、炭化材を残して掘り下げていたため、壁等は不明で、推定線で示した。規模は長径3.4m、短径約3.0mの小型の堅穴住居跡で、覆土中の広い範囲から炭化材や焼土が検出されているため、焼失住居跡と推定される。

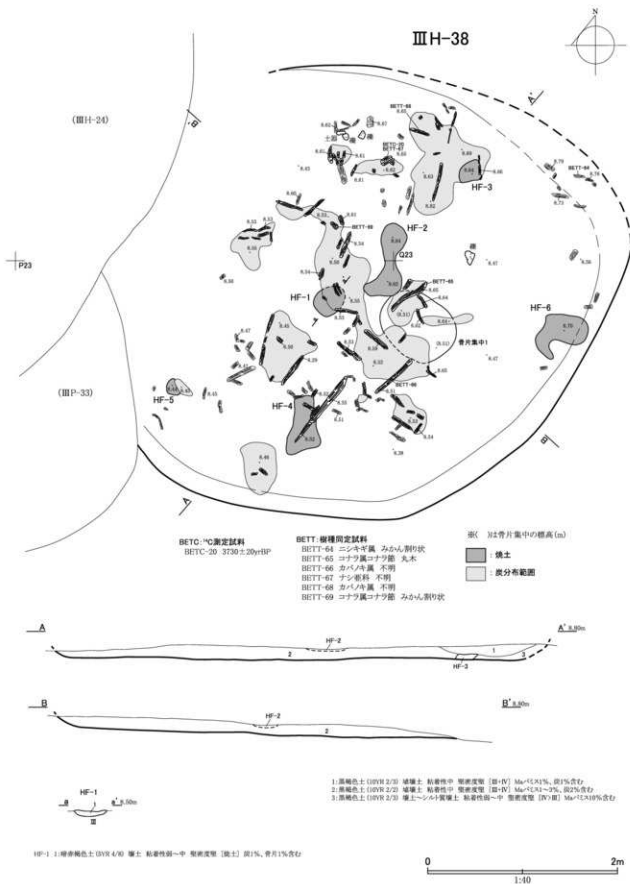
覆土 4層に分けた。黒色土とⅣ層が混ざった土層で、中位の層(2・3)は炭化物を微量に含む。

床面・壁 床面は全体的に浅くくぼむ形状で、小さな凹凸がみられる。また南西側が高くなっている。壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土2か所(HF-1・2)、剥片集中1か所(HFC-1)を検出した。HF-1・2は覆土中で確認した焼土で、炬跡の可能性もある。HFC-1は北側の覆土中で確認した。範囲は径8cmと狭いが、剥片等が500点以上出土している。

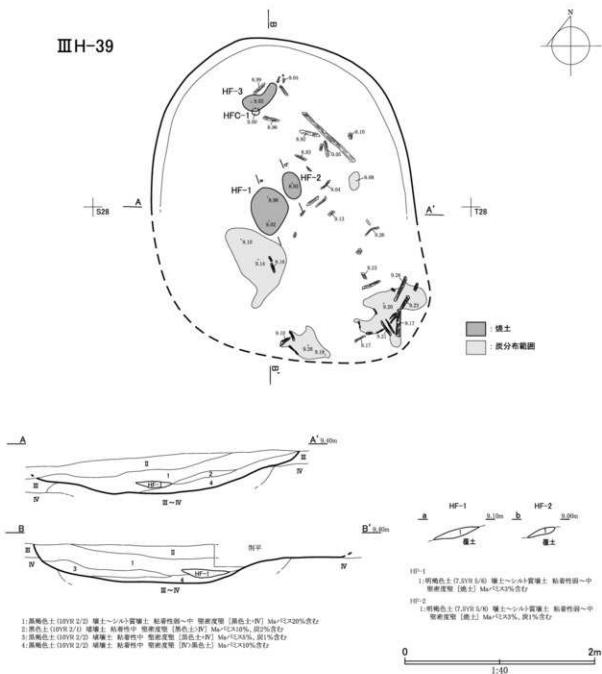
遺物出土状況 遺物は602点(うちの水洗選別507点)出土した。覆土からⅢ~Ⅳ群土器13点、石槍・ナイフ3点、両面調整石器3点、つまみ付きナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片48点、礫11点が出土し、HF-1から剥片2点が出土した。また覆土中で検出したHFC-1の遺物は、石鏃1点(水洗選別)、両面調整石器2点、剥片518点(うち水洗選別506点)である。

時期 出土遺物等より縄文時代中期後葉から後期前葉と考えられる。(広田)



図VI-70 ⅢH-38

ⅢH-39



図VI-71 ⅢH-39

ⅢH-40 (図VI-72~74 図版53~55)

位置 N・O 17~19区 平面形態 楕円形

規模 7.14×(3.33)/6.77×(3.33)/0.30m

確認・調査 ⅢMH-1の南側を掘り下げ中、ロームや摩周バミスが不整形に広がる範囲を検出した。ⅢMH-1のトレンチを延長し、調査区東側の壁際およびそれに直交するトレンチ調査を行ったこと

ろ、黒褐色土の範囲もあわせ大型の遺構であることが分かった。底面とわずかな壁の立ち上がりを検出し、竪穴住居跡とした。下記の状況から焼失家屋とみられる。全形の半分弱ほどが東側の調査区外に広がるとみられる。住居跡西部にⅢP-8・25が重複し、両者よりも当遺構の方が古い。

覆土 覆土は、上位（1層）が摩周バミスを少量含む黒色土で自然堆積土とみられる。中位以下は複雑な様相を示す。2層はローム主体の褐色土で、住居跡北方から連続しておりⅢMH-1等周辺遺構から排出されたものと考えられる。中位（南部では下位まで）の3～5層は、摩周バミス入りの黒色～黒褐色土で、流入土と考えられる。下位（6～9層）は、Ma-f火山灰、Ma-g・iバミス、Ⅵ層ロームが混じる黄褐色土で、住居跡中央北部に不整形にまとまって分布する。暗赤褐色の被熱部や炭化材片が多くみられる。住居廃絶時に焼失した材や屋根土と考えられる。最下層（北部10～12層）は摩周バミスおよび炭化物を多く含む黒褐色土である。

住居跡の南側周辺は自然堆積のⅢ層がやや厚く残存するが、北～西側は摩周バミスの混じる土壌が広がり、削平や周辺遺構の掘上土等の影響によるものと考えられる。

床面・壁 床面はⅣ層上位で、ほぼ平坦である。壁は南側が明瞭で、やや急に立ち上がる。西側はかろうじて境界が分かる程度で、北部は判然としない。

付属遺構 覆土中で焼土7か所（HF-1～4・6～8）を検出し、床面で炉跡焼土2か所（HF-5・9）、柱穴・杭穴4基（HP-1～4）を検出した。

覆土中の焼土は不整形なものも多く、被熱層は6cm前後で赤褐色を呈する。HF-7・8は土壌のしまりが弱いローム主体の黄褐色土層（HM層）下位が被熱しており、周縁部に炭化材片を多く含む。住居廃絶の際の焼失行為に関わる可能性がある。炉跡HF-9はHF-8の直下であり、約60cmほどの大きさで、被熱層はⅣ層摩周バミスで最大厚11cmを測る。明赤褐色を呈し、強く被熱している。住居跡南東部にも床面検出の焼土HF-5がある。

柱穴・杭穴のうち、HP-1～3は壁寄りであり、HP-4は中央付近にある。HP-1・2は深さ20cmを超えるが、HP-3・4は浅い。

遺物出土状況 土器・石器等は222点出土した。床面からⅡ群土器1点、砥石2点、礫8点が出土し、覆土中のHM層からⅢ～Ⅳ群土器3点、石槍・ナイフ2点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片5点、礫5点、覆土からⅡ群土器17点、Ⅲ～Ⅳ群土器60点、石鏃4点、石槍・ナイフ5点、両面調整器2点、スクレイパー13点、二次加工・使用痕ある剥片8点、剥片62点、磨製石斧2点、砥石4点、礫18点が出土した。磨製石斧のうち1点は砂岩製で、完形で残存していた。石器・礫の一部に被熱したものがみられる。そのほか、HM層を主体に炭化材片が多数出土している。またHF-8の上面には微細な骨片が多量に含まれていた。

時期 出土した土器より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（阿部）

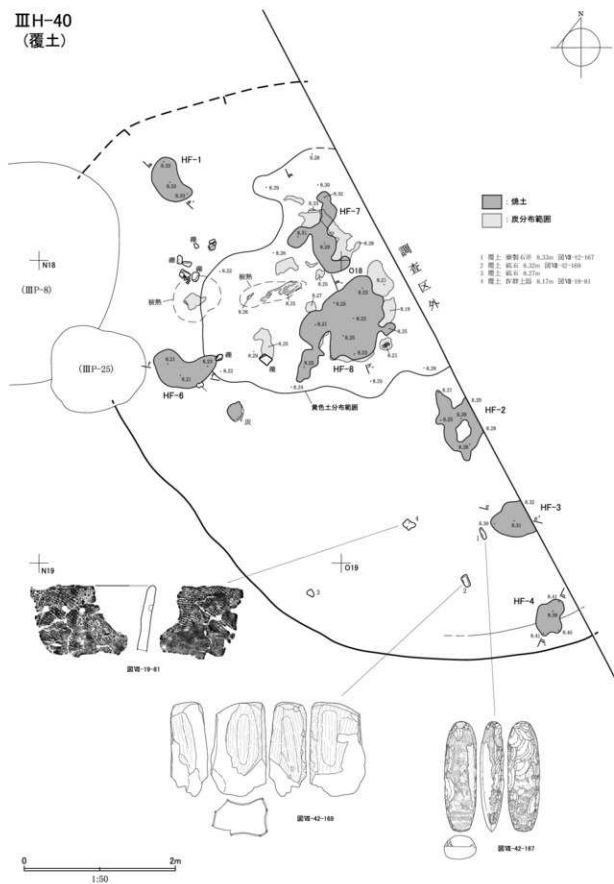
ⅢH-41（図VI-75 図版56）

位置 N・O21・22区 **平面形態** 不整形円形？

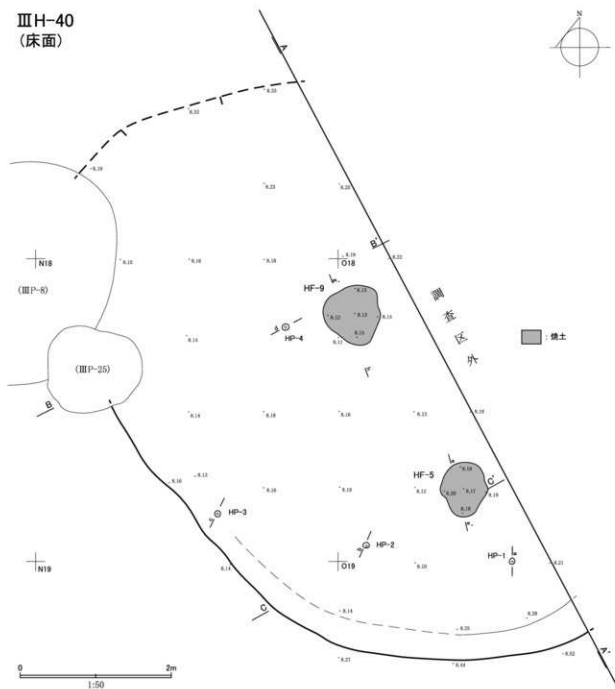
規模 (4.15)×(3.66)／(3.48)×(3.09)／0.54m

確認・調査 ⅢH-24のトレンチ調査時に別遺構の覆土として確認したため、ⅢH-24の調査終了後、調査を行った。ⅢH-24と入れ子状に、ⅢP-34とは西側が重複する。新旧関係はⅢH-24より古く、ⅢP-34より新しい。覆土下位で貼床と考えられる黄褐色ロームの薄い堆積を面的に確認した。貼床の範囲は構築面が周辺より低くなっており、低い部分を埋めてロームを貼り、平坦な床面を構築したと考えられる。本遺構は炉跡焼土は確認できなかったが、貼床がみられ、柱穴が確認でき

ⅢH-40
(覆土)



图VI-72 ⅢH-40(1)

ⅢH-40
(床面)

図VI-73 ⅢH-40(2)

たことから竪穴住居跡と判断した。

覆土 25層に分けた。上位は黒色土とIV層が主体の黒色～黒褐色土層（1～3）が分厚く堆積している。貼床（13）より下位（15・17・25等）は人為的な埋戻しの土層と考えられる。全体的に細かい炭化物を微量に含む土層が多い。

床面・壁 貼床の面はほぼ平坦に作られている。壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構 焼土2か所（HF-1・2）、柱穴・杭穴（HP-1～3）を検出した。HF-1・2は覆土中で確認した。HF-2はごく薄く、土層断面図は作成していない。HF-1は微細な骨片がみられたため、炉跡焼土の可能性もある。HP-1は径約14cm、深さ36cmと他の柱穴に比べ規模がやや

大きく、断面は下端に向かって鋭く尖る形状である。HP-3は南壁に位置し、ⅢH-24もしくはⅢP-34に付属する可能性もある。

遺物出土状況 遺物は86点出土した。床面からスクレイパー1点、剥片8点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器15点、石鏃2点、石槍・ナイフ1点、石錐1点、両面調整石器3点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片44点、礫8点が出土した。

時期 出土遺物や重複する遺構の時期等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢH-42 (図VI-76 図版57)

位置 K・L15・16区 **平面形態** 不定形

規模 4.94×(2.64)/4.60×(2.50)/0.19m

確認・調査 Ⅲ層を掘り下げ中、摩周バミスの広がる範囲を検出し、その南西方向で大型土器破片がまとまって出土した。しばらくしてⅢP-19の調査を行ったところ、さらに西側に大型遺構が広がっていることを確認した。トレンチ調査後掘り下げ、底面とわずかな壁の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡とした。北東側と西側に近現代の攪乱があり、全形が不明である。

覆土・掘上土 覆土は摩周バミスを含む黒褐色土(1・2・6層)を基調とする。住居跡中央部の中～下位(3・4層)に炭化物を多く含む不均質な層が堆積する。3層は焼土粒を含む黒褐色土、4層はMa-f火山灰を主体とする褐色土である。南部に分布する5層は、摩周バミスを含む暗褐色土である。

住居跡北西側上面で先に検出していた摩周バミスのまともりは掘上土と考えられ、当遺構が関係しているものと考えられる。

床面・壁 床面はⅣ層で、ほぼ平坦である。壁は南北側では緩やかに立ち上がり、東側の一部はやや急に立ち上がる。南東部はⅢP-19との境にわずかに稜をもつ。

付属遺構 覆土中で焼土1か所(HF-2)を検出し、床面で炉跡焼土1か所(HF-1)を検出した。HF-2は不整形で明赤褐色を呈し、上面や周辺から炭化材が出土している。HF-1は楕円形で、Ⅳ層中に深く被熱している。

遺物出土状況 住居跡北部の覆土で、北筒Ⅲ式土器の同一個体のまともりが出土した。また住居跡中央から南東部にかけて、炭化材片が多数出土した。南東部に土器・礫がややまとまって出土した範囲がある。礫は大部分が被熱している。

土器・石器等は覆土から41点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器3点、Ⅳ群土器19点、石鏃1点、剥片3点、礫15点が出土した。

時期 出土した土器より、縄文時代後期前葉とみられる。(阿部)

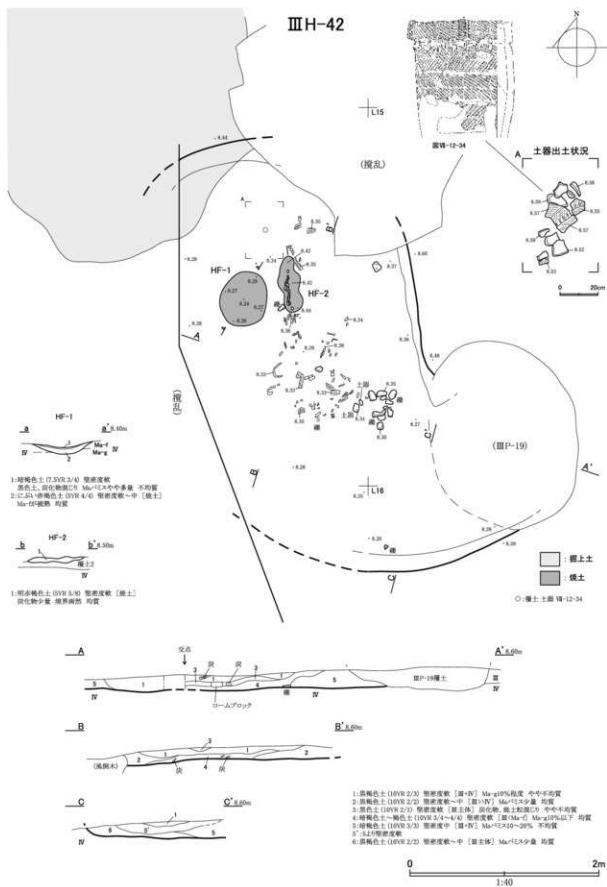
ⅢH-43 (図VI-77 図版58)

位置 R・S24・25区 **平面形態** 楕円形?

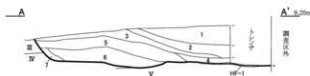
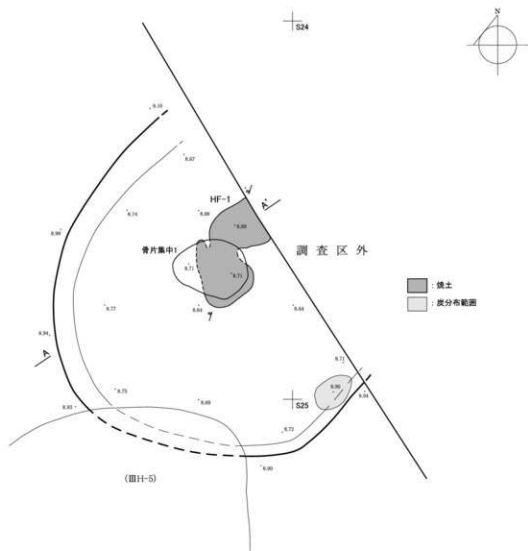
規模 (3.74)×(2.67)/(3.28)×(2.44)/(0.30)m

確認・調査 R24区周辺のⅢ層調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。調査区東壁沿いとそれに直交する方向でトレンチ調査を行い、床面と焼土を確認し、堅穴住居跡と判断した。北東側は調査区外に広がるため、調査範囲は全体の約1/2である。南側の一部がⅢH-5と重複するが新旧関係は不明である。

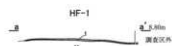
覆土 7層に分けた。黒色土とⅣ層が混ざる黒褐色土が主体で、炭化物を微量含む土層である。



ⅢH-42



1. 黒褐色土 (OIVR 2/3) 壤土 粘着性弱～中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 IV>黒色土
2. 黒褐色土 (OIVR 2/2) 壤土 粘着性弱～中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 黒色土-IV
3. 黒褐色土 (OIVR 2/2) 壤土 粘着性弱～中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 IV>黒色土
4. 黒褐色土 (OIVR 2/2) 壤土 粘着性弱～中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 褐色土-IV
5. 褐色土 (OIVR 2/1) 壤土 粘着性中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 褐色土-IV
6. 黒褐色土 (OIVR 2/2) 壤土 粘着性弱～中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 褐色土-IV
7. 黒褐色土 (OIVR 2/2) 壤土 粘着性中 腐熟度弱 $Mu/CE \leq 10\%$, 炭1%含有 褐色土-IV



1. 暗褐色土 (OIVR 2/0) 腐熟度弱 炭10%, 骨片2%含有, 焼土

ⅢH-43 Ⅵ-77

床面・壁 床面はⅣ～Ⅴ層中に構築されやや凹凸がみられる。壁の立ち上がりは緩く直線的に立ち上がる。

付属遺構 焼土1か所(HF-1)、骨片集中1か所を検出した。HF-1は床面はほぼ中央に位置すると考えられるが、平面が不整形で焼土も薄いため炉跡かどうかは不明である。骨片集中1はHF-1の直上で確認された。微細な焼骨が多く、大型のものはみられない。

遺物出土状況 遺物は168点出土した。床面からⅢ～Ⅳ群土器21点、剥片4点、礫3点が出土し、覆土からⅢ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器22点、Ⅴ群土器5点、石鏃2点、石槍・ナイフ5点、両面調整石器1点、スクレイパー2点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片46点、磨製石斧2点、砥石1点、加工・使用痕ある礫1点、礫9点が出土した。またHF-1からⅢ～Ⅳ群土器4点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片32点、石核1点、礫2点が出土した。

時期 出土土器から、縄文時代中期後半北筒Ⅱ式トコロ6類期と考えられる。(広田)

(2) 平地住居跡

ⅢMH-1 (図VI-78～83 カラー図版5 図版59・60)

位置 L15・16、M14～17、N15～17区 **平面形態** 楕円形

規模 (9.80)×(5.46)/(9.80)×(5.14)/(0.10)m

確認・調査 Ⅲ層上面を精査したところ、摩周バミスロームを主体とする黄褐色土が連続し、その内側に黒色土の堆積する範囲を検出した。十字にトレンチ調査を行ったところ、土層の落ち込みがなく、黒色土中に黄褐色土が堆積する土層を検出し、焼土や炭化材を含むことを確認した。道東地域におけるこれまでの調査例から、「平地住居跡」を想定して調査を行った。

まず黄褐色土(「HM層」とした)上面まで掘り下げ、地形測量等の記録を作成した。次に中心部から放射状にトレンチ調査を追加し、土層や底面を確認した。その後、周囲のHM層や覆土を掘り下げた。破砕礫や炭化材は多数の遺物が出土し、炭化材はサンプルを採取した。遺物の取り上げ後床面を検出し、付属遺構の調査を行い、諸記録を作成した。その結果から、基本的にⅢ層中、一部を掘り下げてⅣ層上面で床面とする、平地住居跡に近似する「住居跡」と判断した。当遺構より新しいⅢP-10が住居跡北部に重複する。覆土出土の炭化材の¹⁴C年代は3,770±20であった(付篇1節参照)。また、覆土出土の炭化材7点について樹種同定を行い、カバノキ属とトネリコ属シオジ節、サクラ属、モミ属と同定された(付篇3節参照)。

覆土 覆土は5層に分けた。Ⅵ層ローム主体の「HM層」(1～3層)を主体とする。住居跡内部から外部へやや不整形に広がる。中央部および南部に希薄な部分があり、ドーナツ状を呈する。厚さは10～20cm、最大24cmを測る。1・2・3層については層順ではなく色調等で分層し、1→2→3の順にロームの密度が増す。下位の一部(4・5層)は他の堅穴住居跡同様、Maを含む黒褐色土が堆積する。

床面・壁 床面は基本的にⅢ層中にあるが、標高の高い北～東部はⅣ層上面まで浅く掘り下げている。おおむね平坦であるが、全体的に周辺地形に沿って北東から南西へゆるやかに傾斜している。壁は標高の高い北西部にみられ、緩やかに立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土4か所(HF-1～4)を検出し、床面で炉跡焼土1か所(HF-5)、柱穴・杭穴18基(HP-1～18)を検出した。

覆土中のHF-1・2は住居跡南西部に位置し、長径が1mを超える不整形円形で被熱層は約5cmほどである。HF-3・4は住居跡北部の床面に近い覆土で検出した。HF-3は被熱層が10cmを測



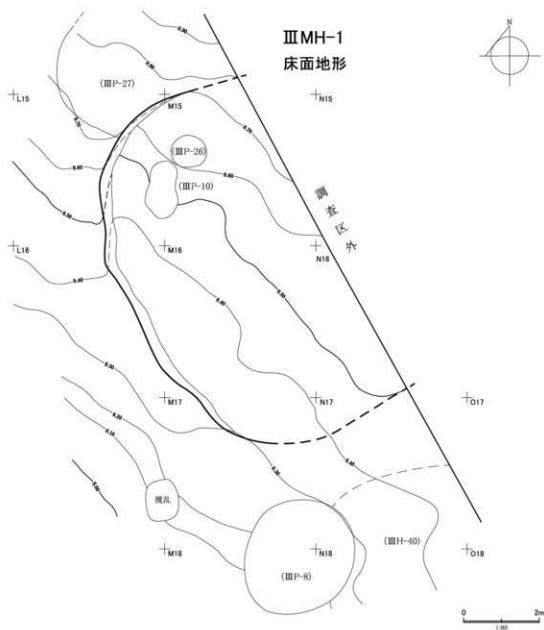
図VI-78 III MH-1 (1)

り、明赤褐色を呈する強被熱部がある。微細な骨片とみられる白色粒子を含む。炉跡のHF-5は床面より少しくぼんでIV層が被熱している。径約40cmの円形で、被熱層は最厚12cmを測り明赤褐色を呈する。柱穴は住居跡北～西～南の壁寄りで見出し(H P-1～16)、中央南部に散見される(H P-17・18)。径6cm前後、深さ10～20cmで先端が尖り、小規模なものも多く補助的な柱・杭も含まれていると考えられる。

遺物出土状況 遺物は土器・石器等214点出土した。覆土中のHM層からII群土器7点、III～IV群土器8点、IV群土器23点、石鏃2点、石槍・ナイフ1点、スクレイパー3点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片23点、石核1点、原石1点、たたき石2点、石鋸1点、砥石3点、台石・石皿2点、礫133点が出土し、覆土からIII～IV群土器1点が出土した。



図VI-79 ⅢMH-1(2)

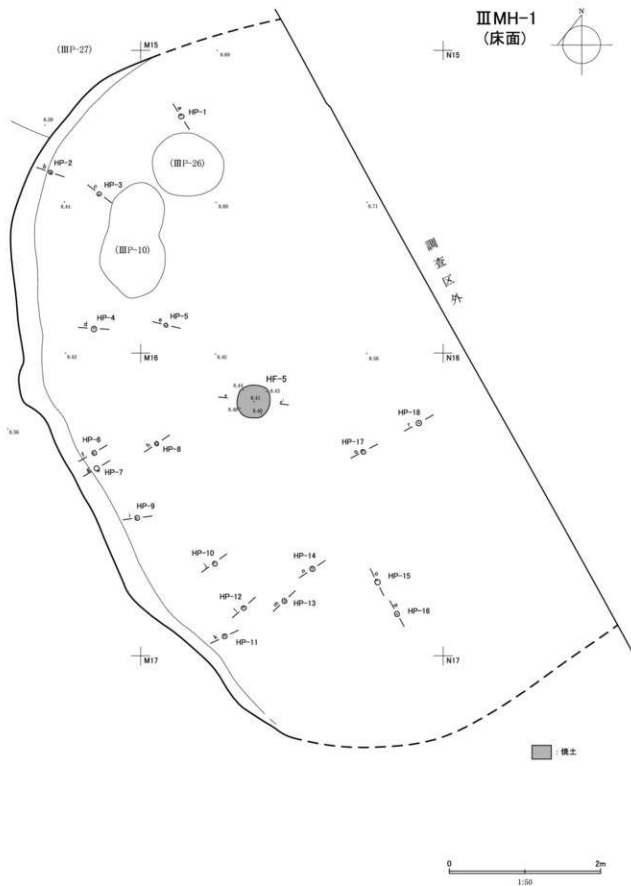


図Ⅵ-80 ⅢMH-1(3)

台石・石皿は、住居跡中央北部のHM層から出土した。礫は住居跡西半に分布し、砂岩・粗粒玄武岩・安山岩の被熱破砕礫が多くを占める。また炭化木片が、住居跡西半のHM層、特に住居跡縁辺部を主体に多数出土している。

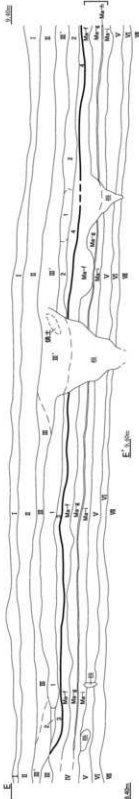
時期 出土した土器より、縄文時代後期前葉とみられる。

(阿部)

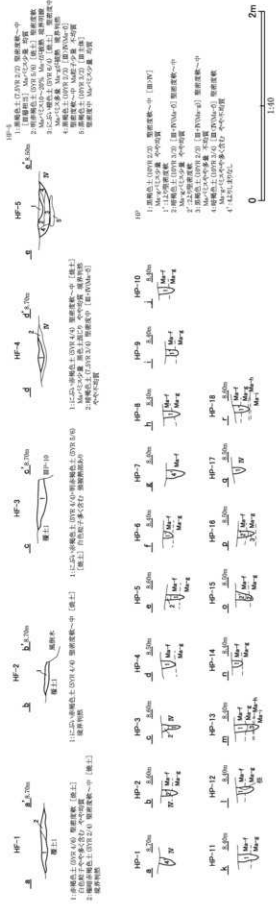


図VI-81 ⅢMH-1(4)

ⅢMH-1 (東壁)



Ⅲ 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 1 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 2 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 3 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 4 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 5 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 6 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 7 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心



HP-1 1. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 2. 白磁器土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 3. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 4. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 5. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 6. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 7. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 8. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 9. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 10. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 11. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 12. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 13. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 14. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 15. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 16. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 17. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心
 18. 赤褐色土 (0798.4.0) 遺構ⅢMH-1(東壁)の図心

ⅢMH-1 (東壁)

(3) 土坑

ⅢP-5 (図VI-84 図版61)

位置 S・T30区 平面形態 楕円形

規模 2.50×2.23/1.83×1.40/0.48m

確認・調査 T30区のⅢ層調査中に、黒褐色土の楕円形のまとまりを確認した。十字にトレンチを設定し掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。東側はⅢH-12と重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 5層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざる土層で、細かい炭化物を微量に含む。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は底面から連続的に緩く湾曲しながら立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は43点出土した。坑底から礫2点が出土し、覆土からⅠ群土器1点、Ⅳ群土器1点、剥片19点、礫20点が出土した。

時期 出土遺物、周辺の遺構等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢP-6 (図VI-85 図版61)

位置 M・N24・25区 平面形態 楕円形?

規模 (3.66)×(2.52)/(3.32)×(2.12)/(0.68)m

確認・調査 ⅢH-20のトレンチ調査時に、別の遺構として確認した。土層断面からⅢH-20より新しい遺構と判断し、先に調査を行った。南西側が部分的に調査区外に広がる。覆土を掘り下げ底面を精査したところ、中央よりやや北側で段構造を確認した。段の平面は不整形で、北側の細長い部分と南側のやや広い部分に分かれる。ⅢH-20以外にⅢH-34と重複するが、ⅢH-34より新しい。覆土下位出土の炭化材の¹⁴C年代は2,010±20である(付篇1節参照)。

覆土 11層に分けた。東壁際にⅥ層主体の黄褐色土層(4)がみられるが、他はⅢ層、Ⅳ層を主体とした黒褐色土層である。

底面・壁 底面は東から西に向かって緩やかに傾斜している。壁の立ちあがりは急角度の部分が多い。

遺物出土状況 遺物は215点出土した。坑底からⅢ～Ⅳ群土器15点、Ⅳ群土器1点、礫3点が出土し、覆土からⅡ群土器4点、Ⅲ～Ⅳ群土器60点、Ⅳ群土器21点、Ⅴ群土器43点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、石錐2点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片37点、石核1点、石鋸2点、礫19点が出土した。坑底の層位で取り上げた土器は、段構造の底面ではなく、段周辺の底面と同じ面から出土したものである。

時期 縄文時代後期前葉北筒V式期と考えられる。(広田)

ⅢP-7 (図VI-84 図版61)

位置 O・P28区 平面形態 楕円形?

規模 (3.25)×(1.10)/(2.42)×(0.84)/(0.26)m

確認・調査 P28区のⅢ層調査中に調査区際に暗褐色土のまとまりを確認した。調査区壁沿い及びそれに直交する方向にトレンチを設定し、掘り下げた結果、底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。南西側は調査区外に広がるため、部分的な調査である。

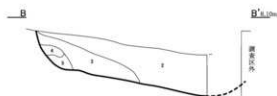
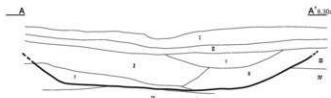
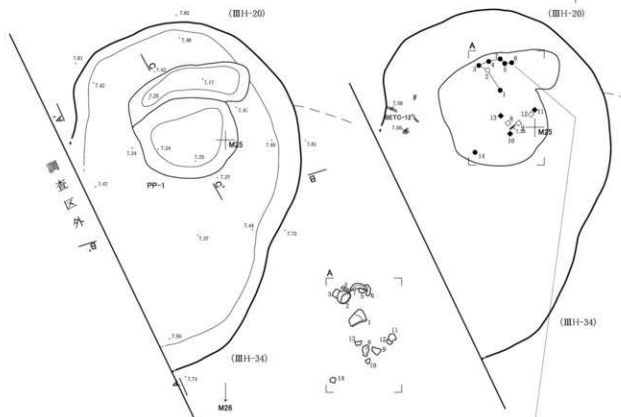
覆土 4層に分けた。Ⅲ層とⅣ層が混ざる土層で、炭化物を微量に含む層(4)もある。

底面・壁 底面は概ね平坦で、壁は北東側はやや急角度、他は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から25点出土した。Ⅲ群土器4点、Ⅲ～Ⅳ群土器6点、スクレイパー1点、

III P-6

遺物出土状況図



- 土器(灰土)
- 漆(灰土)
- 土器(黄土)
- ◇ 漆(黄土)

BETC-12 2000土20yppP

- 1 灰底 Ⅱ-V群土層 2.83m 深層 12-35
- 2 Ⅱ土 Ⅱ-V群土層 2.26m 深層 12-35
- 3 灰底 Ⅱ-V群土層 2.20m 深層 12-35
- 4 灰底 Ⅱ-V群土層 2.25m 深層 12-35
- 5 Ⅱ土 Ⅱ-V群土層 2.25m 深層 12-35
- 6 灰底 Ⅱ-V群土層 2.22m 深層 12-35
- 7 灰底 Ⅱ-V群土層 2.23m 深層 12-35
- 8 Ⅱ土 Ⅱ土層 2.30m
- 9 Ⅱ土 Ⅱ土層 2.30m
- 10 灰底 Ⅱ土層 2.31m
- 11 Ⅱ土 Ⅱ土層 2.36m
- 12 Ⅱ土 Ⅱ土層 2.27m
- 13 灰底 Ⅱ群土層 2.27m



- 1: 黒褐色土 (0.05V 2/2) 硬質土 粘着性中 懸濁度軟一弱 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}2\%$ 含む
- 2: 黒褐色土 (0.05V 2/2) Ⅱ土一硬質土 粘着性弱一中 懸濁度軟一弱 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{22}2\%$, 炭1%含む
- 3: 黒褐色土 (0.05V 2/2) Ⅱ土一硬質土 粘着性弱一中 懸濁度軟一弱 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{22}2\%$, 炭1%含む
- 4: 黒褐色土 (0.05V 5/6) 硬質土 粘着性中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Si^{29}P_{77}P$ 試
- 5: 黒褐色土 (0.05V 2/2) Ⅱ土 粘着性弱一中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}0\%$ 含む
- 6: 黒褐色土 (0.05V 2/2) 硬質土 粘着性中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}0\%$, 炭1%含む
- 7: 黒褐色土 (0.05V 2/2) 硬質土 粘着性中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{27}10\%$, 炭1%含む
- 8: 黒色土 (0.05V 2/1) Ⅱ土一硬質土 粘着性弱一中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}0\%$, 炭1%含む
- 9: 黒褐色土 (0.05V 2/2) Ⅱ土 粘着性弱 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}0\%$ 含む
- 10: 黒褐色土 (0.05V 2/2) Ⅱ土一硬質土 粘着性中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{27}7\%$, 炭1%含む
- 11: 黒褐色土 (0.05V 2/2) 硬質土 粘着性中 懸濁度軟 [Ⅱ-V] $Mu^{14}C_{23}0\%$, 炭1%含む

0 2m
1:40

図VI-85 III P-6

剥片11点、礫3点が出土した。

時期 出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。

(広田)

ⅢP-8 (図VI-86 図版62)

位置 M・N17・18区 **平面形態** 楕円形

規模 3.31×2.86/2.88×2.40/0.70m

確認・調査 Ⅲ層上面においてⅡ層が残存する楕円形の範囲を検出した。半截したところ、底面と壁面を検出した。上位はさらに広がり、径3m以上の浅い大型土坑中に長軸約1.6mのやや深い段構造のある土坑と判断した。

ⅢH-40のHM層を切っており、当遺構の方が新しい。またⅢP-23と隣接するが、新旧関係は不明である。さらにⅢP-25と一部重複し、当遺構の方が古い。

覆土 上位(1層)は摩周バミスをやや多く含み、中位(2層)は少なく、下位(3層)は多く含む。全体的に、地形に沿って北東から南西側へ流入しているように観察される。

底面・壁 坑底は丸みがあり、壁は大きく外傾して立ち上がり、上位でいったん平坦となりさらに緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から46点出土した。Ⅱ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器7点、Ⅳ群土器6点、Ⅴ群土器12点、石槍・ナイフ2点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片5点、礫11点が出土した。また覆土下位から炭化材片がブロック状にまとまって出土した。

時期 出土遺物や切り合い関係より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。

(阿部)

ⅢP-9 (図VI-86 図版62)

位置 Q29区 **平面形態** 楕円形?

規模 (2.14)×(2.16)/(1.68)×(1.56)/(0.72)m

確認・調査 Q29区のⅡ層を掘り下げた段階で、くぼみとして確認した。調査区壁沿いとそれに直交するようにトレンチを設定し掘り下げたところ、底面と壁の立ち上がりを確認した。南西側は道路工事、北西側は根による攪乱で壊されている。

覆土 5層に分けた。上位の層(1)は明黄褐色の火山灰層で、T a-cと考えられる。下位の層は黒褐色～暗褐色で、黒色土を主体としⅣ層、Ⅴ層が混ざる土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかな角度で直線的に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は120点出土した。坑底から剥片2点、礫6点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器2点、Ⅴ群土器78点、石鏃1点、スクレイパー2点、剥片10点、砥石1点、礫18点が出土した。

時期 出土土器より縄文時代晩期後葉と考えられる。

(広田)

ⅢP-10 (図VI-87 図版62)

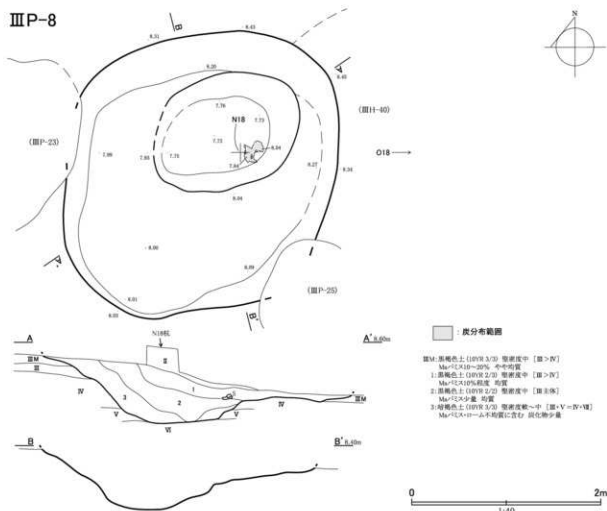
位置 L・M15区 **平面形態** 双楕円形

規模 1.50×0.86/1.13×0.48/0.41m

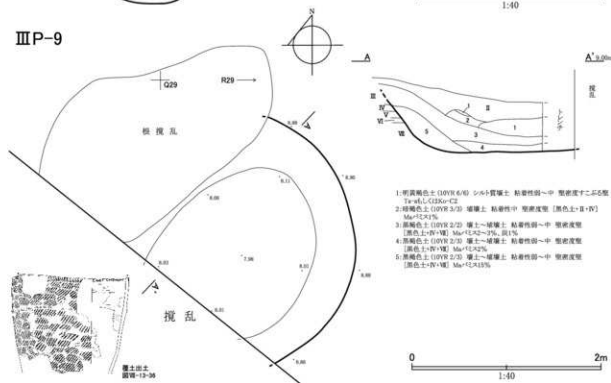
確認・調査 Ⅲ層まで掘り下げたところで、大型の土器片が出土した。周辺を少し下げ、ローム主体の褐色土中に土器を中心とした黒色土のまとまりを検出した。半截し、底面および壁を検出し、土坑とした。ⅢMH-1のHM層から掘りこまれており、同遺構との関係が強いと思われる。

覆土 摩周バミスの濃淡の異なる黒褐色～暗褐色土が複数単位堆積する。

III P-8



III P-9



図VI-86 III P-8・9

底面・壁 坑底は丸みがあり、北から南にやや下る。壁は長軸方向が緩やかに、短軸方向がやや急に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から175点出土した。覆土上位でⅣ群土器1個体（底部を欠く）がつぶれた状態でまとまって出土した。そのほか覆土中から石錐11点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片92点、たたき石4点、加工・使用痕ある礫1点、礫2点が出土した。

時期 縄文時代後期前葉北筒Ⅲ式期である。 (阿部)

ⅢP-11 (図Ⅵ-87 図版63)

位置 L・M23区 **平面形態** 不整楕円形?

規模 (1.26)×(1.00)／(1.20)×(0.75)／(0.55)m

確認・調査 ⅢH-20のトレンチ調査時に土層断面から別の遺構として確認した。小型で、南西側は調査区外に広がる。ⅢH-19・20と重複し、これらより新しい。

覆土 5層に分けた。黒色土とⅣ層が混ざる土層で、堆積状況から人為的な埋戻しの可能性が高い。

底面・壁 底面はやや凹凸があり、壁の立ち上がりは急角度である。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅢ～Ⅳ群土器2点、剥片2点、礫3点の合計7点が出土した。

時期 出土遺物や重複関係等より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。 (広田)

ⅢP-12 (図Ⅵ-87 図版63)

位置 Q24・25区 **平面形態** 円形

規模 1.42×1.32/1.15×1.13/0.55m

確認・調査 Q25区のⅣ層上面で、円形の暗褐色土のまとまりを確認した。円形の中心を通るようにトレンチを設定し掘り下げ、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。小型の土坑で、北側の覆土中位から炭化材が出土している。

覆土 13層に分けた。Ⅳ層主体で黒色土が混ざる土層で、細かい土層の堆積が重なっている。

底面・壁 底面は平坦でⅦ層中に構築される。壁の立ち上がりは急角度である。

遺物出土状況 遺物は覆土から20点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器3点、剥片11点、磨製石斧1点、礫5点が出土した。

時期 出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。 (広田)

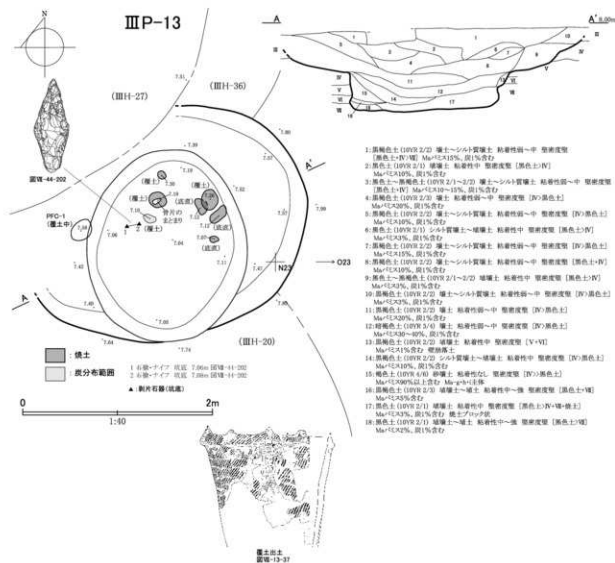
ⅢP-13 (図Ⅵ-88 カラー図版6 図版63)

位置 M・N22・23区 **平面形態** 楕円形?

規模 (3.07)×(2.28)／(2.80)×(1.85)／(0.34)m

確認・調査 ⅢH-20のトレンチ調査時に、別の遺構として確認した。ⅢH-20・27・36と重複し、ⅢH-20より新しいが、ⅢH-27・36との新旧は不明である。底面の中央付近が一段低くなる段構造がみられ、底面より約40cm低くなっている。段構造の覆土～底近くでは小型の焼土、炭化物分布範囲、骨片分布範囲がみられた。

覆土 18層に分けた。底面までの土層(1～11)は黒～黒褐色で、黒色土とⅣ層が混ざる土層である。段構造の覆土(12～18)はⅣ層が主体の褐色～黒褐色土が主体である。段構造底面直上の土層(17)は焼土をブロック状に含む。



図VI-88 III P-13・14

底面・壁 底面はややくぼみ形状で、壁は底面から連続的に緩やかに立ち上がる。段構造の底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。

遺物出土状況 遺物は152点（うち水洗選別20点）出土した。段構造の底面から石槍・ナイフ2点、礫1点が出土し、覆土からⅡ群土器1点、Ⅲ～Ⅳ群土器35点、Ⅳ群土器1点、Ⅴ群土器1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片30点、磨製石斧1点、礫54点が出土した。また覆土で検出した剥片集中（PFC-1）には、Ⅲ～Ⅳ群土器1点、剥片19点（いずれも水洗選別）がある。

時期 出土遺物や重複関係等より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（広田）

ⅢP-14（図Ⅵ-88 図版63）

位置 V30区 **平面形態** 楕円形

規模 1.10×0.85/0.60×0.54/0.41m

確認・調査 ⅢH-12堅穴外のトレンチ調査で確認し、規模から土坑と判断した。

覆土 1層は摩周パミスが多量に混じる黒褐色土で、ⅢH-4か12の掘り上げ土の可能性はある。2層はⅢ層土の流れ込み、3層は摩周パミスがきわめて多量に混じる暗褐色土で、4層は壁面のⅣ層が崩落して堆積したものと考えられる。

底面・壁 底面は平坦でⅤ層につくられる。壁は北西側で緩やかであるが、それ以外は明瞭に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周囲の遺物出土状況等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（山中）

ⅢP-15（図Ⅵ-89 図版64）

位置 X・Y32区 **平面形態** 楕円形？

規模 (1.11)×(0.91)/(0.92)×(0.72)/0.34m

確認・調査 ⅢH-9のトレンチ調査中に確認し、規模から土坑と判断していたが、ⅢH-9HF-1の下位に位置していたので、その調査後に平面形を確認した。約半分が調査区外にある。

覆土 1・2層は壁面のⅣ層の崩落、3層はMa-iパミスが目立つ黒褐色土である。

底面・壁 底面は平坦でⅥ層中につくられる。壁の立ち上がりは明瞭である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 ⅢH-9構築以前の縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。（山中）

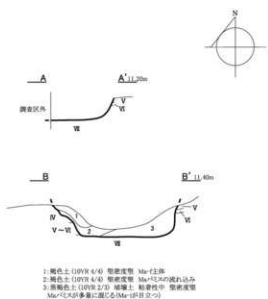
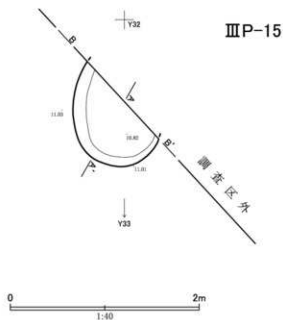
ⅢP-16（図Ⅵ-89 図版64）

位置 O・P27区 **平面形態** 不整楕円形

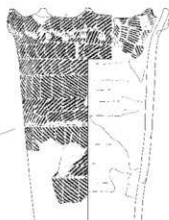
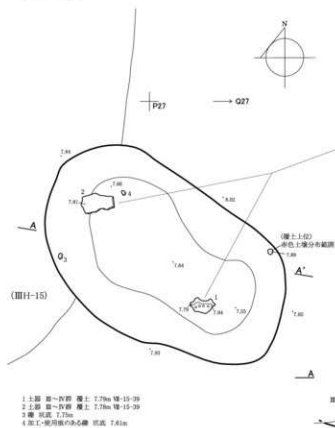
規模 (2.88)×(1.75)/(2.08)×(1.11)/(0.50)m

確認・調査 ⅢH-15の調査中に、別の遺構として確認した。ⅢH-15調査終了後、長軸方向にトレンチを設定し底面と壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。東壁付近の覆土上位で赤色土壌の分布範囲を確認したが、特に周辺からの遺物等の出土はなかった。ⅢH-15と重複するが新旧は不明である。

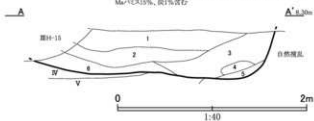
覆土 6層に分けた。黒色土を主体とする土層（1・3・5・6）とⅣ層を主体とする土層（2・4）に分かれる。また、炭化材を微量含む層が多い（1～3・6）



ⅢP-16



1. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 硬土 粘着性弱~中 粘着性弱 (黒色土・IV) Ma²S10%、炭%含む
2. 暗褐色土 (DPVR 2/2) 硬土 粘着性弱~中 粘着性弱 (IV) 黒色土 Ma²S15%、炭%含む
3. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 硬土 粘着性弱~中 粘着性弱 (黒色土・IV) Ma²S20%、炭%含む
4. 褐色土 (DPVR 4/4) 硬土 粘着性弱 粘着性弱 (IV) 黒色土 Ma²S2%含む
5. 暗褐色土 (DPVR 2/2) シムラ質硬土~暗硬土 粘着性中 粘着性弱 (黒色土・IV) Ma²S2%含む
6. 黒褐色土 (DPVR 2/2) 硬土 粘着性弱~中 粘着性弱 (黒色土・IV) Ma²S10%、炭%含む



図Ⅵ-89 ⅢP-15・16

底面・壁 底面はⅣ～Ⅴ層中に構築され、ほぼ平坦である。壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は65点出土した。坑底から加工・使用痕ある礫1点、礫1点が出土し、覆土からⅢ～Ⅳ群土器9点、石槍・ナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片22点、原石1点、礫29点が出土した。

時期 出土遺物等より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。 (広田)

ⅢP-17 (図Ⅵ-90 図版64)

位置 L 17・18区 **平面形態** 略円形

規模 2.48×2.31/1.63×1.79/0.92m

確認・調査 ⅢH-11の調査中、床面や壁相当の面に摩周バミス混入土が広く検出された。トレンチ調査ののち半截し、底面と壁を検出し、住居跡とは別の大型の土坑と判断した。ⅢH-11が当遺構を切っており、当遺構が古い。またⅢH-11の埋設土器1は、当遺構の覆土(ⅢH-11の床下に当たる)に埋められたものである。一方南側のⅢH-22とも重複するが、新旧関係は判然としない。

覆土 断面では8層に分けた。上位(覆土1・2層)は黒褐色土主体の自然堆積土、中位～下位(覆土3層以下)は摩周バミス・火山灰を多く含む、流入土と考えられる土壌が堆積している。特に覆土3・6・7はMa-f火山灰を多量含み、にぶい黄褐色を呈し緻密である。

底面・壁 坑底はⅥ層中まで掘りこまれ、やや椀状で、壁の立ち上がりは丸みがある。

遺物出土状況 出土していない。

時期 ⅢH-11より古く、縄文時代後期前葉とみられる。 (阿部)

ⅢP-18 (図Ⅵ-90 図版64)

位置 K 18・19区 **平面形態** 楕円形

規模 1.88×1.72/1.15×1.39/0.62m

確認・調査 ⅢH-22の調査中、北西側の壁際でⅡ層の落ち込みを確認した。半截し、底面と壁を検出し、住居とは別の大型の土坑と判断した。ⅢH-22(H P-1含む)およびⅢH-11と重複し、当遺構が新しい。

覆土 Ⅱ層の落ち込み以下の覆土は、摩周バミスを含む黒褐色土が主体である。坑底付近はロームや摩周バミスを多く含む。

底面・壁 坑底はⅥ層中まで掘りこまれ、やや椀状で、壁の立ち上がりは丸みがある。

遺物出土状況 覆土から石槍・ナイフ片1点が出土した。

時期 ⅢH-11より新しく、縄文時代後期前葉以降である。 (阿部)

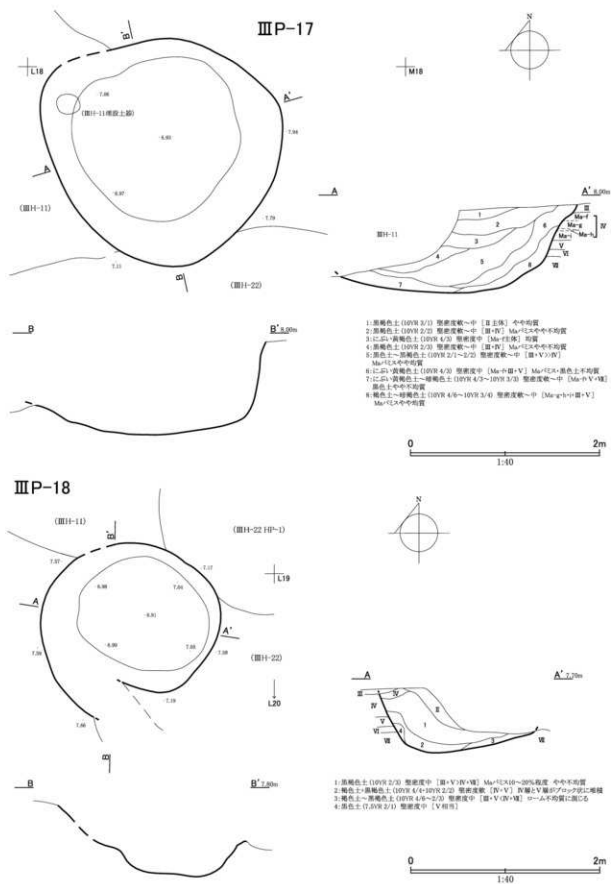
ⅢP-19 (図Ⅵ-91 図版65)

位置 L 15・16区 **平面形態** 楕円形

規模 2.02×(1.63)/1.52×1.50/0.24m

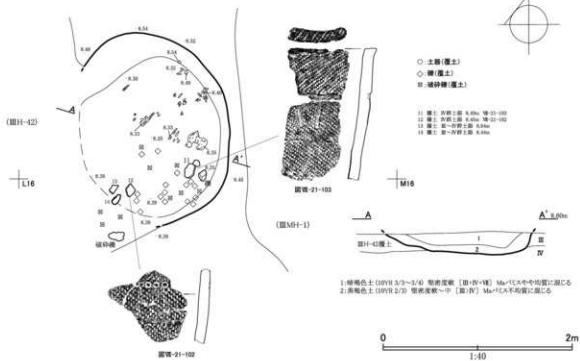
確認・調査 ⅢMH-1の周辺を掘り下げ中、西側に広がる暗褐色土を検出した。トレンチ調査ののち半截をしたところ、炭化材や礫が多数出土した。底面や壁が検出されたが、東側は壁が確認できず、隣接する遺構と重複していると判断した。ⅢH-42と重複し、当遺構が新しい。

覆土 上位(1層)は摩周バミスを均質に含む暗褐色土、下位(2層)はバミスを不均質に含む黒褐色土である。

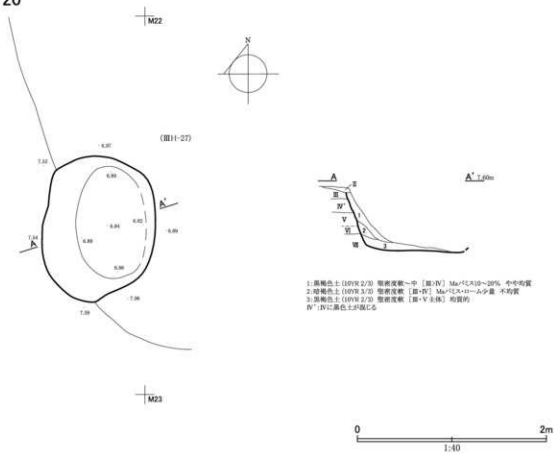


図VI-90 III P-17・18

ⅢP-19



ⅢP-20



図Ⅵ-91 ⅢP-19・20

底面・壁 坑底は平坦で、壁は東側がやや急に立ち上がり、北側は緩やかである。ⅢH-42と重複する西～南側はわずかに段がある。

遺物出土状況 覆土から土器・石器等69点が出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器7点、Ⅳ群土器3点、礫59点が出土した。土器はやや大型の破片が複数ある。礫は砂岩や粗粒玄武岩の被熱破砕礫が多い。また炭化材が覆土下位から壁際にかけて散在していた。

時期 出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。(阿部)

ⅢP-20 (図VI-91 図版65)

位置 L・M22区 **平面形態** 楕円形

規模 1.50×1.30/1.18×0.68/0.70m

確認・調査 ⅢH-27の調査中、西側の壁面の一部に摩周バミス混じり土を検出した。半截し、底面と壁を検出し、住居跡とは別の土坑と判断した。当遺構がⅢH-27を切っており、当遺構が新しい。

覆土 残存する覆土のうち、壁際付近は摩周バミスを多く含む黒褐色土で、坑底付近は摩周バミスが少ない黒褐色土が堆積する。

底面・壁 坑底はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。西側はⅢH-27の壁から少し外に張り出す。

遺物出土状況 覆土から4点出土した。Ⅳ群土器1点(表面磨滅)、石鏃1点、剥片1点、砥石片1点がある。

時期 ⅢH-27より新しく、縄文時代中期後葉以降である。(阿部)

ⅢP-21 (図VI-92 図版65)

位置 K・L21区 **平面形態** 楕円形

規模 (0.78)×(1.08)/(0.66)×0.68/0.34m

確認・調査 ⅢH-30の調査中、南西側の調査区境に沿ってトレンチ調査を行ったところ、黒色土の落ち込みを確認し、土坑とした。約1/3の範囲が調査区外にあるとみられる。赤色顔料や完形の石器が出土したことから、土坑墓の可能性もある。ⅢH-30の掘り上げ土に相当するⅢM層から掘りこまれており、当遺構が新しい。

覆土 上位(1層)は摩周バミスを多く含む黒褐色土で、下位は極暗赤褐色を呈し赤色顔料が多く含まれていると観察される。

底面・壁 坑底はV層上面でほぼ平坦で、壁はやや急に立ち上がる。

遺物出土状況 覆土下位から、ほぼ完形の砂岩製の磨製石斧が1点出土した。ほかに覆土中から剥片7点、礫1点が出土した。

時期 類似する土坑(ⅢP-22・29等)から、縄文時代晩期と推測される。(阿部)

ⅢP-22 (図VI-92 図版65)

位置 J17・18区 **平面形態** 円形

規模 0.85×0.84/0.80×0.64/0.50m

確認・調査 ⅢH-11の周辺包含層をⅣ層まで掘り下げたところ、摩周バミス混じり黒褐色土の円形のまとまりを検出した。半截し、底面と壁の立ち上がりを検出し、土坑とした。覆土や遺物、土坑の形状から、土坑墓の可能性もある。

覆土 摩周バミスの濃淡の異なる複数の土壌が堆積し、中にはブロック状の範囲もあることから、

人為的な埋め戻し土と考えられる。

底面・壁 坑底はⅣ層を掘り込み、やや椀状をなす。壁は垂直に立ち上がり、南西側は一部オーバーハングする。

遺物出土状況 覆土から9点出土した。Ⅴ群土器2点、石鏃1点、石槍・ナイフ2点（うち1点は破片）、剥片4点が出土した。

時期 出土土器より、縄文時代晩期後葉とみられる。（阿部）

ⅢP-23（図Ⅵ-92 図版66）

位置 M17・18区 **平面形態** 不整楕円形

規模 2.23×1.98/1.86×1.56/0.26m

確認・調査 ⅢMH-1の周辺トレンチ調査中、Ⅳ層中に褐色土が落ち込む範囲を検出した。半載し、底面と壁の立ち上りを確認し、土坑とした。ⅢP-8に隣接し境界線は稜をなし、当遺構が新しいと思われる。

覆土 摩周バミス混じりの褐色ロームが主体で、細かい炭化木片をやや多く含む。東側の壁際に摩周バミス混じりの黒褐色土が堆積する。褐色土はⅢMH-1との関連が深いと考えられる。

底面・壁 坑底はやや凹凸があり、東から西へ下っている。壁は西側がオーバーハング気味に立ち上がり、ほかは緩やかである。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 ⅢMH-1と同時期あるいは新しいと考えられ、縄文時代後期前葉とみられる。（阿部）

ⅢP-24（図Ⅵ-93 図版66）

位置 L16・17区 **平面形態** 不整楕円形

規模 (2.37)×2.32/(2.22)×1.08/0.62m

確認・調査 Ⅲ層上面でⅡ層の円形のまわりを検出した。半載し、底面と壁の立ち上りを検出した。しかし上位の壁が検出できず、さらに広げて掘り下げたところ、径2m以上の浅い大型土坑中に径約1.2mのやや深い土坑がある、段構造の土坑ということがわかった。ⅢP-8・13等と構造が類似する。なお南側の一部は調査の工程上欠落した。

覆土 上位（1層）は摩周バミスを少量含む黒褐色土で、流入土および自然堆積土と考えられる。下位は摩周バミスを多量含む褐色～暗褐色土で、流入土および壁面崩落土とみられる。

底面・壁 坑底は礫混じりのⅥ層に達しており、やや丸みをもつ。壁は外傾し、上位でいったん平坦となり、緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から半形の石槍・ナイフが1点出土した。

時期 周辺出土遺物等より、縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。（阿部）

ⅢP-25（図Ⅵ-93 図版66）

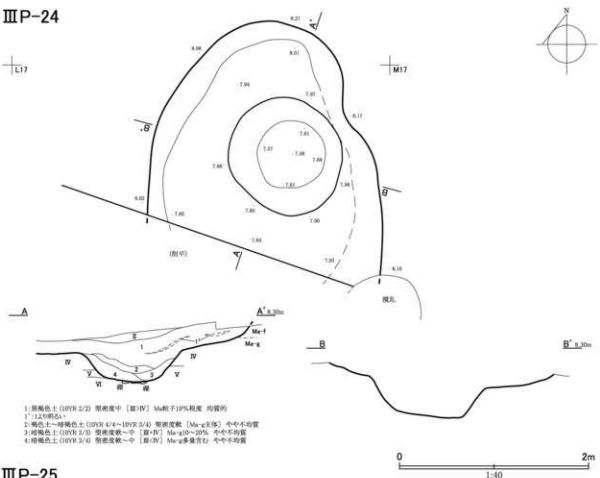
位置 N18区 **平面形態** 不整楕円形

規模 1.25×1.15/1.03×0.92/0.25m

確認・調査 ⅢH-40のトレンチ調査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。半載し、底面と壁を検出し、住居跡とは別の土坑と判断した。ⅢH-40およびⅢP-8と重複しており、当遺構の方が両遺構より新しい。

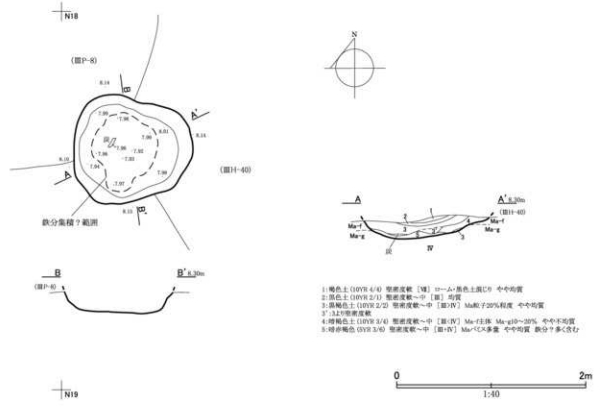
III P-24

117



III P-25

118



図VI-93 III P-24・25

覆土 1層はローム主体、2層は黒色土の薄層をはさみ、3層の摩周バミス多く含む黒褐色土を主体とする。坑底付近に暗赤褐色の土壌が薄く堆積する。ⅢP-21や29で検出された赤色顔料を含むとみられる土壌とは色調や粒子が異なるように観察され、酸化した鉄分の集積と考えられる。

底面・壁 坑底はⅣ層中で浅く、おおむね平坦である。壁はゆるやかに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 重複関係から、縄文時代中期後葉以降である。 (阿部)

ⅢP-26 (図VI-94 図版66)

位置 M15区 **平面形態** 円形

規模 0.95×0.84/0.70×0.70/0.34m

確認・調査 ⅢMH-1を調査中、暗褐色土の円形のまとまりを検出した。半掘し、底面と壁面を検出し、土坑とした。ⅢMH-1を切っており、当遺構が新しい。

覆土 1層のみで、摩周バミスを多く含む暗褐色土である。層中に細かい炭化物を含み、ⅢMH-1のHM層が由来とみられる。

底面・壁 坑底はⅤ層上面で、おおむね平坦であるが東西方向にやや丸みがある。壁は垂直に近く、北東側は少々オーバーハンクする。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 ⅢMH-1より新しく、縄文時代後期前葉以降である。 (阿部)

ⅢP-27 (図VI-94 図版67)

位置 L・M14・15区 **平面形態** 楕円形

規模 3.40×(3.02)/3.02×(2.78)/0.20m

確認・調査 ⅢMH-1の調査中、同遺構のHM層に類似する土壌が北側に広がることを確認した。ⅢMH-1の土層観察用のベルトを延長し、それに直交するベルトを設定して掘り下げた。底面と壁のわずかな立ち上がりを検出し、ⅢMH-1とは別の土坑と判断した。南東側がⅢMH-1と重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 Ma-f火山灰およびM a-gバミスを多く含む暗褐色土(2層)と摩周バミスやや多く含む黒褐色土を主体とする。前者はⅢMH-1のHM層に類似する。

底面・壁 坑底はⅣ層上位で浅く、ほぼ平坦で北東から南西へ少々下る。南東はⅢMH-1に連続し、境界が不明瞭である。壁は西側と北東側でわずかに立ち上がることが確認できる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 ⅢMH-1に近似し、縄文時代中期後葉～後期前葉と推測する。 (阿部)

ⅢP-28 (図VI-95 図版67)

位置 Q24区 **平面形態** 楕円形

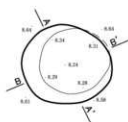
規模 1.61×1.06/1.24×0.75/0.38m

確認・調査 Q24区でⅣ層上面を精査したところ、楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。短軸方向でトレンチ調査を行い、底面と壁の立ち上がりを確認したため土坑と判断した。

覆土 4層に分けた。黒色土とⅣ層が混ざる土層で、2層は炭化物を微量含む。

底面・壁 底面はⅤ～Ⅵ層中に構築され、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは急角度である。

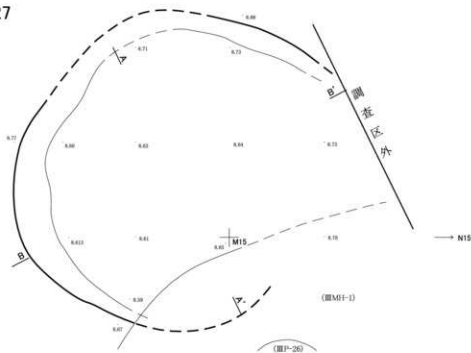
III P-26



1: 棕褐色土 (I) 0YR 3/0 质硬度软~中 [III-IV]
Mar 10~20% 全中不均质 炭化物少量 (距MH-1约7)



III P-27

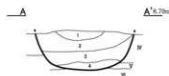
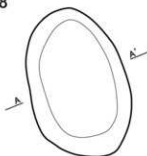


1: 棕褐色土 (I) 0YR 2/3 质硬度软 [III-IV] Mar 0~10% 全中不均质
2: 棕褐色土 (I) 0YR 3/0 质硬度软~中 [III-V] Mar 少量 Mar 少量 全中不均质
3: 棕褐色土 (I) 0YR 2/3 质硬度软~中 [III-IV] Mar 少于10~20% 全中不均质
4: 棕褐色土 (I) 0YR 3/0 质硬度软~中 [III-V] Mar 12.5~10~20% 全中不均质



图VI-94 III P-26·27

ⅢP-28

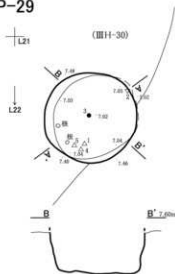


1. 黒褐色土 (IIVR 2/2) 硬塊土 粘着性中 堅硬底層 [黒色土+IV] Ma¹C¹S%含む
2. 黒褐色土 (IIVR 2/2) 壤土+硬塊土 粘着性弱~中 堅硬底層 [黒色土+IV] Ma¹C¹A1%、M¹S%含む
3. 黒褐色土 (IIVR 2/2) 硬塊土 粘着性中 堅硬底層 [IV+黒色土] Ma¹C¹A1%含む
4. 黒褐色土 (IIVR 2/2) 壤土+硬塊土 粘着性弱~中 堅硬底層 [黒色土+IV] Ma¹C¹A7%含む

G25 ←



ⅢP-29



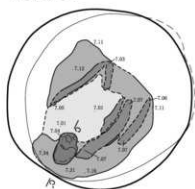
1. 層土 二次元上堆積物A&B剖面 図層40-111
2. 層土 層土 図層40-111
3. 硬塊土 Y形断面 図層40-111
4. 層土 二次元上堆積物A&B剖面 図層40-111
5. 土層下 6層-7層? 図層40-111

- △: 剥片石礫(層土)
- ▽: 剥片(層土)
- : 土層(坑底面上)



1. 黒褐色土 (IIVR 3/3) 堅硬底層~中 [Ⅲ+IV] Ma¹C¹A20%以上 中々均質 2? 1.2?均質底層
2. 黒褐色土+褐色土 (IIVR 2/3+IIVR 4/4) 堅硬底層 [Ⅲ+IV+Ⅴ] Ma¹C¹A+ローム、ブロック状に不均質に混じる
3. 褐色土 (IIVR 4/4) 堅硬底層 [Ⅴ+土層] Ma¹C¹A10%以下 中々均質
4. 黒褐色土 (IIVR 2/3) 堅硬底層 [Ⅲ+IV] Ma¹C¹A10%以下 中々均質
5. 母堆積物土 (IIVR 2/4) 堅硬底層 [Ⅲ+IV] Ma¹C¹A中々多量 赤色顔料やや均質に含む
6. 母堆積物土 (IIVR 2/4) 堅硬底層~中 赤色顔料

坑底面拡大



- 赤色顔料
- 人骨(埋状)



図Ⅵ-95 ⅢP-28・29

遺物出土状況 遺物は覆土から剥片1点が出土した。

時期 周辺の遺構や包含層出土の遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉と推測される。(広田)

ⅢP-29 (図Ⅵ-95 図版67)

位置 L 21区 **平面形態** 円形

規模 0.91×0.97/0.97×0.87/0.48m

確認・調査 ⅢH-30の調査中、覆土から掘りこまれている円形の広がりを確認した。ⅢH-30の調査の後に半載したところ、覆土下位から坑底付近に赤色の土壌と灰白色の糊状の物質が検出された。人骨が残存することを想定し、残り半分を慎重に掘り下げた。その結果、南西側の壁寄りの覆土中から坑底にかけて、灰白色の糊状の人骨とその周囲に広がる赤色顔料を含む土壌の全容を検出した。

人骨は頭骸骨、椎骨、左右脚部とみられる痕跡があり、下顎骨片と歯のエナメル質の一部が残存していた。仰臥から少々左側に横臥した屈葬状態と考えられる。頭位はN-140°Wで、ほぼ南西方向である。赤色顔料を含む土壌は、これらの人骨の痕跡部分とその周辺に分布していた。

覆土 上位～中位は摩周バミスを多く含む暗褐色土で、下位は褐色ローム等を不均質に含む。壁寄りには摩周バミスの少ない黒色土が堆積している。南西側の壁際から坑底にかけては、赤色顔料を含む土壌と糊状の人骨が残存する。

底面・壁 坑底はⅥ層上位に達し、平坦である。坑口は円形であるのに対し、坑底は頭位方向(南西-北東)に長軸をもつ楕円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、坑底の長軸両端はオーバーハングしている。

遺物出土状況 人骨片のほか、土器・石器等55点が出土した。坑底直上からV群土器1点、人骨上からやや大型の二次加工・使用痕ある剥片1点、赤色土壌から剥片44点、人骨下の土壌から石槍・ナイフ片1点が出土し、覆土からV群土器2点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片2点、礫2点が出土した。

時期 出土遺物より、縄文時代晩期後葉とみられる。(阿部)

ⅢP-30 (図Ⅵ-96 図版68)

位置 R 29区 **平面形態** 楕円形

規模 0.86×0.54/0.79×0.43/0.06m

確認・調査 ⅢH-13の床面精査時に確認した。ⅢH-13の付属遺構の可能性もあるが、規模、形状等から別遺構と判断した。ⅢH-13と重複するが新旧関係は不明である。

覆土 1層で、黒色土、Ⅳ層、Ⅵ層が混ざり、炭化物を微量に含む土層である。

底面・壁 底面はほぼ平坦である。壁は緩やかな角度で立ちあがる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構の時期より縄文時代中期後葉～後期前葉の可能性がある。(広田)

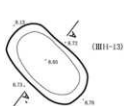
ⅢP-31 (図Ⅵ-96 図版68)

位置 T 29区 **平面形態** 楕円形

規模 0.80×0.70/0.66×0.57/0.06m

確認・調査 T 29区でⅣ層上面の精査中に楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。長軸方向にトレンチを設定し、掘り下げたところ底面と壁の立ち上がりを確認した。確認面からの掘り込みは6cm

ⅢP-30

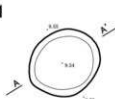


1:黒褐色土 (0PR) 2:② 礫土〜シルト質礫土 粘着性弱〜中 惣断度弱
 (黒色土+赤+黄) Ma<1<27%, 炭1%, W-A約19%含む

R30 ← S30



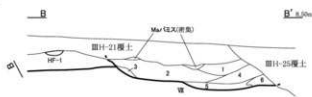
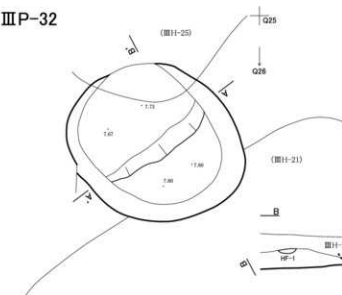
ⅢP-31



1:黒褐色土 (0PR) 2:② 礫土〜シルト質礫土 粘着性弱〜中 惣断度弱
 Ma<1<10%, 炭1%含む



ⅢP-32



- 1:黒褐色土 (0PR) 2:③ 礫層土 粘着性中 惣断度弱 Ma<1<Sが少量に混じる
- 2:黒褐色土 (0PR) 2:③ 礫層土 粘着性中 惣断度弱 Ma<1<Sが少量混じる
- 3:黒褐色土 (0PR) 2:③ 礫層土 粘着性中 惣断度弱 Ma<1<Sが少量に混じる
- 4:黒褐色土 (0PR) 2:③ 礫層土 粘着性中 惣断度弱 Ma<1<Sが少量に混じる
- 5:黒褐色土 (0PR) 2:③ 礫層土 粘着性中 惣断度弱 Ma<1<Sが少量に混じる
- 6:Ma<1<S上層 惣断度弱



図Ⅵ-96 ⅢP-30~32

とごく浅い。

覆土 1層で、土層は黒褐色を呈し、摩周バミス、炭化物を微量に含む。

底面・壁 はほぼ平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から18点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器8点、Ⅳ群土器9点、剥片1点が出土した。

時期 出土遺物より縄文時代中期後葉～後期前葉である。 (広田)

ⅢP-32 (図Ⅵ-96 図版68)

位置 P 25区 **平面形態** 楕円形

規模 1.80×1.64/1.56×1.27/0.33m

確認・調査 ⅢH-21のトレンチ調査中、ⅢH-21の床面が一段低くなる部分を確認した。周囲のV層を観察したところ、摩周バミスが混じる黒褐色土の楕円形の輪郭(長径1.80m)を確認し、規模から土坑と判断した。土層断面では、ⅢH-21構築時の床面に堆積する覆土中(ⅢH-21覆土3層)から掘り込まれており、その後ⅢH-21の覆土2層で埋められているように観察された。

覆土 摩周バミスが混じる黒褐色土が主体である。

底面・壁 底面には北東-南西方向にのびる段がある。壁の立ち上がりは明瞭であるが、南東側はⅢH-25の掘削で失われている。

遺物出土状況 遺物は覆土から礫16点が出土した。

時期 周囲の遺構や遺物出土状況等より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。ⅢH-21の掘削時より新しいが、覆土中の焼土ⅢH-21HF-1よりは古い。また、ⅢH-25よりも古い。(山中)

ⅢP-33 (図Ⅵ-97 図版68)

位置 O・P 22・23区 **平面形態** 不整楕円形

規模 3.98×3.16/3.58×2.91/0.90m

確認・調査 ⅢH-24のトレンチ調査時に別の遺構として確認した。北側はⅢH-24、東側はⅢH-38と重複し、土層断面の観察からⅢH-24より古く、ⅢH-38は不明である。平面は不整の楕円形で、底面は南壁の中央付近がやや張り出す形状である。掘り込みは最大0.90mと深い。北側の覆土上位で焼土(PF-1)を確認した。PF-1は厚さ5cmで、炭化物、骨片を微量含む。

覆土 27層に分層した。黒色土とⅣ層が主体の土層で、黒色～黒褐色土層が多いが、Ⅳ層主体の褐色土層(3・11・22・26・27)も部分的にみられる。

底面・壁 底面はほぼ平坦で、Ⅵ層中に構築される。壁の立ち上がりは急角度で、南壁は内側にやや張り出す形状である。

遺物出土状況 遺物は覆土から59点出土した。Ⅱ群土器2点、Ⅲ～Ⅳ群土器26点、焼成粘土塊1点、石槍・ナイフ2点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片12点、磨製石斧1点、礫14点が出土した。

時期 出土遺物や遺構の重複関係等より縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

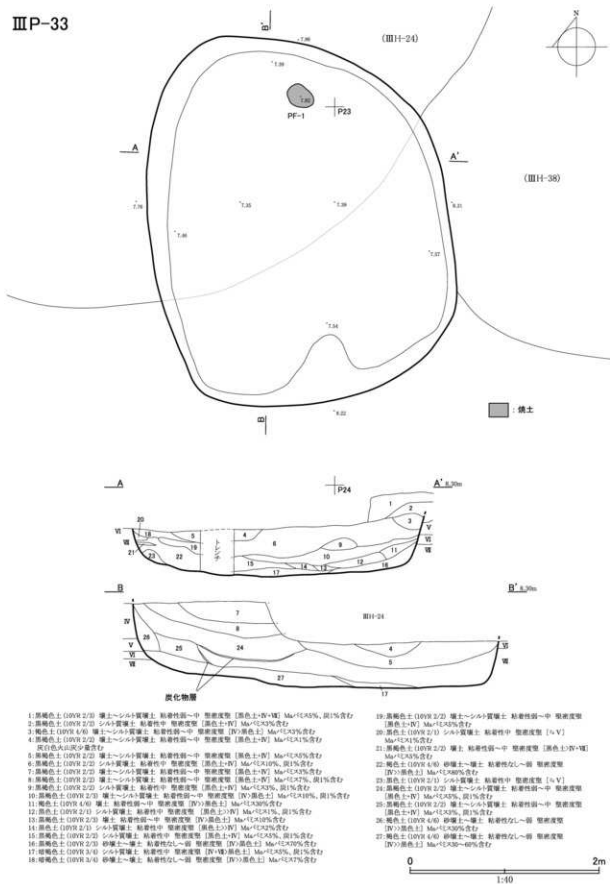
ⅢP-34 (図Ⅵ-98 図版69)

位置 N・O 22・23区 **平面形態** 不整円形

規模 3.73×(2.91)/2.29×1.42/0.82m

確認・調査 ⅢH-24のトレンチ調査時に別の遺構として確認した。ⅢH-24、ⅢH-41と重複し、土層断面の観察からⅢH-24・41より古い。長径約3.7mの大型の土坑で、深さは約0.8mである。北

ⅢP-33

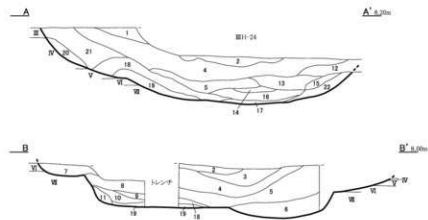
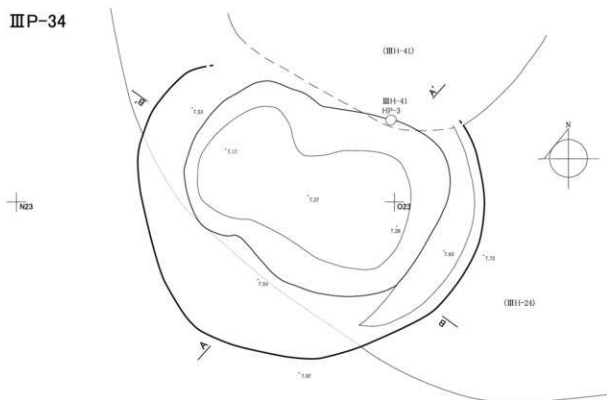


- 1: 黒褐色土 (09V 2/3) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV+VI] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 2: 黒褐色土 (09V 2/2) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 3: 黒色土 (09V 4/6) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%含む
- 4: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 炭化物層
- 5: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 6: 黒褐色土 (09V 2/2) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 7: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 8: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 9: 黒褐色土 (09V 2/2) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 10: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 11: 褐色土 (09V 4/6) 礫土 粘着性弱～中 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 12: 黒色土 (09V 2/1) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 13: 黒褐色土 (09V 2/3) 礫土 粘着性弱～中 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 14: 黒色土 (09V 2/1) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 15: 黒褐色土 (09V 2/2) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 16: 黒褐色土 (09V 2/3) 砂礫土～礫土 粘着性なし～弱 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 17: 黒褐色土 (09V 3/4) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 18: 褐色土 (09V 3/4) 砂礫土～礫土 粘着性なし～弱 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む

- 19: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%含む
- 20: 黒色土 (09V 2/1) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [Ⅱ-V] Ma<C<AS%含む
- 21: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV+VI] Ma<C<AS%含む
- 22: 褐色土 (09V 4/6) 砂礫土～礫土 粘着性なし～弱 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 23: 黒色土 (09V 2/1) シルト質礫土 粘着性中 整地段階 [Ⅱ-V] Ma<C<AS%含む
- 24: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 25: 黒褐色土 (09V 2/2) 礫土～シルト質礫土 粘着性弱～中 整地段階 [黒色土+IV] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 26: 褐色土 (09V 4/6) 砂礫土～礫土 粘着性なし～弱 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%, 炭1%含む
- 27: 褐色土 (09V 4/6) 砂礫土～礫土 粘着性なし～弱 整地段階 [IV>黒色土] Ma<C<AS%～60%含む

ⅢP-33

III P-34



1. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$ 含む
2. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A$ 含む
3. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$ 含む
4. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
5. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$ 含む
6. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
7. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土+礫] $M_a < E < A < S$ 含む
8. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$ 含む
9. 褐色土 (IOPR 4/6) 砂礫土 粘着性弱 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$ 含む
10. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$ 含む
11. 褐色土 (IOPR 4/6) 礫土 粘着性中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
12. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
13. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
14. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
15. 褐色土 (IOPR 4/6) 砂礫土-礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [IV] 原色土] $M_a < E < A < S$ 含む
16. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性中 膠凝度弱 [IV+V] 原色土] $M_a < E < A < S$ 含む 赤色土層間層含む
17. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV+V] $M_a < E < A < S$ 含む
18. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$, 炭1%含む
19. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性中 膠凝度弱 [原色土+IV+V] $M_a < E < A < S$ 含む
20. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$ 含む
21. 褐色土 (IOPR 2/2) 礫土 粘着性中 膠凝度弱 [原色土+IV] $M_a < E < A < S$ 含む
22. 原褐色土 (IOPR 2/2) 礫土-シルト質礫土 粘着性弱~中 膠凝度弱 [原色土+IV+V] $M_a < E < A < S$ 含む



図VI-98 III P-34

側にⅢH-41の柱穴（HP-3）が位置するが、この柱穴はⅢP-34に付属する可能性もある。

覆土 22層に分けた。黒色土とⅣ層が混ざる土層で、上位はおおむね黒褐色で、下位は褐色、暗褐色、黒褐色の土層が細かく堆積している。

底面・壁 底面は南西側が平坦で、他は浅くくぼみ形状である。壁は部分的に屈曲し、底面から連続して緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土から79点出土した。Ⅲ～Ⅳ群土器1点、石鏃3点、両面調整石器1点、二次加工・使用痕ある剥片2点、剥片57点、たたき石1点、加工・使用痕ある礫1点、礫13点が出土した。

時期 出土遺物や遺構の重複関係等より縄文時代中期後葉～後期前葉である。（広田）

ⅢP-35（図VI-99 図版69）

位置 N・O20・21区 **平面形態** 楕円形

規模 3.20×2.68/2.87×2.26/0.16m

確認・調査 ⅢH-24周辺の包含層を掘り下げ中、周辺より摩周バミスを含む黒褐色土のまとまりを検出した。住居跡を想定して十字に土層観察用のベルトを残し掘り下げた。平坦な面とわずかな立ち上がりを検出したが、底面で焼土や柱穴が検出されず土坑とした。南側の一部はⅢH-24とⅢH-7が重複し、覆土の状態からⅢH-24よりは当遺構の方が新しいと考えられる。

覆土 摩周バミスを含む黒褐色土主体で、坑底付近はバミスがやや多くなる。

底面・壁 坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属遺構 覆土中で焼土1か所（PF-1）を検出した。赤褐色を呈し強く被熱したと考えられる。やや黒色土が混じる。

遺物出土状況 遺物は28点出土した。覆土からⅢ～Ⅳ群土器5点、石槍・ナイフ1点、つまみ付きナイフ1点、二次加工・使用痕ある剥片3点、剥片14点、石核1点、石鏃1点、加工・使用痕ある礫1点が出土した。また土坑中の焼土からⅢ～Ⅳ群土器1点が出土した。

時期 出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（阿部）

ⅢP-36（図VI-99 図版69）

位置 P20区 **平面形態** 楕円形

規模 1.29×1.21/1.03×0.82/0.42m

確認・調査 Ⅳ層上面でⅡ層～Ⅲ層の楕円形のまとまりを検出した。半截し、底面と壁の立ち上がりを検出し土坑とした。

覆土 大部分が黒色土主体で自然堆積土や流入土と考えられ、壁際付近に褐色の崩落土等と考えられる土壌が堆積していた。

底面・壁 坑底はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

遺物出土状況 覆土からⅢ～Ⅳ群土器1点が出土した。

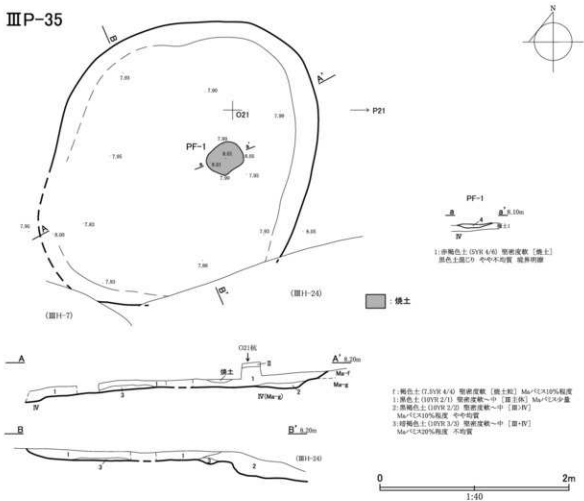
時期 土坑内および周辺出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉とみられる。（阿部）

ⅢP-37（図VI-100 図版70）

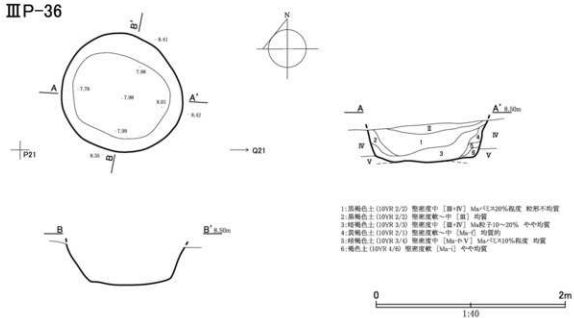
位置 O・P25区 **平面形態** 略円形

規模 1.08×1.05/0.72×0.71/0.52m

III P-35



III P-36



圖VI-99 III P-35·36

確認・調査 ⅢH-26の土層観察用ベルトB-B'の裏面で、ⅢH-26の覆土や覆土中の礫密集部(HS-1)、焼土(HF-3)等が黒褐色土の落ち込みによって途切れているのを確認した。規模からⅢH-26廃絶後に掘削された土坑であると判断して調査した。

覆土 摩周パミスが混じる黒褐色土である。

底面・壁 底面はⅢH-26の覆土3層からⅦ層にかけてつくられる。壁の立ち上がりは急である。

遺物出土状況 遺物は覆土から8点出土した。Ⅱ群土器1点、剥片2点、礫5点が出土した。

時期 竪穴住居跡ⅢH-26の廃絶後に掘削されていることから、縄文時代中期後葉～後期前葉以降と考えられる。(山中)

ⅢP-38 (図VI-100 図版70)

位置 P・Q21・22区 **平面形態** 不整形円形

規模 2.46×2.00/2.02×1.62/0.34m

確認・調査 ⅢH-24の周辺包含層の掘り下げ中に黒褐色や褐色の土壌のまとまりを検出した。半截し、やや平坦な底面と壁の立ち上がりを検出し、土坑とした。西側の一部がⅢH-24と重複しており、切り合いが不明瞭であるものの、覆土や底面の状況から当遺構の方が新しいと考えられる。

覆土 全体的に東から西に傾斜している。上位(1層)はⅢ層主体の黒色土、中位には15cm前後の厚さのローム(2層)がブロック状に堆積し、その下に暗赤褐色の土壌(3層)が薄く堆積する。3層は鉄分が酸化した土壌と考えられる。下位(4・5)はⅣ層のパミスを多量に含む土壌である。

底面・壁 坑底はやや凹凸があるもの、おおむね平坦である。ⅢH-24と重複する西側へやや下る。壁は丸みをもちながら立ち上がる。

遺物出土状況 覆土から石鏝1点、礫1点が出土した。

時期 ⅢH-24と近似する時期とみられることから、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(阿部)

(4) 柱穴状小土坑

ⅢSP-1~3・5・6・8~12 (図VI-101 図版70・71)

位置 T・U31、V29~31区

確認・調査 Ⅳ層上面で黒褐色土の小円状の輪郭を確認した。半截して断面を観察し、柱穴状もしくは杭状の小土坑であると判断した(ⅢSP-1~3・6)。また、V・VI・Ⅶ層でも黒褐色土の小円状の輪郭を確認し、半截して断面を観察した結果、柱穴状もしくは杭状の小土坑であると判断した(V層検出:ⅢSP-5・9~11、Ⅵ層検出:ⅢSP-8、Ⅶ層検出ⅢSP-12)。ⅢSP-11を除き先端は尖りぎみで、ⅢSP-1・2の先端は一方に偏る。ⅢSP-1・2・9・10はⅢSP-3・5・6・8・11より太く、ⅢSP-5・6はやや傾く。ⅢSP-2・12は、先端がⅦ層に達し深い。

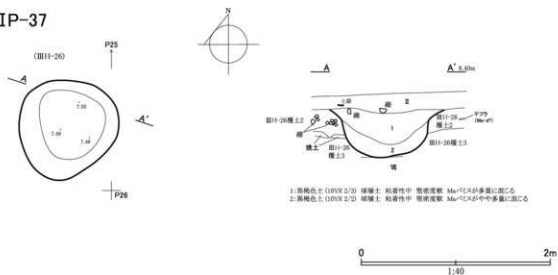
遺物出土状況 ⅢSP-11の覆土から石鏝1点が出土した。(山中)

ⅢSP-13・14 (図VI-102 図版71)

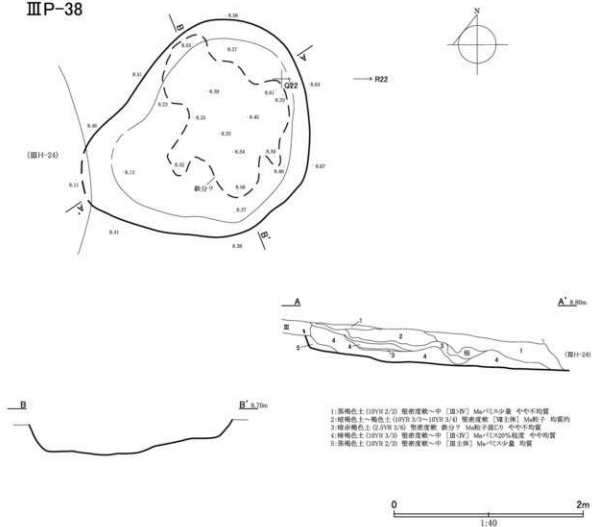
位置 L・M15区

確認・調査 ⅢMH-1の調査後、Ⅳ層上面で検出した。底面は丸みを帯び、Ⅳ層摩周gテフラで止まっており浅い。(阿部)

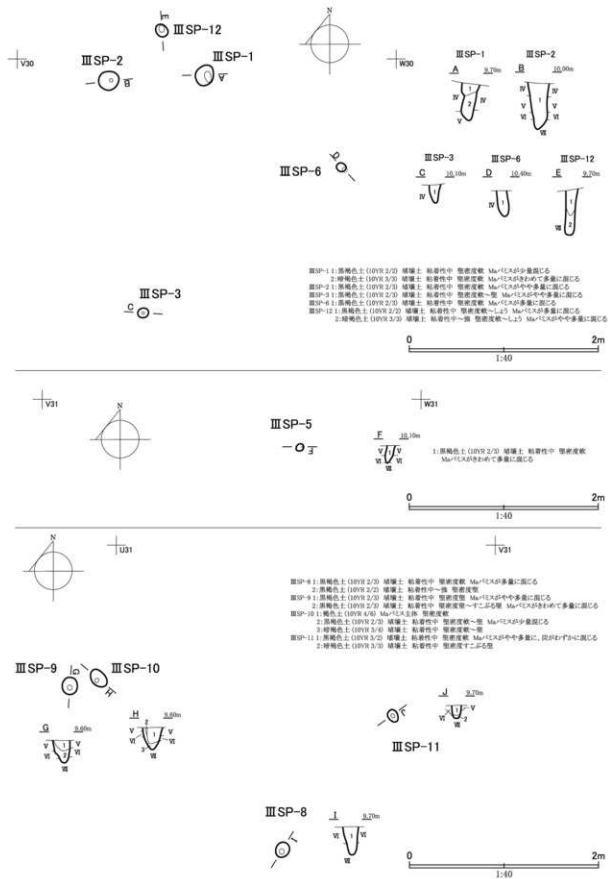
III P-37



III P-38



図VI-100 III P-37・38



図VI-101 III SP-1～3・5・6・8～12

III SP-14



1: 凝結色土 (OPR 3/2~3/4) 堅硬度中
 [部>IV] Ma^rEC19~20% 不均質



III SP-13



1: 原褐色土 (OPR 2/2) 堅硬度軟~中
 [部>IV] Ma^rEC15少量 中々不均質



III SP-15



1: 原褐色土 (OPR 2/2) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15が多数に混じる
 2: 原褐色土 (OPR 2/2) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15がやや多数に混じる
 3: 褐色土 (OPR 4/4) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 層上部
 4: 暗褐色土 (OPR 3/4) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15がやや多量に混じる
 5: 褐色土 (OPR 2/1) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟



III SP-16



1: 原褐色土 (OPR 3/4) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15がやや多数に混じる
 2: 原褐色土 (OPR 2/2) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15がやや少量に混じる



III SP-17



1: 原褐色土 (OPR 2/2) 硬質土 粘着性中 堅硬度軟 Ma^rEC15が多数に混じる
 2: 原褐色土 (OPR 3/4) 暗褐色土上原褐色土の硬質土が互層ぎみに混じる 粘着性中 堅硬度軟



図VI-102 III SP-13~17

ⅢSP-15~17 (図VI-102 図版71)

位置 U 29・30区

確認・調査 VI層上面で黒褐色土及び暗褐色土の小円状の輪郭を確認した。半截して断面を観察し、柱穴状の小土坑であると判断した(ⅢSP-15・16)。また、V層上面で輪郭の端部に摩周バミスがめぐる小円状の黒褐色土を確認した。同じく半截して断面を観察し、柱穴状の小土坑であると判断した(ⅢSP-17)。3か所とも先端が尖りぎみである。(山中)

ⅢSP-18 (図VI-103)

位置 R 26区

確認・調査 ⅢH-17の覆土掘り下げ後、摩周gテフラの面で黒褐色土の小円状の輪郭を確認した。半截して断面を観察し、先端がⅦ層に達する柱穴状の小土坑であると判断した。上位に位置するⅢH-17のHF-1・2より古い。(山中)

ⅢSP-19~21 (図VI-103 図版71)

位置 L・M20・21区

確認・調査 ⅢH-30の調査後、周辺包含層の掘り下げ中にIV層上面や隣接グリッドとの壁面で検出した。径20cm前後を測り、ⅢSP-19・20は先端がⅦ層まで達し深い。ⅢSP-20は西側にやや傾いている。(阿部)

ⅢSP-22 (図VI-103 図版71)

位置 O 18区

確認・調査 ⅢH-40の調査中、同遺構の柱穴配置や規模等が異なる柱穴状小土坑を検出した。先端はやや尖り、Ⅵ層に達している。(阿部)

ⅢSP-23~25 (図VI-104)

位置 T 29・30区

確認・調査 V層上面で暗褐色土や黒褐色土の小円状の輪郭を確認した。半截して断面を観察し、Ⅶ層に達する柱穴状の小土坑であると判断した。ⅢSP-25の先端は平坦ぎみである。(山中)

(5) 焼土

ⅢF-5 (図VI-104 図版72)

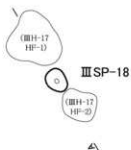
位置 K 14区 平面形態 不整形

規模 0.57×0.39/0.04m

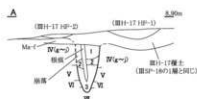
確認・調査 調査区北部の摩周バミス混じりのⅢ層(Ⅲ'層)を掘り下げ中に検出した。被熱面は赤褐色を呈するが、黒色土が混じりやや不均一である。なお焼土の低位は黒色土が少々落ち込んでいる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

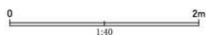
時期 検出層位や周辺出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(阿部)



S27



- 1.原褐色土 (IIVR 2/2) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟～硬 $Mu < 2.5$ が中量混入する
層が少量混入
- 2.原褐色土 (IIVR 2/3) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟 $Mu < 2.5$ が極めて少量に混入
- 3.原褐色土 (IIVR 2/3) 礫層土 粘着性中 堅硬度軟 $Mu < 2.5$ が少量混入



III SP-19



III SP-21



- 1.原褐色土 (IIVR 2/3) 堅硬度軟～中
【層IV】 $Mu < 2.5$ ～20% 中々不均質
- 2.原褐色土 (IIVR 3/4) 堅硬度軟
【層IV】 原色土混入 中々不均質

III SP-20



- 1.原褐色土 (IIVR 3/3) 堅硬度軟～中
【層IV】 層I～5層が $Mu < 2.5$ の%以上 不均質
- 2.原褐色土 (IIVR 2/3) 堅硬度軟
【層IV】 $Mu < 2.5$ 少量 中々不均質



M21



- 1.原褐色土 (IIVR 3/4) 堅硬度軟
【層IV】 $Mu < 2.5$ の%以上 不均質
- 2.原褐色土 (IIVR 3/3) 1,2層がL
【層IV】 Mu 粒子10%程度 中々不均質



O18

P18

III SP-22



- 1.原褐色土 (IIVR 2/3) 堅硬度軟
【層IV】 $Mu < 2.5$ の%程度 中々不均質



図VI-103 III SP-18～22



III SP-24 III SP-23

III SP-23 III SP-24



III SP-23

1. 赤褐色土 (IVY 3/4) 堅硬度軟～中
【層・厚】 層1mm以下のMa粒子10～20% 中～不均質
2. 緑褐色土 (IVY 3/2) 堅硬度軟
【層・厚】 層1mm以下のMa粒子10%以下 中～不均質

III SP-24

1. 緑褐色土 (IVY 3/0) 堅硬度軟～中
【層・厚・厚】 厚1～2mm/Ma粒子10～20% 不均質
2. 黄褐色土 (IVY 5/0) L 200以下
3. 30～60粒以上の土層 緑褐色土少量 均質
4. 緑褐色土 (IVY 3/2) 堅硬度軟
【層・厚・厚】 層1mm程度のMa粒子10～20% 中～不均質

III SP-25



III SP-25

1. 赤褐色土 (IVY 2/2) 堅硬度軟
【層・厚】 層1mm程度のMa粒子10～20% 中～不均質
断面物少量含む
2. 赤褐色土 (IVY 3/2) 堅硬度軟
【層・厚・厚】 層1mm程度のMa20%程度 中～不均質



III F-5



1. 赤褐色土 (IVY 4/0) 堅硬度軟～中 [地上]
2. 黒色土層中心 遺構断面
3. 黒いMa粒子が散在



III F-6



1. 赤褐色土 (IVY 5/0) 堅硬度軟～中 [地上]
2. 灰・赤色土少量混在 中～不均質 遺構断面



図Ⅵ-104 III SP-23～25、III F-5・6

ⅢF-6 (図VI-104 図版72)

位置 J 18区 平面形態 楕円形

規模 0.40×0.34/0.04m

確認・調査 ⅢH-11周辺のⅢ層を掘り下げ中に検出した。被熱面は明赤褐色を呈し、灰を少量含む。強く被熱していると考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出層位や周辺出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(阿部)

ⅢF-7 (図VI-105 図版72)

位置 J・K 19区 平面形態 不整形

規模 [A] 0.32×0.23/0.06m [B] 0.46×0.18/0.04m

確認・調査 ⅢH-30の掘上土より下位のⅢ層を掘り下げ中に、2か所のまとまりを検出した。上面は赤褐色を呈するが、白色の微細な骨片が多く含まれ、約10cm角の炭化材のまとまりも検出された。

遺物出土状況 炭化材や微細な骨片のほか、剥片1点(水洗選別)が出土した。

時期 検出層位より、縄文時代後期前葉以前である。(阿部)

ⅢF-8 (図VI-105 図版72)

位置 R 27区 平面形態 円形

規模 0.33×0.32/0.04m

確認・調査 R 27区のⅢ層調査中に検出した。小型の焼土で炭化物を微量含む。

遺物出土状況 剥片1点が出土した。

時期 周辺包含層出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(広田)

ⅢF-9 (図VI-105)

位置 N 19・20区 平面形態 楕円形

規模 0.26×0.21/0.07m

確認・調査 O 20杭付近で検出した。小規模なブロック状の焼土で、被熱面は赤褐色を呈する。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(阿部)

ⅢF-10 (図VI-105 図版72)

位置 N 20区 平面形態 楕円形

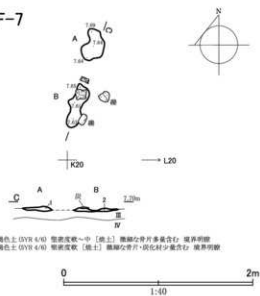
規模 0.50×0.38/0.06m

確認・調査 ⅢH-33の南側のⅢ層を掘り下げ中に検出した。被熱面は褐色を呈し、被熱はやや弱いと考えられる。中央部が少々落ち込んでいる。周辺から土器片・礫が多く出土し、堅穴住居跡を想定して調査を行ったが壁や柱穴等の施設が確認できず、単独の焼土とした。

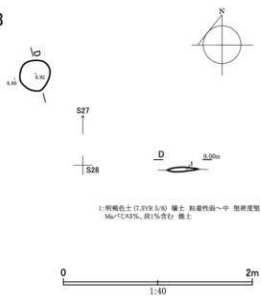
遺物出土状況 焼土からは遺物が出土していない。

時期 周辺出土遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉と考えられる。(阿部)

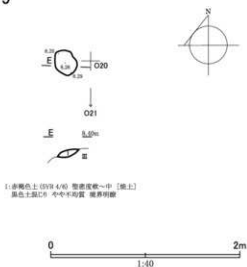
ⅢF-7



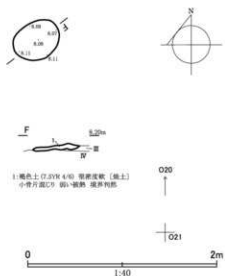
ⅢF-8



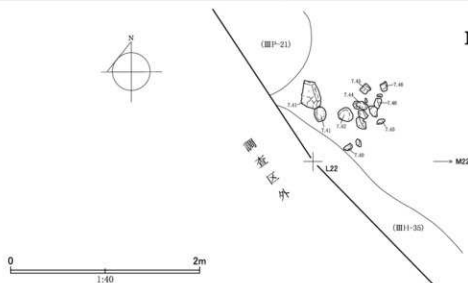
ⅢF-9



ⅢF-10



ⅢS-2



図VI-105 ⅢF-7～10、ⅢS-2

(6) 礫集中

ⅢS-2 (図VI-105 図版72)

位置 K・L21区 平面形態 楕円形

規模 0.82×0.82m

確認・調査 L21区のⅢ層を掘り下げ中、礫がまとまって出土した。ほぼ同一面で検出したが、南西側の調査区境付近のⅢH-35に向かってやや下がる。

遺物出土状況 礫16個体35点が出土した。径10cm前後の楕円～垂角礫が多く、一部破砕している。やや大型の板状礫も1点含まれている。安山岩、砂岩、粗粒玄武岩があり、24点が被熱していた。

時期 周辺出土の遺物より、縄文時代中期後葉～後期前葉または晩期とみられる。(阿部)

表VI-1 B地区堅穴住居跡一覧(1)

遺構名	図	図面	グリッド	平面形状	規模 (m)			付属遺構			主な出土遺物		備考		
					幅	長さ	高さ	種類	記号	番号	床面	土質			
遺構-4	VI-3-3	10-11	Y-3-B-25E	楕円形跡	19.20	17.30	19.420	0.60	溝土	HP	1-2	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、フタコ トナリ、 土壁、	遺跡跡へ附設土柱土 礎、フタコトナリ、 土壁、		
									柱穴・穴	HP	1-1+1+4 1-2	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP		
遺構-5	VI-4	12	Q-3-B-25E	半楕円形跡	4.90	3.10	3.90	3.90	溝土	HP	1-3	-	-		
遺構-6	VI-3-4 12-13	10	Q-3-B-30E	半楕円形跡	19.40	13.40	17.470	13.00	0.60	溝土	HP	1-4	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
										柱穴・穴	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
遺構-7	VI-10	13	N21-B-22E	半楕円形跡	4.90	2.90	3.90	2.90	溝土	HP	1-2	-	-		
遺構-8	VI-10-2	13-10	P-Q-3-B-22E	楕円形跡	4.70	13.10	4.10	11.90	0.10	溝土	HP	3	-	-	
										柱穴・穴	HP	1-3	-	-	
遺構-9	VI-10-10	17	S-Y-2-B-25E	楕円形跡	13.60	13.90	14.930	13.40	0.20	溝土	HP	3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
										柱穴・穴	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
遺構-10	VI-13	18	S23-B-22E	円形跡	7.90	11.00	11.970	10.90	0.30	-	-	-	-		
遺構-11	VI-10-2 10-13	17	T-U-2-B-25E	楕円形跡	18.60	5.20	13.90	4.30	0.70	溝土	-	-	-	-	
										溝土中遺土	HP	1-1+1+4 1-12	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
										穴跡	HP	1-1+1+3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
										溝土	-	1-2	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
遺構-12	VI-10-2	11	T-9-B-13E T-9-B-13E	半楕円形跡	3.40	13.00	4.70	3.30	0.60	穴跡	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
										穴跡	HP	1-2+3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
遺構-13	VI-10-8	12	R-Y-10-30E	半楕円形跡	4.10	3.90	3.90	3.40	0.60	溝土	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
										柱穴・穴	HP	1-12	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
遺構-14	VI-10-2	10-13	L-Y-8-B-25E	楕円形跡	18.60	8.94	18.930	8.93	0.60	穴跡	HP	1-3	-	-	
										柱穴・穴	HP	1-9	-	-	
遺構-15	VI-10-2	10-10	N-Y-10-25E	楕円形跡	18.10	14.60	18.910	13.90	0.60	溝土	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
										柱穴・穴	HP	1-12	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
遺構-16	VI-10-2	17	N23-B-22E	半楕円形跡	13.10	13.970	14.740	13.930	10.00	溝土	HP	1-4	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
										柱穴・穴	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	附設土柱土 礎、HP	
遺構-17	VI-10-2	10-10	Q-Y-3-B-22E	半楕円形跡	13.80	14.10	14.930	13.00	0.70	溝土	HP	3	-	-	
										柱穴・穴	HP	1-4+4+8	-	-	
遺構-18	VI-10	10	S23-Y-30E	円形跡	13.10	11.40	13.490	9.90	0.60	柱穴・穴	HP	1-2+3	-	-	
										溝土	HP	1-3	-	-	
遺構-19	VI-17	11	M21-B-22E	半楕円形跡	13.10	11.710	13.930	10.00	0.60	穴跡	HP	3	-	-	
										溝土	HP	1-2	-	-	
遺構-20	VI-10-8	10-10	L3-R-3-B-25E	半楕円形跡	18.60	14.90	-	-	10.00	穴跡	HP	1-3	-	-	
										溝土	HP	1-10	-	-	
遺構-21	VI-10-2	10	P-Q-3-B-22E	半楕円形跡	13.40	13.30	14.990	13.90	0.30	溝土中遺土	HP	1-2	-	-	
										穴跡	HP	3	-	-	
遺構-22	VI-10-2	10-13	K-L-10-B-25E	半楕円形跡	13.70	9.70	9.90	9.90	1.00	溝土	HP	1-2	-	-	
										柱穴・穴	HP	1-4	-	-	
遺構-23	VI-10-8	10	R-Y-10-30E	半楕円形跡	17.10	14.70	-	-	10.00	穴跡	HP	3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	
										溝土	HP	1-3	遺跡跡へ 附設土柱土 礎、	-	

表VI-2 B地区竪穴住居跡付属遺構一覧(1)

遺構名	付属遺構名	種類	図	図番	形状・色調など	規模 (m)				土台出土遺物	備考					
						埋蔵部										
						長さ	幅	高さ	傾斜							
ⅢH-4	ⅢH-10 柱穴・杭穴	ⅢP-1	多脚礎土?	Ⅲ-3-4	10-6	円形	比色(赤褐色)	0.45	0.47	-	-	0.10	鏡片			
		ⅢP-2	多脚礎土?	Ⅲ-3-4	10-7	小整地円形	褐色	0.45	0.26	-	-	-	0.02			
		ⅢP-3	多脚礎土?	Ⅲ-3-4	-	小整地円形	褐色	0.20	0.22	-	-	-	0.02			
		ⅢP-4	-	Ⅲ-3-5	11-1	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.14		
		ⅢP-5	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.09	0.07	0.04	0.04	-	-	0.27		
		ⅢP-6	-	Ⅲ-3-5	11-2	円形	灰	0.09	0.07	0.02	0.02	-	-	0.34		
		ⅢP-7	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.12	0.12	0.04	0.04	-	-	0.42		
		ⅢP-8	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.12	0.10	0.01	0.01	-	-	0.42		
		ⅢP-12	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.12	0.11	0.02	0.02	-	-	0.42	鏡	
		ⅢP-13	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.15	0.12	0.02	0.02	-	-	0.19		
		ⅢP-14	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.16	0.11	0.02	0.02	-	-	0.42		
		ⅢP-15	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.06	0.04	0.02	0.02	-	-	0.24		
		ⅢP-16	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.12	0.10	0.04	0.04	-	-	0.31		
		ⅢP-17	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.09	0.06	0.02	0.02	-	-	0.49		
		ⅢP-18	-	Ⅲ-3-5	11-3	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.27		
		ⅢP-19	-	Ⅲ-3-5	11-3	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.32		
		ⅢP-20	-	Ⅲ-3-5	11-4	楕円形	灰	0.14	0.12	0.02	0.02	-	-	0.23		
		ⅢP-21	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.10	0.10	0.02	0.02	-	-	0.24		
		ⅢP-22	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.06	0.06	0.02	0.02	-	-	0.18		
		ⅢP-23	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.09	0.09	0.09	0.09	-	-	0.06		
		ⅢP-24	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.12	0.09	0.02	0.02	-	-	0.20		
		ⅢP-25	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.09	0.06	0.02	0.02	-	-	0.07		
		ⅢP-26	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.18		
		ⅢP-27	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.09	0.07	0.02	0.02	-	-	0.10		
		ⅢP-28	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.10	0.09	0.02	0.02	-	-	0.13		
		ⅢP-29	-	Ⅲ-3-5	-	楕円形	灰	0.12	0.10	0.04	0.04	-	-	0.17		
		ⅢP-30	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.19		
		ⅢP-31	-	Ⅲ-3-5	11-5	円形	灰	0.10	0.09	0.02	0.02	-	-	0.27		
		ⅢP-32	-	Ⅲ-3-5	-	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.23		
		ⅢP-33	-	Ⅲ-3-5	11-6	円形	灰	0.10	0.09	0.02	0.02	-	-	0.27		
		ⅢH-5	ⅢH-1	ⅢP-4	多脚礎土?	Ⅲ-6	12-6	小整地円形	赤褐色	0.27	0.27	-	-	-	0.10	
				ⅢP-2	礎土半礎土	Ⅲ-6	-	楕円形?	暗赤褐色	0.25	0.26	-	-	-	-	鏡(礎土上の土器破片なし)
		ⅢH-6	ⅢH-1	ⅢP-1	多脚礎土?	Ⅲ-7-9	-	楕円形	褐色	0.28	0.20	-	-	-	0.06	
ⅢP-2	多脚礎土?			Ⅲ-7-9	14-1	円形	赤褐色	0.46	0.44	-	-	-	0.07			
ⅢP-3	礎土半礎土			Ⅲ-8	14-2	楕円形?	赤褐色～褐色	0.38	0.20	-	-	-	0.0127			
ⅢP-4	礎土半礎土			Ⅲ-8	-	小整地円形	赤褐色～褐色	0.27	0.25	-	-	-	0.0127			
ⅢP-1	礎土半礎土			Ⅲ-7-9	14-3	円形	灰	0.09	0.09	0.03	0.03	-	-	0.20	鏡	
ⅢH-7	ⅢH-2	ⅢP-2	柱穴・杭穴	Ⅲ-7-9	14-4	楕円形	灰	0.07	0.06	0.03	0.03	-	-	0.23		
		ⅢP-1	多脚礎土?	Ⅲ-10	-	楕円形	明赤褐色	0.27	0.26	-	-	-	-	0.09		
ⅢH-8	ⅢH-3	ⅢP-2	礎土半礎土	Ⅲ-10	-	楕円形	明赤褐色	0.49	0.12	-	-	-	0.0127	鏡(礎土上の土器破片なし)		
		ⅢP-1	礎土半礎土	Ⅲ-11	10-2	楕円形	褐色	0.22	0.16	-	-	-	-	0.10		
		ⅢP-1	-	Ⅲ-11	10-3	楕円形	灰	0.05	0.04	0.02	0.02	-	-	0.10		
ⅢH-9	ⅢH-4	ⅢP-2	柱穴・杭穴	Ⅲ-11	10-4	円形	灰	0.06	0.06	0.02	0.02	-	-	0.07		
		ⅢP-3	-	Ⅲ-11	10-5	円形	灰	0.06	0.06	0.02	0.02	-	-	0.07		
		ⅢP-1 A	多脚礎土?	Ⅲ-13-14	17-2	楕円形	褐色	0.44	0.24	-	-	-	-	0.09		
		ⅢP-1 B	多脚礎土?	Ⅲ-13-14	17-2	楕円形	褐色	0.40	0.26	-	-	-	-	0.06		
		ⅢP-1 C	多脚礎土?	Ⅲ-13-14	17-2	楕円形	褐色	0.40	0.26	-	-	-	-	0.04		
ⅢH-11	ⅢH-5	ⅢP-2	柱穴・杭穴	Ⅲ-13-14	17-6	円形	灰	0.09	0.09	0.02	0.02	-	-	0.20		
		ⅢP-3	礎土上	Ⅲ-16-20	-	半楕円	-	15.15	4.20	-	-	-	-	0.02		
		ⅢP-1	多脚礎土	Ⅲ-18-20+21	17-1+21-21	楕円形	明赤褐色	0.67	0.41	-	-	-	-	0.09		
		ⅢP-2	-	Ⅲ-17-21	17-3	円形	褐色	0.18	0.17	-	-	-	-	0.05		
		ⅢP-3	礎土半礎土	Ⅲ-17-21	-	楕円形	赤褐色	0.20	0.20	-	-	-	-	0.04		
		ⅢP-4	-	Ⅲ-17-21	-	楕円形	比色(赤褐色)	0.24	0.21	-	-	-	-	0.04		
		ⅢP-5	-	Ⅲ-17-21	-	小整地	比色(赤褐色)	0.34	0.14	-	-	-	-	0.02		
		ⅢP-6	多脚礎土	Ⅲ-18-21	-	小整地円形	明赤褐色	0.62	0.26	-	-	-	-	0.07		
		ⅢP-7	-	Ⅲ-17-21	-	楕円形	褐色	0.38	0.27	-	-	-	-	0.06		
		ⅢP-8	礎土半礎土	Ⅲ-17-21	-	小整地円形	比色(赤褐色)	0.41	0.28	-	-	-	-	0.05		
		ⅢP-9	-	Ⅲ-17-21	-	楕円形	比色(赤褐色)	0.23	0.17	-	-	-	-	0.04		
		ⅢP-10	多脚礎土	Ⅲ-18-21	17-4	楕円形	明赤褐色	0.20	0.40	-	-	-	-	0.05		
ⅢP-11	礎土半礎土	Ⅲ-18-21	17-4	円形	比色(赤褐色)	0.21	0.21	-	-	-	-	0.09				
ⅢP-12	-	Ⅲ-19+21	20-2	楕円形	褐色	0.27	0.23	-	-	-	-	0.05				
ⅢP-1	柱穴・杭穴	Ⅲ-19+21	20-3	円形	灰	0.09	0.09	-	-	-	-	0.15				
ⅢP-2	-	Ⅲ-19+21	-	円形	灰	0.09	0.07	-	-	-	-	0.18				
ⅢP-3	-	Ⅲ-19+21	-	円形	灰	0.06	0.06	-	-	-	-	0.11				
ⅢP-4	-	Ⅲ-19+21	-	円形	灰	0.07	0.06	-	-	-	-	0.14				

表V-2 B地区竖穴住居跡付属遺構一覽(2)

遺構名	付属遺構名	種類	図	図號	形制・色調等		規模 (m)				土台出土遺物	備考		
							埋藏部		基部				最大幅	最大深
					平面	断面・色調	長径	幅径	長径	幅径				
遺構11	柱穴・坑穴	11P-2	第-3-3-11	20-4	瓦葺	瓦	0.07	0.07	-	-	0.25			
		11P-6	第-3-3-11	20-5	瓦葺	瓦	0.07	0.07	-	-	0.26			
		11P-7	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.07	0.02	0.02	0.17			
		11P-8	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.07	0.06	-	-	0.24			
		11P-9	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.07	0.04	0.04	0.08			
		11P-10	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.08	0.04	0.04	0.09			
		11P-11	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.08	-	-	0.21			
		11P-12	第-3-3-11	-	櫛目葺	瓦	0.12	0.09	0.05	0.05	0.20			
		11P-13	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.07	0.06	0.02	0.02	0.09			
		11P-14	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.07	0.07	0.02	0.02	0.24			
		11P-15	第-3-3-11	-	不整塊瓦葺	瓦	0.16	0.10	0.02	0.02	0.24			
		11P-16	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.09	0.08	-	-	0.11			
		11P-17	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.08	-	-	0.12			
		11P-18	第-3-3-11	-	瓦葺	瓦	0.08	0.07	0.02	0.02	0.16			
階段土留1	階段土留	11V-18+20	19-1+2	瓦葺	逆分拵	0.23	0.22	0.18	0.15	0.23	新田4層土留			
		11V-18+20	19-2+4	瓦葺	逆分拵	0.25	0.22	0.18	0.17	0.22	新田4層土留			
遺構12	覆土中壁土	11P-1	11-22+23	-	不整塊瓦葺	褐色	0.40	0.27	-	-	0.07	礎		
		11P-2	11-22+23	-	不整塊瓦葺	褐色	0.42	0.28	-	-	0.07	礎		
	平葺地上	11P-3	11-22+23	21-2	不整塊瓦葺	褐色	0.20	0.22	-	-	0.06			
		11P-4	11-22+23	-	不整塊瓦葺	褐色	0.41	0.43	-	-	0.06	基礎1層~存部4層土留		
	柱穴・坑穴	11P-1	11-22+23	-	瓦葺	瓦	0.09	0.08	0.04	0.04	0.22			
		11P-2	11-22+23	-	瓦葺	瓦	0.08	0.07	0.02	0.02	0.23			
		11P-4	11-22+23	21-6	瓦葺	瓦	0.07	0.06	0.02	0.02	0.23			
		11P-5	11-22+23	21-7	櫛目葺	瓦	0.26	0.22	0.06	0.04	0.22			
		11P-1	11-23+26	22-4	不整塊	褐色	0.24	0.20	-	-	0.06			
		11P-2	11-23+26	-	櫛目葺	褐色	0.26	0.23	-	-	0.04以下			
11P-1		11-25+26	22-5	瓦葺	瓦	0.14	0.13	0.03	0.03	0.24				
11P-2		11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.14	0.13	0.04	0.04	0.22				
遺構13	柱穴・坑穴	11P-3	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.13	0.12	0.03	0.02	0.41			
		11P-4	11-25+26	22-6	瓦葺	瓦	0.15	0.15	0.04	0.03	0.27			
		11P-5	11-25+26	22-7	瓦葺	瓦	0.08	0.08	0.03	0.02	0.15			
		11P-6	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.15	0.14	0.02	0.02	0.44			
		11P-7	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.13	0.12	0.04	0.03	0.24			
		11P-8	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.13	0.13	0.03	0.03	0.42			
		土坑	11P-9	11-25+26	-	櫛目葺	平	0.20	0.25	0.26	0.21	0.28		
			11P-10	11-25+26	-	櫛目葺	瓦	0.13	0.11	0.04	0.02	0.46		
	柱穴・坑穴	11P-11	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.12	0.13	0.04	0.03	0.23			
		11P-12	11-25+26	-	瓦葺	瓦	0.10	0.10	0.02	0.02	0.20			
	遺構14	平葺地上	11P-1	11-27+29	24-1	不整塊瓦葺	明赤褐色	0.67	0.52	-	-	0.08		
			11P-2	11-27+29	-	不整塊瓦葺	明赤褐色	0.74	0.53	-	-	0.09		
11P-3			11-28+29	24-2	櫛目葺	赤褐色	0.67	0.50	-	-	0.10			
11P-1			11-28+29	24-3	瓦葺	瓦	0.07	0.06	-	-	0.24			
11P-2			11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.07	0.06	-	-	0.16			
11P-3			11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.07	0.06	-	-	0.16			
11P-4			11-28+29	24-4	瓦葺	瓦	0.08	0.08	-	-	0.28			
柱穴・坑穴			11P-5	11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.08	0.07	-	-	0.30		
			11P-6	11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.06	0.06	-	-	0.28		
			11P-7	11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.06	0.05	-	-	0.06		
11P-8	11-28+29	24-5	瓦葺	瓦	0.05	0.05	-	-	0.12					
11P-9	11-28+29	-	瓦葺	瓦	0.07	0.07	0.02	0.02	0.21					
遺構15	覆土中壁土	11P-1	11-30+31	-	不整塊	明褐色	0.22	0.15	-	-	0.04			
		11P-2A	11-30+31	-	不整塊瓦葺	褐色	0.32	0.08	-	-	0.02			
		11P-2B	11-30+31	-	不整塊瓦葺	褐色	0.31	0.07	-	-	0.02			
	平葺地上	11P-3	11-30+31	26-1	不整塊瓦葺	赤褐色~明褐色	0.64	0.27	-	-	0.02			
		11P-4	11-30+31	-	不整塊瓦葺	明褐色	0.89	0.26	-	-	0.04			
	平葺地上	11P-5	11-30+31	26-2	不整塊瓦葺	褐色	0.24	0.20	-	-	0.04			
		11P-1	11-30+31	26-3	瓦葺	瓦	0.08	0.08	0.02	0.02	0.23			
		11P-2	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.08	0.08	0.02	0.02	0.23			
		11P-3	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.10	0.10	0.02	0.02	0.26			
		11P-4	11-30+31	-	櫛目葺	瓦	0.10	0.09	0.02	0.02	0.32			
		11P-5	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.07	0.07	0.02	0.02	0.20			
		柱穴・坑穴	11P-6	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.11	0.11	0.02	0.02	0.15		
11P-7			11-30+31	26-4	瓦葺	瓦	0.06	0.06	0.02	0.02	0.14			
11P-8			11-30+31	26-4	櫛目葺	瓦	0.07	0.06	0.02	0.02	0.20			
11P-9	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.09	0.08	0.02	0.02	0.18					
11P-10	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.06	0.06	0.02	0.02	0.10					
11P-11	11-30+31	-	瓦葺	瓦	0.08	0.08	0.02	0.02	0.22					
11P-12	11-30+31	26-5	瓦葺	瓦	0.09	0.08	0.02	0.02	0.22	礎				

表VI-2 B地区竪穴住居跡付属遺構一覧(3)

遺構名	付属遺構名	種類	図	図説	形制・色調など	規模 [m]				最大掘込深	主な出土遺物	備考	
						幅		高さ					
						内壁	外壁	基礎	残高				
ⅧH-15	11P-13	柱穴・杭穴	VI-20-31	—	行跡	丸	0.30	0.10	0.02	0.02	0.10		
	11P-14		VI-20-31	—	構内跡	丸	0.30	0.09	0.02	0.02	0.11		
	11P-15		VI-20-31	—	行跡	丸	0.08	0.08	0.02	0.02	0.17		
	11P-16		土塊	VI-20-31	—	構内跡	丸	0.64	0.40	0.20	0.20	0.06	陶器類、土器、瓦片、土
	11P-17		柱穴・杭穴	VI-20-31	—	行跡	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.09	
ⅧH-16	11P-C-1	湖川東岸	VI-30	—	行跡	—	0.24	0.20	—	—	—	調査	
	11P-1	岩跡盛土?	VI-32+33	27-4	不整構内跡	赤褐色	0.68	0.60	—	—	0.11		
	11P-2	覆土中層土	VI-32	—	不明	赤褐色	10.343	—	—	—	—	土層断面のみ確認	
	11P-3	岩跡盛土?	VI-32+33	27-5	不整構内跡	暗褐色	0.20	0.23	—	—	0.08	調査	
	11P-4	岩跡盛土?	VI-32+33	27-6	不整構内跡	赤褐色	0.63	0.20	—	—	0.03		
ⅧH-17	11P-1	覆土中層土	VI-32+35	—	行跡	丸	0.27	0.07	0.02	0.02	0.10		
	11P-2		VI-32+35	—	構内跡	丸	0.08	0.07	0.02	0.02	0.14		
	11P-3		VI-34+35	29-1	不整構内跡	暗褐色	0.57	0.25	—	—	0.10		
	11P-4		VI-34+35	29-1	不整構内跡	暗褐色	0.26	0.33	—	—	0.04		
	11P-5		VI-34+35	29-2	不整構内跡	褐色	0.41	0.42	—	—	0.05	礎	
ⅧH-17	11P-1	柱穴・杭穴	VI-34+35	—	不整構内跡	褐色	0.25	0.23	—	—	0.09		
	11P-2		VI-34+35	29-3	行跡	丸	0.06	0.07	0.02	0.02	0.19		
	11P-3		VI-34+35	29-4	構内跡	丸	0.30	0.08	0.02	0.02	0.17		
	11P-4		VI-34+35	—	構内跡	丸	0.09	0.09	0.02	0.02	0.18		
	11P-5		VI-34+35	—	構内跡	丸	0.14	0.12	0.02	0.02	0.26		
	11P-6		土塊	VI-34+35	—	構内跡	丸	0.27	0.10	0.10	0.03	0.04	
	11P-7		VI-34+35	—	構内跡	丸	0.12	0.10	0.04	0.04	0.18		
	11P-8		柱穴・杭穴	VI-34+35	—	構内跡	丸	0.10	0.09	0.03	0.03	0.18	
	11P-9		VI-34+35	—	構内跡	丸	0.09	0.06	0.01	0.01	0.16		
	11P-10		VI-34+35	29-5	構内跡	丸	0.14	0.12	0.02	0.02	0.40		
ⅧH-18	11P-1	柱穴・杭穴	VI-36	30-3	構内跡	丸	0.12	0.10	0.03	0.03	0.30		
	11P-2		VI-36	30-4	構内跡	丸	0.12	0.10	0.03	0.03	0.25		
	11P-3		VI-36	30-5	構内跡	丸	0.11	0.09	0.03	0.03	0.25		
	11P-4		VI-37	—	不明	赤褐色	10.213	—	—	—	0.03	土層断面のみ確認	
	11P-5		VI-38+40	32-1	構内跡	暗褐色	0.20	0.26	—	—	0.07		
ⅧH-19	11P-1	岩跡盛土	VI-38+40	32-2	構内跡	暗褐色	0.25	0.22	—	—	0.06		
	11P-2		VI-38+40	32-3	構内跡	暗褐色	0.23	0.20	—	—	0.07		
	11P-3		VI-39	—	岩跡付	褐色	0.40	0.16	—	—	—		
	11P-4		VI-39	—	不整構内跡	褐色	0.20	0.16	—	—	—		
	11P-5		VI-39	—	行跡	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.22		
ⅧH-20	11P-1	柱穴・杭穴	VI-39+40	—	構内跡	丸	0.10	0.09	0.02	0.02	0.17		
	11P-2		VI-39+40	—	行跡	丸	0.08	0.08	0.02	0.02	0.14		
	11P-3		VI-39+40	33-4	構内跡	丸	0.07	0.06	0.02	0.02	0.24		
	11P-4		VI-39+40	—	構内跡	丸	0.04	0.03	0.02	0.02	0.16		
	11P-5		VI-39+40	—	構内跡	丸	0.07	0.06	0.02	0.02	0.24		
	11P-6		VI-39+40	—	構内跡	丸	0.05	0.04	0.02	0.02	0.15		
	11P-7		VI-39+40	—	行跡	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.20		
	11P-8		VI-39+40	33-5	行跡	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.13		
	11P-9		VI-39+40	—	構内跡	丸	0.06	0.05	0.02	0.02	0.09		
	11P-10		VI-39+40	—	行跡	—	0.20	0.09	—	—	—	溝?穴?土のり? (北東)	
ⅧH-21	11P-C-1	湖川東岸	VI-40	—	行跡	—	0.20	0.09	—	—	—	調査	
	11P-1	覆土中層土	VI-41+42	34-3	不整跡	褐色	0.23	0.13	—	—	0.06	礎	
	11P-2	VI-41+42	34-3	不整構内跡	褐色	10.423	0.45	—	—	0.10			
	11P-3	岩跡盛土	VI-41+42	—	不整構内跡	褐色	0.72	0.60	—	—	0.14		
	11P-4	柱穴	VI-41+42	34-4	行跡	丸	0.09	0.09	0.02	0.02	0.20		
ⅧH-22	11P-1	岩跡盛土	VI-43+44	35-5	不整構内跡	暗褐色	0.30	0.45	—	—	0.07		
	11P-2	岩跡盛土?	VI-43+44	35-6	不整構内跡	赤い暗褐色	0.20	0.20	—	—	0.07		
	11P-3	土塊	VI-43+44	35-4	6-8	構内跡	丸	2.66	2.10	1.82	1.23	0.72	礎石
	11P-4	柱穴	VI-43+44	35-7	行跡	丸	0.07	0.06	—	—	0.19		
	11P-5	VI-43+44	—	行跡	丸	0.08	0.07	—	—	0.27			
ⅧH-23	11P-1	覆土中層土	VI-45	—	行跡	丸	0.08	0.07	—	—	0.18		
	11P-2		VI-45	—	不整構内跡	暗褐色	1.44	1.18	—	—	0.12		
	11P-3		VI-45+46	36-3	行跡	丸	0.07	0.07	0.02	0.02	0.20		
	11P-4		VI-47+48	38-1	行跡	褐色	0.56	0.54	—	—	0.11		
	11P-5		VI-47+48	—	不整構内跡	暗褐色	0.25	0.22	—	—	0.05		
ⅧH-24	11P-1	岩跡盛土	VI-47+48	38-2	不整構内跡	褐色	0.24	0.26	—	—	0.04		
	11P-2		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.22	0.12	—	—	0.04		
	11P-3		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.25	0.22	—	—	0.04		
	11P-4		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.25	0.22	—	—	0.04		
	11P-5		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.25	0.22	—	—	0.04		
	11P-6		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.20	0.18	—	—	0.02		
	11P-7		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.26	0.23	—	—	0.06	石目	
	11P-8		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.23	0.23	—	—	0.03	調査	
	11P-9		VI-47+48	39-3	構内跡	褐色	0.26	0.23	—	—	0.09		
	11P-10		VI-47+48	—	行跡?	褐色	0.66	0.54	—	—	0.12		
ⅧH-25	11P-1	柱穴・杭穴	VI-47+48	38-4	行跡	丸	0.11	0.11	0.04	0.04	0.20		
	11P-2		VI-47+48	—	行跡	丸	0.11	0.10	0.03	0.03	0.24		
	11P-3		湖川東岸	VI-47	—	構内跡	—	0.10	0.09	—	—	—	調査
	11P-4		湖川東岸	VI-47	—	行跡	—	0.24	0.23	—	—	—	土・石アレイナ、調査
	11P-5		覆土中層土	VI-50+51	40-1	不整構内跡	暗褐色	0.48	0.40	—	—	0.05	
11P-6	岩跡盛土	VI-49+50	40-2	不整構内跡	—	0.25	0.23	—	—	0.02			

表VI-2 B地区竖穴住居跡付属遺構一覽(4)

遺構名	付属遺構名	種類	器	図録	形制・色調等		規模 [m]				土台出土遺物	備考		
					形制・色調等		埋藏部		位置				最大 出土層	
					草妻	断面・色調	基礎	幅間	長さ	幅間				
ⅢH-1	土坑	柱穴・板穴	VI-49-1	—	不整積り跡	平	1.20	0.74	0.90	0.71	0.15	扉跡(板・竹片・土器・土)		
			VI-49-2	40-2	不整積り跡	丸	1.24	0.80	0.87	0.75	0.24			
			VI-49-3	40-4	行跡	瓦	0.96	0.96	0.82	0.82	0.29			
			VI-49-4	—	積り跡	瓦	0.50	0.09	0.82	0.82	0.29			
			VI-49-5	—	行跡	平	0.49	0.10	0.86	0.85	0.24			
			VI-49-6	—	行跡	瓦	0.10	0.10	0.82	0.82	0.27			
			VI-49-7	—	積り跡	瓦	0.11	0.09	0.85	0.87	0.16			
			VI-49-8	—	行跡	瓦	0.88	0.88	0.82	0.81	0.16			
			VI-49-9	—	行跡	瓦	0.89	0.89	0.85	0.82	0.24			
			VI-49-10	—	行跡	瓦	0.88	0.88	0.92	0.82	0.22			
			VI-49-11	—	行跡	瓦	0.88	0.88	0.82	0.81	0.16			
			VI-49-12	—	行跡	瓦	0.89	0.89	0.85	0.82	0.24			
			VI-49-13	—	行跡	瓦	0.88	0.88	0.92	0.82	0.22			
ⅢH-2	礎上中礎土	—	VI-54-1	42-1	不整積り跡	赤褐色	0.36	0.46	—	—	0.07	—		
			VI-54-2	42-1	不整積り跡	紫褐色	0.36	0.22	—	—	0.03			
			VI-54-3	—	積り跡?	紫褐色	0.39	0.41	—	—	0.08			
			VI-54-4	—	積り跡	紫褐色	0.41	0.35	—	—	0.09			
			VI-54-5	—	行跡?	—	10.40	10.10	—	—	0.08			
			VI-54-6	—	積り跡?	—	10.67	10.20	—	—	0.06			
			VI-54-7	—	積り跡	—	0.40	0.28	—	—	0.05			
			VI-54-8	—	積り跡	—	0.52	0.28	—	—	0.07			
			VI-54-9	—	積り跡	—	0.40	0.28	—	—	0.04			
			VI-54-10	42-3	不整積り跡	丸	0.12	0.10	0.65	0.65	0.06			
			VI-54-11	42-3	行跡	瓦	0.86	0.85	0.84	0.84	0.10			
			VI-54-12	—	行跡	瓦	0.87	0.87	0.82	0.82	0.14			
			VI-54-13	—	積り跡	瓦	0.88	0.88	0.82	0.81	0.16			
ⅢH-3	土坑	柱穴・板穴	VI-51-1	—	行跡	瓦	0.96	0.85	0.82	0.82	0.18	—		
			VI-51-2	—	行跡	瓦	0.96	0.85	0.82	0.82	0.18			
			VI-51-3	—	行跡	瓦	0.96	0.85	0.82	0.82	0.18			
			VI-51-4	42-4	行跡	瓦	0.88	0.87	0.82	0.82	0.14			
			VI-51-5	—	積り跡	瓦	0.25	0.24	0.16	0.16	0.04			
			VI-51-6	—	行跡?	平	1.24	0.80	0.84	0.74	0.14			
			ⅢS-1	—	行跡	—	10.94	10.83	—	—	—			
			ⅢS-2	—	積り跡	—	0.42	0.42	—	—	—			
			ⅢS-3	—	不整積り跡	—	0.49	0.68	—	—	—			
			ⅢS-4	—	不整積り跡	—	0.73	0.60	—	—	—			
			ⅢS-5	42-2	不整積り跡	—	1.36	0.94	—	—	—			
			ⅢS-6	—	不整積り跡?	—	10.82	10.61	—	—	—			
			ⅢS-7	—	不整積り跡	—	1.16	0.58	—	—	—			
ⅢS-8	—	積り跡	—	0.14	0.09	—	—	—						
ⅢS-9	—	不整積り跡	—	0.28	0.48	—	—	—						
ⅢH-4	礎上中礎土	—	VI-56-1	44-1	行跡	瓦	0.96	0.96	—	—	0.13	—		
			VI-56-2	—	行跡	瓦	0.88	0.85	—	—	0.12			
			VI-56-3	—	行跡	瓦	0.88	0.85	—	—	0.16			
			VI-56-4	—	行跡	瓦	0.85	0.85	—	—	0.12			
			VI-56-5	—	行跡	瓦	0.86	0.85	—	—	0.10			
			VI-56-6	44-2	行跡	瓦	0.88	0.87	—	—	0.23			
			VI-56-7	—	行跡	瓦	0.87	0.87	—	—	0.22			
			VI-56-8	44-3	行跡	瓦	0.88	0.86	—	—	0.19			
			VI-56-9	—	行跡	瓦	0.86	0.85	—	—	0.15			
			VI-56-10	—	行跡	瓦	0.88	0.87	—	—	0.23			
			ⅢH C-1	—	礎上中礎土	—	—	—	—	—	—		—	—
			VI-60-1	—	不整跡	—	13.00	12.80	—	—	0.08			
			VI-60-2	45-6	不整跡	赤褐色	0.48	0.17	—	—	0.06			
VI-60-3	—	不整跡	赤褐色	0.49	0.65	—	—	0.04						
VI-60-4	45-7	不整跡	赤褐色	0.45	0.66	—	—	0.08						
VI-60-5	—	積り跡	赤褐色	0.78	0.30	—	—	0.05						
VI-60-6	44-8	不整積り跡	赤褐色	0.73	0.48	—	—	0.07						
VI-60-7	—	不整跡	赤褐色	0.64	0.74	—	—	0.08						
VI-60-8	—	積り跡	赤褐色	0.30	0.25	—	—	0.07						
VI-60-9	45-9	不整積り跡	赤褐色	0.44	0.35	—	—	0.05						
VI-60-10	45-9	不整積り跡	赤褐色	0.67	0.74	—	—	0.12						
VI-60-11	—	積り跡	緑褐色	0.44	0.38	—	—	0.05						
VI-60-12	—	積り跡	赤褐色	0.44	0.22	—	—	0.06						
ⅢH-5	礎上中礎土	—	VI-66-1	46-1	行跡	平	1.38	0.96	1.05	0.76	0.42	—		
			VI-66-2	46-2	行跡	瓦	0.73	0.10	0.84	0.84	0.24			
			VI-66-3	—	行跡	瓦	0.88	0.87	—	—	0.14			
			VI-66-4	—	行跡	瓦	0.88	0.88	—	—	0.16			
			VI-66-5	—	行跡	瓦	0.86	0.86	—	—	0.13			
			VI-66-6	—	行跡	瓦	0.82	0.11	—	—	0.29			
			VI-66-7	46-2	行跡	瓦	0.89	0.88	—	—	0.17			
			VI-66-8	46-2	行跡	瓦	0.85	0.85	—	—	0.21			
			VI-66-9	—	行跡	瓦	0.85	0.14	—	—	0.22			
			VI-66-10	—	行跡	瓦	0.86	0.86	0.83	0.83	0.19			
			VI-66-11	46-4	行跡	瓦	0.87	0.86	—	—	0.23			
			VI-66-12	—	行跡	瓦	0.86	0.85	—	—	0.15			
			VI-66-13	—	行跡	瓦	0.86	0.85	—	—	0.14			
VI-66-14	—	行跡	瓦	0.88	0.87	—	—	0.15						
VI-66-15	46-5	行跡	瓦	0.73	0.19	—	—	0.31						
VI-66-16	—	行跡	瓦	0.88	0.88	—	—	0.17						
VI-66-17	—	行跡	瓦	0.87	0.86	—	—	0.14						
VI-66-18	—	行跡	瓦	0.86	0.86	—	—	0.12						

表VI-2 B地区堅穴住居跡付属遺構一覧(5)

遺構名	付属遺構名	種類	図	図説	形質・色調など		規模 [m]				主な出土遺物	備考				
					平面	断面・色調	埋藏部		総高				最大土層			
							長さ	幅	長さ	幅						
ⅢH-30	ⅢP-19 ⅢP-20 ⅢP-21 ⅢP-22	柱穴	VI-30+30	—	円形	丸	0.12	0.12	0.06	0.06	0.19					
				VI-29	—	円形	丸	0.07	0.06	—	—	0.25				
				VI-30	45-4	不整形	—	0.10	0.10	—	—	—	—	—		
	ⅢH-31	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9 ⅢP-10 ⅢP-11 ⅢP-12	多脚柱上	VI-31	47-5	楕円形	赤褐色	0.60	0.50	—	—	0.11				
					—	円形	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.20				
					—	円形	丸	0.05	0.05	0.02	0.02	0.16				
					47-6	円形	丸	0.06	0.06	0.02	0.02	0.16				
					—	円形	丸	0.07	0.07	0.04	0.04	0.05				
					—	楕円形	丸	0.04	0.07	0.02	0.02	0.06				
					—	楕円形	平	0.11	0.10	0.06	0.04	0.10				
—					円形	丸	0.00	0.00	0.02	0.02	0.12					
47-7					楕円形	丸	0.00	0.07	0.02	0.02	0.08					
47-7					楕円形	丸	0.00	0.07	0.02	0.02	0.13					
—	土塊	VI-31	—	楕円形	丸	0.72	0.57	0.56	0.47	0.20	器類(埴・青磁)土器、鏝					
—	柱穴・柱穴	VI-31	—	円形	丸	0.00	0.00	0.05	0.05	0.05						
—	土塊	VI-31	—	楕円形	丸	0.54	0.30	0.40	0.13	0.08	鏝					
ⅢH-32	ⅢP-11	多脚柱上	VI-32	49-3	楕円形	褐色	0.42	0.30	—	—	0.06	鏝				
				—	楕円形	赤褐色	0.42	0.38	—	—	0.06	鏝				
ⅢH-33	ⅢP-1	土塊	VI-32	48-6	楕円形跡	丸	1.00	0.80	0.78	0.61	0.22	器類(埴・青磁)土器、鏝				
				49-4	楕円形跡	赤褐色	0.40	0.32	—	—	0.02	鏝				
ⅢH-34	ⅢP-1	礎上中礎上	VI-36	49-7	円形	丸	0.12	0.11	0.05	0.05	0.13					
				—	不整形	—	2.54	1.78	—	—	—					
ⅢH-36	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9	礎上中礎上	VI-37+38	—	不整形円形	暗赤褐色	0.36	0.29	—	—	0.05					
				—	不整形	赤褐色	0.46	0.36	—	—	0.02					
				30-4	不整形円形	赤褐色	0.70	0.35	—	—	0.08					
				30-5	円形	丸	0.00	0.07	—	—	0.25					
				—	円形	丸	0.07	0.06	—	—	0.13					
				—	円形	丸	0.00	0.07	—	—	0.12					
				30-6	円形	丸	0.30	0.07	0.02	0.02	0.13					
				ⅢH-37	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9	礎上中礎上	VI-38	51-6	楕円形	暗赤褐色	0.40	0.27	—	—	0.07	0・47フレイク
								—	楕円形	褐色	0.40	0.24	—	—	0.05	
								—	不整形円形	褐色	0.25	0.24	—	—	0.01	
—	不整形円形	褐色	0.24					0.19	—	—	0.01					
—	不整形円形	褐色	0.32					0.10	—	—	0.01					
51-7	楕円形	丸	0.50					0.00	0.02	0.02	0.14					
—	円形	丸	0.08					0.08	0.02	0.02	0.09					
ⅢH-38	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9	礎上中礎上	VI-39					51-5	不整形円形	—	1.24	0.63	—	—	—	
								—	不整形円形	暗赤褐色	0.30	0.28	—	—	0.09	
								—	不整形	暗赤褐色	0.41	0.42	—	—	0.02	
				—	不整形円形	褐色	0.30	0.22	—	—	0.06					
				—	不整形	褐色	0.42	0.37	—	—	0.01					
				—	不整形円形	褐色	0.20	0.12	—	—	0.01					
				—	不整形	褐色	0.30	0.44	—	—	0.01					
				—	楕円形	—	0.44	0.00	—	—	—					
				53-4	楕円形	明褐色	0.30	0.29	—	—	0.08	鏝				
				53-4	楕円形	明褐色	0.20	0.18	—	—	0.06					
ⅢH-39	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9 ⅢP-10	礎上中礎上	VI-71	—	円形	—	0.08	0.08	—	—	—	鏝、赤土、黒土、漆				
				54-6	不整形円形	赤褐色	0.20	0.20	—	—	0.06					
				—	不整形	赤褐色	0.40	0.41	—	—	0.06					
				—	不整形円形	赤褐色	0.40	0.29	—	—	0.06					
				—	不整形	赤褐色	0.40	0.20	—	—	0.04					
				54-7	不整形円形	赤褐色	0.23	0.20	—	—	0.04					
				—	不整形	赤褐色	0.60	0.30	—	—	0.05					
				—	不整形	赤褐色	0.65	0.32	—	—	0.10					
				55-4	不整形	赤褐色	1.32	0.77	—	—	0.07					
				55-1+2	不整形円形	江戸土・青褐色	0.42	0.40	—	—	0.11					
ⅢH-40	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9 ⅢP-10	礎上中礎上	VI-72+74	55-3	円形	丸	0.06	0.07	—	—	0.24					
				—	円形	丸	0.06	0.07	—	—	0.29					
				55-5	円形	丸	0.07	0.06	0.04	0.04	0.12					
				—	円形	丸	0.30	0.00	0.02	0.02	0.10					
				ⅢH-41	ⅢP-1 ⅢP-2 ⅢP-3 ⅢP-4 ⅢP-5 ⅢP-6 ⅢP-7 ⅢP-8 ⅢP-9 ⅢP-10	礎上中礎上	VI-75	56-3	楕円形	褐色	0.33	0.24	—	—	0.05	
								—	楕円形	褐色	0.24	0.12	—	—	0.01	
								56-4	楕円形	丸	0.14	0.13	0.03	0.03	0.36	
								—	円形	丸	0.00	0.08	0.02	0.02	0.16	
								56-6	楕円形	丸	0.11	0.10	0.02	0.02	0.29	
								—	楕円形	江戸土・青褐色	0.40	0.50	—	—	0.09	
57-6	不整形	明赤褐色	0.20					0.24	—	—	0.07					
58-4+5	不整形	暗赤褐色	11.10					10.70	—	—	0.02	器類(埴・青磁)土器、ヒトクマフレイク、鏝				
58-4	不整形円形	暗赤褐色	0.40					0.64	—	—	—					

表VI-6 B地区土坑付属遺構一覧

遺構名	付属遺構名	種類	図	図番	形態・色調		規模 (m)				主な出土遺物	
					平面	断面	確認箇所		最大			
							長さ	短径	長さ	短径		
遺P-6	段	段構造	VI-85	61-6	不整形	—	1.30	1.20	1.05	1.04	0.20	
遺P-8	段	段構造	VI-86	62-3	楕円形	—	1.66	1.2	1.21	0.79	0.45	
遺P-13	段	段構造	VI-88	63-3+6	楕円形	—	2.03	1.71	1.77	1.45	0.82	石輪・ナイフ、鹿
遺P-24	段	割片集積	VI-88	—	楕円形	—	0.23	0.30	—	—	—	鹿ハヤ群土器、割片
遺P-24	段	段構造	VI-83	66-4	楕円形	—	1.24	1.15	0.70	0.72	0.32	
遺P-33	P F-3	覆土中後土	VI-97	—	不整形円形	赤褐色	0.30	0.23	—	—	0.03	
遺P-35	P F-1	覆土中後土	VI-99	69-5	楕円形	赤褐色	0.38	0.29	—	—	0.04	

表VI-7 B地区柱穴状小土坑一覧

遺構名	図	図番	グリッド	形態	規模 (m)						出土遺物	備考
					平面	断面	確認箇所		最大			
							長さ	短径	長さ	短径		
遺SP-1	VI-101	30-5	V30区	楕円形	丸	0.23	0.20	0.12	0.07	0.40		
遺SP-2	VI-101	30-6	V30区	楕円形	丸	0.22	0.20	0.04	0.04	0.30		
遺SP-3	VI-101	30-7	V30区	円形	丸	0.11	0.10	0.02	0.02	0.19		
遺SP-5	VI-101	—	V31区	楕円形	丸	0.08	0.08	0.02	0.02	0.18		
遺SP-6	VI-101	30-8	V30区	楕円形	丸	0.30	0.09	0.06	0.06	0.28		
遺SP-8	VI-101	—	T31区	楕円形	丸	0.17	0.14	0.06	0.06	0.28		
遺SP-9	VI-101	30-9	T31区	楕円形	丸	0.18	0.16	0.06	0.05	0.24		
遺SP-10	VI-101	30-10	T31区	楕円形	丸	0.22	0.15	0.06	0.04	0.24		
遺SP-11	VI-101	71-1	T31区	楕円形	丸	0.14	0.10	0.05	0.04	0.14	石輪	
遺SP-12	VI-101	—	V28区	楕円形	丸	0.14	0.12	0.08	0.06	0.49		
遺SP-13	VI-102	—	M18区	円形	丸	0.16	0.15	0.09	0.09	0.14	鹿MH-1内	
遺SP-14	VI-102	71-2	L13区	円形	丸	0.16	0.14	0.10	0.11	0.19	鹿MH-1内	
遺SP-15	VI-102	71-3	U29区	円形	丸	0.16	0.15	0.06	0.06	0.49		
遺SP-16	VI-102	71-4	U29区	楕円形	丸	0.15	0.13	0.05	0.04	0.43		
遺SP-17	VI-102	71-5	U20区	円形	丸	0.22	0.22	0.06	0.05	0.54		
遺SP-18	VI-103	—	R26区	楕円形	丸	0.26	0.21	0.04	0.04	0.30		遺I-17内
遺SP-19	VI-103	71-6	M20区	円形	丸	0.19	0.18	0.06	0.06	0.32		
遺SP-20	VI-103	71-7	L20+21区	円形	丸	0.22	0.20	—	—	0.44		
遺SP-21	VI-103	71-8	L20+21区	円形	丸	0.23	0.20	—	—	0.27		
遺SP-22	VI-103	71-9	O18区	円形	丸	0.16	0.15	—	—	0.30		
遺SP-23	VI-104	—	T29区	円形	丸	0.14	0.12	0.03	0.03	0.24		
遺SP-24	VI-104	—	T29区	円形	丸	0.18	0.16	—	—	0.25		
遺SP-25	VI-101	—	T30区	円形	平	0.18	0.17	0.10	0.10	0.35		

※遺SP-4・7は欠番である

表VI-8 B地区焼土一覧

遺構名/柱番号	図	図番	グリッド	確認部位	平面形態	焼土色調		規模 (m)			主な出土遺物	備考	
						色名	マンセル色系	長さ	短径	最大径			
													色名
遺F-5	VI-104	72-1	K11区	Ⅱ	不整形	赤褐色	5YR 4/6	0.07	0.39	0.04			
遺F-6	VI-104	72-2	J18区	Ⅱ	楕円形	明赤褐色	5YR 5/6	0.40	0.34	0.04			
遺F-7	A	VI-105	72-3+4	K19区	Ⅱ	不整形	赤褐色	5YR 4/6	0.32	0.23	0.06		
遺F-7	B	VI-105	72-3+4	J・K19区	Ⅱ	不整形	赤褐色	5YR 4/6	0.46	0.18	0.04	鹿、炭化材	
遺F-8	VI-105	72-5	R27区	Ⅱ	円形	明褐色	2.5YR5/6	0.23	0.32	0.04	割片		
遺F-9	VI-105	—	N19+20区	Ⅱ	楕円形	赤褐色	5YR 4/6	0.26	0.21	0.07			
遺F-10	VI-105	72-6	N20区	Ⅱ	楕円形	褐色	7.5YR 4/6	0.50	0.38	0.06			

表VI-9 B地区土器片集中一覧

遺構名	図	図番	グリッド	確認部位	平面形態	規模 (m)			主な出土遺物
						長さ	短径	最大径	
遺PS-2	VI-2	72-8	X32区	Ⅱ	長楕円形	1.46	0.68	—	VI群土器

表VI-10 B地区礫集中一覧

遺構名	図	図番	グリッド	確認部位	平面形態	規模 (m)			主な出土遺物
						長さ	短径	最大径	
遺S-2	VI-105	72-7	K・L21区	Ⅱ	楕円形	0.82	0.82	—	礫

表VI-11 B地区竖穴住居跡等出土土器等点数表(1)

遺跡名	調査年度	調査者	遺跡 1		遺跡 2		遺跡 3		遺跡 4		遺跡 5		遺跡 6		遺跡 7		遺跡 8		遺跡 9		遺跡 10		遺跡 11		遺跡 12		遺跡 13		遺跡 14		遺跡 15		遺跡 16		遺跡 17					
			数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類	数量	種類		
I 区	I 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
II 区	II 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
III 区	III 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
IV 区	IV 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
V 区	V 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
VI 区	VI 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
VII 区	VII 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
VIII 区	VIII 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
IX 区	IX 区	弥生前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		弥生中期																																						
		弥生后期																																						
		古坟前期																																						
		古坟后期																																						
全地区合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
備考			2	42	2	49	103	150	29	149	20	6	28	280	2	4	7	62	48	174	10	2	267	23	21	253	250	100	68	104	82	80	1	89						

表VI-15 B地区柱状灰小土坑出土石器等重点数表

品名	遺物種別/層位		合計
	遺物種別	層位	
骨	猪骨	遺存状態	1
		灰坑	1
		埋藏物	1
制片石磁器	石磁	灰坑	1
		片	1
合計			5

表VI-16 B地区焼土出土石器等重点数表

品名	遺物種別/層位		合計
	遺物種別	層位	
骨	猪骨	遺存状態	1
		灰坑	1
制片石磁器	制片	灰坑	1
		片	1
合計			4

表VI-18 B地区集集中出土石器等重点数表

品名	遺物種別/層位		合計
	遺物種別	層位	
骨	猪骨	遺存状態	0
		灰坑	0
制片石磁器	制片	灰坑	35
		片	35
合計			35

表VI-17 B地区土器片集中出土土器等重点数表

品名	遺物種別/層位		合計
	遺物種別	層位	
瓦群	口縁部	良好	1
		割断	1
	小底片	良好	0
		割断	1
	胴部	良好	5
		割断	5
	小底片	良好	22
		割断	22
	蓋部	良好	6
		割断	6
小底片	良好	0	
	割断	0	
合計			66

表VI-19 B地区遺構出土土器点数表(水洗選別)

品名	遺物種別/層位		遺構-26		遺構-27		遺構-28		遺構-29		遺構-30		遺構-31		遺構-32		遺構-33		遺構-34		合計			
	遺物種別	層位	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土		
瓦群	胴部	良好	11	0	11	14	0	14	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27	
		割断	11	0	11	14	0	14	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27	
		小底片	11	0	11	14	0	14	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	27	
不明	胴部	良好	0	3	3	0	3	0	3	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		割断	0	3	3	0	3	0	3	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小底片	0	3	3	0	3	0	3	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明合計			0	6	6	0	6	0	6	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			11	6	17	20	14	28	14	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	32	

表VI-20 B地区遺構出土土器等重点数表(水洗選別)

品名	遺物種別/層位		遺構-4		遺構-11		遺構-15		遺構-18		遺構-17		遺構-24		遺構-26		遺構-27		遺構-30		遺構-32		遺構-33		遺構-34		合計	
	遺物種別	層位	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土	遺土	灰土
骨	猪骨	良好	0	6	6	17	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1403
		割断	0	6	6	17	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1403
		小底片	0	6	6	17	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1403
制片石磁器	片	良好	0	9	9	18	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1405
		割断	0	9	9	18	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1405
		小底片	0	9	9	18	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	10	10	1	1	1405
二次加工・修理品及制片			0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			0	24	24	53	5	30	30	5	5	30	30	5	5	30	30	5	5	30	30	5	5	30	30	5	5	1405

VII章 B地区出土の遺物

1. 概要

B地区の調査で出土した遺物は、水洗選別を除いて土器等は8,176点、石器等は20,561点、金属製品が15点で、合計は28,752点である。その内、遺構出土は土器3,960点、石器等8,447点で、合計点数12,407点、包含層出土は土器4,216点、石器等12,114点、金属製品15点で、合計点数は16,345点である。包含層出土の層別では、Ⅱ層で土器等2,575点、石器等8,145点、Ⅲ層では土器1,369点、石器等3,166点と多く、Ⅴ層では土器はなく、石器等は39点で少ない。また、遺構の覆土ないし掘り上げ土と考えられるⅢ層中の土層（「ⅢM層」）では土器98点、石器等629点が出土した。

土器は縄文時代早期～晩期、統縄文時代、擦文文化期のものが出土しており、その中では縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒Ⅱ～Ⅴ式土器（Ⅲ群～Ⅳ群）が5,567点（68.2%）と最も多く、次いで晩期（Ⅴ群）が1,824点（22.3%）、統縄文時代（Ⅵ群）が542点（6.6%）、縄文時代前期（Ⅱ群）152点（1.9%）で、Ⅰ群とⅦ群は少量である。Ⅰ群は東銅路Ⅱ式土器の小破片が出土している。北筒式土器は縄文時代中期後葉～後期前葉の時期に位置付けられており、北筒Ⅱ～Ⅴ式に細別できないものは便宜上Ⅲ～Ⅳ群という分類にした。また、晩期の土器は概ね晩期後葉（Ⅴ群c類）の緑ヶ岡式に相当する。包含層の土器は、摩周テフラより上位のⅢ層等からは縄文時代早期～擦文文化期の土器が出土し、摩周テフラより下位のⅤ層から土器は出土していない。土器の分布は調査区全体に広がり、南東側がやや少ない。また、土製品として焼成粘土塊が15点出土している。

石器等は石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー等の剥片石器や磨製石斧、たたき石、砥石等の礫石器や礫が出土している。今回の調査で出土した定形的な石器の出土点数は、石槍・ナイフが248点と最も多く、次いで砥石が243点、石鏃215点、スクレイパー200点となっている。また、石製品が2点出土している。石材は、剥片石器では黒曜石が最も多く、チャート、頁岩等が少量ある。礫石器では砂岩が最も多く、他に安山岩、泥岩等が少量ある。石器等のほとんどはⅡ・Ⅲ層出土で、Ⅴ層からは石鏃1点、剥片8点と礫30点のみ出土した。石器の分布は、調査範囲全体に広がる。遺構出土の黒曜石製石器21点について産地推定分析を行ったところ、縄文時代晩期の土坑墓ⅢP-29出土の2点の産地については、置戸2点という結果が出た。また、縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒式土器の時期の遺構出土の19点の産地については、置戸12点、土土幌4点、白滝2点、留辺藪1点という結果が出ている。

金属製品は、鉄製品ではマレク2点、釘6点、板状鉄製品4点、棒状鉄製品1点、銅製品では指貫1点と円盤状銅製品1点が主にⅡ層から出土した。

2. 土器

(1) 遺構出土の土器（図Ⅶ-1～21）

遺構から出土した土器の点数は3,960点である。土器の出土層位は、覆土が多く、床面や坑底からの出土はごく少量である。分類別では縄文時代早期（Ⅰ群）～統縄文時代（Ⅵ群）までであるが、多くの遺構の時期がⅢ～Ⅳ群の北筒式土器であるため、土器もこの時期が最も多く、他は少量である。北筒式土器は、北筒Ⅱ～Ⅴ式が出土し、復元個体は39個体得られた。また、ⅡP S-2からはⅥ群（統

縄文土器)が1個体分出土している。

ⅡPS-2 (図Ⅶ-1)

ⅠはⅥ群土器の深鉢である。ほぼ完形で、胴下半部は器面の剥離が多い。器形は、底部がやや張り出し、胴部から口縁部にかけて直線的に広がる器形である。文様は、口唇部に刻みが施され、口縁部上端には横位の隆帯が施され、隆帯上には刺突文が付けられる。口縁部から胴上半部にかけて横位、縦位の帯縄文が施され、帯縄文の間には刺突文が連続的に施される。

ⅢH-4 (図Ⅶ-16)

40はⅣ群a類、北筒V式土器である。ⅢH-4床面直上、覆土と、N20区Ⅱ・Ⅲ層出土のものが接合した。胴部から口縁部にかけてやや広がる器形で、口縁部には円形刺突文が施され、地文の縄文は内面にもみられる。

ⅢH-6 (図Ⅶ-2・16)

2は復元土器、41~43は破片土器である。41はⅠ群b類で、ⅢH-6とⅢH-13の覆土出土のものが接合した。胴部で文様は横位の摺糸文が施される。2・42・43はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類土器の深鉢である。2と43は同一個体で、2は底部、43は胴部である。2は床面とⅢH-13覆土、43は床面と覆土出土のものが接合した。地文の斜行縄文と、角形の刺突文が縦位と横位に施される。底部はやや張り出し、刺突文が施される。胎土には繊維を含む。42は口縁部で、肥厚帯には山形突起がみられ、肥厚帯下位には円形刺突文が施される。また、内面にも斜行縄文が施される。

ⅢH-8 (図Ⅶ-2・3・16)

3~7は復元土器、44~50は破片土器で、全て覆土もしくは周辺包含層出土の土器と接合したものである。3~7・44・45はⅣ群a類の深鉢で、3・5・7は北筒V式、6・45は北筒Ⅳ式、44は北筒Ⅱ式である。3は底部がやや張り出し、口縁部にかけて少し開く細長い器形である。文様は口縁部に円形刺突文が施され、縄文は底面にも施される。4は小型土器で、口縁部に円形刺突文が施され、胴部に一部斜行縄文がみられる。5は底部がやや上げ底で、口縁部にかけて直線的に広がる器形である。口縁部に小型の円形刺突文が施され、底面にも縄文が施される。6は山形の突起が施され、突起には縦位の縄側面圧痕文が施される。肥厚帯上とその下の上下2段に円形刺突文が施される。7は底部を欠失し、頸部がややくびれる器形である。文様は地文の縄文と円形刺突文が施される。44・45は低い山形突起がみられ、口縁部には円形刺突文が施される。44の口唇部には押し文、45には縄文が施される。46~48・50はⅤ群c類の深鉢である。46~48は深鉢の口縁部で、46は口唇部に丸棒状工具の押圧が、47は縄端圧痕文が施される。48は横位の縄線文が施される。50は浅鉢の口縁部で、太い沈線が区画され、中には細い横位の沈線が密に施される。49はⅡ群a類の深鉢で、摺糸文が施される。

ⅢH-9 (図Ⅶ-17)

51は覆土出土のⅣ群a類、北筒V式土器の深鉢である。内外面に斜行縄文が施され、口縁部に円形刺突文が施される。また、口唇部にも縄文が施される。

ⅢH-11 (図Ⅶ-3・17)

8・9は床面で確認された埋設土器で、52は覆土出土の破片土器である。8・9はⅣ群a類で、8は北筒Ⅲ式、9は北筒Ⅲ~Ⅳ式、52はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類の深鉢である。8・9はどちらも胴部下半~底部を欠く。8は埋設土器1である。肥厚帯には棒状突起が4か所付けられ、突起部には上から円形刺突文が施される。肥厚帯下位には無文帯があり、円形刺突文が施され、その下位が溝状に短く伸びる。地文は複線の斜行縄文である。9は埋設土器2である。胴部から口縁部にかけて直線的に少し広がる器形である。肥厚帯がみられず、口縁部下位に無文帯が設けられ、円形刺突文が施

される。地文は単節の斜行縄文である。52は覆土出土である。肥厚帯には押し文がみられ、内外面には斜行縄文が施される。胎土には繊維を含む。

ⅢH-12 (図Ⅶ-4)

10・11は復元土器で、共にⅣ群a類土器の深鉢である。10は北筒Ⅳ式土器で、床面、覆土とⅢH-4・13等の他の遺構や周辺包含層と接合した。口縁-胴部で胴部がわずかに影らむ器形である。山形突起が付けられ、下位には2本1組の棒状突起が施される。肥厚帯はなく、円形刺突文が施される。口縁部内面にも縄文が施される。11は床面出土の北筒Ⅴ式土器で、胴下半部を欠失する。器形は胴部から口縁部にかけて緩やかに広がり、口縁部はやや外反する。文様は地文の斜行縄文と口縁部の円形刺突文のみである。

ⅢH-14 (図Ⅶ-5・17)

12・13・54はⅣ群a類土器の深鉢で、12は北筒Ⅴ式、13は北筒Ⅲ～Ⅳ式、54は北筒Ⅲ～Ⅴ式である。12は覆土出土で、底部を欠失する。器形は胴部から口縁部にかけて直線的に開く。地文の縄文は口縁部内面にも施される。13は底部で、底径の小さいものである。文様は熱糸文が施される。54は底部で、外面と底面に縄文が施される。53はⅡ群a類土器で、覆土とⅢH-40床面出土のものが接合した。文様は上位に横位の押し文、下位に横位の熱糸文が施され、内面はミガキで調整される。

ⅢH-15 (図Ⅶ-17)

55～59はⅣ群a類で、全て北筒Ⅴ式の深鉢口縁部である。55は覆土、56は床面と覆土、57は床面、58・59は覆土出土である。55・57～59は口縁部で、縄文が内外面に施され、円形刺突文が施される。56は口縁部-胴部で、胴部がやや影らむ器形である。口縁部には円形刺突文が施される。58の円形刺突文は小型で、胎土には繊維を含む。

ⅢH-16 (図Ⅶ-5・17)

14は覆土出土のⅣ群a類、北筒Ⅳ式土器である。深鉢で、底部はやや張り出し、口縁部にかけて直線的に大きく開く器形で、山形と考えられる突起が付けられる。口縁部には横位の無文帯が設けられ、無文帯の上位には円形刺突文が施される。60は覆土出土のⅤ群c類土器である。口縁部で下位に段がみられ、段には棒状工具による押圧が施される。

ⅢH-17 (図Ⅶ-6)

15はⅣ群a類、北筒Ⅱ式トコロ6類の深鉢である。覆土とS27区Ⅱ・Ⅲ層出土のものが接合した。器形は胴部から直線的に開き、口縁部はやや外反する。小型の突起が多数付けられ、口縁部は小波状を呈する。突起部には上から細い刺突文が施される。肥厚帯は幅が狭く、下位には円形刺突文が施される。胎土には繊維を含む。

ⅢH-19 (図Ⅶ-18)

65は覆土出土のⅣ群a類、北筒Ⅴ式である。胴部から口縁部へ直線的に立ち上がる器形の深鉢で、文様は口縁部に円形刺突文が、外面全体と口縁部内面に斜行縄文が施される。

ⅢH-20 (図Ⅶ-17)

61は覆土出土のⅡ群a類土器である。小型で横・縦位に斜格子状の押し文が施される。

ⅢH-21 (図Ⅶ-17)

62は覆土出土のⅣ群a類、北筒Ⅴ式土器である。深鉢で、口縁部に円形刺突文が巡り、斜行縄文が内外面に施される。

ⅢH-22 (図Ⅶ-6・17)

16はV群土器で、覆土とL19区出土のものが接合した。底部は上げ底で、底部から胴部中位まではやや開き、中位から口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部と底部に爪形状の刻みが連続的に施される。地文の縄文は非常に細かく、横位に施される。63は覆土出土のV群c類土器である。深鉢の口縁部で上位と下位に横位の沈線文が施され、下位の沈線は短く破綻状に施される。

ⅢH-23 (図Ⅶ-6・17)

17・64は深鉢で、覆土と周辺包含層出土のものが接合した。17はIV群a類、北筒V式である。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけてごく緩く湾曲して開く器形である。文様は地文の縄文と、口縁部の円形刺突文が施される。64は小型のⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類である。山形突起が付けられ、口縁部はやや肥厚する。口唇部には押し文、口縁部には円形刺突文が施される。

ⅢH-24 (図Ⅶ-7・8・18)

18~22は復元土器、66~69は破片土器で、全て深鉢である。18~21はIV群a類、22はVI群である。18は北筒Ⅳ式で、床面と覆土出土のものが接合した。底部を欠失し、口縁~胴部は全体の約1/3が残存している。器壁が厚く最大約2cmを測る。山形突起が付けられ、口縁部には小型の円形刺突文が深く施されている。地文の縄文は部分的に縦走気味になる。19は北筒V式で、床面とⅢH-27・36覆土出土のものが接合した。破片の大部分は床面出土である。器形は胴部から口縁部にかけて直線的に広がる。文様は口縁部の円形刺突文と地文の斜行縄文である。20は北筒Ⅲ式で、床面、覆土とⅢH-34・41覆土出土のものが接合した。器形は底部からほぼ直線的に開き、底部はやや上げ底である。文様は複節の斜行縄文が羽状に施される。21は北筒V式で、底部を欠失する。胴部から口縁部にかけてほぼ直線的に開く器形で、地文は斜行縄文で、口縁部には円形刺突文が施される。22はVI群土器で、覆土とⅢH-31、周辺包含層出土のものが接合した。口唇部に山形の突起が付けられ、突起の下位には貼付が施される。口縁~胴上半部にかけて、横・縦・斜位の隆線文が施され、隆線間には2本1組の細い縄線文が密につけられる。胴下半部には単節の縄文が横位に施される。また、口縁部内面には縄文が突起部では縦位、他は横位に施される。66・67・69はIV群a類の口縁部、68はVI群の胴部である。

ⅢH-25 (図Ⅶ-9・18)

23・24はVI群土器である。23は覆土とP24区出土のものが接合した。小型の無文土器で波状口縁を呈する。24は胴部で覆土出土である。斜行縄文と縦位の撚糸文が施され、部分的に刺突文が加えられる。70はV群c類土器で覆土から出土した。口唇部と口縁部に縄文が施され、口唇部には縄端圧痕文も付けられる。

ⅢH-26 (図Ⅶ-9・10・18・19)

25~27は復元土器、71~77は破片土器で、全て深鉢である。25はIV群a類、北筒Ⅱ式トコロ6類である。床面、覆土、ⅢH-28覆土、P24・25区出土のものが接合した。底部を欠失し、胴部から直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。多数の山形突起がみられ、肥厚帯の下位には円形刺突文が施される。26はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類で、床面出土の小型土器である。肥厚帯が施され、その下位には円形刺突文が施される。27はIV群a類、北筒Ⅲ式で、覆土出土である。底部で、複節の斜縄文が施される。71はⅢ群b類~IV群a類、北筒Ⅱ式トコロ6類で、覆土出土である。肥厚帯の下位に円形刺突文が巡り、内面にも斜行縄文が施される。72~74はIV群a類である。72は北筒V式で、円形刺突文と内外面に斜行縄文が施される。73・74は北筒Ⅲ式で、73は覆土とⅢH-38覆土出土のものが接合した。肥厚帯の下に無文帯が設けられ、地文は複節の斜行縄文が施される。74は

覆土出土で、幅のある肥厚帯の下位に無文帯が設けられ、無文帯には円形刺突文が施される。地文は複節の斜行縄文である。75はⅡ群a類で、器壁が厚く、文様は横～斜位の燃糸文が施される。76・77はⅢ群b類～Ⅳ群a類で、76は覆土出土の胴部で、円形刺突文と縄側面圧痕文が施される。内面には斜行縄文が施される。77は覆土出土の底部で、縦位の沈線文が描かれ、底面には縄文が施される。

ⅢH-27 (図Ⅶ-10・11)

28～31は復元土器で、28はⅥ群、29・30はⅣ群a類、31はⅤ群c類土器である。28は覆土と周辺包含層出土のものが接合した。小型で底部を欠失し、胴部が膨らむ器形である。口唇部に小突起が複数付けられ、突起頂部には刻みが施される。口縁部には浅い沈線文、細い縄線文、刺突文による文様が施される。29は北筒Ⅳ式で、床面直上と覆土出土のものが接合した。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけて直線的に開く器形である。山形突起が付けられ、幅の狭い肥厚帯が巡る。地文は複節の斜縄文である。30は北筒Ⅴ式で、覆土とⅢH-36、ⅢP-11覆土出土のものが接合した。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけて直線的に開く器形である。口縁部に円形刺突文が施され、地文は単節の斜行縄文である。また、内面にも縄文が施される。31はⅤ群c類で、覆土とⅢH-36覆土、周辺包含層出土のものが接合した。深鉢で、器形は底部から緩やかに屈曲しながら立ち上がり、口縁部はほぼ垂直になる。口縁部と胴部の間に段があり、段には刺突文が施される。また、黒色付着物が全体的にみられる(実測図網掛け部分)。

ⅢH-31 (図Ⅶ-11・19)

32・78はⅣ群a類の深鉢である。32はHP-10覆土から出土した北筒Ⅴ式である。口縁部を欠失し、底部はやや上げ底である。地文は単節の斜行縄文が施される。78は覆土出土の北筒Ⅲ式土器である。地文は複節縄文で、間に無文帯を設け円形刺突文が施され、下位には縦位の細い沈線が施される。

ⅢH-36 (図Ⅶ-11・19)

33・79・80はⅣ群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。33は復元土器で、覆土とN21区Ⅲ層出土のものが接合した。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけて直線的に開く器形である。肥厚帯に棒状突起が施される。79・80は破片土器の口縁部で、79は肥厚帯の下位に無文帯が設けられ、無文帯に円形刺突文が施される。地文は複節縄文である。80は口唇部を欠き、無文帯に円形刺突文と縄側面圧痕文が施される。

ⅢH-40 (図Ⅶ-19)

81・82は覆土出土のⅢ群b類～Ⅳ群a類である。81は口縁部で、円形刺突文が施される。地文の斜行縄文は内面にも施される。82は大型の底部で、底部端に押し引き状の刻みが施される。また、底面にも縄文が施される。

ⅢH-41 (図Ⅶ-19)

83は覆土出土のⅣ群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。口縁部で、棒状突起が付けられ、全体に斜行縄文が施される。

ⅢH-42 (図Ⅶ-12)

34はⅣ群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。覆土出土とⅢMH-1、周辺包含層出土のものが接合した。肥厚帯には棒状突起が3か所付けられ、複節の斜行縄文が施される。棒状突起には縄側面圧痕文がつけられる。肥厚帯下位の無文帯には円形刺突文がみられ、円形刺突文から下位に沈線が施される。地文は複節の斜行縄文が羽状に施される。

ⅢH-43 (図Ⅶ-20)

84・85はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トロコ6類の深鉢である。84は覆土出土の口縁部で、幅の狭い肥厚

帯には押引文が施され、下位には円形刺突文が巡る。内面には斜行縄文が施される。85は口縁～胴部で小さい山形突起がみられる。肥厚帯の断面は三角形で、縄文が施される。外側の器面は大部分が剥離し部分的に斜行縄文がみられる。内面の口縁部にも斜行縄文が施される。胎土に繊維を含む。

ⅢMH-1 (図Ⅶ-20)

86はⅡ群a類で、HM層出土である。口縁部の突起で、縦位の沈線が施される。87～89はⅣ群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。87は底部で、覆土、HM層、ⅢH-24出土のものが接合した。複節の斜縄文が施される。88はM下層出土で、肥厚帯の下位に無文帯が設けられ、円形刺突文が横位と縦位に施される。89はM下層、ⅢP-19、周辺包含層出土のものが接合した。肥厚帯には棒状突起が付けられ、下位の無文帯には円形刺突文が施される。円形刺突文の間には溝状の沈線文が縦位に施される。

ⅢP-5 (図Ⅶ-21)

90は覆土出土のⅠ群b類である。胴部で、捺糸文が施される。

ⅢP-6 (図Ⅶ-12・21)

35・92はⅣ群a類、91・93はⅤ群c類の口縁部である。35は北筒Ⅴ式で、坑底、覆土出土のものが接合した。底部はやや上げ底で、底部から口縁部まで直線的にやや開く器形である。口縁部上端は無文帯で、小型の円形刺突文より下位に斜行縄文が施される。92は北筒Ⅲ式で、下位に無文帯がみられ、縦位の縄側面圧痕文が施される。91は横位の縄線文が施される。93は口唇部に刻みが施され、下位には刺突文が付けられた段がある。

ⅢP-7 (図Ⅶ-21)

94はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類の口縁～胴部である。覆土とP28区Ⅱ層出土のものが接合した。押引文が肥厚帯と口縁部内面に施される。胎土には繊維を含む。

ⅢP-8 (図Ⅶ-21)

95はⅤ群c類の深鉢の口縁部で、横位の綾絡文が施される。96はⅣ群a類、北筒Ⅲ式の胴部で、無文帯に縄側面圧痕文が施される。

ⅢP-9 (図Ⅶ-13・21)

36はⅤ群c類の深鉢で、覆土、ⅢH-8覆土、周辺包含層出土のものが接合した。口唇部と口縁部上端に刻みが施され、口縁部下位には段が付けられる。段には縄側面圧痕文が施される。97は覆土出土のⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類の口縁部である。肥厚帯の下位には円形刺突文が施され、内面にも斜行縄文が施される。98・99は覆土出土のⅤ群c類の口縁部で、98は横位の縄線文が施される。99は地文に縦位の縄文が施され、口唇部に縄端圧痕が付けられる。

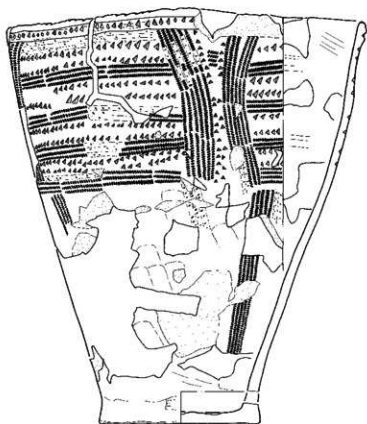
ⅢP-10 (図Ⅶ-14)

38は覆土出土のⅣ群a類土器、北筒Ⅲ式の深鉢である。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる器形である。肥厚帯には棒状突起が5か所付けられ、突起には縄側面圧痕文が施される。肥厚帯直下の無文帯は上下を横位の縄線文で区画され、突起下の位置には縦位の縄側面圧痕文が施される。地文は単節の斜行縄文が施される。

ⅢP-13 (図Ⅶ-13・21)

37はⅢ群b類、北筒Ⅱ式トコロ6類の深鉢である。覆土、ⅢH-8覆土、周辺包含層出土のものが接合した。底部を欠失し、胴部から口縁部にかけてほぼ直線的に開く器形である。山形突起が肥厚帯に多数付けられ、突起には刻みが施される。突起の少なくとも2か所については、突起下に「↑」状の貼付が縦位に施される。矢印の基部側は二股にわかれており、肥厚帯の突起を含めてみると人型を意匠としている可能性もある。100・101は覆土出土の口縁部である。100はⅢ群b類～Ⅳ群a類で肥

Ⅱ PS-2

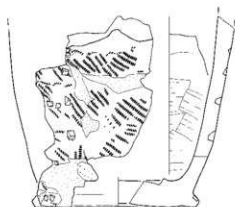


1



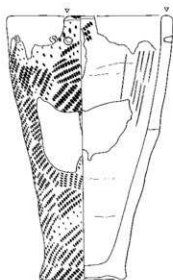
図Ⅵ-1 B地区遺構出土の土器(1)

ⅢH-6



2

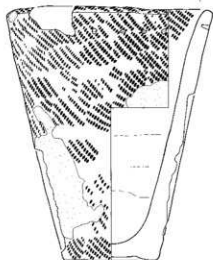
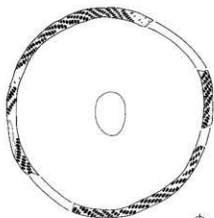
ⅢH-8



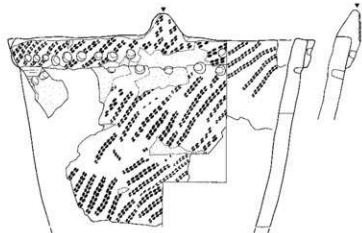
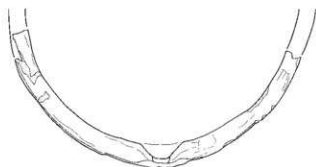
3



4



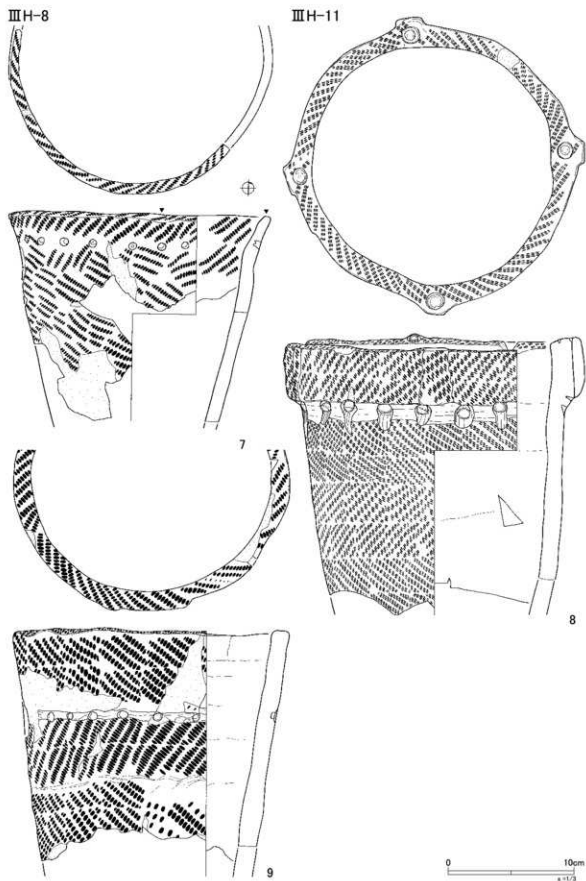
5



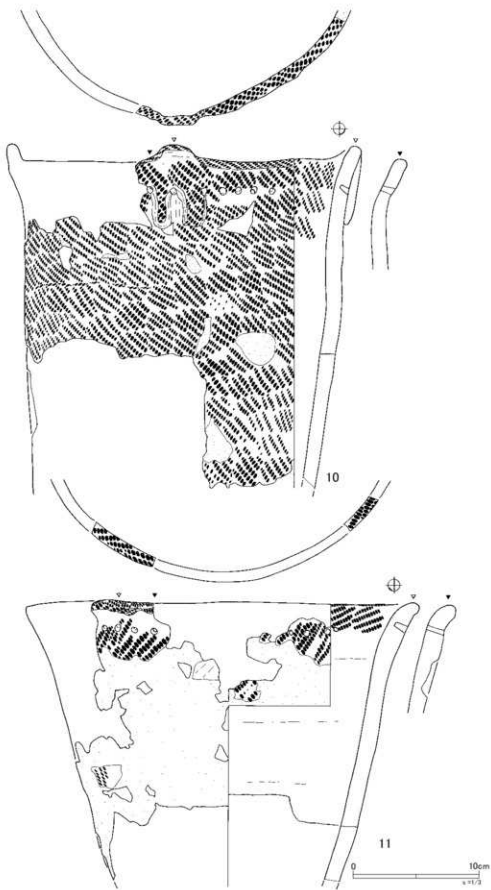
6



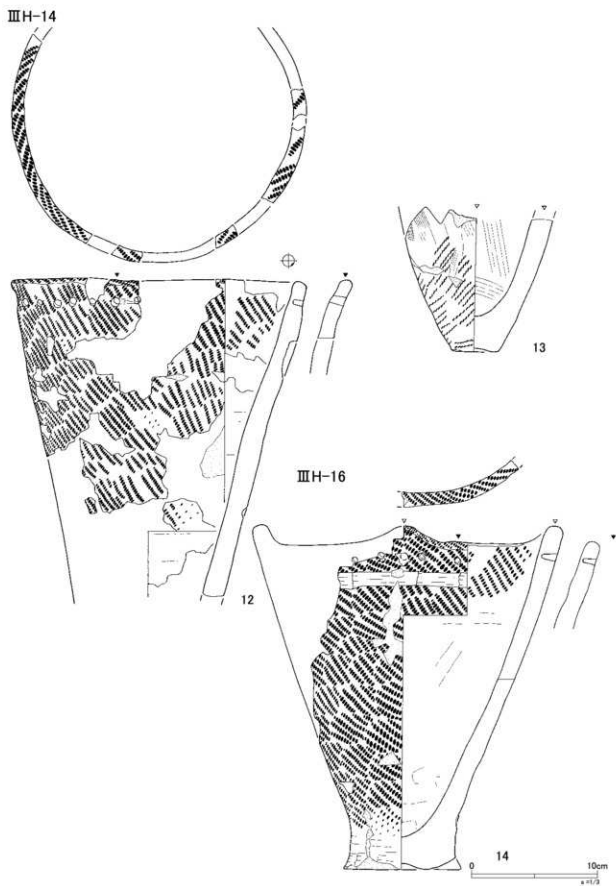
図Ⅵ-2 B地区遺構出土の土器(2)



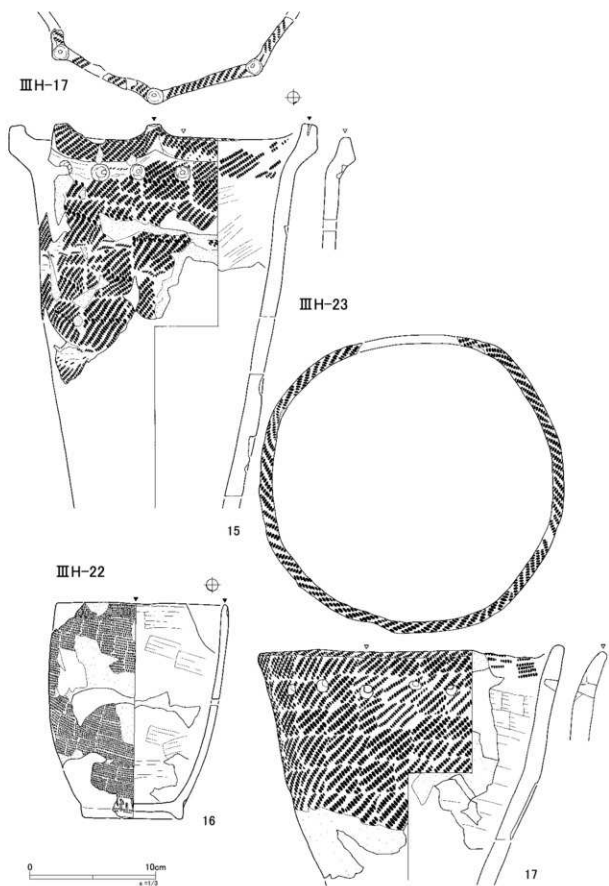
図Ⅵ-3 B地区遺構出土の土器(3)



図Ⅵ-4 B地区遺構出土の土器(4)

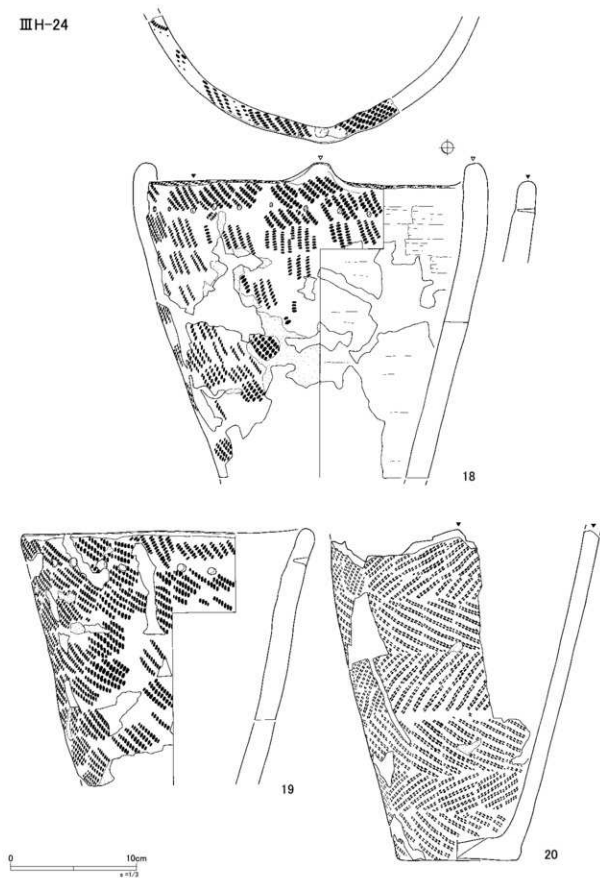


図Ⅵ-5 B地区遺構出土の土器(5)



図VI-6 B地区遺構出土の土器(6)

ⅢH-24



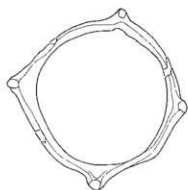
図Ⅵ-7 B地区遺構出土の土器(7)

ⅢH-24

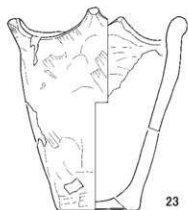


図Ⅵ-8 B地区遺構出土の土器(8)

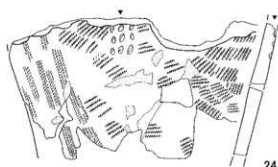
ⅢH-25



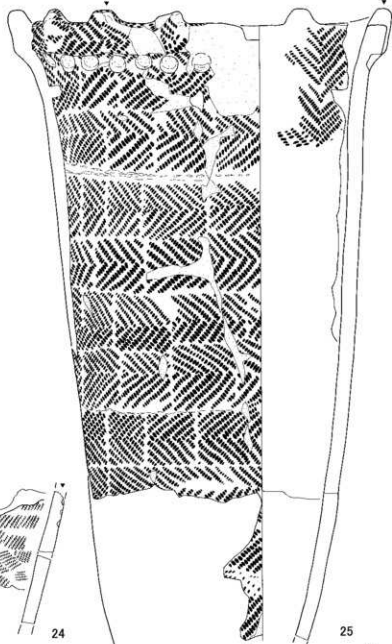
ⅢH-26



23



24

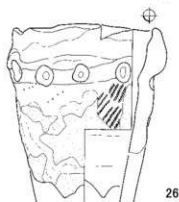


25

0 10cm
*1/2

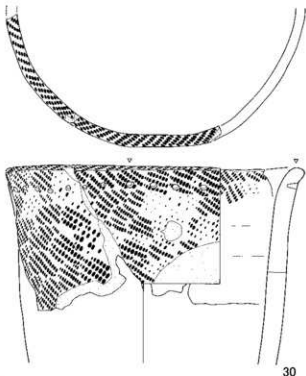
図Ⅵ-9 B地区遺構出土の土器(9)

ⅢH-26

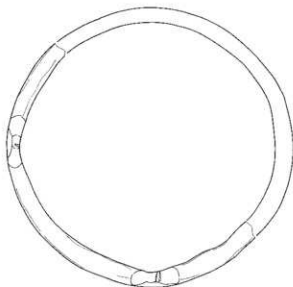


26

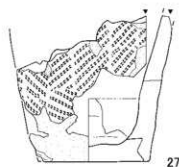
ⅢH-27



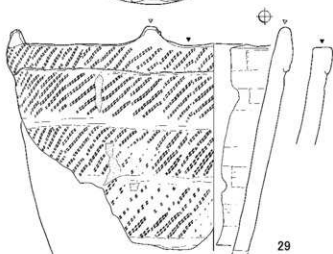
30



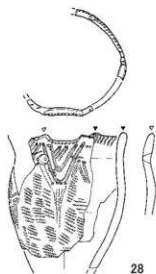
ⅢH-26



27



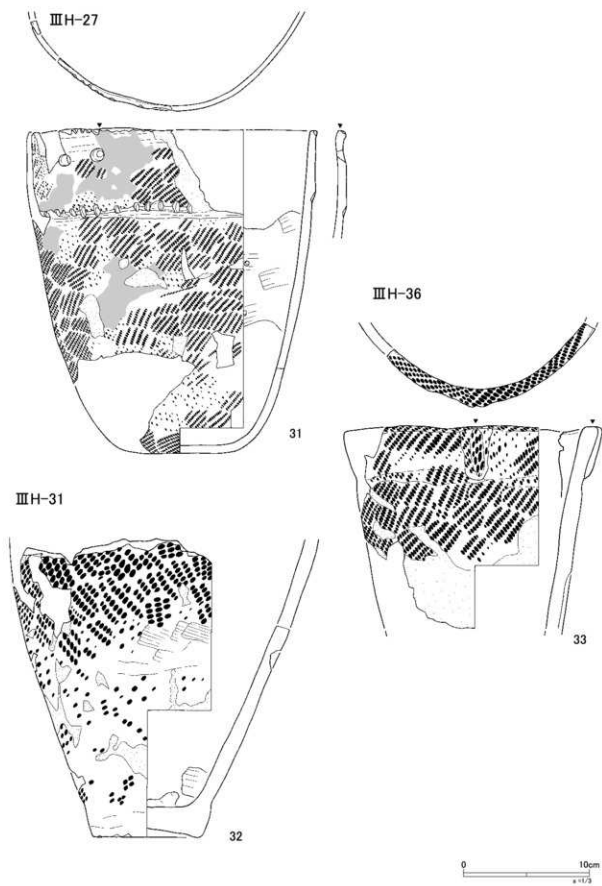
29



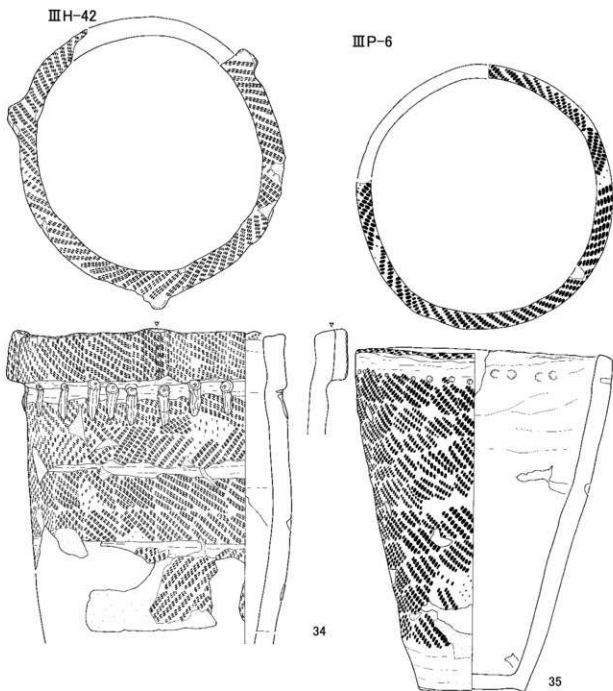
28



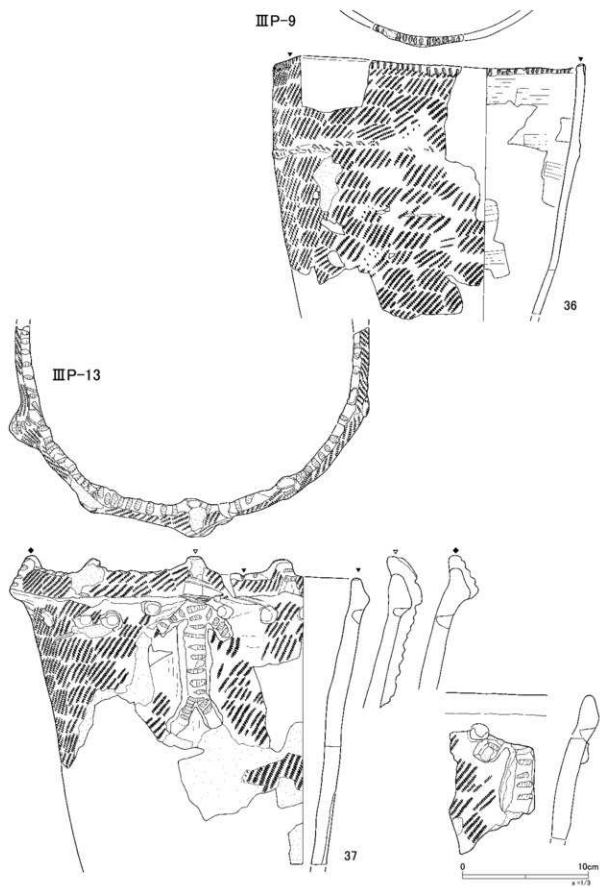
図Ⅶ-10 B地区遺構出土の土器(10)



図Ⅶ-11 B地区遺構出土の土器(11)

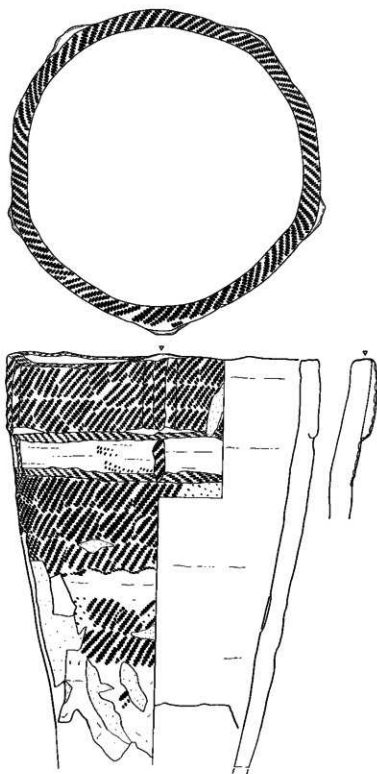


図Ⅶ-12 B地区遺構出土の土器(12)



図Ⅵ-13 B地区遺構出土の土器(13)

III P-10

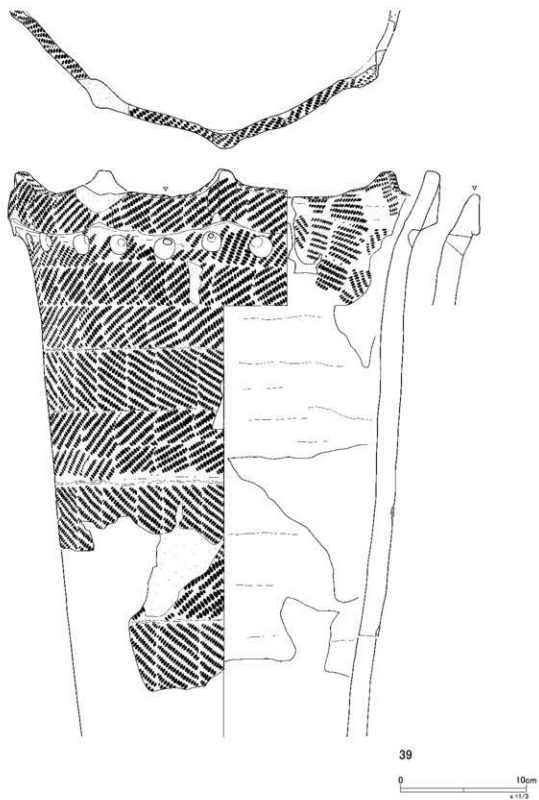


38

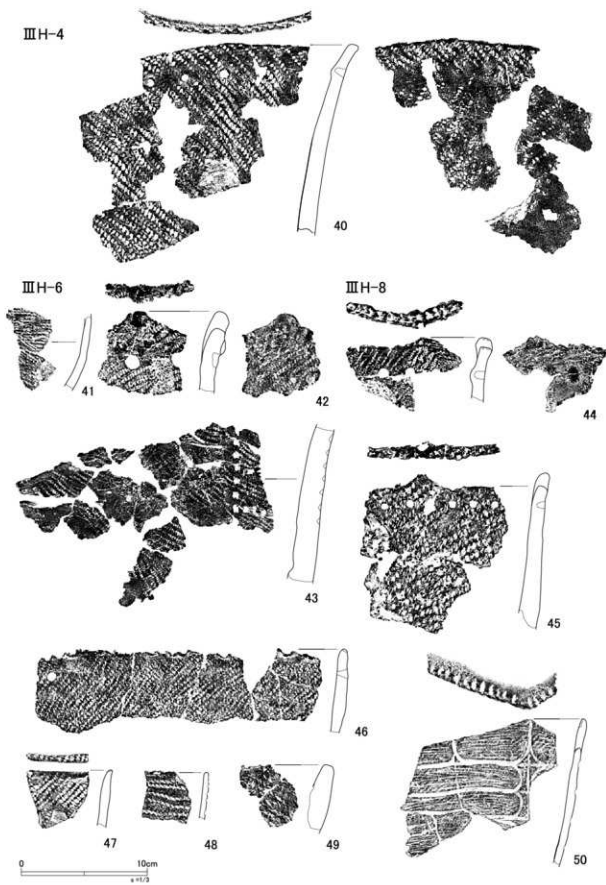


図VI-14 B地区遺構出土の土器(14)

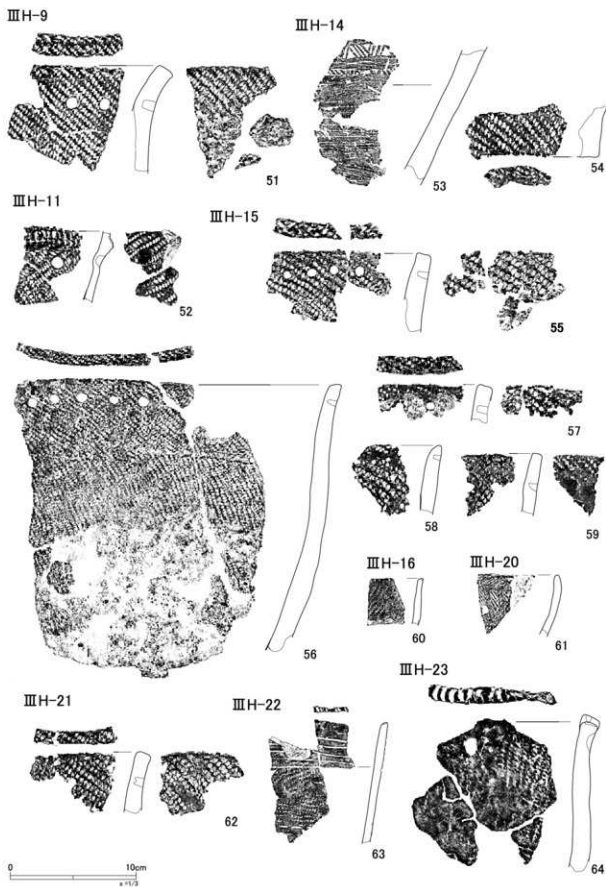
ⅢP-16



図Ⅵ-15 B地区遺構出土の土器(15)

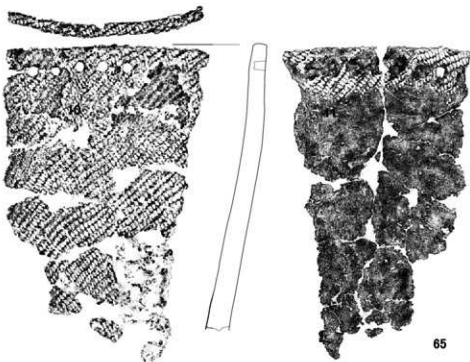


図Ⅶ-16 B地区遺構出土の土器(16)

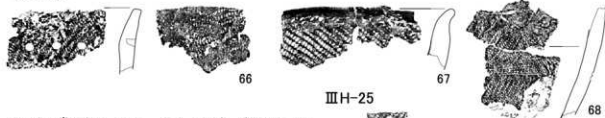


図Ⅶ-17 B地区遺構出土の土器(17)

ⅢH-19



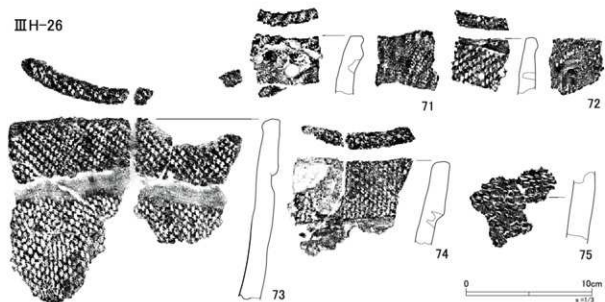
ⅢH-24



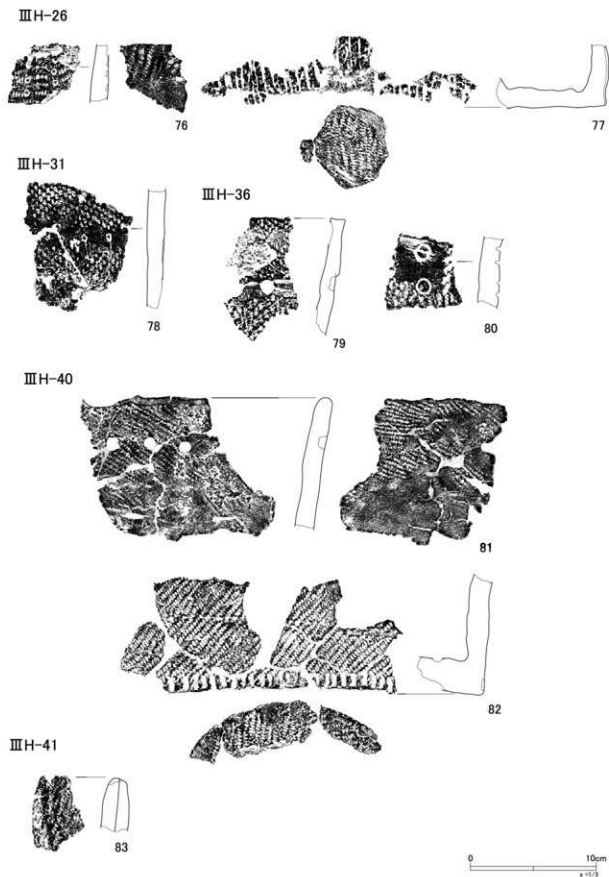
ⅢH-25



ⅢH-26

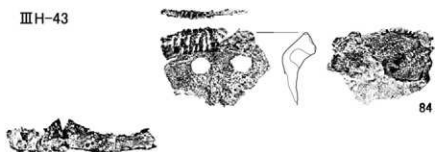


図Ⅶ-18 B地区遺構出土の土器(18)

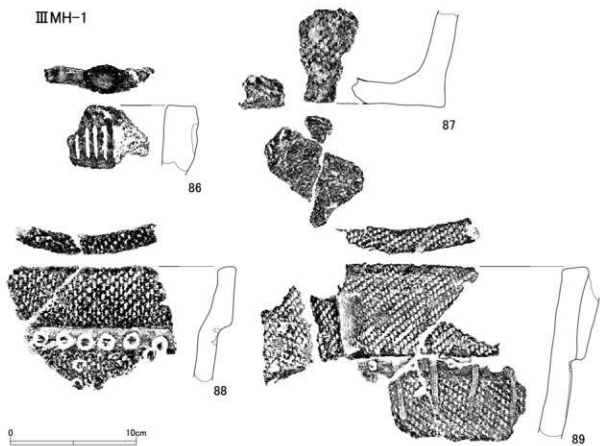


図Ⅶ-19 B地区遺構出土の土器(19)

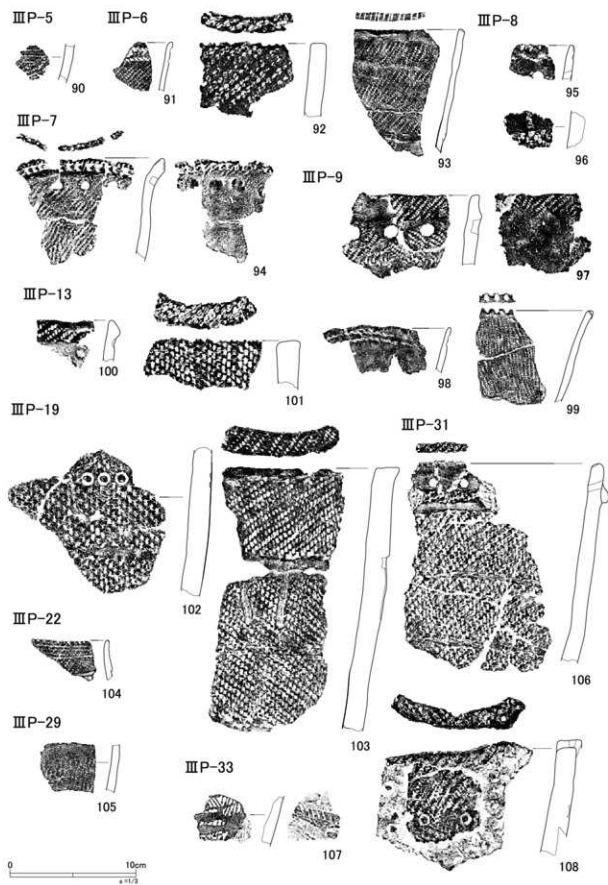
ⅢH-43



ⅢMH-1



図Ⅶ-20 B地区遺構出土の土器(20)



図Ⅶ-21 B地区遺構出土の土器(21)

厚帯の下位には円形刺突文が施される。101はIV群a類、北筒Ⅲ式である。破片のため不明だが、口縁部の肥厚帯と考えられる。肥厚帯と口唇部には複節の縄文が施される。

ⅢP-16 (図Ⅶ-15)

39はIV群a類の深鉢である。覆土、ⅢH-8・15・21・26と周辺包含層出土のものが接合した。底部を欠失し、胴下半部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がり、口縁部はやや外反する器形である。山形突起が多数付けられ、突起下は肥厚帯に厚みがある。肥厚帯直下には円形刺突文が施される。地文は斜行縄文が羽状に施され、口縁部内面にも斜縄文が施される。

ⅢP-19 (図Ⅶ-21)

102・103はIV群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。102は覆土出土の胴部で、外面に円形刺突文と複節の斜行縄文が施される。103は口縁～胴部で、覆土とL16区Ⅲ層出土のものが接合した。肥厚帯の直下に無文帯が設けられ、無文帯には円形刺突文が施される。地文は複節の斜行縄文である。

ⅢP-22 (図Ⅶ-21)

104は覆土出土のV群c類土器である。舟形土器の口縁部で、横位の縄文、斜行縄文が施され、下位には段がある。

ⅢP-29 (図Ⅶ-21)

105は坑底直上出土のV群c類土器である。深鉢の胴部で、斜行縄文が施される。

ⅢP-31 (図Ⅶ-21)

106は覆土出土のIV群a類、北筒Ⅲ式土器である。深鉢の口縁部～胴部で、口縁部には複節の縄文が施された横位の隆帯が回り、その上位には、円形刺突文、縄側面瓦痕文が施される。

ⅢP-33 (図Ⅶ-21)

107・108は覆土出土のものである。107はⅡ群a類土器の深鉢である。横位の押型文が施され、内面は、器面全体が剥離している。108はIV群a類、北筒Ⅲ式の深鉢である。小さな山形突起が付けられ、口唇部には複節の縄文と刺突文が施される。肥厚帯と考えられる口縁部には単節の斜行縄文と円形刺突文が施される。

(2) 包含層出土の土器 (図Ⅶ-22～27)

包含層からは土器等が4,216点出土した。分類別では、縄文時代早期(Ⅰ群)13点、同前期(Ⅱ群)70点、同中期～後期(Ⅲ群～Ⅳ群)2,383点、同晩期(V群)1,407点、続縄文時代(Ⅵ群)294点、擦文文化期(Ⅶ群)5点である。縄文時代早期の土器は、図示していないが東銅路Ⅱ式土器と考えられる。出土層位は本来的な層位であるV層ではなく、Ⅲ層から出土している。これは、自然の営力または多数の遺構の構築による可能性がある。また、土製品として焼成粘土塊が7点出土している。

1・2は復元土器である。1はⅢ群b類～Ⅳ群a類、北筒Ⅱ式である。小型の深鉢で、全体的にやや歪んだ器形である。口縁部に円形刺突文が施され、地文は単節の斜行縄文である。胎土に繊維を含む。2はV群c類土器の深鉢である。底部を欠失し、口縁部から胴部には斜行～横位の縄文が施される。内面には横位の条痕文が加えられる。

3～56は破片土器である。3は縄文時代前期前半(Ⅱ群a類)の深鉢で、ⅢH-14の53、ⅢP-33の107と同一個体である。横位の押型文により三角形と斜格子の組み合わせの文様が施される。胎土には繊維が含まれる。

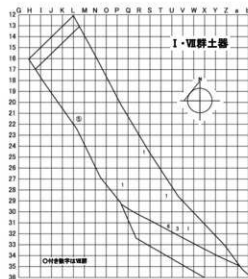
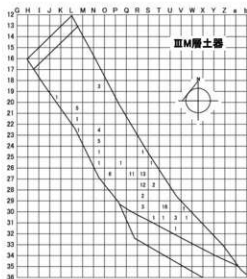
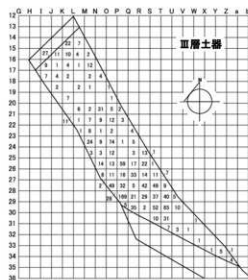
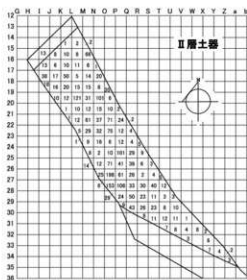
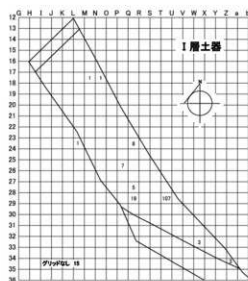
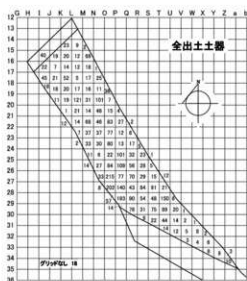
4～29は縄文時代中期後葉～後期前葉(Ⅲ群b類～Ⅳ群a類)、北筒Ⅱ～Ⅴ式土器である。トコロ6類の古段階をⅢ群b類、新段階から北筒Ⅴ式までをⅣ群a類とする。4～6はⅢ群b類、北筒Ⅱ式

トコロ6類古段階の口縁部で、文様は肥厚帯もしくは口唇部に押引文、口縁部に円形刺突文が施される。4・6は肥厚帯が巡り、肥厚帯には押引文が施される。4は口縁～胴部で胴部には結束の羽状縄文が施される。5は口縁部がやや肥厚し、口唇部には押引文が施される。6は内面にも斜行縄文が施される。7～25はIV群a類の口縁部である。7～9はトコロ6類新段階で、小さい山形突起が多数付けられ、肥厚帯には縦位の沈線が施され、肥厚帯の下位には円形刺突文が加えられる。7は山形突起の頂部に刺突文が施され、内面にも縄文が施される。9は口唇部にも縄文が施される。10は肥厚帯に突起状の部分がみられ、肥厚帯下位には円形刺突文が施される。また、内面にも斜行縄文が施される。トコロ6類古段階の可能性もある。11～18は北筒Ⅲ式である。11～14は口縁部で、肥厚帯がみられ、その下位の無文帯に円形刺突文が施される。地文の縄文は13が単節、他は複節である。11～13は肥厚帯上に縦位の棒状突起が付けられ、棒状突起には縄側面圧痕文が施される。11は棒状突起上面に円形刺突文が施される。また、口縁部の円形刺突文から溝状の短い沈線が伸びる。15～18は口縁～胴部で、15～17は11同様、円形刺突文から下位に沈線が伸びる。18は無文帯に縄側面圧痕文が施される。19は北筒Ⅲ～Ⅳ式の口縁部である。肥厚帯はなく、口縁部の内外面に網目状撚糸文が施される。その下位には小型の円形刺突文、単節の斜行縄文が施される。20は北筒Ⅳ式の口縁～胴部である。ごく小さい山形突起が付けられ、幅の狭い肥厚帯が施される。地文は単節の斜行縄文である。21～25は北筒Ⅴ式の口縁部である。21～23は円形刺突文が施されるもので、地文は単節の斜行縄文である。21・23は内面にも斜行縄文が施される。24・25は地文の単節縄文のみが施される。26・27は北筒Ⅱ～Ⅲ式の胴部で、26は押引文が施される。27は内面に横～斜位の沈線文が施される。28・29は北筒Ⅱ式の底部で、共にやや張り出す器形である。28は底部端に刺突文、底面に縄文が施される。

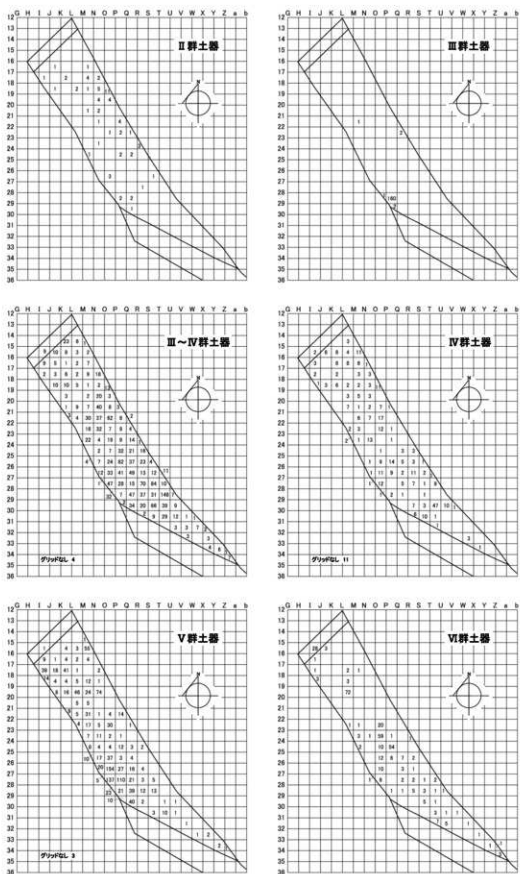
30～45は縄文時代晩期後葉（V群c類）、緑ヶ岡式土器である。30～34は深鉢の口縁部である。30～32は横位の縄文が施され、30は下位に段がみられ、段には縄端圧痕文が施される。33・34は口縁部に縄文のみ施されるもので、口唇部には33が縄文、34は縄端圧痕文が施される。35～37・40は浅鉢の口縁部で、35は沈線文、刺突文、36は刺突文による文様が施される。37は段があり、段には縄端圧痕文が加えられる。内面には横位の縄文が施される。40は横位の綾線文が施される。38・39は舟形土器の口縁部である。38は横位の沈線文が施され、下位には段がある。段には刺突文が施される。39は小突起が付けられ、小突起には刺突文が加えられる。器形は湾曲し、胴部との間に明瞭な段がある。小突起周辺と段から下位には部分的に縄文が施される。41～44は底部である。41・42は底面から丸みをおびながら立ち上がる器形で、41は底面にも縄文が施される。43はやや上げ底である。44は高台様の貼付が施される。45は小型土器で、口縁部を欠失する。無文である。

46～54は統縄文時代（VI群）で、下田ノ沢Ⅰ～Ⅱ式土器である。46～51は口縁部である。46は下田ノ沢Ⅰ式で、突瘤文、貼付文が施され、貼付文には縄側面圧痕文が付けられる。47～51は下田ノ沢Ⅱ式に相当する。47・48は突起が付けられ、内外面に縄文が施される。48は突起下に棒状の貼付文が施される。49は口唇部と口縁部上位に縄文が施され、下位には2本1組の細い縄線文が縦位に施される。50は47・48と同様の突起が付けられ、突起部分は分厚くなり、縄線文や刺突文が施され、焼成前の穿孔もみられる。内面には縄文が施される。51は横位の隆線と縄線文が施され、隆線には縦位の縄側面圧痕文が施される。52・53は胴部である。52は斜行縄文と縦位の刺突文が施される。53は横位の沈線文が2条施され、沈線文の間には刺突文が施される。54は隆線文が施され、隆線文の間には縄線文、小型の円形刺突文が施される。55は底部でやや上げ底である。縦位の縄文と隆線文が施される。

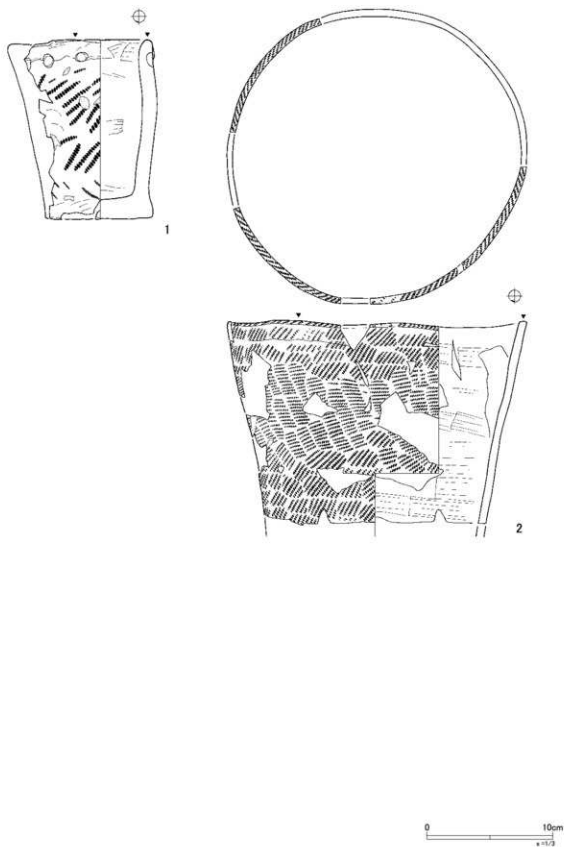
56は捺文土器（VII群）の深鉢口縁部である。頸部には横位の刺突文列が施される。内面は横位のミガキにより調整される。



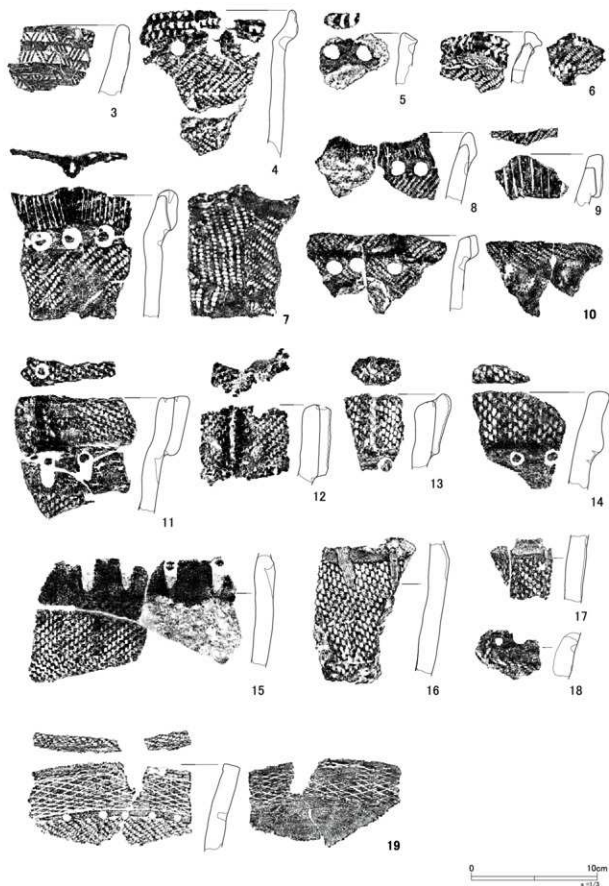
図Ⅵ-22 B地区包含層出土土器点数分布図(1)



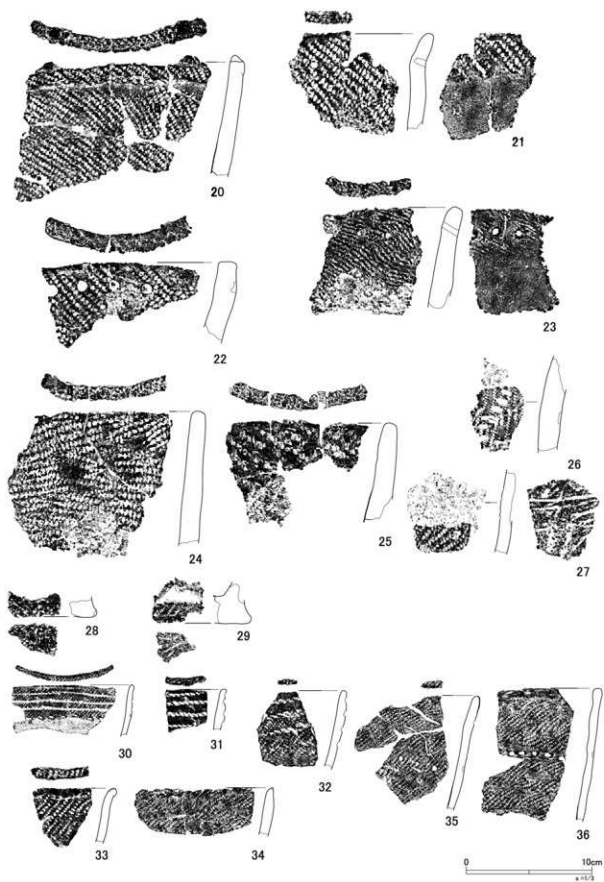
図Ⅶ-23 B地区包含層出土土器点数分布図(2)



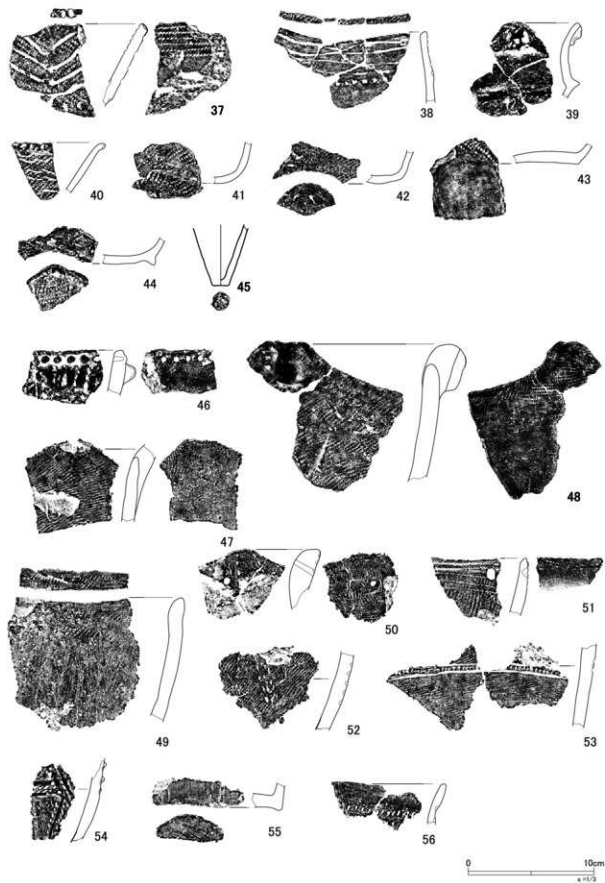
図Ⅴ-24 B地区包含層出土の土器(1)



図Ⅶ-25 B地区包含層出土の土器(2)



図Ⅷ-26 B地区包含層出土の土器(3)



図Ⅶ-27 B地区包含層出土の土器(4)

3. 石器等

(1) 遺構出土の石器等 (図Ⅶ-47~57)

遺構から出土した石器等の点数は、剥片石器4,931点、礫石器257点、礫3,258点、石製品1点で合計8,447点である。遺構別の出土点数はⅢH-26が1,185点と最も多く、次いでⅢH-27が576点である。遺構出土の黒曜石製の石器21点について産地推定分析を行ったところ、所山11点、上土幌4点、置戸山3点、白滝2点、留辺蘂1点という結果が出た(付篇2節参照)。

ⅢH-4 (図Ⅶ-28)

出土層位は1・2・6が覆土、3~5が床面である。1~4は石鏃で、石材は黒曜石である。3~5は黒曜石の産地推定分析を行い、3は所山、4・5は上土幌という結果が出た。1・2は小型で、1は有茎で先端から逆刺にかけて直線的に大きく広がる。2は平面が菱形で、表裏面に素材とした剥片の表裏面(以下、素材面)を残す。3・4は菱形に近い形状で、側縁が緩く湾曲するものである。4は横長剥片素材で、裏面に素材面を残す。5は黒曜石製のつまみ付ナイフで、横長剥片を素材とする。両面加工で、ほぼ左右対称に作られ、下端が尖る形状である。6は石製品で砂岩を素材とする。周縁部に剥離を施し円形状に整形し、表面中央付近に使用面がある。

ⅢH-5 (図Ⅶ-28)

7~9は全て覆土出土である。7は黒曜石製の石鏃である。小型で平面は菱形であるが、表面右側縁は緩く湾曲する。8は砥石で周辺部分を大きく欠失する。使用面は滑らかで中央付近がくぼむ形状である。9は石鋸で、薄い砂岩の礫を素材とする。下縁に剥離を施し形状を直線的に整えており、下縁部は平滑な使用面がある。

ⅢH-6 (図Ⅶ-28)

10~13は全て覆土出土である。10は石槍・ナイフで、石材は頁岩である。左右非対称で表面右側縁がやや張り出す形状である。11はつまみ付きナイフで、縦長剥片の周縁部に細かい二次加工を施し、上部には対向する抉りによりつまみ部を作出している。12・13は磨製石斧で、共に小型である。12は全面丁寧に研磨され、刃部の平面形はやや左上がりとなる。13は細長い形状で、刃部付近には剥離痕がある。研磨は刃部付近を中心に行われる。

ⅢH-7 (図Ⅶ-28)

14は覆土出土のスクレイパーである。主に左側縁と下縁に二次加工が施され直線状に整形されている。

ⅢH-8 (図Ⅶ-29)

15・17~20は覆土出土、16は攪乱層出土である。15は小型の石鏃で、石材は黒曜石である。小型で太い茎部がある。16~18は石槍・ナイフで、石材は全て黒曜石である。16は菱形で、裏面に素材面を残す。17は幅が広く、側縁は湾曲する形状である。18は茎部に対向する抉り部が作り出される。石材は黒曜石で、産地推定分析を行ったところ上土幌という結果が出た。19は磨製石斧で基部側を大きく欠失する。厚みがあり、細かい敲打の後、刃部付近を中心丁寧に研磨されている。20はたたき石である。礫の表裏の扁平な面と側面に潰打痕がみられる。潰打痕は全体的に浅いが、右側面はやや深い。

ⅢH-9 (図Ⅶ-29)

21は覆土出土の石鏃である。黒曜石製の茎部を一部欠失する。22は石鋸で、床面直上から出土した。約1/2が欠失し、下縁と上縁に横位のすり痕がみられる。

ⅢH-11 (図Ⅶ-30~32)

26~45は全て覆土出土で、27は覆土下位、32・42・44・45は覆土上位出土である。26・27は石楯・ナイフで、石材は黒曜石である。26は細長い菱形を呈する。27は側縁中位が浅く内湾する。28は石錐で石材はチャートである。棒状で、細かい二次加工により下端に尖頭部を作り出している。29・30はつまみ付きナイフで、石材は29が頁岩、30チャートである。29は下部をわずかに欠失し、主に表面右側縁に二次加工が施される。裏面はつまみ部周辺のみ二次加工がみられる。30は上面に礫面を残し、主に表面の周縁部に二次加工が施される。31・32はスクレイパーで、石材は共に黒曜石である。31は下部を欠失し、被熱により表面の光沢が大部分失われている。表面両側縁に二次加工が施される。32は、上縁以外の周縁部に、細かい二次加工により急角度の刃部が作出されている。33・34は磨製石斧である。33は側面にわずかに剥離痕と敲打痕を残し、全体に丁寧な研磨が施され、明瞭な筋がみられる。石材は緑色泥岩である。34は基部側と刃部に剥離痕がある。全体に丁寧な研磨が施され、裏面に一部黒色付着物がみられる。35~41はたたき石で、石材は全て砂岩である。35~38は礫の表面と側面に潰打痕があるものである。35は、側面の潰打痕が部分的に深くくぼむ。36は両側面と下面に剥離痕がみられる。37は表裏面の稜線周辺に潰打痕及び剥離痕がある。38は表面には細かい潰打痕が広い範囲でみられ、下面には剥離痕がみられる。39・40は側面に潰打痕がある。39は表面右側縁に剥離痕と微細な潰打痕がみられる。40は左側面の潰打痕は細かく、右側面はやや粗い。41は扁平な礫の両側面と下面に潰打痕があり、下面の潰打痕は比較的範囲が広い。42は石鋸である。表裏面と下面にすり痕がある。43は加工・使用痕ある礫で、周縁部を敲打、剥離により円形状に仕上げている。表面には範囲の広い浅い潰打痕がある。44は台石・石皿である。大型の亜円礫を素材とする。表面中央付近には潰打痕がみられ、右側面は大きく連続的な剥離痕がみられる。45は大型の砥石で、全体に細かいひびが入っている。礫の長軸上に、表面には細長い使用面が2か所、裏面にはやや幅広の使用面が1か所ある。また側面も使用面がみられる。

ⅢH-12 (図Ⅶ-29)

23・25は床面出土、24は覆土出土である。23は石鏃で、尖頭部と茎部の境が不明瞭で側縁は緩く湾曲する。石材は黒曜石で、産地推定分析を行ったところ、所山という結果が出た。24は石楯・ナイフで、茎部は太く、尖頭部との境は小さな挟り部が作り出される。下面にはわずかに礫面を残す。25は砥石で、石材は砂岩である。周囲を欠失した破片で、使用面は滑らかである。

ⅢH-13 (図Ⅶ-32)

46・47は床面、48・49は覆土出土である。46~48の石材は黒曜石で、46・47は産地推定分析を行い、12が所山、13が置戸山という結果が出た。46は石楯・ナイフである。茎部の下位を欠失し、先端はやや丸みを帯びる。47は、形状が石楯・ナイフに類似するが、上部が尖らず平坦なため両面調整石器とした。石楯・ナイフの再加工品と考えられる。48はスクレイパーである。縦長剥片を素材とし、両側縁は連続する細かい二次加工が施され、下縁には急角度の刃部が作り出される。49は磨製石斧である。素材の細長い亜円礫の形状を生かし、周縁部付近のみ剥離、敲打が施され、整形される。

ⅢH-14 (図Ⅶ-33)

50~55は全て覆土出土である。50~52は石楯・ナイフで、石材は全て黒曜石である。50は茎部上位に対向する浅い挟り部が作り出される。51・52は菱形状で、51は縦長剥片を素材とし、裏面に素材面を残す。52は2点接合し、先端部をわずかに欠失する。両側縁上部は下部に比べ、やや短く内湾気味になるが、これは刃部再生の結果と考えられる。53は磨製石斧である。表面は周縁部から剥離が施され、刃部付近は一部敲打が加えられる。裏面は中央付近に敲打痕がある。刃部等の研磨は施

されず、未成品と考えられる。54はたたき石である。上下面に細かい潰打痕が広がる。55は石鋸である。主に下縁に細かい剥離痕と幅の狭い使用面がみられる。石材は砂岩である。

ⅢH-15 (図Ⅶ-33)

56~58は覆土出土である。56・57は石槍・ナイフである。56は左右非対称で、下縁に右肩上がり刃部が作り出される。57は先端がやや太く、側面観はやや湾曲する。基部側にわずかに礫面を残し、被熱により全体的に光沢が失われている。58は砥石で、上下を欠失する。側面付近は剥離痕、敲打痕が広がり、表裏面には平滑な使用面がある。

ⅢH-16 (図Ⅶ-33)

59は覆土出土のつまみ付きナイフである。両面加工であるが、裏面下部は破損し、その後再加工を行っている。

ⅢH-17 (図Ⅶ-34)

60・63・66・67は床面直上、61・62・64・65は覆土出土である。60~65の石材は黒曜石で、60・63は産地推定分析を行い、60が置戸山、61が上土幌という結果が出た。60~63は石槍・ナイフである。60は大型で、縦長剥片を素材とし、裏面に素材面を残す。左右非対称で、表面左側縁は先端付近で湾曲する。61は、表面はほぼ全面に、裏面は周縁部のみ二次加工が施される。また、表面には礫面がある。62は厚みがあり、63は側縁の形状が直線状で、基部は丸みを帯びる。64・65はスクレイパーである。64は両側縁に細かい二次加工が施され、下縁部は微細な剥離がみられる。65は撥状の形で、下縁部に二次加工により急角度の分厚い刃部が作り出される。66・67は砥石である。66は表裏面及び下面に広い平滑な使用面がみられ、側面は剥離などにより整形される。67は下部と表面の大部分を欠失する。表裏面と右側面に滑らかな使用面があり、表面は浅く溝状にくぼむ形状で、右側面は平坦な面で構成される。

ⅢH-18 (図Ⅶ-35)

68は覆土出土の石鋸である。上下縁に滑らかな細長いすり痕がみられ、表裏面全体にもすり痕がある。

ⅢH-19 (図Ⅶ-35)

69は覆土出土のスクレイパーである。縦長剥片を素材とし、表面に礫面を残す。主に両側縁と下縁に二次加工が施され、分厚い刃部が作り出される。

ⅢH-20 (図Ⅶ-35)

70~76は覆土出土である。70は石槍・ナイフである。横断面は半円状で裏面はほぼ平坦である。石材は黒曜石で、基部に礫面を残す。71はチャート製の石鏃である。素材の形状を生かし、側縁にわずかな二次加工が施され、尖頭部が作り出されている。72・73はつまみ付きナイフである。72は表面両側縁と裏面左側縁に二次加工が施される。73は表面両側縁に細かい連続する二次加工が施される。表面には大きく礫面を残す。74はスクレイパーである。縦長剥片の下縁に左肩上がりの厚みのある刃部が作り出される。両側縁には連続する微細な剥離が施される。75は磨製石斧である。周縁からの剥離により大きく整形し、軽く敲打しその後刃部周辺のみ研磨が施される。76は砥石で、上下2点が接合した。表裏面、左右側面に滑らかな使用面がみられる。接合部分に段があるところもみられるため、割れた後も使用していたと考えられる。

ⅢH-21 (図Ⅶ-35)

77~79は覆土出土である。77は石鏃である。無茎で、基部はやや内湾する。側縁は先端付近で少し湾曲する。78はスクレイパーである。石刃様の縦長剥片を素材とし、両側縁に細かい二次加工が

施され、下端は尖る形状である。79は石鋸で2点が接合した。下縁部への連続的な剥離で直線状に仕上げている。すり痕はない。

ⅢH-22 (図Ⅶ-36)

80~82は覆土出土である。80は石槍・ナイフで、先端をわずかに欠失する。厚みがあり、茎部と尖頭部の間には対向する浅い抉り部がみられる。81はスクレイパーである。縦長剥片を素材とし、表面と裏面の下縁~右側面にかけて二次加工が施される。82はたたき石である。下面周辺と右側面に潰打痕がみられる。

ⅢH-23 (図Ⅶ-36)

83は床面、84は覆土出土である。83は縦長剥片を素材とする。石材は黒曜石で、産地推定分析を行い、所山という結果が出た。表裏面の両側縁の二次加工により刃部が作り出される。84は小型の磨製石斧で、ほぼ全面に研磨が施される。

ⅢH-24 (図Ⅶ-36)

85・90・93・94は床面、86~89・91・92は覆土出土である。85~87は石鏃である。85は有茎で茎部上位に浅い抉り部がみられる。石材は黒曜石で、産地推定分析を行い、所山という結果が出た。86・87は小型で、86は菱形で周縁部のみ細かい二次加工が施される。87は尖頭部の側縁に対向する浅い抉り部が作り出される。88・89は石槍・ナイフである。88は右側縁に比べて左側縁がやや張り出す。89の形状は木葉形である。90は石鋸である。4点が接合したもので、左右をわずかに欠失する。上縁と下縁に連続する細かい剥離を施し、薄く直線状に整形し、断続的に幅の狭いすり痕がある。91・92は磨製石斧である。91は表面の大部分と裏面の上部に剥離痕が残り、刃部周辺と表面中央付近に研磨が施される。92は小型の磨製石斧で、全面に丁寧な研磨が施される。刃部に一部剥離痕がみられる。93はたたき石で石材は軽石である。下半部を欠失し、表裏面の中央付近に大きなくぼみ状の潰打痕がある。94は砥石である。裏面を大きく欠失し、表面と右側面には浅くくぼんだ滑らかな使用面がみられる。

ⅢH-25 (図Ⅶ-37・38)

95~104は全て覆土出土である。95は石鏃である。有茎で側縁は直線状である。96・97は石槍・ナイフである。96は木葉形に近い形状で、茎部は小さい。97は菱形で厚みがある。98・99はつまみ付きナイフである。98は表裏面の周縁部に細かい二次加工が施される。つまみ部が大きく刃部が小さいため、刃部再生が行われている可能性が高い。99は両面調整が施されるもので、下端がやや尖る形状である。100~102はたたき石で、表裏面と側面に潰打痕がある。100は上下面にも潰打痕がみられる。側面の潰打痕は部分的に線状になる。101の裏面の潰打痕は全体的に深い。102は周縁部に剥離が施され、円形状に整形される。表面と周縁部全体に細かい潰打痕がある。103は台石・石皿で、石材は粗粒玄武岩である。礫の平坦面に広い範囲の使用面がみられる。104は大型の砥石である。各面が使用面として利用され、使用面は非常に滑らかで溝状に浅くくぼんでいる。

ⅢH-26 (図Ⅶ-38)

105~112は全て覆土出土である。105~107は石槍・ナイフである。105は覆土出土とQ27区Ⅲ層出土のものが接合した。基部をわずかに欠失し、先端部は丸みを帯びる。106・107は先端部をわずかに欠失する。106は厚みがあり、表面右側縁は直線状で、左側縁は弧状である。107は柳葉形で先端部付近はやや屈曲する形状である。108~111はスクレイパーである。108は裏面の右側縁を除く周縁部に二次加工が施され、表面左側縁の刃部は急角度で、やや内湾する。109は下縁に急角度の二次加工により厚みのある刃部が作出される。110は両側縁に細かい二次加工が施され、刃部が作出される。111は表面に礫面を大きく残す。表面の両側縁と下縁部に細かい二次加工が施される。112は小

型の磨製石斧である。基部をわずかに欠失し、全面丁寧な研磨が施される。

ⅢH-27 (図Ⅶ-39)

113は床面、118は床面直上、120は床面付近出土で、114~117・119は覆土出土である。113・114は石鏃である。113は無茎で、平面の形状は三角形状で、基部はわずかに内湾する。114は有茎で、茎部下位を欠失する。横長剥片を素材とし、薄身に作られている。115は石槍・ナイフである。菱形で基部をわずかに欠失する。116~119は磨製石斧である。116・118・119の石材は泥岩である。116はやや小型で、剥離により整形が行われ、刃部付近にわずかに研磨が施される。117は側面周辺に剥離痕と潰打痕がみられ、表裏面には研磨が施される。118・119は116同様剥離により整形が行われる。118は表面の刃部周辺と裏面ほぼ全面に研磨が施される。119は小型で、基部がやや尖る形状である。ほぼ全面に研磨が施される。120は砥石で表裏面の一側縁に剥離が施される。表面には広く平滑な使用面がある。

ⅢH-28 (図Ⅶ-39)

121は覆土出土の石槍・ナイフである。石材は黒曜石で直径1cm前後の大きな球果が含まれる。産地推定分析を行い、所山という結果が出た。薄身に作られているが、基部は厚みがある。

ⅢH-29 (図Ⅶ-39)

122は覆土出土の石鏃である。細長い形状で先端をごくわずかに欠失する。無茎で基部はやや内湾する。

ⅢH-30 (図Ⅶ-39・40)

123・124・131~133は覆土出土、125~130はHFC-2掘上土出土である。123は石鏃である。有茎で裏面に素材面を残す。124は石槍・ナイフである。表裏面の周縁部に二次加工が施され、表面には礫面を大きく残す。125~130は石鏃で、石材はすべてチャートである。棒状の剥片を素材として、主に側面の細かい二次加工により下端に尖頭部を作り出している。131はつまみ付きナイフである。分厚い縦長剥片を素材とし、表面周縁部に急角度の二次加工が施される。裏面はつまみ部周辺等に部分的に平坦な剥離が施される。132は小型の磨製石斧である。部分的に剥離痕がみられ、それ以外は丁寧な研磨が施される。133は砥石で、使用面が複数みられる。使用面はなめらかで、溝状にややくぼむ。

ⅢH-31 (図Ⅶ-40)

134・135・137は覆土、136は床面出土である。134は小型の石鏃である。無茎で基部は直線状である。135は石槍・ナイフである。側縁は緩やかに湾曲し、先端と基部は丸みを帯びる。136は両面調整石器で、表裏両面に粗い二次加工が施される。表面下縁部には細かい剥離が連続的に施される。黒曜石製で、産地推定分析を行い置戸山という結果が出た。137は砥石の破片である。表面全体に平滑な使用面がみられる。

ⅢH-32 (図Ⅶ-40)

138~140は覆土出土である。138は小型の石鏃である。有茎で、二次加工は周縁部のみ行われる。139は石鏃である。扁平な礫の下縁に細長いすり痕があり、左右側縁には剥離痕がある。140は砥石である。薄い扁平な礫破片を素材とし、表面に広く滑らかな使用面がみられる。側面観はやや湾曲する。

ⅢH-33 (図Ⅶ-40)

141・142は覆土出土である。141は石槍・ナイフで、覆土とⅢH-11覆土出土の2点が接合した。横長剥片を素材とし、素材面を裏面に残す。142は両面調整石器で左右非対称である。

ⅢH-34 (図Ⅶ-40)

143は床面出土の石槍・ナイフで、上下を欠失する。連続する平坦な二次加工が施される。石材は

黒曜石で、産地推定分析を行い、留辺菜という結果が出た。

ⅢH-36 (図Ⅶ-40)

144・146・147は覆土で、145は床面直上出土である。144・145は石槍・ナイフである。細長い形状で表面はほぼ平坦である。145は幅広のもので、茎部を欠失する。左側縁に比べ右側縁が湾曲する形状である。石材は黒曜石で、産地推定分析を行い、所山という結果が出た。146・147はつまみ付きナイフである。146はやや不整で側縁は湾曲し下部は尖る形状である。147は半両面調整のもので、表面はつまみ部周辺に二次加工が施され、周縁部には微細な剥離痕がある。

ⅢH-37 (図Ⅶ-41)

148～152は全て覆土出土である。148・149はスクレイパーである。148は下部に、急角度の二次加工により丸い刃部が作り出される。149は左側縁に細かい二次加工が施され、やや内湾する刃部が作り出される。また裏面の下縁にも剥離が施される。表面には礫面を残す。150は砥石の破片で、表面全面と裏面の一部に使用面がある。151はたたき石で表面に潰打痕が広がる。中央よりやや北側の潰打痕は浅くくぼむ。152は台石・石皿である。礫の平坦面の中央付近に細かい使用痕が広がる。

ⅢH-38 (図Ⅶ-41)

153・154はたたき石でどちらも覆土出土である。153は素材の礫の裏面に剥離が施され、扁平に整形されている。表面中央付近と両側面、下面には細かい潰打痕がある。154は扁平な円礫の表裏面と両側面等に細かい潰打痕が広がる。表裏面の潰打痕は中央付近がくぼむ形状である。

ⅢH-39 (図Ⅶ-41)

155は覆土出土の石槍・ナイフである。石材は黒曜石で、やや大きな球果を含む。3点接合し、上部を欠失する。表面右側縁がやや張り出す形状である。

ⅢH-40 (図Ⅶ-41・42)

156～167・169は覆土出土、168は床面出土である。156・157は有茎の石鏃である。156は茎部が長く、尖頭部の右側縁はやや内湾する。157は梨肌状の黒曜石を石材とし、左右の逆刺の位置が上下にずれている。158は石槍・ナイフで先端部を欠失する。平坦な剥離により薄身に作られている。159～166はスクレイパーで、石材は166がチャートで他は全て黒曜石である。162は産地推定分析を行い、白滝という結果が出た。159～165は下部に刃部が作り出される。159は両面加工のもので下部に厚みのある刃部が作り出される。160は下縁に直線状の刃部が作り出される。161～165はほぼ片面加工で、厚い急角度の刃部が作り出される。長さが短く寸詰まりのものが多い。161・162・164は周縁部に、163は表面全体に二次加工が施される。刃部の角度は垂直に近い。164は上面に礫面を残す。165は基部が張り出す形状である。166は表面右側縁に二次加工が施され、外湾する刃部が作り出される。167は磨製石斧である。剥離により粗く形を作り、敲打による細かい整形が行われている。表裏面の下半部には研磨が施され、刃部は滑らかに仕上げられている。168・169は砥石である。168は板状のもので、2点が接合した。表面にやや粗い使用面がみられ、周縁部には剥離が施されている。形状から石鋸の未成品の可能性もある。169は下部を欠失し、表裏面と側面に幅の広い滑らかな使用面がみられる。

ⅢH-41 (図Ⅶ-42)

170は石鏃である。両側縁に連続する二次加工により、逆三角形に整形し尖頭部を作出している。171・172はスクレイパーである。171は縦長剥片を素材とし両側縁に二次加工が施され刃部が作出される。172は上部の両側縁がやや内湾し、下部に湾曲した分厚い刃部が作出される。石材は全て黒曜石で、170・172は産地推定分析を行い、170は所山、172は白滝という結果が出た。

ⅢH-43 (図Ⅶ-42)

173~175は覆土出土である。173は有茎の石鏃で、逆刺がやや張り出す。174は石槍・ナイフで長さ比べて幅が広く、尖頭部と茎部の境が不明瞭である。175はスクレイパーで横長剥片を素材とする。表面の右側縁から下縁にかけて細かい連続的な二次加工が施される。

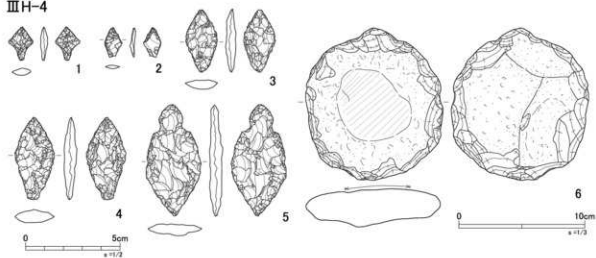
ⅢMH-1 (図Ⅶ-43)

176~186は全てHM層から出土した。176は石鏃で先端を欠失する。菱形で茎部端はやや丸みを帯びる。177は石槍・ナイフである。上部は側縁がやや内湾し、二次加工が下部に比べ細かいのは、刃部再生のためと考えられる。178はつまみ付きナイフで、下端が尖る形状である。片面加工で、裏面はつまみ部の周辺のみ二次加工がみられる。179・180はスクレイパーである。179・180は縦長剥片の両側縁に刃部が作出される。181は二次加工・使用痕のある剥片で、表面左側縁と裏面右側縁に二次加工が施される。182は砥石の破片で板状の礫の平坦面に平滑な使用面がみられる。183・184はたたき石である。183は表面中央付近と周縁部に細かい潰打痕がみられる。下縁の潰打痕は平坦で、側縁の潰打痕は細い溝状をなす部分がある。184は下部を欠失し、表面中央付近と側面に潰打痕がある。185は石鋸で、半分以上を欠失する。表裏面の下半部に滑らかなすり痕がある。186は台石・石皿である。表裏面に平滑な使用面がみられ、表面には部分的に潰打痕がある。

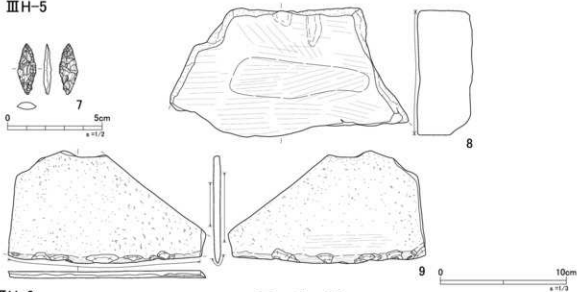
土坑等出土の石器等 (図Ⅶ-44~46)

187~189はⅢP-6の覆土出土である。187・188は石鏃で、石材はチャートである。187は表裏面、188は下部を中心に細かい二次加工が施され、尖頭部を作出している。189はスクレイパーで上部側を欠失する。表面の周縁部に二次加工が施され、下縁に急角度の刃部が作出される。190はⅢP-8の覆土出土のスクレイパーである。両側縁と下縁に細かい急角度の二次加工が施される。191~193はⅢP-9の覆土出土である。191は石鏃で、五角形状である。192・193はスクレイパーである。192は下縁に、193は両側縁に刃部が作出される。194~201はⅢP-10の覆土出土である。194~197は小型の石鏃である。石材はチャートで、194・196は両側面、195・197は表裏面の下半部を中心に細かい二次加工が施され、尖頭部先端を作出している。198~201はたたき石である。198は表面と上面に細かい潰打痕があり、表面と裏面下部には剥離痕がみられる。199は表裏面と上面に潰打痕がみられ、下部には複数の剥離痕がある。200は礫の周縁部に剥離により丸く整形され、右側面と周縁部全体に細かい潰打痕がある。裏面にも細かい潰打痕のまとまりが複数みられる。201は各面に細かい潰打痕がみられ、表面下部と裏面には剥離痕がある。202はⅢP-13坑底出土の石槍・ナイフで、基部は丸みを帯び、側縁は直線状である。石材は黒曜石で、産地推定分析を行い、所山という結果が出た。203は覆土出土のスクレイパーである。表面に礫面を大きく残り、左側縁と上下縁に細かい二次加工が施される。204はⅢP-16の覆土出土の石槍・ナイフである。表面下半部に連続する細かい剥離により刃部が作出される。205はⅢP-18覆土出土の石槍・ナイフである。大型で下半部を欠失する。206はⅢP-20の覆土出土の石鏃で、先端をわずかに欠失する。有茎で、逆刺が不明瞭である。207はⅢP-21の覆土下位出土の磨製石斧である。主に側面や刃部を剥離と敲打により整形し、刃部付近には丁寧な研磨が施される。208~210はⅢP-22の覆土出土である。208は石鏃で三角形を呈する。無茎で基部はやや内湾する。209・210は石槍・ナイフである。209は先端を欠失し、基部は丸みを帯びる。石材は頁岩である。210は厚みがあり、太い茎部である。211~214はⅢP-29出土で、土坑墓の副葬品と考えられる。石材は全て黒曜石で、211・214は産地推定分析を行い、所山という結果が出た。211は人骨下出土、212~214は覆土出土である。211は石槍・ナイフの基部側で上部を欠失する。基部は幅が広く、裏面に素材面を残す。212・214は二次加工・使用痕ある剥片である。212

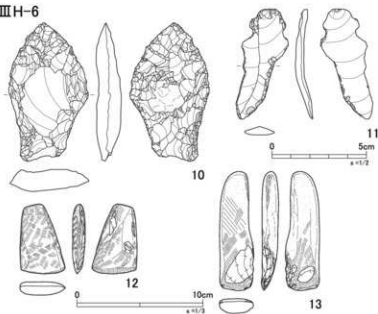
ⅢH-4



ⅢH-5



ⅢH-6



ⅢH-7



図Ⅵ-28 B地区遺構出土の石器(1)

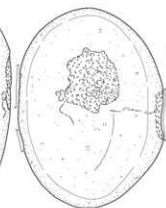
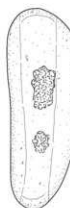
III H-8



18



19

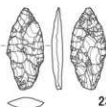


III H-9



22

III H-12

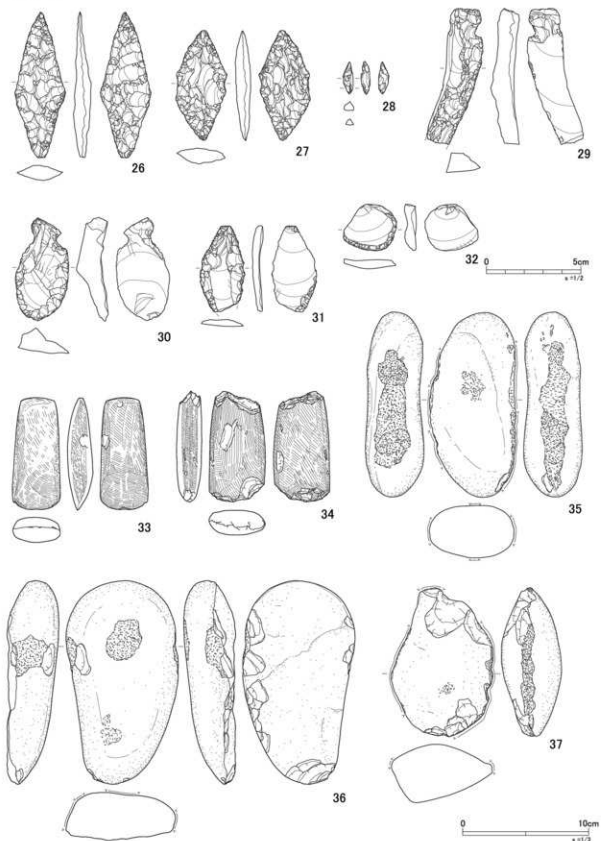


24



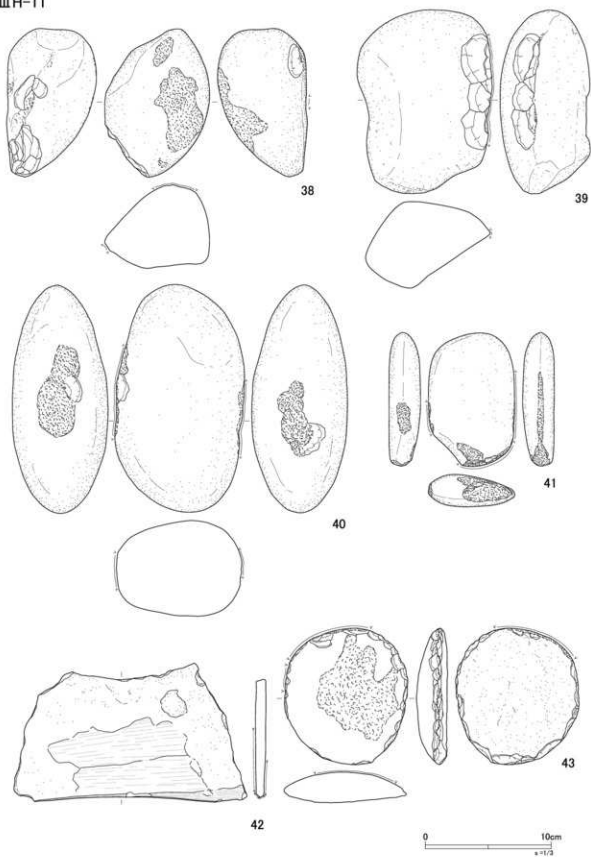
図VI-29 B地区遺構出土の石器(2)

ⅢH-11



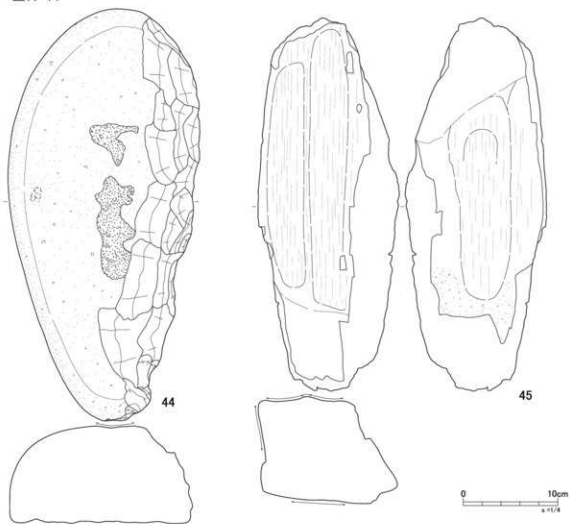
図Ⅵ-30 B地区遺構出土の石器(3)

ⅢH-11

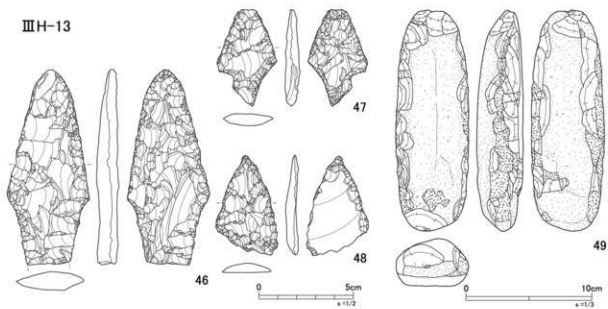


図Ⅵ-31 B地区遺構出土の石器(4)

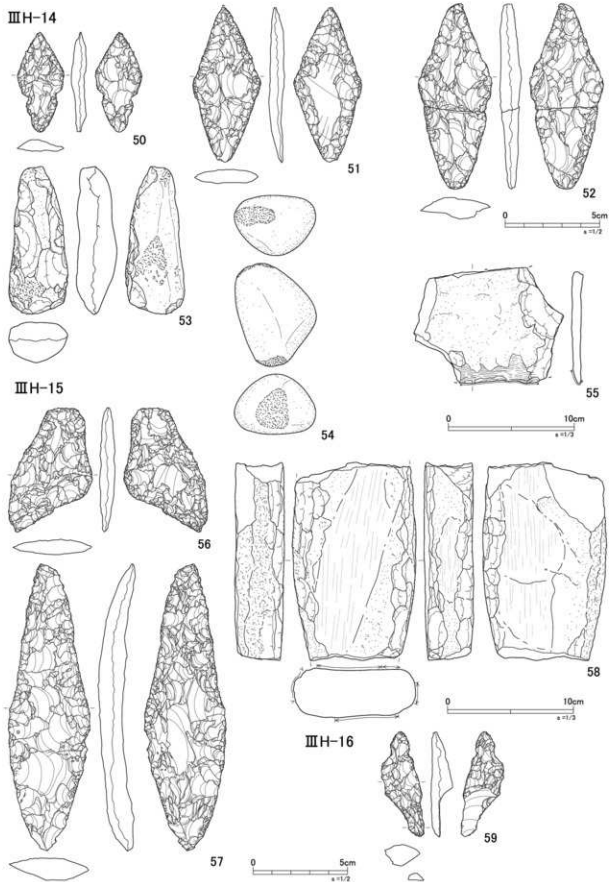
ⅢH-11



ⅢH-13

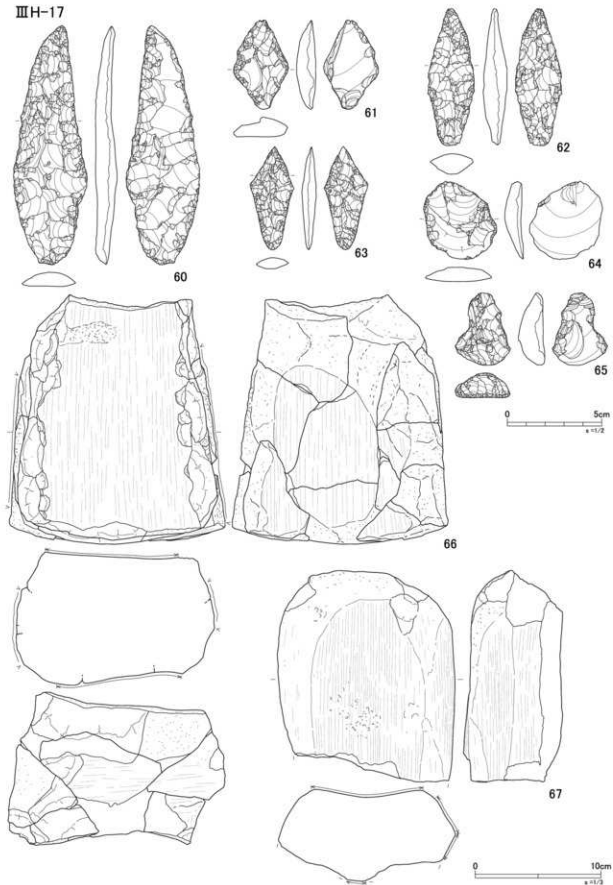


図Ⅵ-32 B地区遺構出土の石器(5)



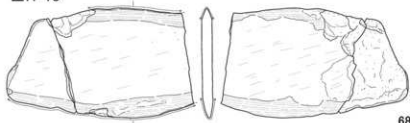
図VI-33 B地区遺構出土の石器(6)

ⅢH-17



図Ⅶ-34 B地区遺構出土の石器(7)

ⅢH-18



68

0 10cm
x=1/2

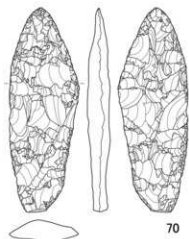
ⅢH-19



69

0 5cm
x=1/2

ⅢH-20



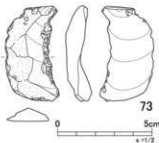
70



71



72

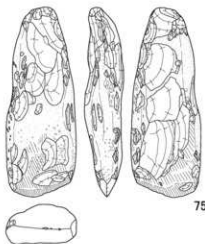


73

0 5cm
x=1/2



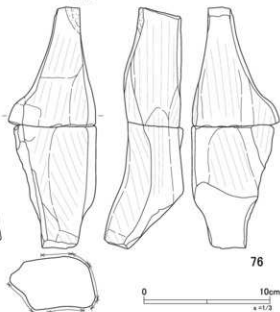
74



75



76



0 10cm
x=1/2

ⅢH-21

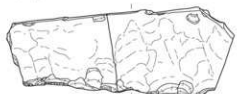


77

0 5cm
x=1/2



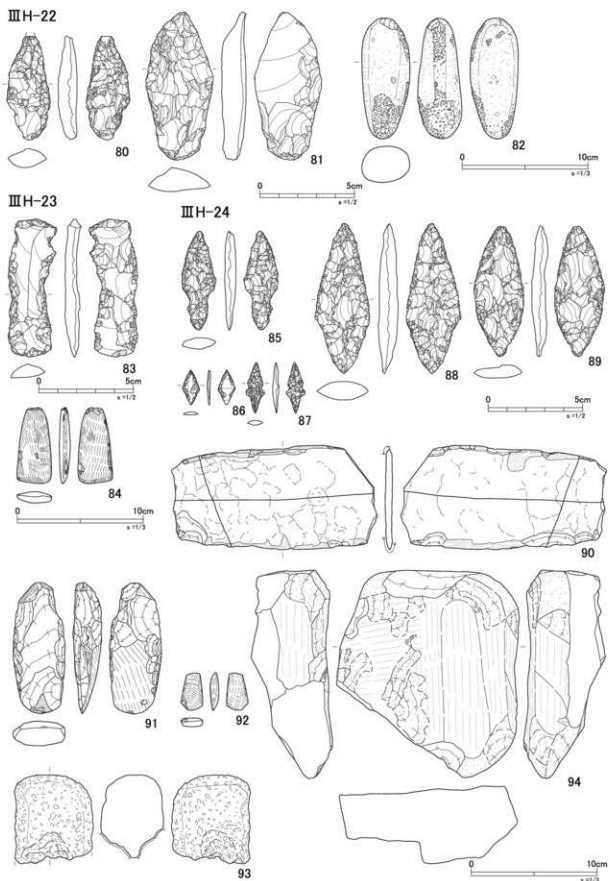
78



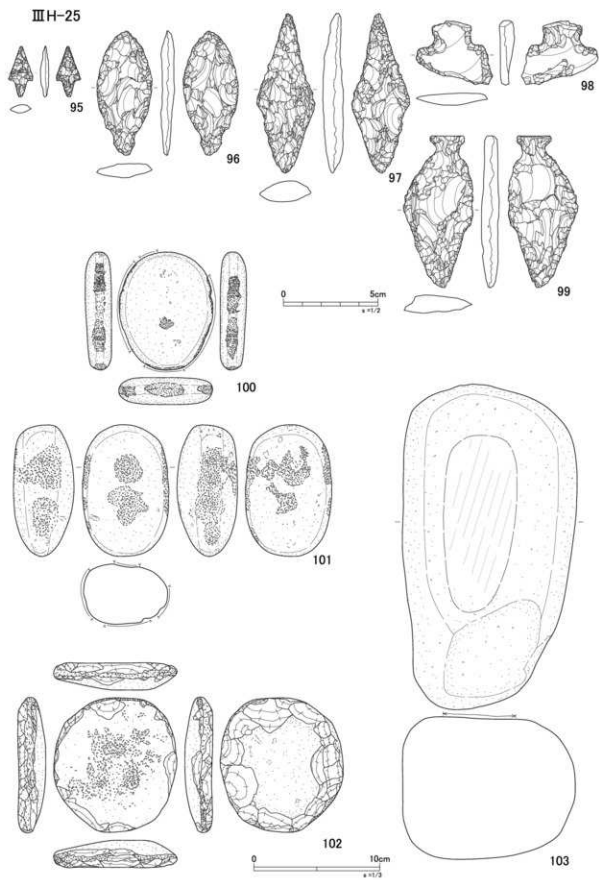
79

0 10cm
x=1/2

図Ⅵ-35 B地区遺構出土の石器(8)

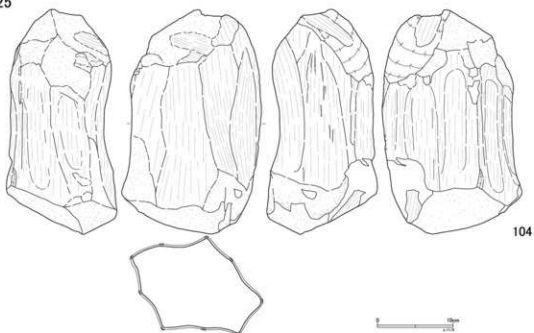


図Ⅵ-36 B地区遺構出土の石器(9)



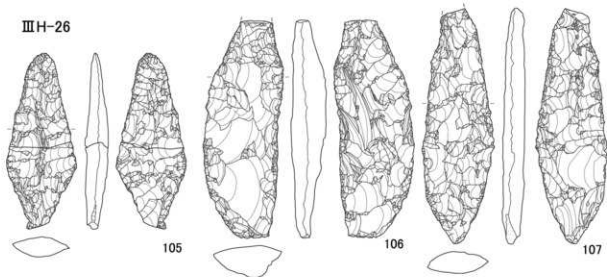
図VI-37 B地区遺構出土の石器(10)

ⅢH-25



104

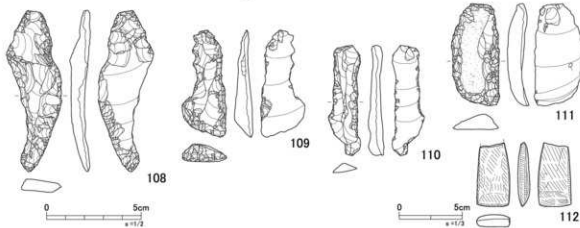
ⅢH-26



105

106

107



108

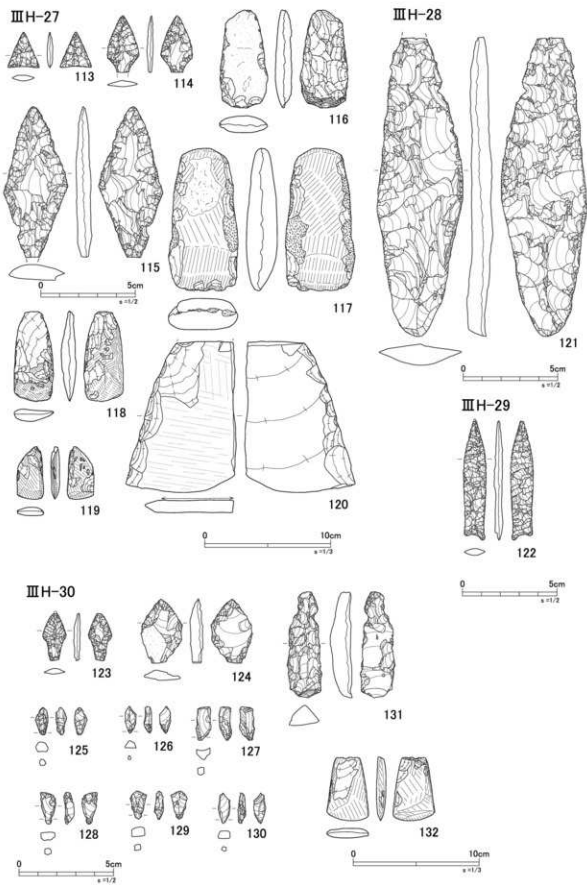
109

110

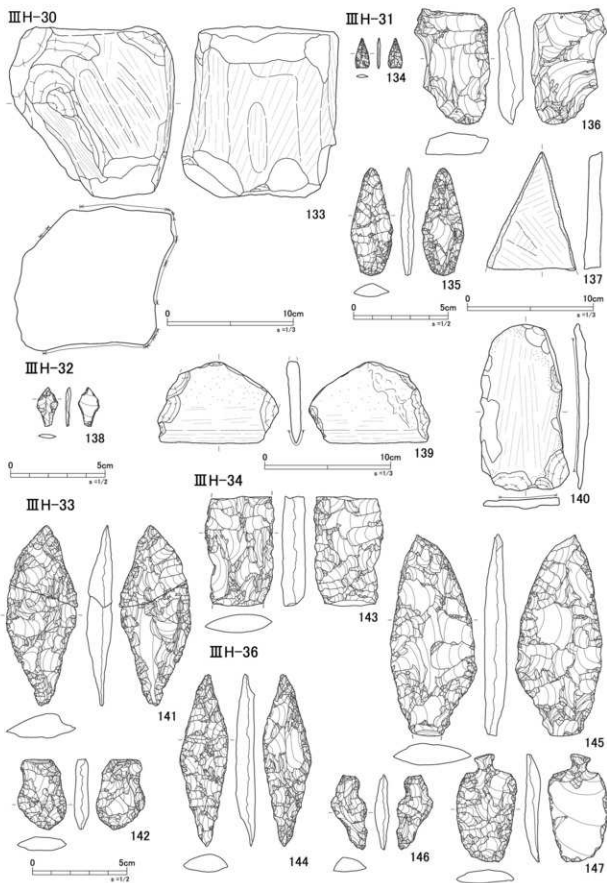
111

112

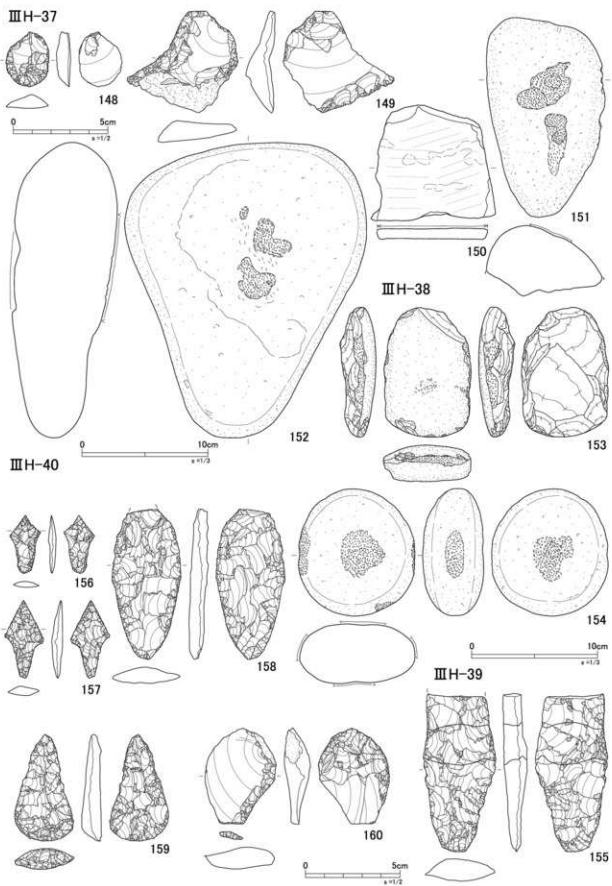
図Ⅵ-38 B地区遺構出土の石器(11)



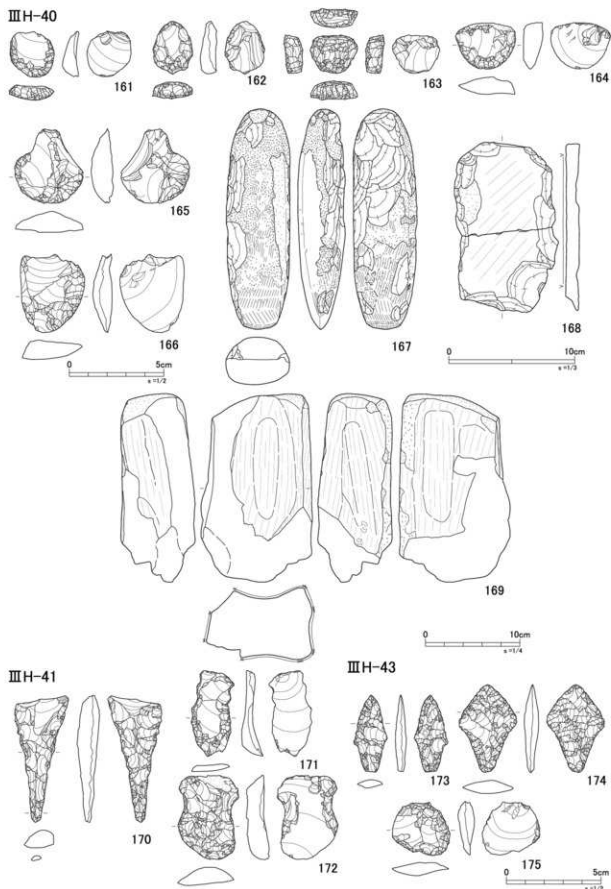
図Ⅶ-39 B地区遺構出土の石器(12)



図Ⅶ-40 B地区遺構出土の石器(13)

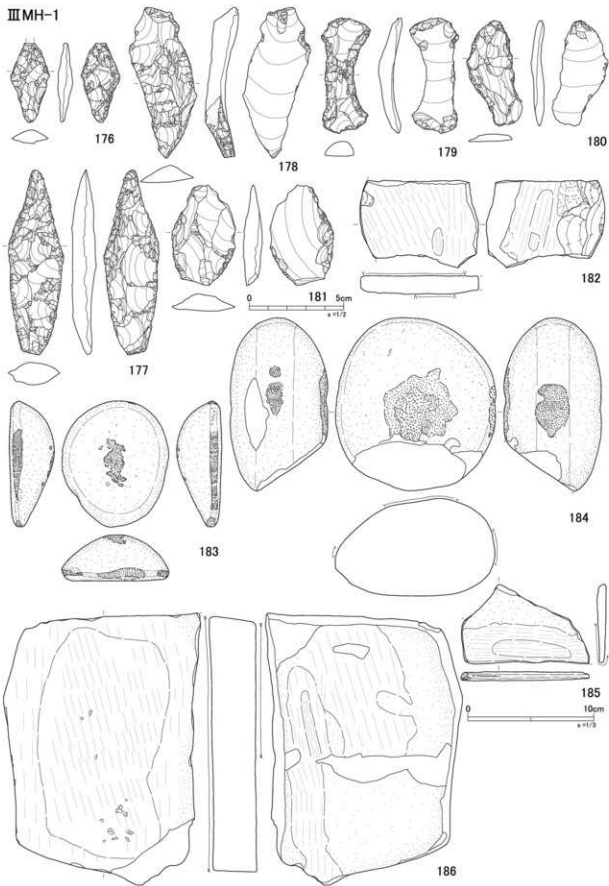


図VI-41 B地区遺構出土の石器(14)

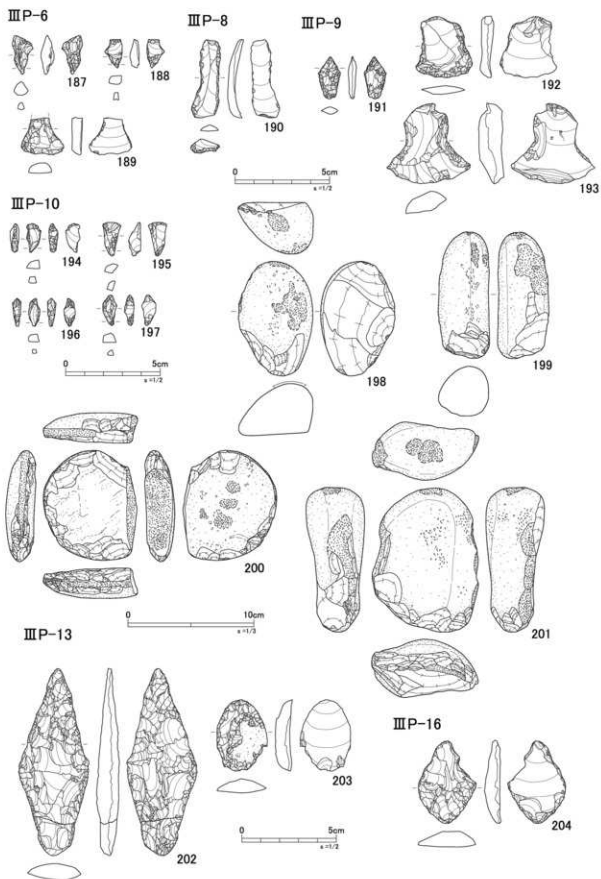


図Ⅶ-42 B地区遺構出土の石器(15)

ⅢMH-1

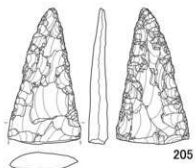


図Ⅵ-43 B地区遺構出土の石器(16)

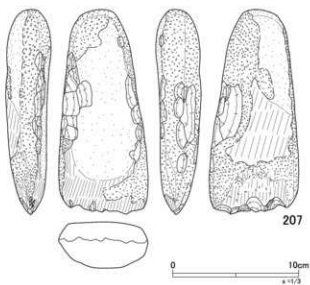


図Ⅶ-44 B地区遺構出土の石器(17)

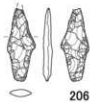
ⅢP-18



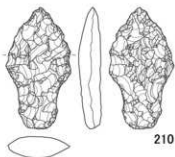
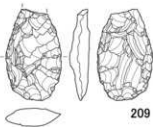
ⅢP-21



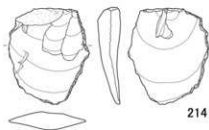
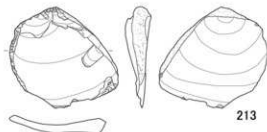
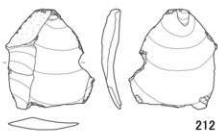
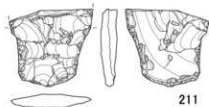
ⅢP-20



ⅢP-22

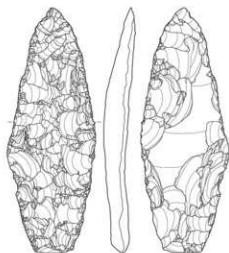


ⅢP-29

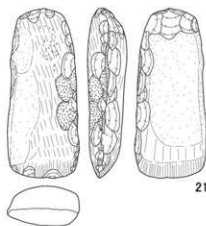


図Ⅶ-45 B地区遺構出土の石器(18)

ⅢP-33



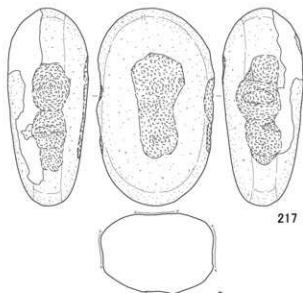
215



216



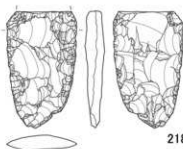
ⅢP-34



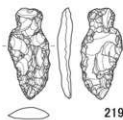
217



ⅢP-35



218



219



ⅢSP-11



220



図Ⅶ-46 B地区遺構出土の石器(19)

は周縁部に微細な剥離がみられる。214は上縁以外の周縁部に細かい急角度の二次加工が連続して施される。213は剥片で上面や側面に礫面を残す。215・216はⅢP-33の覆土出土である。215は大型の石槍・ナイフで縦長剥片を素材とする。裏面に素材面を残し、側面はやや湾曲する。216は磨製石斧で上下部と右側面付近に剥離痕と敲打痕がある。研磨は表面と刃部周辺に施される。217はⅢP-34の覆土出土のたつき石である。裏面が部分的に剥離し、表面と両側面にやや深い潰打痕がある。218・219はⅢP-35の覆土出土である。218は石槍・ナイフで上部を欠失する。側縁が屈曲する形状である。219はつまみ付きナイフで表面と裏面の周縁部に加工が施される。縦長剥片を素材とする。220はⅢSP-11の覆土出土の石鏃である。菱形で、表裏面に素材面を残す。未成品の可能性がある。

(2) 包含層出土の石器等 (図Ⅶ-47~57)

包含層出土の石器等は12,114点出土している。器種別では剥片5,819点が最も多く、次いで礫5,307点である。定形的な石器では、多い順から、砥石133点、石鏃116点、石槍・ナイフ113点、スクレイパー110点となる。層位別ではⅡ層が8,145点(67.2%)で最も多く、次いでⅢ層3,166点(26.1%)である。

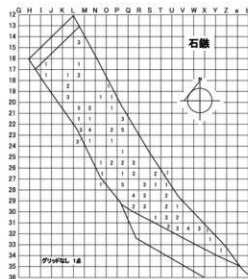
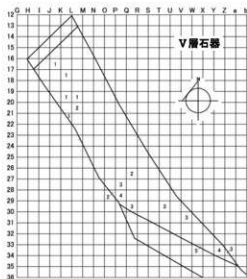
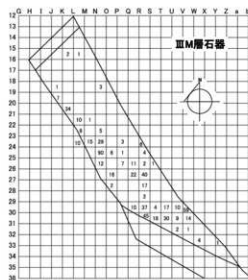
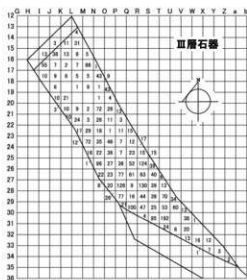
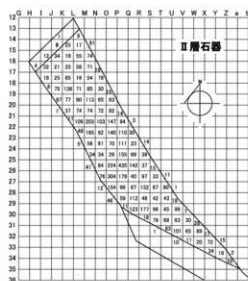
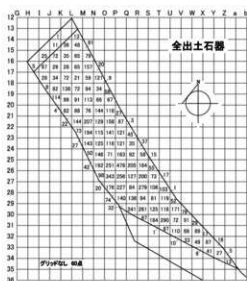
1~10は石鏃で、石材は全て黒曜石である。1~4・8は有茎である。1は幅が狭く細長い形状で茎部は短い。2は細長い茎部である。3は表面右側縁がやや内湾し、茎部は太く長い。4・8は側縁が全体的に丸みを帯びるもので、4は尖頭部と茎部の境が不明瞭である。8は幅が広いもので、茎部は細く短い。5は菱形で基部が丸みを帯びる。6・7は柳葉形状のものである。7の石材はチャートで裏面に素材面を残す。9・10は無茎で、基部が内湾する。9は横長剥片を素材とし、裏面に素材面を残す。10は細長い形状で側縁は緩く湾曲する。11~26は石槍・ナイフで、石材は22が玄武岩で他は全て黒曜石である。11~15は比較的大型で、細長い形状のものである。11は3点が接合し、基部側を欠失する。側縁中位でやや屈曲する。12は側縁が下部は緩く湾曲し、上部は直線状になっており、上部は刃部再生が行われている。13は3点接合したもので、側縁が不整の形状である。14は表面右側縁の稜線がやや不整で屈折する。16~26は比較的小型のものである。16~19は平面形が菱形形状のものである。17は基部付近がやや丸みを帯び、18・19は側縁が緩く湾曲する。20~26は有茎のものである。茎部は幅が広く長めのものが多い。20・21は長さ以上に幅が広いもので、20は表面に素材面を残す。22・23は逆刺がやや不明瞭のものである。25・26は基部の側縁中位がやや張り出すもので、つまみ付きナイフの可能性もある。27~32は石鏃で、石材は27~29・31が黒曜石、30・32がチャートである。27~29はつまみ部があるもので、27は大型で主に表面左側縁下部に細かい二次加工を施して尖頭部を作り出している。28・29は小型で両側縁に細かい二次加工が施される。30~32は棒状のものである。小型で、小さな剥離により整形されている。33~40はつまみ付きナイフで、石材は37が頁岩で、他は黒曜石である。33~36・38は両面加工、37・39・40は片面加工のものである。33・34は比較的大型で、33の側縁は直線状で下端は尖る。34・35・38はほぼ左右対称で、側縁が緩く湾曲する。36の裏面下部は左側縁にのみ短い急角度の二次加工が施される。37は先端側を欠失し、裏面はつまみ部周辺のみ二次加工が施される。39・40は素材の縦長剥片の形状を生かし、周縁部とつまみ部のみ二次加工が施される。41~62はスクレイパーである。石材は45が頁岩、50がチャートで他は全て黒曜石である。41~49は側縁に刃部が作り出されるものである。41は大型で側縁がやや湾曲する。42・43は上部に対向する浅い抉り部がみられる。44は表面両側縁と裏面右側縁に二次加工が施される。45は表面右側縁に急角度の二次加工により刃部が作り出される。47は石刃様の縦長剥片の左側縁に細かい剥離がみられる。48は表面下部に礫面を残す。50~61は下縁部に湾曲した刃部が作出されるものである。50~54は縦長で、50は下縁のみ二次加工が施される。51の刃部は急角

度で、上部には対向する抉り部が作出される。53は基部がやや張り出す。54は裏面の素材面は風化している。55-60は長さに比べ幅があるもので、急角度の分厚い刃部がみられる。平面は楕円形に近いものが多い。56は基部が四角形状に張り出す。59は刃部が分厚く、約1.4cmを測る。61は右側縁に尖った突出部が作り出されている。62は三叉状の形状で刃部は大きく内湾する。

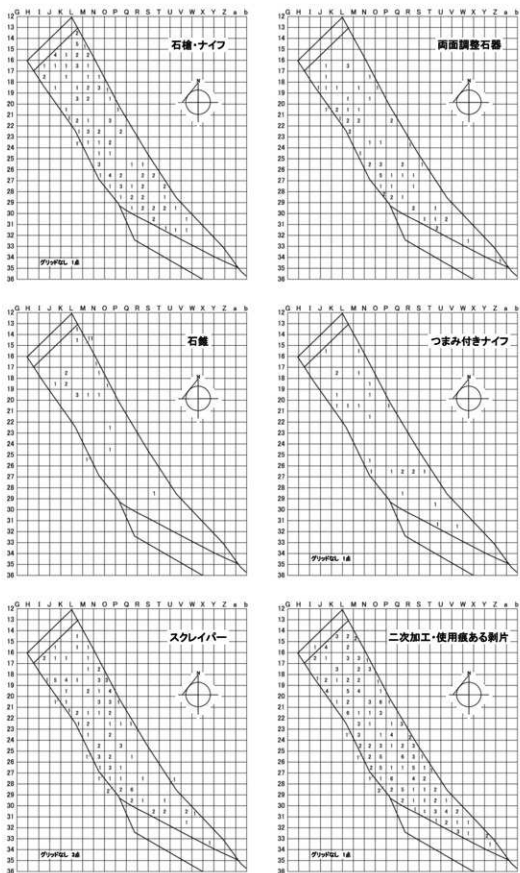
63-75は磨製石斧である。石材は砂岩、緑色泥岩、安山岩などがある。63は表裏面と側面に敲打痕がみられ、他は研磨が施される。64-66は剥離痕が部分的にみられ、他は研磨が施される。67はほぼ全面に丁寧な研磨が施され、刃部付近に剥離痕がみられる。68は刃部を欠失する。裏面の鑄は明瞭に作出されている。69は大型で、全体に敲打痕がみられ、刃部付近のみ研磨が施される。上部には礫面を残す。やや湾曲した刃部には細かい剥離がある。70-73は小型のもので、73以外は鑄が明瞭である。全体に丁寧な研磨が施されるが、部分的に剥離痕が残る。74は剥離痕が広くみられるもので、刃部周辺に研磨が施される。75は周縁部に剥離が施され、右側面に敲打痕がある。刃部が作出されていないため、未成品と考えられる。76-85はたたき石である。石材は砂岩が多い。76・77は主に上下面に潰打痕があるものである。77は磨製石斧の転用品と考えられる。78-80は周縁部に潰打痕がみられる。いずれも下縁部などに剥離痕が複数ある。81-85は主に礫の平坦面に潰打痕がみられるものである。81は周縁部に細かい剥離がある。82・83は側面、下面にも潰打痕がある。84は横断面が三角形の礫を素材とする。85は裏面に大きな剥離痕がみられる。86・87はすり石である。86の石材は粗粒玄武岩で、礫の平坦面に広い使用面がある。87の石材は軽石で表面・右側面等に滑らかな使用面がみられる。88-91は石鋸で、石材は全て砂岩である。薄い板状礫の縁辺を剥離により直線状に整形し、細長い使用面がみられる。88は下縁に使用面がある。89は下縁に連続的な剥離痕がある。表裏面には使用面がみられるが、下縁にはない。90は上下縁に使用面がある。91は小型の扁平な礫を素材とし、下縁に連続的な剥離痕があるが使用面はない。92-99は砥石で石材は砂岩である。92は小型で、下面以外を使用面とする。使用面は平滑で、部分的に溝状の擦痕がみられる。93-99は大型の砥石である。93は表面と左側面にごく細い擦痕がある。94は表裏面に幅10-20cmの溝状の使用面が複数並んでみられる。95は表面と左側面に使用面がある。表面の使用面は浅くくぼみ非常に滑らかである。96は表面に平滑な使用面がみられ、左側縁には連続的な剥離が施される。97は表面中央付近に幅の広い使用面があり、右上には溝状の擦痕が複数みられる。98は細かく割れた砥石を接合した。板状の礫の表裏面に広い範囲の使用面がある。99は表裏面に使用面がみられる。表面の使用面は非常に滑らかで、やや傾斜する。裏面の使用面の範囲は狭く、上部のみみられる。

4. 包含層出土の鉄製品 (図Ⅶ-58)

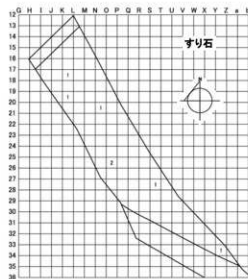
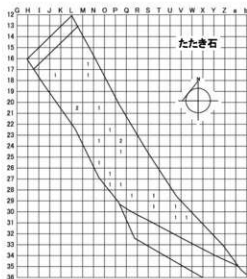
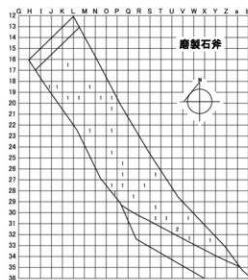
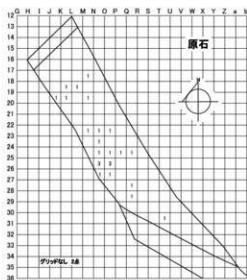
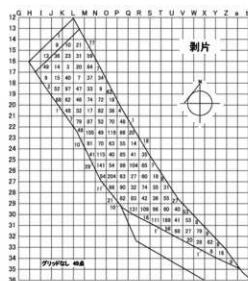
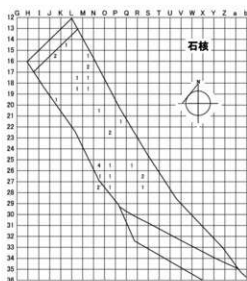
今回の調査では、金属製品として鉄製品13点、銅製品2点が出土している。鉄製品はマレク2点、釘6点、板状鉄製品4点、棒状鉄製品1点である。銅製品では指貫1点と円盤状銅製品1点が出土している。出土層位は多くがⅡ層から出土し、遺構出土はない。詳細な時期は不明だが、Ⅱ層出土のため、縄文文化期-近世アイヌ文化期の可能性がある。100・101はマレクである。どちらも先端と基部を一部欠失する。100は基部側がやや歪んでいる。102-106は釘である。104は先端部を欠失し、105・106は先端側が湾曲する。100のマレクについては金属の組織観察及び化学組成分析を行っている(付篇4節参照)。



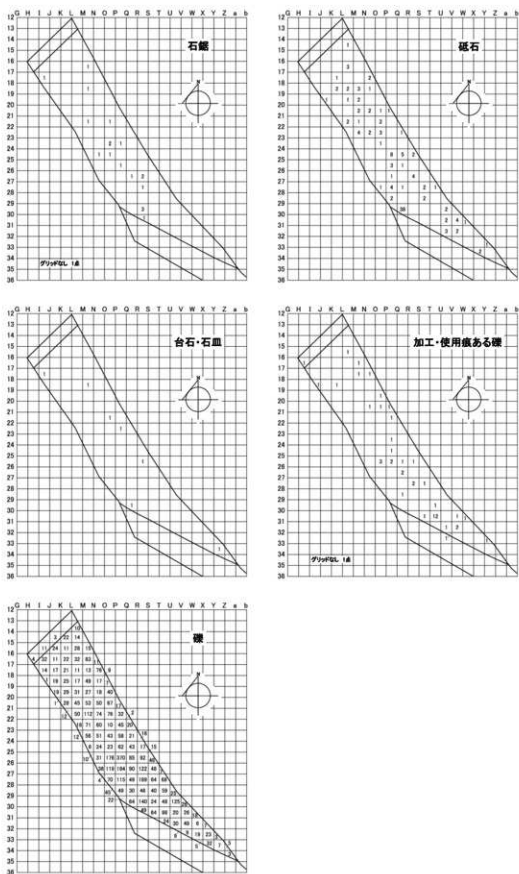
図Ⅳ-47 B地区包含層出土石器点数分布図(1)



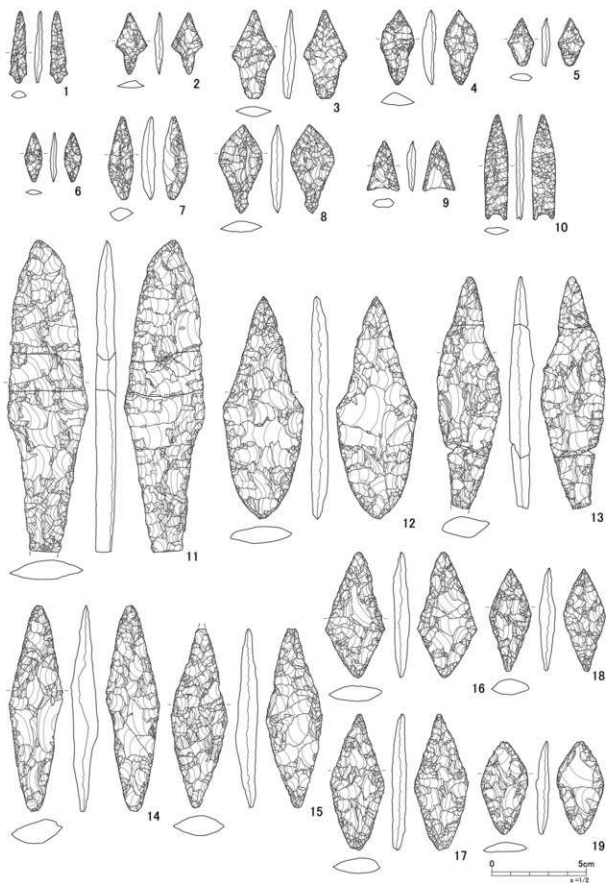
図Ⅶ-48 B地区包含層出土石器点数分布図(2)



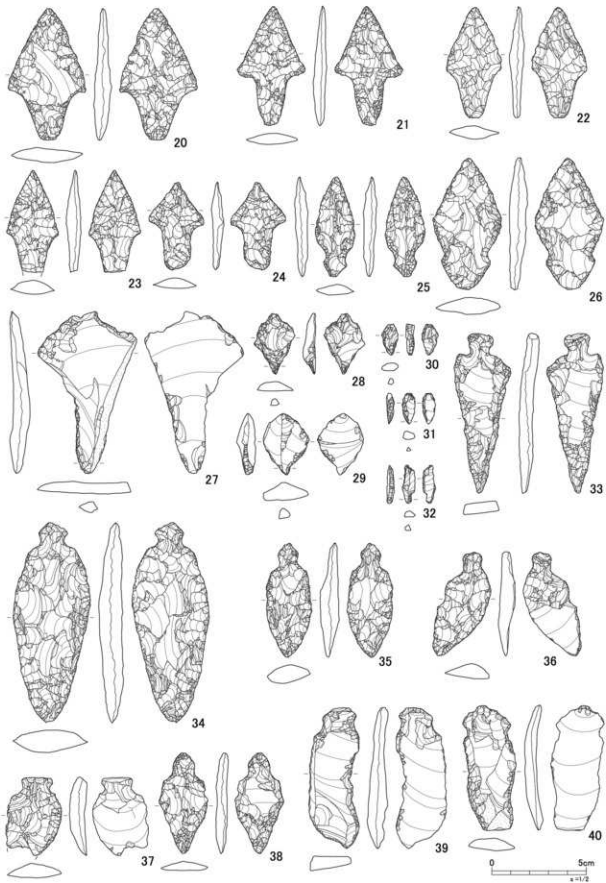
図Ⅶ-49 B地区包含層出土石器点数分布図(3)



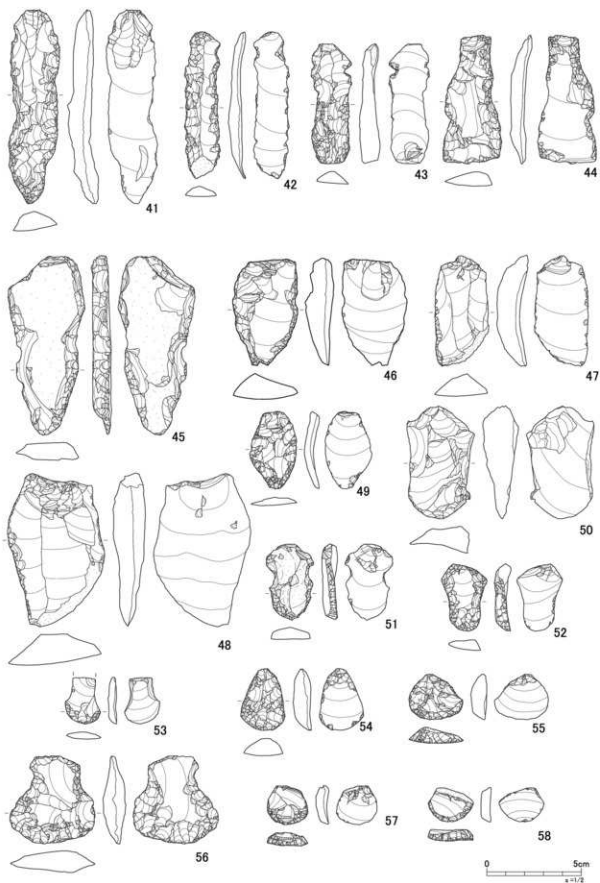
図Ⅴ-50 B地区包含層出土石器点数分布図(4)



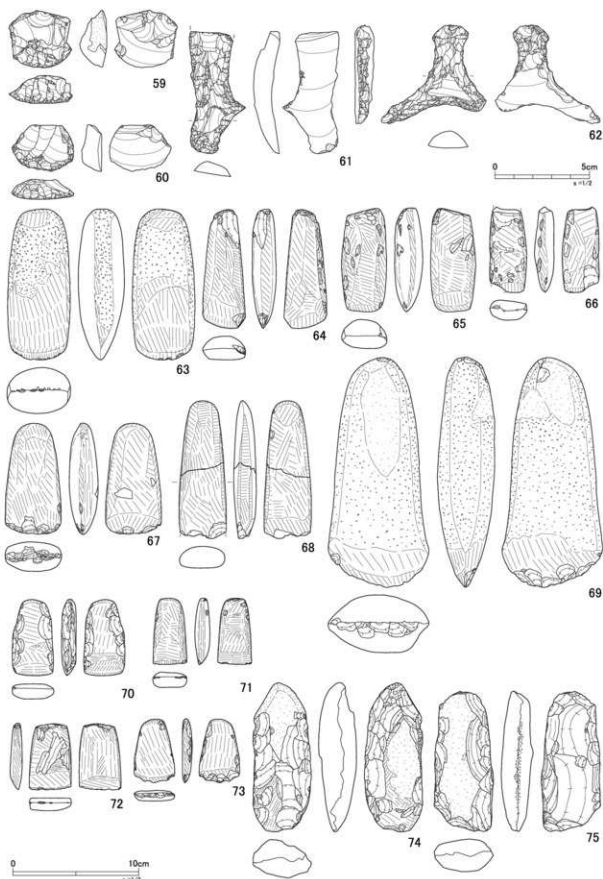
図Ⅷ-51 B地区包含層出土の石器(1)



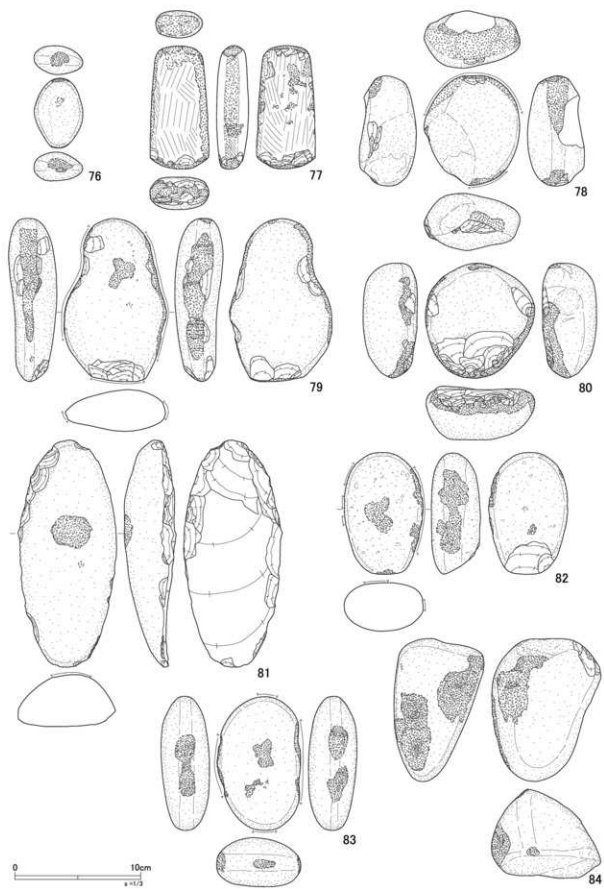
図Ⅶ-52 B地区包含層出土の石器(2)



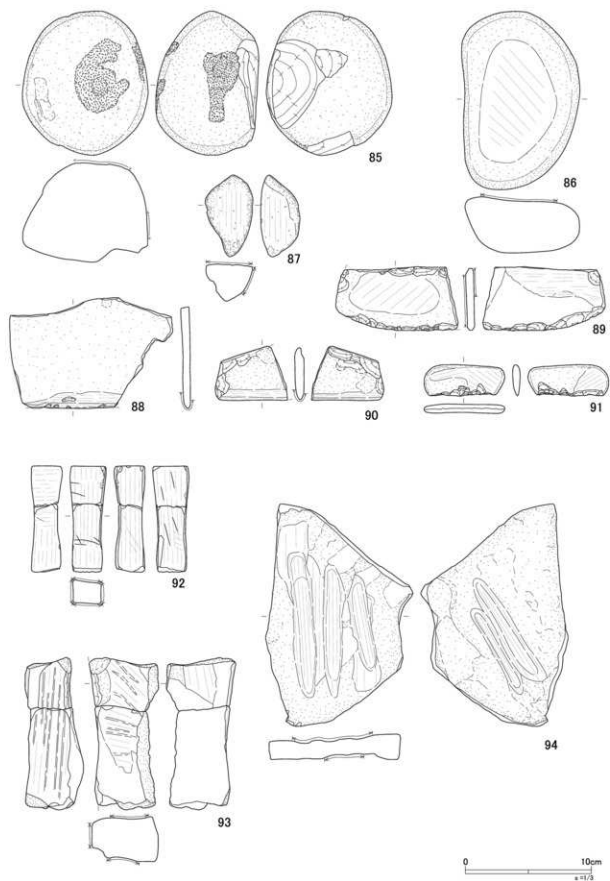
図Ⅴ-53 B地区包含層出土の石器(3)



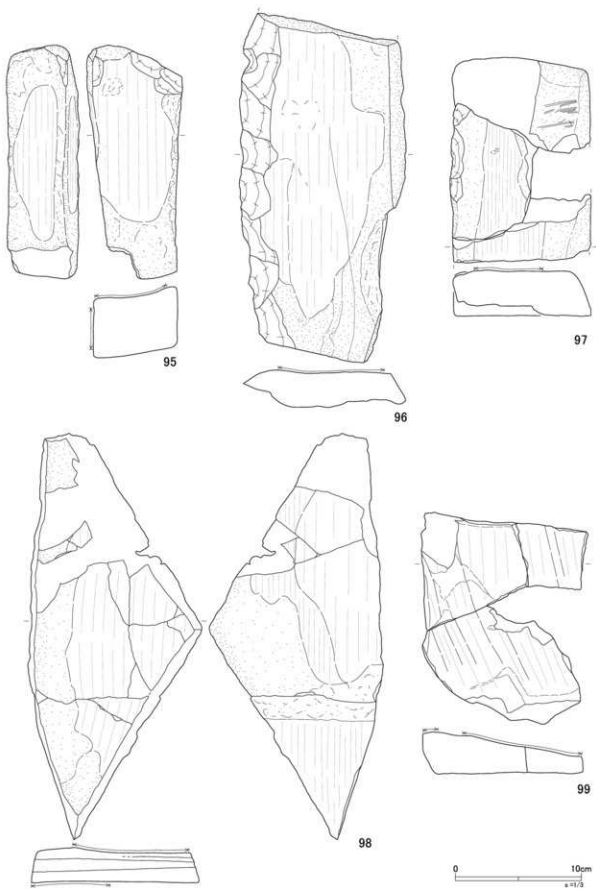
図Ⅶ-54 B地区包含層出土の石器(4)



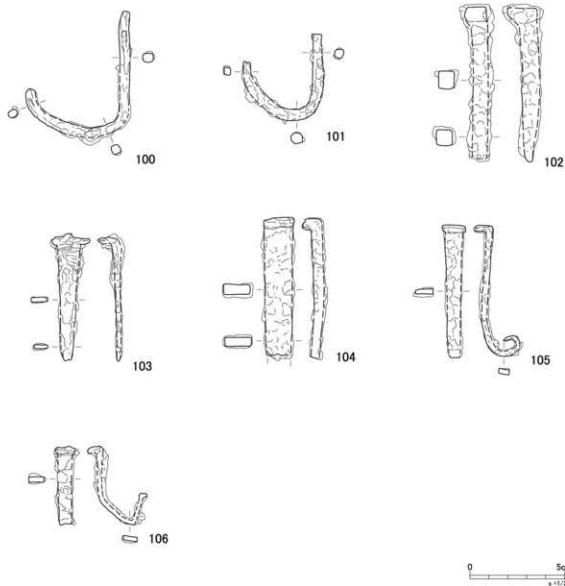
図Ⅴ-55 B地区包含層出土の石器(5)



図Ⅶ-56 B地区包含層出土の石器(6)



図Ⅴ-57 B地区包含層出土の石器(7)



図Ⅵ-58 B地区包含層出土の鉄製品

5. 遺構出土等の微細遺物について

竪穴住居跡、焼土等の遺構の調査において、細かい炭化物や微細な剥片・碎片、骨片等が検出された場合、これらの微細遺物は土壌ごとビニール袋（36×50cm）に入れ、1mmメッシュのフルイを使用して水洗選別を行い回収した。土壌ごと取り上げたのは、住居跡22軒（ⅢH-4・6・8・11・12・14～17・20・22・24～27・30・32・33・36・37・39、ⅢMH-1）、土坑1基（ⅢP-13・29）、焼土1か所（ⅢF-7）である。竪穴住居跡では覆土中の炭化物、剥片、骨等の微細な遺物が出土した場合や、付属遺構の焼土やフレイク集中の土壌等がある。土坑については土坑内から出土したフレイク集中、焼土は炭化物、骨片等を含む土壌について土壌採取を行った

全体でビニール袋75袋分の水洗選別を行い、その結果、土器がⅢ～Ⅳ群27点、不明5点、石器等では石鏃1点、二次加工・使用痕ある剥片1点、剥片・碎片が1,479点、他に炭化物、骨片を検出した。ⅢH-14HF-1、ⅢH-26HF-1、ⅢMH-1HF-3の土壌から検出した炭化物については、放射性炭素年代測定の試料として分析を行った（試料名BETC-13・18・21）。分析結果については付篇1節に掲載している。

（広田）

表Ⅴ-1 B地区包含層出土土器点数表

遺物種類/層位		I	II	III	IIIa	風例木	合計
I群	横位	良好		6	1		7
		割断					0
		摩耗					0
		小破片		6			6
		小計		12	1		13
I群合計		0	0	12	1	0	13
II群	口縁部	良好		2			2
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計		2			2
	横位	良好	10	1	1		12
		割断	21	10	3		37
		摩耗	1				1
		小破片	11	2	2		18
		小計	49	13	6		68
II群合計		0	49	15	6	0	70
III群	口縁部	良好		10			10
		割断					0
		摩耗					0
		小破片		1			1
		小計		11			11
	横位	良好	5	36			41
		割断	2	24			26
		摩耗	1				1
		小破片	1	76			77
		小計	8	136			144
	底面	良好	3				3
		割断	8				8
		摩耗					0
		小破片					0
		小計	11				11
III群合計		0	8	158	0	0	166
IIIa群	口縁部	良好	2	36	29		67
		割断	2	2	1		5
		摩耗					0
		小破片	1	1			2
		小計	2	39	32		74
	横位	良好	3				3
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計	3				3
	底面	良好	22	314	264	20	620
		割断	22	230	182	15	650
		摩耗	23	1			24
		小破片	76	204	284	26	590
		小計	129	771	731	64	1694
不明・その他	良好		13	7		20	
	割断		5	10		15	
	摩耗					0	
	小破片		6			6	
	小計		19	23		41	
IIIa群合計		125	828	791	62	1	1907
IV群	口縁部	良好	2	34	19	4	59
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計	2	34	19	4	59
	横位	良好	13	132	52	11	210
		割断	2	37	27	4	70
		摩耗	3	1			4
		小破片	2	28	39	5	65
		小計	17	200	100	20	339
	底面	良好	4	4			8
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計	4	4			8
IV群合計		19	238	127	24	2	410

遺物種類/層位		I	II	III	IIIa	風例木	合計
V群	口縁部	良好	2	68	12	1	83
		割断		1			1
		摩耗					0
		小破片		11	2		13
		小計	2	80	14	1	97
	横位	良好	19	829	106	1	966
		割断	77	15	1		93
		摩耗	15	1			16
		小破片	2	200	23	1	226
		小計	21	1131	145	3	1301
底面	良好		7	1		8	
	割断					0	
	摩耗		1			1	
	小破片					0	
	小計		8	1		9	
V群合計		23	1219	160	4	1	1407
VI群	口縁部	良好	2	20	5		27
		割断			2		2
		摩耗		1			1
		小破片		1			1
		小計	2	22	7		31
	横位	良好	1				1
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計	1				1
	底面	良好	1	80	56	1	138
		割断		51	20		71
		摩耗					0
		小破片		24	18		42
		小計	1	155	94	1	251
不明・その他	良好		8			8	
	割断		3			3	
	摩耗					0	
	小破片		11			11	
	小計		22			22	
VI群合計		3	189	101	1	0	294
VII群	口縁部	良好		5			5
		割断					0
		摩耗					0
		小破片					0
		小計		5			5
VII群合計		0	5	0	0	0	5
VIII群	口縁部	良好					0
		割断					0
		摩耗					0
		小破片		1			1
		小計		1			1
	横位	良好		1	1		2
		割断		9			9
		摩耗		1			1
		小破片		19	4		23
		小計		30	5		35
底面	良好		1			1	
	割断					0	
	摩耗					0	
	小破片					0	
	小計		1			1	
VIII群合計		0	32	5	0	0	37
土製品	良好		3			3	
	割断					0	
	摩耗					0	
	小破片		4			4	
	小計		7			7	
不明合計		0	7	0	0	0	7
合計		170	2325	1369	98	4	4216

表Ⅵ-2 B地区包含層出土石器等点数表

遺物種別/層位			I	II	III	ⅢM	IV	V	VI	Ⅷ上土	Ⅷ中土	Ⅷ下土	Ⅷ表土	合計
前	器種	残存状態												
割片 石器類	石鏃	完形	1	31	15	3		1						71
		準完形		16	3							2		21
		半形		6	3	1								10
		片		11	2	1								14
	小計		1	64	23	5		1			2		116	
	石槍・ナイフ	完形		17	19	3								39
		準完形		13	5	1								19
		半形	1	18	15	3								37
		片		11	7	2								20
	小計		1	57	40	9							117	
	石鏃	完形		25	3									30
		準完形												0
		半形												0
		片												0
	小計			25	3								30	
	両面調整 石鏃	完形		6	6	1								13
		準完形		1	1									2
		半形		14	1	1								16
		片		22	11	2								35
	小計			43	19	4							66	
	つまみ付き ナイフ	完形		2	10	6	1							19
		準完形			4	2								6
		半形												0
片			1										1	
小計		2	15	8	1							26		
ステレィパー	完形	1	29	17	1						2		50	
	準完形		16	4	3								23	
	半形		17	9	2								28	
	片		3	6									9	
小計		1	65	36	6						2	110		
二次加工・使用済のある割片		2	125	61	14					1	1		204	
石核			23	6									29	
割片		58	389	1439	389	1	8	1	5	6	23		5819	
砕石		2	22	2	1								27	
石製品			1										1	
割片石器類合計			67	636	1645	429	1	9	1	6	8	26	6542	
礫 石器類	磨製石斧	完形		6	3					1		1	13	
		準完形	1		1								2	
		半形		4	1									5
		片		5	3									8
	小計		1	17	7					1	2		28	
	たたき石	完形		11	5									16
		準完形		2	1									3
		半形												0
		片		2										2
	小計			15	6								21	
	すり石	完形		2	1						1			4
		準完形												0
		半形												0
		片			3									3
	小計			5	1					1			7	
	石鏃	完形		1										1
		準完形												0
		半形			2	1								3
		片		3	11	1						1		16
	小計			6	12	1					1		20	
	砥石	完形		3										3
		準完形												0
		半形												0
片		1	67	58	4								130	
小計		1	70	58	4							133		
台石・石皿	完形		2	1									3	
	準完形												0	
	半形												0	
	片		1	3									4	
小計			3	4								10		
礫石器類合計			2	116	88	5	0	0	0	1	2	2	217	
礫	加工・使用済のある礫		1	27	19	1						1	49	
	完形	3	418	120	11			30					572	
	片	8	3234	1294	185			10	1		2	1	4735	
	小計		11	3652	1414	196		30	1		2	1	5307	
礫合計			12	3679	1433	197	0	30	1	0	3	1	5536	
総計			83	8145	3166	631	1	39	2	7	13	29	12114	

表Ⅶ-3 B地区復元土器掲載一覧(1)

図	掲載番号	復元番号	出土地点	層位	遺物番号	合計点数	部位	文様・施装等	器種	分類	型式名	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
Ⅶ-1	1	88	30	1	ⅡPS-2 Ⅱ	1	97	口縁～肩・外面：漆黒、模写・縦文、刺突列	ⅡPS	Ⅱ群	後京Ⅱ式	26.2	12.7	32.7	外面に漆黒、一部赤色、黒色付着物一部有り
					ⅡPS-2 Ⅱ	2									
					ⅡPS-2 Ⅱ	4									
					ⅡPS-2 Ⅱ	25									
					ⅡPS-2 Ⅱ	23									
Ⅶ-2	2	88	41	1	ⅡPS-2 Ⅱ	1	13	外面：紅銅織文、縦文・模写・刺突列	ⅡPS	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ型(古)	—	12.6	15.0	粘土に漆黒・黒色、焼熱により外面一部赤色
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
Ⅶ-2	3	88	6	1	ⅡPS-2 Ⅱ	2	10	外面：四角刺突文、紅銅織文、底面：紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	13.0	6.7	20.8	群集3.994
					ⅡPS-2 Ⅱ	6									
Ⅶ-2	4	88	4	1	ⅡPS-2 Ⅱ	1	1	外面：四角刺突文、一部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	3.8	2.7	5.0	小型土器
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
Ⅶ-2	5	88	5	1	ⅡPS-2 Ⅱ	4	5	口唇部：紅銅文、外面：四角刺突文、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文、底面：紅銅文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	16.2	7.2	20.0	外面に漆黒付着物あり、内面口縁部に漆黒色付着物有り、群集1.454
					ⅡPS-2 Ⅱ	10									
					ⅡPS-2 Ⅱ	23									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
Ⅶ-2	6	88	26	1	ⅡPS-2 Ⅱ	29	29	口唇部：突起(溝状面立版文)、外面：彫字(四角刺突文)、彫字並下四角刺突文、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	24.1	—	17.1	口唇部内外面黒色付着物有り
					ⅡPS-2 Ⅱ	2									
					ⅡPS-2 Ⅱ	6									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
Ⅶ-3	7	89	27	1	ⅡPS-2 Ⅱ	2	11	口唇部：紅銅文、外面：紅銅織文、四角刺突文、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	20.8	—	16.5	外面部分のみに漆黒有り
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
					ⅡPS-2 Ⅱ	2									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
					ⅡPS-2 Ⅱ	1									
Ⅶ-3	8	89	1	1	ⅡPS-11 Ⅱ	18	18	口唇部：突起部(四角刺突文)、紅銅織文、外面：彫字(四角刺突文、紅銅織文)、彫字並(四角刺突文)、彫字(紅銅織文、紅銅織文、模写文並(四角刺突文))	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	23.2	—	21.9	漆黒土器、粘土に漆黒を多く含む、外面全体に漆黒を塗り、外面全体に漆黒を塗り、外面に漆黒部付着物有り、内面漆黒により赤褐色
					ⅡPS-11 Ⅱ	18									
Ⅶ-3	9	89	2	1	ⅡPS-11 Ⅱ	18	18	口唇部：山形突起、紅銅織文、外面：2本1組棒状突起、四角刺突文、紅銅織文、内面：紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	27.7	—	27.0	外面部分のみに漆黒付着物有り、粘土に黒色部物多く含む
					ⅡPS-11 Ⅱ	18									
Ⅶ-4	10	89	3	1	ⅡPS-12 Ⅱ	1	67	口唇部：山形突起、紅銅織文、外面：2本1組棒状突起、四角刺突文、紅銅織文、内面：紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	27.7	—	27.0	外面全体に漆黒を塗り、外面に一部漆黒有り
					ⅡPS-12 Ⅱ	2									
					ⅡPS-12 Ⅱ	16									
					ⅡPS-12 Ⅱ	2									
					ⅡPS-12 Ⅱ	22									
					ⅡPS-12 Ⅱ	1									
					ⅡPS-12 Ⅱ	1									
Ⅶ-4	11	89	25	1	ⅡPS-12 Ⅱ	37	62	口唇部：紅銅織文、外面：内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	31.0	—	22.1	外面全体に漆黒を塗り、外面に一部漆黒有り
					ⅡPS-12 Ⅱ	5									
Ⅶ-5	12	89	8	1	ⅡPS-14 Ⅱ	30	80	口唇部：紅銅文、外面：四角刺突文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	23.2	—	25.1	外面一部漆黒有り
					ⅡPS-14 Ⅱ	30									
Ⅶ-5	13	90	9	1	ⅡPS-14 Ⅱ	5	5	外面：四角刺突文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	—	3.7	11.3	粘土中不上り層
					ⅡPS-14 Ⅱ	5									
Ⅶ-5	14	90	10	1	ⅡPS-16 Ⅱ	1	38	口唇部：山形突起、紅銅織文、外面：四角刺突文、模写文、彫字、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	24.4	9.5	27.0	粘土中尖付土層、群集3.610
					ⅡPS-16 Ⅱ	21									
					ⅡPS-16 Ⅱ	16									
Ⅶ-6	15	90	30	1	ⅡPS-17 Ⅱ	16	41	口唇部：突起(刺突文)、紅銅織文、外面：彫字(刺突文)、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式トコロ型(新)	24.2	—	26.3	口縁部口縁、粘土に漆黒を塗り
					ⅡPS-17 Ⅱ	23									
Ⅶ-6	16	90	21	1	ⅡPS-17 Ⅱ	37	37	外面：口縁部紅銅織文、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群	不明	13.1	7.8	17.0	上層部、文書及び漆黒、外面黒色付着物有り、内面漆黒有り
					ⅡPS-17 Ⅱ	11									
Ⅶ-6	17	90	15	1	ⅡPS-21 Ⅱ	16	26	口唇部：紅銅文、外面：四角刺突文、紅銅織文、内面：口縁部紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	24.0	—	19.0	外面部分のみに漆黒有り
					ⅡPS-21 Ⅱ	11									
Ⅶ-7	18	90	11	1	ⅡPS-21 Ⅱ	4	26	口唇部：山形突起、紅銅織文、外面：四角刺突文、縦文・縦文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	27.9	—	24.8	外面部分のみに漆黒有り
					ⅡPS-21 Ⅱ	7									
					ⅡPS-21 Ⅱ	3									
					ⅡPS-21 Ⅱ	9									
					ⅡPS-21 Ⅱ	15									
					ⅡPS-21 Ⅱ	10									
					ⅡPS-21 Ⅱ	19									
					ⅡPS-21 Ⅱ	20									
					ⅡPS-21 Ⅱ	22									
					ⅡPS-21 Ⅱ	24									
Ⅶ-7	19	91	12	1	ⅡPS-21 Ⅱ	24	24	外面：四角刺突文、紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	23.1	—	20.1	外面部分のみに漆黒有り
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
Ⅶ-7	20	91	13	1	ⅡPS-21 Ⅱ	12	22	外面：紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	—	9.6	26.0	彫刻を多く含む、焼熱により赤褐色
					ⅡPS-21 Ⅱ	14									
Ⅶ-8	21	91	28	1	ⅡPS-21 Ⅱ	10	37	口唇部：紅銅文、外面：四角刺突文、紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群a類	北朝Ⅱ式	22.5	—	24.0	上層部
					ⅡPS-21 Ⅱ	10									
					ⅡPS-21 Ⅱ	21									
					ⅡPS-21 Ⅱ	15									
					ⅡPS-21 Ⅱ	5									
Ⅶ-8	22	91	32	1	ⅡPS-21 Ⅱ	5	31	口唇部：山形突起、外面：突起、模写・彫字、紅銅織文、模写文、模写文、内面：紅銅織文	ⅡPS	Ⅱ群	下田Ⅱ式Ⅱ式	27.7	—	—	表裏に黒文、黒文、群集5.730
					ⅡPS-21 Ⅱ	2									
					ⅡPS-21 Ⅱ	2									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
					ⅡPS-21 Ⅱ	1									
Ⅶ-9	23	91	34	1	ⅡPS-25 Ⅱ	2	7	口唇部：山形突起、外面：突起、彫字	ⅡPS	Ⅱ群	下田Ⅱ式Ⅱ式	14.1	6.3	15.9	表裏に黒文、黒文、群集5.730
					ⅡPS-25 Ⅱ	1									
Ⅶ-9	24	92	32	1	ⅡPS-25 Ⅱ	13	15	口唇部：山形突起、外面：突起、彫字	ⅡPS	Ⅱ群	—	—	—	10.5	—
					ⅡPS-25 Ⅱ	2									

表VI-3 B地区復元土器掲載一覧(2)

図	掲載番号	図版	復元番号	出土地点	層位	遺物 番号	片数	合計 片数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式口	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考			
VII-9	33	92	16	IIIB-26	覆土 1	2	20	68	口縁～胴部	口唇部：山形突起、L線文 外面：肥厚帯(突起)、R、L 線刻文、内形刺突文、R、 L線刻文、内面：R、L線 刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式 トコロ成 (附)	30.1	—	49.7				
																		IIIB-26	覆土 2	20
																		IIIB-26	覆土 3	7
VII-10	26	92	16	IIIB-26	床	—	5	7	口縁～胴部	外面：肥厚帯、内形刺突文、 L線刻文	深鉢	II群 b 類	北朝Ⅱ式 トコロ成 (古)	11.5	—	13.7	小形、外面刻線多い、 底縁により赤褐色、 口縁より赤褐色、 厚丸口唇有り			
																		IIIB-26	床	—
VII-10	27	92	17	IIIB-26	覆土 1	—	9	9	底蓋	外面：肥厚帯(突起)、R、L 線刻文、内面：L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	—	8.1	11.9				
																		IIIB-27	覆土 1	—
VII-10	28	92	33	M-47区	I	—	9	9	口縁～胴部	口唇部：突起、外面：外面： L線刻文、内面：L線刻文、 L線刻文、内面：L線刻文	深鉢	VI群	宇田ノ穴Ⅱ 式	9.3	—	10.6	口唇部：内面黒色付着 物有り			
																		IIIB-27	床面	4
VII-10	29	92	19	IIIB-27	覆土 1	—	4	6	口縁～胴部	口唇部：L線文、外面：内形 刺突文、内面：口縁部刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	22.5	—	17.0	口唇部：内面黒色付着 物有り			
																		IIIB-27	覆土 1	—
VII-10	30	92	20	IIIB-26	覆土 1	—	4	6	口縁～胴部	口唇部：L線文、外面：内形 刺突文、内面：口縁部刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	23.6	—	15.0	口唇部黒色付着物有り			
																		IIIB-27	覆土 1	—
VII-11	31	93	36	IIIB-26	覆土 1	—	11	48	口縁～底蓋	口唇部：肩外 外面：肩外有 刺突、L線刻文	深鉢	V群 c 類	緑ノ田式	22.8	10.9	25.7	横縁5.5cm有り、内 外面黒色付着物有り			
																		M-21区	II	—
VII-11	32	93	21	IIIB-31	覆土 1	—	1	63	胴～底蓋	外面：L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	—	8.4	23.3	細かく割れたため破片 片数不明			
																		IIIB-31	覆土 2	—
VII-11	33	93	29	IIIB-36	覆土 1	—	1	5	口縁～胴部	口唇部：L線刻文、外面：横 状突起、L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	20.3	—	16.0	口縁部不全影響する			
																		IIIB-36	覆土 1	—
VII-12	31	93	22	IIIB-42	覆土 1	—	16	23	口縁～胴部	口唇部：L線文、外面：肥 厚帯(横状突起)有り、L線 文、L線刻文、肩外、内 形刺突文、R、L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	26.9	—	23.8	外面口縁部黒色付着物 有り、胴部底縁により 赤褐色			
																		IIIB-42	覆土 2	—
VII-12	35	93	23	IIIB-6	床	—	2	34	口縁～底蓋	口唇部：L線文、外面：肥厚 帯、内形刺突文、L線刻文、 L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	26.2	—	26.9	外面口縁部黒色付着物 有り、胴部底縁により 赤褐色、底部今一つ上 げ			
																		IIIB-6	床	—
VII-13	36	94	38	P-27区	II	—	3	42	口縁～胴部	口唇部：肩外、口縁部：肩 外、L線刻文、肩外(調 面L線文)	深鉢	V群 c 類	緑ノ田式	24.5	—	20.1				
																		P-27区	II	—
VII-13	37	94	14	IIIB-31	覆土 1	—	2	16	口縁～胴部	口唇部：山形突起、肩外、外 面：肥厚帯(突起)、肩外、 内形刺突文、L線刻文、横状突 起(人型突起?、肩外)	深鉢	II群 b 類	北朝Ⅱ式 トコロ成 (古)	27.8	—	24.2	粘土口縁縁石有り			
																		IIIB-31	覆土 1	—
VII-14	38	94	21	IIIB-10	覆土 上位	—	30	21	口縁～胴部	口唇部：L線文、外面：肥 厚帯(横状突起、横縁面L線 文)、肩外(調面L線文)、 L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式	21.2	—	32.4	胴下半部割れにより磨 耗、赤褐色			
																		IIIB-10	覆土 上位	—
VII-15	39	94	7	IIIB-16	覆土 1	—	2	36	口縁～胴部	口唇部：山形突起、L線文 外面：肥厚帯(突起)、L 線文、内形刺突文、L、 L線刻文、内面：L線刻文	深鉢	IV群 a 類	北朝Ⅱ式 トコロ成 (附)	33.5	—	45.7				
																		IIIB-16	覆土 1	—
VII-21	1	1000	90	S-29区	II	—	16	16	口縁～底蓋	外面：内形刺突文、L、L線 刻文	深鉢	III～IV群	北朝Ⅱ式	11.4	8.4	14.2	全体の3割、粘土に 黒縁付着、底縁0.7cm			
																		S-29区	II	—
VII-24	2	100	37	K-19区	II	—	41	62	口縁～胴部	口唇部：L線文、外面：L 線、横状突起、内面：横状突 起文	深鉢	V群 c 類	緑ノ田式	23.5	—	16.1				
																		K-19区	II	—

表Ⅶ-4 B地区遺構出土破片土器掲載一覧(1)

図	掲載番号	図説	出土地点	層位	掲載番号	破片部位	合計点数	部位	文様・装飾等	図録	分類	型式名	備考
M-16	40	95	M-16-4	床面直上	1	1	8	口縁～胴部	外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：紅織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	
				層7	—	1							
M-16	41	95	M-16-6	N-20区	層8	—	2	胴部	外面：横位刺突文	図録	I群b類	東狭器Ⅱ式	
				層9	—	1							
M-16	42	95	M-16-6	床面	1	13	14	胴部	外面：紅糸織文、縦・横位刺突文	図録	Ⅲ群b類	北狭Ⅱ式?コ066類	胎土織跡含む
				層7	—	1							
M-16	43	95	M-16-6	層16	16	1	2	口縁部	口唇部：山形突起、押圧 外面：肥厚帯、円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式?コ066類	胎土織跡含む
				層17	17	1							
M-16	45	95	M-16-6	層11	11	3	6	口縁部	口唇部：山形突起、L糸織文 外面：円形刺突文、L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅳ式	内面着色付着物有り
				層13	13	3							
M-16	46	95	M-16-9	層1	—	2	6	口縁部	口唇部：山形突起、L糸織文 外面：L糸織文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	内面着色付着物有り、磨面孔10箇所有り
				層2	—	1							
M-16	47	95	M-16-9	層1	—	1	5	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：L糸織文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	
				層2	—	1							
M-16	48	95	M-16-9	層1	—	1	5	口縁部	外面：横位刺突文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	
				層2	—	1							
M-16	49	95	M-16-9	層1	—	2	5	口縁部	外面：斜位刺突文	図録	Ⅲ群a類	縁器Ⅱ式?	
				層2	—	2							
M-16	50	95	M-16-9	P-27区	層8	—	5	口縁部	口唇部：溝面直紋 外面：縦・横位直紋	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	底穴口縁
				層9	—	2							
M-17	51	95	M-17-9	層1	—	3	4	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	内面刻線多い
				層11	—	1							
M-17	52	95	M-17-11	層1	—	2	2	胴部	外面：肥厚帯(押圧)、円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群b類	北狭Ⅱ式?コ066類	胎土織跡含む
				層2	—	2							
M-17	53	95	M-17-40	床面	—	1	2	胴部	外面：押圧文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	縁器Ⅱ式	胎土織跡多く含む
				層1	—	1							
M-17	54	95	M-17-14	層1	—	1	3	底部	外面：紅糸織文 底面：紅織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ～Ⅴ式	内面刻線
				層2	—	2							
M-17	55	96	M-17-15	層1	—	4	10	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：円形刺突文、紅糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	外面下部刻線多い
				層2	—	1							
M-17	57	96	M-17-15	層1	—	3	3	口縁部	口唇部：紅織文 外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：紅糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	内面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-17	58	96	M-17-15	層1	—	1	3	口縁部	外面：円形刺突文、紅糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	胎土に織跡少量含む、内面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-17	59	96	M-17-15	層1	—	1	3	口縁部	外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：紅織文	図録	Ⅲ群a類	北狭V式	外面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-17	60	96	M-17-15	層1	—	1	3	胴部	口唇部：斜方	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	内外面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-17	61	96	M-17-20	層1	—	2	3	口縁部	外面：縦・横位斜格子状押圧文	図録	Ⅲ群a類	縁器Ⅱ式	
				層2	—	2							
M-17	62	96	M-17-21	層1	—	2	3	口縁部	口唇部：紅織文 外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：紅糸織文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	
				層2	—	2							
M-17	63	96	M-17-21	層1	—	3	3	口縁部	口唇部：斜方 外面：横位直紋文(下部に縦線状凸出)、L糸織文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	
				層2	—	3							
M-17	64	96	M-17-21	層1	—	1	3	口縁部	口唇部：山形突起、押圧文 外面：円形刺突文、L糸織文	図録	Ⅲ群b類	北狭Ⅱ式?コ066類	胎土により赤褐色化・磨面、胎土に織跡含む
				層2	—	1							
M-18	65	96	M-18-19	層1	—	17	17	胴部	口唇部：L糸織文 外面：円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅳ群a類	北狭Ⅱ式	磨面孔10箇所有り、外面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-18	66	96	M-18-21	床面	—	1	2	口縁部	外面：円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅳ群a類	北狭V式	
				層1	—	1							
M-18	67	96	M-18-21	層1	—	1	2	口縁部	口唇部：紅織文 外面：紅糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅳ～Ⅴ式	内面着色付着物有り
				層2	—	1							
M-18	68	97	M-18-21	層1	—	2	3	胴部	外面：横位直紋文、2本1組L糸織文、L糸織文	図録	Ⅳ群	下部Ⅱ式Ⅱ式	内面着色付着物有り
				層2	—	2							
M-18	69	97	M-18-21	層1	—	3	3	口縁部	外面：円形刺突文、斜刺突文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	円形刺突文小型
				層2	—	3							
M-18	70	97	M-18-25	層1	—	1	1	口縁部	口唇部：溝面直紋文、L糸織文 外面：L糸織文	図録	Ⅲ群c類	縁～同式	
				層2	—	1							
M-18	71	97	M-18-26	層1	—	1	1	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：肥厚帯、円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群～Ⅳ群	北狭Ⅱ式?コ066類	
				層2	—	1							
M-18	72	97	M-18-26	層1	—	1	1	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：円形刺突文、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	
				層2	—	1							
M-18	73	97	M-18-26	層1	—	3	4	口縁部	口唇部：L糸織文 外面：肥厚帯、無文帯、斜刺突文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	胎土により赤褐色化、磨面等様
				層2	—	3							
M-18	74	97	M-18-26	層1	—	2	3	口縁部	口唇部：紅糸織文 外面：肥厚帯、無文帯(円形刺突文)、L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	胎土により赤褐色化、磨面等様
				層2	—	2							
M-18	75	97	M-18-26	層1	—	2	3	胴部	外面：横～斜位L糸織文	図録	Ⅲ群a類	縁器Ⅱ式	
				層2	—	2							
M-18	76	97	M-18-26	層1	—	1	3	胴部	外面：円形刺突文、溝面直紋文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群～Ⅳ群	北狭Ⅱ式	胎土に織跡含む
				層2	—	1							
M-18	77	97	M-18-26	層1	—	4	3	底部	外面：縦位直紋文 底面：L糸織文	図録	Ⅲ群～Ⅳ群	北狭Ⅱ式	外面刻線多い
				層2	—	4							
M-18	78	97	M-18-31	層1	—	3	3	胴部	外面：無文帯、円形刺突文(縦位直紋文)、斜刺突文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	
				層2	—	3							
M-18	79	97	M-18-36	層1	—	3	3	口縁部	外面：肥厚帯(斜刺突文)、無文帯(円形刺突文)、L糸織文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	
				層2	—	3							
M-18	80	97	M-18-36	層1	—	1	3	口縁部	外面：無文帯、円形刺突文、溝面直紋文	図録	Ⅲ群a類	北狭Ⅱ式	胎土に胎痕多く含む
				層2	—	1							
M-18	81	97	M-18-40	層1	—	4	3	口縁部	外面：円形刺突文、紅糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群～Ⅳ群	北狭Ⅱ式?	外面着色付着物有り、磨面等様
				層2	—	4							
M-18	82	97	M-18-40	層1	—	13	13	底部	外面：斜方、L糸織文 内面：L糸織文	図録	Ⅲ群～Ⅳ群	北狭Ⅱ式	
				層2	—	13							

表Ⅱ-4 B地区遺構出土破片土器掲載一覧(2)

図	掲載番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	合計点数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式名	備考
M-19	83	97	ⅡB-41	覆土	—	1		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:棒状突起(溝状断面) 内面:1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-20	84	98	ⅡB-43	覆土	—	1		口縁部	外面:肥厚帯(押引文)、円形刺突文 内面:1段縄文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-20	85	98	ⅡB-43	灰面	1	8	9	口縁~胴部	外面:山形突起,肥厚帯,1段縄文 内面:口縁部1段縄文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	外面部面跡著しい,胎土に繊維多量を含む
M-20	86	98	ⅡB-41	ⅡB層	—	1		口縁部	外面:山形突起(縦位沈没) 内面:7字文	深鉢	Ⅱ群a類	南朝Ⅱ式	胎土に繊維多量を含む
M-20	87	98	ⅡB-41	覆土	—	1	3	胴部	外面:1,1上1縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-20	88	98	ⅡB-41	M-19層	—	2		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:肥厚帯(1段縄文) 無文帯,円形刺突文,1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-20	89	98	ⅡB-19	覆土	—	1	5	口縁~胴部	口唇部:1段縄文 外面:肥厚帯(棒状突起) 1段縄文,無文帯,円形刺突文,縦位沈没	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-21	90	98	ⅡB-6	覆土	—	1		胴部	外面:1段縄文	深鉢	I群b類	南朝Ⅱ式	
M-21	91	98	ⅡB-6	覆土	—	1		口縁部	外面:横位縄文,1段縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	
M-21	92	98	ⅡB-6	灰土	11	1		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:無文帯,溝状断面 圧痕文,1,1上1縄文	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式	胎土に砂粒を含む
M-21	93	98	ⅡB-6	覆土	—	1	2	口縁~胴部	口唇部:短弁 外面:1段縄文,段(刺突文) 内面:1段縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	
M-21	94	98	ⅡB-21	覆土	—	2		口縁部	外面:肥厚帯(押引文)、円形刺突文,1段縄文 内面:押引文,1段縄文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-21	95	98	ⅡB-9	覆土	—	1		口縁部	口唇部:溝状短弁文 外面:横位短縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	焼色有り
M-21	96	98	ⅡB-6	覆土	—	1		胴部	外面:無文帯(溝状断面圧痕文),1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	内面部面跡,胎土に砂粒多量を含む
M-21	97	98	ⅡB-9	覆土	—	2		口縁部	外面:肥厚帯,円形刺突文,1,1~1段縄文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類	
M-21	98	98	ⅡB-9	覆土	—	3		口縁部	外面:横位縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	
M-21	99	98	ⅡB-9	覆土	—	2		口縁部	口唇部:溝状短弁 外面:縦位縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	
M-21	100	98	ⅡB-13	覆土	—	1		口縁部	外面:肥厚帯(1段縄文),円形刺突文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類	内面彩色付着物有り
M-21	101	98	ⅡB-13	覆土	—	1		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-21	102	98	ⅡB-19	覆土	12	2		胴部	外面:円形刺突文,1段縄文,無文帯	深鉢	IV群a類	北朝盤式	焼熱により赤褐色化,表面部剥離
M-21	103	98	ⅡB-19	覆土	11	1	2	口縁~胴部	口唇部:1段縄文 外面:肥厚帯(1段縄文) 無文帯,円形刺突文,縦位沈没	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-21	104	98	ⅡB-22	覆土	—	2		口縁部	口唇部:短弁 外面:横位縄文,1段縄文 彩色有り	非形土器	V群c類	緑~灰式	
M-21	105	98	ⅡB-29	灰土直上	3	1		胴部	外面:1段縄文	深鉢	V群c類	緑~灰式	
M-21	106	98	ⅡB-31	覆土	—	9		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:円形刺突文,溝状断面 短弁文,横位縄文,1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-21	107	98	ⅡB-33	覆土	—	1		口縁部	外面:押引文	深鉢	Ⅱ群a類	南朝Ⅱ式	胎土に繊維多量を含む,内面部剥離
M-21	108	98	ⅡB-33	覆土	—	1		口縁部	口唇部:山形突起,横位縄文,円形刺突文 口縁部:棒状突起?,肥厚帯(円形刺突文), 1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	

表Ⅱ-5 B地区包含層出土破片土器掲載一覧(1)

図	掲載番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	合計点数	部位	文様・調整等	器種	分類	型式名	備考
M-25	3	100	0-195C	ⅡB層	—	1		口縁部	外面:押引文 内面:縦位7字文	深鉢	Ⅱ群a類	南朝Ⅱ式	胎土に繊維多量を含む
M-25	4	100	P-283C	ⅡB層	—	6		口縁~胴部	口唇部:短弁 外面:肥厚帯(押引文)、円形刺突文、 1,1~1段縄文(圧痕)	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	胎土に繊維多量を含む
M-25	5	100	S-295C	ⅡB層	—	1		口縁部	口唇部:押引文 外面:凹凸調整,円形刺突文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-25	6	100	P-185C	ⅡB層	—	1		口縁部	口唇部:短弁 外面:山形突起,肥厚帯(押引文), 円形刺突文,1段縄文 内面:1段縄文	深鉢	Ⅱ群b類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-25	7	100	P-255C	ⅡB層	—	1		口縁~胴部	口唇部:刺突文 外面:山形突起,縦位沈没 短弁文,円形刺突文,1段縄文 内面:縦 ~斜位1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	胎土に砂粒多量を含む
M-25	8	100	Q-265C	ⅡB層	—	2		口縁部	口唇部:山形突起 外面:肥厚帯(縦位沈没)	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	内面彩色付着物有り
M-25	9	100	M-255C	ⅡB層	—	1		口縁部	口唇部:山形突起,1段縄文 外面:肥厚帯(縦位沈没)	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-25	10	100	T-265C	ⅡB層	—	2		口縁部	外面:肥厚帯,円形刺突文,1,1~1段縄文 内面: 1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式トコロ皿類(古)	
M-25	11	100	M-173C	ⅡB層	—	1	3	口縁部	口唇部:刺突文,横位縄文 外面:棒状突起 (溝状断面圧痕文),円形刺突文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	胎土に砂粒多量を含む
M-25	12	100	M-193C	ⅡB層	—	2		口縁部	口唇部:刺突文,横位縄文 外面:棒状突起 (溝状断面圧痕文),円形刺突文,1,1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	13	100	K-183C	ⅡB層	—	1		口縁部	口唇部:刺突文,横位縄文 外面:肥厚帯(棒状突起) 1段縄文,円形刺突文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	14	100	J-153C	ⅡB層	—	1		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:肥厚帯(1段縄文), 無文帯,円形刺突文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	15	100	0-205C	ⅡB層	—	3		口縁~胴部	外面:無文帯,円形刺突文(縦位沈没),1,1 段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	16	101	K-243C	ⅡB層	—	1		口縁~胴部	外面:無文帯,円形刺突文(縦位沈没),1,1 段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	17	101	J-153C	ⅡB層	—	1		口縁~胴部	外面:無文帯,円形刺突文(縦位沈没),1,1 段縄文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	
M-25	18	101	P-205C	ⅡB層	—	1		口縁~胴部	外面:無文帯,溝状断面圧痕文	深鉢	IV群a類	北朝盤式	厚さ2.0cm有り
M-25	19	101	K-263C	ⅡB層	—	2		口縁部	口唇部:1段縄文 外面:縦位沈没短弁文,円形刺 突文,1段縄文 内面:口縁部1段縄文	深鉢	IV群a類	北朝Ⅱ式~Ⅲ式	

表Ⅶ-5 B地区包含層出土破片土器掲載一覧(2)

図	掲載番号	図説	出土地点	層位	層内点数	合計点数	部位	文様・調整等	図録	分類	型式名	備考
Ⅶ-26	20	101	0-275C	Ⅶ層	1	1	口縁～胴部	白磁器：山形突起、紅褐色 外面：肥厚層、紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅳ式	内面黒色付着物有り
Ⅶ-26	21	101	0-255C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：円形刺突文、紅刺線文 内面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	
Ⅶ-26	22	101	T-275C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：円形刺突文、紅刺線文 内面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	
Ⅶ-26	23	101	T-275C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：円形刺突文、紅褐色文 内面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	外面黒色付着物有り
Ⅶ-26	24	101	Q-247C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	
Ⅶ-26	25	101	0-275C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	
Ⅶ-26	26	101	0-275C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	
Ⅶ-26	27	101	M-165C	Ⅶ層	1	1	胴部	外面：彫り文、紅褐色文 内面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ～Ⅵ式	
Ⅶ-26	28	101	P-285C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：刺突文、底面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	物上に織物含む
Ⅶ-26	29	101	M-165C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	北朝Ⅴ式	物上に織物含む
Ⅶ-26	30	101	L-205C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：横位刺線文、設有り(横位刺線文)、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	段はごく浅い
Ⅶ-26	31	101	L-195C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：刺線文 外面：斜位刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-26	32	101	K-165C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：刻み 外面：横位刺線文、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-26	33	101	P-255C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-26	34	101	K-285C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：横位刺線文 外面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-26	35	101	P-275C	Ⅶ層	1	4	胴部	白磁器：紅褐色 外面：沈線文、紅刺線文、刺突文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	内面黒色付着物有り
Ⅶ-26	36	101	P-265C	Ⅶ層	1	2	口縁～胴部	外面：紅刺線文、刺突文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-26	37	101	M-195C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：刻み、沈線文、紅刺線文、設有り(横位刺線文) 内面：横位刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-27	28	102	N-235C	Ⅶ層	1	5	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：横位刺線文、設有り(刺突文)	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	表面赤彩跡有り
Ⅶ-27	39	102	0-275C	Ⅶ層	1	3	口縁部	外面：小突起(刺突文)、設有り、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-27	40	102	P-265C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：横位刺線文 外面：横位刺線文、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-27	41	102	M-195C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：紅褐色文、底面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	中心部沈線文
Ⅶ-27	42	102	0-215C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	中心部沈線文
Ⅶ-27	43	102	L-205C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	中心部沈線文
Ⅶ-27	44	102	N-255C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：紅褐色文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	底面有り
Ⅶ-27	45	102	0-255C	Ⅶ層	1	1	胴～底部	内外面：十字	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	緑Ⅰ～Ⅲ式	
Ⅶ-27	47	102	T-335C	Ⅶ層	1	1	口縁部	外面：変色文、底付文(横位刺線文)、刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	48	102	M-235C	Ⅶ層	2	2	口縁部	白磁器：突起、横位刺線文、斜～横位刺線文 内面：紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	49	102	0-275C	Ⅶ層	1	2	口縁部	白磁器：山形突起、紅褐色 外面：横位刺線文、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	50	102	L-165C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：紅褐色文、横位刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	51	102	P-315C	Ⅶ層	2	2	口縁部	白磁器：山形突起、紅褐色 外面：横位刺線文、刺突文、底付文、刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	横位刺線の穿孔孔(15%)有り
Ⅶ-27	51	102	T-275C	Ⅶ層	1	1	口縁部	白磁器：紅褐色 外面：横位刺線文(横位刺線文)、横位刺線文、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	穿孔部部分(15%)有り
Ⅶ-27	52	102	T-235C	Ⅶ層	1	1	胴部	外面：横位刺線文、紅刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	53	102	0-255C	Ⅶ層	1	2	胴部	外面：横位刺線文、刺突文、横位刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	54	102	L-155C	Ⅶ層	1	2	底部	外面：横位刺線文、刺突文、刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	55	102	K-315C	Ⅶ層	1	1	底部	外面：横位刺線文、刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	
Ⅶ-27	56	102	L-215C	Ⅶ層	2	2	口縁部	外面：横位刺線文 内面：横位刺線文	Ⅶ56	Ⅶ層Ⅰ類	下層Ⅰ～Ⅱ式	

表Ⅶ-6 B地区遺構出土掲載土器一覧(1)

図	掲載番号	図説	遺物番号	出土地点	層位	器種	残存	石材	長さ	計測値(cm)	重量(g)	備考
Ⅶ-28	1	103	—	遺構①～②西	層Ⅱ上	石碗	完整	黒磁石	1.7	1.3	0.4	0.4
Ⅶ-28	2	103	—	遺構①～②西	層Ⅱ上	石碗	完整	黒磁石	1.5	0.9	0.2	0.2
Ⅶ-28	3	103	2	層Ⅱ上	灰皿	石碗	完整	黒磁石	5.3	1.7	0.6	2.3
Ⅶ-28	4	103	2	層Ⅱ上	灰皿	石碗	完整	黒磁石	8.4	1.8	0.7	1.4
Ⅶ-28	5	103	7	層Ⅱ上	灰皿	つつまひきタイプ	完整	黒磁石	5.9	2.9	0.7	8.2
Ⅶ-28	6	103	—	層Ⅱ上	石製品	完整	砂岩	12.2	10.8	3.0	394	
Ⅶ-28	7	103	—	層Ⅱ上	石製品	完整	砂岩	2.7	1.8	0.4	0.7	
Ⅶ-28	8	103	—	層Ⅱ上	灰皿	石碗	片	砂岩	15.4	10.3	3.4	1040
Ⅶ-28	9	103	—	層Ⅱ上	石碗	片	砂岩	(15.7)	(8.7)	(5.0)	120	
Ⅶ-28	10	103	—	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	真岩	7.1	4.2	1.3	34.8	
Ⅶ-28	11	103	—	層Ⅱ上	つつまひきタイプ	完整	黒磁石	2.7	2.0	0.5	2.7	
Ⅶ-28	12	103	—	層Ⅱ上	磨製石斧	完整	真岩	5.5	3.6	1.0	26.5	
Ⅶ-28	13	103	—	層Ⅱ上	磨製石斧	完整	砂岩	9.5	2.7	1.3	50.5	
Ⅶ-28	14	103	—	層Ⅱ上	スライパー	完整	砂岩	2.7	2.1	0.6	3.1	
Ⅶ-28	15	103	—	層Ⅱ上	石製品	完整	砂岩	2.0	0.9	0.4	2.3	
Ⅶ-28	16	103	—	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	6.7	3.0	0.9	14.4	
Ⅶ-28	17	103	—	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	9.3	4.5	1.5	50.5	
Ⅶ-28	18	103	15	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	7.5	2.6	0.7	8.2	
Ⅶ-28	19	103	11	層Ⅱ上	磨製石斧	完整	砂岩	8.9	5.4	0.9	22.4	
Ⅶ-28	20	103	—	層Ⅱ上	たたま石	完整	安山岩	16.0	11.5	5.9	1658	
Ⅶ-28	21	104	—	層Ⅱ上	石碗	完整	黒磁石	1.8	1.2	0.4	0.6	
Ⅶ-28	22	104	2	層Ⅱ上	石碗	完整	砂岩	(5.9)	(5.3)	(5.1)	40.8	
Ⅶ-28	23	104	—	層Ⅱ上	灰皿	完整	黒磁石	1.3	0.9	0.6	3.4	
Ⅶ-28	24	104	9	層Ⅱ上	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	8.7	4.1	1.1	33.8
Ⅶ-28	25	104	—	層Ⅱ上	灰皿	石碗	完整	砂岩	8.7	7.7	3.4	301
Ⅶ-28	26	104	—	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	7.7	3.2	1.0	11.7	
Ⅶ-28	27	104	—	層Ⅱ上	石碗・タイプ	完整	黒磁石	5.8	2.8	0.9	9.4	
Ⅶ-28	28	104	—	層Ⅱ上	灰皿	石碗	完整	チャート	7.1	0.6	0.5	0.4
Ⅶ-28	29	104	—	層Ⅱ上	つつまひきタイプ	完整	真岩	(7.2)	(3.0)	(1.5)	(8.0)	
Ⅶ-28	30	104	8	層Ⅱ上	つつまひきタイプ	完整	チャート	5.4	2.0	0.6	14.5	
Ⅶ-28	31	104	—	層Ⅱ上	スライパー	磨製石斧	黒磁石	4.6	2.8	0.6	6.1	
Ⅶ-28	32	104	—	層Ⅱ上	スライパー	完整	黒磁石	2.5	2.9	0.7	3.7	
Ⅶ-28	33	104	—	層Ⅱ上	磨製石斧	完整	緑色頁岩	9.0	3.9	2.1	110	

表VI-6 B地区遺構出土掘載石器一覧(2)

遺構	風通	遺物	出土地点	層位	器種	残存	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	
番号	番号	番号				状態	名称	(cm)	(cm)	(cm)	(g)		
WR-30	34	104	—	遺跡-11	礫土	磨製石斧	片刃	8.4	4.6	2.0	130		
WR-30	35	104	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	14.8	6.9	4.7	741		
WR-30	36	104	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	16.3	9.0	4.2	774		
WR-30	37	104	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	11.9	8.4	4.6	668		
WR-31	38	104	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	11.9	8.4	2.2	871		
WR-21	39	104	2	遺跡-11	礫土上段	たたく石	定形	14.7	10.8	7.3	1393		
WR-31	40	104	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	18.2	10.4	7.7	1119		
WR-21	41	105	—	遺跡-11	礫土	たたく石	定形	10.0	6.8	2.6	308		
WR-21	42	105	3	遺跡-11	礫土上段	石鏃	磨製石	11.1	18.7	0.9	259		
WR-31	43	105	—	遺跡-11	礫土	加工・使用痕のある鏃	磨製石	10.9	9.9	2.6	354	石製品5	
WR-22	44	105	1	遺跡-11	礫土上段	石鏃	平形	40.9	20.4	10.3	13700	大形	
WR-25	45	105	13	遺跡-11	灰土	石鏃	定形	28.2	13.0	11.0	7090		
WR-22	46	106	6	遺跡-13	灰土	石鏃・ナイフ	磨製石	10.3	4.3	1.2	38.3	遺跡-12	
WR-22	47	106	5	遺跡-13	灰土	表面磨製石鏃	磨製石	5.1	3.1	0.8	8.5	遺跡-13	
WR-22	48	106	—	遺跡-13	礫土	ステレオバール	定形	5.1	3.2	0.6	8.4		
WR-22	49	106	—	遺跡-13	礫土	磨製石斧	定形	17.7	9.9	3.9	428		
WR-23	50	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃・ナイフ	定形	5.3	2.5	0.9	7.9		
WR-23	51	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃・ナイフ	定形	8.8	11	3.6	0.9	16.0	
WR-23	52	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃・ナイフ	定形	5.1	3.9	1.2	20.0	2点検出	
WR-23	53	106	—	遺跡-14	礫土	磨製石斧	定形	11.8	4.8	3.3	391	東山岳	
WR-23	54	106	—	遺跡-14	礫土	たたく石	定形	8.3	6.5	4.8	327		
WR-23	55	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃	片	8.3	8.3	(12.0)	1.0	94.3	
WR-23	56	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃・ナイフ	定形	6.6	1.8	0.8	18.2		
WR-23	57	106	—	遺跡-14	礫土	石鏃・ナイフ	定形	15.1	1.3	2.0	70.0	焼痕、磨面あり	
WR-23	58	107	—	遺跡-15	礫土	石鏃	平形	(15.8)	10.0	4.0	900	焼痕	
WR-23	59	107	—	遺跡-16	礫土	つまみ付きナイフ	定形	3.6	2.2	1.2	7.2		
WR-24	60	107	17	遺跡-16	灰土	石鏃・ナイフ	定形	8.4	2.9	1.1	41.6	遺跡-14	
WR-24	61	107	—	遺跡-17	礫土	石鏃・ナイフ	定形	4.7	2.9	1.0	10.0	磨面あり	
WR-24	62	107	—	遺跡-17	礫土	石鏃・ナイフ	定形	7.2	2.5	1.2	15.9		
WR-24	63	107	2	遺跡-17	灰土	石鏃・ナイフ	定形	5.4	2.2	0.8	6.4	遺跡-15	
WR-24	64	107	—	遺跡-17	礫土	石鏃	定形	1.0	3.7	0.9	11.8		
WR-24	65	107	—	遺跡-17	礫土	ステレオバール	定形	2.8	2.9	1.3	11.5		
WR-34	66	107	6・22 +23	遺跡-17 R26区	灰土	石鏃	平形	20.9	17.3	10.6	4900		
WR-34	67	107	4	遺跡-17	灰土	石鏃	平形	16.9	14.3	8.0	2280		
WR-34	68	108	—	遺跡-18	礫土	石鏃	平形	8.6	(10.0)	1.0	169	2点検出	
WR-25	69	108	—	遺跡-19	礫土	ステレオバール	定形	1.7	2.7	1.2	11.9	磨面あり	
WR-25	70	109	—	遺跡-20	礫土	石鏃・ナイフ	定形	10.8	3.6	1.7	43.6	磨面あり	
WR-25	71	108	—	遺跡-20	礫土	石鏃	チャート	1.8	0.7	0.6	0.7		
WR-25	72	108	—	遺跡-20	礫土	つまみ付きナイフ	磨製石	3.9	1.5	0.6	3.4		
WR-25	73	108	—	遺跡-20	礫土	つまみ付きナイフ	定形	2.9	2.2	1.0	11.4	磨面あり	
WR-25	74	109	—	遺跡-20	礫土	ステレオバール	定形	1.8	1.4	0.8	4.8		
WR-25	75	108	—	遺跡-20	礫土	磨製石斧	定形	15.0	5.8	2.9	338		
WR-25	76	108	—	遺跡-20	礫土	石鏃	片	19.3	3.0	5.2	308	2点検出	
WR-25	77	108	—	遺跡-21	礫土	石鏃	磨製石	11.2	1.4	0.3	1.2		
WR-25	78	108	—	遺跡-21	礫土	ステレオバール	定形	5.1	2.8	1.2	4.5		
WR-25	79	108	—	遺跡-21	礫土	石鏃	平形	18.1	7.2	0.6	129	2点検出	
WR-26	80	109	—	遺跡-22	礫土	石鏃・ナイフ	定形	9.6	3.3	1.1	11.7		
WR-26	81	109	—	遺跡-22	礫土	ステレオバール	定形	7.7	3.5	1.1	28.6		
WR-26	82	109	—	遺跡-22	礫土	たたく石	定形	5.5	3.8	3.5	149		
WR-26	83	109	1	遺跡-23	灰土	ステレオバール	定形	6.2	2.4	0.8	12.8	磨面あり、遺跡-16	
WR-26	84	109	—	遺跡-23	礫土	磨製石斧	定形	7.1	2.8	0.9	24.7		
WR-26	85	109	1	遺跡-24	灰土	石鏃・ナイフ	定形	5.2	1.8	0.6	4.7		
WR-26	86	109	—	遺跡-24	礫土	石鏃	磨製石	1.8	0.9	0.2	0.2	遺跡-17	
WR-26	87	109	—	遺跡-24	礫土	石鏃	定形	2.6	1.0	0.3	0.5		
WR-26	88	109	—	遺跡-24	礫土	石鏃・ナイフ	定形	7.9	2.8	1.0	19.3		
WR-26	89	109	—	遺跡-24	礫土	石鏃・ナイフ	定形	6.8	2.6	0.7	10.9		
WR-26	90	109	2	遺跡-24	灰土	石鏃	磨製石	8.2	16.2	0.6	96.2	4点検出	
WR-26	91	109	—	遺跡-24	礫土	磨製石斧	定形	10.4	4.2	2.3	120		
WR-26	92	109	—	遺跡-24	礫土	磨製石斧	定形	2.0	2.2	0.7	4.8		
WR-26	93	109	—	遺跡-24	礫土	たたく石	平形	7.1	6.9	5.0	187		
WR-26	94	109	17	遺跡-24	灰土	石鏃	平形	16.5	14.3	6.0	1715		
WR-27	95	109	—	遺跡-25	礫土	石鏃	磨製石	2.7	1.3	0.4	0.9		
WR-27	96	109	—	遺跡-25	礫土	石鏃・ナイフ	定形	6.6	3.9	0.7	11.3		
WR-27	97	109	—	遺跡-25	礫土	石鏃・ナイフ	定形	8.4	3.1	1.1	20.8		
WR-27	98	109	—	遺跡-25	礫土	つまみ付きナイフ	定形	2.9	3.8	0.8	8.4		
WR-27	99	109	—	遺跡-25	礫土	つまみ付きナイフ	定形	8.0	3.7	0.9	25.0		
WR-27	100	110	—	遺跡-25	礫土	石鏃	定形	9.1	4.6	2.7	27.8		
WR-27	101	110	—	遺跡-25	礫土	たたく石	定形	10.5	6.5	4.8	600	半生代確認	
WR-27	102	110	—	遺跡-25	礫土	たたく石	定形	9.8	2.2	2.3	345		
WR-27	103	110	4	遺跡-25	礫土	石鏃	磨製石	20.7	13.9	11.4	6700		
WR-28	104	110	3	遺跡-25	礫土	石鏃	定形	29.6	17.3	14.5	7080		
WR-28	105	110	—	遺跡-26	出層	石鏃・ナイフ	平形	9.1	3.6	1.2	28.0	割合No.4	
WR-28	106	110	—	遺跡-26	礫土	石鏃・ナイフ	定形	11.5	5.0	1.9	74.3		
WR-28	107	110	—	遺跡-26	礫土	磨製石斧	定形	(13.2)	3.8	1.7	31.7	磨面あり	
WR-28	108	110	—	遺跡-26	礫土	ステレオバール	定形	8.5	2.5	1.0	13.4		
WR-28	109	110	—	遺跡-26	礫土	ステレオバール	定形	5.1	2.4	1.0	8.3		
WR-28	110	110	—	遺跡-26	礫土	ステレオバール	定形	5.4	1.8	0.9	32.3		
WR-29	111	111	—	遺跡-26	礫土	ステレオバール	定形	5.3	2.5	0.9	12.3	磨面あり	
WR-29	112	111	—	遺跡-26	礫土	磨製石斧	磨製石	5.1	2.8	1.0	21.9		
WR-29	113	111	—	遺跡-27	礫土	石鏃	定形	4.8	1.5	0.3	0.6		
WR-29	114	111	—	遺跡-27	礫土	石鏃	定形	2.0	1.7	0.7	1.7		
WR-29	115	111	—	遺跡-27	礫土	石鏃・ナイフ	定形	7.9	3.3	0.8	17.0		
WR-29	116	111	—	遺跡-27	礫土	磨製石斧	定形	7.8	3.8	1.3	46.0		
WR-29	117	111	—	遺跡-27	礫土	磨製石斧	定形	不明	11.4	5.5	2.5	256	
WR-29	118	111	2	遺跡-27	灰土	石鏃	定形	7.2	3.2	1.2	22.3		
WR-29	119	111	3	遺跡-27	礫土	磨製石斧	定形	4.2	2.1	0.7	9.8		
WR-29	120	111	3	遺跡-27	灰土	石鏃	片	12.9	8.6	1.0	186.6		
WR-29	121	111	—	遺跡-28	礫土	石鏃・ナイフ	定形	15.8	4.5	1.1	12.1	磨面あり、遺跡-18	
WR-29	122	111	—	遺跡-29	礫土	石鏃	定形	6.0	2.8	0.9	2.8		
WR-29	123	111	—	遺跡-30	礫土	石鏃	磨製石	2.5	1.2	0.3	0.7		
WR-29	124	111	—	遺跡-30	礫土	石鏃・ナイフ	定形	3.1	2.7	0.7	3.9		
WR-29	125	111	—	遺跡-30HC-2	礫土	石鏃	チャート	1.4	0.7	0.6	0.4		

表Ⅶ-6 B地区遺構出土掘載石器一覧(3)

遺構 番号	遺構 番号	遺物 番号	出土地点	層位	器種	残存 状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考
Ⅶ-20	127	111	ⅧB-30HC-2	掘上土	石鏟	完好	チャート	1.1	0.8	0.1	
Ⅶ-20	127	111	ⅧB-30HC-2	掘上土	石鏟	チャート	1.7	0.8	0.6	0.9	
Ⅶ-20	128	111	ⅧB-30HC-2	掘上土	石鏟	完好	チャート	2.6	0.8	0.5	0.7
Ⅶ-20	129	111	ⅧB-30HC-2	掘上土	石鏟	完好	チャート	1.5	0.8	0.1	0.4
Ⅶ-20	130	111	ⅧB-30HC-2	掘上土	石鏟	完好	チャート	2.6	0.6	0.4	0.4
Ⅶ-20	131	111	ⅧB-30	掘上	つらみ付きナイフ	完好	黒曜石	5.6	1.8	1.9	1.3
Ⅶ-20	132	111	ⅧB-30	掘上	磨製石斧	完好	砂岩	5.1	2.4	0.8	10.0
Ⅶ-40	132	112	ⅧB-30	掘上	石鏟	片	砂岩	13.5	11.5	24.0	
Ⅶ-40	131	112	ⅧB-31	掘上	石鏟	完好	黒曜石	1.6	0.8	0.2	0.7
Ⅶ-40	133	112	ⅧB-31	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	5.7	2.2	0.7	1.2
Ⅶ-40	138	112	ⅧB-31	掘上	磨製磨石	完好	黒曜石	5.9	5.9	1.3	26.6
Ⅶ-40	137	112	ⅧB-31	掘上	石鏟	片	砂岩	9.4	7.1	1.1	96.1
Ⅶ-40	138	112	ⅧB-32	掘上	石鏟	完好	黒曜石	2.0	1.1	2.1	0.4
Ⅶ-40	139	112	ⅧB-32	掘上	石鏟	磨製片	砂岩	6.6	9.4	1.1	98.5
Ⅶ-40	140	112	ⅧB-32	掘上	石鏟	片	砂岩	13.3	6.9	0.9	176.9
Ⅶ-40	141	112	ⅧB-31	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	9.5	3.7	1.3	32.1
Ⅶ-40	142	112	ⅧB-33	掘上	磨製磨石	完好	黒曜石	2.7	2.6	0.8	7.2
Ⅶ-40	143	112	ⅧB-34	掘上	石鏟・ナイフ	片	黒曜石	15.0	2.6	1.3	31.3
Ⅶ-40	144	112	ⅧB-36	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	9.1	2.5	1.0	16.8
Ⅶ-40	145	112	ⅧB-36	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	10.6	6.5	1.2	52.3
Ⅶ-40	146	112	ⅧB-36	掘上	つらみ付きナイフ	完好	黒曜石	2.7	1.9	0.8	4.8
Ⅶ-40	147	112	ⅧB-36	掘上	つらみ付きナイフ	完好	黒曜石	5.7	3.1	0.7	12.3
Ⅶ-41	148	112	ⅧB-37	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.9	2.3	0.7	4.0
Ⅶ-41	149	112	ⅧB-37	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	5.4	5.4	1.4	23.5
Ⅶ-41	150	112	ⅧB-37	掘上	石鏟	片	砂岩	13.8	9.8	0.7	87.4
Ⅶ-41	151	112	ⅧB-37	掘上	たたま石	手形	安山岩	15.8	9.3	5.6	98.8
Ⅶ-41	152	113	ⅧB-37	掘上	石・石鏟	完好	安山岩	23.4	19.4	8.2	42.80
Ⅶ-41	153	113	ⅧB-38	掘上	たたま石	砂岩	10.3	7.9	2.9	28.5	
Ⅶ-41	154	113	ⅧB-38	掘上	たたま石	安山岩	16.2	12.3	6.9	87.4	
Ⅶ-41	155	113	ⅧB-39	掘上	石鏟・ナイフ	片	黒曜石	15.2	3.8	1.3	27.2
Ⅶ-41	156	113	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	黒曜石	3.1	1.5	0.4	1.3
Ⅶ-41	157	113	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	黒曜石	3.1	2.0	0.6	2.1
Ⅶ-41	158	113	ⅧB-40	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	4.9	2.4	0.9	24.2
Ⅶ-41	159	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	5.6	3.1	1.1	15.1
Ⅶ-41	160	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	5.1	3.7	1.4	20.0
Ⅶ-41	161	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.6	2.4	1.3	31.3
Ⅶ-41	162	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.8	2.1	0.8	4.8
Ⅶ-41	163	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.0	2.5	0.9	5.8
Ⅶ-41	164	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.5	3.2	1.0	7.1
Ⅶ-41	165	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.9	3.8	1.1	14.4
Ⅶ-41	166	113	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	チャート	4.1	3.5	1.0	12.9
Ⅶ-42	167	114	ⅧB-40	掘上	磨製石斧	砂岩	17.6	6.1	3.8	80.0	
Ⅶ-42	168	114	ⅧB-40	掘上	石鏟	片	砂岩	13.4	8.9	1.1	152
Ⅶ-42	169	114	ⅧB-40	掘上	石鏟	砂岩	19.8	11.8	7.3	211.9	
Ⅶ-42	170	114	ⅧB-41	掘上	石鏟	磨製片	6.5	2.7	1.1	11.2	
Ⅶ-42	171	114	ⅧB-41	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	4.5	2.1	0.9	5.6
Ⅶ-42	172	114	ⅧB-41	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	4.5	3.8	1.1	14.9
Ⅶ-42	173	114	ⅧB-43	掘上	石鏟	完好	黒曜石	2.9	3.4	0.8	2.1
Ⅶ-42	174	114	ⅧB-43	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	4.6	3.1	0.8	4.7
Ⅶ-42	175	114	ⅧB-43	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.8	3.1	0.9	5.8
Ⅶ-42	176	114	ⅧB-43	掘上	磨製石斧	砂岩	14.2	7.3	6.2	87.4	
Ⅶ-43	177	114	ⅧB-43	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	9.8	2.9	1.3	27.7
Ⅶ-43	178	114	ⅧB-43	掘上	つらみ付きナイフ	完好	黒曜石	7.7	3.1	1.3	24.6
Ⅶ-43	179	114	ⅧB-43	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	6.1	2.5	0.8	11.2
Ⅶ-43	180	114	ⅧB-43	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	5.5	2.5	0.6	4.5
Ⅶ-43	181	114	ⅧB-43	掘上	一次加工・使用済みの割石	完好	黒曜石	15.3	3.4	1.0	14.6
Ⅶ-43	182	115	ⅧB-41	掘上	石鏟	片	砂岩	7.0	9.5	1.5	112.0
Ⅶ-43	183	115	ⅧB-41	掘上	たたま石	砂岩	10.1	8.5	2.7	293.9	
Ⅶ-43	184	115	ⅧB-41	掘上	たたま石	砂岩	13.8	12.8	7.8	132.1	
Ⅶ-43	185	115	ⅧB-41	掘上	石鏟	片	砂岩	6.3	16.9	0.7	46.6
Ⅶ-43	186	115	ⅧB-41	掘上	石鏟	片	砂岩	28.7	20.1	5.0	96.80
Ⅶ-44	189	115	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	チャート	1.9	1.1	0.7	1.8
Ⅶ-44	189	115	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	チャート	1.5	1.0	0.5	0.5
Ⅶ-44	189	115	ⅧB-40	掘上	スタレイン	磨製片	12.0	2.3	0.6	2.3	
Ⅶ-44	190	115	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	4.1	1.4	0.5	2.7
Ⅶ-44	191	115	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	2.9	3.8	0.7	9.4
Ⅶ-44	192	115	ⅧB-40	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	3.2	3.0	0.7	5.6
Ⅶ-44	193	115	ⅧB-40	掘上	スタレイン	磨製片	4.2	4.4	1.3	14.6	
Ⅶ-44	194	115	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	チャート	1.5	0.7	0.3	0.5
Ⅶ-44	195	115	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	チャート	1.8	1.0	0.7	1.8
Ⅶ-44	196	115	ⅧB-40	掘上	石鏟	完好	チャート	1.5	0.8	0.5	0.5
Ⅶ-44	197	115	ⅧB-40	掘上	チャート	1.6	0.8	0.5	0.3		
Ⅶ-44	198	116	ⅧB-40	掘上	たたま石	砂岩	6.1	6.9	4.1	286.6	
Ⅶ-44	199	116	ⅧB-40	掘上	たたま石	砂岩	10.4	11.1	4.0	246.2	
Ⅶ-44	200	116	ⅧB-40	掘上	たたま石	砂岩	8.8	1.5	2.3	221.9	
Ⅶ-44	201	116	ⅧB-40	掘上	たたま石	砂岩	11.5	8.4	4.7	549.0	
Ⅶ-44	202	116	ⅧB-43	掘上	つらみ付きナイフ	磨製片	1.9	2.9	0.7	2.8	
Ⅶ-44	203	116	ⅧB-43	掘上	スタレイン	完好	黒曜石	3.8	2.7	0.8	7.6
Ⅶ-44	204	116	ⅧB-43	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	4.4	3.1	0.8	9.0
Ⅶ-45	205	116	ⅧB-38	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	17.1	3.9	1.0	21.4
Ⅶ-45	206	116	ⅧB-39	掘上	石鏟	完好	黒曜石	12.0	8.1	0.7	9.8
Ⅶ-45	207	116	ⅧB-21	掘上/下位	磨製石斧	砂岩	16.2	7.2	3.6	367.5	
Ⅶ-45	208	116	ⅧB-22	掘上	石鏟	完好	黒曜石	3.0	1.7	0.4	1.3
Ⅶ-45	209	116	ⅧB-22	掘上	石鏟・ナイフ	磨製片	14.8	3.0	1.0	13.2	
Ⅶ-45	210	116	ⅧB-23	掘上	石鏟・ナイフ	磨製片	6.4	2.6	0.2	22.1	
Ⅶ-45	211	116	ⅧB-29	人骨下	石鏟・ナイフ	片	黒曜石	14.0	4.1	0.9	12.2
Ⅶ-45	212	116	ⅧB-29	掘上	一次加工・使用済みの割石	完好	黒曜石	5.2	1.5	0.9	14.0
Ⅶ-45	213	116	ⅧB-29	掘上	一次加工・使用済みの割石	完好	黒曜石	5.1	1.3	0.8	12.2
Ⅶ-45	214	116	ⅧB-29	掘上	一次加工・使用済みの割石	完好	黒曜石	5.1	1.3	1.2	22.3
Ⅶ-46	215	117	ⅧB-30	掘上	石鏟・ナイフ	完好	黒曜石	12.9	4.7	1.3	63.9
Ⅶ-46	216	117	ⅧB-33	掘上	磨製石斧	砂岩	13.6	8.8	3.2	347.9	
Ⅶ-46	217	117	ⅧB-34	掘上	たたま石	砂岩	8.4	8.4	3.1	24.8	
Ⅶ-46	218	117	ⅧB-35	掘上	石鏟・ナイフ	手形	黒曜石	16.2	3.7	1.1	22.0
Ⅶ-46	219	117	ⅧB-35	掘上	つらみ付きナイフ	完好	黒曜石	6.8	2.2	0.7	6.9
Ⅶ-46	220	117	ⅧB-11	掘上	石鏟	完好	黒曜石	2.3	1.0	0.4	0.5

表Ⅶ-8 B地区掲載鉄製品一覧

掲載			出土地点	層位	遺物番号	器種	計測値(c m)			重量(g)	保存状態
図	番号	図版					長さ	幅	厚さ		
Ⅶ-58	100	123	N25K	Ⅲ層	—	マシク	7.1	5.5	0.6	10.7	準完好
Ⅶ-58	101	123	Q21K	Ⅲ層	—	マシク	4.6	3.4	0.6	9.5	準完好
Ⅶ-58	102	123	Q30K	Ⅲ層	—	釘	8.3	1.8	0.9	42.3	準完好
Ⅶ-58	103	123	N21K	Ⅲ層	—	釘	6.7	2.1	0.3	10.2	準完好
Ⅶ-58	104	123	P24K	Ⅲ層	—	釘	7.5	1.8	0.8	36.6	半割
Ⅶ-58	105	123	M15K	Ⅲ層	—	釘	6.9	1.2	0.5	13.4	劣割
Ⅶ-58	106	123	M21K	Ⅲ層	—	釘	4.1	1.4	0.3	7.5	劣割

表VI-9 B地区水洗選別結果一覧

整理番号	採取地点	層位	炭数	土器			割片・砂片等			炭化物		骨片		備考
				分類	点数	重量(g)	石材	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
2	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	6	0.19	1	0.65	---	---	
3	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	1	0.93	---	---	
4	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.02	1	9.49	---	---	
5	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	1	0.53	---	---	
6	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.56	---	---	
7	ⅧB-40F-2	埴土	1	---	---	---	Obs	7	0.12	1	0.01	---	---	
8	ⅧB-40F-2	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.29	---	---	---	---	二次加工・使用痕跡も割片
9	ⅧB-40F-3	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	1	0.13	---	---	0.19
22	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.25	---	---	0.36
21	ⅧB-40F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.49	---	---	---
23	ⅧB-40F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.01	---	---	---
24	ⅧB-40F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.06	---	---	---
12	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.05	---	---	0.98
13	ⅧB-40F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.02	---	---	1.39
18	ⅧB-11	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.06	1	0.13	---	---	---
11	ⅧB-11F-1	埴土	1	不明	3	0.02	---	---	---	1	0.25	---	---	0.11
14	ⅧB-11F-1	炭層	1	---	---	---	---	---	---	1	1.26	---	---	0.94
15	ⅧB-11F-1	埴土上面	1	---	---	---	---	---	---	1	1.22	---	---	---
16	ⅧB-11F-1	埴土下段	1	---	---	---	---	---	---	1	0.32	---	---	0.16
17	ⅧB-11F-10	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.01	---	---	0.01
61	ⅧB-11埋居土器	床下	1	Ⅷ~Ⅸ	11	2.60	---	---	---	1	0.03	---	---	---
10	ⅧB-12F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
19	ⅧB-12F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.16
34	ⅧB-14F-1	埴土上段	1	---	---	---	---	---	---	1	0.02	---	---	0.59
35	ⅧB-14F-2	埴土下段	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.02
29	ⅧB-15F-3	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.79	---	---	---
28	ⅧB-15F-C-1	炭面	1	---	---	---	Obs	10	0.36	1	0.01	---	---	---
31	ⅧB-16F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	---	---	---	---	0.13
32	ⅧB-16F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.01	---	---	0.01
47	ⅧB-17	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.10	1	1.05	---	---	31.43
48	ⅧB-17	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.03	1	0.04	---	---	6.28
45	ⅧB-17F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.05	1	0.02	---	---	0.15
36	ⅧB-17F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.03
49	ⅧB-17F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.17	---	---	0.08
25	ⅧB-20F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.79	---	---	---
26	ⅧB-20F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.05	---	---	---
29	ⅧB-22F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	1.03	---	---	0.11
56	ⅧB-23F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.19	---	---	0.03
30	ⅧB-24F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	76	2.74	---	---	---	---	---
38	ⅧB-24F-C-1	埴土	1	---	---	---	Obs	36	2.15	1	0.21	---	---	---
35	ⅧB-24F-C-2	炭面	1	---	---	---	Obs	26	2.16	1	0.03	---	---	---
27	ⅧB-25F-1	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	1.56	---	---	---
39	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Sh	8	2.98	---	---	---	---	1.66
30	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Obs	69	27.23	---	---	---	---	---
31	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.01	---	---	4.51
32	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	1.41	---	---	7.07
32	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.20	---	---	---	---	06.26
33	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.04	---	---	2.60
60	ⅧB-26	埴土	1	Ⅷ~Ⅸ	14	19.90	Obs	4	0.28	1	1.10	---	---	0.07
42	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.02	1	1.61	---	---	1.48
67	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.06	1	0.28	---	---	10.47
68	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.05	1	0.24	---	---	0.42
71	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.02	---	---	0.03
73	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.03	---	---	9.22
74	ⅧB-26	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.85
66	ⅧB-26F-1	埴土	1	不明	1	0.11	Obs	1	0.11	1	0.01	---	---	0.29
75	ⅧB-26F-6	埴土	1	---	---	---	Obs	14	5.39	---	---	---	---	0.44
37	ⅧB-27	炭面	1	---	---	---	Mud	1	0.01	---	---	---	---	---
40	ⅧB-30	埴土	1	---	---	---	---	---	---	206	17.67	1	0.03	---
40	ⅧB-30	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	3.15	---	---	---
44	ⅧB-30F-2	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	0.01	---	---	0.20
41	ⅧB-30F-3	埴土	1	---	---	---	---	---	---	1	3.64	---	---	---
42	ⅧB-30F-5	埴土	1	不明	1	0.09	Obs	2	0.06	1	0.01	---	---	0.05
43	ⅧB-30F-10	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	1	0.03	0.36
57	ⅧB-30F-C-1	瓶土土	1	---	---	---	Obs	383	51.12	1	0.01	---	---	---
23	ⅧB-32F-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	1	0.17	---	---	0.04
34	ⅧB-32F-1	埴土	1	Ⅷ~Ⅸ	1	11.44	---	---	---	1	0.04	---	---	4.36
65	ⅧB-36F-3	埴土上面	1	---	---	---	Obs	1	0.01	---	---	---	---	0.12
72	ⅧB-37	埴土	1	---	---	---	---	---	---	---	---	1	0.01	2.42
59	ⅧB-38F-C-1	埴土	1	---	---	---	Obs	419	24.56	---	---	---	---	---
63	ⅧB-38F-C-1	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.48	---	---	---	---	石鏝
63	ⅧB-38F-C-1	埴土	1	---	---	---	Obs	6	0.24	---	---	---	---	---
69	ⅧB-38F-C-1	埴土	1	---	---	---	Obs	81	7.38	---	---	---	---	---
30	ⅧB-11F-3	埴土上段	1	---	---	---	---	---	---	1	0.04	---	---	0.63
64	ⅧB-13F-C-1	埴土	1	Ⅷ~Ⅸ	1	0.30	Obs	1	0.16	---	---	---	---	---
70	ⅧB-29	埴土	1	---	---	---	Obs	18	0.51	---	---	---	---	---
56	ⅧB-7	埴土	1	---	---	---	Obs	1	0.01	1	0.04	---	---	2.37
1	O21区	貝層	1	---	---	---	Obs	75	0.41	---	---	---	---	---
合計			75	---	32	34.63	---	181	148.23	36	35.52	---	---	96.41

Ⅷ章 総括

1. 遺構

当センターでは、3か年で計3,495㎡の調査を行った。遺構は、住居跡44軒、土坑38基、柱穴状小土坑25基、焼土10か所ほかを検出した。また、昭和60（1985）年の根室市教育委員会の調査により、竪穴住居跡15軒、土坑23基が検出されており（根室市教育委員会 1986）、それを合わせると、住居跡は59軒、土坑は63基となった。これらの調査成果の中から、主要な時期である縄文中期後葉～後期前葉の北筒式期の住居跡と縄文晩期の土坑墓について特徴を挙げる。

（1）北筒式期の住居跡の特徴

①分布と立地

住居跡は別当賀川右岸の台地縁辺部に分布し、A地区では標高5～8mの緩斜面上に3軒が間隔をあけて検出された一方、B地区では標高7～12mの緩斜面上に北西側の一部を除き調査区のほぼ全域に展開する。特にB地区では分布密度が高く、標高8m前後の傾斜が緩い部分に密集するものの、やや傾斜をもって高くなる南東部にも多数構築されている。住居跡の端部同士が重複するものが多く、B地区中央～南西部では複雑な様相をみせている。重複関係の詳細は、出土土器や年代測定結果と関連して後述する（Ⅷ章3節参照）。

②住居跡の深さと形状（図Ⅷ-1）

住居跡の床面は、摩周テフラ（Ⅳ層）を境に「浅い」ものと「深い」ものに分けられる。

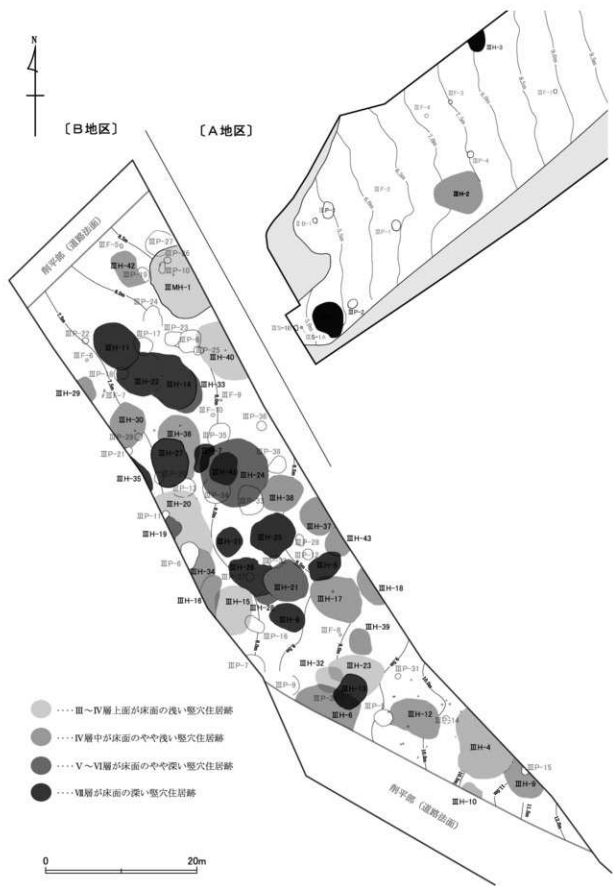
- ・床面がⅢ～Ⅳ層上面の「浅い」住居跡（9軒） …… ⅢMH-1、ⅢH-2・4・6・15・20・23・32・40
- ・床面がⅣ層中の「やや浅い」住居跡（15軒） …… ⅢH-9・10・12・16・17・18・29・30・34・36・37・38・39・42・43
- ・床面がⅤ～Ⅵ層の「やや深い」住居跡（5軒） …… ⅢH-19・21・24・28・33
- ・床面がⅦ層の「深い」住居跡（14軒） …… ⅢH-1・3・5・7・11・13・14・22・25・26・27・31・35・41

A・B両地区において、「浅い」ものは長径8m以上の大型楕円形が多い。「やや浅い」ものは長径5～7mの楕円形または不整楕円形を呈する。水の浸透性や構築のしやすさなど摩周テフラの特性を生かした構造と考えられる。「やや深い」ものはさまざまな規模・形状で、最大のⅢH-24は径9mを超えるほぼ円形の整った形状である。「深い」ものは長径5m前後のやや不整な楕円形のもの7m前後の比較的整った楕円形のものが多い。

住居跡が多数あるB地区では、別当賀川流路と同様の北西-南東方向にあたる調査区長軸中央付近では「深い」・「やや深い」竪穴住居跡が列をなし、その両側に「浅い」・「やや浅い」住居跡が展開する傾向にある。その中でも、北部のⅢH-11（「深い」）とⅢMH-1（「浅い」）、ⅢH-14（「深い」）とⅢH-40（「浅い」）はそれぞれ長軸方向が近似し適度な間隔があり、浅い住居跡の方がやや高い位置にある。出土土器から見てそれぞれ同時存在した可能性があり、目的別の利用が想起される。

③床面の構築

竪穴住居跡の床面について、炉とみられる焼土が竪穴の構築面より上位の面から検出されるものが多く、不整形に掘削した後に埋め戻して平坦化し床面（生活面）としたと考えられるものが目立って



図Ⅵ-1 住居跡深度区分図

いる。埋め戻した床面は「深い」住居跡のうちⅢH-1・3・5・11・14・22・25・31・33・41、「やや浅い」住居跡でもⅢH-6が該当する。また「やや浅い」住居跡のⅢH-12・16は段があり、同様の構造が考えられる。

なお、1985年調査範囲では、堅穴住居跡の多くが段構造の「すり鉢状のピット」を伴っており、埋戻しによる貼床構造がみられる。

④焼失住居

覆土中や床面に炭化材や炭化木片がまとも出土した住居跡が多数あった。これらは焼失住居と思われるもので、ⅢH-2・4・6・9・17・20・23・24・25・26・31・32・34・37・38・39・41のうち、12軒が「浅い」・「やや浅い」住居跡である。このうちⅢH-6・23は炭化材が密に分布し、長さ20cmを超えるものも確認できた。ⅢH-20では、炉のまわりにドーナツ状に分布する。「深い」住居跡のⅢH-25では、井桁状の構造が一部観察できる。これらの多くは、焼土ブロックや黄褐色ローム・摩周テフラを多く含む土壌が混在し、屋根土の崩落土が伴うと考えられる。

1985年の調査範囲でも、堅穴住居跡H-9・10・12の一面に炭化材が検出されており、堅穴上屋構造物の残存物や、床面の敷物が想定された「編み物状炭化物」が広く出土している。道内外でも縄文時代中期～後期初頭は焼失住居が多数検出されている時期で、根室市内の遺跡でも徳香堅穴群（北埋調報170 2002）やトーサムボロ湖周辺堅穴群（北埋調報324 2016）など該期の焼失住居跡の事例が数多くある。

⑤「平地住居跡」に類似する住居跡

「浅い」住居跡のうち、掘り込みのほとんどない住居跡としてⅢMH-1・ⅢH-2がある。ⅢH-20・40もこれに類似する。「ⅢMH」は黄褐色土のマウンド(M)を伴い、当初から平地住居跡を想定したものである。これらは8m以上の大型楕円形で、床面はやや傾斜があるものの平坦である。焼失住居がほとんどで、床面付近に炭化材が密に検出され、その上に黄褐色ロームがドーナツ状に分布するものが典型的である。緩斜面の標高の高い側を一部掘り込んで床面・壁を一部形成し「平地」の要点を欠くものもあるが（ⅢH-1、ⅢH-40）、整地程度の造成であることを考慮すれば、「平地住居跡」と言える。

ⅢH-2・20は黄褐色土や炭化材の検出状況が、根室市徳香川右岸遺跡JM-2（北埋調報212 2005）や鶴居村下幌呂1遺跡H-14・15（北埋調報287 2012）などに類似する。またⅢMH-1は、床面・壁の造成や黄褐色ロームの分布、柱穴の検出状況等が、斜里町来運1遺跡の「焼けた土葺伏屋式平地建物跡」（斜里町教育委員会 2006）に類似する。

（2）北筒式期の住居跡の変遷（図Ⅷ-2）

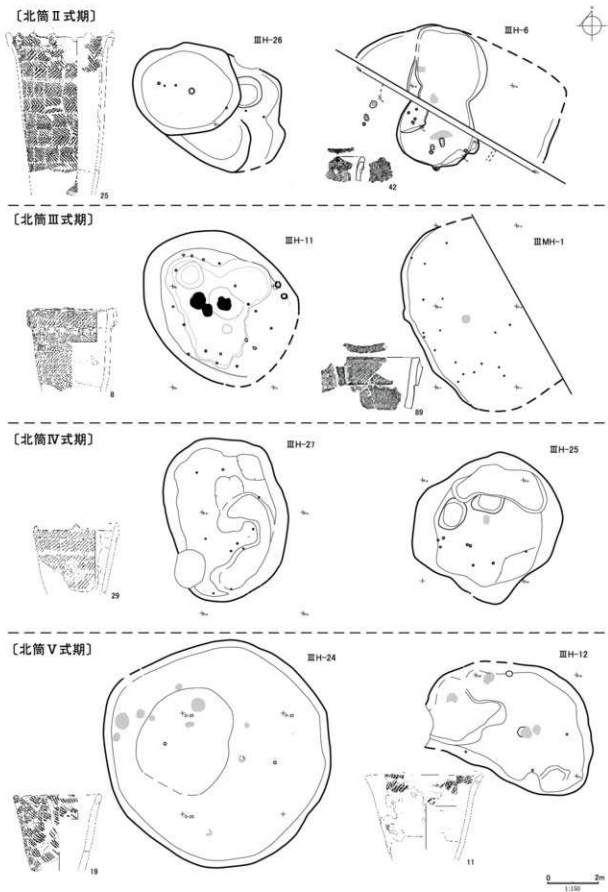
以上の特徴や出土土器などから、当遺跡の北筒式期における住居跡の変遷を概観する。

【北筒Ⅱ式期】

ⅢH-2・6・26・43の例がある。A地区およびB地区中央部～南東部に分布する。「深い」住居跡では、楕円形の「すり鉢状のピット」が連続する不整な平面形で、埋戻しによる床面とみられるものがある（ⅢH-26など）。「浅い」住居跡でも、不整楕円形のピットを埋戻して床面としたものがある（ⅢH-6）。また平地住居跡とみられるものもこの時期から確認でき、7m以下の中規模で整った楕円形を呈する（ⅢH-2）。

【北筒Ⅲ式期】

ⅢMH-1、ⅢH-11例があり、覆土から該期の土器が出土したⅢH-36・42も該当すると思われ



图Ⅵ-2 住居跡北筒式期変遷図

る。主にB地区北部に分布する。「深い」住居跡では、平面形は整った楕円形だが、「すり鉢状のピット」が連続し埋戻しによる床面をなすものがある(ⅢH-11)。「浅い」住居跡では、一部不整な楕円形を呈するものの、床面はほぼ平坦であるものがみられる(ⅢH-36・42)。また平地住居跡に類似する、一部に壁を造成する住居跡がみられる(ⅢMH-1)。径8m以上の大型の楕円形を呈する。

〔北筒Ⅳ式期〕

ⅢH-8・25・27の例がある。B地区中央部付近に分布の主体があり、北部の一部にも展開しているとみられる。「深い」住居跡では、平面形が比較的整った楕円形または円形で、底面の「すり鉢状のピット」が存在するものの(ⅢH-25)、浅い段となるものがある(ⅢH-27)。「浅い」住居跡では、この細分段階に特定できるものが例示できないが、分布域の主体と考えられるB地区中央部には比較的形整った楕円形のものが多くみられる。

〔北筒Ⅴ式期〕

ⅢH-12・24の例があり、該期の土器が出土したⅢH-9・23・31も該当すると思われる。B地区中央部～南東部に分布する。「深い」住居跡では、9mを超える大が型のものがあり(ⅢH-24)、円形に近い整った形状をなしている。一方やや小型のものもあり、底面に浅い段を有している(ⅢH-31)。「浅い」住居跡では、おおむね楕円形に整っており、底面にわずかに段のあるものがある(ⅢH-12)。

〔北筒Ⅱ～Ⅴ式期〕

当遺跡では、北筒式期を通じて「深い」住居跡と「浅い」住居跡が展開していた。ただし平地住居跡またはそれに類似するものは、北筒Ⅱ～Ⅲ式期にみられた。全体的には、平面形が不整楕円形から楕円形～円形へ、底面の大型で深い「すり鉢状ピット」が浅い段へと変遷していく様子がうかがえる。

(3) 縄文晩期の土坑墓

Ⅲ層で検出した土坑のうち4基(A区ⅢP-4、B地区北半ⅢP-21・22・29)は、縄文時代晩期の土坑墓とみられる。径1m前後、深さ50cm前後の円筒形をなしており、定型である。覆土はMaバミスが多く含む埋戻し土である。坑底付近に赤色顔料が多く含まれる土坑が2基あり、ベンガラ撒布が行われたとみられる(ⅢP-21・29)。糊状の人骨の一部や歯冠が残存するものがあり(ⅢP-4・29)、仰臥からやや横臥した屈葬と判断できるものもある(ⅢP-29)。副葬品は目立ったものが見られなかったが、ⅢP-4の覆土上位には一部に赤彩のある緑ヶ岡式の小型舟形土器が1個体納められていた。

以上のような規模・形状と埋葬形態は、各地で多副葬墓がみられるこの時期の墓制に類似するが、副葬品のあり方は当地域における一様相としてとらえられる。(阿部)

2. 遺物

今回の調査で遺物は、A地区で土器8,919点、石器等7,218点、鉄製品15点で合計16,152点出土し、B地区では土器等8,176点、石器等20,561点、金属製品15点で合計28,752点出土した。両地区の合計は44,904点で、内訳は土器等17,095点、石器等27,779点、金属製品30点である。土器は縄文時代晩期後葉が9,870点と最も多く、次いで縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒Ⅱ～Ⅴ式土器が5,860点である。他の時期には縄文時代早期・前期、統縄文時代、撥文文化期があるが、出土点数は少量で、統縄文時代以外は遺構もない。以上のことから、遺構の主体の時期であり、復元個体数が多い北筒式土器に

ついて概観する。

(1) 本遺跡出土の北筒式土器について

北筒式土器は、A地区で遺構25点、包含層268点の計293点出土し、B地区は遺構3,184点、包含層2,383点の計5,567点出土した。型式は北筒Ⅱ式～北筒Ⅴ式があり、その中で北筒Ⅲ～Ⅴ式が多く、北筒Ⅱ式は少ない。以下、型式ごとに特徴を挙げる。

北筒Ⅱ式のうちではトコロ6類が多く、トコロ5類はほとんど出土していない。トコロ6類の古段階はⅢH-6覆土・床面、ⅢH-2・11・23等の覆土から出土している。口縁部は山形突起があり、肥厚帯は幅が狭く不明瞭なものもある。口唇部には押引文が施される。肥厚帯直下には径1cm前後の円形刺突文が施される。地文は単節の斜行縄文で、口縁部内面にも施される。胴部には横、縦位の刺突文が施され、底部端には押引文が施されるものがある。胎土に繊維を含むものが多い。トコロ6類の新段階は、ⅢH-26床面、ⅢH-17、ⅢP-16覆土等から出土している。器形は、胴部が直線的もしくはわずかに膨らみ、口縁部はやや広がる。全体的に大型である。口縁部には山形突起が多く付けられ、突起に刻みが増えられるものもある。肥厚帯は幅が狭く、縦位の沈線が施されるものもみられる。肥厚帯直下には径1cm前後の円形刺突文が施される。地文は単節の斜行縄文で、内面に斜行や羽状の縄文が施されるものもみられる。胎土に繊維を含むものもある。

北筒Ⅲ式はⅢH-11埋設土器、ⅢH-26・42、ⅢP-10覆土、ⅢMH-1のHM層等から出土している。器形は、胴部は直線的で、口縁部もほとんど広がらない。幅の広い肥厚帯が回り、棒状突起が付けられる。また、肥厚帯がないものもある。肥厚帯直下、もしくは口縁部下位には無文帯が横位に回り、無文帯には円形刺突文や縄側面圧痕が施されるものと文様が施されないものがある。また無文帯がないものもある。円形刺突文の下部は溝状に伸びるものもみられる。地文は単節及び複節の斜行縄文、羽状縄文が施される。胎土に砂粒を多く含むものもある。

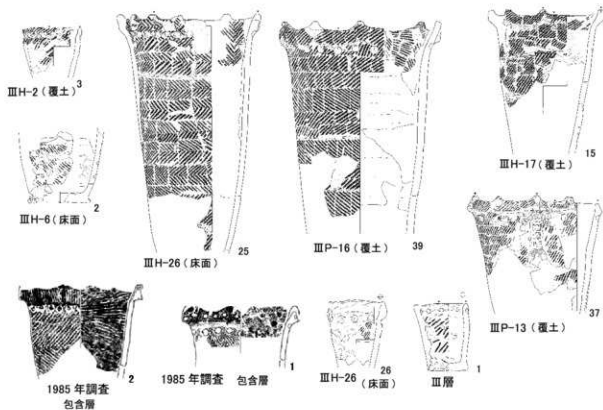
北筒Ⅳ式はⅢH-12・24床面、ⅢH-27床面直上、ⅢH-8・14・16・36覆土から出土している。器形は、胴部から口縁部は直線的なものが多い。口縁部には山形突起が付けられるものもある。肥厚帯の幅は狭く、ないものも多い。棒状突起が付けられるものもある。口縁部下位には無文帯が横位に巡るものもみられる。円形刺突文の径が北筒Ⅱ～Ⅲ式に比べ小さい。地文は単節及び複節の斜行縄文が施され、内面にも施されるものがある。

北筒Ⅴ式は個体数が最も多く、ⅢH-12・24床面、ⅢH-8・14・27・31覆土、ⅢP-6坑底等から出土している。器形は胴部が直線的もしくはややふくらみ、口縁部は平縁で、やや外反するものがある。文様は、口縁部の肥厚帯はみられず、径の小さい円形刺突文が施される。地文は単節の斜行縄文が施され、内面にも施されるものがある。

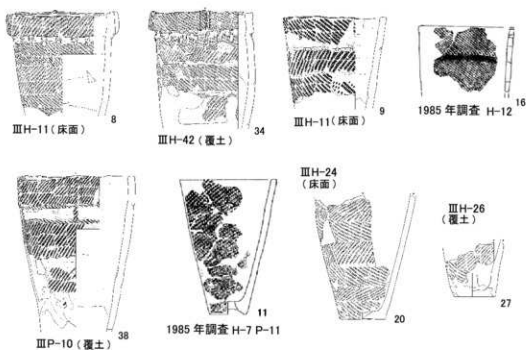
(2) 北筒式土器期の放射性炭素年代測定値について

放射性炭素年代測定を行った堅穴住居跡床面等出土の土器をもとに、各型式の年代測定値（以下、年代値）を検討する。年代値は全て¹⁴C年代（補正あり）の値である。トコロ6類古段階では、ⅢH-2が4050±30yrBP、3950±30yrBP、ⅢH-6が3900±30yrBPという年代値である。トコロ6類新段階では、ⅢH-26が3810±20yrBPという年代値である。北筒Ⅲ式では、ⅢH-11が3720±30yrBPである。北筒Ⅳ式は測定を行った遺構の内、当該期と判断できる例がない。ⅢH-12・24の床面からは北筒Ⅳ式の復元土器（10・18）が出土しているが、他に北筒Ⅴ式と判断されるもの（11・19等）が共に出土しているため、両遺構の時期は北筒Ⅴ式期とした。北筒Ⅴ式では、ⅢH-12が

北筒Ⅱ式土器 (トコロ 6類)

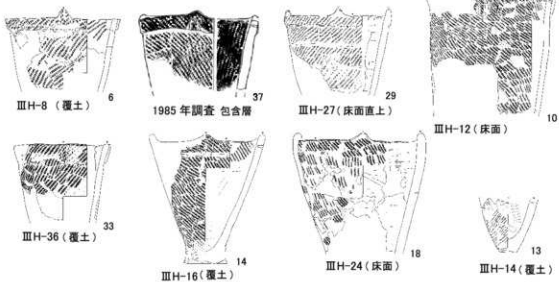


北筒Ⅲ式土器

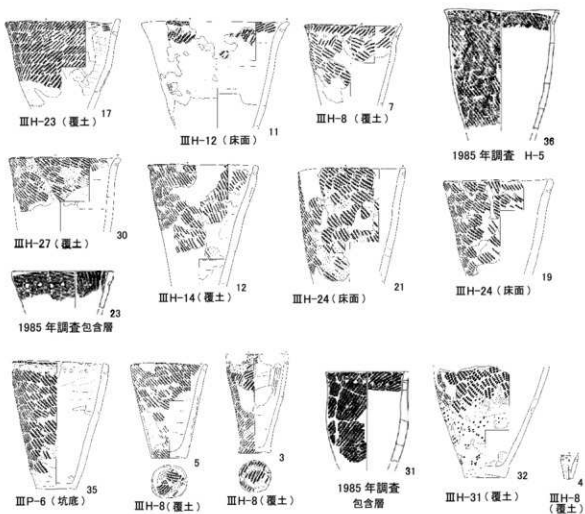


図Ⅵ-3 北筒式土器集成図(1)

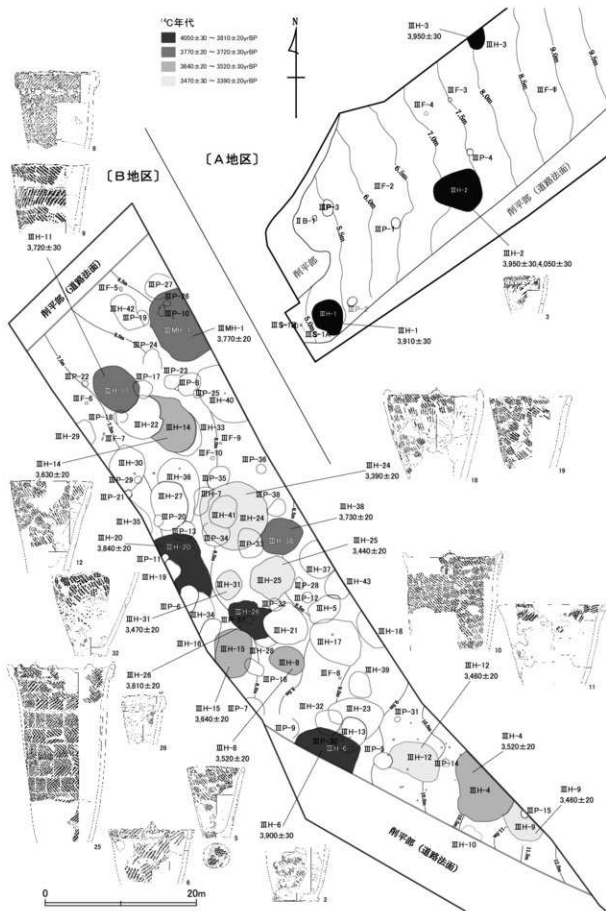
北筒Ⅳ式土器



北筒Ⅴ式土器



图Ⅵ-4 北筒式土器集成图(2)



图Ⅷ-5 A·B地区放射性碳素年代测定遗构位置图

3460 ± 20yrBP、ⅢH-24が3390 ± 20yrBPという年代値である。また、北筒Ⅴ式期と推定される他の遺構（ⅢH-4・15）の年代値として3520 ± 20yrBP、3640 ± 20yrBPがある。混入と考えられるⅢP-6（2010 ± 20yrBP）を除く（本章3節（1）参照）、上記以外の北筒式期の遺構の測定値は、最も古い測定値が3950 ± 30yrBP、新しい測定値が3440 ± 20yrBPと、上記の例とほぼ同じ範囲にまともり整合性がある（表Ⅷ-1参照）。また、昭和60（1985）年の調査でも遺構出土炭化材5点について、東京大学総合資料館¹⁴C年代測定室で測定している。補正の有無は不明だが、測定値は3700 ± 90yrBP～3450 ± 70yrBPという結果が出ており、ほぼ今回と同じ範囲にまとまる。

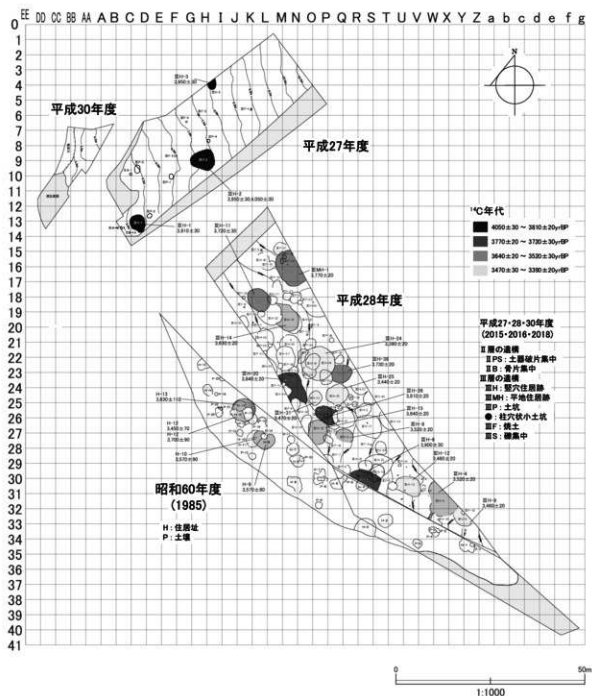
以上の様に、当遺跡の年代値は、出土土器から推定される時期と比較しても概ね矛盾がないため、全体として北筒Ⅱ～Ⅴ式土器期の年代を示すものと考えられる。型式ごとの年代値の範囲は、北筒Ⅱ式が4050 ± 30yrBP～3810 ± 20yrBP、北筒Ⅲ式が3720 ± 30yrBPである。北筒Ⅳ式は良好な資料がなく、また北筒Ⅳ式とⅤ式が床面から出土している例（ⅢH-12・24）があるため、便宜的に北筒Ⅳ～Ⅴ式をまとめて扱う。その年代値の範囲は3640 ± 20yrBP～3390 ± 20yrBPとなる。

北筒式土器の時期の放射性炭素年代測定を行っている周辺の遺跡の調査例として、当センターで調査した根室市穂香堅穴群（北埋調報170・184 2002・2003）、同徳香川右岸遺跡（北埋調報212 2005）、銅路町天塚1遺跡（北埋調報254 2008）、鶴居村下幌呂1遺跡（北埋調報287 2012）や銅路市大楽毛1遺跡（銅路市埋蔵文化財調査センター 2001）が挙げられる。土器付着物の測定値や、年代値のまともりから大きく外れる等混入の可能性のあるものを除いた年代値の概要を以下に示す。北筒Ⅱ～Ⅲ式期の遺構の年代値の範囲は、穂香堅穴群では3860 ± 40yrBP～3720 ± 40yrBP、穂香川右岸遺跡では3890 ± 40yrBP～3720 ± 40yrBP、下幌呂1遺跡では4040 ± 40yrBP～3650 ± 40yrBPである。大楽毛1遺跡では北筒Ⅱ式期の遺構の年代値として、3860 ± 170yrBP、3570 ± 110yrBPという結果が出ている。天塚1遺跡では北筒Ⅱ～Ⅴ式の遺構等の年代値として4510 ± 40yrBP～3620 ± 30yrBPという結果が出ているが、これらは複数の型式期にまたがる盛土や包含層出土の試料の年代値のため、型式ごとの年代値を判断するのは難しい。また、下幌呂1遺跡では縄文時代後期中葉鯉淵式期の遺構が確認され、その測定値は3530 ± 40yrBP～3280 ± 30yrBPである。これらの調査例の数値を比較すると、若干の幅があるが北筒Ⅱ～Ⅲ式期の年代値は4000～3600yrBPでまとまっており、概ね当遺跡と同様の年代値といえる。北筒Ⅳ～Ⅴ式の3640～3390yrBPという年代値は比較できる例がなく検討できない。ただし、本遺跡では北筒Ⅱ～Ⅲ式期も含めて全体的な整合性がみられ、北筒Ⅱ～Ⅲ式期は他遺跡の例と概ね一致することから、北筒Ⅳ～Ⅴ式についても妥当な年代値である可能性が高い。この年代値は下幌呂1遺跡の鯉淵式期の年代値と重なっているため、本遺跡の年代値を見る限り、北筒Ⅳ～Ⅴ式期は縄文時代後期中葉まで継続していた可能性を指摘できる。この北筒Ⅳ～Ⅴ式の時期、年代の問題については、本遺跡例のみでは妥当性の判断が難しいため、今後良好な資料との比較、検討を行う必要がある。

3. 分析について

（1）放射性炭素年代測定

縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒式の住居跡等や、縄文時代晩期の土坑墓の絶対年代を確認するために、出土した炭化材等を試料として20点の年代測定を行った。試料の抽出にあたって、北筒Ⅱ～Ⅴ式期の焼失住居跡や、炉跡焼土等の遺構に伴う炭化木がある住居跡を対象とし、さらに床面出土の土器があるなど細かい時期を確認できる遺構を優先とした。最終的に北筒Ⅱ～Ⅴ式のA地区の堅穴



図Ⅷ-6 全放射性炭素年代測定遺構位置図

住居跡3軒(ⅢH-1~3)、B地区の住居跡15軒(ⅢH-4・6・8・9・11・12・14・15・20・24~26・31・38・ⅢMH-1)、土坑1基(ⅢP-6)出土の炭化木を試料とした。また、縄文時代晩期の土坑墓(ⅢP-4)出土の炭化木も分析を行った。

測定結果は¹⁴C年代で最も古いⅢH-2で4050±30yrBP、最も新しいⅢH-24で3390±20yrBPという結果で、他の結果も、ⅢP-6(2010±20yrBP)を除き、3950±30~3440±20yrBPの間に収まる。これは北筒Ⅱ~Ⅴ式土器の時期を示していると考えられ、遺構出土の北筒式土器型式と比較しても概ね妥当と考える(本章2節参照)。また、ⅢP-6は覆土出土の炭化木を試料としたが、覆土中及び坑底に焼土が確認されなかったため、混入の可能性がある。縄文時代晩期のⅢP-4の2510±30yrBPは遺物等から想定した時期と整合性があり、妥当な数値と考える。

表Ⅶ-1 放射性炭素年代測定遺構一覧 (¹⁴C年代順)

遺構名	地区名	時期	¹⁴ C年代(補正あり)	性格	分析番号	備考
ⅢH-2	A地区	北筒Ⅱ式トコロ6類古	3,950±30, 4,050±30	焼失住居	BETC-2・3	
ⅢH-3	A地区	北筒式	3,950±30	住居	BETC-4	
ⅢH-1	A地区	北筒式	3,910±30	住居	BETC-1	
ⅢH-6	B地区	北筒Ⅱ式トコロ6類古	3,900±30	焼失住居	BETC-7	
ⅢH-20	B地区	北筒式	3,840±20	焼失住居	BETC-15	
ⅢH-26A~C	B地区	北筒Ⅱ式トコロ6類新	3,810±20	焼失住居	BETC-18	
ⅢMH-1	B地区	北筒Ⅲ式	3,770±20	住居	BETC-21	
ⅢH-38	B地区	北筒式	3,730±20	焼失住居	BETC-20	
ⅢH-11	B地区	北筒Ⅲ式	3,720±30	住居	BETC-10	
ⅢH-15	B地区	北筒Ⅴ式	3,640±20	住居	BETC-14	
ⅢH-14	B地区	北筒式	3,630±20	住居	BETC-13	
ⅢH-4	B地区	北筒Ⅴ式	3,520±20	焼失住居	BETC-6	
ⅢH-8	B地区	北筒Ⅳ~Ⅴ式	3,520±20	住居	BETC-8	
ⅢH-31	B地区	北筒Ⅴ式	3,470±20	焼失住居	BETC-19	
ⅢH-9	B地区	北筒式	3,460±20	焼失住居	BETC-9	
ⅢH-12	B地区	北筒Ⅴ式	3,460±20	住居	BETC-11	
ⅢH-25	B地区	北筒Ⅳ~Ⅴ式?	3,440±20	焼失住居	BETC-17	
ⅢH-24	B地区	北筒Ⅴ式	3,390±20	焼失住居	BETC-16	
ⅢP-6	B地区	北筒Ⅴ式	2,010±20	土坑	BETC-12	混入炭化材?
ⅢP-4	B地区	縄文時代晩期	2,510±30	土坑墓	BETC-5	

(2) 黒曜石製石器の産地推定

剥片石器の石材として多く使われている黒曜石の、時期別についての産地の傾向を確認する目的で27点の分析を行った。分析試料は、出土状況等から時期が判断できるもの等を対象とし、本遺跡の主体である北筒式土器の時期の堅穴住居跡床面出土の定形的な石器、晩期後葉の土坑墓の副葬品と考えられる石器から抽出した。また、赤色が混じるもの(BETO-10)や、大きな球果を含むもの(BETO-18)、梨肌のもの(BETO-22)、やや緑色がかったもの(BETO-23)等の特徴的な黒曜石も対象とした。

推定結果は、北筒式土器の時期19点では、置戸エリア12点(所山9点、置戸山3点)、上土幌エリア4点、白滝エリア2点(共に白滝2)、留辺蘂1点(留辺蘂2)であり、置戸エリアが多く、上土幌エリアや白滝エリアがみられる。周辺の遺跡と比較すると、当センターで調査を行った穂香堅穴群、穂香川右岸遺跡でも置戸地域が多く、上土幌地域、白滝地域がみられるといった同様の傾向であるため、北筒式土器の時期の根室地域全体の傾向といえるかもしれない。晩期後葉については、上土幌エリア4点、置戸エリア3点(所山3点)、白滝エリア1点(白滝1)という結果が出ており、概ね北

筒式の時期と同様の傾向である。周辺で比較できる遺跡がないため、根室地域の傾向であるかは不明だが、本遺跡においては縄文時代中期から晩期にかけて黒曜石の傾向として、置戸エリア、上土幌エリアが多く使われていたことは指摘できる。

(3) 炭化材の樹種同定

今回の調査では、縄文時代中期後葉～後期前葉の北筒式土器の時期の焼失住居跡を確認し、住居の構築材と考えられる炭化材も多数検出した。当該期の住居構築材の樹種利用の傾向を確認するため、遺存状況の良い炭化材76点について、樹種同定を行った。

同定結果は、針葉樹はモミ属が1点のみで、他は全て広葉樹である。中ではコナラ属コナラ節が26点と最も多く、ほとんどの遺構で確認できた。次いでカバノキ属12点で、他にトネリコ属シオジ節、キハダ等がみられた。付属3節で考察がなされており、材質にこだわらず遺跡周辺に生育していた樹木が利用されていた可能性が指摘されている。今回の調査で確認した住居跡の柱穴は径10cm以下が多く、このことから利用可能な小型の材を使用していたと考えられる。

(4) 鉄製品の金属考古学的調査

掲載した8点の鉄製品について保存処理を行い、Ⅱ層出土のマレク1点(図Ⅷ-58-1)の素材について金属考古学的調査を行った。組織観察及び化学分析を行い、その結果を周辺の遺跡等と比較することにより、その供給源について検討することが目的である。

分析結果を根室市内の近世アイヌ文化期の遺跡であるトーサムボロ湖周辺堅穴群(北埋調報317 2015)出土の鉄製品と比較すると、トーサムボロ湖周辺堅穴群出土のものとはニッケル、コバルト、銅の成分比が大きく異なることが判明した。分析したマレクの原料鉄の供給源は本州や大陸等の様々な可能性があり、現段階では結論を出すことが難しく、今後の分析試料の蓄積を基に検討する必要がある。

(5) 火山灰同定

B地区の堅穴住居跡ⅢH-26の覆土中から砂質のテフラと考えられる土層を確認し、肉眼観察では摩周f～jテフラや樽前cテフラと明らかに異なっていたため、現地で試料を採取し、分析を行った。ⅢH-26は縄文時代中期後葉北筒Ⅱ式トコロ6類土器の時期であるため、それより新しい時期と想定していた。

分析結果から摩周dテフラ(約4,000年前降下)に対比されたが、火山ガラスが少量しか含まれないため摩周火山由来の火砕物の再堆積物の可能性も指摘された。根室市内で調査を行った遺跡では同様のテフラは確認できなかったため、比較することができないが、今後の本地域で調査を行う時に留意する必要がある。

(広田)

付 篇

1. 放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1. 測定対象試料

別当賀一番沢川遺跡は、北海道根室市釧陽に所在し、別当賀川に面する河岸段丘上の平坦面と緩斜面に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡、平地住居跡、土坑から出土した木炭21点である(表1)。試料の時期は、出土土器などにより、BETC-5のみ縄文時代晩期、他は縄文時代中期から後期と推定されている。

2. 測定の意義

遺跡内に位置する複数の住居跡、土坑の前後関係や絶対年代を明らかにする。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001 M から1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4. 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

ある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2・3に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2・3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2・3、図版1・2に示した。なお、暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図版1・3に、後者を表3、図版2・4に示した。

6. 測定結果

測定結果を表1~3、図版1~4に示す。

試料21点のうち、BETC-5、12を除く19点の ^{14}C 年代は、4050 \pm 30yrBP (BETC-3) から3390 \pm 20yrBP (BETC-16) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古いBETC-3が縄文時代中期後葉から末葉頃、最も新しいBETC-16が後期中葉頃に相当し、多くは後期初頭から中葉頃と見られる (小林編2008)。中期から後期とする推定の範囲内である。

BETC-5の ^{14}C 年代は2510 \pm 30yrBP、暦年較正年代 (1σ) は縄文時代晩期後葉頃に相当する (小林編2008)。推定される時期におおむね一致すると見られる。

BETC-12の ^{14}C 年代は2010 \pm 20yrBP、暦年較正年代 (1σ) は統縄文時代前半に相当し (白杵編2007)、推定より新しい年代値を示した。

試料の炭素含有率を確認すると、BETC-13を除く20点はすべて40%を超えるおおむね適正な値である。BETC-13は微細な炭化物で、土を完全に除去できず、炭素含有率が21%という低い値を示した。測定された炭素の由来に若干注意を要する。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器。総覧縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

臼杵勲編 2007 科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書、
札幌学院大学人文学部

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152786	BETC-1	ⅢH-1 床面	木炭	AAA	-24.55±0.27	3,910±30	61.47±0.21
IAAA-152787	BETC-2	ⅢH-2 HF-1 焼土	木炭	AaA	-25.98±0.51	3,950±30	61.16±0.21
IAAA-152788	BETC-3	ⅢH-2 覆土	木炭	AAA	-25.04±0.77	4,050±30	60.43±0.23
IAAA-152789	BETC-4	ⅢH-3 HF-2 焼土	木炭	AaA	-23.13±0.41	3,950±30	61.19±0.21
IAAA-152790	BETC-5	ⅢP-4 坑底面	木炭	AAA	-28.31±0.57	2,510±30	73.18±0.25
IAAA-162058	BETC-6	ⅢH-4(4号住居跡) 覆土	木炭	AaA	-26.84±0.21	3,520±20	64.49±0.18
IAAA-162059	BETC-7	ⅢH-6(6号住居跡) 覆土	木炭	AaA	-25.18±0.17	3,900±30	61.51±0.2
IAAA-162060	BETC-8	ⅢH-8(8号住居跡) 床面直上	木炭	AaA	-25.06±0.22	3,520±20	64.54±0.19
IAAA-162061	BETC-9	ⅢH-9(9号住居跡) 覆土	木炭	AAA	-27.07±0.26	3,460±20	64.99±0.18
IAAA-162062	BETC-10	ⅢH-11 HF-1 炭化物層	木炭	AAA	-23.45±0.21	3,720±30	62.91±0.2
IAAA-162063	BETC-11	ⅢH-12(12号住居跡) 覆土	木炭	AAA	-24.39±0.19	3,460±20	65.03±0.18
IAAA-162064	BETC-12	ⅢP-6(6号土坑) 覆土下	木炭	AAA	-26±0.25	2,010±20	77.85±0.21
IAAA-162065	BETC-13	ⅢH-14 HF-1 焼土上位層	木炭	AaA	-23.85±0.18	3,630±20	63.62±0.19
IAAA-162066	BETC-14	ⅢH-15 HF-4 焼土層	木炭	AAA	-25.87±0.23	3,640±20	63.53±0.18
IAAA-162067	BETC-15	ⅢH-20 HF-1 焼土層	木炭	AAA	-27.85±0.17	3,840±20	62.01±0.18
IAAA-162068	BETC-16	ⅢH-24 HF-1 焼土層	木炭	AaA	-22.85±0.17	3,390±20	65.59±0.19
IAAA-162069	BETC-17	ⅢH-25(25号住居跡) 覆土	木炭	AAA	-23.81±0.21	3,440±20	65.13±0.19
IAAA-162070	BETC-18	ⅢH-26 HF-1 焼土層	木炭	AaA	-23.41±0.26	3,810±20	62.26±0.18
IAAA-162071	BETC-19	ⅢH-31 HF-1 焼土層	木炭	AAA	-27.36±0.25	3,470±20	64.89±0.2
IAAA-162072	BETC-20	ⅢH-38(38号住居跡) 覆土	木炭	AAA	-24.64±0.17	3,730±20	62.84±0.19
IAAA-162073	BETC-21	ⅢMH-1(1号平地住居跡) 覆土	木炭	AAA	-27.86±0.32	3,770±20	62.51±0.19

[IAA登録番号: #7792, 8368]

表 2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BP) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152786	3,900 \pm 30	61.53 \pm 0.20	3,908 \pm 26	4415calBP-4350calBP (43.8%) 4331calBP-4297calBP (24.4%)	4420calBP-4283calBP (89.0%) 4274calBP-4250calBP (6.4%)
IAAA-152787	3,970 \pm 30	61.04 \pm 0.20	3,949 \pm 28	4509calBP-4485calBP (12.5%) 4441calBP-4403calBP (40.4%) 4367calBP-4356calBP (5.6%) 4325calBP-4300calBP (9.7%)	4516calBP-4471calBP (17.7%) 4447calBP-4295calBP (77.7%)
IAAA-152788	4,050 \pm 30	60.42 \pm 0.20	4,046 \pm 29	4569calBP-4511calBP (36.3%) 4484calBP-4442calBP (31.9%)	4782calBP-4768calBP (3.1%) 4609calBP-4599calBP (1.5%) 4584calBP-4425calBP (90.8%)
IAAA-152789	3,920 \pm 30	61.42 \pm 0.20	3,946 \pm 27	4499calBP-4487calBP (6.1%) 4440calBP-4400calBP (40.7%) 4369calBP-4354calBP (7.8%) 4327calBP-4299calBP (13.6%)	4515calBP-4475calBP (13.0%) 4446calBP-4294calBP (82.4%)
IAAA-152790	2,560 \pm 30	72.69 \pm 0.24	2,508 \pm 27	2719calBP-2696calBP (12.8%) 2634calBP-2615calBP (10.7%) 2591calBP-2505calBP (44.8%)	2738calBP-2676calBP (23.5%) 2669calBP-2653calBP (2.0%) 2644calBP-2490calBP (69.9%)
IAAA-162058	3,550 \pm 20	64.25 \pm 0.18	3,523 \pm 22	3845calBP-3820calBP (20.5%) 3794calBP-3761calBP (27.0%) 3752calBP-3726calBP (20.7%)	3870calBP-3719calBP (95.4%)
IAAA-162059	3,910 \pm 30	61.49 \pm 0.20	3,904 \pm 25	4413calBP-4350calBP (43.5%) 4331calBP-4297calBP (24.7%)	4419calBP-4283calBP (88.5%) 4274calBP-4250calBP (6.9%)
IAAA-162060	3,520 \pm 20	64.54 \pm 0.19	3,517 \pm 24	3839calBP-3819calBP (16.2%) 3795calBP-3760calBP (29.0%) 3753calBP-3725calBP (23.0%)	3865calBP-3710calBP (95.4%)
IAAA-162061	3,500 \pm 20	64.72 \pm 0.17	3,461 \pm 22	3821calBP-3794calBP (21.7%) 3761calBP-3751calBP (6.4%) 3726calBP-3691calBP (33.3%) 3659calBP-3649calBP (6.8%)	3828calBP-3786calBP (26.9%) 3780calBP-3683calBP (57.0%) 3667calBP-3643calBP (11.5%)
IAAA-162062	3,700 \pm 20	63.11 \pm 0.19	3,723 \pm 25	4144calBP-4123calBP (14.7%) 4094calBP-4074calBP (15.3%) 4040calBP-3993calBP (38.2%)	4149calBP-4108calBP (22.7%) 4103calBP-3985calBP (72.7%)

表 2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BP) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162063	3,450 \pm 20	65.11 \pm 0.18	3,456 \pm 22	3819calBP-3795calBP (18.2%) 3759calBP-3753calBP (3.3%) 3725calBP-3688calBP (34.8%) 3662calBP-3647calBP (11.8%)	3828calBP-3786calBP (23.7%) 3779calBP-3740calBP (13.7%) 3735calBP-3641calBP (58.0%)
IAAA-162064	2,030 \pm 20	77.69 \pm 0.21	2,011 \pm 22	1990calBP-1943calBP (68.2%)	2001calBP-1898calBP (95.4%)
IAAA-162065	3,610 \pm 20	63.77 \pm 0.19	3,632 \pm 23	3976calBP-3911calBP (68.2%)	4069calBP-4044calBP (5.2%) 3990calBP-3872calBP (90.2%)
IAAA-162066	3,660 \pm 20	63.42 \pm 0.18	3,644 \pm 22	3983calBP-3912calBP (68.2%)	4077calBP-4038calBP (13.7%) 3995calBP-3891calBP (81.7%)
IAAA-162067	3,890 \pm 20	61.65 \pm 0.18	3,838 \pm 23	4289calBP-4225calBP (40.5%) 4203calBP-4159calBP (27.7%)	4405calBP-4368calBP (4.8%) 4355calBP-4325calBP (6.5%) 4300calBP-4151calBP (84.1%)
IAAA-162068	3,350 \pm 20	65.88 \pm 0.19	3,388 \pm 22	3684calBP-3666calBP (16.5%) 3643calBP-3593calBP (51.7%)	3693calBP-3657calBP (26.9%) 3650calBP-3576calBP (68.5%)
IAAA-162069	3,420 \pm 20	65.29 \pm 0.19	3,444 \pm 23	3811calBP-3801calBP (6.3%) 3721calBP-3682calBP (36.4%) 3668calBP-3643calBP (25.5%)	3826calBP-3789calBP (15.7%) 3771calBP-3745calBP (6.4%) 3731calBP-3636calBP (73.2%)
IAAA-162070	3,780 \pm 20	62.47 \pm 0.18	3,806 \pm 23	4235calBP-4153calBP (68.2%)	4284calBP-4274calBP (1.3%) 4256calBP-4143calBP (85.9%) 4124calBP-4093calBP (8.2%)
IAAA-162071	3,510 \pm 20	64.58 \pm 0.19	3,474 \pm 24	3825calBP-3790calBP (26.2%) 3770calBP-3746calBP (16.1%) 3731calBP-3696calBP (25.9%)	3831calBP-3690calBP (91.8%) 3660calBP-3649calBP (3.6%)
IAAA-162072	3,730 \pm 20	62.89 \pm 0.19	3,732 \pm 23	4146calBP-4117calBP (26.3%) 4098calBP-4080calBP (15.1%) 4034calBP-4000calBP (26.8%)	4152calBP-4064calBP (58.0%) 4049calBP-3987calBP (37.4%)
IAAA-162073	3,820 \pm 20	62.14 \pm 0.18	3,774 \pm 24	4224calBP-4205calBP (14.0%) 4158calBP-4139calBP (16.3%) 4130calBP-4091calBP (37.9%)	4237calBP-4085calBP (95.4%)

[参考値]

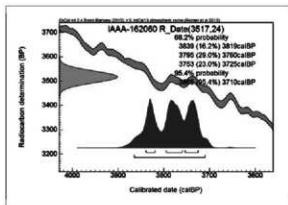
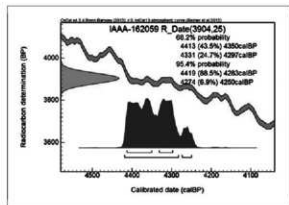
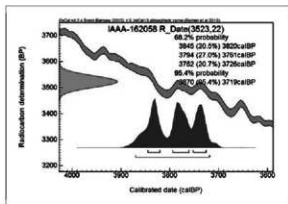
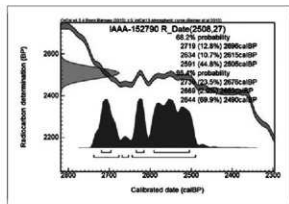
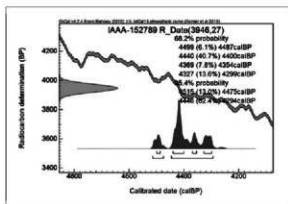
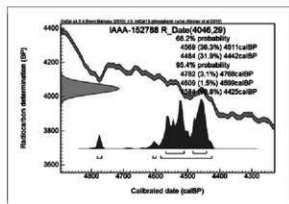
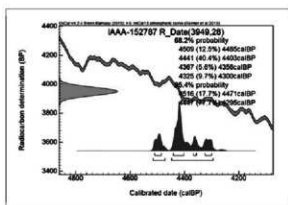
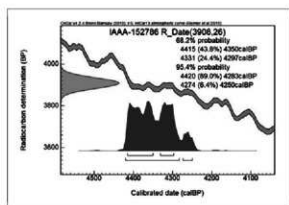
表3 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BC/AD) (1)

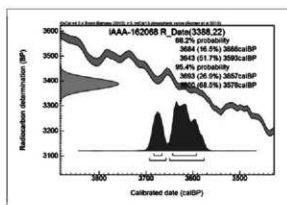
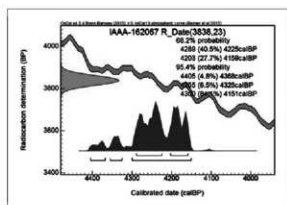
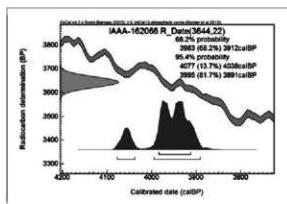
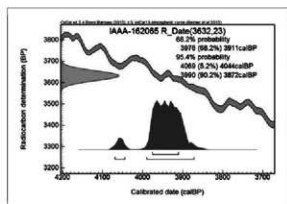
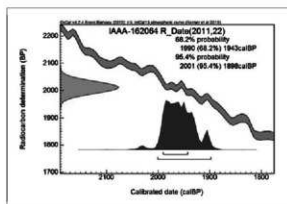
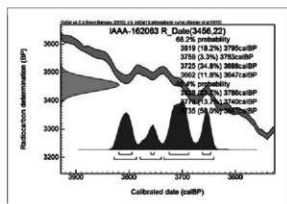
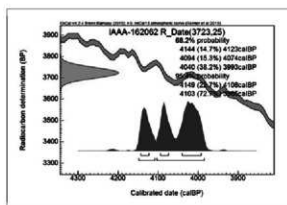
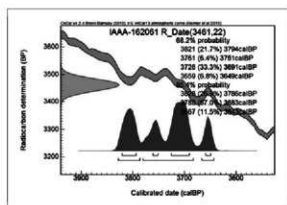
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152786	3,900 \pm 30	61.53 \pm 0.20	3,908 \pm 26	2466calBC-2401calBC (43.8%) 2382calBC-2348calBC (24.4%)	2471calBC-2334calBC (89.0%) 2325calBC-2301calBC (6.4%)
IAAA-152787	3,970 \pm 30	61.04 \pm 0.20	3,949 \pm 28	2560calBC-2536calBC (12.5%) 2492calBC-2454calBC (40.4%) 2418calBC-2407calBC (5.6%) 2376calBC-2351calBC (9.7%)	2567calBC-2522calBC (17.7%) 2498calBC-2346calBC (77.7%)
IAAA-152788	4,050 \pm 30	60.42 \pm 0.20	4,046 \pm 29	2620calBC-2562calBC (36.3%) 2535calBC-2493calBC (31.9%)	2833calBC-2819calBC (3.1%) 2660calBC-2650calBC (1.5%) 2635calBC-2476calBC (90.8%)
IAAA-152789	3,920 \pm 30	61.42 \pm 0.20	3,946 \pm 27	2550calBC-2538calBC (6.1%) 2491calBC-2451calBC (40.7%) 2420calBC-2405calBC (7.8%) 2378calBC-2350calBC (13.6%)	2566calBC-2526calBC (13.0%) 2497calBC-2345calBC (82.4%)
IAAA-152790	2,560 \pm 30	72.69 \pm 0.24	2,508 \pm 27	770calBC-747calBC (12.8%) 685calBC-666calBC (10.7%) 642calBC-556calBC (44.8%)	789calBC-727calBC (23.5%) 720calBC-704calBC (2.0%) 695calBC-541calBC (69.9%)
IAAA-162058	3,550 \pm 20	64.25 \pm 0.18	3,523 \pm 22	1896calBC-1871calBC (20.5%) 1845calBC-1812calBC (27.0%) 1803calBC-1777calBC (20.7%)	1921calBC-1770calBC (95.4%)
IAAA-162059	3,910 \pm 30	61.49 \pm 0.20	3,904 \pm 25	2464calBC-2401calBC (43.5%) 2382calBC-2348calBC (24.7%)	2470calBC-2334calBC (88.5%) 2325calBC-2301calBC (6.9%)
IAAA-162060	3,520 \pm 20	64.54 \pm 0.19	3,517 \pm 24	1890calBC-1870calBC (16.2%) 1846calBC-1811calBC (29.0%) 1804calBC-1776calBC (23.0%)	1916calBC-1761calBC (95.4%)
IAAA-162061	3,500 \pm 20	64.72 \pm 0.17	3,461 \pm 22	1872calBC-1845calBC (21.7%) 1812calBC-1802calBC (6.4%) 1777calBC-1742calBC (33.3%) 1710calBC-1700calBC (6.8%)	1879calBC-1837calBC (26.9%) 1831calBC-1734calBC (57.0%) 1718calBC-1694calBC (11.5%)
IAAA-162062	3,700 \pm 20	63.11 \pm 0.19	3,723 \pm 25	2195calBC-2174calBC (14.7%) 2145calBC-2125calBC (15.3%) 2091calBC-2044calBC (38.2%)	2200calBC-2159calBC (22.7%) 2154calBC-2036calBC (72.7%)

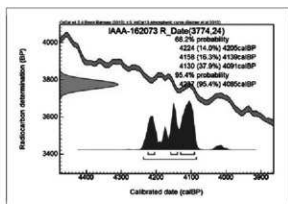
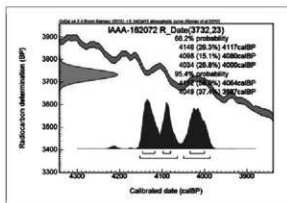
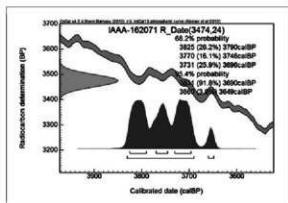
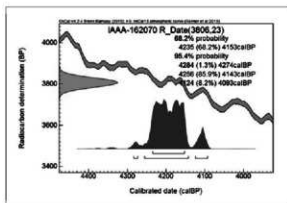
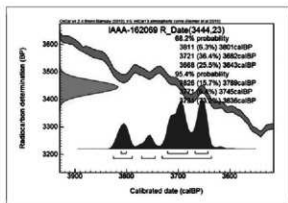
表 3 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BC/AD) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162063	3,450 \pm 20	65.11 \pm 0.18	3,456 \pm 22	1870calBC-1846calBC (18.2%) 1810calBC-1804calBC (3.3%) 1776calBC-1739calBC (34.8%) 1713calBC-1698calBC (11.8%)	1879calBC-1837calBC (23.7%) 1830calBC-1791calBC (13.7%) 1786calBC-1692calBC (58.0%)
IAAA-162064	2,030 \pm 20	77.69 \pm 0.21	2,011 \pm 22	41calBC-8calAD (68.2%)	52calBC-53calAD (95.4%)
IAAA-162065	3,610 \pm 20	63.77 \pm 0.19	3,632 \pm 23	2027calBC-1962calBC (68.2%)	2120calBC-2095calBC (5.2%) 2041calBC-1923calBC (90.2%)
IAAA-162066	3,660 \pm 20	63.42 \pm 0.18	3,644 \pm 22	2034calBC-1963calBC (68.2%)	2128calBC-2089calBC (13.7%) 2046calBC-1942calBC (81.7%)
IAAA-162067	3,890 \pm 20	61.65 \pm 0.18	3,838 \pm 23	2340calBC-2276calBC (40.5%) 2254calBC-2210calBC (27.7%)	2456calBC-2419calBC (4.8%) 2406calBC-2376calBC (6.5%) 2351calBC-2202calBC (84.1%)
IAAA-162068	3,350 \pm 20	65.88 \pm 0.19	3,388 \pm 22	1735calBC-1717calBC (16.5%) 1694calBC-1644calBC (51.7%)	1744calBC-1708calBC (26.9%) 1701calBC-1627calBC (68.5%)
IAAA-162069	3,420 \pm 20	65.29 \pm 0.19	3,444 \pm 23	1862calBC-1852calBC (6.3%) 1772calBC-1733calBC (36.4%) 1719calBC-1694calBC (25.5%)	1877calBC-1840calBC (15.7%) 1822calBC-1796calBC (6.4%) 1782calBC-1687calBC (73.2%)
IAAA-162070	3,780 \pm 20	62.47 \pm 0.18	3,806 \pm 23	2286calBC-2204calBC (68.2%)	2335calBC-2325calBC (1.3%) 2307calBC-2194calBC (85.9%) 2175calBC-2144calBC (8.2%)
IAAA-162071	3,510 \pm 20	64.58 \pm 0.19	3,474 \pm 24	1876calBC-1841calBC (26.2%) 1821calBC-1797calBC (16.1%) 1782calBC-1747calBC (25.9%)	1882calBC-1741calBC (91.8%) 1711calBC-1700calBC (3.6%)
IAAA-162072	3,730 \pm 20	62.89 \pm 0.19	3,732 \pm 23	2197calBC-2168calBC (26.3%) 2149calBC-2131calBC (15.1%) 2085calBC-2051calBC (26.8%)	2203calBC-2115calBC (58.0%) 2100calBC-2038calBC (37.4%)
IAAA-162073	3,820 \pm 20	62.14 \pm 0.18	3,774 \pm 24	2275calBC-2256calBC (14.0%) 2209calBC-2190calBC (16.3%) 2181calBC-2142calBC (37.9%)	2288calBC-2136calBC (95.4%)

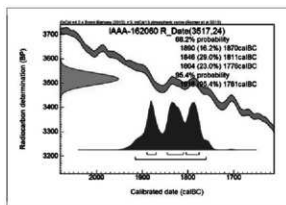
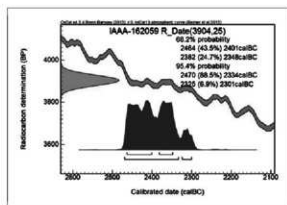
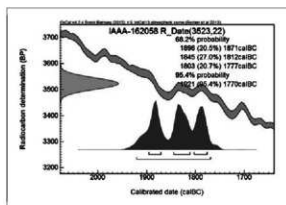
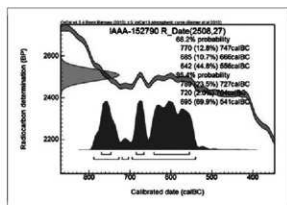
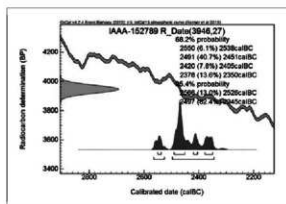
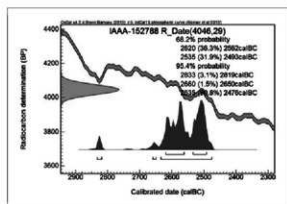
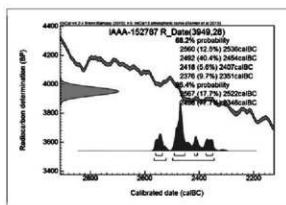
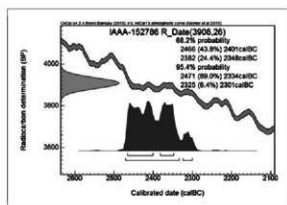
[参考値]

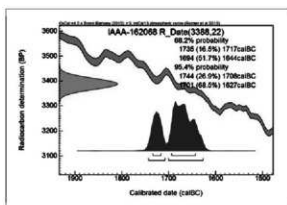
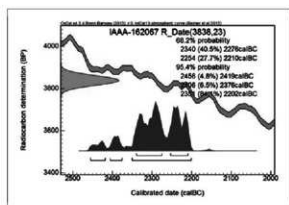
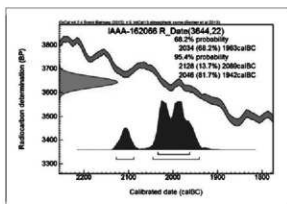
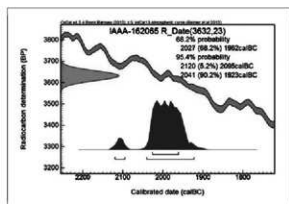
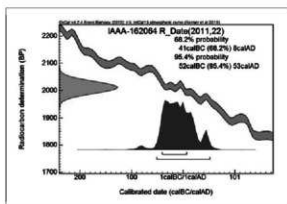
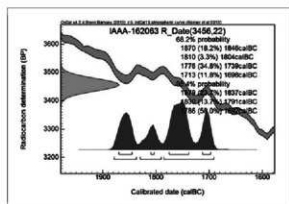
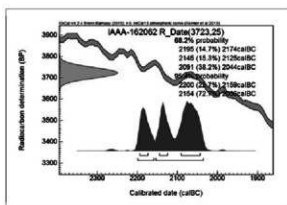
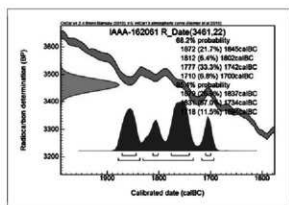


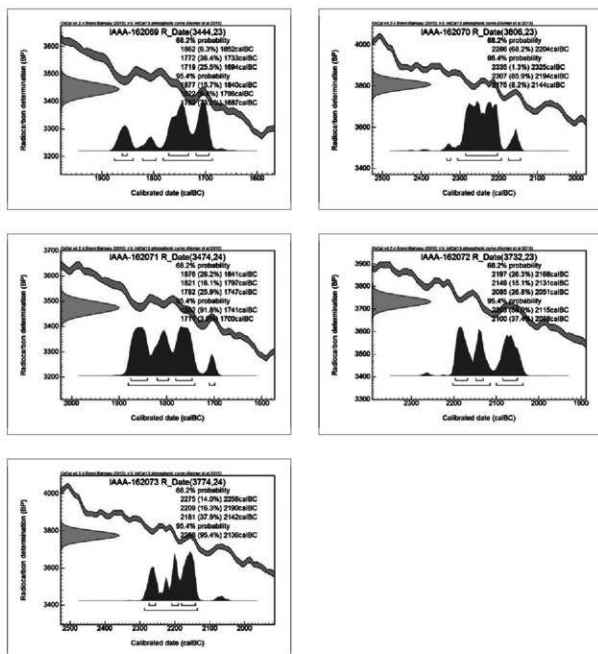




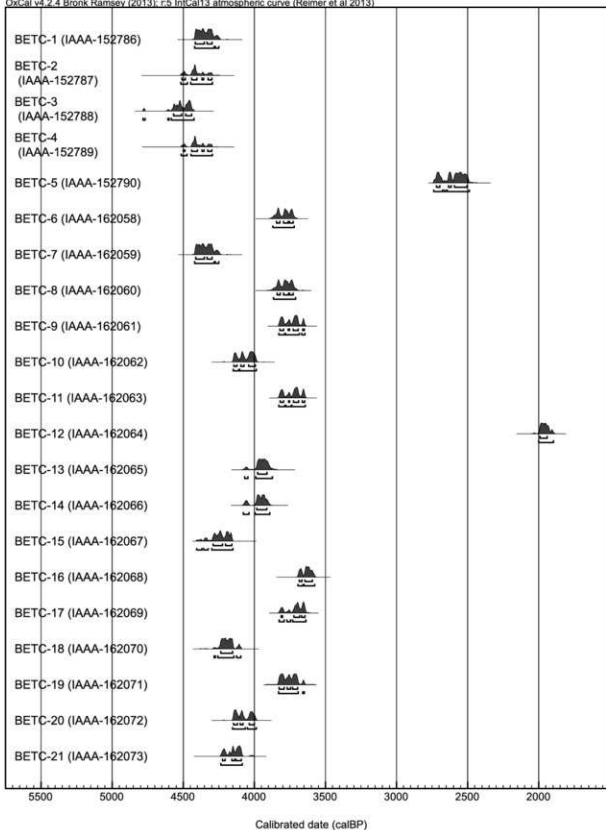
【図版 1】 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)





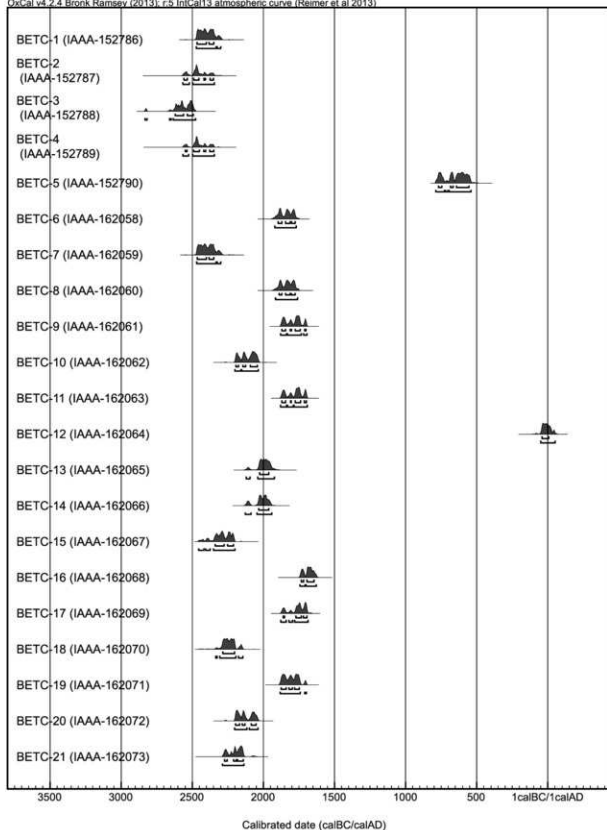


【図版 2】 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)



【図版 3】 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BP、参考)

OxCal v4.2.4 Bronk Ramsey (2013); r.5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)



[図版 4] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BC/AD、参考)

2. 黒曜石製石器の産地推定

パレオ・ラボ (竹原弘展)

1. はじめに

根室市に所在する別当賀一番沢川遺跡から出土した縄文時代後期および晩期の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器27点(BETO-1~27)である(表1)。BETO-7~25は、縄文時代後期前葉の北筒Ⅲ~Ⅴ式の時期の竪穴住居跡から出土し、BETO-1~6、26、27は、縄文時代晩期の土坑から出土している。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps: count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

表1 分析対象となる黒曜石製石器の一覧

試料番号	遺構名	遺構種別	層位	遺物番号	器種	重量(g)	推定時期
BETO-1	ⅢP-4	土坑	坑底		石鏝	0.6	縄文時代後期
BETO-2	ⅢP-4	土坑	坑底		スクレイパー	7.5	
BETO-3	ⅢP-4	土坑	坑底		スクレイパー	9.8	
BETO-4	ⅢP-4	土坑	坑底		スクレイパー	5.2	
BETO-5	ⅢP-4	土坑	坑底		U・Rフレイク	4.3	
BETO-6	ⅢP-4	土坑	坑底		U・Rフレイク	11.2	
BETO-7	ⅢH-4	竪穴住居跡	床面	2	石鏝	4.5	
BETO-8	ⅢH-4	竪穴住居跡	床面	3	石鏝	2.3	
BETO-9	ⅢH-4	竪穴住居跡	床	7	つまみ付きナイフ	8.2	
BETO-10	ⅢH-8	竪穴住居跡	覆土	15	石槍・ナイフ	8.7	
BETO-11	ⅢH-12	竪穴住居跡	床	—	石鏝	3.7	縄文時代後期前葉
BETO-12	ⅢH-13	竪穴住居跡	床面	6	石槍・ナイフ	38.3	
BETO-13	ⅢH-13	竪穴住居跡	床面	5	両面調整石器	8.5	
BETO-14	ⅢH-17	竪穴住居跡	床直上	1	石槍・ナイフ	41.6	
BETO-15	ⅢH-17	竪穴住居跡	床直上	2	石槍・ナイフ	6.0	
BETO-16	ⅢH-23	竪穴住居跡	床面	1	スクレイパー	12.8	
BETO-17	ⅢH-24	竪穴住居跡	床面	1	石鏝	4.7	
BETO-18	ⅢH-28	竪穴住居跡	覆土	—	石槍・ナイフ	72.1	
BETO-19	ⅢH-31	竪穴住居跡	床面	4	両面調整石器	28.6	
BETO-20	ⅢH-34	竪穴住居跡	床面	—	石槍・ナイフ	31.3	
BETO-21	ⅢH-36	竪穴住居跡	床面直上	2	石槍・ナイフ	52.5	晩期
BETO-22	ⅢH-40	竪穴住居跡	覆土	—	スクレイパー	4.8	
BETO-23	ⅢH-41	竪穴住居跡	覆土	—	石鏝	11.2	
BETO-24	ⅢH-41	竪穴住居跡	床面	—	スクレイパー	14.9	
BETO-25	ⅢP-13	土坑	坑底	1,2	石槍・ナイフ	30.8	
BETO-26	ⅢP-29	土坑	覆土	4	U・Rフレイク	22.4	
BETO-27	ⅢP-29	土坑	人骨下	5	石槍・ナイフ	12.8	



図1 黒曜石産地分布図(東日本)

- 1) $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
 2) $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせる指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を構円で取り囲んだ。

分析の結果、1点が白滝1群(北海道、白滝エリア)、2点が白滝2群(北海道、白滝エリア)、8点が上士幌群(北海道、上士幌エリア)、3点が置戸山群(北海道、置戸エリア)、12点が所山群(北海道、置戸エリア)、1点が留辺蘂2群(北海道、留辺蘂エリア)の範囲にプロットされた。

なお、図2、3の判別図では、赤井川群と上士幌群が一部重複するため、区別が困難な場合がある。そこで、以下に示すY分率を算出した。

$$Y \text{ 分率} = Y \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

表2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢麓頭(15) 7の沢川支流(2)、18沢頭(10)、十勝石沢麓頭或下河床(11)、アジサイの滝麓頭(10)
		白滝2	赤石山山頂、八号沢麓頭、八号沢、黒曜の沢、幌加林道(36)
	赤井川	赤井川	曲川・木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三鼓(4)、タウシユベツ川右岸(42)、タウシユベツ川左岸(16)、十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
		豊浦	豊浦(16)
		旭川	近文台(8)、雨杉台(2)
		名寄	名寄 忠恕市川(19)
		秋文別	秋文別1 秋文別2 秋文別3
	滝登	滝登	社名源川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
	留辺蘂	留辺蘂1 留辺蘂2	ケシノツツ川河床(9)
	網走	網走	網走市青スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)、鶴ヶ原(10)
	深澤	八森山	網走橋(7)、八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎 船本	金ヶ崎温泉(10) 船本海岸(4)
	北上川	北上野原1 北上野原2 北上野原3	北上川(9)、真塩(33)
宮城	宮崎	宮ノ倉	宮ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1 秋保2	土蔵(18)
	塩竈	塩竈	塩竈(16)
山形	羽黒	月山	月山産前(24)、大窟沢(10)
	鶴引	鶴引	たらのき代(19)
新潟	新発田	松山	松山牧場(10)
	津波	津波	津波(7)
栃木	高麗山	甘藷沢	甘藷沢(22)
		七峰沢	七峰沢(3)、宮川(3)、後神沢(3)
	西新屋	西新屋	芙蓉パーキング土砂集積場(30)
		嵐山	嵐山(14)、東新屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋1	土屋橋西(10)
		土屋橋2	新和回トンネル北(20)、土屋橋北西(56)、土屋橋西(11)
		古跡	新和回トンネル上(28)、古跡(36)、和神崎スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
	高杉沢	高杉沢(19)	
諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35)、星ヶ台(20)	
	所山	所山(20)、美草峠(20)、美草峠東(20)	
	芦ノ浦	芦ノ浦(20)	
神奈川県	箱根	箱根	箱根(51)
	諏訪原	諏訪原	諏訪原(20)
	上多賀	上多賀	上多賀(20)
静岡県	天城	天城	天城(20)
東京都	神津島	神津島	神津島(27)
	砂神崎	砂神崎	砂神崎(20)
島根	久見	久見	久見パーキング中(6)、久見採掘現場(5)
	足尾	足尾	足尾海岸(3)、加茂(4)、厚島(3)

表3 測定値および産地推定結果

試料 番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rf分率	Mn*100	Sr分率	Fe	Y分率	判別群	エリア	試料 番号
									Fe		log K				
1	265.7	79.0	1935.4	750.7	424.2	353.2	877.2	31.21	4.08	17.64	0.86	14.69	所山	置戸	1
2	266.6	79.8	1802.4	732.6	192.8	356.3	594.5	39.05	4.43	10.27	0.83	18.99	白滝	白滝	2
3	269.5	84.3	1828.7	753.0	331.7	403.9	734.6	33.87	4.61	14.92	0.83	18.17	上土幌	上土幌	3
4	288.5	90.8	1934.6	805.7	342.2	426.2	781.4	34.20	4.69	14.53	0.83	18.09	上土幌	上土幌	4
5	263.8	86.2	1862.5	737.5	324.6	390.4	711.4	34.08	4.63	15.00	0.85	18.04	上土幌	上土幌	5
6	286.0	89.3	1935.9	786.1	339.2	410.9	746.2	34.44	4.61	14.86	0.83	18.00	上土幌	上土幌	6
7	312.6	97.9	2134.4	842.7	361.2	433.7	786.1	34.77	4.59	14.90	0.83	17.89	上土幌	上土幌	7
8	278.3	82.4	1987.8	772.7	437.7	370.2	920.1	30.90	4.15	17.50	0.85	14.80	所山	置戸	8
9	291.0	93.5	2028.1	817.9	361.3	431.1	784.8	34.15	4.61	15.09	0.84	18.00	上土幌	上土幌	9
10	306.9	100.2	2099.3	824.9	360.6	435.2	784.4	34.30	4.77	14.99	0.84	18.09	上土幌	上土幌	10
11	288.5	85.1	2018.8	788.2	446.5	372.5	940.0	30.94	4.21	17.53	0.85	14.62	所山	置戸	11
12	289.3	86.9	2043.0	762.1	427.3	352.2	885.5	31.40	4.25	17.60	0.85	14.51	所山	置戸	12
13	243.2	92.3	2146.1	569.5	497.2	327.6	1108.2	22.76	3.82	19.87	1.00	13.09	置戸山	置戸	13
14	228.2	89.7	2338.6	530.6	465.3	307.0	1027.4	22.77	3.83	19.97	1.01	13.17	置戸山	置戸	14
15	303.1	99.0	2071.9	851.5	375.3	449.0	828.2	34.00	4.78	14.99	0.83	17.93	上土幌	上土幌	15
16	276.5	82.7	1923.5	768.0	435.8	362.1	913.6	30.97	4.35	17.58	0.84	14.60	所山	置戸	16
17	275.7	83.5	1958.9	756.5	428.1	355.2	893.1	31.09	4.26	17.60	0.85	14.60	所山	置戸	17
18	199.9	62.1	1426.3	524.4	296.8	246.7	617.4	31.12	4.36	17.61	0.85	14.64	所山	置戸	18
19	217.0	89.1	2318.9	499.0	451.2	293.5	1005.4	22.19	3.84	20.06	1.03	13.05	置戸山	置戸	19
20	252.9	92.8	2758.6	640.8	579.6	344.9	911.1	25.88	3.36	23.41	1.04	13.93	留辺蘂2	留辺蘂	20
21	249.3	75.6	1733.8	667.7	379.2	318.5	892.9	30.79	4.36	17.49	0.84	14.69	所山	置戸	21
22	324.5	105.8	2067.6	999.7	110.1	469.1	600.0	45.88	5.12	5.05	0.80	21.53	白滝2	白滝	22
23	309.1	93.0	2154.9	839.4	475.1	392.0	886.3	31.17	4.31	17.64	0.84	14.56	所山	置戸	23
24	318.0	103.9	2057.2	1000.5	113.8	472.5	623.6	45.26	5.05	5.15	0.81	21.38	白滝2	白滝	24
25	233.1	68.9	1607.9	642.9	366.4	313.5	781.1	30.56	4.28	17.41	0.84	14.60	所山	置戸	25
26	276.9	84.0	1918.7	760.0	421.2	358.8	901.9	31.12	4.38	17.25	0.84	14.99	所山	置戸	26
27	286.6	86.6	1997.0	790.4	449.3	377.1	945.5	30.85	4.34	17.53	0.84	14.72	所山	置戸	27

赤井川群および上土幌群の原石および石器について、横軸Y分率、縦軸Mn強度×100/Fe強度をプロットした判別図を図4に示す。図4において、8点いづれもが上土幌群と判断できた。

表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。また、表4に時期および器種別の産地を示す。

4. おわりに

別当賀一番沢川遺跡より出土した縄文時代の黒曜石製石器27点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、3点が白滝、8点が上土幌、15点が置戸、1点が留辺蘂エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2-上和田城山遺跡編-」: 172-179. 大和市教育委員会.

表4 時期・器種別の産地

時期	器種	白滝	上土幌	置戸	留辺蘂	計
縄文時代 後期 前葉	石鏃		1	3		4
	つまみ付きナイフ		1			1
	石槍・ナイフ		2	5	1	8
	スクレイパー	2		1		3
	石鏃			1		1
	両面調整石器			2		2
縄文時代 晩期	小野	2	4	12	1	19
	石鏃			1		1
	石槍・ナイフ			1		1
	スクレイパー	1	2			3
	二次加工・使用痕跡		2	1		3
小野	1	4	3	0	8	
計		3	8	15	1	27

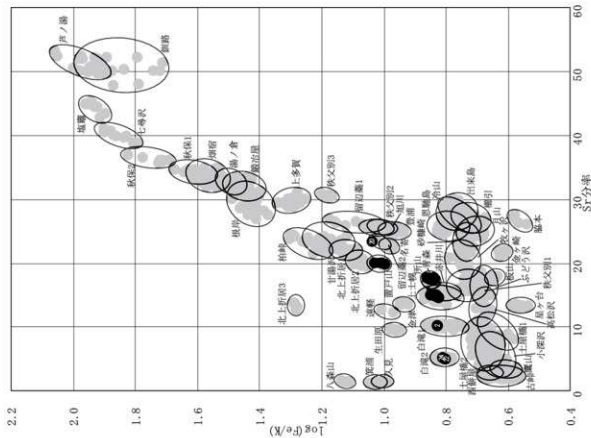


図2 黒曜石産地推定判別図(1)

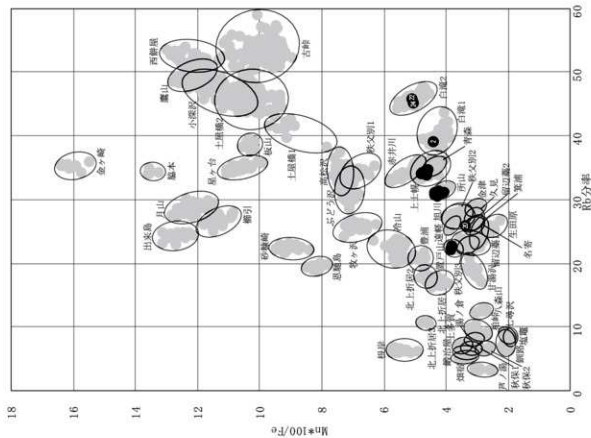


図3 黒曜石産地推定判別図(2)

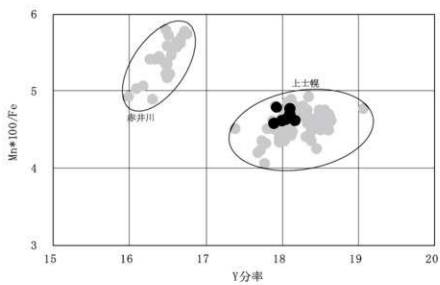


図4 黒曜石産地推定判別図(3)

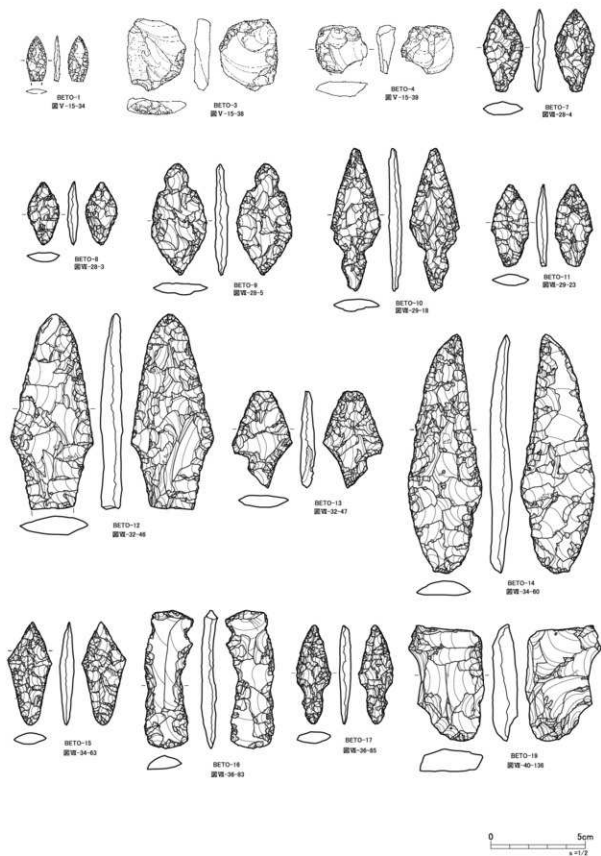
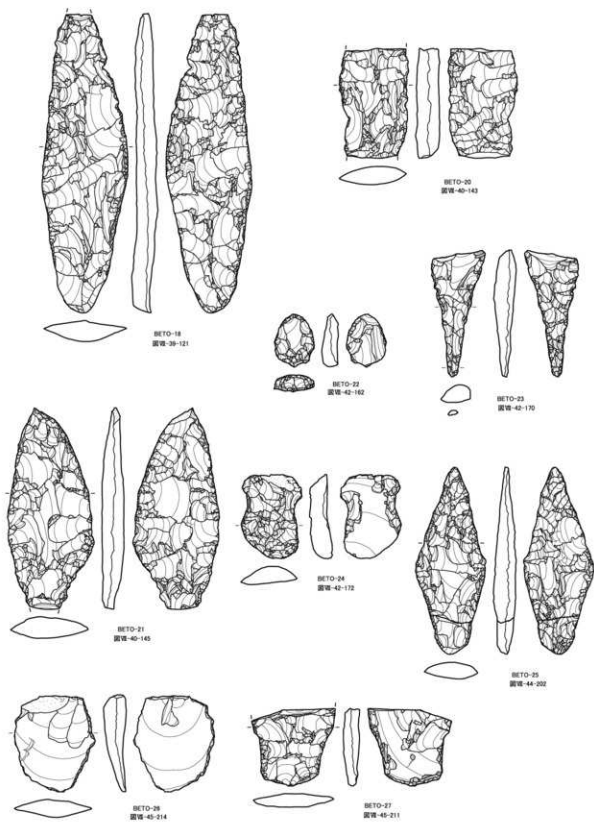


図 5 黒曜石分析試料(1)



0 5cm
 s=1/2

圖6 黑曜石分析試料(2)

3. 炭化材の樹種同定

パレオ・ラボ（黒沼保子）

1. はじめに

根室市に所在する別当賀一番沢川遺跡は、標高約8～12mで風蓮湖に注ぐ別当賀川の右岸の緩斜面上に立地している。焼失住居から出土した炭化材76点の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、A地区の竪穴住居跡ⅢH-2、B地区の竪穴住居跡ⅢH-4、ⅢH-6、ⅢH-9、ⅢH-20、ⅢH-25、ⅢH-25HP-2、ⅢH-38と、平地住居跡ⅢMH-1から出土した炭化材76点である。遺構の時期は、いずれも縄文時代中期～後期と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹はモミ属のみ1分類群、広葉樹はモクレン属とサクラ属、ナシ亜科、ニレ属、エノキ属、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、ハンノキ属ヤシヤブシ亜属（以下、ヤシヤブシ亜属）、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、カバノキ属、ニシキギ属、ヤナギ属、ヌルデ、キハダ、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）の14分類群、その他に単子葉類のイネ科があり、合計16分類群が確認された。遺構別の樹種同定結果を表1、結果の一覧を付表1に示す。

A地区の竪穴住居跡ⅢH-2は、カバノキ属とシオジ節が確認された。B地区の竪穴住居跡は、ⅢH-4ではモミ属とモクレン属が確認された。ⅢH-6ではモクレン属とナシ亜科、エノキ属、コナラ節、ハンノキ亜属、カバノキ属、ヤナギ属、キハダ、シオジ節が確認された。ⅢH-9ではニレ属とコナラ節、カバノキ属が確認された。ⅢH-20ではコナラ節とヤナギ属、シオジ節が確認された。ⅢH-25ではナシ亜科とニレ属、コナラ節、ヤシヤブシ亜属、カバノキ属、ヌルデ、キハダ、イネ科が確認された。ⅢH-25HP-2ではコナラ節とキハダが確認された。ⅢH-38ではナシ亜科とコナラ節、カバノキ属、ニシキギ属が確認された。同じくB地区の平地住居跡ⅢMH-1ではモミ属とサクラ属、カバノキ属、シオジ節が確認された。

試料の形状は、丸木および丸木？、半割状、みかん割り状、破片、不明がみられた。直径もしくは半径が計測できた試料の残存径は、モクレン属が4cm、ニレ属は半径1.0～1.3cm、エノキ属が1.3cm、コナラ節が直径0.7～3.2cmと半径0.7～2.0cm、ヤシヤブシ亜属が直径2.3cm、カバノキ属が直径1.5～1.8cmと半径1.0～1.8cm、ヤナギ属が半径0.7～1.3cm、キハダが直径2.0～3.0cmと半径2cm、シオジ節が半径0.7～1.5cmであった。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c (BETT-4)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織でじゅず状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個存在する。

表1 遺構別の樹種同定結果

樹種	調査時代中期～後期									
	A地区			B地区						
	竪穴住居跡	竪穴住居跡		竪穴住居跡			平地住居跡		計	
III-2	III-4	III-6	III-9	III-20	III-25	III-25 IP-2	III-38	III-1		
モミ属		1							1	2
モクレン属		1	2							3
サクラ属									1	1
ナシ亜科			2			2		1		5
ニレ属				1		1				2
エノキ属			1							1
コナラ属コナラ節			3	2	3	11	5	2		26
ハンノキ属ヤシヤブシ亜属						1				1
ハンノキ属ハンノキ亜属			1							1
カバノキ属	2		1	1		3		2	3	12
ニシキギ属								1		1
ヤナギ属			2		2					4
ヌルデ						1				1
キハダ			4			1	2			7
トネリコ属シオジ節	1		4		1				2	8
イネ科						1				1
総計	3	2	20	4	6	21	7	6	7	76

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約5種ある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2) モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版1 2 a-2 c (BETT-25)

小型の道管が、単独もしくは3~4個複合して均等に分布する散孔材である。木繊維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列~階段状、道管の穿孔は単一である。放射組織は1~2列幅で、上下端の1~2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は暖帯上部から温帯に分布する常緑または落葉の低木および高木で、タイサンボクやホオノキ、モクレン、コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが、緻密で狂いが少ない。

(3) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版1 3 a-3 c (BETT-74)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に2~3個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1~5列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は比較的重硬および緻密だが、加工容易である。

(4) ナシ亜科 Subfam. *Maloideae* バラ科 図版1 4 a-4 c (BETT-67)

小型の道管が、ほぼ単独で均等に分布する散孔材である。軸方向柔組織が短線状となる。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織および放射組織中に大型の結晶が連なる。放射組織は異性で、1~3列幅となる。

ナシ亜科にはサンザシ属やビワ属、カナメモチ属、ナナカマド属、リング属など12の属が存在する。

(5) ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版1 5 a-5 c (BETT-26)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜めに配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、3~5列幅程度である。また接線断面において軸方向柔組織が層界状構造となる。

ニレ属は暖帯から温帯に分布する落葉高木で、アキニレとハルニレ、オヒヨウの3種がある。ハルニレの材は、中庸からやや重硬でやや粘り気があるが、狂いが出やすく保存性もよくない。

(6) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版1・2 6 a-6 c (BETT-23)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状~翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3~8列幅の異性で鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯分布から温帯する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(7) クリーコナラ属コナラ節 *Castanea crenata* Siebold et Zucc. - *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版2 7 a-7 c (BETT-30)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。試料が小さく広放射組織の有無が確認できなかった。

(8) ハンノキ属ヤシャブシ亜属 *Alnus* subgen. *Alnaster* カバノキ科 図版2 8 a-8 c (BETT-45)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織は単列で、同性である。

ヤシャブシ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ミヤマハンノキやヤシャブシなど4種がある。材の硬さと重さは中庸である。

(9) ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 図版2 9 a-9 c (BETT-16)

小型の道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織は単列同性で、集合放射組織が存在する。

ハンノキ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ハンノキやヤマハンノキなど7種がある。材は全般に硬さおよび重さが中庸で、加工は容易である。

(10) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版2 10 a-10 c (BETT-1)

やや小型で丸い道管が、ほぼ単独でまばらに分布する散孔材である。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織はほぼ同性で1~3列幅である。道管相互壁孔は交互状で極めて小さく、密に分布する。

カバノキ属は温帯から亜寒帯に分布する落葉高木もしくは低木で、カバノキやミズメなど11種がある。材は全般的にやや重厚で、切削および加工は中庸である。

(11) ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 図版2・3 11 a-11 c (BETT-64)

小型の道管が、単独で年輪内に均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる同性である。

ニシキギ属は暖帯から温帯に分布する落葉または常緑の高木ないし低木であるが、ときに藤本もあ

る。ニシキギやマサキ、マユミなど18種がある。マユミの材はやや硬堅だが、割製は容易である。

(12) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版3 12 a-12 c (BETT-20)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケシヨウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種程がある。材は全般に軽軟で、強度は低いが靱性があり、切削加工は容易である。

(13) スルデ *Rhus javanica* L. var. *chinensis* (Mill.) T.Yamaz. ウルシ科 図版3 13 a-13 c (BETT-48)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさは徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして接線状~斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、1~3列幅である。

スルデは熱帯から温帯に分布する落葉高木である。材は耐久性および保存性はあまり高くはないが、吸水しにくく、切削および加工が容易である。

(14) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 図版3 14 a-14 c (BETT-19)

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状~斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、1~6列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

(15) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus sect. Fraxinaster* モクセイ科 図版3 15 a-15 c (BETT-2)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2~3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1~3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。北海道にはヤチダモが分布している。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

(16) イネ科 Poaceae 図版3 16 a (BETT-56)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

全体では、コナラ節が26点で最も多く、ⅢH-2とⅢH-4、ⅢMH-1以外のすべてで遺構で確認されている。その他の樹種は、カバノキ属が12点、シオジ節が8点、キハダが7点、ナシ亜科が5点、ヤナギ属が4点、モクレン属が3点、モミ属とニレ属が2点、サクラ属とエノキ属、ヤシヤブシ亜属、ハンノキ亜属、ニシキギ、スルデ、イネ科が各1点みられた。遺構ごとに分析点数が異なるため、一概に比較はできないが、遺構別では樹種構成に明確な差はみられなかった。

試料の用途は不明であるが、今回分析を行った炭化材はすべて住居跡の覆土から出土しているため、住居構築材の可能性が高い。試料の形状は、丸木および丸木?、半割状、みかん割り状、破片、不明がみられたが、半割状とみかん割り状の試料も元は丸木であったと思われる。直径もしくは半径が計測できた試料では、モクレン属の直径4 cm、とコナラ節の半径2 cmが最大であり、いずれも小径であった。形状不明の試料も残存径は3 cm角程度が最大であるが、コナラ節やカバノキ属、スルデ、シオジ節では残存年輪数が50年輪を超えるような試料も確認されている。

今回の分析で最も多く確認されたコナラ節をはじめ、サクラ属やナシ亜科、ニレ属、エノキ属、キハダ、シオジ節は重硬な材質だが、モミ属やモクレン属、ハンノキ属、ヤナギ属、ヌルデは軽軟な材質である。なお、カバノキ属は、北海道に分布する種では、ウダイカンバは重硬な材であるが、シラカンバやダケカンバは軽軟な材である（平井，1996）。比較的重硬な材が多く利用されているが、軽軟な材もみられるため、材質にこだわりなく遺跡周辺に生育していた樹木が利用されたと考えられる。同じく根室市に所在する總香堅穴群では、縄文時代後期の出土の炭化材でハンノキ属やトネリコ属、コナラ節、クルミ属、ニレ属、カバノキ属など多様な広葉樹が確認されており（伊東・山田編，2012）、今回の分析結果とも傾向は一致する。

引用文献

平井信二（1996）木の大百科，394 p，朝倉書店。

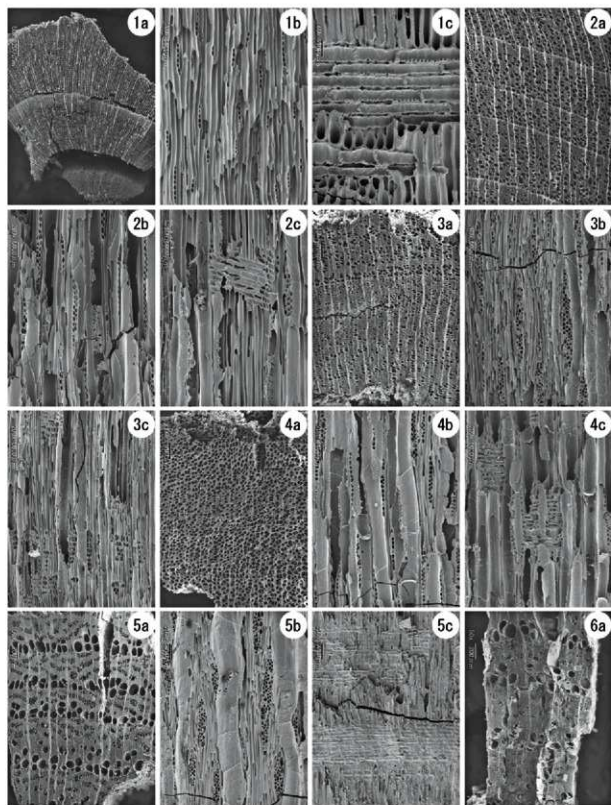
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－，449 p，海青社。

付表1 樹種同定結果一覧(1)

番号	遺構	層位	遺構種別	地区名	樹種	形状	残存径	残存 年輪数
BETT-1	ⅢH-2	覆土	竪穴住居跡	A地区	カバノキ属	半割状	2.5×1.3cm	12
BETT-2	ⅢH-2	覆土	竪穴住居跡	A地区	トネリコ属シオジ節	破片	<2cm角	<15
BETT-3	ⅢH-2	覆土	竪穴住居跡	A地区	カバノキ属	丸木?	直径1.8cm	10?
BETT-4	ⅢH-4	覆土	竪穴住居跡	B地区	モミ属	丸木	直径1.5cm	6
BETT-5	ⅢH-4	覆土	竪穴住居跡	B地区	モクレン属	丸木?	半径1.5cm	4
BETT-6	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	不明	1.8×1cm	3
BETT-7	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	半割状	直径2cm	20
BETT-8	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	不明	2×0.5cm	4
BETT-9	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	みかん割り状	半径2cm	16
BETT-10	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	不明	2×1cm	11
BETT-11	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	不明	3×1.5cm	40?
BETT-12	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	不明	1.5×1.5cm	14
BETT-13	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	ナシ亜科	不明	1×1.5cm	8
BETT-14	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1cm	11
BETT-15	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.7cm	14
BETT-16	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	ハンノキ属ハンノキ亜属	不明	2×1.2cm	25?
BETT-17	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	ヤナギ属	不明	1×1cm	2?
BETT-18	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	不明	3.5×1.5cm	50?
BETT-19	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	不明	2.5×2cm	7
BETT-20	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	ヤナギ属	不明	3×3.5cm	3?
BETT-21	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	ナシ亜科	不明	1.4×0.3cm	7
BETT-22	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	モクレン属	不明	1×1cm	5
BETT-23	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	エノキ属	みかん割り状	半径1.3cm	14
BETT-24	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	不明	1.3×0.5cm	18
BETT-25	ⅢH-6	覆土	竪穴住居跡	B地区	モクレン属	丸木?	直径1cm	20?
BETT-26	ⅢH-9	覆土	竪穴住居跡	B地区	ニレ属	みかん割り状	半径1cm	13
BETT-27	ⅢH-9	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径0.7cm	1
BETT-28	ⅢH-9	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	丸木	直径1.5cm	2
BETT-29	ⅢH-9	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径2cm	10?
BETT-30	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1cm	15
BETT-31	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	8
BETT-32	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	みかん割り状	半径0.7cm	1
BETT-33	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	ヤナギ属	みかん割り状	半径0.7cm	2
BETT-34	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	ヤナギ属	みかん割り状	半径1.3cm	2
BETT-35	ⅢH-20	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	12
BETT-36	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1cm	8
BETT-37	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径2.3cm	6
BETT-38	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	みかん割り状	半径1.8cm	7
BETT-39	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	みかん割り状	半径1.5cm	7
BETT-40	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	みかん割り状	半径1cm	8
BETT-41	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	ナシ亜科	不明	1.5×1.5cm	10
BETT-42	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径3.2cm	9
BETT-43	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	ナシ亜科	不明	2.5×1.3cm	25?
BETT-44	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径2cm	8
BETT-45	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	ハンノキ属ヤシヤブシ亜属	丸木	直径2.3cm	7
BETT-46	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径0.8cm	8
BETT-47	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	不明	3×3.8cm	60?
BETT-48	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	スルズ	丸木	直径1.2cm	60?
BETT-49	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径0.7cm	10
BETT-50	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径3cm	10

付表2 樹種同定結果一覧(2)

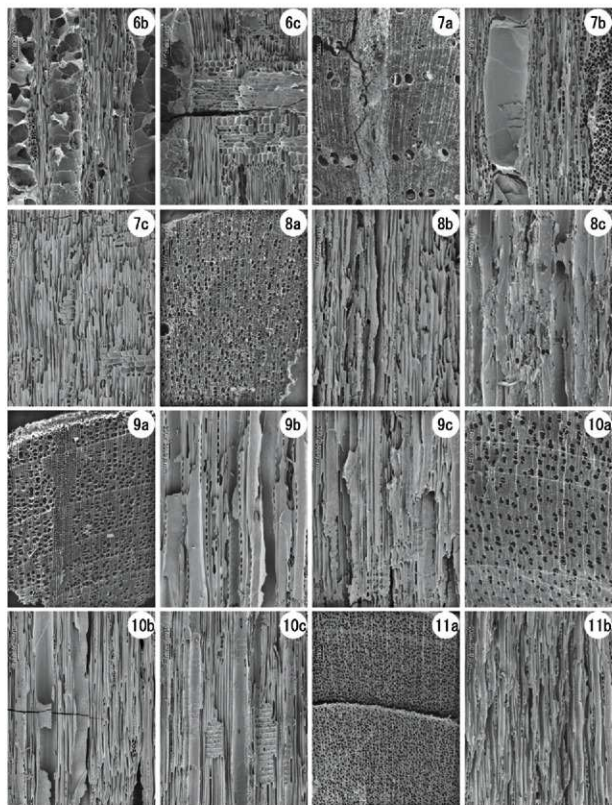
番号	遺構	層位	遺構種別	地区名	樹種	形状	残存径	残存 年輪数
BETT-51	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	10
BETT-52	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	15
BETT-53	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	ニレ属	みかん割り状	半径1.3cm	13
BETT-54	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.3cm	8
BETT-55	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	不明	3×3cm	7
BETT-56	ⅢH-25	覆土	竪穴住居跡	B地区	イネ科	稈	直径0.5cm	-
BETT-57	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径2cm	16
BETT-58	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	8
BETT-59	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径2cm	7
BETT-60	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	丸木	直径3cm	15
BETT-61	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.5cm	6
BETT-62	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	キハダ	丸木	直径3cm	11
BETT-63	ⅢH-25HP-2	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径2cm	14
BETT-64	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	ニシキギ属	みかん割り状	半径0.8cm	7
BETT-65	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	丸木	直径2.3cm	10
BETT-66	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	不明	0.7×2cm	60?
BETT-67	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	ナシ亜科	不明	3.5×2cm	5?
BETT-68	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	カバノキ属	不明	0.7×0.5cm	3
BETT-69	ⅢH-38	覆土	竪穴住居跡	B地区	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径1.7cm	9
BETT-70	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	カバノキ属	不明	1.5×1cm	9
BETT-71	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	みかん割り状	半径1.5cm	6
BETT-72	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	トネリコ属シオジ節	不明	2.7×1cm	6
BETT-73	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	モミ属	不明	1cm角?	不明
BETT-74	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	サクラ属	みかん割り状	半径1.3cm	4
BETT-75	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	カバノキ属	不明	0.5×1cm	5
BETT-76	ⅢMH-1	覆土	平地住居跡	B地区	カバノキ属	不明	1cm角?	不明



図版1 別当賀一 番沢川遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1 a-1 c. モミ属 (BETT-4)、2 a-2 c. モクレン属 (BETT-25)、3 a-3 c. サクラ属 (BETT-74)、
4 a-4 c. ナシ亜科 (BETT-67)、5 a-5 c. ニレ属 (BETT-26)、6 a. エノキ属 (BETT-23)

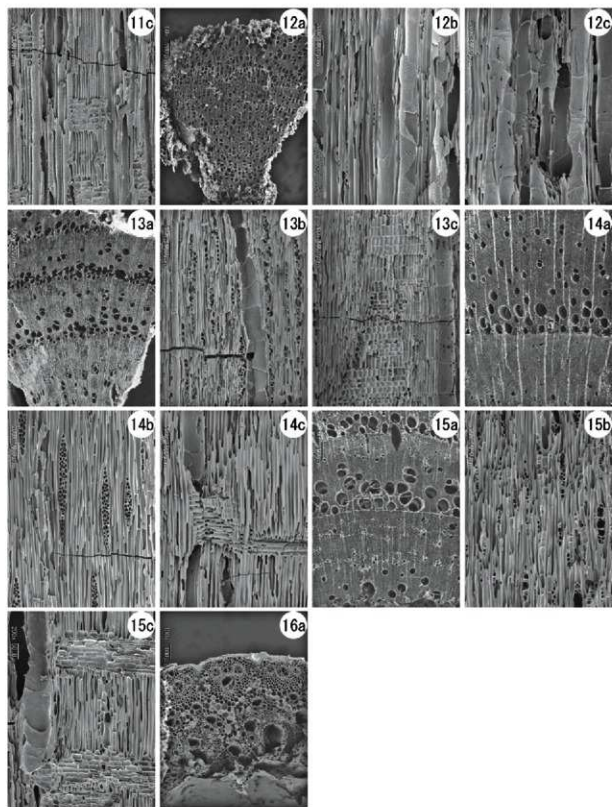
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版 2 別当賀一番沢川遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

6 b-6 c. エノキ属 (BETT-23)、7 a-7 c. コナラ属コナラ節 (BETT-30)、8 a-8 c. ハンノキ属ヤシャブシ亜属 (BETT-45)、9 a-9 c. ハンノキ属ハンノキ亜属 (BETT-16)、10 a-10 c. カバノキ属 (BETT-1)、11 a-11 b. ニシキギ属 (BETT-64)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面



図版3 別当賀一番沢川遺跡出土炭化材の走型電子顕微鏡写真(3)

11c. ニシキギ属 (BETT-64)、12a-12c. ヤナギ属 (BETT-20)、13a-13c. ヌルデ (BETT-48)、14a-14c. キハダ (BETT-19)、15a-15c. トネリコ属シオジ節 (BETT-2)、16a. イネ科 (BETT-56)
 a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

4. 鉄製品の金属考古学的調査結果

岩手県立博物館 赤沼 英男

1. はじめに

北海道根室市別当賀一番沢川遺跡は、根室防雪事業改良等工事に伴い、平成27・28年度および30年度の2か年にわたり緊急発掘された遺跡である。一連の調査において、アイヌ文化期の遺物包含層からマレク、釘の破片などが検出された。検出された8点の鉄器については資料保全を図るため、保存科学的処理が施こされた。さらに、その中のマレク1点については、素材となった地金の組成を明らかにするため、金属考古学的調査が実施された。

公益財団法人北海道埋蔵文化財センターでは、平成21年から平成23年に、根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群の緊急発掘調査を行った。その結果、オホーツク文化期およびアイヌ文化期の遺構から数十点にのぼる鉄器が出土し¹⁾、その多くが岩手県立博物館において金属考古学的調査に付された。そこで、今回実施した別当賀一番沢川遺跡出土マレクの調査結果を、トーサムボロ湖周辺堅穴群から出土したアイヌ文化期に比定される鉄器の調査結果(赤沼 2015)と比較し、素材となった地金の来歴について検討した。以下に調査結果を報告する。

2. 調査資料

2-1 調査資料の概要

調査資料は図1 a₁に示すマレクである。図1 b₁のX線透過写真が示すように、ほぼ完形品ではあるが、錆化が進んでいて、脆弱であった。なお、当該資料の出土状況および形態学的特徴については、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター・広田良成氏により別途記載されている。

2-2 調査試料の採取

調査には保存科学的処理の過程で採取された微小錆片を用いた。採取した試料を2分し、錆化前の組織の情報がより残っていると推定された錆片を組織観察に、もう一方を化学分析に供した。

3. 調査方法

組織観察用試料についてはエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を金属顕微鏡で観察し、錆化前の組織を推定するうえで重要と判断された領域および錆中に見出された鉱物を、電子顕微鏡・プローブ・マイクロアナライザー (EPMA : JEOL JXA-8230) で分析した。

化学分析用試料は表面に付着する土砂、錆をハンドドリルで丹念に削り落とし、エチルアルコール、アセトンで超音波洗浄した。試料を130℃で2時間以上乾かしメノウ乳鉢で粉碎、テフロン分解容器に秤量した後、塩酸、硝酸、およびフッ化水素酸を使って溶解した。溶液を蒸留水で定溶とし、全鉄 (T.Fe)、銅 (Cu)、ニッケル (Ni)、コバルト (Co)、マンガ (Mn)、リン (P)、チタン (Ti)、ケイ素 (Si)、カルシウム (Ca)、アルミニウム (Al)、マグネシウム (Mg)、クロム (Cr)、バナジウム (V)、およびイオウ (S) の14元素を、高周波誘導結合プラズマ発光分光分析法 (ICP-AES法) で分析した。

4. 調査結果

4-1 組織観察結果

抽出した試料のマクロ組織 (図 1 c₁) は、その全域が錆化した組織によって構成されていた。マクロ組織領域 Reg.1 および Reg.2 内部の EPMA 反射電子組成像 (BEI) には、微細な金属光沢を呈する結晶 Cm とその欠落孔と推定される空隙によって構成される組織が観察された (図 1 d₁₋₂, 1 e₁₋₂)。EPMA による含有元素濃度分布のカラーマップによって (図 1 f₁₋₂)、結晶 Cm は Fe および炭素 (C) を主成分とすることがわかった。これまでに行われた出土鉄器の金属考古学的調査結果をふまえると (佐々木・村田 1984)、結晶 Cm は錆化前の鋼のセメントタイト (Fe₃C)、微細な空隙はその欠落孔と判定される。結晶 Cm およびその欠落孔と推定される組織のマクロ組織における分布状況から、マクロ組織領域 Reg.1 内部は炭素量 0.2~0.4mass% の鋼と推定される (東北大学金属材料研究所編 1953) (佐藤知雄編 1968)。既述のとおり、微小な調査試料における局所的領域での観察結果であり、マレク全体が上述した組織によって構成されていたと断定することは難しい。

マクロ組織領域 Reg.2 に見出されたセメントタイトの周辺には、セメントタイトよりも高輝度の微小化合物が点在していた (図 2 g₁)。EPMA による定性分析 (図 2 h 1) および含有元素濃度のカラーマップ (図 2 g₂) によって、微小化合物は Cu-S 系化合物であることがわかった。なお、調査した試料に非金属介在物を見出すことはできなかった。

4-2 抽出した試料の化学組成

表 1 に抽出した試料の化学成分分析結果を示す。T.Fe は 52.72mass% で、錆化が進んだ試料が分析されたことがわかる。組織観察結果とよく整合する結果である。抽出した試料には、0.171mass% の Cu、0.067mass% の Ni、0.016mass% の Co が含有されていて、他に 0.17mass% の P、0.15mass% の S が検出された。

5. 考察

5-1 鉄器地金の組成

鉄器の素材となる鉄は炭素量によって鉄鉄と鋼に分類される。現代の金属工学の分類基準に従えば、炭素量 2mass% 未満の鉄を鋼、炭素量 2mass% 以上の鉄を鉄鉄という (日本鉄鋼協会編 1981)。生産方法、生産設備、生産道具などが異なる現代において製造された鉄の分類基準を直ちに前近代の鉄に当てはめることは危険である。本稿が対象とする古代においては、当時の設備および道具で溶融可能であった鉄を鉄鉄、溶融不能で加熱・鍛打して加工・整形された鉄を鋼として扱ったと考えられる。調査試料の組織観察結果に基づけば、当該試料は炭素量 0.5mass% 未満の亜共析鋼を素材としていて、焼き入れや焼き戻しといった熱処理が施されたことを示す組織は見出されなかった。鋼中に混在する微細な Cu-S 系化合物は、鋼製造過程で合金添加といった特殊な処理が施されていなかったとすると、製鉄原料に起因するとみることができる。化学成分分析によって 0.171mass% の Cu、0.15mass% の S が検出されていることをふまえると、鋼の製造に使用された原料鉱石は、硫化銅鉱物を随伴する鉄鉱石と推定される。

5-2 Ni・Co・Cu 三成分比に基づく調査資料の分類

鋼製鉄器の素材として使用された鋼は、製錬をはじめとする複数の操作を経て製造される。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件によって最終的に得られる鋼の組成にばらつきが生じる。従って、金属考古学的調査結果、とりわけ抽出した試料の化学組成や非金

属介在物組成を単純に比較するという解析方法では、実態を反映した資料分類は難しい。

表1のうちCu、Ni、Coの三化学成分は鉄よりも錆にくい金属のため、一度鉄中に取り込まれた後はそのほとんどが鉄中にとどまると推定される²⁾。従って、合金添加処理が施されていないとすると、その組成比は鋼製造法の如何に係わず製鉄原料の組成比に近似すると考えられる²⁾。

図3は、表1から抽出した試料に含有されるNi、Co、およびCuの三成分比、すなわち |(mass% Co)/(mass% Ni) (Co*) と (mass% Cu)/(mass% Ni) (Cu*)| および (mass% Ni)/(mass% Co) (Ni**) と (mass% Cu)/(mass% Co) (Cu**) を求めプロットした図である。なお、図にはトーサムボロ湖周辺堅穴群出土鉄器の調査結果を示した。図では、非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された鉄器を黒丸 (●)、鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄器を白丸 (○)、非金属介在物が見出されなかった鉄器を白三角 (△) で示した。

図3から明らかのように、調査したマレクは図3 a₁では左端やや上に、図3 a₂では右上の離れた位置に単独で分布する。トーサムボロ湖周辺堅穴群のアイヌ文化期に比定される資料に類例はみられない。Cu含有率が高く、銅鉱物を随伴する鉄鉱石を用いて製造された地金を素材とする鉄器は、東日本の古墳、東北地方の横穴墓、東北地方北部の末期古墳群、北海道の檜文文化期、道北のオホーツク文化期、北海道のアイヌ文化期等の遺跡において確認されている。古代～中世に、日本列島の広い地域で使用されていたことがみとれる。

調査したマレクの来歴については、ア、製品として大陸からもたらされた、イ、大陸からもたらされた原料鉄（鉄器製作の素材）を用い、列島内で製作された後、製品として遺跡内にもたらされた、ウ、使用目的を果たした前代の鉄器を再利用し列島内で製作された後、製品として遺跡内にもたらされた、エ、大陸からもたらされた原料鉄を遺跡内またはその周辺で処理し製品にした、オ、遺跡内もしくはその周辺で、使用目的を果たした前代の鉄器を再利用して製作した、の5つが考えられる。その絞込みについては、今後、類似資料の調査を重ね、その結果と本州以南から出土した鉄器・鉄塊の調査結果との比較が必要である。

注)

- 1) 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター・広田良成氏からの御教授による。
- 2) 早稲田大学理工学術院基礎理工学部・伊藤公久教授からのご教授による。

引用・参考文献

- 赤沼英男2015「付編7. 金属物の金属考古学的調査結果」『根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群 (1)』公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 佐々木松、村田明美1984「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、8、pp.27-33
- 佐藤知雄編1968『鋼の顕微鏡写真と解説』丸善株式会社
- 東北大学金属材料研究所編1953『金属顕微鏡組織』丸善株式会社
- 日本鉄鋼協会編1981『鉄鋼便覧』

表1 マレクの化学組成 (mass%)

化学成分														Cu・Ni・Co三成分比			
T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Ca	Al	Mg	Cr	Si	V	S	Co*	Cu*	Ni**	Cu**
52.72	0.171	0.067	0.016	0.200	0.17	0.027	0.132	0.625	0.054	0.057	1.50	<0.001	0.15	0.24	2.55	4.19	10.7

RE) 分析はICP-AES法による。Co*=(mass%Co)/(mass%Ni)、Cu**=(mass%Cu)/(mass%Ni)、Ni**=(mass%Ni)/(mass%Co)、Cu**=(mass%Cu)/(mass%Co)

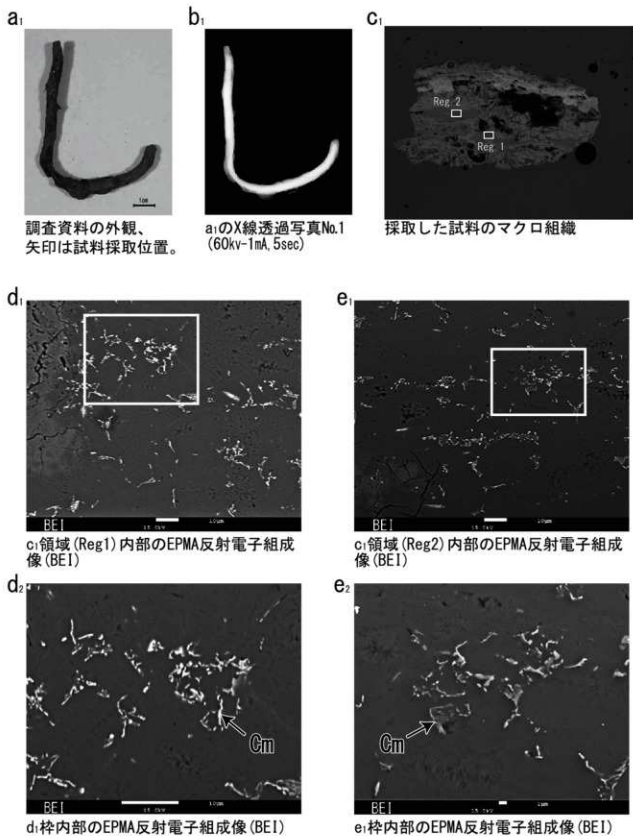


図1 採取した試料の組織観察結果
BEI=EPMA反射式電子組成像、Cm=セメントaitまたはその欠落孔。

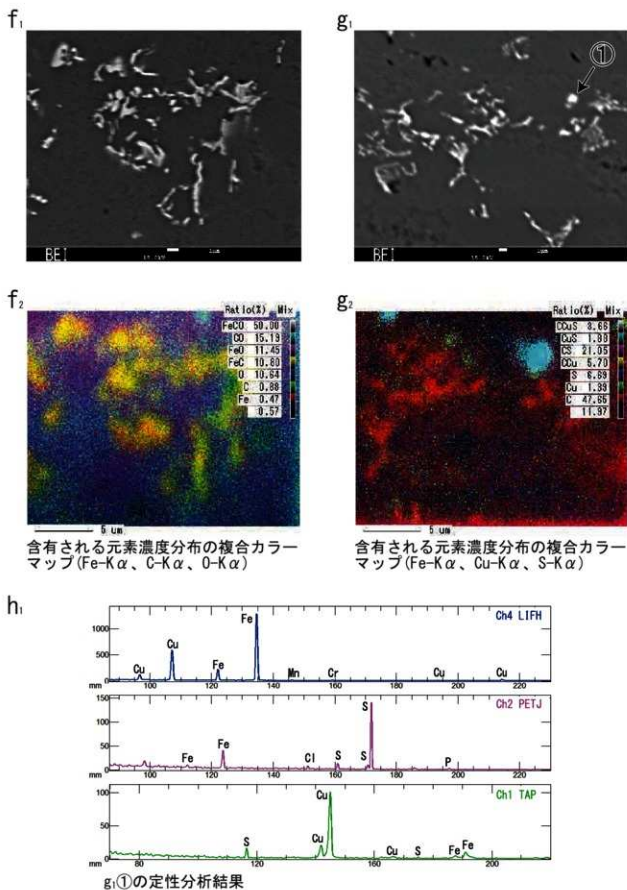


図2 採取した試料のEPMA反射電子組成像(BEI)による分析結果

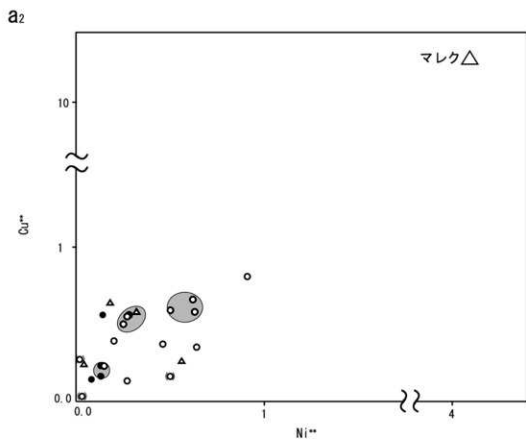
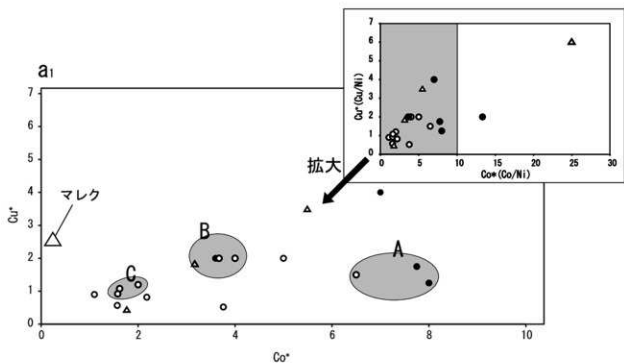


図3 調査資料に含有されるCu・Ni・Coの三成分比

$Co^+ = (mass\% Co) / (mass\% Ni)$ 、 $Cu^+ = (mass\% Cu) / (mass\% Ni)$ 、 $Ni^{++} = (mass\% Ni) / (mass\% Co)$ 、 $Cu^{++} = (mass\% Cu) / (mass\% Co)$ 。
 黒丸 (●) は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された試料、白丸 (○) は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかった試料、白三角 (△) は非金属介在物が見出されなかった試料。

5. 火山灰同定

アースサイエンス株式会社

米島真由子・加藤孝幸・古澤 明

1. 分析試料

遺跡中より採取されたテフラ試料について、偏光顕微鏡観察および火山ガラスの主成分分析を行い、噴出源の同定を試みた。

試料は以下の試料である。

：堅穴住居跡H-26覆土中のテフラで、樽前cテフラ（T a - c）および摩周fテフラ（M a - f）の間に位置すると判断されるテフラ。

2. 偏光顕微鏡観察

各試料は前処理を行ったのちに、薄片を作成し偏光顕微鏡観察を行った。作業の詳細は下記の通りである。

2.1 前処理

古澤（2003）の方法を基本に前処理を行った。洗浄は、はじめにナイロン製使い捨て#255メッシュシート（糸径43 μm 、オープニングワイド57 μm ）を用い、流水中で洗浄した。残砂を#125メッシュシート（糸径70 μm 、オープニングワイド133 μm ）を用い水中で篩い分けした。これにより1/8～1/16mmに粒度調整した試料を超音波洗浄機を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。

粒子組成分析用薄片作成

鉱物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が1.545程度となる光硬化樹脂を載せ、この樹脂に上記洗浄・篩い分けを行った試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を1.545とする目的は石英や長石類の識別にある。

主成分分析用薄片作成

上記前処理試料を偏光顕微鏡を用い、火山ガラスのみを手選し、これをエポキシ樹脂を用いてスライドガラス上に包埋し、#3000カーボラダムで研磨し、1 μm のダイヤモンドペーストにて鏡面研磨した薄片を作成した。

2.2 検鏡（粒子組成分析）方法

前処理・プレバレート化した粒子を偏光顕微鏡（100倍）を用いて観察し、300粒子（1000粒子の平均値）を古澤（2003）の区分手法にしたがって、火山ガラス、長石類・石英、斜方輝石、単斜輝石、普通角閃石、カミングトン閃石、その他の重鉱物（カンラン石、ジルコンなど）、不透明鉱物および岩片・風化粒に区分した。火山ガラスは発泡痕の大きさにより、発泡痕が0.1mm四方に2～3個以内しか見られない大きな発泡痕を有するバブルウォールタイプ（Bw）、発泡痕が0.1mm四方に4個以上見られるバミスタイプ（Pm）、発泡痕同士が密着せずガラス中に細かい泡となって含まれるか全く含まれない

い急冷タイプ(O)の3タイプにまとめて区分した。また、重鉱物組成については、100粒子を目処に、斜方輝石、単斜輝石、普通角閃石、黒雲母、その他(不透明鉱物、ジルコン、アパタイトetc.)に区分し、粒子組成とは別に記載した。

2.3 観察結果

偏光顕微鏡下での観察結果は以下の通りである。

本試料の多くは火山岩片である。火山ガラスは斑晶リムにわずかにバミスタタイプのガラスが付着するなどで、微量である。有色鉱物は斜方輝石および単斜輝石を少量含む。

2.4 粒子組成

粒子の種類を区別して、300粒子についてカウントした。結果を表2.1に示す。また、別途重鉱物のみ100個カウントした結果を表2.2に示す。その後偏光顕微鏡写真を示す。

表2.1 モード測定結果(各試料の粒子組成)

試料名	Volcanic Glass			Light Mineral		Heavy Mineral					Rock	V. Rock	Total	備考
	Bv	Pn	O	Fl・Qu	Opx	Cpx	Gso	Oth	Opq					
根室市 別当賀	0	0	0	50	8	4	0	0	3	0	235	300	斑晶リムにわずかにバミスタガラス付着	

Bv: バブルウォールタイプ

Pn: バミスタタイプ

O: 紙巻タイプ

Fl・Qu: 長石・石英

Opx: 斜方輝石 Cpx: 単斜輝石 Gso: 緑色普通角閃石 Ap: 燧灰石

Opq: 不透明鉱物 Rock: 岩片・風化殻 V. Rock: 火山岩片

表2.2 重鉱物組成(%)

	Opx	Cpx	Gso
根室市 別当賀	66	34	0

注: 表2.1とは別途、100粒子カウント。

3. 火山ガラスの主成分分析 (EPMA分析)

3.1 主成分分析方法

以下の分析装置および条件により、エネルギー分散型X線マイクロアナライザー (EDS) を用い、火山ガラスの主成分を分析した。20点(それぞれ別の火山ガラス片を測定)の分析を行った。

なお、薄片は偏光顕微鏡観察を行ったもの同一の研磨薄片である。

使用機材: SEM:HITACHI SU1510 EDX:HORIBA EMAXEvolution

EX-270 (検出器: X-MAX80mm 2)

加速電圧: 15kV

試料電流: 0.3nA.

ビーム径: 60nm. 4 μm四方を7.5/sec回走させて測定。

ライブタイム: 50sec.

主成分組成計算方法: ZAF法を応用

スタンダードには高純度人工酸化物結晶（純度99.99%以上の SiO_2 、 Al_2O_3 、 TiO_2 、 MnO 、 MgO ）、純度99.99%以上の単結晶 NaCl 、 KCl 、 CaF_2 を用いた。二次標準物質として、ATテフラに含まれる火山ガラスを用い、測定精度を分析終了時ごとに町田・新井（2003）のAT標準値と比較しチェックした。

3.2 分析結果

各試料の火山ガラスの分析結果を表3.1に示す。分析値の特徴は以下の通りである。

本試料の火山ガラスの主成分元素（100%ノーマライズ）は、 SiO_2 が70.95～78.79wt.%、 TiO_2 が0.31～0.77wt.%、 Al_2O_3 が12.14～14.24wt.%、 FeO^{B} が0.40～4.03wt.%、 MnO が0.00～0.34wt.%、 MgO が0.10～1.19wt.%、 CaO が1.16～4.41wt.%、 Na_2O が3.29～4.11wt.%、 K_2O が0.66～3.81wt.%の範囲で含まれる。

分析点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
[生データ (wt.%)]										
SiO_2	66.52	67.22	67.54	67.64	68.92	66.83	67.77	67.23	67.72	67.18
TiO_2	0.62	0.54	0.52	0.58	0.73	0.69	0.66	0.62	0.66	0.61
Al_2O_3	13.34	13.25	13.17	13.19	12.90	13.37	13.18	13.12	12.95	13.04
FeO^{B}	3.67	3.57	3.38	3.37	3.25	3.44	3.37	3.35	3.33	3.39
MnO	0.19	0.14	0.32	0.23	0.20	0.10	0.19	0.07	0.14	0.18
MgO	1.12	1.00	1.00	1.03	0.93	1.05	0.95	0.95	1.00	0.99
CaO	4.12	4.03	3.69	3.96	3.82	4.12	3.94	3.97	3.87	3.91
Na_2O	3.55	3.88	3.64	3.77	3.71	3.65	3.82	3.83	3.68	3.76
K_2O	0.62	0.70	0.67	0.65	0.62	0.66	0.66	0.63	0.67	0.68
Total	93.75	94.33	93.93	94.42	95.08	93.91	94.54	93.77	94.02	93.74

[100%ノーマライズデータ (wt.%)]										
SiO_2	70.95	71.26	71.90	71.64	72.49	71.16	71.68	71.70	72.03	71.67
TiO_2	0.66	0.57	0.55	0.61	0.77	0.73	0.70	0.66	0.70	0.65
Al_2O_3	14.23	14.05	14.02	13.97	13.57	14.24	13.94	13.99	13.77	13.91
FeO^{B}	3.91	3.78	3.60	3.57	3.42	3.66	3.56	3.57	3.54	3.62
MnO	0.20	0.15	0.34	0.24	0.21	0.11	0.20	0.07	0.15	0.19
MgO	1.19	1.06	1.06	1.09	0.98	1.12	1.00	1.01	1.06	1.06
CaO	4.39	4.27	3.93	4.19	4.02	4.39	4.17	4.23	4.12	4.17
Na_2O	3.79	4.11	3.88	3.99	3.90	3.89	4.04	4.08	3.91	4.01
K_2O	0.66	0.74	0.71	0.69	0.65	0.70	0.70	0.67	0.71	0.73
Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

表 3.1 火山ガラスの主成分組成 (2)

分析点	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
[生データ (wt. %)]										
SiO ₂	69.07	72.61	67.87	67.70	67.05	69.28	70.30	67.87	65.15	67.58
TiO ₂	0.61	0.29	0.63	0.54	0.56	0.64	0.54	0.69	0.57	0.50
Al ₂ O ₃	12.25	11.19	13.18	13.12	12.85	12.62	11.96	12.32	13.09	12.88
FeO*	3.16	0.37	3.42	3.34	3.21	2.58	2.63	2.91	3.70	3.47
MnO	0.23	0.00	0.07	0.07	0.16	0.15	0.14	0.10	0.06	0.15
MgO	0.78	0.09	1.12	1.00	0.93	0.71	0.62	0.77	1.13	1.00
CaO	3.03	1.07	3.82	3.65	3.68	2.99	2.54	3.08	4.05	3.78
Na ₂ O	3.65	3.03	3.73	3.65	3.69	3.76	3.50	3.63	3.42	3.69
K ₂ O	0.74	3.51	0.69	0.65	0.68	0.77	1.73	0.79	0.62	0.69
Total	93.52	92.16	94.53	93.72	92.81	93.50	93.96	92.16	91.79	93.74
[100%ノーマライズデータ (wt. %)]										
SiO ₂	73.86	78.79	71.80	72.24	72.24	74.10	74.82	73.64	70.98	72.09
TiO ₂	0.65	0.31	0.67	0.58	0.60	0.68	0.57	0.75	0.62	0.53
Al ₂ O ₃	13.10	12.14	13.94	14.00	13.85	13.50	12.73	13.37	14.26	13.74
FeO*	3.38	0.40	3.62	3.56	3.46	2.76	2.80	3.16	4.03	3.70
MnO	0.25	0.00	0.07	0.07	0.17	0.16	0.15	0.11	0.07	0.16
MgO	0.83	0.10	1.18	1.07	1.00	0.76	0.66	0.84	1.23	1.07
CaO	3.24	1.16	4.04	3.89	3.97	3.20	2.70	3.34	4.41	4.03
Na ₂ O	3.90	3.29	3.95	3.89	3.98	4.02	3.72	3.94	3.73	3.94
K ₂ O	0.79	3.81	0.73	0.69	0.73	0.82	1.84	0.86	0.68	0.74
Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

分析点	平均値	標準偏差
[生データ]		
SiO ₂	67.95	1.55
TiO ₂	0.59	0.09
Al ₂ O ₃	12.85	0.54
FeO*	3.15	0.72
MnO	0.14	0.07
MgO	0.91	0.24
CaO	3.56	0.73
Na ₂ O	3.65	0.18
K ₂ O	0.87	0.67
Total	93.67	

[100%ノーマライズデータ]		
SiO ₂	72.55	1.82
TiO ₂	0.63	0.10
Al ₂ O ₃	13.72	0.54
FeO*	3.36	0.76
MnO	0.15	0.08
MgO	0.97	0.25
CaO	3.79	0.77
Na ₂ O	3.90	0.18
K ₂ O	0.93	0.72
Total	100.00	

※Total Fe as FeO

4. まとめと考察

偏光顕微鏡観察結果および主成分化学組成から、「根室市 別当賀」試料のテフラの同定を試みる。なお、主成分化学組成の比較(図4.1、4.2)に用いた各テフラの化学組成は、下記の文献より引用した。

- ・樽前 c テフラ [T a - c] : 中村ほか (2009)
- ・駒ヶ岳 c 2 テフラ [K o - c 2] : 青木・町田 (2006)、中村ほか (2009)
- ・摩周 b [M a - b] : 青木・町田 (2006)、岸本ほか (2009)、中村ほか (2009)
- ・摩周 d [M a - d] : 中村ほか (2009)
- ・摩周 e [M a - e] : 岸本ほか (2009)
- ・摩周 j ~ f [M a - j ~ f] : 奥村 (1991)、青木・町田 (2006)、岸本ほか (2009)

4.1 根室市 別当賀

「根室市 別当賀」試料は、堅穴住居跡H-26の覆土中より採取されたテフラで、樽前 c テフラと摩周 f テフラの間と判断される位置から採取された試料である。それぞれの噴火年代は、樽前 c テフラはおおよそ2,500年前(古川ほか, 2006)、摩周 f テフラではおおよそ7,500年前(岸本ほか, 2009)と報告されている。

根室市を含む道東地域に分布する主要なテフラは、樽前 a・駒ヶ岳 c 2・樽前 c 2・摩周火山に由来する一連の噴出物・屈斜路火山に由来する一連の噴出物などが知られている(例えば、徳井, 1989; 町田・新井, 2003)。これら主要なテフラのうち、本試料が採取された樽前 c テフラと摩周 f テフラの間の時期に噴火活動を行ったとされるのは、摩周 d テフラ[M a - d, 約4,000年前(岸本ほか, 2009)] および摩周 e テフラ[M a - e, 約5,500年前(岸本ほか, 2009)] の2つである。

なお、本報告中の摩周火山由来の噴火堆積物名は、岸本ほか(2009)に従って記載する。なお、岸本ほか(2009)では、摩周 j テフラから摩周 f テフラの間に時間間隙が認められないことから、これらを一連の噴火活動としている。本報告ではこれらをまとめて扱う。

4.1.1 粒子組成および火山ガラスのタイプ

本試料の多くは火山岩片で、火山ガラスは斑晶リムにわずかにバミスタタイプのガラスが付着するなど、微量である。有色鉱物は斜方輝石および単斜輝石を少量含む。摩周 d および摩周 e テフラの特徴は、岸本ほか(2009)によると以下の通りである。石質岩片を多く含む点や、斜方輝石・単斜輝石を含む点は、いずれも本試料と共通している。

- ・摩周 d (岸本ほか, 2009)
 - ：白色軽石・石質岩片などより構成される。白色軽石の斑晶および結晶片として斜長石・斜方輝石・単斜輝石を含む。石質岩片として黒色安山岩や変質岩を含む。
- ・摩周 e (岸本ほか, 2009)
 - ：白色軽石・石質岩片などにより構成される。白色軽石の斑晶および結晶片として斜長石・輝石・不透明鉱物を含む。石質岩片として灰色のアイサイト・黒色の安山岩・変質岩を含む。

4.1.2 主成分化学組成の比較

横軸にSiO₂を、縦軸に各主成分元素をプロットした図およびK₂O/TiO₂図を作成した(図4.1、図4.2)。本試料のSiO₂含有量は、SiO₂の増加に伴って多くは各主成分元素量が減少するか、一部で変化しないトレンドを示す。

本試料はSiO₂の含有量に幅があるため、各主成分元素図において広範囲にわたってプロットされるものが多い。もっとも多く分析点が集中するのはSiO₂が71~74wt.%付近である。SiO₂-MgO図、SiO₂-Na₂O図、SiO₂-K₂O図、K₂O/TiO₂図の各図では、既存文献中に示された摩周火山に由来するMa-b・Ma-d・Ma-e・Ma-j~fの各テフラの組成と本試料が同様の領域にプロットされ、似た組成をもつことを示す。特にSiO₂-K₂O図、K₂O/TiO₂図でこの傾向は顕著である。

より詳細に検討すると、これら摩周火山由来のテフラのうちMa-bのみ、本試料にくらべて若干SiO₂に富んでおり、各主成分元素図ではやや離れた位置にプロットされる場合が多い。また、K₂O/TiO₂図においても、摩周bテフラはわずかにK₂Oに富む傾向が認められる。本試料と摩周bテフラとはわずかに異なる化学組成をもつと考えられる。

これらのことから、本試料は摩周火山に由来するテフラ・火砕堆積物の可能性が高い。一方、樽前cテフラおよび駒ヶ岳c2テフラとは、いずれの図でも、明瞭に異なる領域にプロットされる。すなわち、本試料はこれらテフラではないことを示している。

以上の主成分元素組成の特徴は、前述した試料を採取した層準と矛盾しない。

4.1.3 結論

各主成分元素の特徴から、本試料は摩周火山に由来する可能性が高い。試料採取を行った層準から摩周dあるいは摩周eテフラに対比されると考えられる。これらの等層厚線図から、摩周d（摩周火砕流堆積物d）の方が東方へやや広く分布するように見えるものの、根室市別当賀付近まで到達しているかどうかは不明である（図4.3）。

中村ほか（2009）は、国後島南西部において摩周dテフラに対比されるテフラ層を見出している。これらテフラは、やや発泡の悪いスポンジ状火山ガラス（25~40%）や、鉱物片として斜長石・斜方輝石・単斜輝石を含む。斜方輝石と単斜輝石の量比は、およそ6:4である。火山ガラスのSiO₂含有量は71~73wt.%前後である。

本試料と国後島で摩周dテフラと同定された上記の試料は、鉱物種および斜方輝石・単斜輝石の量比、火山ガラスのSiO₂含有量がほぼ一致する。これらの点から、本試料も摩周dテフラに対比される可能性がある。

ただし、本試料は約78%が火山岩片であり、火山ガラスはごく少量しか含まれない点で、摩周dテフラと大きく異なる特徴を示す。一般に、降下火砕物（テフラ）が遠隔地まで風などにより運搬された場合、地上に堆積するまでに粒子の重さや大きさなどでふるい分けられ、より軽い小さい粒子ほど遠くまで運搬される。本試料が摩周dテフラの分布の最遠部であるならば、国後島南西部の摩周dテフラと同様のより軽い粒子である火山ガラスを多く含む層相を示すはずである。この構成粒子の特徴の違いから、本試料は初生的に堆積したテフラではなく、再堆積物である可能性が否定できない。再堆積物である場合、本試料は採取された層準より下位に分布する摩周火山由来の火砕物が供給源であろう（摩周dテフラを含む摩周j~fテフラなど）。

以上から、本試料は摩周dテフラに対比される可能性があるが、摩周火山由来の火砕物を供給源とした再堆積物である可能性も否定できない。

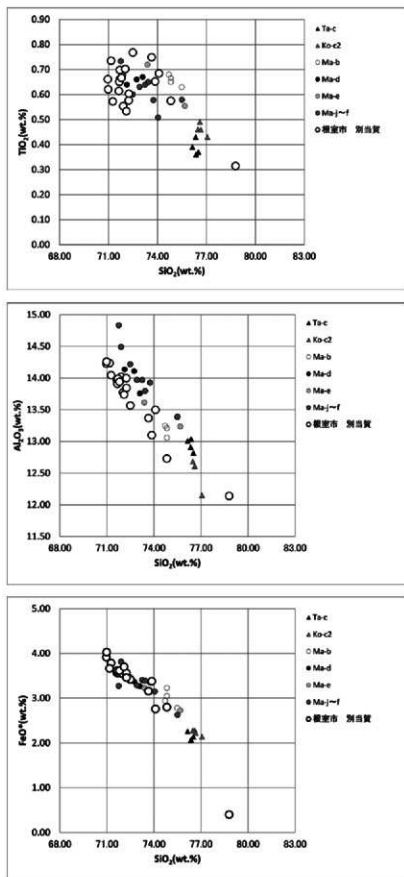


図 4.1 火山ガラスの SiO_2 -各主成分元素図(1)
 比較に用いたテフラの分析値は、前述した文献より引用。

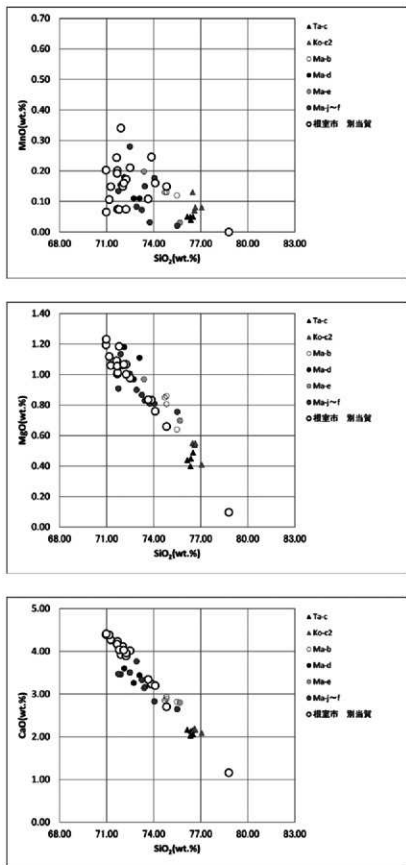
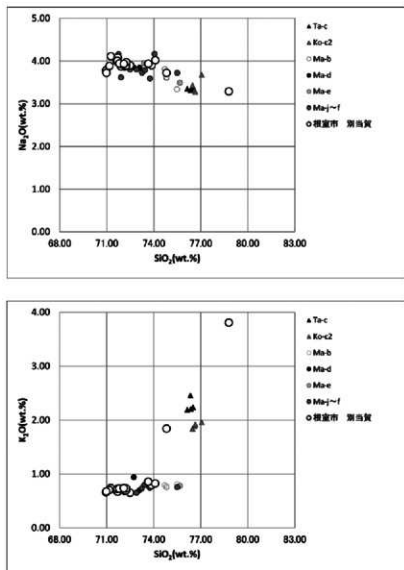
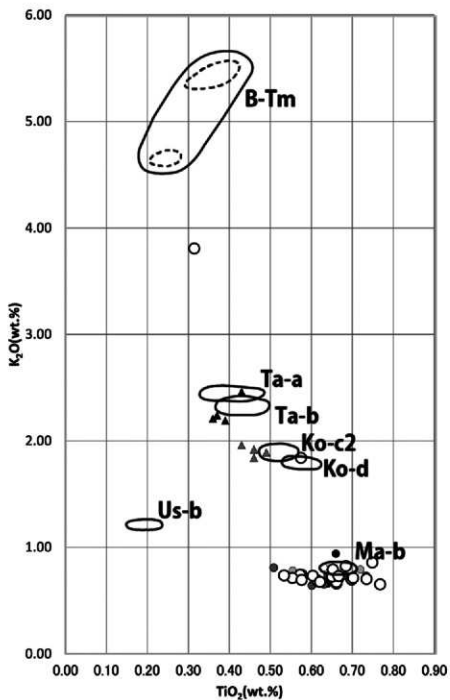


図 4.1 火山ガラスの SiO_2 -各主成分元素図(2)

図 4.1 火山ガラスの SiO_2 -各主成分元素図(3)



▲ Ta-c ▲ Ko-c2 ○ Ma-b ● Ma-d ⊙ Ma-e ● Ma-j~f ○ 根室市 別当賀

図 4.2 火山ガラスの主成分化学組成 K_2O/TiO_2 図
 比較に用いたテフラの分析値は、前述した文献より引用した。
 また、黒線で示した B-Tm、Ta-a、Ta-b、Ko-c2、
 Ko-d、Us-b、Ma-b の組成範囲は、徳井 (1989) より。

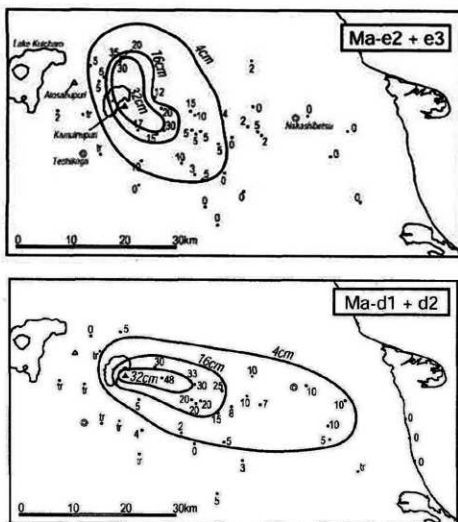


図 4.3 摩周火砕堆積物 e (Ma-e) および摩周火砕流堆積物 d (Ma-d) の等厚線図 (岸本ほか, 2009)

引用・参考文献

- 青木かおり・町田 洋 (2006) 日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成-K₂O-TiO₂図によるテフラの識別. 地質調査研究報告, 57.239-258.
- 古堅千絵・中川光弘・古川竜太 (2003) 樽前火山噴出物の T a - c 期におけるマグマ供給系の変遷. 日本火山学会秋季大会講演予稿集, 68.
- 古川竜太・中川光弘 (2010) 樽前火山地質図. 産業技術総合研究所 地質調査総合センター. https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/tarumae/text/exp15-1.html
- 古川竜太・中川光弘・古堅千絵・吉本充宏 (2003) 樽前火山 T a - c 期の噴火活動. 日本火山学会秋季大会講演予稿集, 56.
- 古川竜太・中川光弘・古堅千絵・吉本充宏 (2006) 樽前火山先史時代の噴火活動. 月刊地球, Vol.28.302-307.
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析. 地質学雑誌, 101.123-133.
- 古澤 明 (2003) 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別. 地質学雑誌, 109.1-19.
- 藤井義雄・鈴木建夫・曾屋龍典・吉久康樹 (1989) 北海道駒ヶ岳火山地質図. 通商産業省 工業技術院 地質調査所. https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/hokkaidokomagatake/text/exp05-1.html
- 岸本博志・長谷川健・中川光弘・和田忠治 (2009) 最近約1万4千年間の摩周火山のテフラ層序と噴火様式. 火山, 54.15-36.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラスー日本列島とその周辺ー. 東京大学出版会, 336 p.
- 中川光弘・古川竜太 (2010) 火山. 「日本地方地質誌1 北海道地方」, 310.
- 中村有吾・片山美紀・平川一臣 (2002) 水和の影響を除去した北海道の完新世テフラガラス屈折率. 第四紀研究, 41.11-22.
- 中村有吾・西村裕一・中川光弘・Viktor M. Kaistrenko・Alexander Ya. Iliev (2009) 国後島南部および色丹島における北海道起源の完新世広域テフラの同定. 火山, 54.263-274.
- 奥村晃史 (1991) 北海道地方の第四紀テフラの研究. 第四紀研究, Vol.30.379-390.
- 徳井由美 (1989) 北海道における17世紀以降の火山噴火とその人文環境への影響. お茶の水地理, Vol.30.27-33.

担当者

- 研磨薄片作製: 加藤孝幸・古澤 明
偏光顕微鏡観察およびモード測定: 加藤孝幸・古澤 明
EPMA分析: 加藤孝幸・古澤 明
まとめと考察: 米島真由子・加藤孝幸・古澤 明

引用参考文献

論文・論考・書籍等

- 猪熊樹人・新美倫子 2007 「平成18年度根室市内埋蔵文化財測量調査概要」『根室市歴史と自然の資料館紀要』第21号
- 宇田川洋・豊原照司・藤本 強編 1985 『北海道のチャシ集成図1（道東北編）』北海道チャシ学会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帳』26版 日本色研事業株式会社
- 川上 淳 1984 『根室市カイカラコタンチャシ』『北海道チャシ学会々報』No.18
- 川上 淳編 1985 『根室半島チャシ跡群環境整備事業報告書』根室市教育委員会
- 岸本博志・長谷川健他 2009 「最近約1万4千年間の摩周火山のテフラ層序と噴火様式」『火山』第54巻第1号
- 工藤研治 2008 『北筒式土器』『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 児玉作左衛門・大場利夫 1956 「根室国温根沼遺跡の発掘について－温根沼式押型文遺跡－」『北方文化研究報告』11 北海道大学北方文化研究室
- 澤 四郎・西 幸隆・松田 猛 1984 「道東海岸線の遺跡分布」『道東海岸線総合調査報告』釧路市立博物館
- 澤 四郎 1987 『釧路の先史』釧路叢書第24巻
- 鈴木琢也・右代啓視・村上孝一 2009 「根室市別当賀1号チャシ・別当賀川口6 堅穴群の地形測量報告」『北海道開拓記念館調査報告第48号』北海道開拓記念館
- 永田方正 1981 『北海道蝦夷語地名解』北海道庁
- 新美倫子・猪熊樹人ほか 2010 「根室市関江谷1 堅穴群詳細分布調査報告Ⅰ」『根室市歴史と自然の資料館紀要』第22号
- 新美倫子・大谷茂之ほか 2011 「根室市関江谷1 堅穴群詳細分布調査報告Ⅱ」『根室市歴史と自然の資料館紀要』第23号
- 新美倫子・猪熊樹人ほか 2012 「根室市関江谷1 堅穴群詳細分布調査報告Ⅲ」『根室市歴史と自然の資料館紀要』第24号
- 松井伸輝・吉元 豊 1987 「根室市の地質および岩石」『根室市の自然と文化財』根室市教育委員会
- 山元孝広・伊藤順一他 2010 「北海道東部、屈斜路・摩周カルデラ噴出物の放射性炭素年代値」『地質調査研究報告』第61巻第5/6号

団体組織刊行物

- 道東の自然史研究会 編 1999 『道東の自然を歩く』北海道大学図書刊行会
- 根室市教育委員会 1974 『根室地区遺跡分布調査報告書』
- 根室市地名研究会 2015 『根室市の地名－地名と地域の歴史－』
- ベドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社
- 北海道教育委員会 1983 『北海道のチャシ』
- 北地文化研究会 1974 『根室市域遺跡分布調査報告書』根室市教育委員会

埋蔵文化財発掘調査報告書

- 釧路市埋蔵文化財調査センター 2001 『釧路市大楽毛1 遺跡調査報告書Ⅰ』
- 釧路市埋蔵文化財調査センター 2002 『釧路市大楽毛1 遺跡調査報告書Ⅱ』
- 釧路市埋蔵文化財調査センター 2003 『釧路市大楽毛1 遺跡調査報告書Ⅲ』
- 斜里町教育委員会 2006 『来運1 遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告XXVII
- 筑波大学歴史・人類学系 1980 『筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅰ 北海道東部地区の遺跡研究』

- 根室市教育委員会 1966 「北海道根室の先史遺跡」
 根室市教育委員会 1983 「根室市西月ヶ岡遺跡発掘調査報告書」
 根室市教育委員会 1986 「根室市別当買一番沢川遺跡発掘調査報告書」
 根室市教育委員会 1989 「初田牛20遺跡発掘調査報告書」
 根室市教育委員会 1994 「穂香壑穴群発掘調査報告書」

(公財)北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2016 「調査年報28 平成27年度」
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2017 「調査年報29 平成28年度」
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2019 「調査年報31 平成30年度」

(財)・(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (本文中では「北埋調報」と表記)

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 「根室市 穂香壑穴群 一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報170
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 「根室市 穂香壑穴群(2) 一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報184
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 「根室市 穂香壑穴群(3) 一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報198
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 「根室市 穂香川右岸遺跡 一般国道44号根室道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報212
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 「釧路町 天塚1遺跡 一般国道44号釧路町釧路外環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報254
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 「鶴居村 下幌呂1遺跡 釧路鶴居弟子屈線(A交-57)交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報287
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2015 「根室市 トーサムボロ湖周辺壑穴群(1) 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報317
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2016 「根室市 トーサムボロ湖周辺壑穴群(2) 根室半島線交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報324
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2017 「根室市 幌茂尻1遺跡 根室道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報340
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2018 「根室市 温根沼3遺跡 一般国道44号根室市温根沼改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報342
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2019 「根室市 温根沼2遺跡 一般国道44号根室市温根沼改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 北埋調報354

報告書抄録

ふりがな	ねむろし べつとうがいちばんざわがわいせき							
書名	根室市 別当賀一番沢川遺跡							
副書名	根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第355集							
編著者名	広田良成(編)、阿部明義、山中文雄、笠原 興							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	2019年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
べつとうがいちばんざわがわいせき 別当賀一番沢川遺跡	北海道 ねむろし 根室市 あしかが 釧路 7-3外、 41-3・10	01223	154	L20 杭		20150602 ～ 20150812	L300㎡ 2,000㎡ 195㎡ 計3,495㎡	道路改良工事に 伴う 記録保存調査
				43° 15' 25"	145° 24' 20"	20160721 ～ 20161111		
						20180605 ～ 20180628		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
別当賀一番沢川遺跡	集落	縄文時代中期～後期	住居跡、土坑	縄文土器 (中期～後期・晩期)	別当賀川河口付近の 河岸段丘上に、縄文 時代中～後期の北筒 式土器の時期の竪穴 住居跡・土坑等が高 い密度で分布し、近 接・重複していた。			
	墓域	縄文時代晩期	土坑墓、土坑	石器等 礎				
	散布地	縄文時代早期～晩期 統縄文時代		縄文土器・統縄文土器 石器等 礎				
要約	<p>北海道の東端にある根室半島に流れる別当賀川沿いには多くの遺跡が広がり、河口付近にある別当賀一番沢川遺跡もそのひとつである。当遺跡は市道の工事に伴い、昭和60(1985)年に根室市教育委員会により調査が行われ、縄文時代中期～後期の北筒式土器の時期の竪穴住居跡15軒、土坑23基が検出され、1軒の住居跡の床面から編み物状炭化物が出土している。今回の調査は当遺跡の2回目の調査で、調査範囲は前回調査の隣接地を含む。調査の結果、前回同様、主に北筒Ⅱ～Ⅴ式土器の時期の竪穴住居跡、平地住居跡、土坑等が検出され、住居跡の形状の変遷を確認できた。遺物は北筒Ⅱ～Ⅴ式土器の中でも後半期の北筒Ⅲ～Ⅴ式が主体である。北筒式土器は道東を中心に分布するが、北筒Ⅳ～Ⅴ式は出土例が限られ、この時期の集落跡である当遺跡の調査例は重要である。また、焼失住居跡や炉跡焼土出土の炭化材の放射性炭素年代測定を行い、北筒式土器の型式と測定値を組み合わせて当遺跡における北筒Ⅱ～Ⅴ式土器の絶対年代をある程度把握することができた。その結果、北筒Ⅴ式は¹⁴C年代で、後期中葉の3400yrBP頃まで続いた可能性を指摘でき、当該期の土器編年や絶対年代を考える上で考慮すべき成果である。また、縄文時代晩期の土坑墓が少数検出され、当地域の様相を確認できた。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第355集

ねむろし べつとう がいちばん さわがわ いせき
根室市 別当賀一番沢川遺跡

－ 根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

平成31(2019)年3月27日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domaibun.or.jp

印刷 中西印刷株式会社
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL 011(781)7501 FAX 011(781)7516

